新潟県埋蔵文化財調査報告書　第294集

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 18

山　口　遺　跡 Ⅲ　第４次調査

山口野中遺跡 Ⅳ　第４・５次調査

境　塚　遺　跡 Ⅴ　第５次調査

新　町　遺　跡 Ⅱ　第２次調査

石船戸東遺跡 Ⅱ　第３次調査

２０２３

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 18

山口（やまぐち）遺跡 Ⅲ　第４次調査

山口野中（やまぐちのなか）遺跡 Ⅳ　第４・５次調査

境塚（さかいづか）遺跡 Ⅴ　第５次調査

新町（しんまち）遺跡 Ⅱ　第２次調査

石船戸東（いしふなとひがし）遺跡 Ⅱ　第３次調査

２０２３

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 49 号は、太平洋側の福島県いわき市と日本海側の新潟市を結ぶ主要幹線道路です。また、同道路は沿線市町村と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。

しかし、現道は阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分対応できておりません。その結果、交通混雑、交通騒音、交通事故の増加等、生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されます。

本書は、阿賀野バイパスの建設に先立ち、2020（令和 2）年度と 2021（令和 3）年度に本調査を実施した山口遺跡第 4 次調査、山口野中遺跡第 4・5 次調査、境塚遺跡第 5 次調査、新町遺跡第 2 次調査、石船戸東遺跡第 3 次調査の報告書です。調査面積は狭いながらも、中世を中心として、縄文時代、弥生時代、古代の様相を知ることができました。特に、山口遺跡では古代の水田の畦畔が見つかり、有力者の居住域の周りに水田が広がっていたことが明らかになりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための基礎資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会、並びに地元住民の方々、そして、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別の御高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2023（令和 5）年 7 月

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長　野　上　文　敏

例　　言

1　本報告書は、以下の遺跡の発掘調査記録である。遺跡名、調査次数、所在地は以下の通りである。

山口遺跡　第４次調査　新潟県阿賀野市山口字城ヶ窪、山口野中遺跡　第 4･5 次調査　新潟県阿賀野市山口字野中･月崎、境塚遺跡　第５次調査　新潟県阿賀野市月崎字六日野境、新町遺跡　第２次調査　新潟県阿賀野市大字百津字新町、石船戸東遺跡　第３次調査　新潟県阿賀野市百津字新町。

2　発掘調査は、一般国道 49 号阿賀野バイパス建設事業に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委とする）の調整を経て、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所からの委託を受けた公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団とする）が実施した。

埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事について、2020 年度の境塚･山口野中遺跡は株式会社帆苅組（以下、帆苅組とする）、2021 年度の山口・山口野中・新町・石船戸東遺跡は吉田・帆苅・小柳特定共同企業体に委託した。発掘調査面積は、山口遺跡第４次調査は 3,591㎡、山口野中遺跡第４次調査は 310㎡、山口野中遺跡第５次調査は 527㎡、境塚遺跡第５次調査は 60㎡、新町遺跡第２次調査は 670㎡、石船戸東遺跡第３次調査は 160㎡である。

3　整理作業及び報告書作成に係る作業は、2022 年度に埋文事業団の管理・監督のもと株式会社吉田建設（以下、吉田建設とする）が行った。

4　出土遺物及び調査･整理に係る各種資料は、一括して新潟県が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

5　遺物の注記は、遺跡の略記号に次いで遺構名、出土地点や層位を続けて記した。遺跡の略記号は以下の通りである。山口遺跡第４次調査「21 ヤマグ」、山口野中遺跡第４次調査「20 ヤマノ」、山口野中遺跡第５次調査「21 ヤマノ」、境塚遺跡第５次調査「20 サカイ」、新町遺跡第２次調査「21 シンマ」、石船戸東遺跡第３次調査「21 石フナ」。

6　本書で示す方位記号の北は、国家座標Ⅷ系の座標北を示す。

7　遺物番号は種別に係りなく遺跡ごとに通し番号とし、本文及び観察表・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

8　本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また、引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

9　作製した図版のうち、既成の地図を使用した場合に、それぞれにその出典を記した。

10　調査成果の一部は、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　令和２・３年度』（埋文事業団 2020・2021）、広報誌『埋文にいがた』No.116、遺跡調査報告会、現地説明会等で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。

11　自然科学分析に係る各種分析は、株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果を第Ⅲ章４、第Ⅳ章３、第Ⅵ章４に掲載した。

12　本書の執筆は、土橋由理子（埋文事業団調査課長代理）、伊藤正志（吉田建設）、森　将志、小林克也、伊藤　茂、佐藤正教、廣田正史、山形秀樹、Zaur Lomtatidze（以上、株式会社パレオ・ラボ）、田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）があたり、編集は伊藤が行った。なお、第Ⅳ･Ⅵ章（自然科学分析除く）は阿部　司（吉田建設）、大谷祐司（帆苅組）の原稿をもとに伊藤が加筆・修整して掲載した。執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章１：土橋

第Ⅱ章：既刊報告書から抜粋・引用・加除。執筆分担は第Ⅱ章冒頭に記載。

第Ⅲ章４・第Ⅳ章３、第Ⅵ章４：本文中の各分析項目に記載。

ほか、伊藤正志。

13　遺物実測図トレースは吉田建設、遺構・遺物図（一部）のトレース及び各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

14　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

15　発掘調査から本書の作製に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力を賜った。ここに記して厚くお礼を申し上げる。（敬称略　五十音順）

阿賀野市教育委員会　阿賀野川土地改良区　浅井勝利　坂井秀弥　白井雅明　古澤妥史　水澤幸一

国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

目　　次

第Ⅰ章　序　　章 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調 査 経 過 …… 3

A　試掘確認調査 …… 3

1）山 口 遺 跡 …… 3　2）山口野中遺跡 …… 3

3）境 塚 遺 跡 …… 4　4）新 町 遺 跡 …… 4

5）石船戸東遺跡 …… 4

B　本発掘調査 …… 5

1）山 口 遺 跡 …… 5　2）山口野中遺跡 …… 6

3）境 塚 遺 跡 …… 7　4）新 町 遺 跡 …… 7

5）石船戸東遺跡 …… 8

C　整 理 作 業 …… 8

3　調 査 体 制 …… 9

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 12

1　地理的環境 …… 12

2　歴史的環境 …… 14

A　縄 文 時 代 …… 14

1）五頭山西麓の遺跡 …… 14　2）笹神丘陵の遺跡 …… 14

3）上野林段丘の遺跡 …… 14　4）沖積平野の遺跡 …… 15

B　弥 生 時 代 …… 15

C　古　　代 …… 17

D　中　　世 …… 22

1）略　　史 …… 22　2）白河荘の中世遺跡 …… 22

第Ⅲ章　山口遺跡Ⅲ …… 27

1　調査の概要 …… 27

A　グリッドの設定 …… 27

B　基本層序と旧地形 …… 27

C　本書の記述方針 …… 30

1）遺　　構 …… 30　2）遺　　物 …… 31

2　遺　　構 …… 32

A　中世の遺構 …… 32

1）概　　要 …… 32　2）掘立柱建物 …… 32

3）井　　戸 …… 34　4）土　　坑 …… 36

5）溝 …… 37

B　古代の遺構 …… 39

1）概　　要 …… 39　2）古代上層の遺構 …… 40

3）古代下層の遺構 …… 42

C　弥生時代の遺構 …… 45
1）概　　要 …… 45　2）土　　坑 …… 45
3）自 然 流 路 …… 46
D　縄文時代の遺構 …… 46
3　遺　　物 …… 46
A　土器の分類 …… 46
B　中世の遺物 …… 47
1）概　　要 …… 47　2）土器・陶磁器 …… 49
3）石　製　品 …… 50　4）金属製品・鍛冶滓 …… 50
C　古代の遺物 …… 50
1）概　　要 …… 50　2）土　　器 …… 50
3）土　製　品 …… 53　4）木　製　品 …… 53
D　弥生時代の遺物 …… 53
1）概　　要 …… 53　2）土　　器 …… 54
3）土製品、焼粘土塊 …… 55　4）石　　器 …… 55
E　縄文時代の遺物 …… 56
1）概　　要 …… 56　2）土　　器 …… 56
4　自然科学分析 …… 57
A　山口遺跡における植物珪酸体分析 …… 57
1）2021 年度の分析 …… 57　2）2022 年度の植物珪酸体分析 …… 61
B　花粉分析 …… 65
1）は じ め に …… 65　2）分析試料および方法 …… 65
3）結　　果 …… 66　4）考　　察 …… 67
C　樹種同定 …… 68
1）は じ め に …… 68　2）試料と方法 …… 68
3）結　　果 …… 69　4）考　　察 …… 70
D　放射性炭素年代測定 …… 70
1）は じ め に …… 70　2）試料と方法 …… 70
3）結　　果 …… 70　4）考　　察 …… 71
E　炭素・窒素安定同位体比分析 …… 73
1）は じ め に …… 73　2）試料および方法 …… 73
3）結　　果 …… 73　4）考　　察 …… 73
5　ま　と　め …… 75
第Ⅳ章　山口野中遺跡Ⅳ …… 77
1　調査の概要 …… 77
A　グリッドの設定 …… 77
B　基 本 層 序 …… 77
2　遺構・遺物 …… 78
A　検出状況・所属時期 …… 78
1）検　　出 …… 78　2）所 属 時 期 …… 78
B　7 区の遺構 …… 78
1）上層（中世・近世以降）の遺構 …… 78　2）中層（古代・中世）の遺構 …… 79
C　9 区の遺構 …… 79
1）上層（中世・近世以降）の遺構 …… 79

D　10区の遺構・遺物 …… 79
1）上層（中世・近世以降）の遺構 …… 79　2）中層（古代・中世）の遺構 …… 81
3）古代・中世・縄文時代の土器 …… 81
E　11区の遺構・遺物 …… 81
1）中層（古代・中世）の遺構 …… 81　2）撹乱出土の土器 …… 82
3　自然科学分析 …… 82
A　はじめに …… 82
B　試　　料 …… 82
C　分析方法 …… 82
1）樹種同定 …… 82　2）放射性炭素年代測定 …… 82
D　結　　果 …… 83
1）樹種同定 …… 83　2）放射性炭素年代測定 …… 83
E　考　　察 …… 84
第Ⅴ章　境塚遺跡Ⅴ …… 85
1　調査の概要 …… 85
A　グリッドの設定 …… 85
B　基本層序 …… 85
2　遺　　構 …… 87
A　概　　要 …… 87
B　古代・中世の遺構 …… 87
C　縄文時代の遺構 …… 88
3　遺　　物 …… 88
第Ⅵ章　新町遺跡Ⅱ …… 89
1　調査の概要 …… 89
A　グリッドの設定 …… 89
B　基本層序 …… 89
2　遺　　構 …… 91
A　遺構の検出状況 …… 91
B　中世の遺構 …… 91
1）井　　戸 …… 91　2）土　　坑 …… 93
3）溝 …… 94　4）道状遺構 …… 94
5）ピット …… 95
C　縄文時代の遺構 …… 95
1）概　　要 …… 95　2）縄文時代上層の遺構 …… 95
3）縄文時代下層の遺構 …… 96
3　遺　　物 …… 96
A　概　　要 …… 96
B　古代・中世の遺物 …… 96
1）分　　類 …… 96　2）土器・陶磁器 …… 97
3）鍛冶関連遺物・金属製品 …… 97　4）木　製　品 …… 98
C　縄文時代の遺物 …… 103
1）概　　要 …… 103　2）土器・石器 …… 103

4　自然科学分析 …… 103
A　はじめに …… 103
B　試　　料 …… 104
C　分析方法 …… 104
1）樹種同定 …… 104　2）放射性炭素年代測定 …… 104
3）漆薄片作成 …… 104
D　結　　果 …… 105
1）樹種同定 …… 105　2）放射性炭素年代測定 …… 106
3）漆薄片作成 …… 107
E　考　　察 …… 108

第Ⅶ章　石船戸東遺跡Ⅱ …… 110

1　調査の概要 …… 110
A　グリッドの設定 …… 110
B　基本層序 …… 110

2　遺　　構 …… 112
A　概　　要 …… 112
B　中・近世の遺構 …… 112
C　中世の遺構 …… 113
D　古代の遺構 …… 114

3　遺　　物 …… 114

《引用・参考文献》 …… 115

《観　察　表》 …… 120
山口遺跡 …… 120
山口野中遺跡 …… 140
境塚遺跡 …… 141
新町遺跡 …… 142
石船戸東遺跡 …… 147

挿図目次

第 1 図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置 …… 1
第 2 図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川 … 13
第 3 図　周辺の自然地形と縄文～弥生時代の遺跡分布図 …… 16
第 4 図　周辺の自然地形と古代の遺跡分布図 …… 21
第 5 図　周辺の中世遺跡分布 …… 24
第 6 図　白河荘の区分 …… 25
第 7 図　グリッド設定図 …… 27
第 8 図　旧地形模式図と柱状図位置 …… 29
第 9 図　基本層序と柱状図 …… 29
第 10 図　遺構の平面・断面形態の分類 …… 31
第 11 図　遺構埋土の堆積形状の分類 …… 31
第 12 図　井戸の規模 …… 34
第 13 図　古代の土器分類と調整痕跡など …… 48
第 14 図　須恵器無台杯の口径及び底径指数 …… 51
第 15 図　山口遺跡植物珪酸体分析結果 …… 59
第 16 図　産出した珪酸体 …… 60
第 17 図　山口遺跡プラント・オパール分析結果 …… 62
第 18 図　産出した珪酸体 …… 63
第 19 図　産出した花粉化石 …… 65
第 20 図　花粉分布図 …… 67
第 21 図　山口遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真 …… 69
第 22 図　暦年較正結果 …… 72
第 23 図　炭素・窒素安定同位体比 …… 74
第 24 図　炭素安定同位体比と C/N 比の関係 …… 74

第 25 図　試料写真 …… 74
第 26 図　畦畔の方向と水田の推定範囲 …… 76
第 27 図　グリッド設定図と柱状図位置 …… 77
第 28 図　基本層序と柱状図 …… 78
第 29 図　木材 …… 83
第 30 図　暦年較正結果 …… 83
第 31 図　グリッド設定図 …… 85
第 32 図　基本層序と柱状図位置 …… 86
第 33 図　グリッド設定図 …… 89
第 34 図　基本層序と柱状図位置 …… 90
第 35 図　井戸側部材の製板・製材工程 …… 98
第 36 図　木取り及び木材一般の部分名称 …… 99
第 37 図　木取りの分類 …… 99
第 38 図　加工痕の分類と図の表現 …… 99
第 39 図　曲物の綴じ方 …… 99
第 40 図　器種別部位名称・図版表示 …… 99
第 41 図　木材 …… 105
第 42 図　暦年較正結果 …… 106
第 43 図　漆薄片 …… 107
第 44 図　グリッド設定図 …… 110
第 45 図　基本層序と柱状図位置 …… 111

表　目　次

第 1 表　周辺の縄文～弥生時代の遺跡 …… 17
第 2 表　周辺の古代遺跡一覧表 …… 20
第 3 表　周辺の中世遺跡一覧 …… 25
第 4 表　分析試料一覧 …… 57
第 5 表　山口遺跡植物珪酸体分析結果 …… 58
第 6 表　分析試料一覧 …… 61
第 7 表　山口遺跡植物珪酸体分析結果 …… 62
第 8 表　分析試料一覧 …… 65
第 9 表　産出花粉胞子一覧表 …… 66
第 10 表　山口遺跡出土木材の樹種同定結果 …… 69
第 11 表　測定試料および処理 …… 71
第 12 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 … 71
第 13 表　結果一覧表 …… 74
第 14 表　山口野中遺跡放射性炭素年代測定結果 …… 83
第 15 表　器種別土器破片数 …… 96
第 16 表　遺構別木製品出土点数 …… 98
第 17 表　新町遺跡樹種同定結果 …… 105
第 18 表　新町遺跡放射性炭素年代測定結果 …… 107

図 版 目 次

［図面図版］

図版 1　山口遺跡Ⅲ　中世調査範囲図
図版 2　山口遺跡Ⅲ　中世遺構全体図
図版 3　山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（1）
図版 4　山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（2）
図版 5　山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（3）
図版 6　山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（4）
図版 7　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（1）掘立柱建物（1）
図版 8　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（2）掘立柱建物（2）
図版 9　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（3）掘立柱建物（3）、井戸（1）
図版 10　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（4）井戸（2）
図版 11　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（5）井戸（3）
図版 12　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（6）土坑、溝（1）（北２区）、性格不明遺構
図版 13　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（7）溝（2）（北２～４区）
図版 14　山口遺跡Ⅲ　中世遺構個別図（8）溝（3）（南１・２区）
図版 15　山口遺跡Ⅲ　古代調査範囲図
図版 16　山口遺跡Ⅲ　古代遺構全体図
図版 17　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（1）
図版 18　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（2）
図版 19　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（3）
図版 20　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（4）
図版 21　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構個別図（1）竪穴建物
図版 22　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構個別図（2）土坑（1）
図版 23　山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構個別図（3）土坑（2）、溝
図版 24　山口遺跡Ⅲ　古代（下層）遺構分割図（1）
図版 25　山口遺跡Ⅲ　古代（下層）遺構分割図（2）
図版 26　山口遺跡Ⅲ　古代（下層）遺構個別図（1）土坑（1）
図版 27　山口遺跡Ⅲ　古代（下層）遺構個別図（2）土坑（2）、性格不明遺構、溝、ピット
図版 28　山口遺跡Ⅲ　古代（上･下層）遺構個別図（1）水田、畦畔（1）

図版 29　山口遺跡Ⅲ　古代（上･下層）遺構個別図（2）畦畔（2）、溝
図版 30　山口遺跡Ⅲ　古代（上･下層）遺構個別図（3）畦畔（3）、土坑、ピット、木製品、杭、自然木
図版 31　山口遺跡Ⅲ　弥生時代調査範囲図・遺構全体図
図版 32　山口遺跡Ⅲ　弥生時代遺構分割図・個別図土坑、自然流路
図版 33　山口遺跡Ⅲ　中世・古代の土器（1）
図版 34　山口遺跡Ⅲ　中世・古代の土器（2）、中世の石製品・鉄製品
図版 35　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（1）
図版 36　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（2）
図版 37　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（3）
図版 38　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（4）・土製品・木製品、弥生時代の土器（1）
図版 39　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の土器（2）
図版 40　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の土器（3）・土製品・石器、縄文時代の土器
図版 41　山口野中遺跡Ⅳ　調査範囲図
図版 42　山口野中遺跡Ⅳ　2 ～ 5・7 ～ 11 区遺構全体図
図版 43　山口野中遺跡Ⅳ　遺構分割図
図版 44　山口野中遺跡Ⅳ　7・9 区遺構個別図、10 区遺構個別図（1）
図版 45　山口野中遺跡Ⅳ　10 区遺構個別図（2）
図版 46　山口野中遺跡Ⅳ　10・11 区遺構個別図
図版 47　山口野中遺跡Ⅳ　11 区遺構個別図、中世・古代・縄文時代の土器
図版 48　境塚遺跡Ⅴ　調査範囲図
図版 49　境塚遺跡Ⅴ　中世・古代遺構分割図、Ｐ区遺構個別図
図版 50　境塚遺跡Ⅴ　縄文時代遺構分割図、Ｐ区遺構個別図
図版 51　新町遺跡Ⅱ　調査範囲図
図版 52　新町遺跡Ⅱ　中世遺構全体図
図版 53　新町遺跡Ⅱ　中世遺構分割図
図版 54　新町遺跡Ⅱ　中世遺構個別図（1）井戸（1）
図版 55　新町遺跡Ⅱ　中世遺構個別図（2）井戸（2）
図版 56　新町遺跡Ⅱ　中世遺構個別図（3）井戸（3）
図版 57　新町遺跡Ⅱ　中世遺構個別図（4）井戸（4）、土坑（1）
図版 58　新町遺跡Ⅱ　中世遺構個別図（5）土坑（2）、溝、ピット
図版 59　新町遺跡Ⅱ　縄文時代遺構全体図、個別図
図版 60　新町遺跡Ⅱ　中世の土器・陶磁器、鍛冶関連遺物
図版 61　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（1）
図版 62　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（2）
図版 63　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（3）
図版 64　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（4）
図版 65　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（5）
図版 66　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（6）
図版 67　新町遺跡Ⅱ　縄文時代の土器・石器
図版 68　石船戸東遺跡Ⅱ　調査範囲図
図版 69　石船戸東遺跡Ⅱ　遺構全体図
図版 70　石舟戸東遺跡Ⅱ　8 区遺構分割図
図版 71　石船戸東遺跡Ⅱ　中・近世、中世・古代の遺構個別図、中世の土器

［写真図版］

図版 72　山口遺跡Ⅲ　調査区遠景
図版 73　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（1）基本層序・調査区近景
図版 74　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（2）掘立柱建物
図版 75　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（3）掘立柱建物・ピット・井戸
図版 76　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（4）井戸
図版 77　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（5）井戸
図版 78　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（6）井戸
図版 79　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（7）井戸・土坑
図版 80　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（8）遺構完掘・土坑
図版 81　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（9）土坑・溝
図版 82　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（10）溝
図版 83　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（11）溝
図版 84　山口遺跡Ⅲ　中世の遺構（12）溝、古代上層の遺構（1）近景
図版 85　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（2）近景・竪穴建物
図版 86　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（3）竪穴建物
図版 87　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（4）竪穴建物・土坑
図版 88　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（5）土坑
図版 89　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（6）土坑
図版 90　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（7）土坑
図版 91　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（8）土坑・溝
図版 92　山口遺跡Ⅲ　古代上層の遺構（9）溝
図版 93　山口遺跡Ⅲ　古代下層の遺構（1）近景
図版 94　山口遺跡Ⅲ　古代下層の遺構（2）近景・土坑
図版 95　山口遺跡Ⅲ　古代下層の遺構（3）土坑
図版 96　山口遺跡Ⅲ　古代下層の遺構（4）土坑・性格不明遺構・溝
図版 97　山口遺跡Ⅲ　古代下層の遺構（5）溝・ピット・土坑

図版 98　山口遺跡Ⅲ　古代の遺構（1）水田
図版 99　山口遺跡Ⅲ　古代の遺構（2）水田
図版 100　山口遺跡Ⅲ　古代の遺構（3）水田
図版 101　山口遺跡Ⅲ　古代の遺構（4）水田・溝
図版 102　山口遺跡Ⅲ　古代の遺構（5）溝・木製品出土状況・先行調査区完掘
図版 103　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の遺構（1）近景・土坑
図版 104　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の遺構（2）土坑（自然流路）
図版 105　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の遺構（3）土坑（自然流路）・自然流路・噴砂、縄文時代の遺構
図版 106　山口遺跡Ⅲ　中世・古代の土器（1）
図版 107　山口遺跡Ⅲ　中世・古代の土器（2）・石製品・金属製品、古代の土器（1）
図版 108　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（2）
図版 109　山口遺跡Ⅲ　古代の土器（3）・土製品
図版 110　山口遺跡Ⅲ　古代の木製品、弥生時代の土器・土製品
図版 111　山口遺跡Ⅲ　弥生時代の石器・縄文時代の土器、境塚遺跡Ⅴ・石船戸東遺跡Ⅱの土器
図版 112　山口野中遺跡Ⅳ　調査区遠景、7 区近景、溝
図版 113　山口野中遺跡Ⅳ　7 区溝、8・9 区近景、9 区溝
図版 114　山口野中遺跡Ⅳ　10・11 区近景、10 区土坑
図版 115　山口野中遺跡Ⅳ　10 区土坑・溝
図版 116　山口野中遺跡Ⅳ　10 区溝、11 区竪穴状遺構、中世・古代・縄文時代の土器
図版 117　境塚遺跡Ⅴ　中世・古代面（上層）近景・溝･性格不明遺構、縄文時代面（下層）近景･ピット
図版 118　新町遺跡Ⅱ　調査区遠景
図版 119　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（1）近景・井戸
図版 120　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（2）井戸
図版 121　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（3）井戸
図版 122　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（4）井戸
図版 123　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（5）井戸・土坑
図版 124　新町遺跡Ⅱ　中世の遺構（6）土坑・溝・ピット
図版 125　新町遺跡Ⅱ　縄文時代の遺構　作業風景・基本層序・完掘・土坑・噴砂
図版 126　新町遺跡Ⅱ　中世・古代の土器、中世の木製品（1）
図版 127　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（2）
図版 128　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（3）
図版 129　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（4）
図版 130　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（5）
図版 131　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（6）
図版 132　新町遺跡Ⅱ　中世の木製品（7）、縄文時代の土器・石器
図版 133　石船戸東遺跡Ⅱ　調査区全景、中・近世の遺構（1）
図版 134　石船戸東遺跡Ⅱ　中・近世の遺構（2）、中世の遺構（1）
図版 135　石船戸東遺跡Ⅱ　中世の遺構（2）、古代の遺構

第Ⅰ章　序　　章

1　調査に至る経緯

一般国道 49 号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。県内では、沿線の阿賀町・阿賀野市と新潟市を結ぶ主要幹線道路として重要な役割を果たしている。道路は阿賀野市の市街地（旧安田町・旧水原町・旧京ヶ瀬村）を通過しており、幅員が狭小なため、その交通量に対応できず、交通混雑、交通騒音、交通事故等都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの問題を解消し、安全かつ円滑に交通を処理することを目的に、「一般国道 49 号安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間 5.6km）と「一般国道 49 号水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間 8.1km）が計画された。これら二つのバイパスは、平成 16 年の市町村合併に伴う阿賀野市の誕生を機に、「阿賀野バイパス」と呼称することとなった（第 1 図）。阿賀野バイパスのうち、安田バイパス区間は 1985（昭和 60）年の一部暫定供用を経て、2006（平成 18）年に暫定 2 車線が開通している。水原バイパス区間は、1999（平成 11）年 3 月に都市計画が決定し、2000（平成 12）年度に事業化が決定した。2003（平成 15）年度に用地取得に着手したことを受けて、国土交通省（以下、「国交省」）と新潟県教育委員会（以下、「県教委」）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。水原バイパス区間の分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（当時。以下、「埋文事業団」）が 2003（平成 15）年 12 月に実施した。分布調査の結果、周知遺跡（石船戸遺跡）以外でも広範囲で古代・中世の遺物が採取されたことから、全域に対して試掘確認調査が必要である旨を県教委に報告した。試掘確認調査は 2005（平成 17）年から 2012（平成 24）年まで行われ、2012（平成 24）年 12 月 10 日に「水原バイパスの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」（以下、覚書）を締結し、完成 4 車線施工時と暫定 2 車線施工時の本発掘調査対象範囲を確定した。バイパスの早期開通のため、当面は暫定 2 車線施工範囲を対象に調査を実施することとした。

第 1 図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置
（国土地理院発行「新潟」「新津」1：50,000 原図）

試掘確認調査によって新発見された山口遺跡・新町遺跡・石船戸東遺跡と、阿賀野市教育委員会による 2008（平成 20）年の県営湛水防

除事業に伴う試掘調査で発見された山口野中遺跡・境塚遺跡が本調査対象となり、2008（平成 20）年以降断続的に本調査が進められている。

山口遺跡　2007（平成 19）年度の試掘調査の結果、山口遺跡は新発見され、延べ面積約 42,300m² に対して本発掘調査が必要であることが明らかとなり、2008・2010・2013・2021（平成 20・22・25、令和 3）年度に本調査を実施した。2010 年度調査では、有力者や官人の関与が想定される建物群の検出、遣唐使に関係する人物によってもたらされた可能性がある唐三彩の出土など山口遺跡の重要性が認識され、遺跡の性格解明や取扱い方針を決定するために、保存も視野に入れた確認調査が必要となった。県教委は国交省にその方針及び必要性を伝え、了承を得た。確認調査は 2011・2012（平成 23・24）年度に実施した。2 か年の調査結果と「山口遺跡調査指導委員会」の意見をもとに、県教委と埋文事業団で協議した結果、以降は記録保存調査の中で残された課題の解明に取り組むことに決定した。

2021（令和 3）年度は、令和 3 年 3 月 8 日付け国北整新計第 41 号で国交省から依頼を受けた県教委が、同日付け教文 1408 号で埋文事業団に本調査受託の意向を確認した。埋文事業団は国交省と委託契約を結び、水路予定地 1,474m² の調査に着手した。

山口野中遺跡　山口野中遺跡は 2008 年 1 月に県営湛水防除事業に伴う阿賀野市教育委員会による試掘調査で発見された。遺跡は安野川の両岸に約 50,000m² にわたって広がり、阿賀野バイパス建設予定地内における本発掘調査面積は 23,271m² である。2012・2013・2015・2020・2021（平成 24・25・27、令和 2・3）年度に本調査を実施した。

2020（令和 2）年度は年度当初計画には上がっていなかったが、国交省・県教委・事業団が参加した 2021 年 1 月 5 日の協議で、国交省から用排水路建設予定地の本調査について 1 月中の対応を要望された。協議結果を受けて、国交省からの要望に対応すべく事業団は、国交省・県教委と調整を重ね、調査体制を整えた上で対応することとした。令和 3 年 1 月 12 日付け国北整新計第 36 号で国交省から依頼を受けた県教委は、令和 3 年 1 月 14 日付け教文第 1337 号で埋文事業団に本調査受託の意向を確認した。埋文事業団は国交省と委託契約を結び、310m²（155m² × 2 層）の調査に着手した。

2021（令和 3）年度は、令和 3 年 5 月 11 日付け国北整新計第 8 号で国交省から依頼を受けた県教委が、令和 3 年 5 月 12 日付け教文第 301 号で埋文事業団に本調査受託の意向を確認した。埋文事業団は国交省と委託契約を結び、農道機能補償道路脇の水路予定地 830m² の調査に着手した。

境塚遺跡　2008（平成 20）年に阿賀野市教育委員会の試掘調査により発見され、新遺跡登録された。埋文事業団は 2008 年に遺跡周辺のバイパス用地内の試掘を行い、38,461m² が本調査対象となることが判明した。2009・2014・2015・2019・2020（平成 21・26・27、令和元・2）年度に本調査を実施した。

2019（平成 31・令和元）年度は、平成 31 年 3 月 27 日付け国北整新計第 54 号で国交省から依頼を受けた県教委から、平成 31 年 3 月 29 日付け教文第 1711 号の 2 で埋文事業団に本調査を依頼した。調査対象面積は道路本線部分の 950m² である。

2020（令和 2）年度は年度当初計画には上がっていなかったが、国交省・県教委・事業団が参加した 2021 年 1 月 5 日の協議で、JR 羽越線橋脚工事のための重機足場範囲について土壌改良が必要になり、その範囲の本調査を国交省から要望された。工期の関係で年度内に終了しなければならなかったため、山口野中遺跡と同様に急遽調査体制を整えて対応することとした。令和 3 年 1 月 12 日付け国北整新計第 36 号で国交省から依頼を受けた県教委から、令和 3 年 1 月 14 日付け教文第 1337 号で埋文事業団に本調査が依頼された。調査対象面積は 60m²（30m² × 2 層）である。

新町遺跡　試掘調査の結果、土橋川から工事杭 STA.No.212 付近で中世を主体とした遺跡を発見し、新町遺跡として県教委に報告して新規登録した。本発掘調査必要面積は9,649m² である。2014・2021（平成 26、令和 3）年度に本調査を実施した。

2021（令和 3）年度は、令和 3 年 5 月 11 日付け国北整新計第 8 号で国交省から依頼を受けた県教委が、令和 3 年 5 月 12 日付け教文第 301 号で埋文事業団に本調査受託の意向を確認した。埋文事業団は国交省と委託契約を結び、農道機能補償道路脇の水路予定地 691m² の調査に着手した。

石船戸東遺跡　2008・2009（平成 20・21）年度の試掘調査により石船戸東遺跡は新発見され、延べ面積 31,586m² に対して本発掘調査が必要であること、下層は上層の調査終了後に要否を判断する必要があることを報告した。2015・2016・2021（平成 27・28、令和 3）年度に本調査を実施した。

2015（平成 27）年度の上層調査終了後に、下層調査の要否を判断するための試掘調査を実施した。その結果、試掘調査で発見した包含層相当層を確認することができた。この層準を対象に、人力掘削により遺構・遺物の有無を調査したが、遺構を検出できず、遺物はほとんど出土しなかった。この結果を受け、下層の調査は、確認調査を高い割合で実施し、遺物･遺構を検出した場合、周囲を拡張していくこととした。

2021（令和 3）年度は、令和 3 年 5 月 11 日付け国北整新計第 8 号で国交省から依頼を受けた県教委が、令和 3 年 5 月 12 日付け教文第 301 号で埋文事業団に本調査受託の意向を確認した。埋文事業団は国交省と委託契約を結び、農道機能補償道路脇の水路予定地 405m² の調査に着手した。このうち電柱設置か所･用水管埋設か所・福島潟西部幹線用水路の取水口及び用水路接続か所は、遺構の検出が望めないため調査対象から除外した。

2　調　査　経　過

各遺跡の試掘調査・本発掘調査は複数年次にわたって行われている。それぞれの過年度分の調査経過等については、既刊報告書に詳述されていることから、本項では若干の概要を記すにとどめ、今回報告する年度の調査について述べる。

A　試掘確認調査

1）山　口　遺　跡

試掘調査は 2007（平成 19）年 10 月 10 日から 30 日に行った［加藤 2008］。調査範囲は、阿賀野川右岸の自然堤防上、阿賀野バイパス路線内の旧小里川から国道 460 号間の 50,000m² である。42 か所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。実質調査面積は 796m²、試掘率は 1.6% である。

調査の結果、弥生時代、古代・中世の遺物包含層・遺構を確認し、「山口遺跡」として登録した。これに伴い古代・中世遺跡 36,900m² の範囲に重複する弥生時代の遺跡 3,500m² と、古代の遺構が 2 層で確認された 1,900m² を加えた、延べ 42,300m² について本発掘調査が必要であると判断された。

2）山口野中遺跡

試掘調査は 2008（平成 20）年 5 月 8 日から 22 日に行った。調査範囲は、阿賀野バイパス路線内の国道 460 号から JR 羽越本線間の 35,960m² である。33 か所のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。実質調査面積は 1,042m²、試掘率は 2.9% である。調査の結果、中世の遺物包含層･遺構を確認し、

20,785m² について本発掘調査が必要であると判断された。

2012（平成 24）年度は、本発掘調査と並行して、15 か所のトレンチを設定し、下層における遺構・遺物の有無を把握する調査を行った。調査の結果、中世（上層）、古代・中世（中層）・縄文時代晩期（下層）の 3 面の遺構検出面を確認し、中世・古代は 5,616m²、縄文時代晩期は 5,482m² についても本発掘調査が必要であると判断された。

3）境 塚 遺 跡

試掘調査は 2008 年 5 月 23 日から 7 月 2 日に行った。調査範囲は、阿賀野バイパス路線内の JR 羽越本線－小里川間と小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間の 79,261m² である。72 か所のトレンチを設定した。実質調査面積は 1,352.7m²、試掘率は 1.7% である。

調査の結果、両範囲内で古代から中世の遺構・遺物を確認した。また、昭和初期の耕地整理により、遺物包含層の大半が削平されており、水田耕作土直下で遺構が検出されることが分かった。

以上から、小里川を挟み、バイパス本線に沿って約 670m の範囲を「境塚遺跡」とし、延べ 38,461m² について本発掘調査が必要であると判断された。

4）新 町 遺 跡

試掘調査は 2008 年 6 月 9 日から 7 月 2 日に行った。調査範囲は、小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間の 44,717m² である。43 か所のトレンチを設定した。実質調査面積は 702.7m²、試掘率は 1.6% である。

調査の結果、古代・中近世初期の遺物と時期不明の遺構を確認した。遺物は、珠洲焼や中世土師器が多く優勢を示しており、遺構の年代に反映していると考えられることから、中世の集落跡と判断し、「新町遺跡」として登録した。これに伴い、9,649m² について本発掘調査が必要であると判断された。

5）石船戸東遺跡

試掘調査は 2008 年 6 月 9 日から 7 月 2 日、12 月 1 日から 18 日。2009（平成 21）年 5 月 18 日から 6 月 17 日の 2 か年にわたり行った。

2008 年は、県道新関水原停車場線－福島潟西部幹線用水路間の 23,450m² を対象に 20 か所のトレンチを設定した。実質調査面積は 826m²、試掘率は 3.5% である。調査の結果、古代･中世（上層）の遺構･遺物を確認した。縄文時代（下層）の遺物も散発的に出土したが、これについては本発掘調査後の確認調査によって取り扱いを判断することが必要とされた。以上から、試掘調査範囲全体を「石船戸東遺跡」とし、24,126m² について本発掘調査が必要であると判断された。

2009 年は、福島潟西部幹線用水路～福田・小境地区の 50,715m² を対象に 63 か所のトレンチを設定した。実質調査面積は 2,065.4m²、試掘率は 4.1% である。調査の結果、3,730m² の範囲で古代･中世（上層）、縄文時代（下層）の遺構・遺物を確認した。これにより、延べ面積 7,460m²（3,730m² × 2 面）の本発掘調査が必要であると判断された。

B　本 発 掘 調 査

1）山　口　遺　跡

過年度の調査　山口遺跡は、2021（令和 3）年までに 3 回の本発掘調査（第 1 ～ 3 次調査）と 2 回の確認調査が行われている。第 1 次調査（2008 年度）は面積 8,850m² で、弥生時代、古代・中世の集落を調査した。弥生時代は県内でも調査例の少ない前期～中期前半の集落である。第 2 次調査（2010 年度）は面積 7,000m² で、中世・古代の集落を調査した。古代の遺構は地山（Ⅵ層）に近似することから、平面的に 15cm ほど掘削（段下げ）した後、遺構検出を行い、掘立柱建物や材木列塀などの遺構を確認した。また、県内初例となる唐三彩が出土した。本調査終了後のトレンチ調査において、Ⅶ層から縄文時代晩期の土器が 4 点出土し、当該期の生活痕跡の検出が示唆された。第 3 次調査（2013 年度）は面積 9,652m² で前回調査の東側を掘削した。中世・古代の集落で、とくに古代に属する多くの掘立柱建物を検出している。なお、広い範囲で耕地整理のために旧地形が削平されており、中世・古代の遺構は同一面での検出である。

確認調査は、2011・2012 年度に行われた。第 2 次調査における材木列塀の検出、唐三彩の出土を受けて、遺跡の内容や性格の把握、取り扱いについての協議資料を得ることを目的とした。また、保存目的の確認調査実施にあたり、外部の有識者からなる「山口遺跡調査指導委員会」が県教委によって設置され、計 4 回の委員会（検討会）が開催された。確認調査において、狭小な調査範囲では遺跡の全体像を把握することは困難であることが明らかとなり、県教委と埋文事業団の協議の結果、記録保存調査を再開（第 3 次調査）することに決定した。それぞれの成果は、『山口遺跡』［荒谷ほか 2010］、『山口遺跡Ⅱ』［石川ほか 2020］として報告・刊行されている。

2021（令和 3）年度（第 4 次調査）　2021 年 4 月 6 日から 11 月 22 日の期間で行った。4 月 6 日は調査範囲内において水路工事が先行されていた部分について、緊急調査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。

調査区は過年度調査区の南北に位置し、東西に約 300m と長いものの、幅は下端 3m と狭い。また、バイパス道路盛土の直下であることや、農道に近接する範囲も広いために矢板工による土留めが必要とされた。矢板工・調査範囲内の盛土除去等の一連の事前準備は 4 月半ばから 6 月末までの長い時間を要している。発掘調査は、事前準備が終了した調査区から開始した。表土除去に着手したのは 5 月 31 日である。調査区が狭小なため、大人数による調査は困難であることから、間層掘削や諸作業の進捗を考慮しながら複数調査区を同時に調査した。

各調査区とも、耕地整理による削平によって旧地形は大きく削平されており、現代の水田耕作土の直下が古代・中世の遺構確認面となる範囲が広い。表土掘削は、工事用盛土の除去とともに水田耕作土を掘削した。重機の作業範囲から安全を十分に確保したうえで作業員を投入して、順次整形・開渠掘削・遺構検出を行った。遺構は過年度調査の結果から、黒色系の土が堆積した遺構を中世、地山（Ⅴ層）に近似した灰黄褐色系の土が堆積したものを古代と捉え、調査を進めた。比較的検出が容易な中世の遺構をすべて掘削した段階で、ラジコンヘリコプターによる空撮を実施し、中世（上層）の調査を終了した。古代（中層）の遺構は、視認が難しいことから、上層を 10cm ほどの段下げを行い確認した。段下げは主に、調査区横から重機によって行ったが、重機が進入できないか所は人力によった。なお、調査区内に重機が入った場合は、鉄板を敷いて地下への影響を極力抑えている。遺構は炭化物の広がりや、堆積土のわずかな違いを確認し、トレンチを設けるなどして平面・断面の両方から判断した。

北 2 区は 13C を南北に走る農道を貫く調査区設定であったが、近隣の水田管理者から稲刈り時期に農

道を復旧してもらいたいとの要望を受けた。協議の結果、8 月末を目途に埋め戻しと農道の復旧を完了できるように、当該部分を先行して終了させることとなった。農道下は、耕地整理の影響を受けておらず、遺物包含層などが良好に残っていた。とくに弥生時代の遺物出土状況は良好であった。一方で、遺構の認識が難しかったものの、9 月 3 日に調査を完了させた。その後、速やかに埋め戻し、農道を復旧し通行可能とした。

南 2 区の東側半分ほどは、耕地整理の影響を受けておらず、遺物包含層（Ⅳ層）が沈み込んでいることを確認した。ここでは過年度調査からの目的のひとつである、古代の水田を検出することに努めた。29・30N において、断面観察では明瞭な畦畔は看取できなかったものの、水田の痕跡と思しき踏み込み痕や耕作痕を多数検出した。このことから、水田が広がることが予測できたために県教委と埋文事業団の協議の結果、延長上に位置する設置済みの集水桝まで（約 60m）調査区を拡張することとなった。この拡張部分は、中世の遺構が希薄であろうことから、古代の水田調査に主眼を置くこととし、8 月 23 日から表土掘削を開始した。9 月 16 日には、坂井秀弥氏（公益財団法人大阪府文化財センター）の指導を受け、古代の水田の範囲を明確にすることが望ましいのと指摘があったことから、南 2 区の東をさらに約 50m 延長することとなった（南 3 区）。南 3 区は 11 月 2 日から表土掘削を開始し、11 月 22 日に終了した。

各調査区とも、大雨に際して工事用盛土からの差し水量が予想以上に多く、たびたび水没している。よって、表土・間層掘削後の排水溝掘削とその後のメンテナンスは必要不可欠であった。特に矢板工を施さなかった南区は、雨水とともに工事用盛土（真砂土）が多量に流入し、復旧作業に多くの時間が割かれた。また、夏場の猛暑による休工などもあった。なお、現地説明会は 10 月 3 日に行い、南 1 区の竪穴建物、南 2 区の水田、出土遺物を中心に展示し、71 名の見学者があった。

2）山口野中遺跡

過年度の調査　山口野中遺跡は、2008 年 1 月に県営湛水防除事業に伴う阿賀野市教育委員会による試掘調査で発見された遺跡である。遺跡は安野川両岸に約 50,000m² にわたって広がり、阿賀野バイパス建設予定地における本発掘調査対象の面積は 20,785m² である。調査範囲は広大なため、2020 年までに 3 回の本発掘調査（第 1 ～ 3 次調査）が行われている。調査区は工事用道路や市道によって区分けし、1 ～ 6 区までの番号を付している。2012 年度の第 1 次調査は 9,128m²（1 ～ 3 区）、2013 年度の第 2 次調査は 14,857m²（1 ～ 3 区内の未調査部分、4 区）、2015 年度の第 3 次調査は 1,479m²（5・6 区）を本発掘調査している。また、隣接する境塚遺跡では、中世面の下位で縄文時代の遺構・遺物を確認していることから、各次調査時ともに、本調査と併行して下層の状況を把握する調査を行っている。これにより、Ⅱ層上面は中世（上層）、Ⅳ層上面は古代・中世（中層）、Ⅶ層上面は縄文時代晩期（下層）の 3 面の遺構検出面を確認した。第 1 次調査で明らかとなった中・下層は、第 2 次調査時に本発掘調査している。それぞれの成果は『山口野中遺跡』［村上ほか 2013］、『山口野中遺跡Ⅱ』［村上ほか 2015］、『山口野中遺跡Ⅲ』［小野本ほか 2016］として報告・刊行されている。

2020（令和 2）年度（第 4 次調査）　調査対象範囲は、2 区に直角に取り付く狭い範囲である。これまでの調査区名を踏襲して 7 区の番号を付した。2 月 16 日に調査を開始し、3 月 9 日に終了した。過年度調査と同様に、上・中・下層の 3 面を調査した。冬期間の現場作業であり、荒天で作業を中止せざるを得ない場合がたびたびあった。

2021（令和 3）年度（第 5 次調査）　調査対象範囲は、前年度調査区の 7 区に隣接する 8・9 区と、2 ～

4区から南東に約20m離れた地点に位置する10・11区である。長さ約120m、幅約2mの調査区が2本平行する。調査は、9月21日に8区から開始した。本年度の調査区は大きく削平を受けており、上層が遺存していない範囲が広く、中層まで重機で掘削し、中・下層のみの調査となった。表土掘削は9～11区と進めながら、順次作業員を投入し、遺構の調査を行った。10・11区の中層は、撹乱の影響が大きく、遺構の判断が難しいものが見受けられた。11月5日に空中撮影を行い、12日に現場作業を終了した。

3）境　塚　遺　跡

過年度の調査　境塚遺跡の本発掘調査対象の当初面積は約38,461m²であった。耕地整理の影響で遺物包含層が削平を受けていたこともあり、当初は古代・中世の1面調査と考えられてきた。しかしその後の調査によって、部分的に古墳時代（中層）、縄文時代（下層）の遺構・遺物が検出されたこと、また調査不要と判断した範囲も調査対象に変更となったことなどから、本発掘調査対象面積は増加している。よって各年度調査の合計面積は、調査終了の平面積と同一ではない。調査範囲は広大な面積なため、2021年までに4回の本発掘調査（第1～4次調査）が実施されており、調査区はそれぞれの年度の調査区名を引き継いでA～O区までの番号を付している。2009年度の第1次調査は18,176m²（A～D区）、2014年度の第2次調査は6,480m²（E～G区）、2015年度の第3次調査は13,363m²（H～K区）、2019年度の第4次調査は1,119m²（L～O区）を本発掘調査している。それぞれの成果は『境塚遺跡』［荒川ほか2012］、『境塚遺跡Ⅱ』［荒川ほか2016］、『境塚遺跡Ⅲ』［飯坂ほか2018］、『境塚遺跡Ⅳ』［石川ほか2021］として報告・刊行されている。また、調査区に隣接して阿賀野市教育委員会が県営湛水防除事業（安野川拡幅工事）に伴い2008・2009年度に3,412m²（阿賀野市A・B区）を調査［古澤ほか2011］している。

2020（令和2）年度（第5次調査）　調査対象範囲は、第3次調査時のH・I区に隣接する。第4次調査の調査区名を引き継ぎP区とした。過年度調査時の現況とは大きく異なり、バイパス本体工事がかなり進行していたものの、1月22日に現況や基準点の測量を行い、25日にプレハブを設置した。26日より掘削を開始し、2月1日に古代・中世面を終了した。2日から縄文時代（下層）の調査に入り、5日に終了した。なお縄文時代の調査は上・下層の2面で行った。

4）新　町　遺　跡

過年度の調査　新町遺跡の本発掘調査（第1次調査）は2014年度に実施している。面積は6,750m²である。中世の遺物包含層とその下位約25cmは、耕地整理のために削平を受けており、遺存していない。したがって、掘り込みの浅い遺構は残っていない可能性が高いものの、大型の井戸を多数検出した。大型の井戸は、人力での掘削に限界があるため、重機を利用した。9月11日の県教委による終了確認と翌日の空撮後に、壁面の崩落等に留意しながら、重機で井戸を断ち割る調査方法を採用した。なお、中世以前の文化層を把握する目的で、幅5.4m×4m、深さ約2.8mのトレンチを設定したが、遺構・遺物は認められなかった。調査成果は『新町遺跡』［秋山ほか2016］として報告・刊行されている。

2021（令和3）年度（第2次調査）　調査対象範囲は、過年度調査区の東側に位置し、一部重複する。これまでの調査区名を踏襲して2区の番号を付した。対象範囲の北側部分は、すでにバイパス工事が施工されており、この取り扱いについて表土掘削終了後において、遺構検出状況から判断することとし、6月17日より表土掘削を開始した。過年度調査区の埋め戻し部分は非常に脆弱なため、土留め作業などを並行している。検出した遺構は深い井戸が多いことから、人力掘削は安全が確保できる深度に留めて記録作

業を行い、7月31日に空撮を実施した。その後の井戸の調査は、周囲を軽量矢板で囲い、安全を確認したうえで、人力と重機を併用して調査した。特にSE114は、井戸側を有することから慎重に調査している。1次調査で部分的に未掘であった井戸も今回調査し、9月10日に中世の調査を終了した。また、調査区中央付近（9L）では、中世の遺構確認面から約1.5m下位にあたる標高約5mで、炭化物と縄文土器を包含する層（XI層）を確認した。XI層上面と、掘削後のXII層上面において遺構検出作業を行い、数基のピットを確認した。縄文時代の遺構は、17日にすべての調査を完了した。

5）石船戸東遺跡

過年度の調査　石船戸東遺跡の本発掘調査対象の範囲は、総延長700mに及ぶ広大な範囲である。よって、農道・水路・工事用道路を境に1～7区に設定している。本発掘調査は2015・2016年度の2か年で22,826m^{2}の面積で実施した。2015年度は、試掘調査の結果から1～3区の上層と7区の上・下層を合わせた約12,000m^{2}が調査対象となっていたが、遺構密度･内容が希薄であった範囲があったことや、県道工事の工程による調査区の変更などから、調査対象を拡大させ、最終的には2～5区と7区の延べ面積19,000（9,500m^2×2層）m^{2}の調査を終了した。2016年度は1・6・7区の約4,500m^{2}が調査対象である。遺構・遺物が希薄な調査区があったことや、県道改修工事の際の安全確保のための調査中止か所などがあり、最終的には延べ3,826（上層2,782m^2+下層844m^2）m^{2}を調査した。発掘調査の成果は『石船戸東遺跡』［小野本ほか2019］として報告・刊行されている。

2021（令和3）年度調査（第3次調査）　調査区は1区に沿って設定されており、過年度調査の調査区名を引き継ぎ8区と呼称する。当初の調査面積は405m^{2}を対象としていたが、調査区内に設置された電柱の崩落や、隣接する水田の漏水等を考慮して調査範囲を決定したことから、最終的には160m^{2}となった。5月17日から準備工、26日から重機による表土掘削を開始し、IV層上面まで掘削した。表土下は耕地整理後の真砂土で埋め戻されており、中世の遺物包含層は残存していない。よって、古代・中世・近世の遺構を同一面で検出した。遺構からの出土遺物はほとんどなく、遺構の年代は埋土の違いで判断した。南西から北へ順次に調査を進め、6月10日に空中撮影を実施、15日に国土交通省及び県文化行政課の終了確認を受けて、19日にすべての調査を終了した。

C 整 理 作 業

2021（令和3）年度　各遺跡とも本発掘調査と並行して遺物の洗浄・注記、実測を行っている。本発掘調査終了後に遺物、図面・写真などの記録類をそれぞれの支援組織（山口・境塚・石船戸東遺跡は株式会社帆苅組、山口野中・新町遺跡は株式会社吉田建設）に搬入し整理作業を実施した。遺物は接合・復元、実測。遺構は平面図・断面図の整合・修正。記録写真のリネームや各種台帳、観察表作成などの諸作業を行い、進捗に応じて仮図版・挿図の作成、原稿を執筆して、3月に埋文事業団に納品した。

2022（令和4）年度　株式会社吉田建設三条営業所において、報告書刊行に向けての整理作業を行った。各遺跡とも前年度からの業務を引き継ぎ、遺物実測・トレース・写真撮影、遺構図面・写真図版、遺物図面・写真図版の作成と校正、原稿の執筆と校正などを行った。各種図面図版及び挿図を含む本文の編集作業は、有限会社不二出版に遺構測量データ・遺構原図・遺物実測図とトレース図・本文テキストデータ・挿図原図とそれらのレイアウト図を支給して委託した。

3　調　査　体　制

調査は、以下の体制で行った。

山口遺跡

	本発掘調査・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 4 次調査
調査期間	2021（令和 3）年 4 月 6 日～ 11 月 22 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 23 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）
総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	伊藤正志　（吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体）
支援組織	吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体
	現場代理人：伊藤　聡
	調　査　員：高橋　均、渡辺清史
	補　助　員：伊藤敦子、今井奈々子、鈴木幸子、田村恭子

山口野中遺跡

	本発掘調査（2020 年度）・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 4 次調査
調査期間	2020（令和 2）年 2 月 16 日～ 3 月 9 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 23 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）
総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	石川智紀　（ 同 課長代理）
整理指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	高橋　均　（帆苅組）
支援組織	株式会社帆苅組
	現場代理人：伊藤　聡（帆苅組）

	本発掘調査・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 5 次調査
調査期間	2021（令和 3）年 9 月 21 日～ 11 月 12 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 9 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）

総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	阿部　司　（吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体）
支援組織	吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体
	現場代理人：山田三智男
	調　査　員：大谷祐司

境塚遺跡

	本発掘調査（2020 年度）・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 5 次調査
調査期間	2020（令和 2）年 1 月 26 日～ 2 月 5 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 23 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）
総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	石川智紀　（ 同 課長代理）
整理指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	高橋　均　（帆苅組）
支援組織	株式会社帆苅組
	現場代理人：伊藤　聡（帆苅組）

新町遺跡

	本発掘調査・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 2 次調査
調査期間	2021（令和 3）年 6 月 17 日～ 9 月 17 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 9 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）
総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	阿部　司　（吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体）
支援組織	吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体
	現場代理人：山田三智男
	調　査　員：大谷祐司
	補　助　員：桜井美由貴、伊藤浩美、中村美智子

石船戸東遺跡

	本発掘調査・整理作業（2021 年度）
調査次数	第 3 次調査
調査期間	2021（令和 3）年 5 月 17 日～ 6 月 19 日
整理期間	2021（令和 3）年 11 月 23 日～ 2022（令和 4）年 3 月 31 日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　稲荷善之）
総　　括	清野一善　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	小野沢浩嗣（ 同 班長）
調査総括	春日真実　（調査課長）
調査指導	荒川隆史　（ 同 課長代理）
調査担当	高橋　均　（吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体）
支援組織	吉田建設・帆苅組・小柳建設特定共同企業体
	現場代理人：伊藤　聡

	整理作業（2022 年度）
整理期間	2022（令和 4）年 4 月 1 日～ 2023（令和 5）年 3 月 31 日
整理主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　妹尾浩志）
総　　括	松田英也　（事務局長）
管　　理	五十嵐大介（総務課長）
庶　　務	伊藤雅美　（ 同 班長）
整理総括	荒川隆史　（調査課長）
整理指導	土橋由理子（ 同 課長代理）
整理担当	伊藤正志　（吉田建設）
支援組織	株式会社吉田建設
	補助員：佐野美来子、村山恭子

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

遺跡周辺の地理的・歴史的環境は、これまでの阿賀野バイパス関係の既刊報告書において詳しく記載されている。本報告書は５遺跡の報告であるが、全遺跡とも直線でおよそ 2km の範囲内に位置し、立地条件も大差がないことから、ここでまとめる。

地理的環境は『第 215 集　山口遺跡』［石垣 2010a］、『第 232 集　境塚遺跡』［荒川 2012］、『第 262 集　境塚遺跡Ⅱ』［荒川 2016a］、『第 289 集　境塚遺跡Ⅳ』［笹澤・高橋 2021］から、歴史的環境の縄文・弥生時代は『第 215 集　山口遺跡』［石垣 2010b］、『第 258 集　山口野中遺跡Ⅱ』［村上 2015］、古代は『第 277 集　蕪木遺跡』［石橋 2018］、中世は『第 262 集　境塚遺跡Ⅱ』［荒川 2016b］から本文・図表を抜粋・引用・加除した。

1　地 理 的 環 境

報告する５遺跡は、新潟県の北東部に位置する阿賀野市に所在する。阿賀野市は、2004（平成 16）年４月に安田町、水原町、笹神村、京ヶ瀬村の４町村が合併して誕生した人口約４万１千人の新市である。報告の５遺跡は旧水原町に位置する。阿賀野市の地勢は、東に五頭連峰と笹神丘陵が位置し、西・南・北に信濃川と阿賀野川の沖積作用により形成された越後平野が広がる。

五頭連峰は、金鉢山（888.4m）、松平山（953.9m）、五頭山（912.5m）、菱ヶ岳（973.5m）、宝珠山（559m）などの山々からなり、約 20km にわたって南北に走る。五頭連峰周辺には熊野神社が多く分布することから、中世には熊野信仰（熊野系修験）の対象地であったとの指摘もある［中野 1988］。五頭連峰の西には、低地（村杉低地）を挟み標高 100m^2 ほどの笹神丘陵が並行して伸びる。

丘陵地は、五頭連峰から流下する折井川、大荒川、安野川・都辺田川などの小河川に分断される。これらの小河川は、近世以降の改修工事によって、河道は変わったものの、北西から南東方向の狭い自然堤防を形成して、福島潟へ流入し、福島潟の排水路機能を持つ新井郷川を経由し、阿賀野川に合流する［新潟県 1975］。

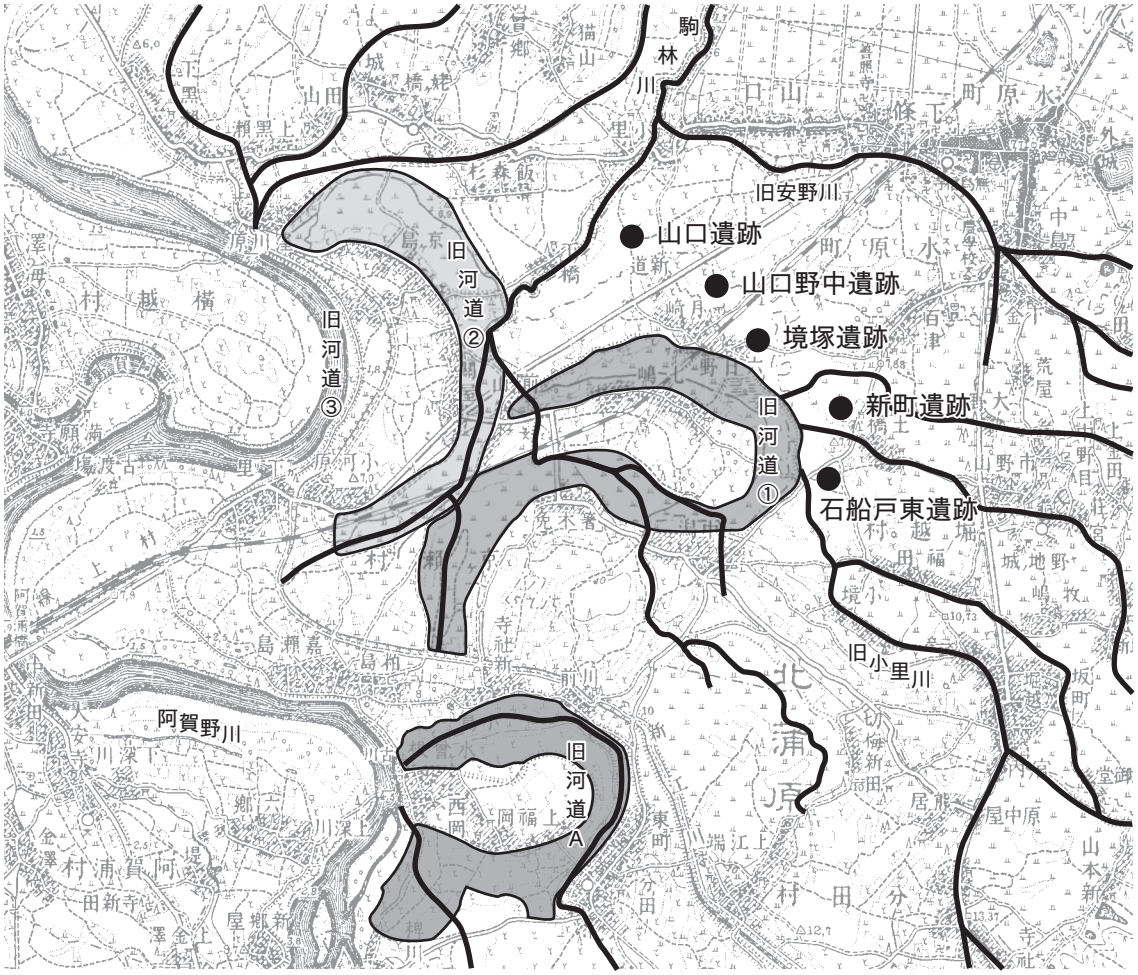
報告遺跡の西方には、阿賀野川が流れる。阿賀野川は日本最大級の水量を誇る一級河川で、栃木県と福島県の境にある荒海山に源を発し、山間部を北上しながら、阿賀野市（旧安田町）草水、五泉市馬下付近から平野に流れ出し、扇状地を形成する。この扇状地とほぼ重なる阿賀野市草水から稗河原場付近に至る約 12km の間の流れは比較的急で、砂礫の広い河原を枝分かれしながら流れる。これより下流の流れは、蛇行しながら緩やかとなり、広大な越後平野を形成し、日本海へ至る。1730（享保 15）年の新発田藩による松ヶ崎堀割り開削以前までは、阿賀野川は後述の砂丘手前で南に折れ、信濃川と合流して河口を形成していた。この地が現在の新潟港であり、927（延長５）年に延喜式に記載された「蒲原津」と考えられる。

越後平野は、海岸線に平行する数列の砂丘が発達している。砂丘の存在は、海への流出口を狭くし、河川の流路を規制し、内陸部からの自然排水を困難にしていた。このため洪水、氾濫を繰り返すことにより、河道は移動し、自然堤防、三日月湖（河跡湖）を形成し、旧河道の痕跡を残してきた。

報告遺跡周辺においては、幅 300m 前後の旧河道①～③が３か所に認められる（第２図）。［大矢・加

藤 1984］はこれらの年代について、旧河道①が 1713（正徳 3）年頃、旧河道②が 1762（宝暦 12）年頃、旧河道③が 1911（明治 44）年頃まで流れていたと推測している。しかし、1647（正保 4）年の「新発田領絵図」では、阿賀野川が旧河道③に位置することが確認できたことから、旧河道①・②が阿賀野川本流であった時期は、正保年間以前だったと推測できる。また、1645（正保 2）年「正保越後国絵図」には六日野付近に「百津潟」が描かれ、1816 年（文化 13）年「越後輿地全図」旧河道①部分に「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されており、旧河道①が阿賀野川本流からそれて三日月湖になったものが百津潟と考えられている［成田 2000］。1823（文政 6）年「九月調の絵図」には、笹神丘陵から流下した小河川が百津潟に流れ込んでいる様子が描かれており、近世頃には百津潟が福島潟と同様に内水面交通の結節点として機能していたと推測されている［成田 2000］。

現在の遺跡周辺は、1927 ～ 1931（昭和 2 ～ 6）年頃に行われた耕地整理により水田となっているが、これ以前は桑畑を中心とする畑地であり、比較的標高の高い場所であった。旧河道①の自然堤防上にあたり、旧阿賀野川を利用した内水面交通に適した場所にあたることが、集落形成の要因のひとつとして考えられよう。



第 2 図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川（第 232 集『境塚遺跡』から転載・一部加筆）
（大日本帝國陸地測量部発行　大正 8 年「新潟」「新津」1：50,000 原図）

2 歴 史 的 環 境

A 縄 文 時 代

1）五頭山西麓の遺跡

五頭山麓の主な遺跡には、ツベタ遺跡（6）、村杉遺跡（70）などがある。ツベタ遺跡（6）は、五頭山西麓の扇状地に立地し、標高 70m を測る。1886 年に歴史地理学者吉田東伍により発見され、［吉田 1889］、この後、1963・1972・1982・1983 年に調査が行われた。遺跡は複数回の土石流により埋没しており、この土石流を間層として 4 層の生活面が検出され、中期の馬高式・大木 8b 式土器、後期の三十稲場式土器が出土した。遺構では、三十稲場式土器が埋設された石組炉などが検出され、中期前葉～後期初頭まで続く大規模な遺跡と考えられる［中川ほか 1971、関ほか 1973、川上 1984、川上 2004］。

村杉遺跡（70）は、旧笹神村に所在する村杉温泉の南西、標高 60 ～ 70m の扇状地に立地する。ツベタ遺跡とは直線で約 2.5km の距離にある。戦時中のオランダ人考古学者ジェラード・グロードによる調査をはじめとし、1956 年、上原甲子郎を担当とする北方文化博物館主催の調査が行われた。1962 年には、中川成夫らにより調査され、中期の竪穴建物が重複して検出された。出土遺物から、中期前半～中葉を中心とする集落と考えられる［中川ほか 1963・1971、川上 2003］。

2）笹神丘陵の遺跡

笹神丘陵に立地する遺跡には、六野瀬遺跡（23）、萩野遺跡（43）、獅子沢遺跡（52）、浦林遺跡（66）などがある。六野瀬遺跡（23）は、阿賀野川右岸の丘陵末端の標高約 20m に立地する。主体となる時期は、縄文時代晩期末葉～弥生時代中期、中世を主体とし、断続的に営まれた遺跡である。このうち、縄文時代晩期は浮線文土器の良好な資料が出土しており、鳥屋 2b 式土器の標識となる遺跡である。また、石器組成は、石鏃・石錐の割合が高いことが特徴である［石川ほか 1992］。

萩野遺跡（43）は丘陵南端に立地する。標高約 22m を測り、丘陵と阿賀野川右岸の沖積平野との接点に位置する。遺物は縄文時代中期～弥生時代の土器が出土しているが、中期前葉の新保・新崎式土器が主体である。石器の出土数は少ないが、撥形の磨製石斧が出土している［亀井・鈴木ほか 1994］。

獅子沢遺跡（52）は丘陵末端の標高約 40m に立地する。遺物は縄文時代晩期末葉～弥生時代中期前葉が主体である［菅井・村山 1996］。遺跡の南には円山遺跡（51）が隣接する。旧石器時代を主体とする遺跡であるが、前期前葉～末葉の土器も少量出土している［土橋 2003］。

浦林遺跡（66）は大荒川左岸の丘陵末端部に立地する。遺物は後期前葉の三十稲場式・南三十稲場式土器が出土し、遺構は土坑・ピットのほか埋設土器が 4 基検出された。埋設土器に使用された土器は、器面に縄文のみを施した粗製の深鉢形土器である［中山・渡辺 2000、川上 2003］。

3）上野林段丘の遺跡

上野林段丘の遺跡には、小山崎遺跡（9）・中道遺跡（10）・藤堂遺跡（11）・横峰 A 遺跡（25）・横峰 B 遺跡（26）などがある。小山崎遺跡（9）は丘陵西側に立地し、標高約 30m を測る。遺物は後期前葉の南三十稲場式土器、後期の加曽利 B 式土器が出土し、遺構は竪穴建物 1 基などが検出された［川上ほか 1979、山口ほか 2000］。

中道遺跡（10）は段丘西縁に位置し、標高は約 20m である。遺跡の南西～西側にかけて小沢が切れ込み、遺跡はこの小沢に面して立地する。遺物は中期後半、後期中～後葉の土器が出した。遺構は竪穴建物 3 棟などが検出された［川上ほか 1980］。

藤堂遺跡（11）は中道遺跡の南西約 200m の距離にあり、これと同様に小沢に面して立地する。主体となる時期は、後期後葉の瘤付土器の段階で、この時期の竪穴建物が 4 棟検出された［本間ほか 1974］。

横峰 A 遺跡（25）・B 遺跡（26）は段丘西側にある沢を挟んで向かい合うように立地する。横峰 B 遺跡は中期の竪穴建物が中央の広場を挟んで並列し、集落を形成する。ほかに晩期の壺形土器を埋設した土坑が 1 基確認されている［川上ほか 1981、川上 2004］。横峰 A 遺跡は、縄文時代後期～弥生時代後期まで断続的に続き、縄文時代晩期後半の上野原式土器を伴う竪穴建物 1 棟が検出された［川上ほか 1981］。

4）沖積平野の遺跡

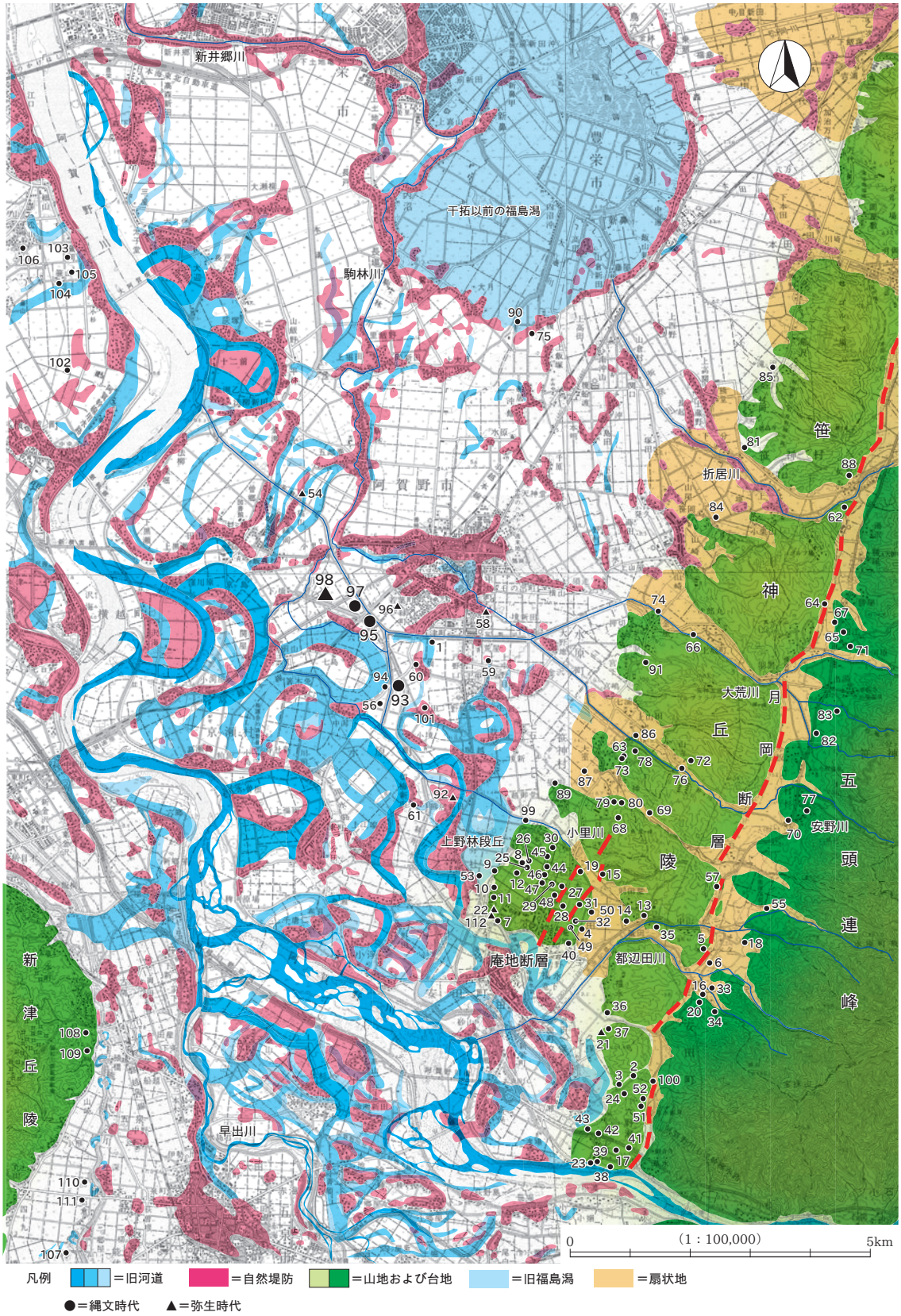
沖積平野では、阿賀野川の旧河道が形成した自然堤防上に立地する、土橋遺跡（60）、土橋北遺跡（1）、石船戸遺跡（56）、境塚遺跡（95）、山口野中遺跡（97）、などがある。土橋遺跡（60）は後期の集落で環状をなし、多くの炉跡 8 基・大型配石遺構・集石遺構・64 基の埋設土器とその集中か所など様々な遺構があり、多量の遺物が出土した。また、焼骨を四角形に組んだ遺構は、当期の葬送儀礼を知る貴重な例と言える［村上 2021］。土橋遺跡の北に隣接する土橋北遺跡（1）は、前者に後続する集落と考えられ、後・晩期の遺物が出土する。炉跡・土器集中・炭化物集中・埋設土器などの遺構がある［高橋ほか 2019］。石船戸遺跡（56）は、現水田面より約 1.5m 下位で晩期初頭～前半に属する竪穴建物・掘立柱建物のほか、埋設土器・土器の廃棄場などがある。遺物量も膨大で、沖積地の大規模集落と考えられる［中川ほか 1971、古澤 2014a］。境塚遺跡（95）も同様に、現水田面より約 1.5m 下位で晩期後葉の土器が出土した［荒川ほか 2012］。境塚遺跡と JR 羽越本線を隔てて北西に位置する山口野中遺跡（97）も晩期後葉の竪穴建物、堅果類・魚類などの食物残滓を燃焼した炭化物の集積、埋設土器などが検出されている［村上ほか 2015］。

B　弥　生　時　代

報告遺跡が位置する阿賀野川以北は、比較的多くの遺跡が分布している。本項では、弥生時代前期～中期前半までの様相について、阿賀野川以北を中心に概観する。

広域的な視点で葬制から弥生時代前半の特徴を見出すと、東日本における再葬墓とこれに関わる遺跡の存在があげられる。この時期の再葬墓は、とくに中部地方から関東地方、東北南部の一帯に分布しており［石川 1999］、新潟県も含まれる。県内ではこれまでにも多くの再葬墓が確認されており、葬制、集落形態や構造を読み解くうえで重要な地域と位置付けられる。

六野瀬遺跡（23）は、再葬墓に隣接した伸展葬とされる 1 体が検出されている［杉原 1968］。その後の調査では、再葬墓に関係するとみられる「剥片剥離作業ブロック」が検出された［石川 1992］。猫山遺跡（54）は、昭和 33 年に再葬墓が発見された全国的にも有名な遺跡で、掘立柱建物を中心とした居住域と、隣接する墓域（再葬墓・土坑墓）などから構成される集落である［古澤ほか 2003・2010］。猫山遺跡で検出された独立棟持柱をもつ掘立柱建物は、山口遺跡でも確認されており、縄文時代晩期後半～末段階の新発田市青田遺跡［荒川ほか 2004］、三条市藤平 B 遺跡［家田 1985］などの建物形態と環状指向的集落形態などの伝統的集落様相が、当地域の弥生時代前半期へ継承されているという指摘がある［石川 2008・2009、滝沢 2008］。また、大量の土器片・剥片・チップを包含する大型土坑も確認されている。



第３図　周辺の自然地形と縄文～弥生時代の遺跡分布図

国土地理院地形図「新潟」「新津」「新発田」「津川」1：50000 に建設省北陸地方建設局『阿賀野川水害地形分類図 説明書』・新潟県教育委員会「福島潟」近世の干拓地を合成･改変、河川については国土地理院地形図『天王』『出湯』1:25,000 を参照　月岡断層･庵地断層については地震調査研究推進本部『月岡断層帯図』を合成

No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代	No.	遺跡名	時代
1	土橋北	縄文(後・晩)	29	上野林E	旧石器・縄文	57	大日ヶ原Ⅰ	縄文	85	滝沢貝喰	縄文
2	徳正寺	縄文(中)	30	上野林F	縄文	58	下金田	弥生(中)	86	上小山中	縄文
3	新割	縄文(中)・平安	31	上野林G	縄文	59	久祢添	縄文・平安	87	鶴渕	縄文・室町
4	上野林A	縄文(中)	32	上野林H	縄文	60	土橋	縄文(後)・平安	88	女堂上ノ山	縄文
5	中山	縄文(中)	33	吉ヶ沢平	縄文	61	熊居上の山	縄文(中)・平安	89	大室堤下	縄文(中)
6	ツベタ	縄文(中・後)	34	中峰下	縄文	62	木倉山	旧石器・縄文	90	榎木大割	縄文(後・晩)
7	山ノ下	縄文(中・後・弥生(中)	35	篭田中山	縄文	63	王ヶ峰	縄文(中)・平安	91	宮下	縄文
8	横峰C	縄文(中・後)	36	蔵敷林	縄文・平安	64	畑井	縄文(前)	92	狐塚	弥生(中)・中世
9	小山崎	縄文(後)	37	用水林	縄文	65	横道下	縄文(中)	**93**	**石船戸東**	**縄文(中・後・晩)・平安・室町**
10	中道	縄文(中・後)	38	渡場赤坂A	縄文	66	浦林	縄文(中)・平安	94	石船戸北	縄文・中世
11	藤堂	縄文(中・後)	39	渡場赤坂B	縄文(中)	67	中野	旧石器・縄文(中・晩)	**95**	**境塚**	**縄文(晩)・古墳・平安・中世**
12	行塚	縄文(中・後)	40	岩野B	縄文(中)	68	貝喰平	縄文(中)	96	三辺稲荷	弥生(前)・平安・中世
13	家添	縄文	41	赤坂山B	縄文(中)	69	風吹沢	縄文(中)	**97**	**山口野中**	**縄文(晩)・古代・中世**
14	家裏	縄文	42	官林	縄文(前)	70	村杉	縄文(中・後)	**98**	**山口**	**弥生(前～中)・古代・中世**
15	手城山	縄文	43	萩野	縄文(前・中・後)・弥生	71	畑江	縄文	99	山本	縄文
16	丸山	縄文	44	上野林I	縄文	72	川端B	縄文(後)	100	野中	縄文(中・後)
17	赤坂山	縄文	45	上野林J	旧石器・縄文・平安	73	大室	縄文	101	村北	縄文縄文(中・後・晩)
18	日陰平	縄文	46	上野林K	縄文	74	馬屋尻	縄文(中)	102	小杉上田	縄文・古代
19	二本松	縄文	47	上野林L	縄文・平安	75	小曽根	縄文・弥生・平安	103	中山	縄文(中・後)・古墳・古代
20	保田新割	縄文	48	上野林M	縄文・平安	76	川端A	縄文	104	笹山前	縄文(後)・弥生・古墳・古代
21	山下A	弥生	49	上野林N	縄文	77	薬師平B	縄文	105	城山	縄文・古墳・平安・鎌倉
22	物見山	弥生(中)	50	上野林O	縄文	78	下里B	縄文	106	松山	縄文・中世
23	六野瀬	縄文(前・晩)・弥生(中)	51	円山	旧石器・縄文(前～後)	79	貝喰	縄文	107	五百地	縄文(中)
24	不動院	縄文・平安	52	獅子沢	縄文(晩)・弥生(中)	80	十二神	縄文	108	小実山	縄文(前・中・後)・弥生・古代
25	横峰A	縄文(晩)・弥生	53	大坪	縄文・弥生・平安・中世	81	下一部	縄文・平安	109	下野山	縄文(後)
26	横峰B	縄文(中)	54	猫山	弥生(中)	82	布依徒塚	縄文	110	新田	縄文(後)
27	上野林B	縄文(中)	55	大日ヶ原Ⅱ	縄文(中)	83	大石沢	縄文(後)	111	巳ノ明	縄文(後)
28	上野林D	縄文	56	石船戸	縄文(晩)・平安・中世	84	大沢	縄文(中)	112	大曲	弥生

第 1 表　周辺の縄文～弥生時代の遺跡

三辺稲荷遺跡（96）は、直径 4m の溝状遺構が検出されており、円形住居と考えられている［古澤ほか 2011］。大曲遺跡（112）は、17m^2 の狭い範囲から 4 基の再葬墓が検出され、墓坑から多量の剥片が出土している［石川 1989］。

C　古　　代

律令制により定められた地方行政組織は、国－郡－里という単位で組織され、740（天平 12）年には里が廃止され、郷と呼ばれるようになった。当地域は越後国沼垂郡に含まれる。10 世紀前半に編纂された「和名類聚抄」によれば、沼垂郡は足羽郷・賀地郷・沼垂郷からなり、郷数から小郡に分類される。沼垂郡は現在の阿賀北地域とする説が一般的だが、その郷配置は足羽郷が北蒲原郡中条町周辺（胎内市）、賀地郷は北蒲原郡の内陸部と加治川流域、沼垂郷は北蒲原郡の海岸部とする説［小林 1999］や、中世白河荘、すなわち現阿賀野市域（旧笹神村・旧安田町・旧水原町・旧京ヶ瀬村）を足羽郷に比定する説［吉田編 1902］があり、郷の比定については、いまだに決着がついていない。なお、郡境についても、北限を荒川とする説［田中 2005］や旧中条町とする説［平川 2005］などがある。

第 1 節で述べたように、当地域の地形は近世以降の治水・利水工事により、大きく改変されている。改変前の状況を知るため、以下の資料を基に第 4 図を合成した。ベースの地図と小河川については、大日本帝國陸地測量部 1911（明治 44）年測図、地形区分については［大矢・加藤 1984］や［国土交通省北陸地方整備局・国土地理院 2004］、阿賀野川・早出川など大河川については、国土地理院 1999（平成 11）年発行図を用いた。資料の詳細については、第 4 図脚注を参照して頂きたい。

遺跡は丘陵と平野部のそれぞれに分布するが、平野部では阿賀野川に近い西側には分布しない。これは古代の河道が現河道より東側にあった傍証となる。遺跡の分布する範囲が当時の河道を考える手がかりとなるであろう。また、平野部の遺跡は阿賀野川とそれ以外の中小河川の自然堤防が発達する場所に集中し、旧地形と合わせて考えることにより、いくつかの集中域を捉えることが可能である。各集中域単位で古代沼垂郡に属する阿賀野川右岸の地域について、発掘調査が実施された遺跡を中心に概観する。

笹 神 丘 陵

笹神丘陵に点在する遺跡は、ほとんどが窯業や製鉄関連の生産遺跡である。特に須恵器生産において、県内最大級の規模を誇る。丘陵は北から真木山・陣ヶ峰（通称本田山）・真光寺山・陣ヶ峰・鳥屋ヶ峰・福永山・久保山・赤坂山と呼ばれるが、窯は北側の真木山・本田山・真光寺山に集中し、空白地帯を挟み久保山に 1 基存在する（以下、笹神窯）。発掘調査が行われているのは志村山窯跡（25）[川上 1999b]・高山寺窯跡（35）[笹神村 2003]・岡屋敷窯跡（36）・清見寺窯跡 A（73）[中川・倉田 1962]・狼沢 2 号窯跡(76)[中川ほか1973]など、すべて北側に位置する窯である。製鉄遺跡は窯の分布に類似するが、鳥屋ヶ峰にも若干分布する点が異なる。

窯の時期は志村山窯跡が 8 世紀前半、高山寺窯跡が 8 世紀後半～ 9 世紀初頭、岡屋敷窯跡が 8 世紀後半、清見寺窯跡 A が 8 世紀末、狼沢 2 号窯跡が 9 世紀前半とされる［小林 2004、笹澤 2004］。また、久保山の五輪敷沢窯跡（138）は 8 世紀後葉～ 9 世紀初頭とされる［春日 2004a・2006］。笹神丘陵の須恵器生産は 8 世紀前半に操業が開始され、8 世紀後半に最盛期を迎え、9 世紀に入ると佐渡の小泊窯跡群（以下、小泊窯）の台頭により、次第に生産は縮小していくと理解されている。製鉄関連遺跡は窯跡の分布に類似するが、鳥屋ヶ峰にも若干分布する。製鉄遺跡は一般的に土器の出土に乏しく、古代と中世どちらに所属するのか判断が困難である場合が多い。赤坂山の不動院遺跡（141）では安田中学校による発掘調査が行われ、詳細な時期は不明だが須恵器杯蓋・杯などが出土したとされる［古澤 2012］。

上 野 林 段 丘

笹神丘陵の西側にある独立丘は、上野林段丘と呼ばれている。古代の遺跡が複数存在しており、横峯 B 遺跡（126）[石川ほか1981] において発掘調査が行われている。

横峯 B 遺跡では、時期の異なる竪穴住居 2 軒が検出されている。1 号住居は 9 世紀後半、2 号住居は 9 世紀末～ 10 世紀末とされる［春日 2004b］。1 号住居からは転用硯が出土している。また、上野林 J 遺跡（127）では少量の土師器が出土している［渡辺ほか2004］。

荒川川以北域（旧福島潟東側）

旧福島潟の東側、荒川川以北の一帯は最も遺跡が集中する場所である。また、分布図（第 4 図）外となる北側にも多く分布する。曽根遺跡（23）[家田ほか1981･1982、川上 1997] で発掘調査が行われている。

曽根遺跡では、掘立柱建物 25 棟と井戸 9 基が検出され、多様な木製品（木簡･斎串･人形･檜扇･舟形･木沓）や円面硯、「郡」「上殿」などの文字を含む墨書土器約 240 点等が出土した。時期は 8 世紀前半～ 9 世紀後半である。郡庁や正倉を推定できる建物こそ検出されなかったが、官衙関連遺跡であると考えられる。また、中小河川を集める福島潟の汀線に立地し、背後には生産遺跡が多数存在する笹神丘陵があり、出土遺物には焼き歪みなどがある須恵器が多数含まれていたことなどから、不良品の選別などを行う流通拠点だったと評価されている［坂井 1996］。

折居川・大荒川流域（旧福島潟南側）

旧福島潟の南側は折居川と大荒川の氾濫原であり、小規模な自然堤防が複雑に発達している。この一帯には遺跡が多数存在し、発掘調査された遺跡も多い。発久遺跡（65）・下福岡遺跡（66）・前田遺跡（60）・壱本杉遺跡（61）・腰廻遺跡（57）・小曽根遺跡（48）で発掘調査が行われている。

発久遺跡は、須恵器の四足横瓶が出土したことで早くから知られていた遺跡である。調査では柱穴列が検出され、掘立柱建物の存在を示唆する。出土遺物には多量の墨書土器、健児木簡や暦様木簡など、官衙を想起させる資料が多数出土している［川上ほか1991］。下福岡遺跡は発久遺跡の西約 200m に位置し、

数棟の掘立柱建物が検出されている。時期は9世紀前葉～中葉である。また、隣接する発久遺跡との関連性も指摘されている［古澤ほか2014、笹神村2003］。前田遺跡・壱本杉遺跡はともに1996年度にほ場整備に伴う発掘調査が行われた。前田遺跡では古代の遺物は少量出土したのみだが、壱本杉遺跡では柱根が残る総柱建物が1棟検出され、官衙的性格が強いものと指摘されている。遺跡の時期は9世紀後半である［川上1999a］。腰廻遺跡は古墳～中世にかけての複合遺跡であり、古代と思われる掘立柱建物が2棟検出され、木簡なども出土している。「腰廻西遺跡」として報告された地点の時期は8世紀後半～9世紀後半とされ、この地点では古代に属する建物の検出はないが、少量ながら墨書土器が出土している［川上2002・渡辺ほか2002］。小曽根遺跡は、旧福島潟の南側汀線である自然堤防上に立地する。建物は検出されなかったが、出土遺物から8世紀後葉～9世紀初頭とされる［川上1989・春日2004c］。

駒林川流域（旧福島潟南西側）

旧福島潟の西側、安野川と小里川が合流して北上する駒林川流域に集中域が見られる。集中域の中心からは少し外れるが、北側の上土地亀遺跡（143･144）と南側の土居内西遺跡（86）で発掘調査が行われている。

上土地亀遺跡では建物は検出されていないが、溝状遺構と炉状遺構が検出されている。時期は8世紀後葉～9世紀中葉である［関ほか1993、相田2004］。土居内西遺跡では建物は検出されなかったが、時期は9世紀前葉～中葉である［古澤2005］。

阿賀野川右岸流域西部（小里川以西）

阿賀野川右岸流域と安野川流域では、自然堤防上に多くの遺跡が分布している。一般国道49号阿賀野バイパスはこの沿岸に建設されるため、多くの遺跡で発掘調査が行われている。蕪木遺跡もその一つである。また、県営湛水防除事業関連での発掘調査も複数回行われている。

ここでは小里川を境に東西に分けて記述する。小里川以西では村下遺跡（88）・村前東A遺跡（96）・柄目木遺跡（95）で発掘調査が行われている。

村下遺跡では方形の区画溝の中に掘立柱建物が15棟検出され、蒲原津との位置関係から何らかの川港的な施設が存在した可能性が指摘されている［古澤ほか2004］。時期は8世紀第2四半期～9世紀第1四半期と報告されている。村前東A遺跡では、竪穴状遺構1基が検出され、時期は8世紀中頃～9世紀前半と報告されている［加藤ほか2010］。柄目木遺跡では複数回の調査が行われているが、各報告書を総合すると、掘立柱建物3棟、竪穴建物8軒が検出されている。時期は8世紀後半～9世紀前半である［佐藤ほか2010、加藤ほか2013、古澤2014b］。また、町道上遺跡（94）・堀越館跡（219）では古代の遺物のみが出土している［古澤2002、小田ほか2001］。

阿賀野川右岸流域及び安野川流域（小里川以東）

小里川以東では山口遺跡（97）・山口野中遺跡（106）・境塚遺跡（108）・三辺稲荷遺跡（107）・庚塚遺跡（119）・鴨深甲遺跡（120）・大坪遺跡（125）等で発掘調査が行われている。

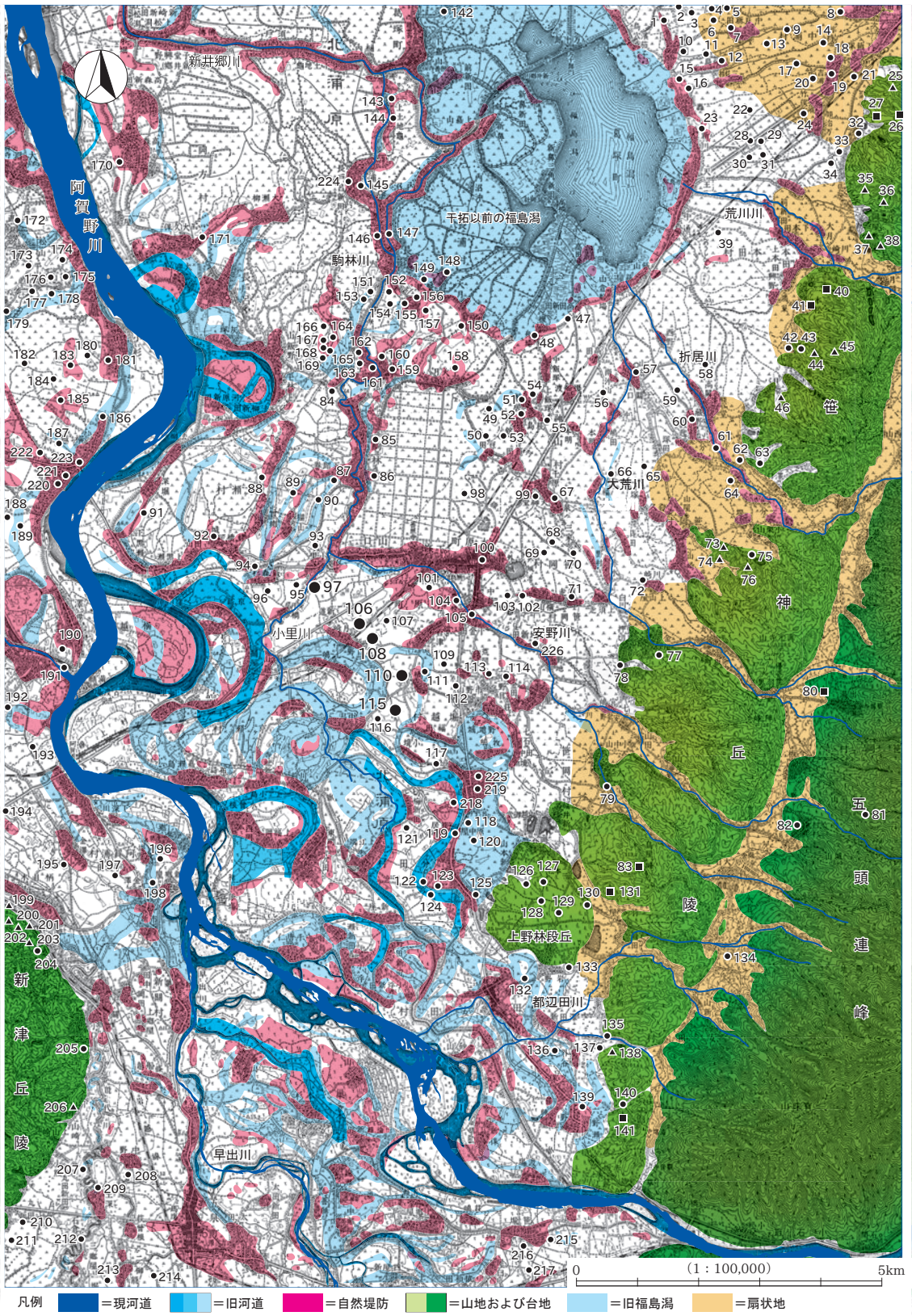
山口遺跡は弥生～中世までの時期幅を持ち、古代は9世紀前半とされる。重複する掘立柱建物群は倉庫群の可能性が指摘されている。また、全国的にも希少な唐三彩（弦楽器玩具）が出土している［石川ほか2020］。なお、前述した柄目木遺跡と山口遺跡は旧小里川の対岸に位置しており、発掘調査では旧小里川と同じ方向の河道が検出されている。この河道の下層土には弥生～古代の包含層が流れ込んでいることから、古代にも存在した河道といえる。山口野中遺跡では建物の検出はないが、時期は9世紀前葉～中葉とされる［村上ほか2013］。境塚遺跡は中世を主体とする遺跡であり、古代に属する建物は掘立柱建物1棟のみである。出土土器は少量だが須恵器の年代は9世紀前半である［荒川ほか2012］。前述した庚塚遺

跡では阿賀野川の旧河道が検出されている。9 世紀後半～ 10 世紀初頭の土器が河底から出土したため、平安時代に存在した河道と報告されている［佐藤ほか 2009］。鴨深甲遺跡では古代の建物跡は検出されていないが、遺物の時期は 9 世紀～ 10 世紀初頭である［高橋ほか 2006］。大坪遺跡では 9 世紀末～ 10 世紀前葉の土師器焼成遺構が検出されている［荒川ほか 2006］。三辺稲荷遺跡では、竪穴住居・掘立柱建物・区画溝・井戸・小鍛冶跡・炭窯が検出され、時期は 9 世紀後半～ 10 世紀初頭とされる。50 点以上の墨書土器が出土していることが注目される［古澤ほか 2011］。また、水原館跡（100）・下金田（しもかねだ）遺跡（105）では発掘調査が実施されており、古代の遺物も少量出土している［川上ほか 1977、本間ほか 1973］。

以上、当地域における古代の遺跡を概観した。前述のように坂井秀弥は、福島潟が沼垂郡の中央に位置し、中小河川を集めて阿賀野川とも繋がり、さらに外海へと出られることを重要視した。福島潟の湖岸に立地する曽根遺跡が官衙的な内容を持ち、背後の笹神丘陵に存在する生産遺跡と河川で結ばれることを踏まえ、これらが有機的に関連したものと評価した。この研究成果が当地域の古代史を研究する上での基礎となっており、その後に積み重ねられた発掘調査の成果とも矛盾は生じていない。今回提示した各集中域には官衙関連遺跡が点在し、いずれも笹神丘陵から福島潟へ繋がる河川の流域に立地する。

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	吹切	34	杉林	66	下福岡	99	堂前	132	宮ノ腰	165	桜曽根 A	198	道上
2	中谷内	35	高山寺窯跡	67	唐着	100	水原館跡	133	岩野 A	166	大夫曽根	199	秋葉 2 丁目窯跡
3	六反谷内 C	36	岡屋敷窯跡	68	六反田	101	庚町	134	ツベタ B	167	山飯野神田 B	200	七本松窯跡群
4	六反谷内 B	37	寺山腰	69	堤下	102	四ツ橋長者屋敷	135	蔵敷林	168	並柳	201	草水町 1 丁目窯跡
5	六反谷内 E	38	諏訪の平堤窯跡	70	諏訪田	103	中島	136	八百刈	169	桜曽根 B	202	滝谷窯跡
6	広面	39	熊の嶋	71	卯ノ明	104	薬師島	137	山下 B	170	高森	203	草水町 2 丁目窯跡
7	柳田 B	40	一本松	72	上山屋	105	下金田	138	五輪敷沢窯跡	171	縄内	204	愛宕澤
8	松ノ木	41	宮前	73	清見寺窯跡 A・B	**106**	**山口野中**	139	北郷	172	直り山 A	205	小実山
9	昼塚	42	堤下 B	74	中ノ沢窯跡	107	三辺稲荷	140	新割	173	松山向山	206	山崎窯跡
10	上曽根	43	堤上	75	女堂金屋原	**108**	**境塚**	141	不動院	174	中山	207	筧下
11	福島	44	堤上窯跡	76	狼沢窯跡群	109	大坪南	142	法花鳥屋 A	175	城山	208	中野
12	大坪	45	砥石沢窯跡	77	金屋中道	**110**	**新町**	143	上土地亀 B	176	神明社裏	209	村付
13	びわくび	46	道婦窯跡	78	田向	111	土橋	144	上土地亀 A	177	平山	210	丸田
14	則持	47	未明	79	山王田	112	市野山大坪	145	浦木	178	笹山前	211	道金
15	八幡野	48	小曽根	80	多須田製鉄関連	113	久祢添	146	村下	179	上の山	212	榎表
16	桝崎	49	台田	81	葎沢	114	細田遺跡	147	内沼浦	180	居附 A	213	江中
17	板橋	50	中谷内	82	苗畑	**115**	**石船戸東**	148	真耶板倉	181	松韻寺	214	福島
18	細田	51	塚田	83	湯沢砂子	116	石船戸	149	一本柳	182	江尻	215	六十寺道南
19	吉浦家ノ裏	52	沖ノ館	84	山鳥屋敷	117	蕪木	150	狐川渡	183	山のハサバ	216	宮ノ浦
20	吉浦宮ノ腰	52	沖ノ館	85	千刈	118	鴨深北	151	中道 A	184	小杉上田	217	小栗山北
21	大面	53	滑橋	86	土居内西	119	庚塚	152	川東	185	宮尻郷	218	砂田
22	馬屋尻	54	塚田 B	87	轟	120	鴨深甲	153	中道 B	186	下郷	219	堀越館跡
23	曽根	55	元屋敷	88	村下	121	熊居上の山	154	城の潟	187	曽我墓所	220	上郷北
24	苗代	56	高畑	89	善四郎谷内	122	花田	155	鷲津	188	上郷 A	221	上郷 D
25	志村山窯跡	57	腰廻	90	善四郎谷内 C	123	家浦 A	156	五本柳 B	189	上郷 B	222	新田郷南
26	金堀	58	真木野	91	曽根	124	六九	157	五本柳 A	190	居屋敷	223	下郷南
27	中江川上	59	上高関	92	城館跡	125	大坪	158	上大月	191	寺島	224	五郎巻
28	十町田	60	前田	93	大曲川端	126	横峯 B	159	岡新田	192	無頭	225	砂田
29	加治万代弁天郷	61	壱本杉	94	町道上	127	上野林 J	160	里飯野	193	中新田久保	226	外輪橋
30	切替	62	宮前	95	柄目木	128	上野林 L	161	上掘田	194	大野中		
31	加治万代弁天下	63	下一部	96	村前東 A	129	上野林 M	162	池田 B	195	西江浦		
32	木倉下	64	砂子	**97**	**山口**	130	上野林 C	163	池田 A	196	下久保		
33	フケ	65	発久	98	永室	131	手代山製鉄跡	164	山飯野神田 A	197	細池寺道上		

第 2 表　周辺の古代遺跡一覧表



第４図　周辺の自然地形と古代の遺跡分布図

（大日本帝國陸地測量部発行 大正３年「津川」大正８年「新発田」「新潟」「新津」1：50,000 原図に国土交通省北陸地方整備局国土交通省国土地理院 2004『古地理に関する調査　古地理で探る越後の変遷　荒川・阿賀野川・信濃川・関川・姫川』と大矢雅彦・加藤泰彦 1984『阿賀野川水害地形分類図　説明書』より地形分類を合成・改変、河川については大日本帝國陸地測量部発行　大正３年「出湯」「松ヶ濱」大正 15 年「水原」「新津」1：25,000、地理調査所発行　昭和 23 年「天王」1：25,000、国土地理院発行　平成 11 年「新潟」「新津」「新発田」「津川」1：50,000 を参考にした。）

D 中　　世

1）略　　史

境塚遺跡は 1134（長承 3）年に皇嘉門院領として立荘された白河荘に位置する。皇嘉門院は藤原忠通の娘であったことから、白河荘は九条家が領家職を持つ九条家領として代々伝領されていった。この白河荘の立荘には阿賀北に大きな勢力をもつ城氏が関わっていたと推測され、「白河御館」と呼ばれた城助職は白河荘に本拠を持ち荘園の在地管理にも関わっていたとされる［樋口 2004］。阿賀野市寺社には城氏の拠点と推定される大坪遺跡［荒川ほか 2006］や平安時代末期から鎌倉時代初頭の経塚である横峯経塚［川上 1979］が存在した。城氏は治承・寿永の内乱期（1180 ～ 1185 年）に勢力を衰退させ、1201（建仁元）年の鳥坂山の戦いで滅亡する。

13 世紀になると越後の荘園には地頭職を得た関東御家人が入部する。白河荘は伊豆の御家人である大見家秀が地頭職を得たと推測される［樋口 2004］。白河荘の地頭職は家秀の息子である大見実景に譲られた。白河荘は上条と下条に大きく二区分されており、大見実景は白河荘の下条に含まれる山浦四箇条・水原条・船江条の地頭職を嫡子である行定に、上条に含まれる安田条の地頭職を庶子の時実に譲り渡す。1283（弘安 6）年、大見行定は白河荘の地頭職を七郎家綱と次男家政に譲り渡す。嫡子である大見家政は山浦四箇条の地頭職、庶子の大見家綱は水原条地頭職を得た。このように山浦四箇条の地頭職は惣領である家政の系統に伝領され、安田条地頭職は庶子である時実とその嫡子頼資の系統、水原条地頭職は家綱の系統が伝領していく。大見氏は鎌倉末期に安達時顕に白河荘地頭職を奪われる。この地頭職は鎌倉幕府滅亡後、建武新政権の成立と南北朝の対立、観応の擾乱といった中央政治の変動によって保持者が佐々木貞氏、細川頼和などに変わり、大見氏に戻った史料は確認されていない。大見氏は白河荘地頭職を失ったものの、白河荘に一分地頭職ともいうべき下級の地頭職を保持していた可能性があり、これを根拠として国人領主として成長していった［樋口 2004］。

山浦四箇条や安田条、水原条などの地頭職を得た大見氏一族は、領域支配を強め 1394 ～ 1427（応永年間）年には山浦氏、安田氏、水原氏を名乗り国人領主へと転化する。なお、大見氏嫡流は大見家経に子がなく、1398（応永 5）年に水原氏から初犬丸を養子として迎えた後に水原氏に統合されたとされている［樋口 2004］。白河荘には安田氏、水原氏以外にも 1504 ～ 1521（永正年間）年に作製された『蒲原郡段銭帳』に現れる堀越氏や下条氏が存在しており、大見氏一族を含め「白河之面々」と呼ばれる集団をなしていた。白河荘を含む阿賀北地方は府中の守護・守護代の勢力に対して強い独立性を保持していた。これに対し 14 世紀末、上杉房定が越後守護になると守護勢力の地方扶植が図られ、下条山浦には上杉憲重が入部し、山浦上杉氏となった。越後守護上杉頼方と守護代長尾邦景の争いで生じた応永の大乱は阿賀北でも国人層を二分した争乱となった。1423（応永 30）年には大見氏一族を含む白河荘の国人領主「白河之面々」や加地氏、新発田氏が守護代側に寝返り山浦の守護勢力や中条氏と敵対している。この際、堀越氏の拠点である堀越館と思われる「堀越之要害」が陥落している。応永の大乱は守護上杉房方の敗北によって終結するが、その後も大見氏一族は阿賀北地方に勢力をのばす守護・守護代勢力からの強い影響を受けつつ戦国期をむかえる。

2）白河荘の中世遺跡

阿賀野川右岸における中世遺跡は、福島潟以南の平野部と笹神丘陵、福島潟以東の平野部、新潟砂丘に

分布する（第５図）。その多くが近代の集落近くに位置し、当地域においても中世から近世にかけての集村化の動き［坂井 1997］があったものと考えられる。大坪遺跡（219）では、12 世紀の水路が明治期まで維持・利用されており［荒川ほか 2006］、当地域には中世の景観が色濃く残されている。当地域における中世遺跡の概要については、大坪遺跡［荒川ほか 2006］や山口遺跡［荒谷ほか 2010］などで詳細が記されていることから、ここでは白河荘の区分と遺跡分布について述べることとする。

白河荘の区分を検討した中野豈任［1976］は、山浦四箇条を阿賀野市折居から大室にかけた地域とし、折居川流域をＡ地域（山間部をＡⅠ区、平野部をＡⅡ区）、白川（大荒川）流域をＢ区、安野川流域をＣ区とした。また、安田条は旧安田町周辺とされた。水原条・船江条については、北限を飯野－舟居－飯塚－榎舟渡を結ぶ線、東限を榎舟渡－千原－天神堂を結ぶ線、西限を阿賀野川と推定した。そして、安田条との境界に当たる南限は「境塚が一直線上に点在して南境を形成している」として、六日野の南側を通るラインを推定した（第６図）。同論文にその根拠として写真に示された「下条の境塚」は、境塚遺跡の北東約 300m にある三辺稲荷神社のことである[1)]。この神社は明治ころに水原の豪農の旧佐藤家（本泉屋）が私邸内の祠をこの地に移したのが始まりで、それ以前は畑だけの土地であった[2)]。したがって、中野の言う塚はなかったと判断される。しかし、昭和初期の土地更正図を見ると、この周囲には 1955（昭和 30）年の町村合併以前の水原町大字下条・堀越村大字百津・京ヶ瀬村大字前山の３か所に「境塚」の小字があり、しかも３町村が接する境界に位置する。「境塚」の字名はこれら町村の境界を指し示し、更に中世白河荘の水原条と安田条の境界に由来する可能性はあろう。

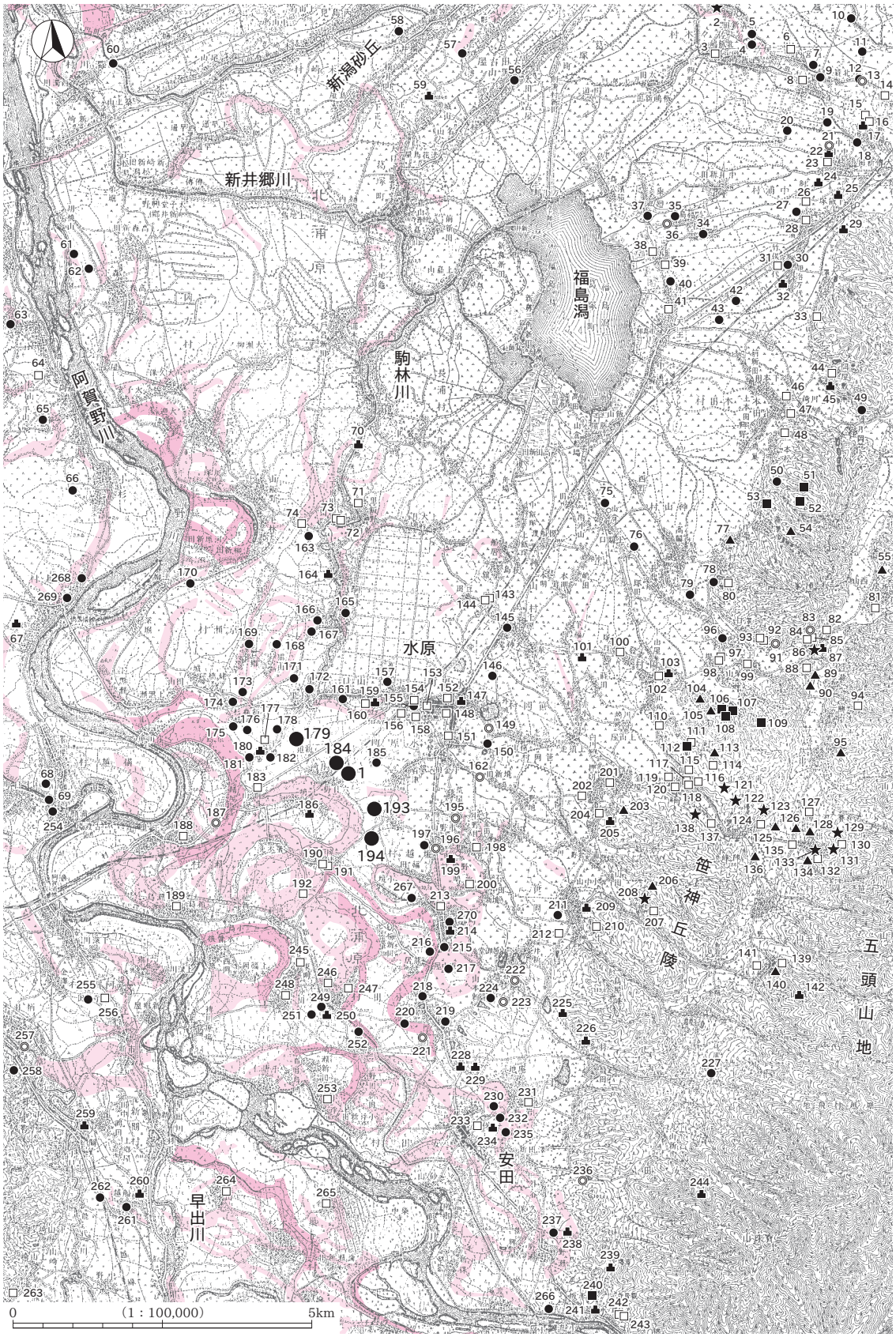
中野［1976］によって推定されたこれらの区域には、いくつかの遺跡集中域を見いだすことができる（第５図）。

水原条・船江条の範囲では、阿賀野川旧河道右岸、駒林川流域、そして水原市街に集中域が認められる。阿賀野川旧河道②右岸（第２図参照）には下ノ橋館跡（180）を中心として、町道上遺跡（174）・柄目木遺跡（178）・村前東Ａ遺跡（176）などの集落遺跡が集中する。町道上遺跡は 13 ～ 15 世紀の方形竪穴状遺構や井戸などがあり［古澤 2002］、村前東Ａ遺跡は 13 世紀中葉～ 14 世紀前半の掘立柱建物を中心とする集落である［加藤ほか 2010］。また、町道上遺跡・柄目木遺跡・村前東Ａ遺跡・山口遺跡［荒谷ほか 2010、石川ほか 2020］（179）で道が見つかっていることは陸上交通を知る上で注目される。駒林川流域には、駒林要害跡（164）を中心に土居内西遺跡（165）や石仏（71 ～ 74）がある。土居内西遺跡は 14 世紀を中心とし、方形縦板組井戸が検出されている［古澤 2005］。旧水原町の中心である水原市街には水原氏の居館と推定される水原館跡（147）と下条氏の居城とされる下条館跡（159）を核とし、遺物散布地や石仏が数多く残る。水原館跡は壕、溝、柵列、掘立柱建物、ピットが検出され、13 ～ 15 世紀の珠洲焼、瓷器系陶器、常滑系陶器、瀬戸美濃焼、茶臼などが出土した［川上 1977］。

水原条・船江条と安田条との境界に位置する境塚遺跡の周辺には、ほぼ同時期の山口野中遺跡（184）や三辺稲荷遺跡（185）、15 世紀後半を主体とする新町遺跡（193）のほか、百津潟を挟んだ西側に七島館跡（186）がある。山口野中遺跡では境塚遺跡Ｄ区で見つかった道１の続きが確認され［古澤ほか 2011］、境塚遺跡を中心に少なくとも 500m 四方に及ぶ遺跡群が存在していた可能性が高い。

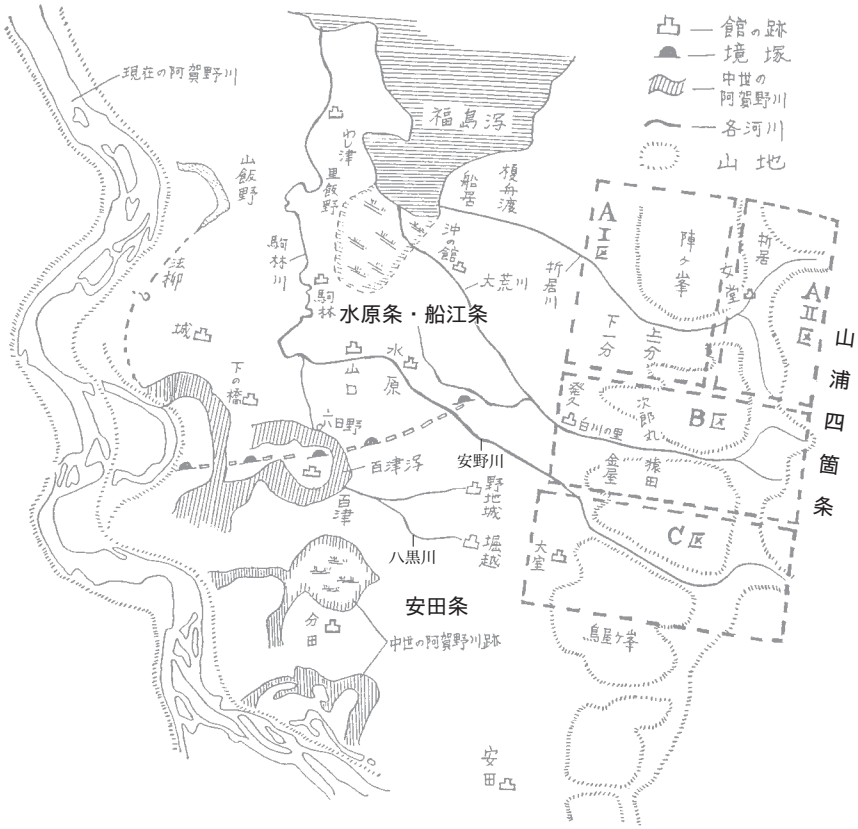
安田条の範囲では、野地城跡（199）・堀越館跡（214）・大坪遺跡（219）を南北に結ぶに範囲に遺跡が

1）新潟県立歴史博物館に寄贈された中野豈任の写真に同一のものがあり、この前後の写真を含めて現況と照合し、確認した。
2）阿賀野市教育委員会の遠藤慎之介による神社を管理していた宮尾氏からの聞き取りに基づく。三辺稲荷神社周辺はかつて旧佐藤家の所有地であり、宮尾氏は祠の移設にあたりその管理を任されたという。



第５図　周辺の中世遺跡分布

（大日本帝國陸地測量部発行　大正３年「津川」大正８年「新潟」「新発田」「新津」　1:50,000 原図、旧河道は大矢・加藤［1984］を参照。）



第６図　白河荘の区分（中野［1976］から転載・加筆）

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	境塚	40	曽根	79	壱本杉	118	地蔵堂石仏	157	居浦	196	七ツ塚	235	竜下
2	真昌寺	41	天王石塔	80	徳昌寺石仏	119	横山家蔵石仏	158	無為信寺の石仏	197	原	236	院殿塚
3	常福寺石造物群	42	加冶万代弁天郷	81	岩村寺石仏	120	遠藤家石仏	159	下条館跡	198	渡辺家蔵の石仏	237	北郷
4	五反畑	43	切替	82	稲荷社石仏	121	法華山墓跡群	160	浄楽寺の石造物	199	野地城跡	238	六野瀬館跡
5	本屋敷	44	岡屋敷石仏群	83	上の山塚群	122	庵入寺墓跡群	161	土居内	200	円福寺の石仏	239	ハチマキ山城跡
6	西宮内養泉寺石仏群	45	岡屋敷城跡	84	観音堂石仏	123	真光寺墓跡	162	泣塚	201	大通庵石仏	240	赤坂山中世窯跡
7	境田	46	真如庵石仏群	85	椎野家蔵石仏	124	羽黒石仏	163	山鳥屋敷	202	熊沢の石仏	241	赤坂山砦跡
8	西裏口の石仏	47	仲山寺石仏群	86	上ノ山墓跡群	125	多須田製鉄関連	164	駒林要害跡	203	金屋	242	十二神社石仏
9	北裏口	48	清水小屋石仏群	87	女堂館跡	126	道下	165	土居内西	204	地蔵院石仏	243	草水石仏
10	荒神裏A	49	月岡カリオンパーク	88	女堂石仏	127	寮ノ河原石仏	166	轟	205	山浦城跡	244	赤松山城跡
11	蚤取橋	50	源氏山	89	西山A	128	道上	167	善四郎谷内C	206	金クソ沢	245	村下の石仏
12	上沢田	51	北沢窯	90	西山B	129	経沢中世墓域	168	大割	207	山寺石仏	246	祥雲寺の石仏
13	北裏口の塚	52	砥石沢窯跡	91	沢口塚	130	華報寺石造遺物群ほか16	169	曽郷前	208	アバヤシキ	247	上江端の石仏
14	二ツ堂神明宮石仏	53	堤上窯跡	92	沢口石仏	131	目洗沢中世墓域	170	下谷地	209	大室城跡	248	玉泉寺の石仏
15	長円寺板碑	54	オガノB	93	泉秀院石仏	132	五頭山荘前石仏群ほか1	171	大曲川端	210	洞雲寺石仏群	249	新明野
16	長円寺石仏	55	花水	94	天樹院石仏	133	蓮台野中世墓域ほか1	172	羽萱場	211	鶴潤	250	分田館跡
17	池之端館跡	56	中黒山	95	岩倉B	134	大石沢製鉄	173	本田裏	212	江上板碑	251	内山王
18	橋場	57	松影A	96	家の前	135	遠藤家石仏石塔群	174	町道上	213	中島家蔵の石仏	252	成田屋敷
19	九枚田	58	内島見C	97	光円寺石仏	136	今板	175	村前	214	堀越館跡	253	大岡家蔵石仏群
20	鶴田	59	城山館跡	98	鳳林寺石仏	137	金鉢山石造遺物群	176	村前東A	215	鴨深北	254	長崎（城跡）
21	能化山の塚	60	寺ノ山	99	上一分石仏	138	金鉢山墓跡群	177	清水家石仏	216	狐塚	255	細池寺道
22	下中ノ目館跡	61	下前川原	100	中山家石仏	139	薬師堂石仏	178	柄目木	217	鴨深甲	256	盛岩寺石仏
23	下中ノ目石仏	62	森下古銭出土地	101	滝沢屋敷跡	140	村杉製鉄	179	山口	218	寺社家浦B	257	尻池の塚
24	法正館跡	63	大淵	102	諏訪社石仏群	141	村杉石仏	180	下ノ橋館跡	219	大坪	258	愛宕澤
25	乙次館跡	64	細山石仏	103	笹岡城跡	142	村杉城跡	181	紺野	220	六九	259	大関館跡
26	則持石仏群	65	城山	104	中ノ沢	143	篭田の観音様脇石仏	182	藤の木	221	六九塚群	260	下条館跡
27	細田	66	居附A	105	狼沢	144	篭田臼井家の石仏	183	諏訪神社	222	法塔場塚	261	船越古銭その1
28	吉浦石仏	67	横越館跡	106	狼沢中世窯跡	145	唐着	184	山口野中	223	横峯経塚	262	船越古銭その2
29	志村屋敷館跡	68	居屋敷跡	107	堤上窯跡	146	十ヶ袋	185	三辺稲荷	224	山本新家浦	263	丸田石仏群
30	竹俣万代	69	寺島	108	兎沢中世窯跡	147	水原館跡	186	七島館跡	225	手代山砦跡	264	桑山石仏
31	竹俣万代墓地石塔	70	長馬館跡	109	背中炙窯跡	148	斉藤家の石仏	187	カナクラ様	226	源直屋敷跡	265	高山石造物群
32	加冶万代館跡	71	里飯野石仏	110	法華山出土石造遺物群	149	外城庚申塚	188	小河原	227	滝山	266	六野瀬
33	万代新田石仏群	72	上堀田石仏C	111	権兵衛沢石仏	150	四ツ橋長者屋敷	189	嘉瀬島諏訪神社	228	字見屋敷跡	267	蕪木
34	大坪	73	上堀田石仏B	112	権兵衛沢窯跡	151	長福寺石仏	190	中潟神明宮の石仏	229	物見山砦跡	268	下郷中
35	福島	74	上堀田石仏A	113	堀切沢	152	長楽寺の石仏	191	中潟の観音様石仏	230	宮ノ越	269	下郷南
36	屋敷付塚	75	腰廻	114	山ノ神石仏	153	吉田家蔵	192	天神林の石仏	231	庚申様石仏	270	砂田
37	上曽根	76	上高関	115	高徳寺石造遺物群	154	雙善寺	193	新町	232	門前		
38	三ツ橋A石仏	77	旭塚製鉄	116	磐栄川神社石仏	155	七面堂	194	石船戸東	233	孝順寺石仏群		
39	三ツ橋B石仏	78	徳昌寺前	117	山崎家石仏	156	西福寺石仏群	195	久祢添の庚申様	234	安田城跡		

第３表　周辺の中世遺跡一覧

集中する。現代の国道 49 号に沿うが、その西側に蛇行する旧河道で結ばれていたことが読み取れる。大坪遺跡は 11 世紀後半～ 12 世紀を中心とし、四面廂付総柱建物や屋敷墓と見られる木棺墓など多数の遺構が検出された［荒川ほか 2006］。遺跡と城氏の盛衰と一致することや、同時期の横峯経塚（223）との位置関係などから城氏に関係した遺跡と推定される［荒川 2007］。遺跡の南地区では 13 世紀後半～ 14 世紀の竪穴状遺構も見つかっている。堀越館跡は 1423（応永 30）年に陥落した「堀越之要害」に比定され、堀跡・区画溝・廃棄土坑・土坑墓とともに、白磁・青磁・中国天目茶碗などの舶載品や茶入れ・茶壺・香炉・水注・茶臼などの茶道具が出土した［小田ほか 2001］。近接する鴨深甲遺跡も堀越館跡と同時期の集落である［高橋ほか 2006］。西側の阿賀野川右岸には分田館跡（250）を中心とする集中域があり、玉泉寺の石仏（248）など多くの石仏もある。江戸期には三国街道中通りが通り、新津方面から阿賀野川を渡る分田の渡しがあった場所である［小松ほか 1995］。旧安田町の中心街には安田氏の居城とされる安田城跡（234）を中心とする集中域が認められる。更に南側には、六野瀬館跡（238）や赤坂山砦跡（241）を中心とする集中域があり、笹神古窯の一つで 13 世紀中ころ～後半に操業した瓷器系窯の赤坂山中世窯跡（240）［小田 2002］とその製品の積み出し場と推定される六野瀬遺跡（266）［石川ほか 1992］を含む。

山浦四箇条の範囲のうち折居川流域のＡⅠ区には、女堂館跡（87）や上の山塚群（83）を中心に石仏や製鉄跡が分布する。一方、ＡⅡ区には北側の北沢窯（51）に代表される一群と南側の狼沢中世窯跡（106）をはじめとする一群の窯跡があり、笹神古窯の大半が集中すると言ってよい。これらのうち、北沢窯・背中炙窯跡は須恵器系窯、狼沢 1 号窯・兎沢中世窯跡（108）・堤上窯跡（107）は瓷器系窯である。また、これらの周囲には製鉄跡も多数分布しており、この地区が大規模な生産域であったことが分かる。山浦四箇条の中心とされるＢ区は、寺社・墓・石仏といった宗教関連遺跡が多数集中する。華報寺はその中心的な寺院であり、境内には多数の石仏や 1299（永仁 7）年銘時宗板碑、鎌倉期の大見行定の塔と推定される法篋印塔などの石造物（130）がある。華報寺背後の急斜面には目洗沢中世墓域（131）や経沢中世墓域（129）、前面には蓮台野中世墓域（133）が営まれた。1283（弘安 6）年の大見行定譲状では笹神丘陵での殺生禁断が記されているが、この背景にはこの地が霊場であることが考えられる。蓮台野では戦後の開墾の際に多数の石仏が出土しており、石仏の生産地と推定されている［中川 1959］。また、阿賀野市内にある 207 基のうち 203 基が出湯華報寺周辺にある 120 基と同一型式であり、華報寺周辺で作られた石仏が白河荘や周辺に広がっていた可能性がある［水澤 2002］。本地域には製鉄跡も数多くあるが、窯跡は瓷器系窯である権兵衛沢窯跡（112）のみが確認できる。Ｃ区では平野部側の大室城跡（209）及び五頭山麓の村杉城跡（142）の周辺に製鉄跡や石仏が分布するが、窯跡は確認できない。

以上のように各地域で認められた多数の遺跡集中域は、中世白河荘の代表的な村落を表しているものと考えられ、城館・集落遺跡・石仏等で構成され、地域によって窯跡・製鉄跡・石仏・塚が集中するなどの特徴がある。そして、こうした遺跡集中域は、境塚遺跡と山口野中遺跡とを結ぶ幹線道路に代表される陸上交通と、河川や潟を利用した内水面交通で有機的に結びついていたものと推測される。

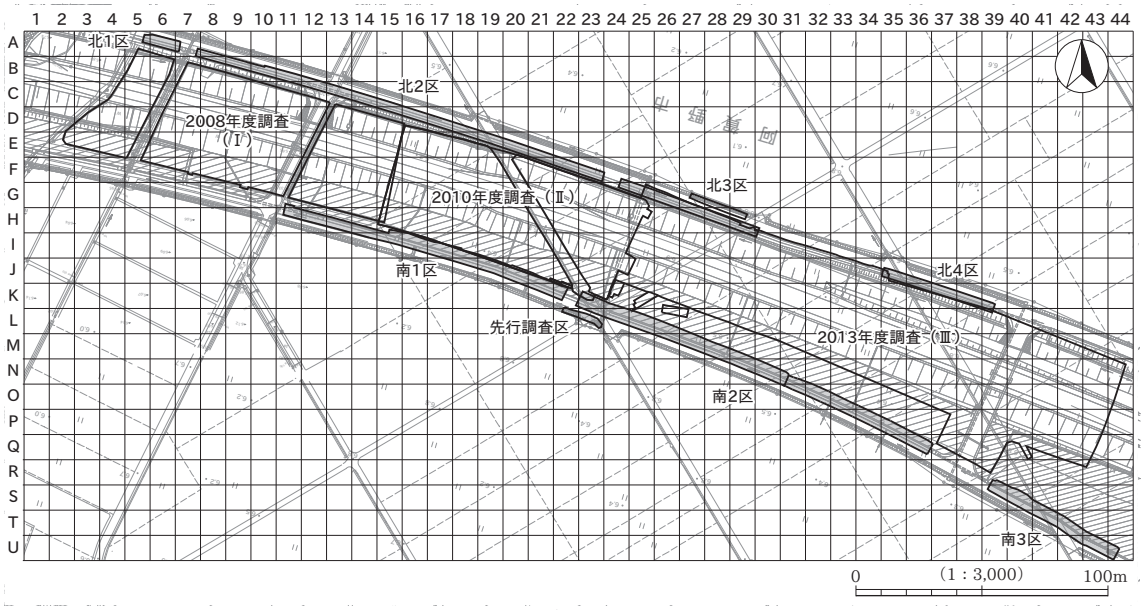
第Ⅲ章　山 口 遺 跡 Ⅲ

1　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

2021（令和 3）年度の調査区は、過年度（2008・2010・2013 年）調査区の南北に沿って設定されていることから、グリッドの設定にあたっては、2008 年度のものを踏襲した。グリッドの方向は、真北を基準に設定し、国家座標[1)] の X 座標 =203820.000、Y 座標 =61400.000 を基点（1A 杭）とし、南北・東西それぞれ 10m の方眼を組み、大グリッドとした（第 7 図）。大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東に向けて算用数字（1・2・3…）、北から南に向けてアルファベット（A・B・C…）を付し、これらを組み合わせた。両者の組み合わせにより「27J」のように表示した。

小グリッドは大グリッドの中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには 1 ～ 25 の番号を付し、北西隅を 1、南東隅を 25 となるように配列した。グリッドは、大・小グリッドを組み合わせ、「16G11」、「32L18」のように記した。遺構の検出位置及び、包含層出土遺物の位置などは、基本的にこの組み合わせで記録した。



第 7 図　グリッド設定図

B　基本層序と旧地形

遺跡は阿賀野川右岸の自然堤防上に立地し、標高は約 6m を測る。現況は水田である。耕地整理前は桑畑として利用されていたようである。遺跡の西側には旧小里川が北流する。旧小里川は現在、改修により人工河川となっているが、本遺跡から約 800m 北流した地点で駒林川に合流して福島潟へと至る。2008 年度の調査において、弥生時代から古代までの地形は、旧小里川に向かって斜面を形成していたことが明

1）「平成 23（2011）年、東北地方太平洋沖地震（気象庁）」以前の数値

らかとなり、河川が現在の流路と近接して流れていたことが推定されている［荒谷ほか 2010］。

基本土層は、過年度調査の所見を参考に、Ⅰ～Ⅶ層に分層した。このうち各層位を時代ごとに大別すると、Ⅲ層が中世、Ⅳ層が古代、Ⅴ層が弥生時代、Ⅵ・Ⅶ層が縄文時代である。遺構検出面については、中世がⅣ層、古代がⅤ層、弥生時代がⅥ層となる。だだし、耕地整理による削平の影響から、現水田耕作土直下がⅤ層、Ⅵ層となっている範囲も広い。よって、中世・古代の遺構を同時に検出するという状況も多い。

旧地形は、過年度調査に今回調査の所見を加味して模式図で表すと第 8 図のようになる。

調査区西側（第 9 図柱状図③以西）では、前述のようにⅣ・Ⅴ層が河川に向かって急激に落ち込む斜面となる。Ⅵ層以前の堆積物は、比較的均一なシルトが厚く堆積していることから、阿賀野川本流の堆積物と考えられる。その後、現小里川と近接した位置に旧小里川が流下し、Ⅵ層を浸食し、斜面を形成したと推測される。弥生時代の遺構は、主にこの斜面の落ち際に構築される。遺物は、遺構付近や斜面から出土する。この状況から、遺構は旧小里川によって形成された自然堤防上の微高地に沿って構築されていることが推定でき、流路の方向（北東－南東）に延伸するものと考えられる［荒谷ほか 2010］。

第 1 次調査（2008 年度）区から東側は、古代の遺物包含層であるⅣ層に注目する。大部分が耕地整理の削平を受けているものの、Ⅴ・Ⅵ層の堆積状況、耕地整理による削平を免れたわずかな部分に残るⅣ層、遺構の分布状況などから旧地形が類推できる。柱状図③付近は、耕地整理以前から使用されていた農道だったことから、Ⅳ層が遺存しており、標高 6m 前後を測る。ここより柱状図⑤・⑩付近までは、古代の遺構は、土坑・溝・ピットなどが検出されるが、数は少ない。平坦な低位面が続くものとみられる。柱状図⑪と第 3 次調査における柱状図⑭も、農道下であったことからⅣ層が残存する。Ⅳ層の標高は、約 6.2 ～ 6.5m を測る。標高が高いことから、削平の影響を大きく受けている可能性が高いものの、古代の遺構が多く検出されている。微高地が形成され、地形的に高かったことを示すものと考えられる。柱状図⑫付近から東は、全体的に標高を下げていき、遺構も少なくなる。柱状図⑬付近では一旦落ち込むが、また若干上がって平坦地を形成する。この平坦地は、水田として利用されていた。柱状図⑯・⑰が位置する南 3 区は、標高が 50cm 以上低くなる。Ⅳ層とその下位の堆積土は、腐植物（未分解植物遺存体）を多く含み、砂とシルトのラミナ状堆積が看取できた。水の影響を受けやすく、湿地状となっていたものと推定する。

この後、遺跡全体にⅢ層が堆積し、西側の斜面部も埋没する。小里川対岸に位置する柄目木遺跡においても、斜面部にⅢ層が厚く堆積し、当遺跡と同様の堆積過程を示している［佐藤ほか 2010］。こうして旧小里川へ向かう斜面部は、中世の段階に調査範囲内はほぼ平坦になり、中世の遺構が広い範囲で検出されるようになる。中世の遺構分布は、古代のように偏りを見せないことから、周辺は概ね平坦な地形であったと考えられる。

基本層序は以下の通りである。色調は『新版 標準土色帖』［小山・竹原 2004］による。

Ⅰ層…2.5Y4/2 暗灰黄色粘性シルト。粘性・しまりやや弱。現代の水田耕作土。

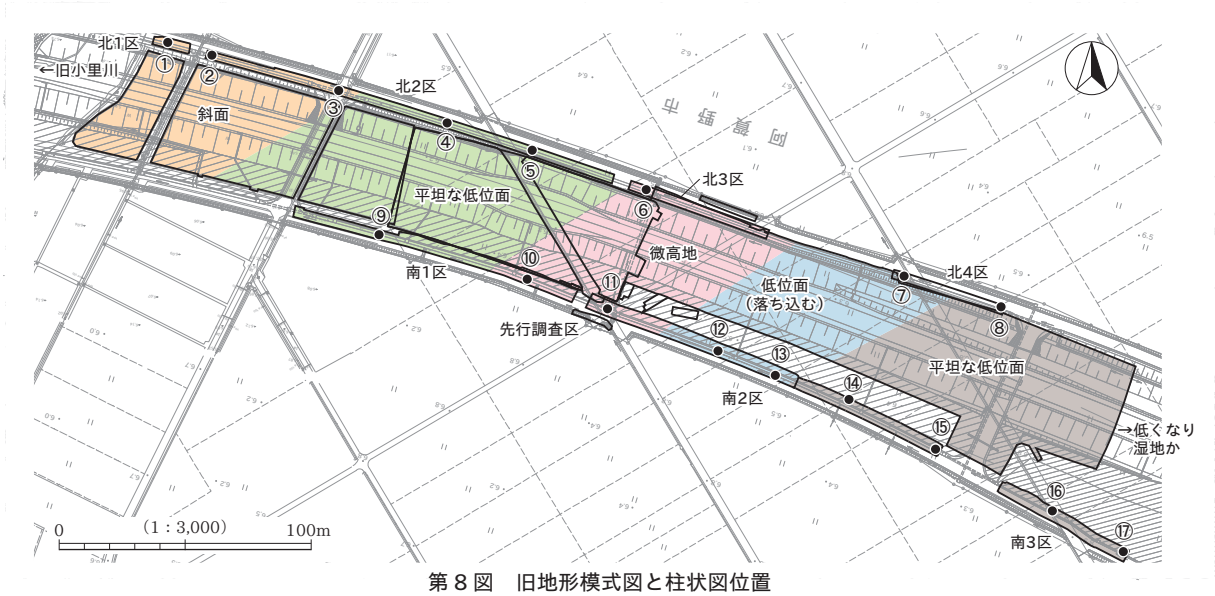
Ⅱ層…2.5Y5/1 黄灰色粘土。粘性・しまりやや強。近世～近代の堆積土。耕地整理前の旧表土。

Ⅲ層…2.5Y5/1 黄灰色シルト。粘性やや弱・しまり強。中世の遺物包含層。均一な土質で、比較的短時間な洪水堆積をうかがわせる。部分的に砂質が強まるものの、調査区東側ほど粒子が荒い傾向がみられる。シルト粒子の違いにより、細かいもの（Ⅲa 層）、粗いもの（Ⅲb 層）に分けた。

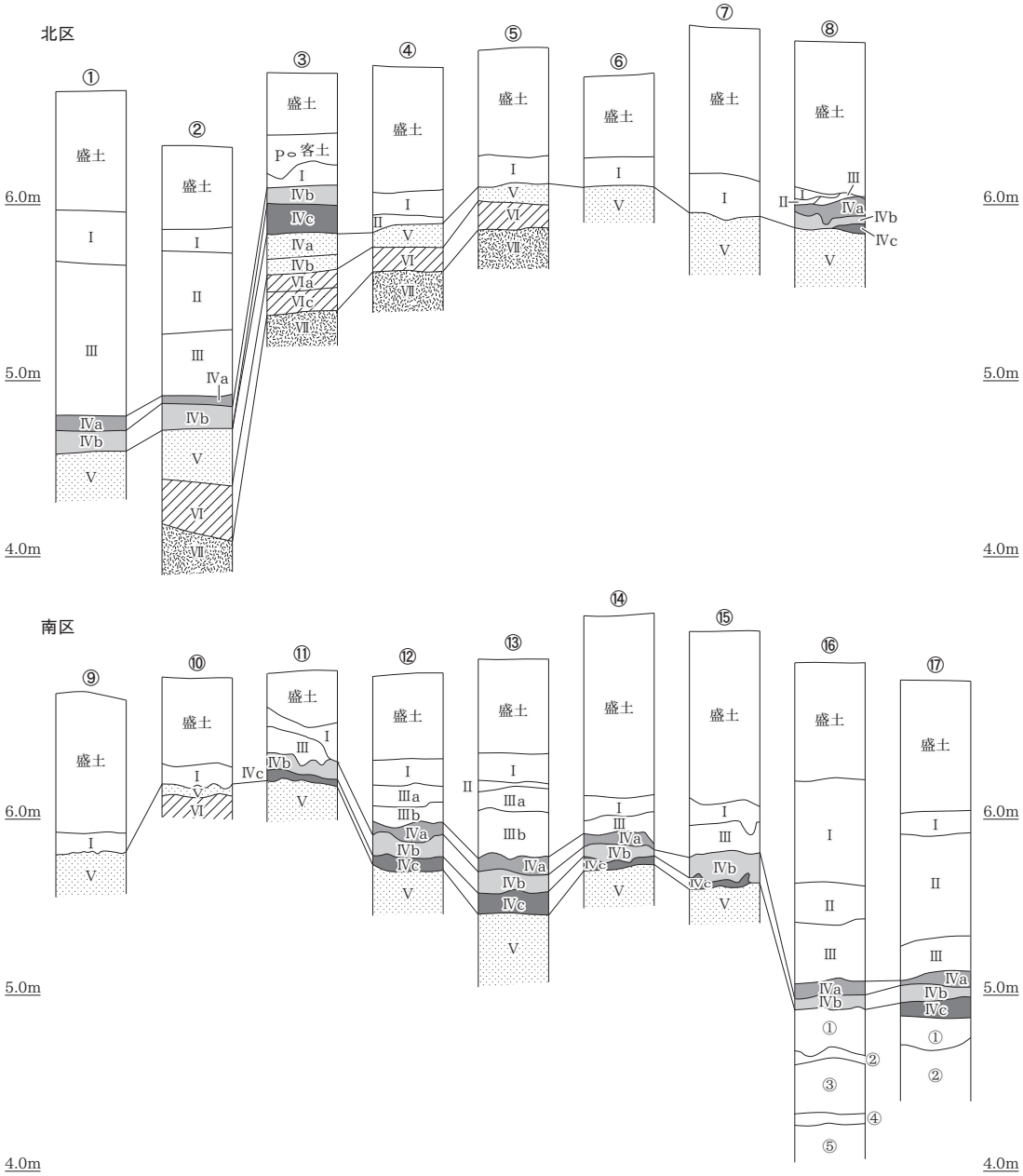
Ⅳ層…古代の遺物包含層。23L 以東で沈み込み、耕地整理の影響がなく残りが良好であった。

遺物はⅣa 層 < Ⅳb 層 < Ⅳc 層の順で多くなる。

Ⅳa 層… 5Y4/1 灰色粘土。粘性やや強・しまり強。Ⅲ層ブロックを多量に含む。



第８図　旧地形模式図と柱状図位置



第９図　基本層序と柱状図

Ⅳb 層… 10YR3/1 黒褐色粘土。粘性・しまりやや強。炭化物をわずかに含む。色調がとりわけ黒色に近いことから、長期的な安定が推測できる。

Ⅳc 層… 5Y6/2 灰オリーブ色粘土。粘性強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。色調はⅤ層に近似するが、粘性がより強い。古代の遺物が出土したこと、遺構の構築に関わる土層であることから、今調査ではⅤ層から切り離して、古代の遺物包含層として扱った。

Ⅴ層…5Y6/1 灰色粘土。粘性･しまりやや強。弥生時代の遺物包含層で、中世･古代の遺構確認面である。地点によってはシルト質が強い。しまりの違いでⅤａ層（やや強）、Ⅴｂ層（やや弱）に細分できる。Ⅳc 層に近似するが、ややシルト質が強く、ささくれが目立つこと。また、Ⅵ層とも質・色調が近似するが、わずかに含む炭化物やごく暗めに見える色調であることから、分層した。

Ⅵ層…10YR6/4 にぶい黄橙色シルト。粘性やや弱、しまり強。褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。地点により砂質が強く、シルト・細砂のラミナ状堆積を成す。過年度調査において、無遺物層とされていたが、南 2 区のⅥ層中の遺構から、縄文時代晩期の土器が出土している。

Ⅶ層…2.5Y6/2 灰黄色シルト。粘性やや弱･しまり強。褐色･灰黄褐色シルトブロックをわずかに含む。縄文時代晩期の遺物を含む。

南 3 区は、Ⅳ層に相当すると考えられる土層が堆積しているものの、腐植物を含んでおり、水の影響が考えられる。下位の土層は、それがとくに顕著なことや、粘土･シルト･砂の互層がみられることから、時間をかけて堆積した水成堆積層と考えられる。下位の土層については、以下の通り。

①層…2.5Y5/1 黄灰色シルト。粘性やや弱・しまり強。腐植物を少量、黄灰色粘土を多量に含む。

②層…10YR3/2 黒褐色粘土。粘性やや弱・しまり強。腐植物、黄灰色粘土を少量含む。

③層…10YR6/1 褐灰色粘土。粘性やや強・しまり強。腐植物をわずか、灰色シルト（下位に多い）を少量含む。

④層…③層に近似し、粘性がさらに強い。灰色シルトはごくわずかである。

⑤層…④層をベースとし、粘性がさらに強い。腐植物をごくわずかに含む。

C　本書の記述方針

本書では、山口遺跡、山口野中遺跡、境塚遺跡、新町遺跡、石船戸東遺跡の 5 遺跡について、それぞれを章を立て報告するが、記述の方針は基本的に共通事項であることから、本項において述べる。

遺構・遺物の説明は、本文・観察表・図面図版・写真図版を用いて行う。複数の時代にわたる遺跡は、各時代に分けて報告する。遺構は種別ごとに記述し、掲載する。詳細については観察表に委ねることとし、特徴的な点や他の遺構との関係性を中心に述べる。遺物は、土器・陶磁器、石製品、金属製品・鍛冶関連遺物、木製品の順に種別ごとに記載し、代表的なものを掲載する。

1）遺　　構

遺構番号

遺構記号と番号を組み合わせて表記した。記号は文化庁文化財部記念物課監修の『定本　発掘調査のてびき』［文化庁 2016］の集落遺跡発掘編より決定した。SI は竪穴建物、SB は掘立柱建物、SE は井戸、SK は土坑、SD は溝、P はピット、SF は道、SX は性格不明遺構などである。遺構番号は、山口遺跡が 1 からの通し番号、他の 4 遺跡は過年度調査からの連続番号とした。過年度調査区から延伸する遺構につ

いては、過去の番号を付したものもある。また、遺構と認定されなかった番号は、他に振り替えず欠番とした。

図　　版

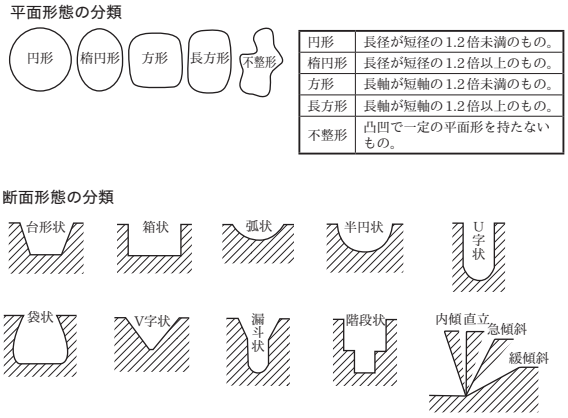
図版は、図面図版と写真図版で構成される。図面図版は、調査範囲図・全体図・分割図・個別図などを作成した。各遺跡の縮尺は、調査範囲や面積が異なるため様々だが、個別図は 1/40 を基本とした。また、必要に応じて変えている図もある。土層断面図の色調は『新版標準土色帖』［小山・竹原 2004］に基づき決定した。写真図版は、断面・完掘状況・全景・遺物写真などを掲載した。遺構の写真は、本文で報告したものを中心に掲載した。

観　察　表

観察表の項目は、位置・検出層位・所属時期・形態・規模・底面標高・埋土の堆積状況・出土遺物・切り合い関係などである。遺構の形状・計測値は、遺構検出面での形や数値である。遺構の切り合い関係は「>」で、新 > 旧と示した。「=」の場合は、同時期である。

平面・断面形態と埋土の堆積形状の分類

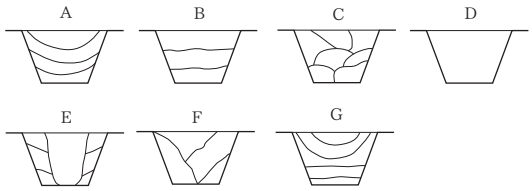
遺構の平面･断面形態の分類は［加藤 1999］､遺構埋土の堆積状況の分類は［荒川ほか 2004］に準拠した。



円形	長径が短径の 1.2 倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の 1.2 倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。
長方形	長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。
不整形	凸凹で一定の平面形を持たないもの。

台形状	底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
U字状	検出面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。
V字状	点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。

第 10 図　遺構の平面・断面形態の分類［加藤 1999］



A　レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
B　水平	複数層が水平に堆積する。
C　ブロック状	ブロック状に堆積する。
D　単層	覆土が単一層のもの。
E　柱痕	柱痕と思われる土層が堆積するもの。
F　斜位	斜めに堆積するもの。
G　水平ーレンズ	覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。

第 11 図　遺構埋土の堆積形状の分類［荒川 2004］

2）遺　　物

遺物の説明は、観察表ですべてについて記載し、代表的なものについて本文で解説する。報告遺物は、遺構出土のものについて述べた後に包含層出土のものについて記述する。図面図版の縮尺率は、土器が基本的に 1/3 であるが､一部について 1/4･2/3 などに変更して掲載した。石製品･木製品も大きさに応じて、適宜変えている。写真図版は、図面図版とほぼ同じ縮尺ですべてを掲載した。観察表は、図版に掲載したすべての遺物について観察項目を設定し、その内容を記した。なお、不明なものは空白とした。出土地点及び層位はすべて記した。

2 遺　　構

A 中 世 の 遺 構

1）概　　要

中世に属する遺構は、掘立柱建物 17 棟、井戸 14 基、土坑 13 基、溝 43 条、ピット 283 基、性格不明遺構 3 基を検出した。後世の耕地整理の影響を強く受ける。本来ならば、Ⅳ層上面が遺構検出面となるが、調査区のほぼ全面にわたり、Ⅳ層（古代の遺物包含層）が削平されており、Ⅴ層での検出となった。遺構埋土は、褐灰色・黄褐色土のほかに黒色系の土が堆積するものがある。古代の遺構と同一面での検出ではあるが、埋土は先述の色調を有し、古代の遺構埋土とは異なることから、いわゆる「黒い遺構」と現場で呼称していたものを、中世の遺構として扱った。中世の遺構は、Ⅳ層が遺存するか所で、Ⅳ層を掘り込んでいることを確認している。遺構分布は、過年度調査の結果とほぼ重なるが、南 1 区で掘立柱建物が多く検出されたことや、遺構が希薄となっていた 11・12H で井戸の集中を検出したことから、集落が南に延びることが示唆される。

2）掘 立 柱 建 物

掘立柱建物は 17 棟を数えるが、調査区が狭小なため全貌がわかるものはなく、桁及び梁のどちらか一方のみの検出にとどまっている（本項では柱間の多い方を「桁行」、少ない方を「梁行」として記述する）。井戸も検出されることから、当該期に一般的に認められる建物・井戸がセットとなる集落形態と考えられる。

分布は、南 1 区の 16 ～ 19I・J と南 2 区の 26L・M にまとまりがみられる。検出した建物は、建物同士または井戸や溝などとも重複しており、複数の時期にわたる建て替えが推定される。

主軸方向は、過年度調査の結果とほぼ同じく、東偏 88 ～ 90°のほぼ東西を向く軸を持つもの、東偏 82 ～ 85°とやや北に振れる軸を持つものがある。

柱穴の埋土は、黒褐色・褐灰色土が堆積するものが多い。調査区の南北壁の確認では、いわゆるあたりを看取できるピットも複数確認したが、他の柱穴と建物を構成させるには至らなかった。建物の数はさらに増えると想定する。

SB1（図版 3・7・75）

北 2 区 17・18D に位置する。柱間を 3 間検出した。2010 年度調査区の SB15 に隣接し、平行する。柱間寸法は 2.48 ～ 2.72m とややばらつく。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 22 ～ 40cm、深度は 18 ～ 30cm である。

SB2（図版 5・7・74・75）

南 1 区 16・17I に位置する。柱間を 3 間検出した。柱間寸法は 1.76 ～ 2.0m を測る。柱穴の掘方は円形・方形・楕円形で、上端長径 20 ～ 36cm、深度は 8 ～ 18cm である。P79 は柱痕が認められ、径は約 10cm と推定される。

SB3（図版 5・7・74）

南 1 区 16・17I に位置する。柱間を 2 間検出した。柱間寸法は 2.08 ～ 2.32m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 21 ～ 25cm、深度は 9 ～ 10cm である。軸は、他の建物に比して、南北にやや振れる。

SB4（図版 5・7・74）

南 1 区 17I に位置する。柱間を L 字に検出した。柱間寸法は 1.52m、2.24m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 24 ～ 36cm、深度は 7 ～ 24cm である。

SB5（図版 5・7・74）

南 1 区 17･18I に位置する。梁行 1 間、桁行 3 間を検出した。柱間寸法は梁行 2.08m、桁行 2.0m ～ 2.88m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 17 ～ 31cm、深度は 6 ～ 16cm である。P285 の柱痕幅は 10cm で、最下部はとくに固くしまっており、あたりと推定される。

SB6（図版 5・7・75）

南 1 区 17・18I に位置する。梁行 1 間、桁行 2 間を検出した。柱間寸法は梁行 1.68m、桁行 1.84 ～ 2.0m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 20 ～ 34cm、深度は 9 ～ 32cm である。柱穴の配列から、総柱建物の可能性がある。SB7・8 と重複するが、これらより新しい。

SB7（図版 5・7・75）

南 1 区 17・18I に位置する。柱間を 2 間検出した。柱間寸法は 2.48 ～ 2.64m を測る。柱穴の掘方は円形･楕円形で、上端長径 29 ～ 36cm、深度は 6 ～ 16cm である。P254 は最下部がとくに固くしまっており、あたりを確認した。また、SD2075 掘削後に検出できたことから、これより古いと推定される。柱穴の切り合いから、SB6 より古い。

SB8（図版 5・7・74・75）

南 1 区 17・18I に位置する。梁行 1 間、桁行 2 間を検出した。柱間寸法は梁行 1.84m、桁行 2.64 ～ 2.80m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 16 ～ 40cm、深度は 8 ～ 28cm である。柱穴の切り合いから、SB6 より古い。

SB9（図版 5・8・74）

南 1 区 17・18I に位置する。柱間を 2 間検出した。柱間寸法は 2.64m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 24cm、深度は 11 ～ 44cm である。P283 はとりわけ深い。

SB10（図版 5・8・74）

南 1 区 18I・J に位置する。梁行 1 間、桁行 2 間を検出した。柱間寸法は梁行 1.84m、桁行 2.40m を測る。柱穴の掘方は円形で、上端長径 13 ～ 33cm、深度は 6 ～ 30cm である。柱穴の切り合いから、SB11 より古い。

SB11（図版 5・8）

南 1 区 18I・J に位置する。梁行 1 間、桁行 2（3）間を検出した。柱穴配列を側柱建物と仮定し、良好な位置にある P188 を含めて復元した。柱間寸法は梁行 1.76m、桁行 1.84 ～ 2.0m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 19 ～ 32cm、深度は 8 ～ 26cm である。

SB12（図版 5・8）

南 1 区 18I・J､19J に位置する。梁行 1 間､桁行 2 間を検出した。柱間寸法は梁行 2.24m､桁行 1.92 ～ 2.08m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 19 ～ 22cm、深度は 10 ～ 22cm である。

SB13（図版 5・8）

南 1 区 18・19J に位置する。梁行 1 間、桁行 4 間を検出した。柱間寸法は梁行 2.24m、桁行 1.68 ～ 2.24m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 18 ～ 28cm、深度は 4 ～ 16cm である。P291 は最下部がとくに固くしまっており、あたりを確認した。P86 の柱痕は径 14cm を測る。

SB14（図版 5・8）

南 1 区 19J に位置する。梁行 1 間、桁行 2 間を検出した。柱間寸法は梁行 2.08m、桁行 2.32 ～ 2.64m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 18 ～ 22cm、深度は 8 ～ 16cm である。

SB15（図版 5・9）

南 1 区 19・20J に位置する。柱間を 2 間検出した。柱間寸法は 2.80 ～ 2.96m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 20 ～ 30cm、深度は 14 ～ 29m である。

SB16（図版 6・9・75）

南 2 区 26M に位置する。柱間を L 字に検出した。柱間寸法は 1.92m、3.76m を測る。柱穴の掘方は円形・方形で、上端長径 23 ～ 34cm、深度は 21 ～ 25cm である。

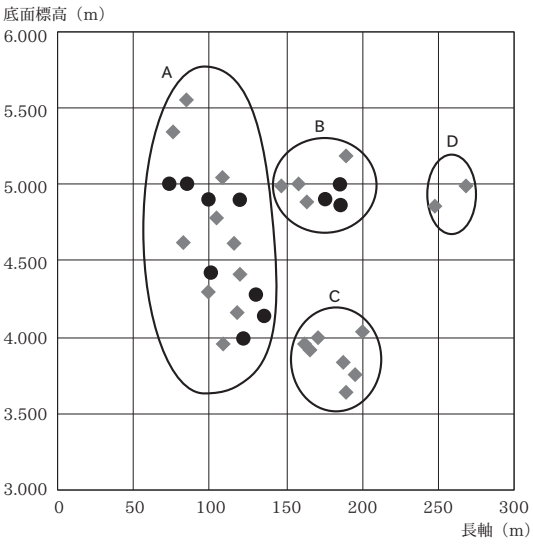
SB17（図版 6・9・75）

南 2 区 26L・M に位置する。柱間を L 字に検出した。柱間寸法は 1.92m、4.40m を測る。柱穴の掘方は円形・楕円形で、上端長径 19 ～ 30cm、深度は 9 ～ 33cm である。建物に近接して SD43・53 があり、いずれも建物の長・短軸に平行する。位置関係から雨落ち溝と推定され、また上屋は寄棟造りの可能性がある。

3）井　　戸

14 基検出した。大半は調査区外にかかるが、平面形は概ね円形を呈する。すべて素掘りで、内部に井戸側などの施設を持つものはない。24 ライン以西に分布し、とくに 2013 年度調査区の二重に巡る溝の東側に広がる遺構空白域を挟んだ南側（南 1 区 11・12 ライン）に集中する。一方、掘立柱建物が集中する 17 ～ 19 ラインにかけては少ない。

井戸の平面規模と深度（底面標高）の関係を、表したものが第 12 図である（『山口遺跡Ⅱ』［石川ほか 2020］第 14 図井戸の規模に加筆）。相対的に、長軸が 250cm 前後のものは浅く（D）、長軸約 150 ～ 200cm は浅いものと深いものに二分される（B･C）。長軸 100cm 前後のものの深度は、ばらつきがある（A）という傾向がみられる。



第 12 図　井戸の規模（●が今回調査の井戸）
［石川ほか 2020 に加筆］

遺構埋土は、炭化物層の堆積が認められるものがある。炭化物層は概ね埋土の上～中位に堆積し、焼土がみられるものもある。また、礫・被熱した礫が放り込まれている井戸もあり、このような出土状況は、井戸の廃棄に伴う祭祀行為が指摘されている［駒見 1992］。阿賀野市町道上遺跡においても、同様の出土状況が認められ、祭祀行為によるものと考察されている［古澤 2002］。

遺物は珠洲焼・青磁などが出土する。中世の遺物と古代の須恵器・土師器が混在する井戸も散見できる。なかには古代の遺物のみが出土した井戸もあるが、中世遺物との混在例、掘方形状の類似性や分布状況から判断して、中世に位置付けた。

SE1（図版 5・9・75）

南 1 区 11H10・12H6 に位置する。埋土は 16 層に識別でき、1 層はⅢ層起源の土が堆積する。5・7 ～

9 層はしまりが弱く、細粒の炭化物を多量に含む。とくに 9 層は純粋な炭化物層である。また 8 ～ 11 層は焼土を含み、とくに 10 層に多い。以下は黒色系と灰色系の土層が互層する。遺物は、1 層から珠洲焼甕（1）、埋土から珠洲焼片口鉢（2）が出土した。重複する SK2 より新しい。

SE7（図版 5・9・76）

南 1 区 12H14･15 に位置する。平面規模が大きく、浅いタイプの井戸である。埋土は 17 層に識別でき、1 層はⅢ層起源のシルト、2 ～ 5 層は黒褐色土がレンズ状に堆積する。7 ～ 17 層は黒褐色土とⅤ・Ⅵ層起源の灰オリーブ色粘土（壁面崩落土）がブロック状に堆積しており、本遺構が埋まった後に、再度掘り込まれている可能性がある。遺物は 2 層から土師質土器皿（4）、1・3 層から土師器の小片が出土した。

SE10（図版 5・10・76・77）

南 1 区 11H5 に位置する。埋土は 11 層に識別でき、1・3 層はⅢ層起源の土、4 ～ 8 層は灰色系シルト、9・10 層は黒褐色粘土が堆積する。遺物は 3 ～ 10 層にわたり土師器甕の破片が出土する。また 6 層で、椀型滓（40）を確認した。

SE11（図版 5・10・77）

南 1 区 11H8 に位置する。調査中に崩落したため、図示できたのは中位までであるが、重機による深掘りの際の断面写真を掲載した（図版 77）。埋土は 16 層に識別でき、中位の 5 ～ 10 層は細粒の炭化物を多量に含む。7・10 層は焼土をとりわけ多く含み、径 5cm 以下の焼土塊を多数確認した。断面形は、底面にかけてやや細身となる。遺物は 7 層から珠洲焼甕（7）が出土した。

SE21（図版 5・10・77）

南 1 区 17I16 ～ 18・22 に位置する。中位～底面にかけて調査区壁面まで抉るように崩落したため、安全面を考慮して調査を中止している。平面の検出プランは、隅丸方形の褐灰色土と、それを囲むⅤ・Ⅵ層起源の土（10・12・13 層）のプランが看取できたことから、木製の井戸枠などが遺存している可能性を想定したが、検出していない。埋土は 19 層に識別でき、4 層は細粒の炭化物層、14・18 層は細粒の炭化物層と灰色土の薄い土層の互層である。底面の深度は不明だが、平面形態から浅い井戸の可能性もある。遺物は珠洲焼片口鉢（8・9）、瓷器系陶器甕（10）が出土した。

SE24（図版 5・10・77）

南 1 区 12H8・9 に位置する。埋土は 12 層に識別でき、ブロック状の堆積をなす。上～中位は黒褐色系、下位はⅤ・Ⅵ層起源の暗オリーブ色土が堆積する。下位は壁面崩落土の可能性がある。断面形は階段状を呈し、底面中央は径約 50cm、深さ約 25cm の水溜め状のくぼみがある。6･8 ～ 10 層の落ち込んだ堆積と、7・11 層を裏込め土と仮定すると井戸側があった可能性がある。遺物は 1 層から珠洲焼片口鉢（11）、須恵器無台杯（12）、短頸壺（13）、土師器無台椀（14）が出土した。

SE27（図版 5・10・78）

南 1 区 16I 11・12 に位置する。埋土は 14 層に識別でき、1・2 層はⅢ層起源の土、3 層は 2 層をベースとするものの微細な炭化物を多量に含む。14 層の黒褐色粘土は厚く堆積する。断面形は下位がＵ字状、上～中位で階段状を呈する。さらに西側の立ち上がりはテラス状を呈するが、これは壁面崩落の可能性が考えられる。遺物は 2 層と最下層の 14 層で珠洲焼甕（15・16）、1 層から釘（38）が出土した。

SE61（図版 5・11・78）

南 1 区 15I 1・2 に位置する。小型の井戸である。埋土は 5 層に識別でき、灰色粘土がブロック状に堆積する。遺物は 1 層から土師器の小片が 2 点出土した。

SE81（図版 5・11・77）

南 1 区 21K8・9 に位置する。平面規模は大きく、浅いタイプの井戸である。埋土は 11 層に識別でき、3・7 層は微細な炭化物を多量に含む黒色シルト。最下層の 11 層は砂を多量に含むオリーブ灰色シルトが堆積する。また、11 層は湧水が著しい。遺物は 1 層から瀬戸美濃焼（17）、須恵器瓶類底部（18）と鉄製品（39）が出土した。

SE171（図版 5・6・11・78）

南 2 区 24L1・2 に位置する。埋土は 6 層に識別でき、レンズ状堆積をなす。2 層最下部には径 1 ～ 2cm の炭化物が集中的に堆積する。断面形は、上位でやや開き気味になる U 字状を呈する。出土遺物はない。

SE326（図版 5・6・11・78）

南 1 区 22K7 に位置する。半裁時に壁面が大きく崩落したため、正確な平面プランは不明である。埋土は 7 層に識別でき、上位は黒色系、下位は灰色系の土が堆積する。出土遺物はない。

SE519（図版 3・11・78・79）

北 2 区 8A22 に位置する。埋土は 3 層に識別できる。湧水が著しく、3 層掘削時に崩落した。断面形は階段状を呈し、底面はピット上にくぼむ。2 層から人頭大の礫（被熱なし）とともに、珠洲焼甕（19）、片口鉢（20）が出土した。

SE758（図版 3・11・79）

北 2 区 10B18・19 に位置する。埋土がⅤ層に近似していたため、古代の調査時に確認した。埋土は 5 層に識別でき、砂を含むシルトがブロック状に堆積する。1 層は砂が主体となる暗灰黄褐色砂質シルトである。湧水も多く崩落の危険があることから、5 層までの掘削に留めた。よって、さらに深くなる可能性がある。本遺構は古代面で検出したが、埋土は古代の遺構にみられないことや、Ⅲ層起源の土に近似することから、中世に位置付けた。出土遺物はない。

SE771（図版 4・11・79）

北 2 区 21F4・5・9・10 に位置する。SD2075 と重複するが、本遺構が新しい。両遺構とも埋土が似ていたため、SD2075 掘削時点では明確にしえず、一帯を 10 ～ 15cm 段下げして検出できた。埋土は 7 層に識別でき、3 層は最下部に薄い炭化物層が堆積する。遺物は 3 層から青磁椀（22）、7 層から珠洲焼甕（21）が出土した。

4）土　　坑

13 基検出した。北区で 12 基、南区で 1 基を確認した。分布は北 2 区の 8B に 2 基、11･12H に 1 基、15C・D に 5 基、16・17D、19E、22E に各 1 基、北 3 区の 24G に 1 基となり、過年度調査の遺構密度に比例している。

遺構の形状・規模については、先述のように耕地整理の影響を強く受けており、遺構上部は削平されていると考えられる。よって、遺構の全体像は判然としないものが多い。

埋土の特徴は、黒褐色系土が主体となるもの、灰黄褐色・にぶい黄褐色土が主体となるものがある。過年度調査において、灰黄褐色・褐色土の遺構は、重複する他の遺構を切ることから、中世の中でも新しい時期に構築された可能性があるとされている［石川ほか 2020］。以下、特徴的なものについて記述する。

SK2（図版 5・9・79）

南 1 区 11H10、12H6 に位置する。埋土は 3 層に識別でき、レンズ状堆積をなす。2 層は炭化物を多

量に含む黒褐色粘土である。重複する SE1 に切られており、本遺構が古い。遺物は円形に打ち欠いた須恵器杯蓋のつまみ（3）が出土した。所属時期が古代の可能性もあるが、遺構分布と埋土の特徴から中世に位置付けた。

SK561（図版 3・12・80）

北 2 区 15C23・24 に位置する。埋土は単層で、オリーブ黒色シルトが堆積する。近接する SK560 とは規模・軸・堆積土の色調・質が比較的近しい。SX613 を切ることから、本遺構が新しい。出土遺物はない。

SK603（図版 4・12・80）

北 2 区 21F1・5 に位置する。埋土は単層で、炭化物を多量に含む黒褐色シルトが堆積する。出土遺物はない。

SK623（図版 4・12・80・81）

北 3 区 24G5 に位置する。埋土は 4 層に識別でき、レンズ状に堆積する。1 層は炭化物層である。比較的径の大きい炭化物が看取できる。出土遺物はない。

5）溝

溝は、調査区の全域から検出した。溝の機能としては、区画、排水路、道などが想定できる。過年度調査では、平面形が a：直線状となるもの、b：蛇行しながら伸びるもの、c：ほぼ直角に屈曲するもの。埋土は（a）暗褐色が堆積するもの。（b）下位に暗褐色土・上位に褐灰色土が堆積するもの、（c）暗褐色土を含まず褐灰色・灰黄褐色土が堆積するものがあり、新旧関係を（a）・（b）→（c）と捉えている。今年度調査における（a）は、いわゆる黒い遺構と呼んだもので、黒褐色系土が堆積したものに置き換えることができそうである。また、2013 年度調査において、新旧関係を再確認したうえで、同一遺構内における構築時期の差や部分的な掘り直し等の可能性を指摘している［石川ほか 2020］。

溝の傾斜については、2008 年度調査において、底面標高の比較から、「東西方向の溝は西方向の勾配を持ち、対する南北方向の溝では、前者ほどの勾配は認められない…東西方向の勾配が流水を促し、旧小里川方面の低地への排水を意図したものと仮定すると、現在は削平により失われた中世段階の地形が北西方向に緩やかに下るものであった」［荒谷ほか 2010］とある。

記述は、特徴的なものに絞る。図版の並びと同様に、北 2 区→北 3 区→北 4 区→南 1 区→南 2 区の順で行い、同調査区内での順序は西→東へ向かって進めていく。なお、過年度調査のものとつながることが明らかな溝は、その遺構番号を踏襲して使用している。以下、特徴的なものについて記述する。

SD520（図版 3・12・81）

北 2 区 9B に位置する。過年度調査において検出されていないが、南西－北東方向に直線的に延び、SD800・801 と同方向を示す。

SD800・801（図版 3・12・81）

北 2 区 11B に位置する。2008 年度調査区から続く溝で、平面規模が近しい溝が 2 条並行する。11B18 付近で合流し、その部分は土坑状に落ち込む。両溝は、9・10C において屈曲し SK960 に連結する。屈曲部からは、SK960 に向かって緩やかに傾斜するとあるが、今調査では確認できなかった。導水施設の可能性がある。また、屈曲部の内側の 8A に SE519、10B に SE758 があり、区画溝の可能性も窺える。

SD562・SX613（図版 3・12・80）

北 2 区 15C・D に位置し、SX613 と重複する。SD562 は、埋土の特徴から 2008 年度調査区から続

く SD1042 と同一の溝と考える。南西－北東方向に直線的に延び、約 90m 走行する。SX613 は、平面形は不整形で底面の凹凸が顕著である。凹地遺構として報告［荒谷ほか 2010］されている遺構の一群に含まれるものである。これらの新旧関係は、SD562・SK561>SX613 となる。

SD566・SX569（図版 3・12・81）

北 2 区 16D に位置する。SD566 は南西－北東方向に直線的に延びる。幅は狭いものの、断面形は U 字状を呈し、深く掘り込まれる。SX569 は底面に凹凸がみられることから、凹地遺構と一連の遺構と考えられる。

SD576・580・581（図版 3・12・81）

北 2 区 18D・E に位置する。SD576 は、約 20m 西に位置する SD566 に規模・形状・軸ともに近いことから、同時に開口していた可能性がある。SD580 は SD576 と直角に分岐する。切り合い関係は、SD576>SD580 だが、両者とも規模・形状が近似していることから、同時に機能していたと推測される。SD581 は、埋土の特徴から 2010 年度調査の SD2210 と同一の溝と考える。南北方向を指向する。

SD2075・617 ～ 619・769（図版 4・13・82）

北 2 区 21 ～ 23F に位置する。SD2075 は、2010 年度調査区から続く規模が最も大きな溝で、屋敷地を区画した溝と推定されている。溝が屈曲すると推測される北東隅は、検出できなかったが、調査区北壁と東壁の断面観察から、調査区外で北西－南東方向へ鈍角に屈曲すると推測される。平面形態は、東辺が斜めとなる、いびつな長方形を呈する。SD617 は、SD2075 の東辺に平行する細い溝である。SD618 は、SD2075・617 に切られて平面形は明確でないものの、断面からこれらに直交すると推測される。SD619 は、調査区南壁で確認したものの、平面形や軸方向などは判然としない。SD2075 などの構築にあたって遺存しなかったと考えられる。SD769 は近世の溝である。新旧関係は、SD769>SD2075>SD617>SD618・619 である。

SD621（図版 4・13）

北 3 区 24 ～ 26G に位置する。2010 年度調査区から続く溝（SD2299）の延長にあたり、区画溝と推測される。南側に位置する溝群と平行する。遺物は須恵器（23 ～ 25）、土師器小片が出土した。古代に帰属する遺物のみが出土しているが、遺構の位置・方向・機能から中世の溝と判断した。

SD625・626・629（図版 4・13・82）

北 3 区 29H に位置する。SD625・626 は L 字の位置関係にあり、SD626 が屈曲部で立ち上がることから、別の遺構として捉えた。しかし、堆積状況、堆積土ともに近似することから、一連の遺構として、同時に機能していた可能性がある。SD629 は、南北軸の溝で 2013 年度調査における SD4269 と 24 確認 _G トレンチの 24SD5 と同一の溝のものである。3 条の細い溝が 2.5 ～ 2.7m 間隔で並行する溝のひとつで、道の機能が想定できる。重複する SD625 より古い。

SD627・628（図版 4・13・82）

北 4 区 37K に位置する。両遺構は、南北軸を指向し平行して調査区外へ伸びる。2013 年度調査の SD4785・4788 とほぼ直交の位置関係にある。また、深度があること、断面形は台形状・U 字状を呈し自然堆積していることなどが類似しており、これらとの関連が示唆される。今年度も路面に相当する溝間の盛土や硬化面は確認できなかったが、道の側溝としての機能が考えられる。遺物は SD627 から瓦器（26）が出土した。

SD23（図版 5・14・83）

南 1 区 15・16I に位置する。16I6 から深度は浅くなり、南方向へ屈曲する。断面形は台形状を呈し、

自然堆積をなしており、中位に黒褐色土が堆積する。これらの状況は、2008 年度調査の 12 ～ 14GH で検出された、二重に巡る「長方形に巡る溝（SD1201）」に近似する［吉田 2010］。本遺構は、外周の溝にあたる可能性がある。重複する SE27 より古い。遺物は青磁椀（27）が出土した。

SD1031・1763・2075・2209（図版 5・13・14・83）

南 1 区 17I、18・19J に位置する。2010 年度調査区から続く溝である。区画溝と推定される。遺物は SD1031 から須恵器無台杯（28）、SD2209 から土師器の小片が出土した。

SD166（図版 6・14・75・83）

南 2 区 27M に位置する。ほぼ直角に屈曲する。断面形、埋土と堆積の状況などが SD23 に近似する。遺構密度の希薄な地点に位置するが、「長方形に巡る溝」の可能性も考えられる。重複する SD55 より古い。遺物は小片ながら須恵器、土師器、黒色土器のほか、須恵器甕片を転用した砥石（32）が出土した。

SD55・174（図版 6・14・75・84）

南 2 区 27・28M に位置する。2013 年度調査の SD4785・4788 と同一の溝で、道の側溝としての機能が想定されている。両溝間の盛土や硬化面は確認できなかった。遺物は SD55 から須恵器甕（29）、SD174 から土師器小甕の底部（30）が出土した。

SD164（図版 6・14・84）

南 2 区 30・31N に位置する。深度があり断面形は台形状を呈すること、埋土が SD55・174 に近似する。対になる溝は確認できないが、道の側溝の可能性がある。遺物は土師器の小片が出土した。

B　古 代 の 遺 構

1）概　　要

古代に属する遺構は、竪穴建物 2 棟、土坑 25 基、溝 11 条、ピット 172 基、畦畔 7 条、性格不明遺構 5 基を検出した。前述のように、中世の遺構と同一層（Ⅴ層）で確認したものが多い。古代の遺構埋土は、概してⅤ層に近似しており、検出作業は簡単でなかったことから、中世の遺構検出面を重機または人力で約 10cm 段下げし、新鮮な状態の遺構検出面を保持しながら遺構確認作業を行った。遺構の認定については、炭化物の有無、Ⅳb 層由来の黒褐色土がわずかに混入するものや、粘性がわずかに強いプラン（Ⅳc 層由来の埋土）に対して、サブトレンチを設定し、平面･断面の観察から判断するという方法をとった。

遺構は、北 2 区の 8 ～ 12 ラインと南 2 区の 26 ～ 36 ラインにおいて、上層･下層の 2 面で確認した。この範囲は、古代の遺物包含層（Ⅳ層）の標高が下がっており、耕地整理の影響が古代面まで及ばなかったことに起因する。前者は、東から西に傾斜する地形となる。河川堆積によると推測されるシルト（Ⅴ層相当）が 10 ～ 20cm 堆積しており、この層の上面と中位で遺構を検出した。後者においては、Ⅳc 層を目安にその上面と下面（Ⅳc 層掘削後のⅤ層上面）で遺構を検出している。遺構は、上層 = 埋土にⅣb 層由来の土が混入し、Ⅳc 層を掘り込むもの。下層 = 埋土はⅣc 層に近似し、Ⅳc 層の下で検出したもの。という認識のもと所属層位を類別した。

遺構分布は、過年度調査においては 20 ～ 28 ラインに掘立柱建物群が検出されているものの、今年度調査では規模の大きい柱穴などは検出されていない。検出した竪穴建物は 2 棟とも、掘立柱建物群からやや離れた西側に位置する。標高を下げる調査区東側においては、水田が検出され、地業を伴った畦畔が確認されている。

本項では、古代上層→古代下層の順に記述する。水田については、それぞれの畦畔を上層と下層に分け

たが、煩雑になるため、以下にまとめて記述する。

2）古代上層の遺構

a 竪 穴 建 物

地面を掘り込んだ床面をもつ建物であり、2 棟を検出した。

SI324（図版 19・21・85・86）

南 1 区 21K に位置する。平面形は隅丸長方形を呈すると推測される。柱穴、貼り床は確認されていない。埋土は地山（V層）に近似しており、遺構検出時の平面プランは判然としなかった。炭化物の広がりと、地山に比してやや粘性の強い粘土の範囲に、サブトレンチを設定し、断面の観察によって遺構認定した。埋土は 4 層に識別した。Ⅳc 層に近しい色調・土質である。1 層から、イネの植物珪酸体が比較的高い密度で検出された。遺物は 1 ～ 3 層で出土し、須恵器有台杯（41）･無台杯（42 ～ 44）、土師器小甕（45･46）がある。

SI764（図版 17・18・21・86・87）

北 2 区 19・20E に位置し、重複する SD718 より古い。平面形は隅丸方形または隅丸長方形を呈すると推測される。貼り床は確認されていない。埋土は地山（V層）に近似しており、遺構検出時の平面プランは判然としなかったが、調査区壁断面の観察において、やや粘性の強い粘土がⅥ層を掘り込むことと、サブトレンチによる立ち上がりの確認などから遺構認定した。埋土は 1 層が厚く堆積する。V層に近しい色調・土質である。1 層からは羽口（144）が出土しているが、鍛冶を示唆するような痕跡はほかに看取できない。柱穴は南西隅に P772 を確認した。深さは建物床面から 32cm を測る。埋土 4 層は非常に固くしまっており、柱のあたりと考えられる。遺物はほかに土師器小片が出土した。また、イネの植物珪酸体が比較的高い密度で検出された（1 層）。

b 土　　坑

古代上層の土坑は 18 基検出した。分布に偏りはみられない。埋土は大きく二分でき、黒褐色系とにぶい黄褐色系が堆積するものがある。黄褐色系土の土坑は、主に炭化物の広がりに対してサブトレンチを設定して、認定したものである。以下、特徴的なものについて記述する。

SK167（図版 20・22・87）

南 2 区 27M1・2 に位置する。埋土は 11 層に識別できる。上位はⅣb 層起源とみられる黒色を帯びたシルト、中位はにぶい黄褐色・褐灰色シルト、下位は炭化物を多く含み砂質の強いにぶい黄褐色土がレンズ状に堆積する。断面形、埋土と堆積の状況、遺物が多く出土することなど、2013 年度調査の SK4267 と共通する。遺物は 2 層からの出土が多い。須恵器無台杯（47 ～ 49）・甕（50）、土師器無台椀（51）・長甕（52・53）がある。

SK316（図版 20・26・94）

南 2 区 28M23 に位置する。平面形は楕円形を呈すると推測される。埋土は 3 層に識別できる。3 層は焼土ブロックを少量含む。遺物は須恵器無台杯（55・56）が出土した。重複する SK317 より新しい。

SK328（図版 19・22・88）

南 1 区 17I19・20 に位置する。平面形は長方形を呈すると推測される。埋土は 2 層に識別でき、2 層は焼土ブロックを含む。出土遺物はない。

SK288（図版 19・22・88）

南 1 区 18J5・19J1 に位置する。埋土は 3 層に識別できる。Ⅴ層に近似したにぶい黄褐色粘土が水平に堆積する。2010 年度調査において本遺構周辺で土坑が散在することから、これらと一連のものの可能性がある。遺物は 2 層から須恵器くびれ鉢（54）が出土した。

SK375（図版 20・22・24・25・88）

南 2 区 34P2・7、SD368 内の緩やかな斜面に位置する。埋土は 3 層に識別でき、1・2 層は黒褐色粘土が堆積する。2 層は炭化物を多量に含む。立ち上がり部分にテラス状の段をもつ。出土遺物はない。

SK646（図版 17・22・89）

北 2 区 13C8・9 ほかに位置する。平面形は楕円形を呈すると推測される。埋土はにぶい黄褐色シルトが単層堆積する。底面が平坦なことから、竪穴建物の可能性も考えられる。出土遺物はない。

SK649（図版 17・22・90）

北 2 区 13C15・20 に位置する。方形を呈する堀方の中央部に、一段下がる方形の堀方が付く、二段掘り込みの土坑である。よって断面形は、階段状となる。当初は井戸を想定していたものの、深さ約 80cm で完掘した。埋土は黄褐色系シルトが水平に堆積する。遺物は 1 層から土師器片が出土した。周辺には多数のピットが検出されており、P657・647・648・650・660・653 が本遺構の軸に沿った L 字状の並びとなり、上屋があった可能性が窺える。

SK689（図版 18・23・90）

北 3 区 29H19・24・25 に位置する。平面形は方形を呈すると推測される。遺構中央部分はやや窪み、黒味を帯びることから、柱痕の可能性がある。掘立柱建物の柱穴の底面のみが遺存したものと考えられる。出土遺物はない。

SK770（図版 18・23・91）

北 2 区 20E13･14 に位置する。平面形は長方形を呈すると推測される。断面形は台形状で、埋土は地山（Ⅴ層）に近似する。出土遺物はない。

c　溝

7 条検出した。東西方向を示すものがある。以下、北区→南区の順で特徴的なものについて記述する。

SD718（図版 17・18・23・87・92）

北 2 区 20E に位置する。東西方向の直線的な溝である。重複する SI764 より新しい。埋土は 3 層に識別でき、水平に堆積する。3 層は炭化物を多量に含む黄灰色粘土である。遺物は底面からの出土が多く、須恵器有台杯（58）、土師器小甕（59・60）がある。

SD631（図版 18・23・92）

北 3 区 29H に位置する。東西方向の溝で深い堀方を有する。埋土は 8 層に識別でき、ブロック状に堆積する。概して炭化物が混入した層が多く、2 層は焼土、7 層は被熱した粘土を含む。重複する P685 より新しい。

SD77（図版 19・23・92）

南 1 区 16I に位置する。東西に近い方向の短い溝で、平面が長楕円形を呈する土坑ともいえる。2010 年度調査において本遺構周辺で土坑が散在することから、これらと一連のものの可能性がある。遺物は土師器無台椀（57）が出土した。

3）古代下層の遺構

a 土　　坑

7 基検出した。すべて南 2 区での確認で、比較的密度は高い。水田耕作土として利用されていたⅣc 層の掘削後のⅤ層上面で検出した。以下、特徴的なものについて記述する。

SK307（図版 24・26・94）

南 2 区 28M16・17 に位置する。西寄りにテラス状の段をもつ。埋土は 8 層に識別できる。1 層は炭化物を多量に含む黒色砂質シルトである。またその下位の層も炭化物が混入する。被熱痕や焼土ブロックは見受けられなかったことから、焚き火等の排土を廃棄した土坑と考える。遺物は須恵器有台杯（63）・無台杯（64）のほか土師器小片が出土した。

SK317（図版 24・26・94）

南 2 区 28M18･22･23 に位置する。長軸が 200cm 以上の大型の土坑である。埋土は 3 層に識別でき、下位ほど砂質が強まる。遺物は須恵器杯蓋（65）・有台杯（66・67）・無台杯（68・69）・甕（70）が出土した。重複する SK316 より古い。

SK319（図版 24・26・94・95）

南 2 区 27M2 に位置する。平面形は円形を呈すると推測される。重複する SK167 より古く、SX320 より新しい。遺物は出土していない。

SK342・344（図版 24・26・95・97）

南 2 区 31N16・17・21 ～ 23 に位置する。SK342 の平面形は円形を呈すると推測される。南寄りに緩いテラス状の段をもつ。SK344 は長軸が 520cm を測る大型の土坑である。埋土は 2 層に識別でき、1 層は径の大きい炭化物が混入する。深度は 34cm を測り、底面は比較的平坦なことから竪穴建物も想定したが、調査範囲内において柱穴などは検出されなかった。両遺構とも土師器小片が出土した。重複関係にあり、SK342 が新しい。

SK343（図版 24・26・95・96）

南 2 区 30N6・7 ほかに位置する。平面形は円形または楕円形を呈すると推測される。埋土は 3 層に識別でき、地山（Ⅴ層）に近似する。遺物は須恵器有台杯（72）、土師器長甕（73）が出土した。

SK345（図版 24・27・96）

南 2 区 28M16 に位置する。平面形は楕円形を呈すると推測される。埋土は 2 層に識別できる。Ⅳc 層に近似し、炭化物を少量含む。出土遺物はない。

b 性格不明遺構

SX320（図版 24・27・96）

南 2 区 27M2・7・8・12・13 に位置する。平面形は円形または楕円形を呈すると推測される。計測可能な数値で、長軸は 239cm 以上、深度 54cm である。底面に径約 160cm を測る円形の緩い落ち込みがあり、その中央付近はさらに約 10cm 窪む。埋土は 6 層に識別でき、地山（Ⅴ層）に近似するも色調はやや黒味を帯びる。埋土中位には、径 10cm ほどの焼土ブロックが数か所点在する（焼土の範囲は図版 27 に示したが、この範囲自体が被熱しているわけではない）。2013 年度調査におけるカマド状遺構（SX4999）を想起したが、底面の被熱や貼り床、硬化面などといった共通点は見いだせなかったことから、廃棄された

ものと推定される。遺物は須恵器無台杯（74・75）、土師器小片が出土した。

c　溝

4 条検出した（SD368 は水田の項で記述する）。

SD346（図版 24・27・96）

南 2 区 27M に位置する。埋土は単層で、焼土ブロックを少量含む。遺物は須恵器小片が出土した。

SD315（図版 24・27・97）

南 2 区 28・29M・N に位置する。調査区が狭いため判然としないが、北東－南西方向に直線的に伸びる。埋土は 6 層に識別でき、地山（Ⅴ層）に近似する。下位ほど砂質が強くなる傾向がみられる。本遺構を境に東は標高が下がり、水田跡と思しき踏み抜き痕や耕作痕が顕著になる。後述の畦畔と方向軸が近似することから、水田を構成する一連の遺構の可能性がある。遺物は 1 層から多く出土し、ほぼ水平な状況をなす須恵器杯蓋（76）・有台杯（77 ～ 79）・折縁杯（80）・無台杯（81 ～ 93）、土師器小片が出土した。

SD398、P399（図版 24・27・28・97）

南 2 区 31N・O に位置する。SD398 は畦畔 361 の改良土を掘削した後に検出した。よって水田よりも古い。北東－南西方向に直線的に伸びる。立ち上がりは急斜し、深度は 52cm を測る。埋土は単層で、地山（Ⅴ層）に近似するも、やや粘性が強い。遺物は土師器片が出土した。P399 は SD398 掘削後の底面で検出した。埋土は炭化物を多く含んだ灰色粘土である。出土遺物はない。両者とも、水田経営以前に構築された遺構であるが、機能は不明である。

d　水　　田

水田に関わる遺構は南 2 区で検出した。畦畔 7 条、用排水路とみられる大溝 1 条である。水田の可能性がある遺構（SX688）は北 4 区で検出した。水田は過年度調査において検出されていなかったものの、掘立柱建物群を倉庫と捉える見解や、指導委員会による指導、植物珪酸体の分析の結果（竪穴建物床面直上の土層から多量のイネ科を検出）などから、「集落に近接した水田」が示唆されていた。今調査において、SD315 以東における踏み抜き痕、耕作痕の検出により、水田の存在が高まったことから、南 2 区を東に約 60m 延長し調査した。

水田はⅣb 層（上層）とⅣc 層（下層）を水田耕作土とする二時期に分けられる。畦畔もほぼ同じ位置と方向で作り変えられている。畦畔の断面観察においても、Ⅳb 層を中心とした盛土、Ⅳc 層を中心とした盛土の時期があることが看取できる。このあり方は、他遺構がⅣc 層を境に新旧あることと一致する。また、植物珪酸体の分析でもこの両層からイネ科のプラントオパールが検出されており、調査所見を裏付ける結果を得ている。

北西約 50m に位置する掘立柱建物群の標高は約 6.7m を測る（柱状図のⅤ層上面の数値）。一方、水田域の標高は、上層で約 5.65 ～ 5.75m、下層で約 5.6 ～ 5.65m を測り、およそ 1m の比高差があったと考えられる。水田域内の標高は、概ね水平である。

畦畔は、用排水路とみられる大溝（SD368）を境に東西で指向する方向は異なるが、概ね平行・直交の関係にあり、ほぼ真北を指すものもある。また、下層の畦畔の構築に改良土を用い、いわゆる「地業」を行ったと推測されるものもある。下層の畦畔盛土は、Ⅳc 層とⅤ層の混合土が基盤となっており、改良土以外はⅤ層に極めて近似している。このことから、明確な分層はなしえなかった。

南 2 区調査結果から、水田の範囲を確認する必要があるとの指摘を受け、さらに東へ 60m 延長した（南 3 区）。南 3 区は標高約 4.8 ～ 4.9m を測り、水田域よりもさらに標高を下げる。先述のように（第 1 節）、グライ化した水成層が堆積しており、湿地状の低地だったと考えられる。ここでは、畦畔などの遺構は検出できなかったものの、Ⅳb 層と①層（Ⅳc 層相当）の植物珪酸体・花粉分析結果から、稲作の可能性が指摘されている。

畦畔 361（図版 20・24・28・99・100）

南 2 区 31N・O に位置する。幅約 180cm の幅広の畦畔である。N-70°-E を指し、畦畔 362 と直交関係にある。畦畔盛土の 1 ～ 5 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。Ⅳc 層などをブロック状に含む。6 層はⅣc 層 + Ⅴ層を基盤としたものであり、非常によく締まる。小砂利や砂を混入させた改良土と考えられる。地山であるⅤ層の上面は若干窪んでいることから、これを掘り込んだうえ改良土を充填し、叩き締める地業を行ったと推測される。これに似たものが、本遺跡より時代が下り 9 世紀後半に位置付けられている阿賀野市蕪木遺跡［鈴木ほか 2018］の道路状遺構にある。遺物は 2 層から土師器片、4 層から須恵器無台杯（94）が出土した。

畦畔 362（図版 20・24・28・29・99・100）

南 2 区 31・32O に位置する。幅約 160cm の幅広の畦畔である。N-32°-W を指し、畦畔 361 と直交関係にある。畦畔盛土の 1・2 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。3 層はⅣc 層 + Ⅴ層を基盤としたものであり、上記の改良土が用いられ非常によく締まる。地業も上記同様であるが、改良土は厚みが増し、さらに硬い。本遺構は直線的に北東へ延伸させると、掘立柱建物群に至る。遺物は 2 層から土師器片が出土した。

畦畔 363（図版 20・24・28・29・100）

南 2 区 32・33O に位置する。幅約 90cm を測る。N-59°-E を指し、畦畔 362 と直交関係にある。畦畔盛土の 1 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。2 層はⅣc 層 + Ⅴ層を基盤としたものであり、上記の改良土が用いられ非常によく締まる。地業も上記同様であるが、改良土は薄い。出土遺物はない。

畦畔 364（図版 20・24・25・28・29）

南 2 区 33O・P に位置する。幅約 75cm を測る。N-65°-E を指し、畦畔 363 に近しい。畦畔盛土の 1 ～ 6 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。下層の畦畔盛土及び改良土は看取されなかったが、わずかな色調の違いを、下層畦畔の痕跡と捉えた。本遺構の東から緩やかに傾斜し、SD368 に至る。SD368 の土手道としても機能していたであろう。遺物は 3 層から土師器片が出土した。

畦畔 365（図版 20・24・25・28・29・100）

南 2 区 34・35P に位置する。幅約 95cm を測る。N-62°-E を指し、畦畔 364 とほぼ平行する。畦畔盛土の 1 ～ 7 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層、SD368 の 3・4 層の上に構築される。8 層はⅣc 層 + Ⅴ層を基盤としたものであり、上記の改良土である。地業も上記同様であり、改良土は厚い。畦畔 364 と同じく、SD368 の土手道としても機能していたであろう。出土遺物はない。

畦畔 366（図版 20・25・28・30・101）

南 2 区 35P、35・36Q に位置する。幅約 125cm を測る。真北に近い N-1°-E を指し、畦畔 367 とほぼ平行する。畦畔盛土の 1 ～ 4 層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。下層の畦畔盛土及び改良土は看取されなかった。

畦畔 367（図版 25・28・30・101）

南２区 36Q に位置する。幅約 100cm を測る。N-11°-E を指し、畦畔 366 とほぼ平行する。畦畔盛土の１～４層はⅣb 層を基盤としたもので、Ⅳc 層の上に構築される。下層の畦畔盛土及び改良土は看取されなかった。上層の畦畔は下層に比してやや西に振れて構築される。遺物は１層から土師器鍋（95）が出土した。

SX688（図版 18・30・101）

南４区 39K・L に位置する。埋土は２層に識別でき、Ⅳc 層に近似する。埋土内のイネの植物珪酸体密度は低調であるが、底面が平坦なことや遺構の位置関係から、掘り込み田の可能性を指摘したい。遺物は須恵器無台杯（103 ～ 105）が出土した。

SD368（図版 20・24・25・28・29・101・102）

南２区 34P に位置する。幅約 5m を測る。畦畔 364・365 間も溝に含めるならば約 9m の幅を持つ。断面形は弧状を呈し、緩やかである。傾斜は東岸がわずかに急である。埋土は４層に識別でき、レンズ状に堆積する。１層はⅢ層起源の黄灰色シルト、２層はⅣb 層に近似する黒褐色粘土、３・４層はⅣc 層起源の褐灰色粘土である。堆積土には腐植物が混入しており、湛水していたことが窺える。わずかではあるが、３層の上に畦畔 365 の上層盛土が乗っていることが確認できたことから、上層の畦畔構築時は３層堆積後となる。これを鑑み畦畔上部からの深さを計測すると、上層・下層ともに約 70cm を保っていたと推測される。水田の用排水路の機能が想定される。遺物は須恵器無台杯（96 ～ 99）、土師器鍋（100）が出土した。

P374（図版 20・24・25・28・30）

南２区 34P8 に位置する。SD368 内で検出した。長軸 75cm、深さ 48cm を測る。埋土は２層に識別でき、SD368 の４層に近似するが、１層は粘性が強く、２層は小砂利を少量含む。周囲は約 2m の範囲で、３・４層が厚く堆積し、マウンド状の高まりとなっており、本遺構はそこから掘り込まれる。橋脚などの施設を想定したが、対になる遺構は検出されていない。遺物は須恵器無台杯（101）、土師器長甕（102）が出土した。

C　弥生時代の遺構

1）概　　要

弥生時代の遺構は、土坑１基、ピット 11 基、性格不明遺構１基、自然流路１条を検出した。調査区北西隅の一部（北２区、11 ～ 14C）でのみ確認される。遺構は旧小里川の自然堤防上の微高地と後背地に立地し、河川に隣接する。その斜面部は小規模な捨場として利用されていたと想定され、等高線に平行して帯状に遺物が出土する。この傾向は 2008 年度調査と同様である。Ⅴ層から遺物が確認され、遺構の検出層位はⅥ層となる。遺構埋土やⅣb 層以下の土層は、黄褐色シルトを主体となる。識別が非常に難しいことから、ほぼ均一な土層内に包含される炭化物やブロック状混入物の多寡によって区別、または遺物の出土によって判断した。遺構の時期は、出土遺物から弥生時代前期～中期前半に位置付けられる。

2）土　　坑

SK755・757 は現地調査時、土坑との認識のもとに調査した。報告において土坑の記号は付しているが、後述の理由から、自然流路（SR784）の一部と推測される。

SK532（図版 32・103）

北 2 区 13C6 に位置する。平面形は楕円形を呈すると推測される。断面形は弧状を呈し、鉄分を部分的に含む褐色シルトが堆積する。遺存状態の良好な深鉢が横倒しで出土した（174）。また、甕（173）がある。

SK755（図版 32・104）

北 2 区 11B25、11C5、12B21、12C1、旧小里川の斜面部に位置する。今調査では弥生時代の遺物が最も多く出土した。埋土は 2 層に識別でき、1 層は長軸約 300cm、短軸 140cm の範囲で楕円形を呈する。また、角ばった炭化物（包含層中に混入するものとは形状が異なる）を含む。断面形は弧状を呈する。深さは 16cm を測り、底面は平坦である。遺物は 1 層の上位から平面的に出土する。このことから、土壙墓の可能性を視野に入れて調査し、土坑として扱った。しかし、出土遺物は並列する SK757 や下位の SR784 と接合するものが散見されることから、本遺構は SK757 も含め、斜面への遺物廃棄の結果形成された一連の土層と捉えることが妥当であると考える。遺物は土器（147 ～ 165）、石器（185・190・192）が出土した。

SK757（図版 32・105）

北 2 区 12B21・22、旧小里川の斜面部に位置し、長軸は等高線と平行する。平面形は長方形を呈すると推測される。前述のように斜面への遺物廃棄の結果形成されたものと考える。遺物は土器の小片と石鏃（187）が出土した。

3）自　然　流　路

SR784（図版 32・105）

北 2 区 12B・C より西に位置する自然流路で、旧小里川と推測される。埋土は 9 層に識別でき、いずれの土層も黄褐色系のシルトであり、下位の土層は砂を含む。遺物は 1・2 層からの出土が多く、以下は各層とも散発的にみられる程度である。検出面から約 125cm の深さまで掘削し（標高約 4.4m）、そこから下は湧水が著しいことと、安全面への留意から掘削を中止した。なお最終確認として、11B23・24 において、標高約 3.4m まで重機による深掘りを行ったが、遺物および流路の底面は確認できなかった。遺物は土器（166 ～ 172）、石器（186・188・189・191 ～ 194）が出土した。

D　縄文時代の遺構

SK400（図版 30・105）

南 2 区 35P25・36Q1 に位置する。調査区北壁内にあり調査区外に延びると思われる。平面形は不明であるが、断面形は弧状を呈する。埋土は灰褐色粘土の単層堆積で、地山（Ⅵ層）に近似する。なお、縄文時代の遺構・遺物の有無を確認するために、本遺構を中心として、約 10m の範囲のⅤ・Ⅵ層を掘削したが、検出されなかった。遺物は晩期の深鉢（195）で、1 個体がつぶれた状態の出土状況を呈するも、非常にもろい。

3　遺　　物

A　土 器 の 分 類

中世の遺構には、中世と古代の遺物が混在している場合、または古代の遺物のみが出土している場合が

ある。それらは、過年度調査の報告（過年度調査区から延びる遺構が多い）や、前述の遺構埋土からの認定などから鑑みて、後世に紛れ込んだものと推測する。古代の遺物は分類が可能であることから、中世遺構の出土の場合であっても、分類記号を記した。土器の分類は、出土量の多い須恵器・土師器に対して行った（第 13 図）。

須恵器　器種は、杯蓋・有台杯・折縁杯・無台杯・くびれ鉢・長頸瓶・瓶類・甕がある。食膳具である杯類が大半を占め、壺・甕などの貯蔵具が少ない傾向は、過年度調査と同様である。報告では、出土量の多い無台杯のみを細分類して第 14 図に掲載した。出土量が少ない器種については、分類記号を記す場合もある。これらは『山口遺跡Ⅱ』［石川ほか 2020］に準じたものである。

無台杯は、底径指数（Ⅰ～Ⅳ類）と口径（1 ～ 3 類）の組み合わせで分類した（第 14 図）。底径指数はⅠ類（75 以上）、Ⅱ類（74 ～ 65）、Ⅲ類（64 ～ 55）、Ⅳ類（54 以下）とした。

須恵器の胎土は、これまでの研究成果［坂井ほか 1989、春日 2004d など］を参考に、A ～ C の 3 群に分類した。A 群の特徴は、「胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、含まれる鉱物の粒子は金雲母を除くと比較的大きい。豊浦町・笹神村五頭山麓窯跡群のほか、荒川町元山窯跡群・黒川村松山窯跡群・加治川村下小中山・貝屋窯跡群・新発田市ホーロク沢窯跡群で生産された須恵器に一般的に見られる［春日 2004d］とある。すべて含めて「阿賀北産」と呼ぶものである。B 群の特徴は、「胎土そのものが精良で、白色粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しがみられるものが多い。器種によって胎土が異なり、無台杯と小型の有台杯は胎土がとくに精良で器面は滑らかであるが、その他の器種は砂っぽいややざらついた胎土である。佐渡小泊窯跡群（やや離れた大木戸窯跡も含む）で生産された須恵器と考えられる［春日 2004d］とある。A・B 群以外は C 群とし、可能な限り産地を推定した。

底部の切り離し技法には、ロクロ回転によるヘラ切りと糸切りが確認できる。回転方向が判別できる個体は、観察表に記した。また、無台杯には重ね焼き時の焼成痕跡をもつものがあり、「ヒダスキ痕」とした。ヒダスキ痕は位置（外面･内面）、形状（直線･曲線）も併記した。胎土 A 群に確認でき、堅緻に焼成される。

土師器　器種は、無台椀・小甕・長甕・鍋がある（第 13 図）。土師器は細片が多く、器形全体を復元できる個体はないため、相対的に図化が少ない。報告では長甕を細分類した（第 13 図、阿賀野市蕪木遺跡［石橋 2018b］の分類に準ずる）。A 類「端部を上方につまみ上げるもの」、B 類「端部を内側へ折り返すもの」、C 類「端部の外側に面を作りだすもの」として、口縁部の形状を観察した。鍋も個体数が少ないものの、同様の分類をした。小甕と長甕は口径 16cm を境に区別している。

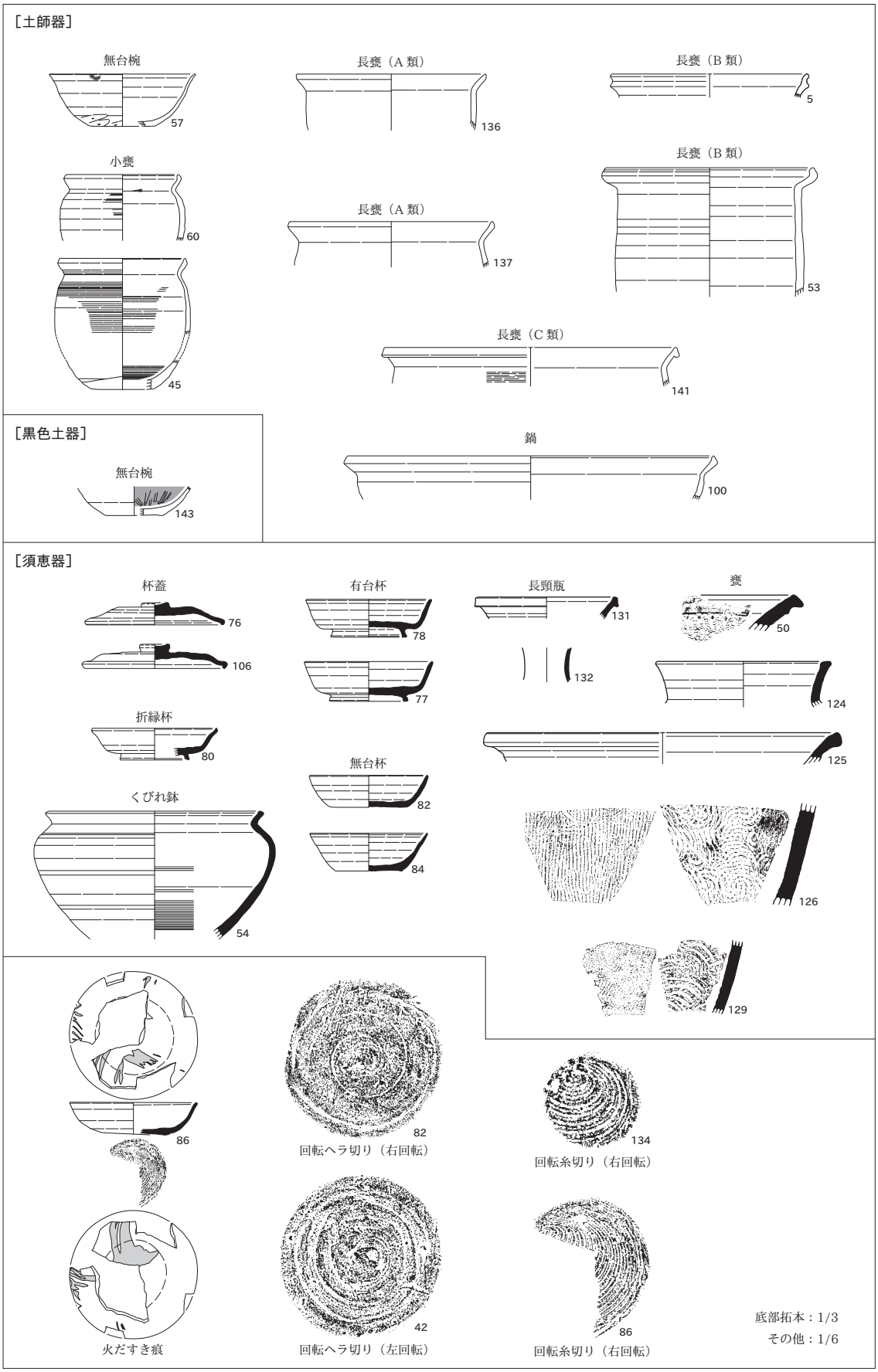
黒色土器　出土量はごく少量である。無台椀（143）を 1 点図示した。

B　中 世 の 遺 物

1）概　　要

中世の遺物は、土師質土器、瀬戸焼・美濃焼（以下、「瀬戸美濃焼」とする）、珠洲焼、青磁、瓦器、瓷器系陶器、石製品、金属製品などがある。遺物点数は少なく、ほとんどが井戸・溝からの出土である。年代は 13 世紀後半～ 15 世紀である。陶磁器の器種分類や年代観については、貿易陶磁器は［森田 1982］、珠洲焼は［吉岡 1994］、瀬戸美濃焼は［藤沢 2008］を参考にした。

記述は、土器・陶磁器類、石製品、鍛冶滓・鉄製品に分けて行う。遺構種別順とし、遺構外からの出土



第 13 図　古代の土器分類と調整痕跡など

はその後に記述した。

2）土器・陶磁器

SE1（1・2）・**SK2**（3）

1・2 はSE1 出土の珠洲焼である。1 は甕の体部片でⅣ期に比定できる。2 は片口鉢の口縁部でⅡ～Ⅲ期に比定できようか。3 はSK2 から出土した須恵器杯蓋のつまみ部分である。円形となるように周縁を打ち欠いたものと推測される。新津丘陵産と推測される。

SE7（4）

4 は土師質土器皿で、内面にタール状の付着物が認められる。13 世紀後半に比定できる。

SE10（5・6）

5・6 は土師器長甕で、B 類に分類した。口縁部外面は強く屈曲する。6 はより顕著である。

SE11（7）

7 は珠洲焼甕の体部片で、Ⅳ期に比定できる。

SE21（8 ～ 10）

8・9 は珠洲焼片口鉢で、Ⅵ期に比定できる。8 の内面は滑らかで使用痕が顕著である。9 は内面が被熱する。10 は瓷器系陶器の甕で、外面に沈線が一条巡る。

SE24（11 ～ 14）

11 は珠洲焼片口鉢で、Ⅵ期に比定できる。12・13 は須恵器でともに胎土はＡ群である。12 は無台杯で､白色を呈し軟質である。13 は短頸壺と考えられる。外面に自然釉が付着する。14 は土師器無台椀で、底部は回転糸切りの痕跡がわずかに残るが、明瞭でない。

SE27（15・16）

15・16 は珠洲焼甕の体部片である。15 はⅣ期に比定できる。

SE81（17・18）

17 は瀬戸美濃焼の天目茶椀で、古瀬戸後 3 期頃に比定できる。18 は須恵器瓶類の底部で、胎土は赤味を帯びる。新津丘陵産と推測される。

SE519（19・20）

19・20 は珠洲焼である。19 は甕でⅢ期、20 は片口鉢でⅤ期に比定できる .

SE771（21・22）

21 は珠洲焼甕で､肩部に降灰がみられる。Ⅱ期に比定できる。22 は龍泉窯系青磁椀 D1 類に比定でき、内面に沈線が巡る。14 世紀前半の所産と考えられる。

SD621（23 ～ 25）

23 ～ 25 は須恵器である。23 は有台杯で薄手の作りである。新津丘陵産と推測される。24・25 は須恵器無台杯で、24 はⅡ 2 類で胎土はＡ群。25 は胎土Ｂ群である。

SD627（26）

26 は瓦器である。盤および鉢の可能性がある。

SD23（27）

27 は鎬連弁文を体部にもつ椀で、龍泉窯系青磁椀 B1 類に比定でき、13 世紀後半～ 14 世紀初頭の所産と考える。

SD1031（28）

28 は胎土 A 群の須恵器無台杯で、口縁端部は上につままれる。

SD55（29）

29 は胎土 A 群の須恵器甕で、頸部に波状文が巡る。新津丘陵産と推測される。

SD174（30）

30 は土師器小甕の底部で、胎土は粗い。

SD166（31・32）

31 は土師器長甕の体部片で、外面に平行タタキ、内面に平行当て具痕がみられる。32 は須恵器甕の体部を転用した砥石で、断面は非常に滑らかである。新津丘陵の産と推測される。

遺構外出土（33 ～ 36）

33 ～ 36 は珠洲焼である。33 ～ 35 は壺、36 は片口鉢である。33 はⅡ期に比定でき、やや古相を呈する。34 はⅡ・Ⅲ期頃、35 はⅣ期に比定できる。36 は内面が帯状に被熱する。Ⅳ期に比定できる。

3）石　製　品

37 は砥石で、上端部を欠損する。全面が使用されており、下面は深い線条痕がみられる。天草の産と推測される。

4）金属製品・鍛冶滓

38 は釘で、断面は楕円形を呈する。39 はわずかに屈曲する。種別は不明である。40 は椀型滓で、断面は緩やかな弧状を呈する。

C 古 代 の 遺 物

1）概　　要

古代の遺物は、主に遺構と遺物包含層が残る南 2 区の 25 ライン以東から出土している。調査区が狭小であることや、上位を削平された遺構が多いことから、全体を完掘できたものは少ない。よって、遺物の接合率･残存率は低調な傾向にある。相対的に須恵器の出土量が多く、土師器は少ない。土器の年代観は、笹澤編年［笹澤 2019］Ⅵ 1・Ⅵ 2 期（春日編年［春日 1999］Ⅴ 1・Ⅴ 2 期並行）にあたり、9 世紀前半が中心である。遺構と遺物包含層は上下の 2 層に識別しているが、上層と下層の年代観に大きな時期差はみられない。

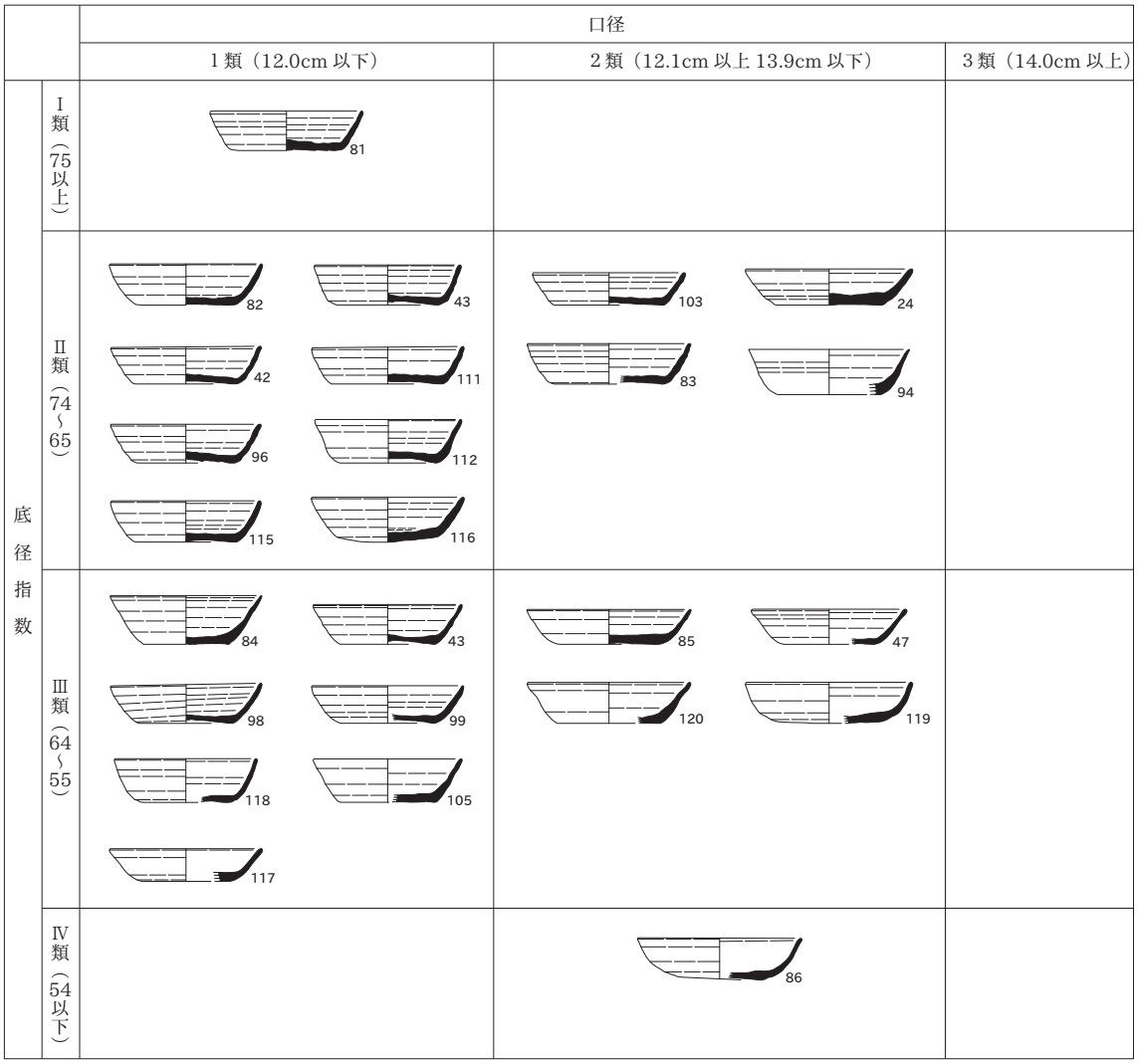
記述は、土器類（須恵器・土師器・黒色土器）、土製品、木製品に分けて行う。第 2 節の遺構種別順とし、遺構外からの出土はその後に記述した。

2）土　　器

a　古代上層の土器

SI324（41 ～ 46）

41 ～ 44 は須恵器である。41 は有台杯で、胎土 A 群。内面に降灰がみられ、器面は粗い。焼成時に一番上に置かれたものであろう。42 ～ 44 は胎土 B 群の無台杯で、42 はⅡ 1 類、43 はⅢ 1 類に分類できる。45・46 は土師器小甕である。45 の口縁端部は上方につままれる。内外面ともカキメが明瞭に残る。



第 14 図　須恵器無台杯の口径及び底径指数

46 は外面にケズリが施される。底部はやや丸みを帯び、内面は成形時の指おさえ痕が残る。

SK167（47 ～ 53）

47 ～ 50 は須恵器である。47 ～ 49 は無台杯で、胎土 B 群。47 はⅢ 2 類である。50 は甕で頸部に波状文が巡る。胎土はＣ群、新津丘陵産と推測される。51 ～ 53 は土師器である。51 は無台椀、52・53 は長甕である。52 は口縁端部が欠損しているがＡ類、53 の口縁端部は肥厚気味となる。Ｂ類に分類できる。

SK288（54）

54 は須恵器くびれ鉢である。胎土はＣ群で精良である。新津丘陵産と推測される。外面には 2 条 1 対の沈線が 3 か所に巡る。

SK316（55・56）

55・56 は須恵器無台杯である。55 は SK317 と接合した。胎土 B 群で、Ⅱ 1 類に分類できる。56 は胎土 A 群である。

SD77（57）

57 は土師器無台椀である。外面下半はケズリが施され、口縁部に墨書が認められる。内面はスス状の黒色付着物で黒味を帯びる。胎土は精良で、薄手のつくりである。

SD718（58 ～ 60）

58 は須恵器有台杯である。胎土はＡ群。口径 15cm を測り、深身を呈すると推測する。有台杯のⅢ 2 類に分類できようか。59・60 は土師器小甕で、口縁端部は内側に折り返される。口縁部内面はススが付着する。

P311（61）

61 は土師器鍋で、Ｂ類に分類できる。焼成は軟質である。

P681（62）

62 は須恵器杯蓋である。胎土はＢ群で、焼成は堅緻である。

b　古代下層の土器

SK307（63・64）

63･64 は須恵器で、胎土はともにＡ類である。63 は深身の有台杯で、SK317 出土の破片と接合した。64 は無台杯で、底面を円形に打ち欠いている可能性がある。底部外面は滑らかである。

SK317（65 ～ 70）

65 ～ 70 は須恵器で、胎土はともにＡ群である。65 は杯蓋で、器面は粗い。66・67 は有台杯である。66 は口径 9.9cm と小ぶり、67 は折縁杯の可能性もある。68 は無台杯で、非常に堅緻な焼成からヒダスキ痕をもつと推測される。70 は甕の体部片で薄手である。

SK341（71）

71 は土師器長甕の体部片で、外面に平行タタキ、内面に平行当て具痕が残る。

SK343（72・73）

72 は須恵器有台杯で、胎土はＡ群。73 は土師器長甕で、Ａ類に分類できる。

SX320（74・75）

74・75 は須恵器無台杯で、胎土はともにＡ群である。74 は底部外面に「×」の墨書がある。

SD315（76 ～ 93）

76 ～ 93 は須恵器である。76 は杯蓋、77 ～ 79 は有台杯で、胎土はともにＡ群。77・78 はⅠ 2 類に分類できる。77 は白色を呈し、軟質である。79 は薄手でヒダスキ痕が認められ、焼成は堅緻である。80 は折縁杯で、77 と同様、白色軟質である。81 ～ 93 は無台杯である。81 はⅠ 1 類、82 はⅡ 1 類、83 はⅡ 2 類、84 はⅢ 1 類、85・86 はⅢ 2 類に分類できる。87 は白色を呈し非常に軟質である。86・88 ～ 90 はヒダスキ痕が認められ、焼成は堅緻である。86 の底部切り離しには回転糸切りが用いられる。88 ～ 90 も同様と推測され、胎土、器形、焼成から同じ窯で生産されたものと考えられる。92 は底部外面に墨書がみられる。胎土Ａ群は 81・84 ～ 90・93、胎土Ｂ群は 82・83・91・92 である。

畦畔 361（94）

94 は須恵器無台杯で、重量感がある。胎土はＡ群、Ⅱ 2 類に分類できる。

畦畔 367（95）

95 は土師器鍋の体部片で、外面は平行タタキ、内面はハケメが施される。

SD368（96 ～ 100）

96 ～ 99 は須恵器無台杯で、胎土はともにＢ群である。96･97 はⅡ 1 類、98･99 はⅢ 1 類に分類できる。98 は底部外面に墨書が認められる。判別は難しい。100 は土師器鍋で、Ａ類に分類できる。器厚は薄い。

P374（101・102）

101 は須恵器無台杯で、胎土はＢ群。102 は土師器長甕で、Ｂ類に分類できる。

SX688（103 ～ 105）

103 ～ 105 は須恵器無台杯である。103・104 はⅡ 2 類に分類でき、回転ヘラ切りが用いられる。105 はⅢ 1 類に分類できる。ヒダスキ痕は看取できないものの、それをもつ杯類と同様に焼成は堅緻である。胎土は 105 がＡ群、103・104 がＢ群である。

c　遺構外出土の土器（古代上・下層 106 ～ 132）

106 ～ 132 は須恵器である。106 は杯蓋で、焼成は堅緻で赤味を帯びる。107 ～ 109 は有台杯である。107 は折縁杯の可能性もある。108 は底部から立ち上がる部分を円形に打ち欠く。110 ～ 123 は無台杯である。110 はⅠ 2 類、111 ～ 116 はⅡ 1 類、117･118 はⅢ 1 類、119･120 はⅢ 2 類に分類できる。111 は内面に黒色の付着物が薄くつく。116・119 は底部が丸みを帯びる。白色を呈しやや軟質である。118・121 ～ 123 はヒダスキ痕が認められ、焼成は堅緻である。124 ～ 130 は甕である。126 は内面に磨ったような平滑な範囲がある。また、暗赤褐色の付着物が看取でき、漆の可能性がある。127 は外面に自然釉が付着する。131・132 は長頸瓶である。131 は口縁部片で、頸部に沈線が巡る。132 は頸部片で、外面に薄く自然釉がつく。胎土は 108・110・111・113・117・120・126・128・131 がＢ群で、ほかはＡ群である。133 ～ 142 は土師器である。133・134 は無台椀である。133 は焼成が不良で、摩耗している。134 は回転糸切り痕が確認できる。135 ～ 141 は長甕である。135 ～ 138 はＡ類、139・140 はＢ類、141 はＣ類に分類できる。139 は破片のため径を復元できないが、他の長甕に比して厚みがある。外面頸部に沈線が看取できる。140 は頸部に 4 条の沈線が巡る。出土位置は離れているが 139 と同一個体の可能性がある。141 は口縁端部が下方につまみ出される。142 は鍋でＡ類、内面は剥離している。143 は黒色土器無台椀で、内面はミガキが施される、胎土は精良である。

3）土　製　品

144 は羽口である。SI764 の 1 層から出土した。推定外径は 7cm である。

4）木　製　品

145・146 はともに南 3 区から出土した。145 は杭で、棒状の先端を加工している。146 は用途不明の棒状木製品である。2 か所にわずかな抉りがみられる。樹種はスギである。

D　弥生時代の遺物

1）概　　要

弥生時代の遺物は、前期を主体とし、中期前半のものが少量ある。土器は緒立式を中心とし、中期に北陸系のものがわずかに確認できる。出土は、過年度調査の出土集中域から離れ、遺構・遺物量とも希薄になっていく地点にあたる、北 2 区 11 ～ 13 ラインの旧小里川への斜面部付近のみでみられる。SK532 のように同一個体の破片が多く出土した遺構もあるものの、概して細片が多く復元率は低調である。土器の接合･図化については、復元率の高い個体を優先した。また、細片であっても、当期の特徴を示すものや、文様が施されたものを中心に抽出した。土器の器種・器形・文様などは、本遺跡の過年度調査［荒谷ほか

2010］と、周辺に位置する猫山遺跡［古澤ほか2003］、西郷遺跡［土橋ほか2009］などを基に検討した。また、実測図の表現方法、報告における分類記号については『山口遺跡』［荒谷ほか2010］に準じた。石器は石鏃のほかに、石錐、敲石、台石、剥片などがある。剥片は接合したものが3点あり、図化した。

2）土　　器

a　遺構出土の土器

SK755（147 ～ 165）

現場では、土壙墓の可能性を視野に入れて調査し、土坑として扱ったが、整理作業において、自然流路SR784上位に堆積した土層と判断した(第Ⅲ章2C2参照)。147 ～ 149は甕である。147･148は肩が張り、口頸部が外反する。肩部に変形工字文が施文され、口縁部外面は無文であることから、甕A2類に相当する。147は細かな波状口縁を呈し、やや外反する。頸部は直立的である。接合率が低く、全体の文様は明確にしえないが、胴部上位に4条の平行沈線、肩部に変形工字文、3条の平行沈線という構成になると推測される。沈線幅は4mmである。SR784出土のものと接合した。148は波状口縁を呈し､頂部にスリットが入る。頸部はくびれ、口縁部は強く外反する。平行沈線の下位に変形工字文が描かれ、ミガキが施される。沈線は幅3mmでやや深めである。沈線内にはコゲが付着する。胎土は混入物が少なく、精良である。SK757と接合する。149の沈線は幅5mmと太い。変形工字文の交点は、拓本図の左右で上下にずれ、下端の2条の平行沈線文は反転部を有する。沈線間に縄文LRが施されるが、磨消縄文手法はみられない。甕B2類に相当する。150 ～ 152は頸部のくびれをもたない深鉢と推測される。150は外面に3条、内面に1条の沈線がみられる。胎土は混入物が少なく精良で、ミガキが施される。151は2条の平行沈線、152は2条の平行沈線と斜め方向の沈線が確認できる。変形工字文の可能性がある。153は反撚LLを施文後、2条の平行沈線とその下に等間隔の円形刺突が2列配される。最上位に位置する沈線は途切れて交点となり、変形工字文となる可能性がある。胎土は精良で薄手である。外面にコゲが付着する。直線的に立ち上がる甕の体部と考えたが、体部が膨らむ甕の頸部にあたる可能性もある。154 ～ 157は地文に条痕をもつ土器である。154は細密条痕が施される。縄文時代晩期に近いものと推測される。155は摩耗しているが、条痕の痕跡がうっすら残る。156･157は深鉢A類に相当する。156は口縁部に向かって直線的に立ち上がる大型深鉢である。底部は平行葉脈圧痕が残る。157は摩耗しているものの、条痕がわずかに確認できる。156と同様の器形であろう。158は横走する沈線下に、右斜め方向の平行沈線が施される。159 ～ 162は中期に比定される。159は北陸系の小松式土器（八日市地方編年7期（新）［福海2003］）で、斜め方向のハケメを地文とし、体部上半に5条からなる櫛描簾状文→櫛描直線文→櫛描波状文の順で、上から施文される。内面はハケメ調整される。160 ～ 162はハケメが施される。163は高杯である。杯部と脚部は接合しないが、精良な胎土と施された地文の無節縄文Lから同一個体と考えた。杯部の内面はミガキが施される。脚部は3条の平行沈線が横走し、沈線間の縄文は磨り消される。さらに下部にも沈線の痕跡が確認できる。164は割れ口に接合痕が残ることから、台杯鉢の脚部の可能性がある。165は底部片で、内面は剥離しているが、外面に網代痕が残る。

SR784（166 ～ 172）

166は肥厚させた口縁部に1条の沈線が引かれ、ナデ調整される。甕の口縁部の可能性がある。167は頸部のくびれをもたない深鉢と推測される。外面に3条、内面に1条の沈線がみられる。胎土は152に近似しており、同一個体の可能性がある。壺の可能性もある。168は3条の平行沈線がみられる。

169 は甕の口縁部と推測される。無文で胎土は精良、丁寧にナデ調整される。口径は約 30cm を測ると推測される。170 は直線的に立ち上がる大型深鉢である。外面に横方向の条痕、底部に網代痕が残る。深鉢 A 類に相当する。171 は深鉢の体部片で、上位に無節縄文 L、下位に細密条痕がみられる。ススが付着する。172 は深鉢の体部片で、地文に反撚 RR が施される。

SK532（173・174）

173 は甕で、口頸部は外反し、肩が張る。口縁部外面に 2 条の平行沈線が引かれ、肩部に匹字工字文、体部に変形工字文が描かれる。その下位には 3 条の平行沈線が横走する。以上から、甕 A1 類に相当する。沈線間の地文は磨り消され、下半は無節縄文 R が施文される。沈線は幅 4mm を測る。変形工字文の一部は二等辺三角形が崩れ、右下がりの斜辺が連続する。また、平行沈線は上下にぶれ、はみ出た線は消さずに放置し、改めてつなげ直すなど、文様が崩れている。外面にコゲが付着する。174 は小型の鉢である。土坑内で倒れた状態で出土した。口縁部は二等辺重菱形をモチーフにした変形工字文が描かれ、ミガキが施される。体部下位は、無節縄文 L を地文とし、4 条の平行沈線が巡るが、水平でない。体部～底部は 3 条の平行沈線で区画される。平行沈線内の縄文の磨消は丁寧でない。鉢 D2 類に相当する。

P539（175）

175 は甕の口縁部である。外面に沈線が 1 条巡る。摩耗が著しい。

b　遺構外出土の土器（176 ～ 182）

176 は甕の口縁部辺で、口縁端部と肩部に平行沈線がみられる。頸部は無文である。177・178 は平行沈線と縄文 LR が看取できる。177 の胎土は金雲母が目立つ。179 は変形工字文であろう。180 は縄文 LR が施される。文様は 153 に近似するが、沈線下部に施された刺突文には竹管が用いられる。刺突文は平行沈線の施文後に施されたとみられ、沈線に重なるものもある。また、縦横とも間隔は不揃いである。外面にコゲが付着する。181 は深鉢である。地文は縄文 LR、底部は網代痕が残る。182 は蓋の可能性がある。

3）土製品、焼粘土塊（183・184）

183 は連続する指頭痕が残り、これを表面として図示した。「へ」の字状を呈し、左側面の裏側は剥離した痕跡がみられる。右側面は欠損している可能性がある。「へ」の字状の頂点は、幅 5mm の沈線が斜めに入る。裏面はナデ調整されるが、上面の粘土を寄せた皺と凹凸が残り粗雑である。胎土は粗砂・小礫を含まず精良、焼成も良好である。用途は不明だが、土器の突起部分、土偶、土偶型容器の一部の可能性もある。184 は焼粘土塊と推測される。2008 年度出土の焼粘土塊は、鉱物などの混和材が混入するものが多いが、本個体ではわずかに認められるにすぎない。

4）石　　器

土器の場合と同様に出土数は低調である。過年度調査では、合計で 680 点（剥片類を除く）が出土しており、器種としては石鏃が多い。また、石核、剥片類、原石の出土から石器製作の可能性が示唆され、猫山遺跡との類似性が指摘される。掲載に際して、観察の視点などは猫山遺跡［古澤ほか 2003］、西郷遺跡［土橋ほか 2009］を参考にした。分類記号を記した場合は、『山口遺跡』［荒谷ほか 2010］に準じている。

a 石　　鏃（185 ～ 187）

すべて有茎石鏃で、茎部を欠損する。185・186 は基部が平基状を呈し、B 類に分類できる。185 は長さ 24.54mm、幅 12.13mm、厚さ 5.92mm、重さ 1.15g、石材は頁岩である。186 は長さ 15.97mm、幅 11.27mm、厚さ 5.08mm、重さ 0.83g、比較的厚めである。石材は玉髄である。基部にアスファルトと思しき黒色付着物が認められる。187 は基部が凹基状を呈し、C 類に分類できる。長さ 28.20mm、幅 11.41mm、厚さ 4.95mm、重さ 0.85g、石材は頁岩である。背面に節理面がみられる。

b 石　　錐（188）

1 点のみの出土である。188 は剥片のとがった部分を利用し、錐部を作出したと推測される。先端部の摩耗がみられないため、未製品であろう。石材は玉髄である。

c 敲　　石（189）

1 点のみの出土である。189 は礫の正面と上下端部に敲打痕が認められる。石材は安山岩である。

d 台　　石（190）

1 点のみの出土である。190 は扁平な礫で、正・裏面の平坦面は緩い凹凸がみられる。両側面と左上側面に剥離が認められる。石材は花崗閃緑岩である。

e 剥　　片（191 ～ 194）

石核からの剥片生産あるいは石器製作の過程などで生じた石のかけらである。二次加工や使用の痕跡が看取できない。191 の石材は安山岩である。192 ～ 194 は接合資料である。様々な角度からの剥離痕や打痕があることから、打面転移が頻繁だったと推測される。192 は土坑と考えた堆積土（SK755）と自然流路（SR784）の埋土の間で接合したものである。石材は 192 が玉髄、193・194 が頁岩である。接合した個体は、それぞれ出土地点、層位ともさほど離れていないことから同時性が高い。

E 縄文時代の遺物

1）概　　要

南 2 区の SK400 から 1 個体がつぶれたように出土した。過年度調査においてはごく少量の土器・石器が出土し、土器には雲形文が施文された晩期中葉の大洞 C1 式の台杯鉢がある。

2）土　　器

SK400（195）

甕である。肩が張り、頸部は直立し、口縁部はわずかに外反する。口縁部は４条以上の平行沈線が横走し、頸部は無文帯となる。肩部には上下を平行沈線で区画した文様帯に、左上がりの斜線文が施される。青田遺跡分類［荒川ほか 2004］の甕 C3d 類に相当し、晩期後葉に位置付けられる。

4　自然科学分析

A　山口遺跡における植物珪酸体分析

森　将志（パレオ・ラボ）

1）2021 年度の分析

a　は　じ　め　に

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている［杉山 2000・2009］。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である［藤原・杉山 1984］。

以下では、山口遺跡で採取された堆積物の植物珪酸体分析を行い、稲作やイネ科植物相の検討を行った。なお、同一試料を用いて花粉分析も行われている（花粉分析の項参照）。

b　試料と分析方法

分析試料は、北 2 区の基本層序・SR784 から 7 点、北 2 区の SI764 から 1 点、南 1 区の SI324 から 3 点、南 2 区の畦畔 362 から 5 点、南 3 区の基本層序⑯から 8 点採取された、計 24 点である（第 4 表）。これらの試料について、ガラスビーズ法［藤原 1976］を用いて、以下の手順で分析を行った。

1）　試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
2）　試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
3）　電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
4）　超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
5）　沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
6）　封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7）　検鏡・計数

地区	グリッド	遺構	層位	時期	岩質
北2区	20E	SI764	1	古代	黄灰色（2.5Y5/1）粘土
南1区	21K	SI324	1		暗オリーブ色（5Y4/3）粘土
			2		灰オリーブ色（5Y5/3）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/3）粘土
南2区	31・32O	畦畔362	Ⅲ	中世	オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト
			Ⅴ	古代	黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			1		オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土
			2		暗灰黄色（2.5Y5/2）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
南3区	41T	基本層序⑯	Ⅲ	中世	オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土質シルト
			Ⅳa	古代	灰色（N5/）粘土
			Ⅳab		暗灰色（N3/）粘土
			①	古代以前	黄灰色（2.5Y5/1）シルト
			②		黒褐色（10YR3/2）粘土
			③		褐灰色（10YR6/1）粘土
			④		
			⑤		
北2区	10B	基本層序・SR784	Ⅳb	古代	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
			Ⅳc		にぶい黄色（2.5Y6/4）粘土
			1	弥生	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
			2		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			4		オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト
			5		黄褐色（2.5Y5/6）粘土質シルト

第 4 表　分析試料一覧

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率を掛けて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）を掛けて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる［杉山 2000］。さらに、タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比

率を求めた。

c 分 析 結 果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第5表および第15図に示した。また、主要な分類群について顕微鏡写真を第16図に示す。なお、分類群の族は亜科と属の間の分類レベルであるが、呼称が紛らわしいことから連と表記する場合もある［長田1994］。

〔イネ科〕

イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

その他

d 考 察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している［杉山2000］。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構や畑遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして水田跡の検討を行った。

弥生時代とされる北2区の基本層序・SR784では、Ⅳb層とⅣc層、1～5層で分析を行った。その結果、Ⅳb層と1層からイネが検出された。密度は500個/gおよび1,100個/gといずれも低い値である。イ

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	SI764	南1区，SI324			南2区，畦畔362					南3区，基本層序⑯								北2区，基本層序・SR784						
			1	1	2	3	Ⅲ	1	2	3	Ⅴ	Ⅲ	Ⅳa	Ⅳb	①	②	③	④	⑤	Ⅳb	Ⅳc	1	2	3	4	5
イネ科	Gramineae																									
イネ	*Oryza sativa*		38	41	11	5	5	5	11	5			16	20	52	16				5		11				
ムギ類（穎の表皮細胞）	*Hordeum-Triticum*（husk Phytolith）																					5				
ヨシ属	*Phragmites*				5		11	10					5	15		5	22		11	10		5				
キビ族型	Paniceae type						5	5	6			5	5		5					15			5	5		
ススキ属型	*Miscanthus* type							5	17	5			5	10	5		5		5	15	5					
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		16	5	11	5	5	10	11	5		5	16	10	5	5	5	5	11	35	15	5	5	16	6	6
タケ亜科	Bambusoideae																									
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa				5		5						5													
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		92	92	37	102	16	47	67	104	89	20	32	15	161	33	27	32	43	40	56	21	54	43	6	6
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		38	31	16	36	5	5	11	33	11	5	5	10	21	11	11	21	5	5	20	11	16	16		
未分類等	Others		59	76	32	66	16	16	17	49	39	5	16	10	57	27	27	37	38	35	25	11	32	37	6	6
その他のイネ科	Others																									
表皮毛起源	Husk hair origin		11			5	5	10	6	5	6				21				5	10	5	5	5			
棒状珪酸体	Rod-shaped		16	20	16	15	37	52	56	16	17	10	11	40	52	44	16	5	5	81	10	37	27	5	6	6
茎部起源	Stem origin						5	5	6					20			5									
未分類等	Others		43	71	21	30	26	57	34	27	28	15	32	60	47	16	33	26	16	86	71	42	32	27	12	6
樹木起源	Arboreal																									
その他	Others		11	5		5	5	5	11		6			15	16	11	5			5	5	5	5			
（海綿骨針）	Sponge spicules		5	5	5	5	11	5			6		5		5	5	81	11			5	5	5	5	6	6
植物珪酸体総数	Total		323	341	153	269	147	234	251	251	195	66	151	226	440	169	157	126	141	343	214	158	183	150	37	30

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa*	1.11	1.20	0.31	0.15	0.15	0.15	0.33	0.16			0.48	0.59	1.52	0.48					0.15		0.31				
ヨシ属	*Phragmites*			0.33		0.66	0.66					0.34	0.95		0.34	1.37		0.68		0.64		0.33				
ススキ属型	*Miscanthus* type						0.06	0.21	0.07			0.07	0.12	0.06		0.07		0.07	0.19	0.06						
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa			0.03		0.03						0.03														
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	0.69	0.69	0.28	0.76	0.12	0.35	0.50	0.78	0.67	0.15	0.24	0.11	1.20	0.25	0.20	0.24	0.32	0.30	0.42	0.16	0.40	0.32	0.05	0.05	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	0.11	0.09	0.05	0.11	0.02	0.02	0.03	0.10	0.03	0.02	0.02	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	0.02	0.02	0.06	0.03	0.05	0.05			

タケ亜科の比率（%）

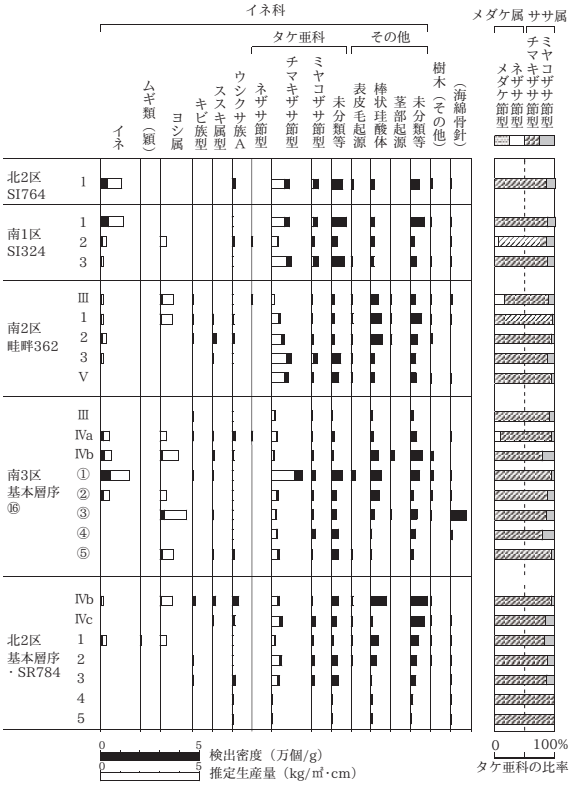
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa				7		16						9													
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.	86	88	79	88	74	96	94	89	95	91	85	79	95	88	86	79	95	95	87	83	89	87	100	100	
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi	14	12	14	12	10	4	6	11	5	9	6	21	5	12	14	21	5	5	13	17	11	13			
メダケ率	Medake ratio	0	0	7	0	16	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第5表　山口遺跡植物珪酸体分析結果

ネの密度が低い要因としては、稲作が行われていた期間が短かった可能性や、土層の堆積速度が速かった可能性、採取地点が畦畔など耕作面以外であった可能性、上層や他所から混入した可能性など、いくつかの可能性が考えられる。

古代の北２区 SI764 では、１層について分析を行った。その結果、イネが 3,800 個 /g と比較的高い密度で検出された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

古代の南１区 SI324 では、１～３層について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、１層では密度が 4,100 個 /g と比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。２層と３層では、密度が 1,100 個 /g および 500 個 /g と低い値である。イネの密度が低い要因としては、前述のような可能性が考えられる。



第 15 図　山口遺跡植物珪酸体分析結果

古代の南２区畦畔 362 では、Ⅲ層と１層～３層、Ⅴ層について分析を行った。その結果、Ⅲ層～３層からイネが検出された。密度は 500 ～ 1,100 個 /g と低い値である。イネの密度が低い要因としては、前述のような可能性が考えられる。

古代の南３区基本層序⑯では、Ⅲ層とⅣa 層、Ⅳb 層、①～⑤層について分析を行った。その結果、Ⅳa 層～②層からイネが検出された。このうち、①層では密度が 5,200 個 /g と高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層では、密度が 1,000 ～ 2,000 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い要因としては、前述のような可能性が考えられる。

次に、イネ以外の栽培植物について検討した。植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、北２区基本層序・SR784 の１層からムギ類（穎の表皮細胞）が検出された。密度は 500 個 /g と低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いため、少量が検出された場合でも評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺で、ムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

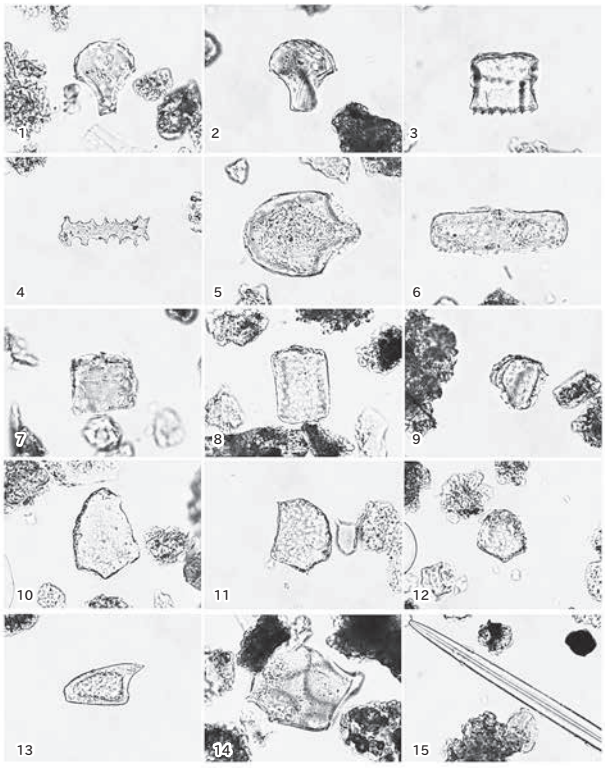
イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

上記以外の分類群では、多くの試料でチマキザサ節型が比較的多く検出され、ウシクサ族 A、ミヤコ

ザサ節型、樹木（その他）なども認められた。また、部分的にヨシ属、キビ族型、ススキ属型なども検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、量的には比較的少ないものの、おおむねチマキザサ節型が優勢となっている。

以上の結果から、各層準の堆積当時は、おおむねササ属（おもにチマキザサ節）を主体として、ススキ属やチガヤ属、キビ族なども生育するイネ科植生が存在したと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤な場所もあった可能性がある。また、同一試料の花粉分析によると、遺跡周辺にはサワグルミ属－クルミ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、トチノキ属といった落葉広葉樹が生育していたと考えられており、ササ属については、落葉広葉樹の林床などに分布していた可能性も考えられる。

なお、ササ属のうちチマキザサ節やチシマザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側などの積雪の少ない比較的乾燥したところに分布している［室井 1960、鈴木 1996］。ここでは、前者が優勢であることから、当時は積雪の多い気候環境であったと推測される。



1 イネ（基本層序⑯ ①層）
2 イネ（基本層序・SR784 1層）
3 イネ（基本層序⑯ ①層）
4 ムギ類（基本層序・SR784 1層）
5 ヨシ属（基本層序⑯ ③層）
6 キビ族型（基本層序・SR784 Ⅳb層）
7 ススキ属型（畦畔362 2層）
8 ウシクサ族A（基本層序⑯ Ⅳa層）
9 ネザサ節型（基本層序⑯ Ⅳa層）
10 チマキザサ節型（基本層序⑯ ③層）
11 チマキザサ節型（基本層序⑯ ④層）
12 ミヤコザサ節型（基本層序⑯ ④層）
13 表皮毛起源（SI324 3層）
14 樹木（畦畔362 2層）
15 海綿骨針（畦畔362 3層）

第16図 産出した珪酸体

引用文献

長田武正（1994）増補日本イネ科植物図譜．777p，平凡社．

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定 －古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，69-84．

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．辻 誠一郎編「考古学と植物学」：189-213，同成社．

杉山真二（2009）植物珪酸体と古生態．小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「大地と森の中で－縄文時代の古生態系－」：105-114，同成社．

鈴木貞雄（1996）日本タケ科植物図鑑．271p，聚海書林．

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29．

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，73-85．

室井 綽（1960）竹笹の生態を中心とした分布．富士竹類植物園報告，5，103-121．

2）2022 年度の植物珪酸体分析

a は じ め に

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO_2）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている［杉山 2000、杉山 2009］。また、イネの有無を検討すれば、埋蔵水田跡の検証や探査も可能である［藤原・杉山 1984］。以下では、山口遺跡から採取された試料のプラント・オパール分析を行い、イネ科植物について検討した。

b 試 料 と 方 法

分析試料は、No.1 地点（北 4 区，SX688）、No.2 地点（南 2 区，基本層序）、No.3 地点（南 2 区，田面）、No.4 地点（南 2 区，SD368）、No.5 地点（南 2 区，田面）、No.6 地点（北 1 区，基本層序）の 6 地点から採取された、計 29 点である（第 6 表）。試料採取箇所を分析結果図（第 17 図）に示す。これらの試料について、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、以下の手順で分析を行った。

1） 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
2） 試料約 1g に対し、直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
3） 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
4） 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
5） 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
6） 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
7） 検鏡・計数

地区	グリッド	遺構	層位	時期	岩質	備考
北4区	39L2	SX688	Ⅳa	古代	オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土	Ⅳc・Ⅴは38I22
			Ⅳb		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土	
			Ⅳc		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土	
			Ⅴ	弥生	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			1層	古代	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
南2区	30N17		Ⅳa	古代	オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土	基本層序
			Ⅳb		黒褐色（2.5Y3/2）粘土	
			Ⅳc		黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			Ⅴ	弥生	黄褐色（2.5Y5/4）粘土	
	32013	田面	Ⅳa	古代	オリーブ褐色（2.5Y4/3）粘土	
			Ⅳb		暗オリーブ色（5Y4/3）粘土	
			Ⅳc		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土	
			Ⅴ	弥生	オリーブ褐色（2.5Y4/6）粘土	
	34P12	SD368	Ⅳa	古代	暗褐色（10YR3/3）粘土	
			Ⅳb		褐色（10YR4/4）粘土	
			Ⅵ	縄文晩期	オリーブ灰色（2.5GY5/1）粘土	
			1層	古代	褐灰色（10YR5/1）粘土	
			2・3層		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土	
			4層		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土	
	35Q5	田面	Ⅳa	古代	暗オリーブ色（5Y4/3）粘土	
			Ⅳc		灰オリーブ色（5Y4/2）粘土	
			Ⅴ	弥生	灰オリーブ色（5Y5/3）粘土	
			Ⅵ	縄文晩期	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			Ⅶ	縄文	灰オリーブ色（5Y5/3）粘土	
北1区	6A20		Ⅲ	中世	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	基本層序
			Ⅳb	古代	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			Ⅳc		黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			Ⅴ	弥生	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	
			Ⅵ	縄文晩期	黄褐色（2.5Y5/3）粘土	

第 6 表　分析試料一覧

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象に行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これは、ほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などが具体的にとらえられる［杉山 2000］。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

c 分 析 結 果

検出された植物珪酸体の分類群は、以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結

果を第 7 表および第 17 図に示した。主要な分類群については、顕微鏡写真を第 18 図に示す。

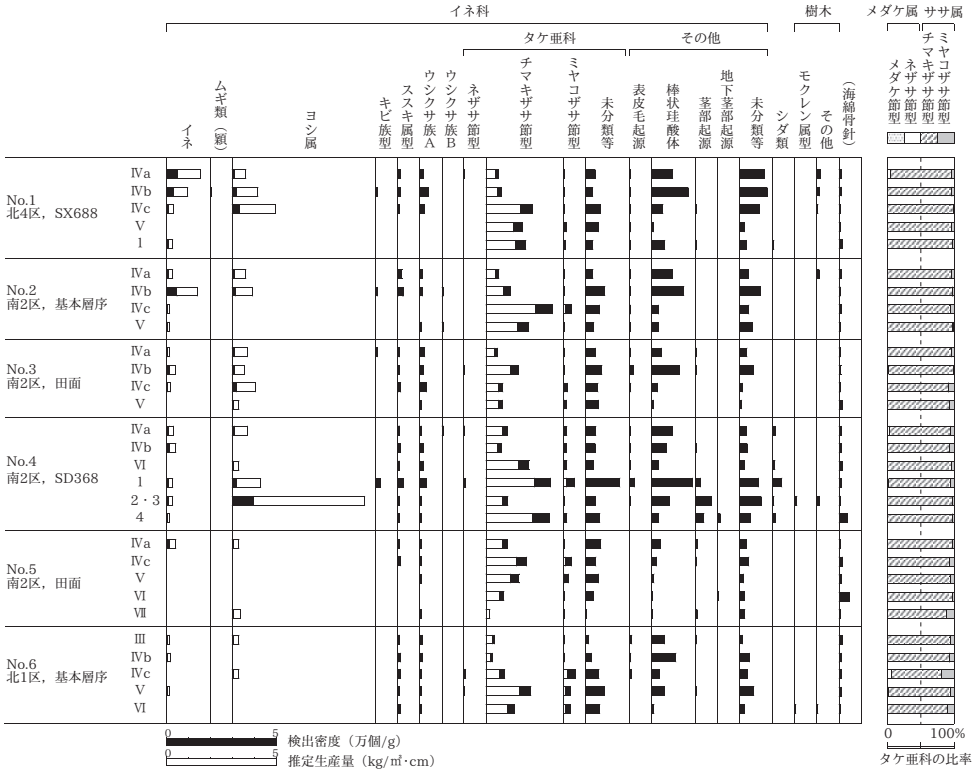
〔イネ科〕

イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）、ウシクサ族 B（大型）

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	No.1（北4区，SX688）					No.2（南2区，基本層序）				No.3（南2区，田面）				No.4（南2区，SD368）						No.5（南2区，田面）					No.6（北1区，基本層序）				
			Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴ	1	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅵ	1	2・3	4	Ⅳa	Ⅳc	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅲ	Ⅳb	Ⅳc	Ⅴ	Ⅵ
イネ科	Gramineae																														
イネ	*Oryza sativa*		54	34	11		10	10	49	5	5	5	14	6		11	15		10	10	5	15					5	6		5	
ムギ類（穎の表皮細胞）	*Hordeum-Triticum*（husk Phytolith）			5																											
ヨシ属	*Phragmites*		10	19	32			10	15			11	9	17	5	11		5	21	98		5				6	5		5		
キビ族型	Paniceae type			5					5			5							21												
ススキ属型	*Miscanthus* type		19	10	5			15	20			5	5	11		5	10	5	21	5	5	5	11				5	11	10	5	11
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		15	38	21			10	10		5	22	14	28	5	5	15	16	31	5	5	5	5	6		6	11	11	5	5	5
ウシクサ族B	Andropogoneae B type								5		5					5															
タケ亜科	Bambusoideae																														
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa		5										5			5			10										10	5	
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		58	72	217	171	187	60	113	312	201	55	152	79	76	100	73	202	304	103	296	101	191	155	84	18	38	28	88	211	132
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		5	5	5	15	10	5	5	37	5	5	5	17	15	16	15	16	52	5	16	5	37	22	5	6	5	6	57	32	33
未分類等	Others		44	34	69	60	35	35	89	63	48	44	76	57	61	48	44	36	157	46	66	71	48	61	37	6	16	28	62	86	66
その他のイネ科	Others																														
表皮毛起源	Husk hair origin		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	19	6		5	5	5	21	5							11	6	10		
棒状珪酸体	Rod-shaped		97	168	53	10	61	96	148	32	32	44	128	28	10	95	69	31	189	82	33	41	21	11	5	6	60	112	36	59	11
茎部起源	Stem origin				5		5					5	9				5		21	72	38	10	5			6	5			5	
地下茎部起源	Underground stem origin																				11				5						
未分類等	Others		112	125	90	20	30	40	94	42	58	33	62	11	10	32	34	21	84	98	49	30	42	17	21	24	11	45	36	65	22
シダ類	Fern						5									11		10	42	5	11										
樹木起源	Arboreal																														
モクレン属型	*Magnolia* type																			10											5
その他	Others		15	10	5			10												10											5
（海綿骨針）	Sponge spicules		10	10	5	5	15	10	5	11	5	5	9	6	15	11	10	16	10	5	38	5	16	11	47	6	16	11	10	11	5
植物珪酸体総数	Total		438	529	518	282	349	297	557	497	365	240	498	260	183	349	284	347	985	555	537	289	361	271	157	80	174	252	322	481	291
おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出																															
イネ	*Oryza sativa*		1.57	0.99	0.31		0.30	0.30	1.45	0.16	0.16	0.16	0.42	0.17		0.31	0.43		0.31	0.30	0.16	0.45					0.16	0.16		0.16	
ヨシ属	*Phragmites*		0.61	1.21	2.00			0.64	0.93			0.69	0.60	1.07	0.32	0.67		0.33	1.32	6.16		0.32				0.39	0.34		0.33		
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.24	0.12	0.07			0.19	0.24			0.07	0.06	0.14		0.07	0.12	0.06	0.26	0.06	0.07	0.06	0.13				0.07	0.14	0.13	0.07	0.14
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa		0.02										0.02			0.03			0.05										0.05	0.03	
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		0.44	0.54	1.62	1.28	1.40	0.45	0.85	2.34	1.51	0.41	1.14	0.59	0.57	0.75	0.55	1.52	2.28	0.77	2.22	0.76	1.43	1.16	0.63	0.14	0.29	0.21	0.66	1.58	0.99
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		0.01	0.01	0.02	0.05	0.03	0.02	0.01	0.11	0.02	0.02	0.01	0.05	0.05	0.05	0.04	0.05	0.16	0.02	0.05	0.02	0.11	0.07	0.02	0.02	0.02	0.02	0.17	0.10	0.10
タケ亜科の比率（%）																															
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. Nezasa		5										2			3			2										6	2	
チマキザサ節型	*Sasa* sect. Sasa etc.		92	97	99	97	98	97	98	95	99	96	97	92	93	91	93	97	92	98	98	98	93	95	98	88	95	93	75	93	91
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. Crassinodi		3	3	1	3	2	3	2	5	1	4	1	8	7	6	7	3	6	2	2	2	7	5	2	12	5	7	19	6	9
メダケ率	Medake ratio		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	0

第 7 表　山口遺跡植物珪酸体分析結果



第 17 図　山口遺跡プラント・オパール分析結果

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、地下茎部起源、未分類等

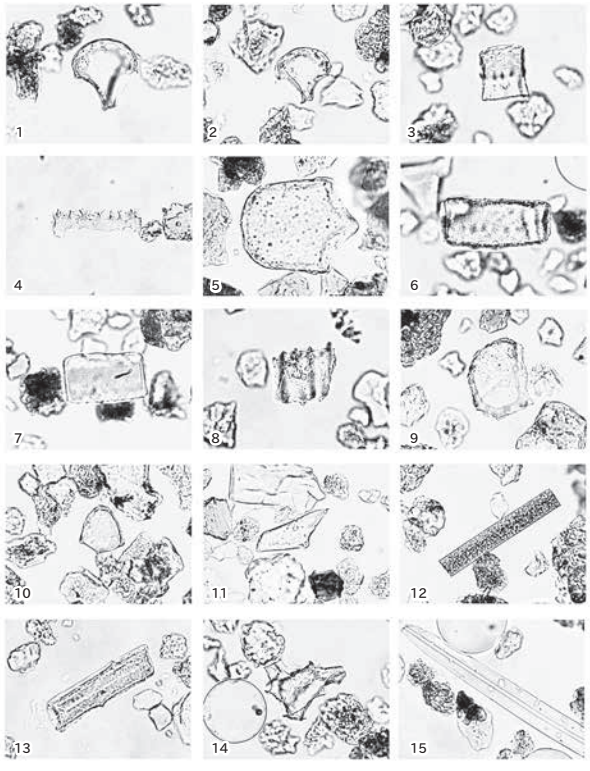
〔シダ類〕

〔樹木〕

モクレン属型、その他

d 考　　察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う際には、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、その場所で稲作が行われていた可能性が高いと判断している［杉山 2000］。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構や畑遺構が検出される事例があるため、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。



1 イネ（No.1 Ⅳa層）
2 イネ（No.4 Ⅳa層）
3 イネ 側面（No.1 Ⅳa層）
4 ムギ類 穎の表皮細胞（No.1 Ⅳb層）
5 ヨシ属（No.1 Ⅳc層）
6 キビ族型（No.4 1層）
7 ススキ属型（No.1 Ⅳa層）
8 ネザサ節型（No.6 Ⅴ層）
9 チマキザサ節型（No.1 Ⅴ層）
10 ミヤコザサ節型（No.6 Ⅳc層）
11 表皮毛起源（No.3 Ⅳb層）
12 棒状珪酸体（No.3 Ⅳb層）
13 イネ科の茎部起源（No.1 1層）
14 モクレン属型（No.4 2・3層）
15 海綿骨針（No.1 1層）

第 18 図　産出した珪酸体

No.1 地点の北 4 区の SX688 では、Ⅳa 層、Ⅳb 層、Ⅳc 層、Ⅴ層、1 層について分析を行った。その結果、Ⅴ層を除く各層準からイネが検出された。このうち、Ⅳa 層では密度が 5,400 個 /g と高い値であり、Ⅳb 層でも 3,400 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅳc 層と 1 層では、密度が 1,100 個 /g および 1,000 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、稲作が行われていた期間が短かった可能性、土層の堆積速度が速かった可能性、採取地点が畦畔など耕作面以外であった可能性、および上層や他所からの混入である可能性などが考えられる。

No.2 地点の南 2 区の基本層序では、Ⅳa 層、Ⅳb 層、Ⅳc 層、Ⅴ層について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、Ⅳb 層では密度が 4,900 個 /g と比較的高い値である。したがって、Ⅳb 層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層準では、密度が 500 ～ 1,000 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

No.3 地点の南 2 区の田面では、Ⅳa 層、Ⅳb 層、Ⅳc 層、Ⅴ層について分析を行った。その結果、Ⅴ層を除く各層準からイネが検出されたが、密度は 500 ～ 1,400 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

No.4 地点の南 2 区の SD368 では、Ⅳa 層、Ⅳb 層、Ⅵ層、1 層、2・3 層、4 層について分析を行った。その結果、Ⅵ層を除く各層準からイネが検出されたが、密度は 500 ～ 1,500 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

No.5 地点の南 2 区の田面では、Ⅳa 層、Ⅳc 層、Ⅴ層、Ⅵ層、Ⅶ層について分析を行った。その結果、Ⅳa 層からイネが検出されたが、密度は 1,500 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

No.6 地点の北 1 区の基本層序では、Ⅲ層、Ⅳb 層、Ⅳc 層、Ⅴ層、Ⅵ層について分析を行った。その結果、Ⅲ層、Ⅳb 層、Ⅴ層からイネが検出されたが、密度は 500 ～ 600 個 /g と低い値である。イネの密度が低い理由としては、前述のような可能性が考えられる。

次に、イネ以外の栽培植物について検討した。プラント・オパール分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれる分類群としては、イネ以外に、ムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属型（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、今回の山口遺跡の試料からはムギ類が検出された。

ムギ類（穎の表皮細胞）は、No.1 地点の北 4 区の SX688 のⅣb 層から検出された。密度は 500 個 /g と低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いため、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、Ⅳb 層の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分な分類群もあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来する分類群が含まれている可能性があるが、これらの分類群の給源植物の究明については、今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

上記以外の分類群では、多くの試料でチマキザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族 A、ミヤコザサ節型なども認められた。また、一部の層準ではキビ族型、ネザサ節型、樹木（その他）なども検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねチマキザサ節型が優勢であり、No.4 地点の南 2 区の SD368 の 2・3 層など、一部ではヨシ属も多くなっている。

以上の結果から、各層準の堆積当時は、おおむねササ属（おもにチマキザサ節）を主体として、ススキ属やチガヤ属なども生育するイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤な場所もあったと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木（落葉樹）が生育していたと考えられる。ササ属については、樹木（落葉樹）の林床などに分布していた可能性もある。

ササ属のうち、チマキザサ節やチシマザサ節は日本海側の寒冷地などに広く分布しており、積雪に対する適応性が高いが、ミヤコザサ節は太平洋側など積雪の少ない比較的乾燥した地域に分布している［室井 1960、鈴木 1996］。ここでは、前者が優勢であるため、当時は積雪の多い気候環境であったと推定される。

引用・参考文献

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，73-85.

室井　綽（1960）竹笹の生態を中心とした分布．富士竹類植物園報告，5，103-121.

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定　－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，69-84.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．辻　誠一郎編「考古学と植物学」：189-213，同成社．
杉山真二（2009）植物珪酸体と古生態．小杉　康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「大地と森の中で－縄文時代の古生態系－」：105-114，同成社．
鈴木貞雄（1996）日本タケ科植物図鑑．271p，聚海書林．

B 花 粉 分 析

森　将志（パレオ・ラボ）

1）は じ め に

新潟県阿賀野市に所在する山口遺跡では、古環境を検討するために堆積物が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて植物珪酸体分析も行われている（植物珪酸体分析の項参照）。

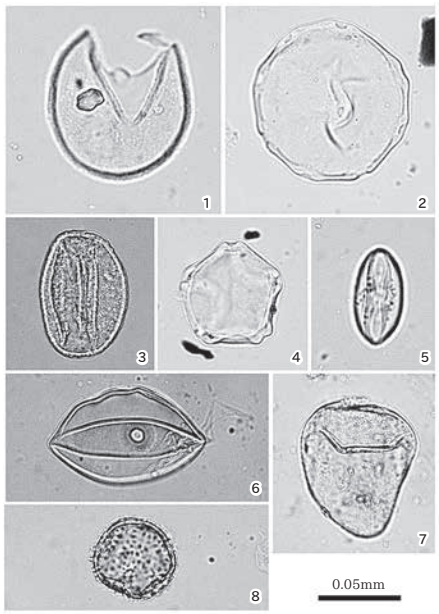
2）分析試料および方法

分析試料は、北２区の基本層序・SR784 から７点、北２区の SI764 から１点、南１区の SI324 から３点、南２拡張区の畦畔 362 から５点、南３区の基本層序⑯から８点、南３区の基本層序⑰から６点採取された、計 30 点である（第８表）。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

試料（湿重量約 4g）を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え 10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸 9: 硫酸１の割合の混酸を加え 20 分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が 200 に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が含まれていなかった試料については、プレパラート１

地区	グリッド	遺構	層位	時期	岩質
北2区	20E	SI764	1	古代	黄灰色（2.5Y5/1）粘土
南1区	21K	SI324	1	古代	暗オリーブ色（5Y4/3）粘土
			2		灰オリーブ色（5Y5/3）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/3）粘土
南2拡張区	31・32O	畦畔362	Ⅲ	中世	オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト
			V	弥生	黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			1	古代	オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土
			2		暗灰黄色（2.5Y5/2）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
南3区	41T	基本層序⑯	Ⅲ	中世	オリーブ褐色（2.5Y4/4）粘土質シルト
			Ⅳa	古代	灰色（N5/）粘土
			Ⅳb		暗灰色（N3/）粘土
			①	古代以前	黄灰色（2.5Y5/1）シルト
			②		黒褐色（10YR3/2）粘土
			③		褐灰色（10YR6/1）粘土
			④		
			⑤		
	42T	基本層序⑰	Ⅲ	中世	暗オリーブ色（5Y4/4）シルト
			Ⅳa	古代	暗オリーブ色（5Y4/3）粘土
			Ⅳb		暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
			①	古代以前	黄褐色（2.5Y5/3）粘土
			②		灰黄褐色（10YR5/2）粘土
			③		にぶい黄褐色（10YR5/3）粘土
北2区	10B	基本層序・SR784	Ⅳb	古代	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
			Ⅳc		にぶい黄色（2.5Y6/4）粘土
			1	弥生	暗灰黄色（2.5Y4/2）粘土
			2		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			3		黄褐色（2.5Y5/4）粘土
			4		オリーブ褐色（2.5Y4/6）シルト
			5		黄褐色（2.5Y5/6）粘土質シルト

第８表　分析試料一覧



1. スギ属（基本層序⑯ ④層 PLC.3525）
2. サワグルミ属－クルミ属（基本層序⑰ ①層 PLC.3526）
3. コナラ属コナラ亜属（基本層序⑯ ④層 PLC.3527）
4. ハンノキ属（基本層序⑯ ④層 PLC.3528）
5. トチノキ属（基本層序⑯ ④層 PLC.3529）
6. イネ科（基本層序⑰ ①層 PLC.3530）
7. カヤツリグサ科（基本層序⑰ ①層 PLC.3531）
8. オモダカ属（基本層序⑰ ①層 PLC.3532）

第 19 図　産出した花粉化石

枚の全面を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.3525 ～ 3532）を作製し、写真を第 19 図に載せた。

3）結　　果

検鏡の結果、十分な量の花粉化石が含まれていた試料は、畦畔 362 のⅤ層と基本層序⑯のⅢ層、Ⅳb 層、①～⑤層、基本層序⑰のⅢ層、Ⅳa 層、Ⅳb 層、①～③層の 14 試料である。これらの試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 41、草本花粉 24、形態分類を含むシダ植物胞子 3 の、総計 68 である。花粉・胞子の一覧表を第 9 表に、分布図を第 20 図に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で

学名	和名	SI764	SI324			畦畔362					基本層序⑯								基本層序⑰							SR784					
		1	1	2	3	Ⅲ	1	2	3	Ⅴ	Ⅲ	Ⅳa	Ⅳb	①	②	③	④	⑤	Ⅲ	Ⅳa	Ⅳb	①	②	③	Ⅳb	Ⅳc	1	2	3	4	5
樹木																															
Podocarpus	マキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Abies	モミ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	2	1	2	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Tsuga	ツガ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	4	1	2	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Picea	トウヒ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	–	–	–	–	–	–	–	–	3	7	–	2	5	1	4	19	3	7	1	7	5	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Pinus（unknown）	マツ属（不明）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	1	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Sciadopitys	コウヤマキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	2	3	–	1	–	–	–	–	1	1	–	3	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
Cryptomeria	スギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	55	16	–	64	60	55	19	23	37	7	25	84	59	70	26	–	–	–	–	–	–	–
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	2	5	2	–	–	–	–	2	3	5	1	2	–	–	–	–	–	–	–
Salix	ヤナギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	2	1	–	5	2	2	12	13	25	–	–	1	3	–	3	–	–	–	–	–	–	–
Myrica	ヤマモモ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Pterocarya-Juglans	サワグルミ属−クルミ属	–	–	–	–	–	–	–	–	12	8	–	17	23	19	26	28	17	11	6	14	30	23	23	–	–	–	–	–	–	–
Carpinus-Ostrya	クマシデ属−アサダ属	–	–	–	–	–	–	–	–	7	3	–	–	7	–	2	3	3	7	5	6	7	1	1	–	–	–	–	–	–	–
Betula	カバノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	4	1	–	3	2	–	2	3	4	8	5	2	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Alnus	ハンノキ属	–	–	–	–	–	2	–	–	46	81	–	26	56	100	55	52	43	76	111	38	48	69	80	–	–	–	–	–	–	–
Fagus	ブナ属	–	–	–	–	–	–	–	–	21	24	–	12	11	7	11	19	4	38	21	13	28	9	1	–	–	–	–	–	–	–
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	–	–	–	–	–	–	–	–	23	21	–	48	11	23	35	18	12	22	21	19	16	9	7	–	–	–	–	–	–	–
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	4	4	3	3	2	3	1	2	1	3	3	1	–	–	–	–	–	–	–
Castanea	クリ属	–	–	–	–	–	–	–	–	2	7	–	4	5	1	1	3	21	–	3	2	–	4	1	–	–	–	–	–	–	–
Castanopsis-Pasania	シイノキ属−マテバシイ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Ulmus-Zelkova	ニレ属−ケヤキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	8	9	–	7	13	4	15	12	7	8	4	6	8	13	8	–	–	–	–	–	–	–
Celtis-Aphananthe	エノキ属−ムクノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	5	3	1	–	1	–	1	–	2	–	–	–	–	–	–	–
Viscum	ヤドリギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
Phellodendron	キハダ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Rhus-Toxicodendron	ヌルデ属−ウルシ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	1	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–
Ilex	モチノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	–	1	3	–	1	2	4	–	–	–	1	3	–	–	–	–	–	–	–	–
Celastraceae	ニシキギ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Acer	カエデ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	4	–	1	–	–	1	4	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Aesculus	トチノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	3	–	–	6	7	5	8	3	1	3	2	5	5	38	–	–	–	–	–	–	–
Rhamnaceae	クロウメモドキ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Parthenocissus	ツタ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–
Tilia	シナノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	6	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Actinidia	マタタビ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Camellia	ツバキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Lagerstroemia	サルスベリ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Araliaceae	ウコギ科	–	–	–	–	–	–	–	–	3	1	–	1	1	–	–	1	–	2	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Ericaceae	ツツジ科	–	–	–	–	–	–	–	–	2	1	–	–	–	–	1	–	–	4	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Fraxinus	トネリコ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	6	1	5	2	–	–	1	1	11	–	–	–	–	–	–	–
Callicarpa	ムラサキシキブ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Clerodendron	クサギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Weigela	タニウツギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
草本																															
Sparganium	ミクリ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	9	2	–	–	–	–	–	–	9	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Alisma	サジオモダカ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Sagittaria	オモダカ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	2	8	1	–	–	–	7	–	2	9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Gramineae	イネ科	–	–	–	–	–	–	–	–	86	41	–	60	138	1	1	4	1	107	18	91	143	6	1	–	–	–	–	–	–	–
Cyperaceae	カヤツリグサ科	–	–	–	–	–	–	–	–	15	5	–	16	21	–	–	2	6	8	–	29	132	–	2	–	–	–	–	–	–	–
Commelina	ツユクサ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Aneilema	イボクサ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Monochoria	ミズアオイ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Moraceae	クワ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Rumex	ギシギシ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Polygonum sect. *Persicaria-Echinocaulon*	サナエタデ節−ウナギツカミ節	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	2	–	–	–	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Caryophyllaceae	ナデシコ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Thalictrum	カラマツソウ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Rosaceae	バラ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Impatiens	ツリフネソウ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Lythrum	ミソハギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Rotala	キカシグサ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Apiaceae	セリ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–	–	–	1	–	2	1	3	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Actinostemma-Gynostemma	ゴキヅル属−アマチャヅル属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Ambrosia-Xanthium	ブタクサ属−オナモミ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Artemisia	ヨモギ属	–	–	–	–	–	–	–	–	12	13	–	8	13	1	–	2	2	19	5	8	12	4	–	–	–	–	–	–	–	–
Tubuliflorae	キク亜科	–	–	–	–	–	–	–	–	10	3	–	1	–	–	–	–	–	5	1	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
Liguliflorae	タンポポ亜科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
シダ植物																															
Salvinia	サンショウモ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
monolete type spore	単条溝胞子	–	–	–	–	–	2	–	–	13	249	–	–	–	158	110	14	5	–	6	24	6	9	1	2	–	–	–	–	2	–
trilete type spore	三条溝胞子	–	–	–	–	–	–	–	–	–	174	–	–	–	25	14	16	2	–	6	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
Arboreal pollen	樹木花粉	–	–	–	–	–	2	–	–	201	200	–	202	218	224	207	228	204	203	219	203	224	217	207	–	–	–	–	–	–	–
Nonarboreal pollen	草本花粉	–	–	–	–	–	–	–	–	128	69	–	104	185	3	8	10	11	153	30	150	307	10	4	–	–	–	–	–	–	–
Spores	シダ植物胞子	–	–	–	–	–	2	–	–	13	423	–	5	–	183	125	30	7	–	12	26	6	9	2	2	–	–	–	–	2	–
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	–	–	–	–	–	4	–	–	342	692	–	311	403	410	340	268	222	356	261	379	537	236	213	2	–	–	–	–	2	–
unknown	不明	–	–	–	–	–	–	–	–	5	1	–	4	5	7	2	3	4	11	4	3	2	2	1	–	–	–	–	–	–	–

第 9 表　産出花粉胞子一覧表

示してある。図表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科とバラ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

十分な量の花粉化石が含まれていた基本層序⑯と基本層序⑰では、樹木花粉において類似した産出傾向を示すため、3 つの花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を記す。

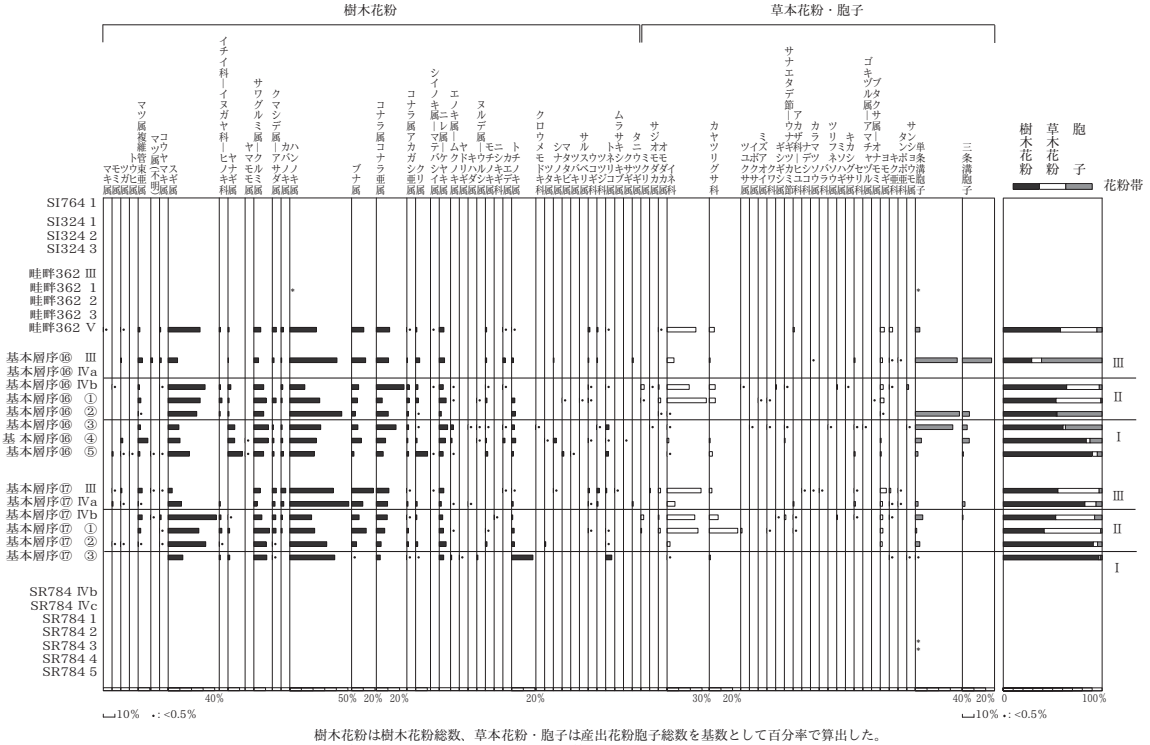
Ⅰ帯（基本層序⑯の③～⑤層、基本層序⑰の③層）は、スギ属やサワグルミ属－クルミ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、トチノキ属といった分類群の産出で特徴づけられる。

Ⅱ帯（（基本層序⑯のⅣb 層、①層、②層、基本層序⑰のⅣb 層、①層、②層）は、スギ属の増加とハンノキ属の減少で特徴づけられる。

Ⅲ帯（基本層序⑯のⅢ層、Ⅳa 層、基本層序⑰のⅢ層、Ⅳa 層）は、ハンノキ属の増加と、スギ属やサワグルミ属－クルミ属の減少で特徴づけられる。

4）考　　察

北 2 区の SI764 遺構など、各遺構から採取された分析試料からは、十分な量の花粉化石が得られなかった。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくい。各遺構は酸化的環境の影響を強く受けたため、花粉化石が分解・消失してしまった可能性がある。一方で、古代の基本層序⑯と基本層序⑰から採取された試料については、十分な量の花粉化石が得られた。以下では、基本層序⑯と基本層序⑰から産出した花粉化石群集に基づいて、古代の古植生について検討した。



樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
＊は樹木花粉 200 個未満の試料について、検出した分類群を示す。

第 20 図　花粉分布図

Ⅰ帯では、針葉樹のスギ属や、落葉広葉樹のヤナギ属、サワグルミ属－クルミ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、トチノキ属、トネリコ属などが産出している。このうち、ヤナギ属とサワグルミ属－クルミ属、ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属、トチノキ属、トネリコ属は湿地林要素や河畔林要素の分類群として知られているため、遺跡周辺の湿潤な場所に、これらの分類群からなる落葉広葉樹林が分布していた可能性がある。なお、基本層序⑰の③層では、トチノキ属が突出した産出率を示すため、トチノキ属については、42T グリッド（基本層序⑰）周辺を中心に分布していたと考えられる。また、周辺の丘陵地などには、スギ林や、ブナ属やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹林が分布を広げていた可能性がある。

Ⅱ帯になると、スギ属が増加する。人為的か自然的かは不明であるが、この時期は遺跡周辺の丘陵地などにスギ林が分布を拡大させていた可能性がある。また、Ⅱ帯では、上位層に向かって湿地林要素のハンノキ属が減少傾向を示し、同じく湿地林要素のトネリコ属が減少する。低地部に分布していた湿地林の縮小が推測されるが、この縮小には人為的要素の影響を受けていると考えられる。すなわち、Ⅱ帯の層準ではイネ科花粉の増加が見られ、植物珪酸体分析でもイネ機動細胞珪酸体が確認されているため、低地部の湿地林を水田に開拓していた可能性がある。草本花粉においても、ミクリ属といった抽水植物や、水田雑草を含む分類群として知られるサジオモダカ属やオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属が産出しており、これらの分類群が水田周辺に分布していたと考えられる。さらに、基本層序⑰の①層ではカヤツリグサ科が突出しており、基本層序⑰の①層の堆積時はカヤツリグサ科が水田周辺に分布を広げていた可能性がある。

Ⅲ帯になると、ハンノキ属の増加とイネ科の減少が確認される。また、基本層序⑯のⅢ層における植物珪酸体分析では、イネ機動細胞珪酸体の産出は確認されていない。これらの現象から考えると、Ⅲ帯の時期は低地部において稲作は行われておらず、水田であった場所には、ハンノキ属の湿地林が再び分布を拡大させていた可能性がある。ただし、基本層序⑰のⅢ層ではイネ科花粉の産出率が高い。イネ科花粉の形態で、栽培種のイネを区別するのが困難なため、ここで産出するイネ科花粉がどの種類に由来するのかは不明であるが、Ⅲ帯における水田の存在の可能性が低いため、イネ科の雑草類が分布を広げていた可能性がある。さらに、Ⅲ帯ではスギ属とサワグルミ属－クルミ属の減少が確認される。この時期はスギ林やサワグルミ属－クルミ属が分布を縮小させていたと考えられる。

C 樹 種 同 定

小林克也（パレオ・ラボ）

1）は じ め に

新潟県阿賀野市の山口遺跡で出土した木材の樹種同定を行った。同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2）試 料 と 方 法

試料は、南３区で出土した自然木と木製品（146）、南２区の溝 SD368 で出土した炭化材１点の、計３点である。放射性炭素年代測定の結果、試料 No.1 は飛鳥時代～奈良時代、試料 No.2、３は飛鳥時代～平安時代前期の暦年代を示した。

生材の樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い

切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

炭化材の樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3）結　　果

同定の結果、針葉樹のスギ 1 分類群と、広葉樹のナシ亜科とトネリコ属 2 分類群の計 3 分類群がみられた。同定結果を第 10 表に示す。

試料 No.	グリッド	調査区	遺構	層位	遺物 No.	器種	樹種	年代測定番号
1	44U	南3区		③		自然木	トネリコ属	PLD-46038
2	41T	南3区		①	146	棒状木製品	スギ	PLD-46039
3	34P	南2区	SD368	4		炭化材	ナシ亜科	PLD-46040

第 10 表　山口遺跡出土木材の樹種同定結果

以下に、同定された材の特徴を記載し、第 21 図に光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真を示す。

（1）スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　ヒノキ科　第 21 図　1a-1c（No.2）

道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ 2 ～ 15 列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、1 分野に普通 2 個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

（2）ナシ亜科　Subfam. *Maloideae*　バラ科

第 21 図　2a-2c（No.3）

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、1 ～ 4 列となる。

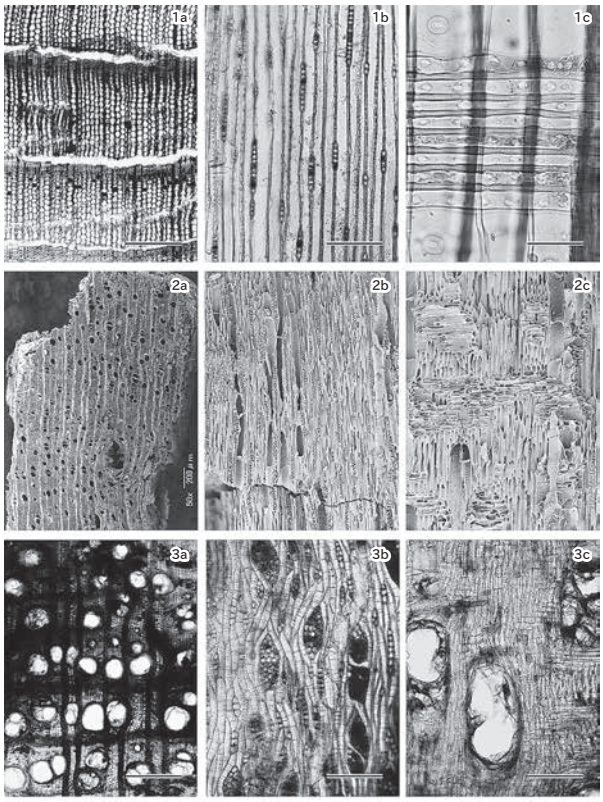
ナシ亜科はナナカマド属やサイフリボク属、カマツカ属など 11 属を含む、落葉ないし常緑の高木または低木である。材組織からカマツカ属を識別するのは可能なので、ここではカマツカ属以外のナシ亜科の樹種を指す。

（3）トネリコ属　*Fraxinus*　モクセイ科

第 21 図　3a-3c（No.1）

大型の道管が年輪の始めに 1 列並び、晩材部では急に径を減じた道管が単独ないし 2 ～ 3 個複合して配列する環孔材であるが、年輪間隔が狭くて孔圏部の道管配列が不明瞭であり、トネリコ属までの同定となった。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1 ～ 3 列となる。

トネリコ属には、アオダモやマルバアオダモ



1a-1c. スギ（No.2）、2a-2c. ナシ亜科（No.3）、3a-3c. トネリコ属（No.1）

a：横断面（スケール =500 μm）、b：接線断面（スケール =200 μm）、
c：放射断面（スケール =1：50 μm・3：200 μm）

第 21 図　山口遺跡出土木材の光学顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真

などのトネリコ節と、シオジとヤチダモなどのシオジ節がある。いずれも日本各地の温帯の山地などの湿潤地に分布する、落葉高木から小高木の広葉樹である。トネリコ節とシオジ節の材質は類似し、広葉樹の中では強度は中庸であるがトネリコ節の方がやや重硬である。また切削加工等は、シオジ節の方がトネリコ節よりも容易である。

4）考　　察

飛鳥時代～奈良時代の自然木はトネリコ属であった。トネリコ属は湿潤地に生育しやすい樹種であり、遺跡周辺の水辺などにトネリコ属が生育していたと考えられる。

飛鳥時代～平安時代前期の棒状木製品（146）はスギであった。スギは木理通直で真っすぐに生育し、加工性が良い樹種である［伊東ほか2011］。新潟県内の飛鳥時代～平安時代頃の棒では、スギが最も多く確認されており［伊東・山田編 2012］、傾向は一致する。

飛鳥時代～平安時代前期の炭化材は、ナシ亜科であった。用途については不明である。ナシ亜科は堅硬な樹種であり、薪炭材としても普通に利用される樹種である［平井 1996］。新潟県内の飛鳥時代～平安時代頃の炭化材では、多様な広葉樹が利用されており［伊東・山田編 2012］、傾向は一致する。

引用文献

平井信二（1996）木の大百科 －解説編－．642p，朝倉書房．
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，海青社．
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学 －出土木製品用材データベース－．449p，海青社．

D　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・森　将志

1）は　じ　め　に

山口遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2）試 料 と 方 法

測定試料は、SK532 出土の弥生時代前期の土器の内面から採取した付着炭化物（PLD-46037）と、弥生時代の倒木とされる自然木から採取した材（PLD-46038）、古代の木製品とされる 146 から採取した材（PLD-46039）、古代の遺構とされる SD368 から出土した炭化材（PLD-46040）、の計 4 試料である。測定試料の情報、調製データを第 11 表に示す。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3）結　　果

第 12 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した

^{14}C 年代、第 22 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-46037	試料：174（土器） 遺構：SK532 調査区：北2区 位置：13C 層位：1層 土器の時期：弥生時代前期	種類：土器付着物・内面（おこげ） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L） 処理備考：胎土混じり? ガス化備考：鉱物混じり
PLD-46038	試料：自然木（倒木） 調査区：南3区 位置：44U	種類：生材 最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46039	試料：146（木製品） 調査区：南3区 位置：41T	種類：生材 最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）
PLD-46040	遺構：SD368 調査区：南2区 位置：34P 層位：4層（最下層）	種類：炭化材 最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）

第 11 表　測定試料および処理

測定番号	δ^{13}C（‰）	暦年較正用年代（yrBP±1 σ）	^{14}C 年代（yrBP±1 σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-46037	-28.85±0.21	2924±21	2925±20	1195 - 1175 cal BC (13.03%) 1161 - 1144 cal BC (12.14%) 1129 - 1104 cal BC (18.78%) 1100 - 1077 cal BC (13.90%) 1071 - 1054 cal BC (10.42%)	1213 - 1048 cal BC (93.88%) 1027 - 1020 cal BC (1.57%)
PLD-46038	-27.80±0.19	1292±18	1290±20	675 - 691 cal AD (19.39%) 695 - 703 cal AD (10.33%) 740 - 753 cal AD (16.82%) 756 - 773 cal AD (21.73%)	666 - 708 cal AD (42.77%) 722 - 774 cal AD (52.68%)
PLD-46039	-23.79±0.21	1219±18	1220±20	774 - 775 cal AD (1.28%) 787 - 829 cal AD (51.14%) 855 - 873 cal AD (15.85%)	707 - 723 cal AD (5.24%) 773 - 776 cal AD (1.91%) 781 - 882 cal AD (88.30%)
PLD-46040	-25.70±0.22	1216±18	1215±20	774 - 775 cal AD (0.94%) 787 - 830 cal AD (49.27%) 854 - 874 cal AD (18.06%)	708 - 714 cal AD (1.61%) 716 - 721 cal AD (1.25%) 773 - 776 cal AD (1.87%) 781 - 882 cal AD (90.73%)

第 12 表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

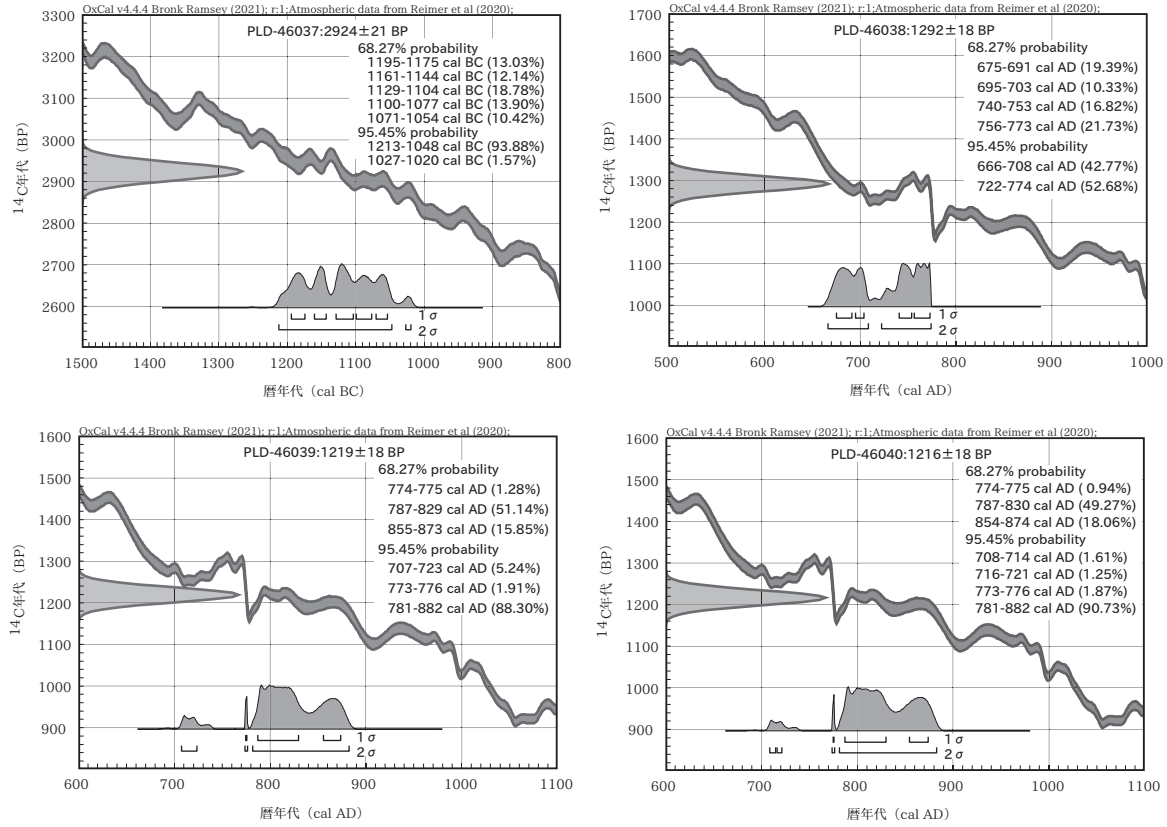
^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.45% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4）考　　察

SK532 から出土した弥生時代前期の土器の内面から採取した付着炭化物（PLD-46037）は、2 σ暦年代範囲（確率95.45%）で1213-1048 cal BC（93.88%）および1027-1020 cal BC（1.57%）の暦年代を示した。［小林 2017］を参照すると、この年代値は縄文晩期前葉～中葉に相当する。同一試料で行った炭素窒素安定同位体比分析の結果では、炭化物の由来は、土壌の影響を受けている C3 植物と推定されているため、土壌中に含まれる古い炭素の影響を受けている可能性がある。

南 3 区自然木（倒木）の材（PLD-46038）は、2 σ暦年代範囲（確率 95.45%）で 666-708 cal AD（42.77%）および 722-774 cal AD（52.68%）の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当し、推定時期である弥生時代前期よりも 400 年以上新しい年代である。

146 の材（PLD-46039）は、2 σ暦年代範囲（確率 95.45%）で 707-723 cal AD（5.24%）、773-776 cal



第 22 図　暦年較正結果

AD（1.91%）、781-882 cal AD（88.30%）の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期にあたり、推定時期に対して整合的である。

SD368 から出土した炭化材（PLD-46040）は、2 σ暦年代範囲（確率 95.45%）で 708-714 cal AD（1.61%）、716-721 cal AD（1.25%）、773-776 cal AD（1.87%）、781-882 cal AD（90.73%）の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期にあたり、推定時期に対して整合的である。

なお、木材は、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の木材試料 3 点（PLD-46038 ～ PLD-46040）は、いずれも最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、木材が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であった可能性がある。

参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51（1）, 337-360.

小林謙一（2017）縄文時代の実年代 －土器型式編年と炭素 14 年代－. 263p, 同成社.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano,

M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S.（2020）The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve（0-55 cal kBP）. Radiocarbon, 62（4）, 725-757, doi : 10.1017/RDC.2020.41. https : // doi.org/10.1017/RDC.2020.41（cited 12 August 2020）

E　炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹・森　将志（パレオ・ラボ）

1）は　じ　め　に

新潟県阿賀野市の山口遺跡より出土した土器の付着炭化物の起源物質を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料の C/N 比を求めた。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定を行っている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2）試料および方法

試料は、SK532 から出土した弥生時代前期の土器（174）の内面全面から採取した付着炭化物 1 点である。試料写真を第 25 図に示す。測定を実施するにあたり、試料に対して、超音波洗浄、アセトン洗浄および酸・アルカリ・酸洗浄（HCl：1.2mol/L，NaOH：1.0mol/L）を施して、試料以外の不純物を除去した。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）である Flash EA1112（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。炭素安定同位体比（$\delta^{13}C_{PDB}$）および窒素安定同位体比（$\delta 15N_{Air}$）の測定には、質量分析計 DELTA V（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比には IAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比には IAEA N1 を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に EA 内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に、還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムで CO_2 と N_2 を分離し、TCD でそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度 1000℃、還元炉温度 680℃、分離カラム温度 35℃である。分離した CO_2 および N_2 は、そのまま He キャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出した。

3）結　　果

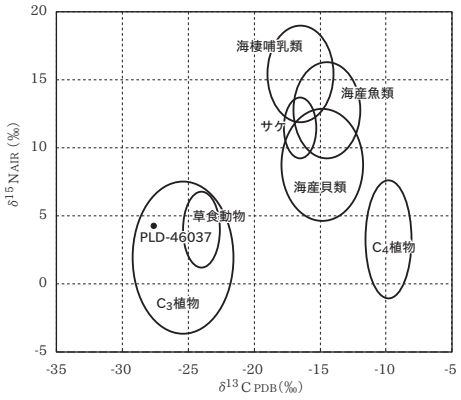
第 13 表に、試料情報と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N 比を示す。第 23 図には炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第 24 図には炭素安定同位体比と C/N 比の関係を示した。

第 23 図において、土器付着炭化物は C_3 植物の位置にプロットされた。

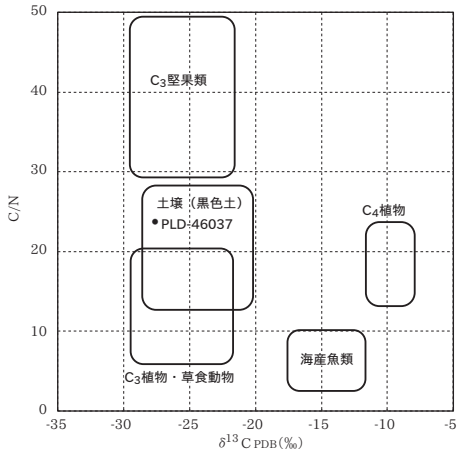
第 24 図において、土器付着炭化物は土壌（黒色土）の位置にプロットされた。

4）考　　察

土器付着炭化物は、第 23 図で C_3 植物の位置に、第 24 図で土壌（黒色土）の位置にプロットされ、土



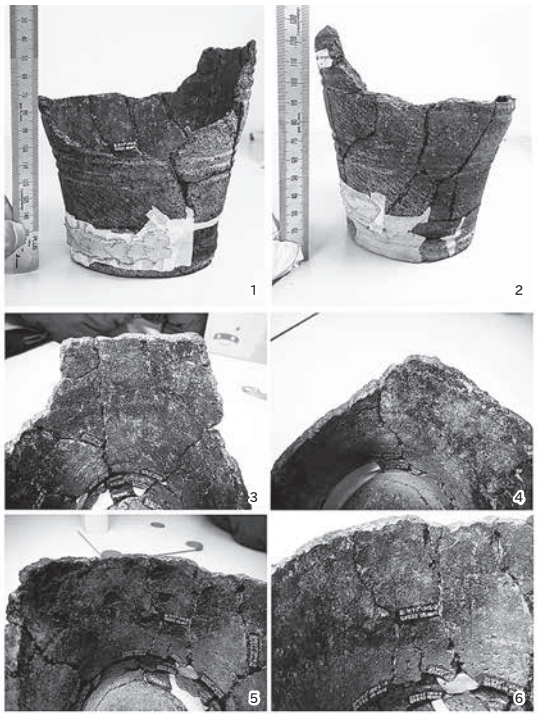
第 23 図　炭素・窒素安定同位体比
（吉田・西田（2009）に基づいて作製）



第 24 図　炭素安定同位体比と C/N 比の関係
（吉田・西田（2009）に基づいて作製）

試料番号	試料情報	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	$\delta^{15}N_{Air}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比
PLD-46037	試料：174（土器） 遺構：SK532 調査区：北2区 位置：13C 種類：弥生時代前期 土器の付着炭化物	-27.6	4.28	2.40	0.118	23.7

第 13 表　結果一覧表



1 土器全景　2 土器全景
3 土器内面　4 土器内面
5 土器内面　6 土器内面

第 25 図　試料写真

壌の影響も考えられるが、概ね C_3 植物に由来する炭化物と推定される。

参考文献

赤澤　威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元．田中　琢・佐原　眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132-143，クバプロ．

坂本　稔（2007）安定同位体比に基づく土器付着物の分析．国立歴史民俗博物館研究報告，137，305-315．

米田　穣（2008）丸根遺跡出土土器付着炭化物の同位体分析．豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」：261-263，豊田市教育委員会．

Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon, 44 (2), 549-557.

吉田邦夫・宮崎ゆみ子（2007）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究．平成 16-18 年度科学研究補助金基礎研究 B（課題番号 16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」，85-95．

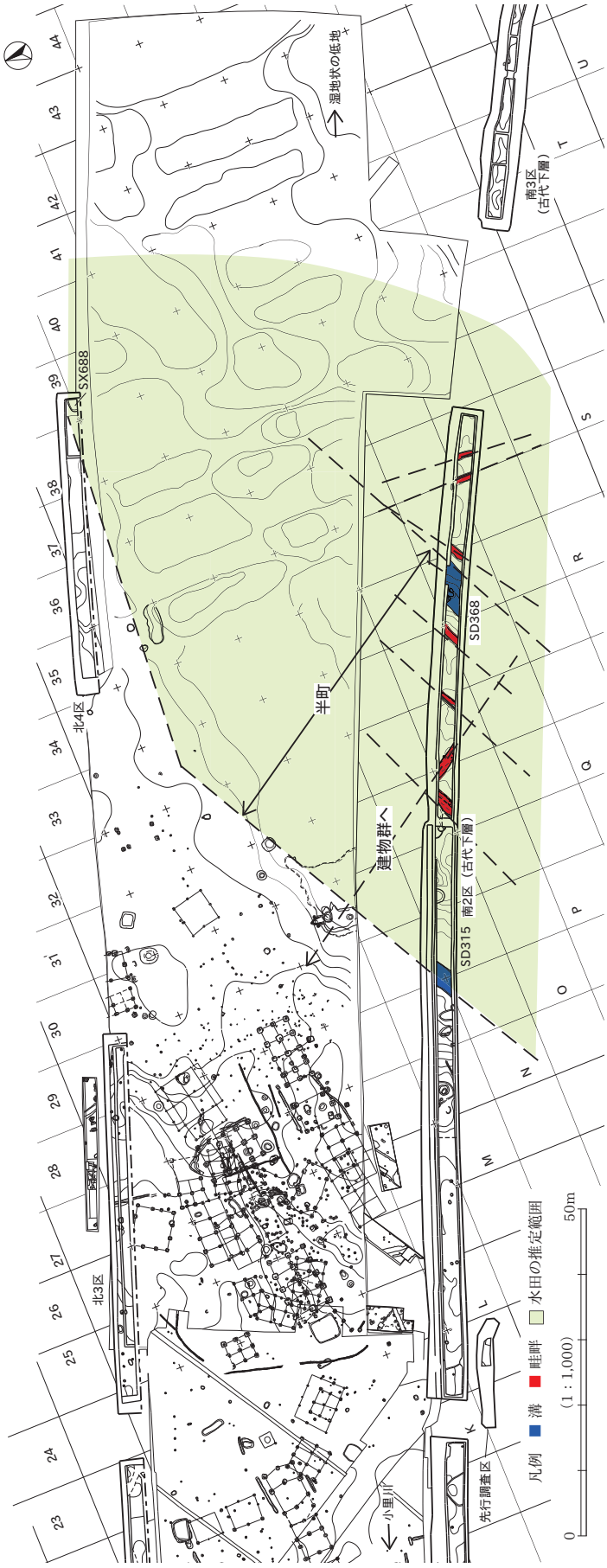
吉田邦夫・西田泰民（2009）考古科学が探る火炎土器．新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国　新潟」：87-99，新潟日報事業社．

5 ま と め

古代について

古代の山口遺跡は、規則的な建物配置、唐三彩、石銙（巡方）などの存在から、遣唐使節に参加できる人物や官人などの関りが想定されるものの、官衙関連遺跡と断定できるような政務の場であった可能性は低いとされている。遺跡の性格については、『総柱建物群を倉庫として仮定した場合、総柱建物は「食料に充てる穀（こく）」、中束柱のない建物は「翌年の種籾としての穎稲（えいとう）」を積み上げる可能性があることを指導委員会からご教示いただいた。穎稲とは稲穂が付いた状態の稲で、種籾としての保存に適するとされる。そのため、農民に種籾を貸し出す目的で行われていた出挙は穎稲で貸付・返済が行われたとされている。遺構の検出状況や遺物から想定される官人の関与を考慮すると、倉庫群であった可能性が高く、領主またはそれに類する在地の有力者が関わった遺跡と思われる』とある［石川ほか2020］。

今回の調査の成果として、建物群に隣接した水田の検出があげられる。水田は建物群から約30m東に位置し、徐々に標高を下げてゆく低地に広がる。建物群のある自然堤防は、東西方向の帯状に伸びており、水田もその地形に沿うように南東側に造営されたと考えられる。今年度の調査区は狭小なため、水田の区画や面的な範囲は不明であるが、調査区内で長さ約90mを検出している。水田は南2区の28Mグリッドに位置するSD315から東に広がる。SD315は徐々に標高を下げるという地形の変化に準じて設けられることから、建物群と、水田域の境界の溝と考えられる。SD315から東へ、畦畔361までは畦畔や溝などの遺構は検出していないが、耕作土と考えられるⅣb層から、イネの植物珪酸体が比較的高い密度で検出されていることや、踏み込み痕・耕作痕などが顕著となることから、水田が存在していた可能性は高い。水田の検出にあたり、坂井秀弥氏に「水田の範囲の確定が重要である」とのご指導を仰ぎ、調査区の再延長を行った（南3区）が、南3区はさらに約50cm低く、湿地状となっており（第Ⅲ章1B参照）、畦畔や踏み込み痕などは検出できなかった（植物珪酸体分析では水田の可能性が指摘されている）。水田は南2・3区間の未調査部分で途切れると推測すると、建物群から南東へ75～100mの幅で広がると考えられる。以上から、SX668（北4区）の調査所見を踏まえて水田の範囲を推定したものが（第26図）である。また、坂井氏には「条里型地割について検討すべき」とのご指摘を受けた。条里型地割に関しては、村上市西部遺跡［湯原ほか2010］において、8世紀代にさかのぼる条里型地割による水田が検出され、その造営に磐舟柵の関与が推測されている。本遺跡は、調査区の制約から明確にはしえないものの、それぞれの畦畔は平行・直交関係を呈する。ほぼ真北を示す畦畔も存在する。水田区画の詳細は不明であるが、地形に即しながらも規則的な区画を有していたと考えられる。さらに、上記のSD315と、用排水路と推測されるSD368の間隔は約55mを測り、およそ半町であること、大畦畔（畦畔361・362）には改良土を用いた大規模な地業を施し、往来や運搬などの道路としての機能が考えられることなど、西部遺跡との共通点も見出すことができ、計画的な水田開発が行われていたことが想定される。このような水田の造営には、高度な構築技術が必要であり、これを管理・維持する能力を有さねばならないことは容易に想像でき、先述の遺跡の性格を裏付けるものとなろう。また、旧小里川へ下る斜面部が広がっていたと予想される建物群の西側は、内水面交通の玄関的な重要な場であった可能性もあり、越後平野の潟湖や河川に面した他遺跡との相互の関連・連携も見出せる。古代の山口遺跡は、9世紀第2四半期をもって廃絶するが、調査の所見からは水害などの自然災害による外的要因とは考えにくく、他の政治的・社会的な要因によるものと推測される。



第 26 図　畦畔の方向と水田の推定範囲

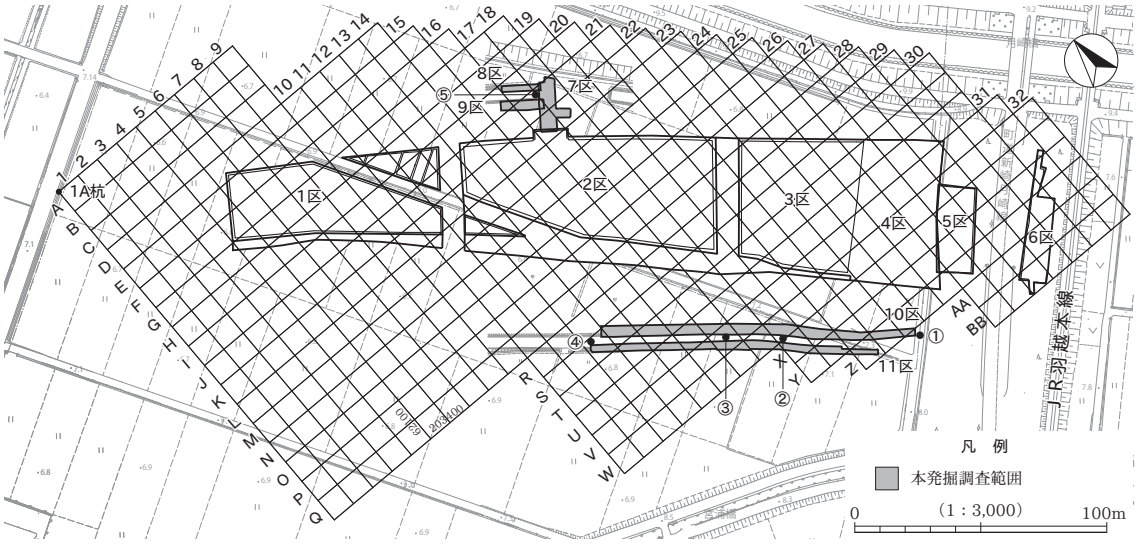
第Ⅳ章　山口野中遺跡Ⅳ

1　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

調査区は過年度調査において 6 区まで使用していることから、これを踏襲して 4 次調査（2020 年度）を 7 区、5 次調査（2021 年度）を 8 ～ 11 区とした。今回の調査区は 2 ～ 4 区に隣接し、その北東側に 7 ～ 9 区、南側に 10・11 区が位置する。

グリッドの設定は 1 次調査（2012 年度）に設定したグリッドを踏襲した（第 27 図）。大グリッド・小グリッドの設定や呼称は、山口遺跡の項（第Ⅲ章 1A）と同様である。起点となる大グリッド 1A の座標は、X 座標 203570.000（北緯 37 度 49 分 56.75682 秒）、Y 座標は 62050.000（東経 139 度 12 分 17.72584 秒）である。また、2011 年に発生した東日本大震災に伴う地殻変動の影響のため、国土交通省の座標補正パラメータファイルにより座標値を補正している。



第 27 図　グリッド設定図と柱状図位置

B　基　本　層　序

調査区は 2012 年度（第 1 次）に調査した 2 区に隣接することから、既刊の『山口野中遺跡』［村上ほか 2013］の基本層序に準じた。

上層（Ⅱ層）は 7・9 区で遺構を検出した。10・11 区は農道の敷設や、昭和初期の開田によりⅡ層が著しく削平を受けており遺存状況は良くない。中層であるⅣa 層上面では、中世の遺構が検出された。11 区 22Z グリッド付近に集中する。その他の調査区は、遺構が非常に希薄である。

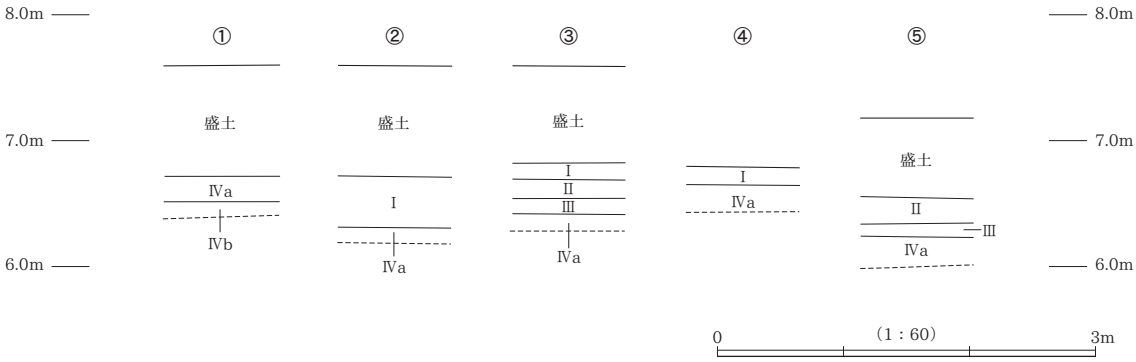
土層の観察と記録を行った地点は、第 27 図に示した。

Ⅰ層…灰黄褐色砂質シルト　表土。

Ⅱ層…にぶい黄褐色粘質シルト　7 区や 9 区の一部で確認された。中世の遺構検出面である。（上層）

Ⅲ層…暗褐色粘質シルト　9区 14T グリッド付近および 11 区の一部で確認された。2012 年の調査で遺物包含層として報告されているが本調査で遺物の出土はなかった。

Ⅳa 層…にぶい黄褐色粘質シルト　調査区全域で確認された。中世の遺構検出面である。（中層）



第 28 図　基本層序と柱状図

2 遺 構 ・ 遺 物

A 検出状況・所属時期

1）検　　出

上層の遺構は、7区で溝 2 条、9区で溝 3 条、10 区で土坑 3 基、溝 9 条を検出した。中層の遺構は、7区で溝 1 条、10 区で大溝 1 条、11 区で竪穴状遺構 1 基と大型溝の続きを検出した。これらの遺構は、SK2017 以外は調査区外に伸びていることから、性格を把握しきれていない。なお、8区からは遺構を検出していない。

遺物は、遺構内からは 10 区の SD2030 で古代の須恵器が 1 点出土したのみである。なお、SD99 からは近世以降の陶磁器が出土している。ほかに、撹乱から珠洲焼、縄文土器が出土している。

2）所 属 時 期

遺構の所属時期は、過年度調査の所見に倣い決定した。埋土は主に灰色系と灰褐・褐色系に 2 分することができる。このことから前者を近世以降、後者を中世とした。埋土がこれに当てはまる遺構に関しては所属時期を記述した。

B 7 区 の 遺 構

北東側の上層で溝 2 条、中層で溝 1 条を検出した。

1）上層（中世・近世以降）の遺構

SD99（図版 43・44・112）

18K6・7、18J4・5・9・13・14・18 グリッドに位置する。第 1 次調査で検出した溝の延長である。SD2031 と重複し、これより新しい。西北西から東南東方向に伸びる。底面は平坦だが、南東側が一段下がる。側壁は急斜度に立ち上がる。近世陶磁器が出土した。本遺構は明治時代の更正図と一致すること

から、所属時期は近世以降と推定される。

SD2031（図版 43・44・112）

18J13・18 グリッドに位置する。北北東から南南西方向に伸びる。埋土は単層で、褐色シルトが主体となる。底面は平坦で、側壁は南西側がやや急斜度に立ち上がり、北東側は緩やかに立ち上がる。

2）中層（古代・中世）の遺構

SD2032（図版 43・44・113）

18J3・4・9・10 グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる。埋土は単層で、褐色シルトが主体となる。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。Ⅳ層から掘りこまれている。所属時期は、中世と推定される。

C　9 区 の 遺 構

南西側の上層で、溝 3 条を検出した。

1）上層（中世・近世以降）の遺構

SD2000 ～ 2002（図版 43・44・113）

17J9・14・15 グリッドに位置する。SD2000・2001 は北北東から南南西方向に伸び、SD2002 は北東から南西方向に伸びる。SD200・2001 は重複し、SD2001 が新しい。3 条とも埋土は単層である。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。Ⅱ層から掘りこまれている。これらの溝の所属時期は、近世以降と推定される。

D　10 区の遺構・遺物

南西側の上層で土坑 3 基、溝 9 条、中層で溝 1 条を検出した。昭和の耕地整理などによる削平が著しく、19W グリッドから北西側では、遺構を検出できなかった。

1）上層（中世・近世以降）の遺構

a　土　　坑

SK2013（図版 43・44・114）

23AA7 グリッドに位置する。SD2003 と重複し、これより新しい。平面形は確認できず、調査区南端の調査区西壁と南壁のセクションで遺構と認定した。埋土は 2 層に識別できる。底面は平坦で、側壁は東側が急斜度に、北側がやや急斜度に立ち上がる。

SK2017（図版 43・44・114）

22Z14 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は弧状である。規模は長径 78cm、深さ 8cm を測る。埋土は単層でオリーブ褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

SK2023（図版 43・44・114・115）

21Z5、22Z1・6 グリッドに位置する。遺構の北東側は調査区外に伸びる。平面形は円形もしくは楕円形と考えられ、断面形は半円状である。調査区内の規模は、長径 268cm、深さ 87cm を測る。埋土は 4

層に識別でき、2 ～ 4 層には、にぶい黄褐色砂質シルトが混在する。底面はやや凹凸があり、側壁は底面から緩やかに立ち上がり、中位に段をもつ。所属時期は、埋土から中世と推定される。

b 溝

SD2003（図版 43・44・115）

23AA グリッドに位置する。東南東から西北西方向に伸びる。SK2013 と重複し、SK2013 より古い。埋土は 3 層に識別できる。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。

SD2005（図版 43・45・115）

22Z グリッドに位置する。東側は調査区外に伸び、平面形は楕円形を呈すると推定される。SD2019・2021・2028 と重複する。SD2021 より古く、SD2019・2028 より新しい。埋土は 3 層に識別でき、1 層は暗灰黄色シルト、2 層は褐灰色砂質シルト、3 層はオリーブ褐色砂質シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

SD2019（図版 43・45・115）

22Z12・13・18 ～ 21 グリッドに位置する。東南東から西北西方向に伸びる。SD2005・2021・2025・2028 と重複する。SD2005・2021 より古く、SD2024・2025・2028 より新しい。埋土は 3 層に識別でき、1 層はにぶい黄褐色砂質シルト、2・3 層は暗灰黄色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

SD2020（図版 43・45・115）

19X4・5・9・10 グリッドに位置する。北北東から南南西方向に伸びる。埋土は 3 層に識別でき、1 層は炭化物を含む灰黄褐色シルト、2・3 層は黄褐色粘質シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。

SD2021（図版 43・45・115）

21Z5・11、22Z6・12・13・19 グリッドに位置する。北西から南東方向に伸びる。22Z6 グリッドでは撹乱により上部を欠損している。SD2005・2019・2025・2028 と重複し、それらより新しい。埋土は 2 層に識別でき、灰黄褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は緩やかに立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

SD2024（図版 43・45・116）

22Z7・12 グリッドに位置する。北から南方向に伸びる。SD2025 と重複し、これより新しい。埋土は灰黄褐色シルトの単層で、植物遺体を含む。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。

SD2025（図版 43・45・116）

22Z7・8・12・13 グリッドに位置する。北から南方向に伸びる。SD2019・2021・2024・2028 が重複し、これらの遺構より古い。埋土は 3 層に識別でき、1 層は灰黄褐色シルト、2 層はオリーブ褐色シルトが堆積する。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

SD2028（図版 45）

22Z6・7・12・13・18・19 グリッドに位置する。SD2005・2019・2021・2025 と重複する。SD2021・2005・2019 より古く、SD2025 より新しい。平面では確認できず、調査区西壁の断面で遺構認定した。埋土は 2 層に識別でき、褐灰色シルトを主体とする。所属時期は、埋土から中世と推定される。

2）中層（古代・中世）の遺構

SD2030（図版 43・46・116）

21Y グリッドに位置する。北北東から南南西方向に伸びる。10･11 区で検出した。幅と走行方向から、3 区の SD11 と同一遺構の可能性がある。埋土は 10 層に識別でき、1 ～ 3 層は黄褐色シルト、4 ～ 10 層は褐色シルトと黒褐色シルトを主体とし、炭化物を含む。10 層は植物遺存体を含む。底面は半円状で、側壁は緩やかに立ち上がる。北西の立ち上がり部分は、近世以降の溝に破壊されている。1 層から古代の須恵器が出土した。また、10 層で検出した自然木を放射性炭素年代測定したところ、10 世紀頃の結果が得られた。

3）古代・中世・縄文時代の土器

a　出　土　状　況

遺物は、古代・中世・縄文時代の土器が出土した。図化した土器は、撹乱から出土したものも含め、古代の土器 1 点、中世の珠洲焼 2 点である。計 3 点をすべて掲載した。

b　古　　代

遺構出土土器

SD2030（1）

1 は須恵器無台杯で、底部の端から胴部下半にかけての破片である。胴部外面はロクロナデを施す。胎土は粗く、長石・石英を含む。阿賀北産である。8 世紀末から 9 世紀初頭に比定できる。

c　中　　世

撹乱出土の土器（2・3）

2 は珠洲焼片口鉢で、6 条以上の卸し目を施す。外面はロクロナデを施す。珠洲Ⅳ期に比定できる。3 は珠洲焼甕で、外面は平行タタキ目を施す。珠洲Ⅲ～Ⅳ期に比定できる。

E　11 区の遺構・遺物

10 区同様、昭和の耕地整理などにより削平を受けており、検出した遺構は少なく、調査区北西側の中層で竪穴建物状遺構 1 基、南東側では 10 区で検出した溝 SD2030 の続きを検出したのみである。

遺物は、撹乱から縄文土器が出土した。

1）中層（古代・中世）の遺構

a　竪 穴 状 遺 構

SI2027（図版 47・115）

14T1・2・7・8・13・14 グリッドに位置する。遺構の大半が調査区外になるため詳細は不明である。平面形は隅丸方形と考えられ、断面形は台形である。検出面での規模は、長径 664cm、深さ 36cm を測る。埋土は 3 層に識別でき、灰黄褐色土を主体とする。2 層は炭化物を多量に含む。底面は平坦で、側壁は急斜度に立ち上がる。所属時期は、埋土から中世と推定される。

2）撹乱出土の土器

a　縄文時代の土器（図版４・９）

遺物は、撹乱から縄文時代の土器が出土した。図化できた２点を掲載した。

撹乱出土の土器（４～６）

４は甕か深鉢である。外部は条痕文が施され、内面はナデ調整である。５は甕か深鉢である。外面は無文である。内面はナデ調整される。６は甕か深鉢で、外面は条痕文がみられる。内面はナデ調整される。いずれも小破片のため時期の特定は難しいものの、過年度調査の結果から晩期後葉の土器の可能性がある。

3　自然科学分析

田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

山口野中遺跡（新潟県阿賀野市大字月崎）は平安時代や中世の遺構・遺物が検出されている。本分析調査では遺跡から検出された木材の種類や年代を知る目的で、樹種同定、放射性炭素年代測定を実施する。

B　試　　料

分析試料は、10区中層のSD2030最下層（10層）出土の自然木（No.1）１点である。

C　分　析　方　法

1）樹　種　同　定

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データーベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東［1982］、Wheeler他［1998］、Richter他［2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林［1991］や伊東［1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

2）放射性炭素年代測定

試料の表面に付着した泥などの不純物を削り落として50mgに調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA：Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、

国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。$\delta^{13}C$ は試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma；68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4（Bronk 2009）、較正曲線は IntCal20（Reimer et al., 2020）である。

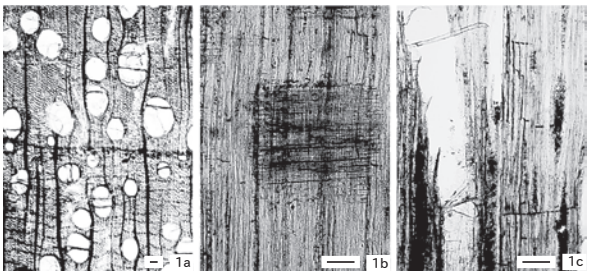
D　結　　果

1）樹　種　同　定

同定結果は、クルミ属である。以下に検出された種類の植物解剖学的所見を述べる。

・クルミ属（*Juglans*）　クルミ科

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または 2 ～ 3 個が散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1 ～ 3 細胞幅、1 ～ 40 細胞高。

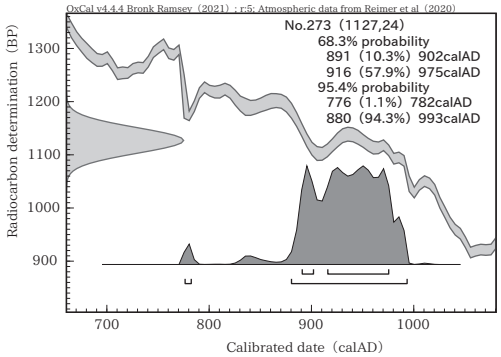


1. クルミ属（No.1）　　a：木口　b：柾目 c：板目
スケールは100μm

第 29 図　木材

2）放射性炭素年代測定

結果を第 14 表、第 30 図に示す。試料の保存状態は良く定法での分析処理が可能であり、測定に必要なグラファイトは十分得られている。同位体補正を行った値は、1125 ± 25BP である。暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは、IntCal20（Reimer et al.,2020）を用いる。2σの値は、calAD776 ～ 993 である。



第 30 図　暦年較正結果

No.	性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正年代				Code No.	
						年代値		確率 %		
1	木材 クルミ属	AAA（1M）	1125 ± 25（1127 ± 24）	-28.73 ± 0.42	σ	cal AD 891－cal AD 902 cal AD 916－cal AD 975	1060－1049 cal BP 1035－ 975 cal BP	10.3 57.9	YU-15033	pal-138712
					2 σ	cal AD 776－cal AD 782 cal AD 880－cal AD 993	1174－1168 cal BP 1070－ 957 cal BP	1.1 94.3		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。
5）暦年の計算には、OxCal v4.4 を使用
6）暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
7）較正データーセットは、IntCal20 を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は、σが 68.2%、2 σが 95.4% である

第 14 表　山口野中遺跡放射性炭素年代測定結果

E 考　　察

自然木の樹種はクルミ属であった。クルミは、河川沿いなど湿った場所を好み、成長が早く萌芽による更新も容易であることから、氾濫などの障害にも強い。遺跡の立地から考えて、周辺に生育していたと思われる。また、年代測定の結果から、樹木の年代観は 10 世紀頃と考えられる。

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.

林　昭三，1991，日本産木材顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181．

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176．

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201．

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166．

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216．

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編），2006，針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫･藤井智之･佐野雄三･安部　久･内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p．［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

島地　謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p．

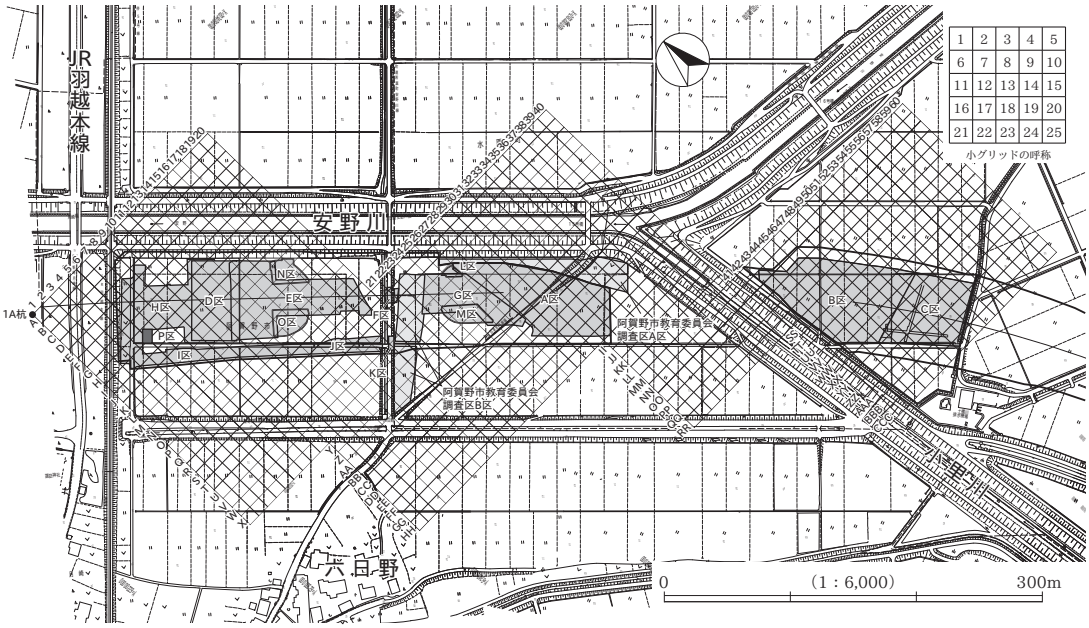
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修），海青社，122p．［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第V章　境 塚 遺 跡 V

1　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

2020（令和 2）年度の調査区（P 区）は、2015 年度に調査を行った H 区に囲まれるように設定されていることから、グリッドの設定にあたっては、2009 年度のものを踏襲した（第 31 図）。大グリッド・小グリッドの設定や呼称は、山口遺跡の項（第Ⅲ章 1A）と同様である。調査区北西端に位置し、基点とする 1A グリッドの座標（1A 杭）は、X=203340.000、Y=62300.000 となる。しかし、座標値は 2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（気象庁）」に伴う地殻変動の影響により、地震の前後で値に変動が生じた。地震後の 1A 杭の座標値は、X=203339.784、Y=62301.0296 である。遺構の検出位置及び、包含層出土遺物の位置などは、基本的にこのグリッド設定に従って記録した。なお、本発掘調査区と阿賀野市教育委員会の調査区とは、グリッド設定・呼称を統一している。



第 31 図　グリッド設定図

B　基 本 層 序

調査区の大部分は昭和初期の耕地整理・開田により、遺物包含層が削平されている。このため、表土直下が遺構確認面となる範囲が大半を占めている。基本層序は 2014 年度調査［荒川ほか 2016］に準じて、Ⅰ～Ⅶ層に分層できる。遺構面は、上層・古代中世（Ⅳ層）、中層・古墳時代（Ⅵ層）、下層・縄文時代晩期（Ⅶ層）の 3 面に存在することが明らかになっている［荒川ほか 2012・2016］。上層は遺跡全体、中層は G・M 区の一部、下層は D・H・I 区に認められる。このことから、今回調査の P 区では、上層と下層の調査を行った。なお、下層はより下位の層序については、旧河道の埋土と推測されるが、調査区が狭小なた

め、掘り下げは行っていない。

基本層序は以下の通りである。今年度調査で確認できなかったⅦ層については、2015 年度調査『境塚遺跡Ⅲ』［飯坂ほか 2018］から抜粋して掲載した。

Ⅰ層…表土・耕作土。

Ⅱ層…10YR4/1 褐灰色シルト。粘性・しまり強。褐色シルトブロックを層下位に含む。近世～昭和以前の耕作土と推測される。

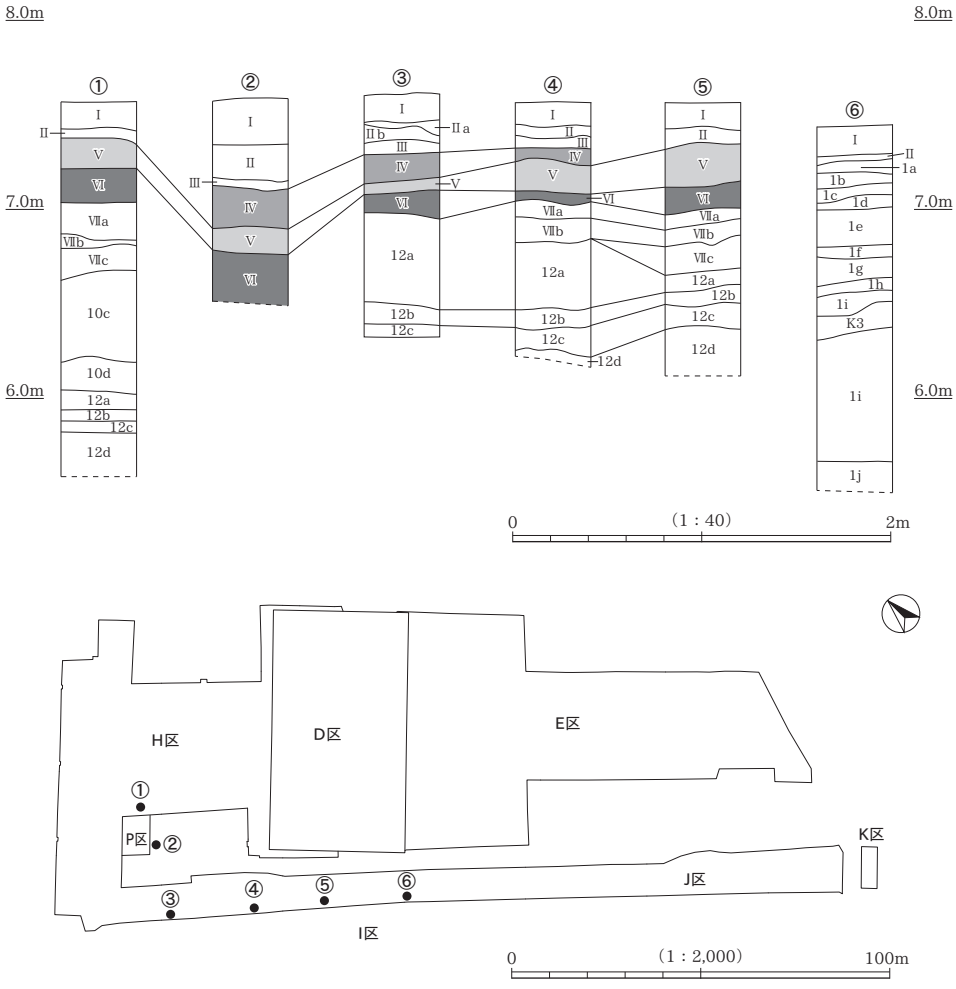
Ⅲ層…10YR4/4 褐色シルト。粘性･しまり強。赤褐色の鉄分を多量、Ⅱ層ブロックを少量含む。古代～中世の遺物が少量出土する。

Ⅳ層…10YR5/3 にぶい黄褐色シルト。粘性強､しまりやや弱。古代･中世の遺構確認面。赤褐色の鉄分、炭化物、砂粒を少量含む。

Ⅴ層…10YR4/3 にぶい黄橙色シルト。粘性、・しまり強。炭化物を含み、Ⅳ層に比して色調は暗い。古墳時代の遺物包含層と考えられる。

Ⅵ層…10YR6/4 にぶい黄褐色シルト。粘性やや強、しまり弱。砂粒を多量に含む。古墳時代の遺構確認面。縄文時代晩期の遺物包含層である。

Ⅶ層…同一層内の色調に違いが認められ、Ⅶa 層－灰黄色シルト（2.5Y7/2）、Ⅶb 層－淡黄色シルト



第 32 図　基本層序と柱状図位置

（2.5Y8/3）、Ⅶc 層－明黄褐色シルト（2.5Y7/6）に細分した。Ⅶ層上面は縄文時代晩期の遺構確認面である。

河道堆積層　D 区で検出した旧河道 SR2444 で、柱状図（第 32 図）の算用数字から始まる番号が、その埋土である。13 回の流路変遷があり、流路の新しいものから 1 ～ 13 の算用数字、切り合い内の新しい方から a ～ i のアルファベットを用い、それらを組み合わせて示したものである。基本層序Ⅶ層は、SR2444-10 ～ 12 層の上面に堆積している。

2　遺　　構

A　概　　要

今回の調査は H 区と I 区に隣接する、狭小な範囲が調査区となる。前述の通り、上層と下層（上下 2 面）を調査した。上層では、過年度調査区から延びる溝の検出に主眼を置き、中世の溝 3 条、ピット 4 基、古代の土坑を 1 基確認した。下層では、旧河道の 3a・h、5e、7b、8a 層と、12b・d 層で縄文時代晩期後葉の遺構が確認されており、『境塚遺跡Ⅲ』［飯坂ほか 2018］において、前者を旧河道上層、後者を旧河道下層に大別している。今調査の P 区は狭小であり、旧河道埋土の層序の把握が困難であった。よって、下層の遺構確認面は、報告されている標高を基準としてレベルを合わせることで、過年度調査と同一であるとみなした。旧河道上層で、ピットを 1 基検出したのみである。

B　古代・中世の遺構

SD2334（図版 49・117）

5・6H に位置する。2009 年度調査（D 区）［荒川ほか 2012］で検出した道 2 の側溝の続きである。南西側を SD5216 に切られているため、北東側の立ち上がりと底面を残すのみである。断面形は台形状を呈すると推測される。埋土は 3 層に識別でき、レンズ状に堆積する。1・2 層はやや粘性の強いにぶい黄褐色シルト、3 層は粘性の強い褐色シルトである。遺物は 3 層から土師質土器の細片がわずかに出土している。

SD5216（図版 49・117）

5・6H に位置する。前述した道 2 の主軸方向に近似する溝である。SD2334 より新しい。断面形は、下半が台形状、上半はごく緩やかに立ち上がる。埋土は 5 層に識別でき、粘性・しまりともに強い黄褐色系シルトがレンズ状に堆積する。3 ～ 5 層は径 5mm の炭化物を含む。遺物は土師質土器小皿（1）を図化したが、細片が多い。

SD5119（図版 49）

5・6H に位置する。位置関係から、H 区で検出されている溝の続きと推測される。上述の 2 条の溝と平行するが、SD5216 の 1 層を切り、新しい。断面は弧状を呈し、浅い。埋土は褐灰色シルトの単層堆積である。遺物は出土していない。

SX008（図版 49・117）

6H に位置する。断面形は弧状を呈する。埋土は 3 層に識別でき、レンズ状に堆積する。1･2 層は黒褐色･黄橙色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルト、3 層は砂粒を多く含む黄褐色シルトである。埋土の様相が中世遺構と異なることや、SD2334 に切られ、Ⅳ層下から掘り込まれていることが確認できたこと

から、古代に帰属する土坑と推測される。遺物は須恵器無台杯（2）が出土している。

C　縄文時代の遺構

P009（図版 50・117）

5H20 に位置する。縄文時代上層（標高約 6.7m）で検出した。埋土はにぶい黄褐色シルトが単層堆積する。遺物は出土していない。

3　遺　　物

上層で出土した土器を 4 点図化した。土師質土器の分類記号は『境塚遺跡Ⅱ』［荒川ほか 2016］に準じたものである。土師質土器は 13 世紀後半～ 14 世紀前半、須恵器は 9 世紀前半に位置付けられる。

SD5216（1）

1 は土師質土器小皿である。手づくね成形で、小皿 T 類に分類できる。

SX008（2）

2 は須恵器無台杯である。阿賀北産と推測される。

遺構外出土の土器（3・4）

3 は土師質土器皿である。焼成が不良でもろい。ロクロ成形で、底部は不明瞭だが、ヘラ切りの可能性がある。皿 RH1 類に分類できる。4 は須恵器無台杯の底部片である。底部は回転ヘラ切りされる。阿賀北産と考えられる。

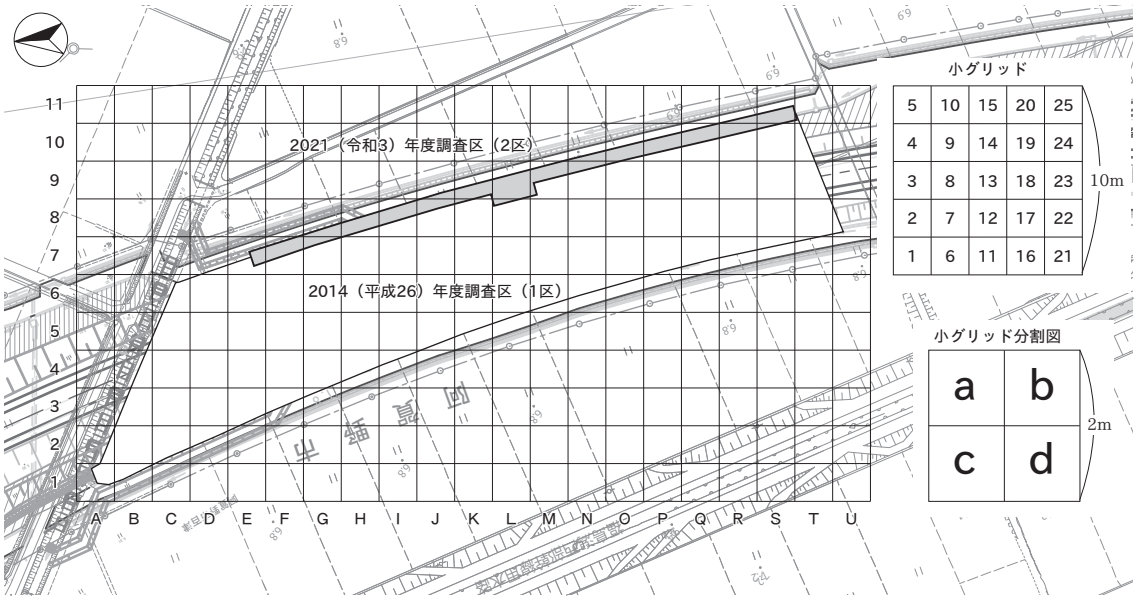
第Ⅵ章　新 町 遺 跡 Ⅱ

1　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

2021（令和 3）年度の調査区（2 区）は、2014 年度（1 次調査）調査区の東に隣接することから、グリッドの設定にあたっては、前回のものを踏襲した（第 33 図）。大グリッド・小グリッドの設定や呼称は、山口遺跡の項（第Ⅲ章 1A）と同様である。起点となる大グリッド 1A の座標は、X 座標 202710（北緯 37° 49′ 28″）、Y 座標 62823（東経 139° 12′ 49″）である。なお、東日本大震災後の 1A の補正値は X 座標 202709（北緯 37° 49′ 28″）、Y 座標 62831（東経 139° 12′ 49″）となる。

調査区は先述のような位置関係から、1 次調査区と区別するため 2 区とした。また、一部重複する部分もある。



第 33 図　グリッド設定図

B　基 本 層 序

1 次調査［秋山ほか 2016］では、遺跡の上部は著しく削平されていることが報告されている。隣接する本調査区においても、前回同様調査区の上部が削平を受けていると思われた。

表土掘削終了後に改めて土層の確認作業を行った。土層の記録位置は、図 34 の通りである。Ⅰ層である現代の水田耕作土は、調査区全域の①～⑤の標高 6.9m で確認した。中世の遺構検出面であるⅡ層は、調査区北側（①・②）は標高 6.7m、調査区南側（④・⑤）は標高 6.8m で確認した。上部が削平を受けており、中世の遺物包含層は確認できなかった。また、Ⅲ層以下は矢板設置内の 9L グリッド（③）で確認した。Ⅳ～Ⅹ層は無遺物層であり、Ⅳ層は砂質の強いシルト、Ⅴ～Ⅹは粘性の強いシルトであった。縄文土器の遺物包含層であるⅪ層は標高 5.0m で上面が確認された。Ⅺ層上面で遺構検出を行いピットが数基検出さ

れた。XI層は東から南へ緩やかに傾斜しており、局地的ながら旧地形の斜面落ち際に縄文土器が多数包含されていた。また、XI層掘削後、XII層上面で遺構検出を行い、数基のピットを検出した。

周辺に位置する境塚遺跡［荒川ほか2012、飯坂ほか2018］や石船戸遺跡［小野本ほか2019］などでは、縄文時代晩期の遺物包含層が報告されている。特に境塚遺跡では標高４～５mで縄文時代晩期の遺物包含層が報告され、本遺跡においても同様の標高で縄文時代後期の遺物包含層の存在が明らかになった。

Ⅰ層…褐灰色シルト 10YR5/1。粘性・しまり強。現代の水田耕作土。調査区全域で確認され、Ⅱ層を大きく削平している。部分的にはⅡ層を20cm程度撹拌し、鉄分が層下部で縞状に堆積している。

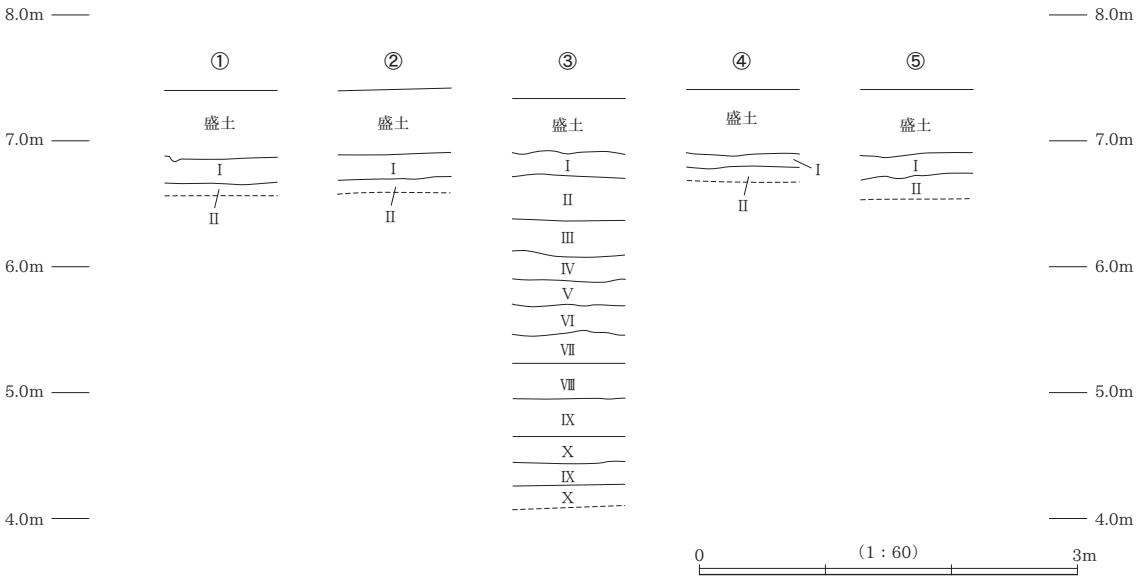
Ⅱ層…浅黄橙色シルト 10YR8/4。粘性中・しまり強。上部が大きく削平され、部分的に上層の水田耕作土により撹拌を受ける。中世の遺構検出面である。

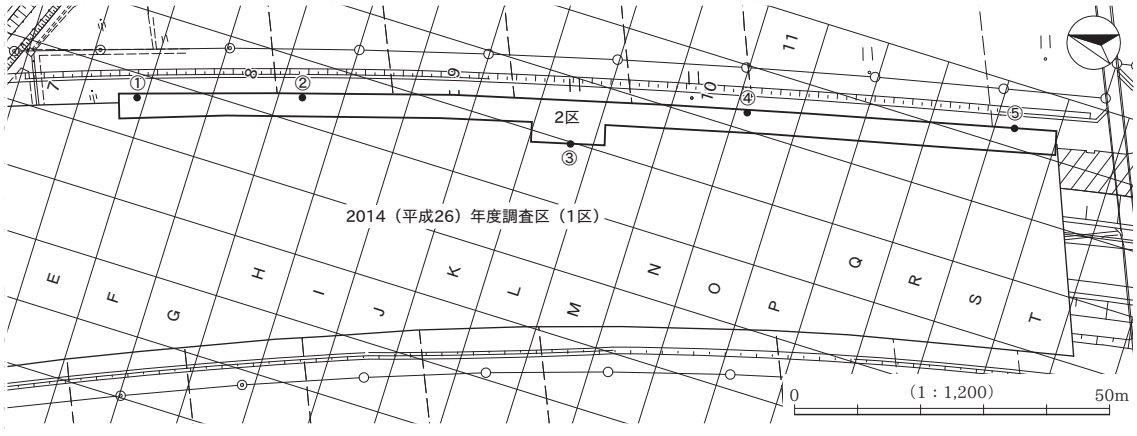
Ⅲ層…浅黄橙色シルト 10YR8/4。粘性中・しまり強。Ⅱ層と類似するが、Ⅱ層より砂質である。

Ⅳ層…明黄褐色砂質シルト 10YR6/6。粘性中・しまり弱。砂質の強いシルト層である。

Ⅴ層…浅黄橙粘質シルト 10YR8/3。粘性中・しまり弱。

Ⅵ層…浅黄橙粘質シルト 10YR8/3。粘性中・しまり弱。Ⅴ層と比較してやや明るく、粘性が強い。細砂を少量含む。





第34図　基本層序と柱状図位置

Ⅶ層…浅黄橙粘質シルト 10YR8/3。粘性中・しまり弱。Ⅵ層より若干明るい。

Ⅷ層…灰白色粘質シルト N6/。粘性強・しまり弱。

Ⅸ層…暗オリーブ灰色砂質シルト 2.5GY4/1。粘性弱・しまり強。東から南に向かって若干傾斜する。炭化物粒子を少量含む。

Ⅹ層…オリーブ灰色粘質シルト 2.5GY5/1。粘性弱・しまり強。

Ⅺ層…暗オリーブ灰色粘質シルト 5GY4/1。粘性弱・しまり強。東から南に向かって傾斜する。炭化物粒子を多量に含む。縄文時代後期の遺物包含層・遺構検出面である。

Ⅻ層…オリーブ灰色粘質シルト 2.5GY5/1。粘性強・しまり弱。東から南に向かって傾斜していた。縄文時代後期の遺構検出面。

2　遺　　構

A　遺構の検出状況

中世と縄文時代後期中葉の遺構を検出している。

中世の遺構は調査区の全域、Ⅱ層上面で検出した。井戸 10 基、土坑 2 基、溝 8 条、ピット 13 基、道状遺構 1 条である。遺構は調査区北端である 7E グリッドから 10O グリッドまで密度が高く、それ以南は希薄であった。井戸は調査区ほぼ全域に分布しており、9L グリッドでは井戸側をもつ井戸を検出した。調査区東端部分では SE644・655、SK632・636 を検出しており、遺構分布は調査区外の東側にも広がると考えられる。溝は SD101・102・327 ～ 329 が 2 次調査区まで延びていることを確認した。調査区北側で検出した P643 は柱穴と思われるが、周辺で柱穴は検出されなかった。

縄文時代後期中葉の遺構は、9L グリッドのⅪ層とⅫ層で検出した。Ⅺ層上面で検出したものは、ピット 6 基、Ⅻ層上面で検出したものは土坑 1 基、ピット 2 基である。調査範囲が限定的であり、縄文時代の遺構や遺物の分布は不明な点が多い。土器の出土状況から、矢板を設置した部分の東側、9･10L グリッドに遺構や遺物が多く存在する可能性がある。

B　中 世 の 遺 構

1）井　　戸

1 次調査において未調査となっていた井戸も含めて 10 基の調査を行った。そのうち今回の調査で、新たに検出したのは 5 基である。すべて素掘りで、底面標高は 5m 前後にまとまる。また、9L グリッドで検出した SE114･650 は出土遺物や井戸側の放射性炭素年代測定の結果から、道状遺構より古いと考える。

SE109（図版 53・55・119）

8J20・25、9J16・21 グリッドに位置する。1 次調査で検出した素掘りの井戸である。東側と底部付近は未調査であり、2 次調査で完掘した。平面形は円形で長径 222cm、短径 188cm、深さ 123cm を測る。断面形は袋状で底部はやや窪む。埋土を 1 ～ 6 層まで分層した。4 ～ 6 層はレンズ状堆積をなし、1 ～ 3 は黒色や灰色のシルトブロックを多量に含むことから、埋め戻された可能性がある。遺物は出土していない。

SE114（図版 53・54・55・119 ～ 121）

井戸側を有する方形縦板組井戸である。鐘方正樹［2003］は方形縦板組型を板材の厚さや隅柱・支柱

の有無等で分類している。本遺構は薄板を用い、支柱を有する方形縦板組型 B2 類にあたる。荒川［2016］が命名した方形縦板組薄板支柱横桟留型に該当するものである。

9L13・17 ～ 19・22 ～ 24 グリッドに位置する。1 次調査で部分的に調査が行われた井戸である。東側部分及び井戸側以下は未調査であったため、今回の調査では井戸の周囲に矢板を設置し、崩落防止の措置を施してから底部まで掘削を行った。東側一部は調査区外まで延びる。平面形は円形で、長径 395cm、短径 361cm、深さ 364cm を測る。断面形は漏斗状を呈する。最下部には水溜施設と思われる曲物（78・79）が二重に据えられている。

埋土は 15 層に識別できる。1 ～ 9 層は井戸側内、10 ～ 15 層は掘方の埋土（井戸構築時に井戸側の外側を埋め戻した土）である。地山層に由来するものであり、地山ブロックを多量に含む層（11 層）も確認できる。井戸側内の 6 ～ 8 層も多量の地山ブロックが混入しており、人為的に埋め戻されたと考えられる。

井戸側は N-16° -W を指す。井戸側は縦板、横桟、支柱で構成されていた。縦板外側で東西 106cm 南北 106cm、桟木上端で東西 94 南北 94cm であった。桟木は長さ約 94cm の角材の端部（仕口）を目違い柄に加工し方形に組んでおり、4 段を確認した。1 次調査の結果や断面の状況から、5 段存在したと推測される。方形に組んだ桟木を地山層に設置し、角材（支柱）を四隅に設置、その上にさらに桟木をのせる構造である。支柱は下から約 55cm（32-1、32-3、34-1・2）、約 42cm（32-2・4、33-1・3）、約 42cm（31-1、33-2、35-1・2）であり、最下段の支柱が若干長い構造となる。縦板は桟木を囲い、北・南・東側は上下 2 枚で構成されており、上段の縦板が外側につく。西側は前回調査で上段が外されたため不明な点もあるが、上段・中段・下段の 3 段で縦板が設置されていたと考えられる。上段と下段は外側、中段は内側に設置したと思われる。桟木の最下段に設置されていた面から水溜を掘り込み、外側は正位に内側は逆位に設置されていた。

桟木は 5 組（26 ～ 30）、支柱は 5 組（31 ～ 35）接合した。桟木は全長がほぼ同じものが接合したが、支柱は 32 のように異なる全長が接合するものもあった。縦板は長さや幅に統一はほとんど見られなかったが、2 組（37・38）接合した。

遺物は埋め戻されたと思われる側板内の 6 ～ 8 層から多数の加工木 49 点、用途不明の木製品（67・68･73)が出土した。土器は 1 層から産地不明の擂鉢(1)の胴部が出土した。掘方からの遺物の出土はない。井戸側は桟木 17 点、支柱 17 点、縦板 169 点である。

SE197（図版 53・55・121）

8H7・12 グリッドに位置する。1 次調査で検出した素掘りの井戸である。東側と底部付近は未調査であり、今回の調査で完掘、記録作業を行った。平面形は方形で、長径 169cm、短径 160cm、深さ 115cm を測る。断面形は漏斗状を呈し、底部は平坦である。埋土を 6 層に識別できる。レンズ状に堆積し、各層ともシルトブロックを含む。遺物は 6 層から瀬戸美濃焼小皿（2）が出土した。SE198 と重複関係にあり本遺構が新しい。

SE198（図版 53・55・121）

8H7・8・12・13 グリッドに位置する。1 次調査で検出された素掘りの井戸である。今回の調査で完掘、記録作業を行った。平面形は東側の一部が調査区外であるが、楕円形と推測される。長径 193cm、短径 101cm、深さ 106cm を測る。断面形は漏斗状を呈し、底部は平坦である。埋土は 7 層に識別できる。レンズ状に堆積し 1 ～ 5 層はシルトブロックを含む。遺物は 7 層から刳物の槽（74）が出土した。SE197 と重複関係にあり本遺構が古い。所属時期は中世である。

SE241（図版 53・56）

10S5・10 グリッドに位置する。1 次調査で検出した素掘りの井戸である。今回の調査で完掘、記録作業を行った。平面形は円形で長径 211cm、短径 105cm、深さ 157cm 以上を測る。断面形はＵ字状を呈し、底部はほぼ平坦である。埋土は暗灰黄シルト粘土が堆積する。遺物は出土していない。

SE631（図版 53・56・121）

7E23・24、7F3・4 グリッドに位置する。素掘りの井戸である。平面形は円形で、長径 184cm、短径 164cm、深さ 202cm を測る。断面形は漏斗状を呈し、底部は平坦である。埋土 24 層に識別できる。レンズ状に堆積するが、1 ～ 17 層は地山ブロックが多量に混入していることから、埋戻しの可能性がある。SD327 と重複関係にあり本遺構が新しい。

SE633（図版 53・56・122）

10O11・12・16・17 グリッドに位置する。素掘りの井戸である。平面形は円形で、長径 154cm、短径 130cm、深さ 162cm を測る。断面形はＵ字状を呈し、底部の一部がピット状に窪む。埋土は 7 層に識別できる。レンズ状に堆積するが、1 ～ 3 層はシルトブロックが多量に混入していることから、埋戻しの可能性がある。遺物は 2・5 層から珠洲焼片口鉢（4 ～ 6）、羽口（20・21）、7 層から青磁椀（3）が出土した。P648 と重複関係にあり、本遺構が新しい。

SE644（図版 53・56・122）

9J11・16 グリッドに位置する。素掘りの井戸である。平面形は円形と推測され、確認した範囲では長径 112cm 以上、短径 55cm 以上、深さ 116cm 以上を測る。断面形は漏斗状を呈する。埋土は 12 層に識別できる。レンズ状に堆積し、1 ～ 4 層は地山層のシルトブロックを含み、特に 4 層は地山層と酷似する。遺物は出土していない。

SE650（図版 53・57・122・123）

9L2・3・7・8 グリッドに位置する。底部に曲物が正位で設置される、素掘りの井戸である。平面形は円形で、長径 252cm、短径 242cm、深さ 238cm を測る。断面形は漏斗状を呈する。埋土は 28 層に識別でき、24 ～ 28 層は掘方内の堆積土である。中位～下位はレンズ状堆積をなし、上層の 1 ～ 18 層はブロック状に堆積する。上位の 1・2 層は、地山と非常に酷似しており、プラン検出は非常に困難であった。また、ブロック状に堆積している 3 ～ 18 層は、黒色や黒褐色等のシルトブロックが混入していた。20 層上面では炭化物が広範囲で確認された。遺物は 19 層から珠洲焼片口鉢（7･8）･鉄滓（22）･曲物側板（71）と底板（75・76）、漆器椀（69）、縄文土器（90・92・98）が出土した。縄文土器は包含層であるⅪ層からの自然流入と思われる。SD101・P647 と重複関係にあり、本遺構が古い。

SE653（図版 53・57・123）

8I9・14 グリッドに位置する。素掘りの井戸と推測される。平面形は円形で、長径 196cm、短径 134cm 以上、深さ 140cm を測る。断面形は漏斗状を呈し、底部は半円状である。埋土は 12 層に識別でき、レンズ状に堆積する。上位の 1 ～ 3 層は地山層と非常に酷似しており、検出面でのプラン確認作業は非常に困難であった。遺物は出土していない。

2）土　　坑

SK632（図版 53・57・123）

10O7 グリッドに位置する。東側は調査区外となるが、平面形は円形と推測される。長径 84cm 以上、

短径 73cm 以上、深さ 56cm を測る。埋土は 10 層に識別でき、レンズ状に堆積する。遺物は 10 層から珠洲焼甕の底部（9）が出土している。

SK636（図版 58・124）

10P8・13 グリッドに位置する。東側は調査区外となるが、平面形は楕円形と推測される。断面形はＶ字状を呈し、底部は北から南へ傾斜する。長径 162cm、短径 62cm 以上、深さ 96cm と思われる。埋土は 19 層に識別でき、レンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼片口鉢（10）が 15 層から出土した。

3）溝

溝は 8 条検出した。新たに検出した溝は SD630・634・637 である。その他は 1 次調査で検出した溝の続きである。

SD101（図版 53・58・124）

9L グリッドに位置する。1 次調査で検出した溝である。北西から南東に伸び、断面形は台形状を呈する。確認した範囲では、長さ 224cm、幅約 220cm、深さ 36cm を測る。埋土は 5 層に識別でき、レンズ状に堆積する。遺物は越前焼片口鉢（11･12）、鉄滓（23）、椀型滓（24）、漆器椀（70）、自然礫が出土した。SE650 と重複関係にあり本遺構が新しい。

SD102（図版 53・58・124）

9N・10N グリッドに位置する。1 次調査で検出した溝である。北西から南東に延びる。断面形は台形状を呈するも、底部の一部は窪む。確認した範囲では長さ 224cm、幅約 150cm、深さ 35cm を測る。埋土は 8 層に識別でき、レンズ状堆積する。遺物は土製円盤（13）、瓷器系陶器甕（14）、古銭（25）が出土した。

SD328（図版 53・58・124）

7F グリッドに位置し、SD329 とほぼ並行する。1 次調査で検出した溝である。北西から南東に伸びており、断面形はＶ字状である。確認した範囲では、長さ 230cm、幅約 100cm、深さ 50cm を測る。埋土は 10 層に識別でき、レンズ状に堆積する。遺物は須恵器杯蓋（15）が出土した。

SD329（図版 53・58・124）

7F グリッドに位置し、SD328 とはほぼ並行する。1 次調査で検出した溝である。北西から南東に伸びており、断面形は半円状を呈する。確認した範囲では、長さ 217cm、幅約 70cm、深さ 19cm を測る。埋土は 3 層に識別でき、レンズ状に堆積する。遺物は土器と羽口が出土したが、小破片のため図示しなかった。

SD630（図版 53・58）

7E グリッドに位置する。西から東へ伸びており、断面形は弧状を呈する。長さ 120cm、幅 116cm、深さ 5cm を測る。埋土は単層である。遺物は出土していない。

SD634（図版 53・58）

10O グリッドに位置する。西から東へ伸びており、断面形は弧状を呈する。確認した範囲では、長さ 106cm、幅約 65cm、深さ 13cm を測る。埋土は単層である。遺物は出土していない。

4）道　状　遺　構

9L ～ N グリッドに位置する。1 次調査の報告書［秋山ほか 2016］では、上記の SD101・102 は、道状遺構の側溝としての機能があげられる。削平の影響から、1 次調査と同様に、路面・路床は確認できなかった。SD101 から出土した礫は、路面の構築材の可能性がある。

5）ピ　ッ　ト

12 基検出した。特徴的なものについて述べる。

P643（図版 53・58）

7F4 グリッドに位置する。平面形は円形、断面形はＵ字状を呈する。長径 32cm、短径 18cm、深さ 25cm を測る。埋土は 3 層に識別できる。埋土の形状から柱穴と考えられる。遺物は出土していない。SD327 と重複関係にあり本遺構が新しい。

P647（図版 53・58・124）

9L2・3 グリッドに位置する。平面形は円形、断面形はＵ字状を呈する。長径 39cm、短径 33cm、深さ 41cm を測る。埋土は 5 層に識別できる。遺物は出土していない。

P648（図版 53・58）

10O12 グリッドに位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状を呈する。長径 43cm、短径 26cm、深さ 14cm を測る。埋土は 2 層に識別できる。埋土の形状から柱穴の可能性がある。遺物は出土していない。

P649（図版 53・58）

10O17 グリッドに位置する。平面形は円形、断面形はＵ字状を呈する。長径 26cm、短径 19cm、深さ 25cm を測る。埋土は 4 層に識別でき、3 層は炭化物を多量に含む。遺物は出土していない。

C　縄文時代の遺構

1）概　　要

本遺跡の北に位置する境塚遺跡は、標高約 7m 付近は縄文時代晩期の遺物や遺構の存在が周知されていた。本遺跡においても、SE114 及び 650 の掘削のために設置した矢板部分を、最終的にⅫ層まで掘り下げた結果、Ⅺ層に多量の炭化物を看取したことから、縄文時代の遺物包含層や遺構の調査を行った。Ⅺ層上面での遺構確認を行い、数基のピットを検出した。さらにⅪ層を掘削したところ、縄文時代後期中葉の遺物が出土した。Ⅻ層上面における遺構検出を再度行い、土坑及びピット数基を検出した。また、Ⅸ層上面で噴砂 2 か所を確認し、その中から縄文時代後期の土器（95）が出土した。噴砂の時期は不明である。

2）縄文時代上層の遺構

Ⅺ層は東から西に傾斜しており、斜面の落ち際に遺構が集中し、西側に向かって希薄となる。検出した遺構は、ピット 6 基である。P660 から土器片が出土した。

P657（図版 59）

9L3 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 27cm、短径 22cm、深さ 10cm を測る。断面形は台形状で、埋土は単層である。遺物は出土していない。

P658（図版 59）

9L8 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 30cm、短径 18cm、深さ 8cm を測る。断面形は弧状で、埋土は単層である。遺物は出土していない。

P659（図版 59・125）

9L8 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 21cm、短径 18cm、深さ 16cm を測る。断面形はＵ字状で、埋土は単層である。遺物は出土していない。

P660（図版 59・125）

9L8 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 45cm、短径 42cm、深さ 15cm を測る。断面形は弧状で、埋土は単層である。埋土から土器（80）が出土した。

P661（図版 59・125）

9L8 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 27cm、短径 24cm、深さ 11cm を測る。断面形は半円状で、埋土は単層である。遺物は出土していない。

3）縄文時代下層の遺構

上層（Ⅺ層）と同様に、Ⅻ層も東から西に傾斜している。遺構の分布状況も同様である。検出した遺構は土坑 1 基、ピット 3 基である。

SK667（図版 59・125）

9L3・8 グリッドに位置する。平面形は円形で、長径 68cm、短径 65cm、深さ 29cm を測る。断面形は半円状で、埋土は 2 層に識別でき、水平に堆積する。遺物は土器片が 2 点出土しているが、小破片であり図示しなかった。

P662（図版 59）

9L8 グリッドに位置する。平面形は円形で長径 29cm、短径 27cm、深さ 12cm を測る。断面形は台形状で、埋土は 2 層に識別できる。遺物は出土していない。

3　遺　　物

A　概　　要

中世、古代、縄文時代の遺物が出土した。後世の削平により、中世の遺物包含層が存在しないこともあり、総じて少ない。中世の遺物は主に井戸などの遺構からの出土である。貿易陶磁器、珠洲焼、越前焼、鍛冶関連遺物、古銭、木製品が出土した。土器は中世陶器がおよそ半数を占め、多くは珠洲焼片口鉢である。青磁は 4 点出土し、うち 3 点は椀である（第 15 表）。木製品は、すべて井戸から出土している。SE114 は遺存状態が良好であることから、積極的に抽出・図化を行った。古代の遺物は SD328 から 1 点須恵器が出土したのみである。縄文時代後期の遺物は、調査範囲が狭小であることから、量は多くない（第 15 表）。

時期	分類	器種産地	供膳具					調理具	貯蔵具	不明	合計
			椀	皿	杯	鉢	蓋	片口鉢	甕		
古代		須恵器					1				1
		土師器								3	3
中世	磁器	青磁	3	1							4
	陶器	珠洲焼						7	2		9
		越前焼						3			3
		瀬戸美濃		1							1
		瓷器系							1		1
		不明						1			1
合計			3	2			1	11	3	3	23

第 15 表　器種別土器破片数

B　古代・中世の遺物

1）分　　類

中世の土器は珠洲焼、越前焼、瓷器系陶器、瀬戸美濃焼、輸入陶磁器が出土し、種類及び器種ごとに分類した。珠洲焼は吉岡［1994］、越前焼は木村［2008］、瓷器系陶器は小田［1999］・鶴巻「2005」を参考にした。瀬戸美濃焼は藤澤［2008］、青磁は上田［1982］に依った。

2）土器・陶磁器

SE114（1）

1 は 1 層から出土した。陶器片口鉢の胴部である。生産地は不明である。

SE197（2）

2 は 6 層から出土した瀬戸美濃焼縁釉小皿の口縁部である。内側に釉薬が掛かる。後期様式Ⅱ期と考えられる。

SE633（3 ～ 6）

3 は 7 層から出土した青磁椀の胴部である。外面は縞蓮弁文が施される。ＢⅡ期と考えられる。4 ～ 6 は珠洲焼片口鉢である。4・5 は口縁部で、Ⅴ期に比定できる。6 は底部で、Ⅴ～Ⅵ期と考えられる。

SE650（7・8）

7・8 は珠洲焼片口鉢である。7 は口縁部で、Ⅲ期に比定できる。8 は 19 層から出土した胴部で、内外面に煤が付着する。Ⅳ～Ⅴ期と考えられる。

SK632（9）

9 は珠洲焼甕の底部で、時期は不明である。

SK636（10）

10 は珠洲焼片口鉢の胴部で、Ⅴ期に比定できる。

SD101（11・12）

11・12 は越前焼片口鉢である。Ⅴ期に比定できようか。

SD102（13・14）

13 は青磁皿の底部で、土製円盤に再加工されたものである。D 類と考えられる。14 は瓷器系陶器甕の胴部である。14 世紀代に比定できる。

SD328（15）

15 は須恵器蓋の端部である。胎土が非常に細かく小泊産と考えられる。

遺構外出土遺物（16 ～ 19）

16･17 は青磁である。16 は端反椀で、外面は縞蓮弁文･内面は圏線が施される。ＤⅠ類と考えられる。17 は椀の底部で、時期は不明である。18 は珠洲焼片口鉢の胴部で、Ⅳ期に比定できる。19 は越前焼片口鉢の口縁部で、Ⅴ期に比定できる。

3）鍛冶関連遺物・金属製品

SE633（20・21）

20･21 は羽口である。20 は先端部分であり､先端部分に滓が薄く付着する。21 は両端が欠損している。

SE650（22）

22 は鉄滓である。長さ 5.8cm、幅 9.3cm、厚さ 4.0cm、重さ 381.9g を測る。

SD101（23・24）

23 は鉄滓で、長さ 5.8cm、幅 4.1cm、厚さ 7.2cm、重さ 83.1g を測る。24 は椀型滓で、長さ 7.3cm、幅 5.3cm、厚さ 10.1cm、重さ 311.6g を測る。

SD102（25）

25 は洪武通寶（初鋳 1368 年）である。裏面に「浙」の文字が見られる。

4）木　製　品

a 概　　要

木製品は主に SE114 から出土した。ほとんどが井戸側部材であり、桟木・支柱・縦板・曲物で構成されている。ほかに SE650 から水溜の曲物・曲物底板・漆器椀、SE198 から刳物の角鉢、SD101 から漆器椀、SE631 から杭が出土している。遺構からの木製品出土数を第 16 表に示した。

	SE114	SE198	SE631	SE650	SD101
縦板（120cm 以上）	59				
縦板（60 ～ 120cm）	38				
縦板（30 ～ 60cm）	57				
縦板（30cm 以下）	67				
桟木	17				
支柱	17				
曲物（製品）	2			1	
曲物（部材）	3				
桶		1			
漆器類	1				1
杭			1		
加工品	1	1			

第 16 表　遺構別木製品出土点数

b 記述の方法

木製品は代表的なものを本文で記載し、その他詳細なデータは観察表に託した。図面の縮尺は縦板・曲物 1/10, 桟木 1/8, 支柱 1/6、その他は基本的に 1/3 で表した。一部縦板などは 1/12 にした。写真図版も図面図版と同じ縮尺になるように掲載した。

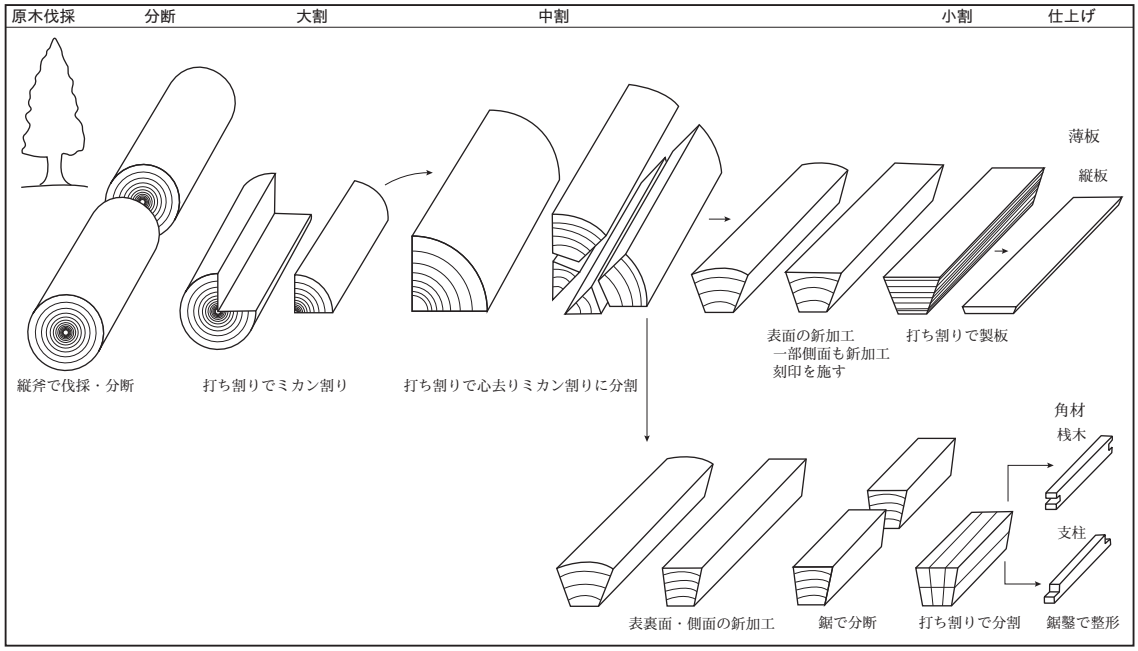
観察表は以下の観察項目を記載した。不明の場合は空白とした。

報告番号　図面図版及び写真図版に付した番号である。また、井戸側部材が接合した場合、枝番を付しその番号を示した。

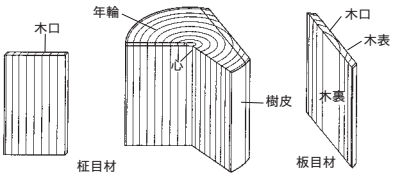
遺構番号　出土した遺構番号である。

出土位置　井戸側は方向、桟木や支柱は段数や位置を記載した。具体的な位置は井戸側側面図②（図版 55）や観察表に記載した。

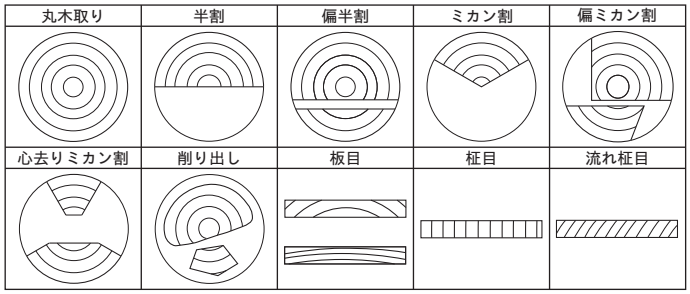
分　　類　奈良文化財研究所［1985］を参考にした。



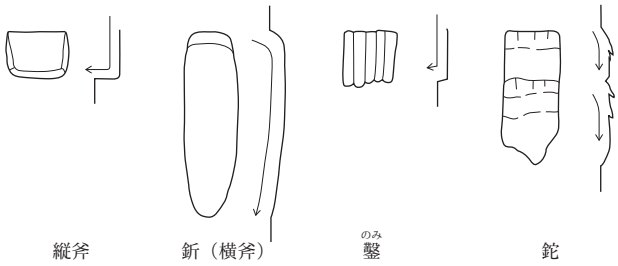
第 35 図　井戸側部材の製板・製材工程（［荒川ほか 2012］から転載・改変）



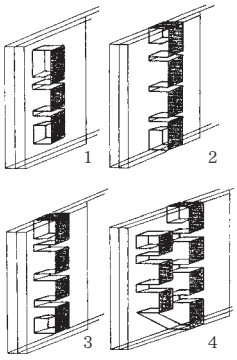
第 36 図　木取り及び木材一般の部分名称
（[橋本 2003] から転載）



第 37 図　木取りの分類（[荒川ほか 2004] から転載）

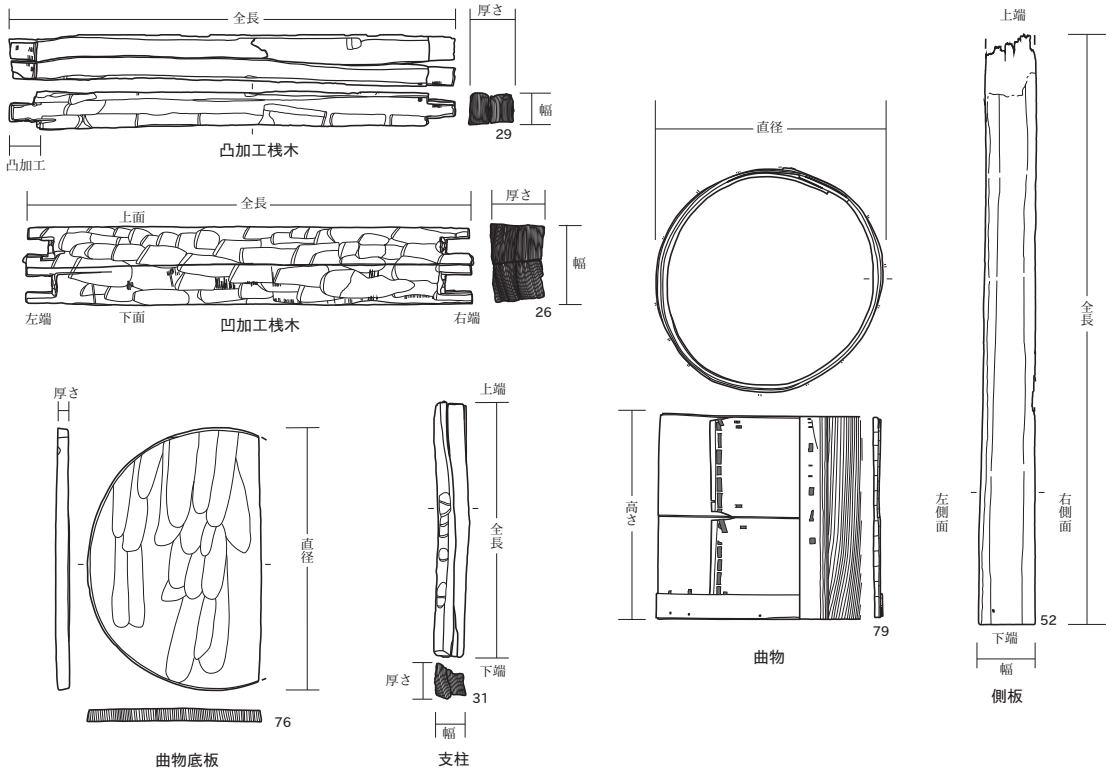


第 38 図　加工痕の分類と図の表現（[荒川ほか 2012] から転載）



1：1列内3段綴じ
2：1列外4段綴じ
3：1列上外下内4段綴じ
4：2列前外4段後内3段綴じ

第 39 図　曲物の綴じ方
（[奈良国立文化財研究所 1985] から転載）



第 40 図　器種別部位名称・図版表示（[荒川ほか 2016] を改変）

木 取 り　木材の部位名称は橋本［2003］、木取りは荒川ほか［2004］に従った。

法　　量　全長、直径、厚さ等を記載した。

樹　　種　樹種同定の結果を記載した。

調 整 痕　加工痕は荒川［2016］を参考に以下の通り記載した。また、縦板で観察された桟木等のあたり痕は観察表に記載し、図化しなかった。

縦　斧　側縁に直線的で垂直な階段状の段差を形成することが特徴である。加工底面は平坦である。主に縦板の木口に観察できる。

釿（横斧）　工具の入りは急角度で工具の出は段差を形成しない。加工底面は皿状にくぼむ。

鑿　加工幅が釿より狭く、加工面は直線的平坦である。側縁に浅い垂直の段差を有する場合がある。主に桟木の枘穴の加工でみられる。

鋸　1～3mm幅の溝状の引き痕がみられる。桟木や支柱の切断、桟木の枘などでみられる。

打ち割り　打ち割り技法により割り裂いて分割したものである。刃の長い工具と楔が使用され、楔は鉄製の工具や板を挿入した可能性がある。

c 各　　説

SE114

桟木（26 ～ 30）

現存長は92.5 ～ 96.5cm、幅は5.8 ～ 9.8cm、厚さは3.9 ～ 8cmである。樹種同定の結果、すべてサワラ？であった。26の裏面や28の上面、30の裏面で楔痕が見られ、打ち割りにより分割されたと考えられる。木口両端は鋸により切断されたものである。すべて、3枚接ぎ加工であり、切断後は鋸で枘や枘穴を加工し、枘穴は最終的に鑿により加工を行っている。

桟木は5組接合した。26は2段目（26-3）・3段目（26-2）・4段目（26-1）の桟木が接合したものである。すべて枘穴を有する。表面及び上下面は接合部分にまたがって釿による加工痕が全面で見られ、分割以前の加工と分かる。表面と上面は一方向から加工が行われ、表面は図左から右へ、上面は逆方向（図右から左）へ加工している。加工の幅は3.5 ～ 4.0cm程度である。下面は中央部分に釿による加工痕が見られる。一方向だけでなく、逆方向（図左側部分）からの加工も行われている。加工の幅は10cm程度である。分割工程は裏面の楔痕から26-1+26-2と26-3+26-4を分割し、その後26-1と26-2、26-3と26-4をそれぞれ分割したと推測される。27は井戸側の2段目（27-3）と4段目（27-1・27-2）の桟木が3点接合した。27-1は枘穴を有し、27-2と27-3は枘を有するものである。表面（27-2）は2方向の加工痕が見られる。図右から左方向へ加工後、逆方向（図右端）に加工している。加工の幅は5 ～ 10cm程度である。27-1下面は釿による加工痕が接合面をまたいでおり、分割以前の痕跡と考えられ、一方向に（図左から右）加工している。加工の幅は10 ～ 11cm程度である。27-3も裏面で2方向から、釿による加工痕が見られる。分割工程は木口の切断面が27-1と27-2で平坦であることから、27-1+27-2と27-3を分割後切断し、27-1と27-2を分割したものと思われる。28は井戸側の1段目（28-1）と3段目（28-2）の桟木が2点接合した。枘と枘穴を有する桟木が接合したものである。表・裏面・下面は釿による加工痕が見られる。下面は加工痕が接合部分をまたいでおり、分割以前の釿によるものであることが分かる。加工は2方向見られる。加工の幅は5 ～ 10cm程度である。裏面（28-2）は加工痕が1方向に見られる。分割工程は木口（図右側）の切断面が揃っていることから、右側木口は分割前の切断とみられる。切断後

28-1 と 28-1 に分割したと考えられる。29 は井戸側の 1 段目同士が接合した桟木である。上面は鉞による加工痕が、接合部分にまたがっており分割以前のものである。加工痕は 1 方向に行われ、加工の幅は 7 ～ 10cm 程度である。下面も鉞による加工痕があり、同様である。また、枘の加工部分（図左側）が 29-1 と 29-2 で揃っていることから、分割前に枘を加工したと考えられる。分割行程は木口の切断面（図右側）が平坦であることから、木口（図右側）切断後に分割したものと考えられる。30 は井戸側 2 段目同士が接合した桟木である。30-1 は裏面に鉞による加工痕が一部見られる。加工痕が接合面をまたいでいないため、分割後の加工痕である。加工の幅は 3 ～ 5cm 程度で、分割工程は木口の切断面が平坦でないことから、分割後に木口を切断したと考えられる。裏面に左右からの楔痕がみられ、30-1 と 30-2 に分割後にそれぞれ再分割したと思われる。

支柱（31 ～ 35）

現在長は 39.8 ～ 55.8cm、幅は 4.0 ～ 6.2cm、厚さは 2.0 ～ 5.5cm であった。樹種同定の結果、1 段目と 2 段目はスギ、3 段目と 4 段目はサワラ？であった。打ち割りにより分割されている。表面や側面に鉞による加工痕が見られるもの（31-1）がみられる。木口は鋸により切断されている。

支柱は 5 組接合した。31 は 2 段目（31-1）と井戸側内出土（31-2）の支柱で 2 点が接合した。31-1 の表面には鉞による加工痕が一部みられる。分割工程は両木口が平坦でないことから、分割後に木口を切断したと考えられる。32 は 3 段目（32-2・32-4）と 4 段目（32-1・32-3）の支柱で 4 点が接合した。表面は接合部分にまたがって加工痕がみられることから、分割以前の鉞による加工痕であり、右側面も同様である。木口上側は鉞により、細く加工されている。加工痕が接合部分をまたぐことから、32-1 と 32-3 を分割する以前の加工である。木口下側は切断面が平坦であるため、分割以前の切断である。分割工程は打ち割りにより（31-1+31-3）と（31-2+31-4）に分割する。さらに、木口上端（31-1+31-3）や（35-2+35-4）の切断面が平坦でないことから、分割後の切断（木口上側）をしている。33 は 2 段目（33-2）と 3 段目（33-1・33-3）の支柱で 3 点が接合した。表面及び左側面は鉞による加工痕があり、左側面の加工は分割以前の加工痕である。木口上側は鉞により、細く加工されている。また、木口下側は不揃いであることから、分割後に切断されたものと推測される。34 は 4 段目の支柱が 2 点接合した。分割工程は木口上側の切断面が平坦でないことから、34-1 と 34-2 を分割後、木口上側の切断を行ったと考えられる。35 は 2 段目の支柱で 2 点接合した。打ち割りにより分割され、35-1 は分割後の表面左側に、鉞による加工痕がみられる。分割工程は上下の木口が平坦でないことから、35-1 と 35-2 に分割後、木口を切断したと考えられる。

縦板（36 ～ 66）

板目 210 点、柾目 10 点で大多数は板目である。現存長で最長は 212.5cm、最大幅は 22.2cm、厚さは最小が 0.3cm、最大が 1.7cm で多数の縦板の厚さは 1cm 以下であった。表面の加工は主に鉞によるもの（36・41）が多い。接合したのは 2 組である。37 は 2 点接合した。両側面が鉞による加工痕がみられる。加工が接合部分にまたがっていることから、分割以前の加工である。左側面は下から上、右側面は下から上、上から下や斜めと様々な方向から加工されている。木口は斧による分断であり、右側が斧によるものである。38 は 2 点接合した。左側面は鉞による加工が接合部分にまたがっていることから、38-1 と 38-2 に分割する以前の加工痕である。加工は上から下に向かって施される。木口は斧によって分断されており、右側（図左側）加工痕がみられる。39・40 は側面に鉞による加工が見られる。木口は斧により分断され、40 は表面に鉞による加工痕がある。41 は表皮に近い部分であり、表面で部分的に上から下

に向かって、釿により加工が施される。44 ～ 51 は木口が斧によって分断された縦板である。42 は木口左側に斧による加工痕がみられる。45 は先端が折れたもので、47 は下部に 1.6mm の穿孔があり、いずれも再利用された板材と考えられる。48 は斧により分断され、木口左側に加工痕がみられる。49 は右側面からの楔痕があり、打ち割りによって分断されたことが分かる。50・51 は幅 11cm 程度で狭い縦板である。木口は斧によって分断されたものである。52 ～ 57 は木口が鋸によって分断されたものである。木口にみる木材の分断方法は、斧によるもの（36 ～ 50）、鋸によるもの（51 ～ 57）がある。また、それぞれの現存長と幅には、統一があまりみられない。51 のように全長が 200cm 以上あるものや、100cm 程度のものがある。幅は 5 ～ 22cm である。57 は先端や下部が鋸で半分切断され、折られたものである。58・60・63 は貫通孔があり、再利用材と考えられる。61 は表皮部分に近く、幅が 7.5cm を測る。62 は上部（図左上）が鋸により切断されている。64-1 と 64-2、66-1 と 66-2 はそれぞれを中央部分で折って切断したものが接合している。65 は非常に幅の狭い縦板で幅が 7cm 程度である。

曲物（78・79）

78 は厚さ 7mm 程度の板目板を 10cm 程度重ね巻いている。外側は上部と下部に格子状、内側は前面に縦方向の切り込みを入れている。さらに下側は、厚さ 4mm 程度の柾目材の箍で留めている。箍の外側に 15 か所の釘孔、内側に 14 か所の釘孔が認められる。79 は内側を厚さ 7mm 程度の板目材を用い、8cm 程度重ね巻いて留め、その外側の上部と下部は、厚さ 4mm 程度の柾目材を廻し留めている。さらに、下側は柾目の厚さ 4mm 程度の柾目材を廻す。箍の下部には 13 か所の釘孔が認められる。

不明木製品（67・68・73）

67・68 は井戸側内部から出土したものである。両端とも鋸で途中まで切断し、その後折っている。先端両側は釿により斜めに加工される。73 は棒状に加工されたもので、側面が面取りされ、両端が炭化している。

SE198（74）

74 は刳物の槽である。4 隅のうち 3 か所が欠損している。外面は側面及び底面の一部に加工痕がみられる。加工方向は内外面ともに一方向である。底部の一部は炭化している。

SE631（72）

72 は杭である。上部や側面が欠損しているが、面取りした部分が 3 面みられる。

SE650（69・71・75 ～ 77）

漆器（69）、曲物（71・77）や曲物底板（75・76）が出土した。69 は椀で内外面とも黒漆が施される。内面に赤漆で草花文が描かれる。木胎部はブナ属、下地は錆漆である。71 は曲物の側板の一部で、厚さ 3mm 程度の柾目板で外側に黒漆が認められる。木胎部はスギ、下地は炭粉下地か、油煙に漆を混ぜたものとの結果を得ている。77 は曲物で、厚さ 7mm 程度の柾目材を巻いている。内側縦方向に切り込みを入れ、さらに外側は幅 16cm・厚さ 4mm 程度の柾目材 3 枚を上・中・下に巻き留めている。また、上部と下部に厚さ 4mm 程度の柾目材を巻き留めている。下部の箍に 8 か所の釘孔が認められる。75 は曲物の底板で、厚さ 1cm 程度であり、側面に釘孔が 2 か所みられる。両端は炭化し欠損している。76 は曲物の底板で内側（図右側）に一方向に加工痕がみられる。

SD101（70）

70 は漆器椀である。内面は赤漆、外面は黒漆が施される。木胎部はブナ属、下地は錆漆である。

C　縄文時代の遺物

1）概　　要

縄文時代の遺物は、P660 や SE650、包含層（Ⅺ層）から土器と石器が出土した。土器 77 点・石器 5 点である。中世の遺構である SE650 から縄文土器が出土しているが、SE650 は縄文時代の包含層を掘り抜いており、機能時に包含層から自然流入したものと思われる。土器は、平行沈線文系（82・84）、曲線文系（81･86･87）、粗製土器（89 ～ 96）、華燭土器（97･98）が出土した。『土橋北遺跡･石船戸北遺跡』［村上ほか 2021］を参考に、縄文時代後期中葉の年代観が得られた。

2）土 器 ・ 石 器

P660（80）

80 は鉢の胴部片である。摩耗しており、内外面の調整などは不明瞭である。

包含層出土遺物（81 ～ 99）

81 は口縁部がラッパ状に広がり、下位にかけてややすぼむ深鉢である。地文は LR を用いた羽状縄文で、沈線がみられる。直線もしくは曲線の沈線で区画し、部分的に縄文を磨り消している。82 ～ 87 は縄文と沈線で構成された土器片である。82 は波状口縁の浅鉢と考えられる。平行沈線と細かな縄文が施文されている。沈線文の外側は縄文が磨り消される。83 は深鉢で、口縁部に横走する沈線より上部は細かい縄文 LR が磨り消される。胎土に混入物がみられない。84 は斜め方向の沈線を施文後に 4 条の平行沈線を施したことが看取できる。85 は頸部片で沈線の下は無文である。86 は弧を描く沈線の下に 1 条の沈線が横走する。87 は細かい縄文 LR を用いた羽状縄文で、沈線がみられる。88 ～ 94 は粗製土器である。88 は底部片で、内面の膨らみが顕著である。89 は外面にミガキが施される。粘土紐の積み上げ痕が残る。90・91 は深鉢で、縄文 LR が施文される。92 は縄文 RL が施される。内面に炭化物が付着する。93 は無文の深鉢で、内外面に炭化物が付着する。94 は外面にミガキが施される。95 は胎土に長石が目立つ。96 は外面に粘土紐の積み上げ痕が残る。97・98 は華燭土器の先端部分と推測される。97 は先端が円形でくぼむ。下部には両方向から穿通した径 1.5cm の貫通孔がある。口縁部下に沈線が一周巡り、側面は Y 字状に描かれる。Y の字の内側（三角形の部分）は陰刻される。貫通孔を囲む円形の沈線もみられる。胎土の混入物はほとんどみられず精良、焼成も堅緻である。全体的に丁寧なミガキが施される。98 は平行と四角の沈線が描かれ、全面に径 3mm の円形刺突文が施される。下部には貫通孔があり、それを囲む円形の沈線がみられる。99 は石匙である。石材はメノウで、左側面に調整加工痕がみられる。

4　自然科学分析

田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）

A　は　じ　め　に

新町遺跡（阿賀野市大字百津字新町）は中世の集落で井戸や溝などの遺構が検出されている。本分析調査では井戸などから検出された木製品の種類や、木材が検出された遺構の年代、漆器の塗りの構造を知る目的で、樹種同定、放射性炭素年代測定、漆薄片作成観察を実施する。

B 試　　料

分析試料は、井戸材など 52 点である。遺物の詳細は、結果も含めて第 17 表に示す。年代測定用試料は No.56、漆薄片作成観察試料は No.70、69、71 であり、いずれも樹種同定と同一である。

C 分 析 方 法

1）樹 種 同 定

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東［1982］、Wheeler 他［1998］、Richter 他［2006］を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林［1991］や伊東［1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

2）放射性炭素年代測定

試料の表面に付着した泥などの不純物を削り落として 50mg に調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA : Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ^{13}C は試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma ; 68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う［Stuiver & Polach 1977］。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4（Bronk 2009）、較正曲線は IntCal20（Reimer et al., 2020）である。

3）漆 薄 片 作 成

漆片を合成樹脂で包埋し、塗膜の断面が出るようにダイヤモンドカッターで切断し、切断面を研磨する。研磨面をスライドガラスに接着し、反対側も切断と研磨を行ってプレパラートとする。プレパラートを生物顕微鏡、実体顕微鏡、マイクロスコープ、偏光顕微鏡等で塗膜断面の構造･混和物等について観察する。

D 結　　果

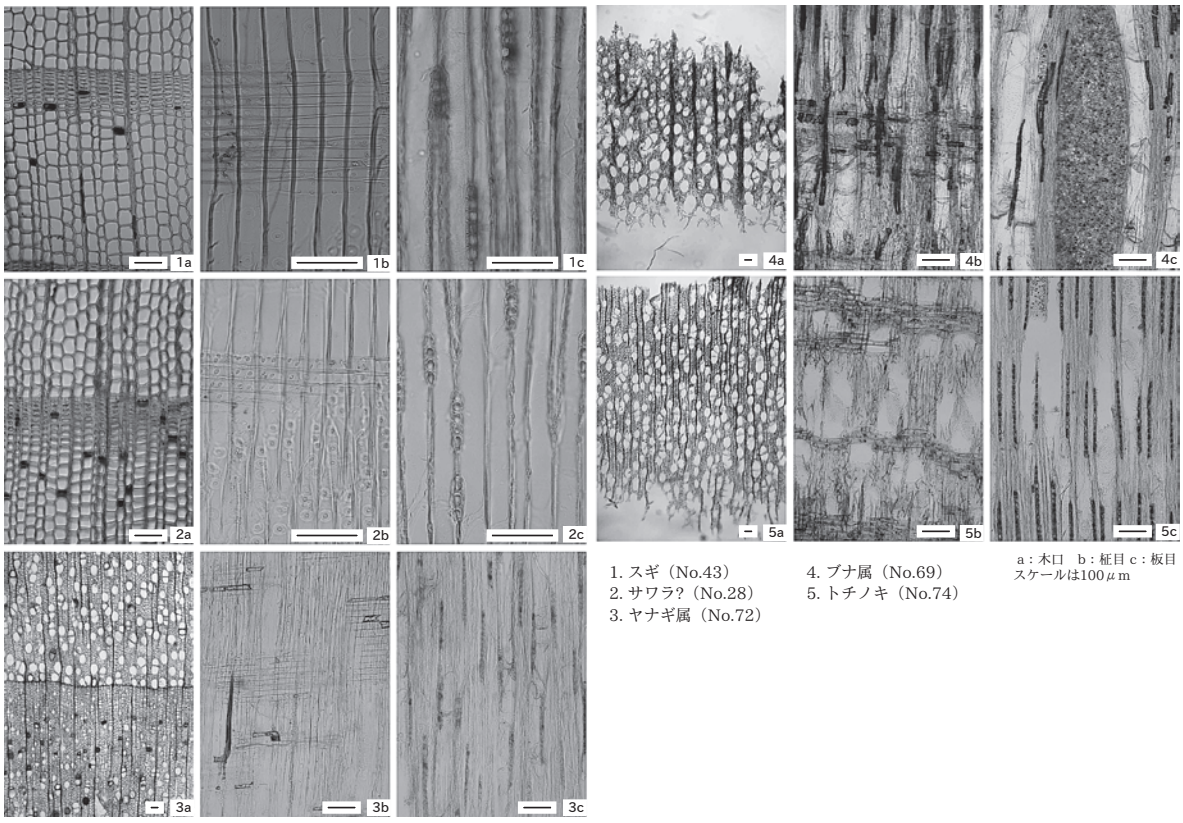
1）樹 種 同 定

結果を第 17 表に示す。針葉樹は 2 種類（スギ、サワラ）、広葉樹は 3 種類（ヤナギ属、ブナ属、トチノキ）である。以下に検出された種類の植物解剖学的所見を述べる。

遺物No.	木取り	遺構（出土地）	種類	斧/鋸	樹種名	備考
26	板目	SE114	桟木	鋸	サワラ?	
27	板目	SE114	桟木	鋸	サワラ?	
28	板目	SE114	桟木	鋸	サワラ?	
29	柾目	SE114	桟木	鋸	サワラ?	
30	板目	SE114	桟木	鋸	サワラ?	
31	柾目	SE114	支柱	鋸	スギ	
32	板目	SE114	支柱	鋸	サワラ?	
33	柾目	SE114	支柱	鋸	サワラ?	
34	柾目	SE114	支柱	鋸	サワラ?	
35	柾目	SE114	支柱	鋸	スギ	
36	板目	SE114	縦板	斧	スギ	井戸枠内
37	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
38	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
39	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
40	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
41	板目	SE114	縦板	斧	スギ	表皮に近い
42	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
43	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
44	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
45	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
46	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
47	柾目	SE114	縦板	斧	スギ	
48	板目	SE114	縦板	斧	サワラ?	
49	板目	SE114	縦板	斧	スギ	井戸枠内
50	板目	SE114	縦板	斧	スギ	
51	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
52	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	

遺物No.	木取り	遺構（出土地）	種類	斧/鋸	樹種名	備考
53	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
54	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
55	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
56	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	年代測定
57	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
58	柾目	SE114	縦板		スギ	
59	板目	SE114	縦板		スギ	
60	板目	SE114	縦板		スギ	
61	板目	SE114	縦板		スギ	
62	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	井戸枠内
63	板目	SE114	縦板	鋸	スギ	
64	板目	SE114	縦板		スギ	井戸枠内
65	板目	SE114	縦板		スギ	井戸枠内
66	板目	SE114	縦板		スギ	井戸枠内
69		SE650	漆器		ブナ属	内：黒地に赤色彩　外：黒漆
70		SD101	漆器		ブナ属	内：赤漆　外：黒地に赤色彩
71	柾目	SE650	曲物		スギ	内、外とも黒漆
72		SE631	杭		ヤナギ属	
73	板目	SE114	不明		スギ	井戸枠内上段、両端炭化
74	板目	SE198	槽		トチノキ	刳物
75	柾目	SE650	曲物		スギ	底板
76	柾目	SE650	曲物		スギ	底板
77	外側：籠柾目 内側：板目	SE650	曲物		スギ	
78	板目、籠柾目	SE114	曲物		スギ	
79	外側：籠柾目 内側：板目	SE114	曲物		スギ	

第 17 表　新町遺跡樹種同定結果



1. スギ（No.43）
2. サワラ?（No.28）
3. ヤナギ属（No.72）
4. ブナ属（No.69）
5. トチノキ（No.74）

a：木口　b：柾目 c：板目
スケールは100μm

第 41 図　木材

・サワラ？（*Chamaecyparis pisifera*？（Sieb. et Zucc.）Endlcher） ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～スギ型で、1 分野に 2 個が多い（1 ～ 3 個）。放射組織は単列、1 ～ 15 細胞高。なお、ヒノキ属は解剖学的特徴から、ヒノキとサワラに区別できる（Noshiro,2011）。今回は、これを基準にサワラを同定したが、分野壁孔の状況がヒノキに近いものや、晩材部の形状がスギに近い個体も存在する。このことから、サワラ？とした。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don） スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2 個が多い。放射組織は単列、1 ～ 10 細胞高。

・ヤナギ属（*Salix*） ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または数個が複合して散在する。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1 ～ 15 細胞高。

・ブナ属（*Fagus*） ブナ科

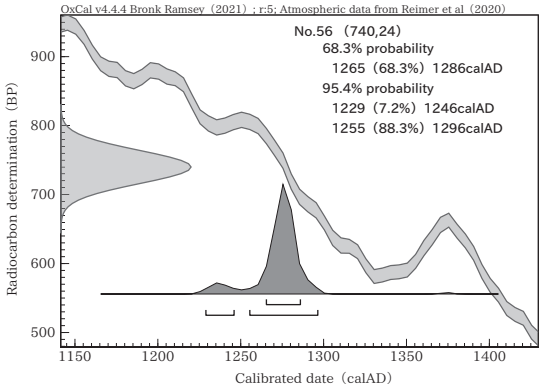
散孔材で、管孔は単独または放射方向に 2 ～ 3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume） トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または 2 ～ 3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、1 ～ 15 細胞高で階層状に配列する。

2）放射性炭素年代測定

結果を第 18 表、第 42 図に示す。試料の保存状態は良く定法での分析処理が可能であり、測定に必要なグラファイトは十分得られている。同位体補正を行った値は、740 ± 25BP である。暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データーセットは、IntCal20（Reimer et al.,2020）を用いる。2σの値は、calAD1229 ～ 1296 である。



第 42 図 暦年較正結果

No.	性状	方法	補正年代（暦年較正用）BP	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正年代				Code No.	
					年代値			確率％		
56	木材スギ	AAA（1M）	740 ± 25（740 ± 24）	-23.45 ± 0.41	σ	cal AD 1265－cal AD 1286	685－665 cal BP	68.3	YU-15032	pal-13871
					2 σ	cal AD 1229－cal AD 1246 cal AD 1255－cal AD 1296	722－705 cal BP 695－654 cal BP	7.2 88.3		

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
2）BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差 σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。
4）AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。
5）暦年の計算には、OxCal v4.4 を使用
6）暦年の計算には 1 桁目まで示した年代値を使用。
7）較正データーセットは、IntCal20 を使用。
8）較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
9）統計的に真の値が入る確率は、σ が 68.2%、2 σ が 95.4% である

第 18 表　新町遺跡放射性炭素年代測定結果

3）漆 薄 片 作 成

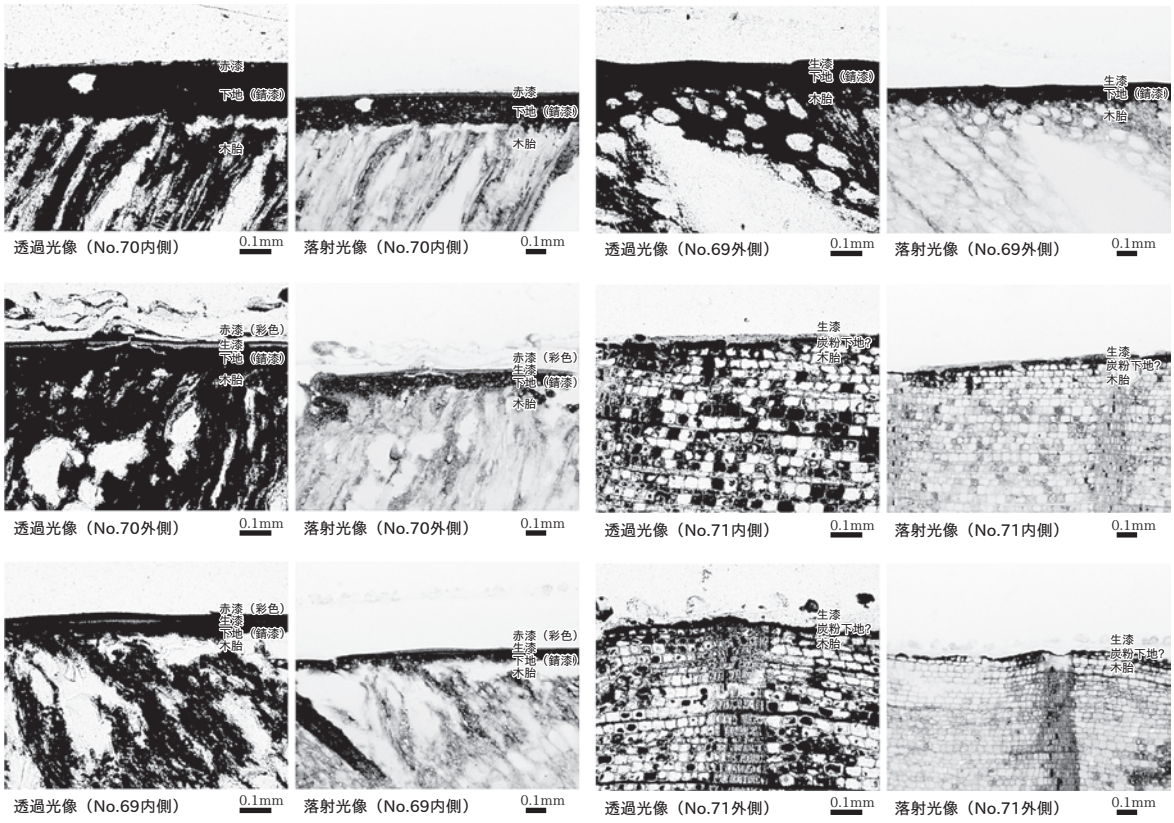
第 43 図にマイクロスコープ（落射光）で撮影したものと、光学顕微鏡（透過光）で撮影したものを掲載する。以下に各漆器の薄片観察結果を述べる。

・No.70

木胎部はブナ属である。内側の色は赤で、下地の厚みは 0.1mm である。下地を観察すると、粘土やシルト径の鉱物粒が混じることから、砥粉と漆を混ぜ合わせた錆漆が用いられている。（錆下地）。その上に薄く（0.02 ～ 0.03mm）顔料で着色された赤漆が塗られている。外側の色は黒で、内側と同様に錆下地である。その上に薄く（0.02 ～ 0.03mm）生漆が塗られている。さらにその上に赤漆で模様が彩色されている。

・No.69

木胎部はブナ属である。内側の色は黒で、下地の厚みは 0.1mm の錆下地である。その上に薄く（0.02 ～



第 43 図　漆薄片

0.03mm）生漆が塗られている。さらにその上に赤漆で彩色がなされている。外側の色は黒で、構造は赤漆での彩色がなされていないほかは、内側と同じである。

・No.71

木胎部はスギである。内側、外側ともに構造は同じである。生地の上に、薄く（0.02 ～ 0.03mm）下地がある。炭化物が混じっているので、柿渋に炭を混ぜた炭粉下地と思われるが、やや粒子が細かいので油煙に漆を混ぜたものが使われている可能性もある。その上に薄く(0.02 ～ 0.03mm)生漆が塗られているが、劣化により漆部分が一部剥がれている。

E 考　　察

井戸（SE114）から検出された木材の約 80% がスギ、ついでサワラ？が多く、針葉樹が 95% 以上を占める。これらの木材は、水湿に強いほか、太くまっすぐな材が得やすく、加工も容易である。このため、井戸材としては向いている。また、曲げにも強いことから、曲物としても用いられる。県内遺跡の中世遺跡の事例を、伊東・山田編［2012］の木材データベースから検索すると、井戸材のほとんどがスギで、次いでヒノキやサワラが使われる傾向にあり、本分析調査の組成と似る。スギは、現在では山間部にその分布が限られているが、富山県入善町には低地にスギの天然林が存在しており、富山県魚津市の海底からはスギの埋没林が検出されている。また、北陸地方の遺跡からはスギの木製品や自然木が多数検出されていることから、以前は、日本海側を中心に、低地周辺にもスギが多く生育していたと考えられている［鈴木 2002 など］。このため、近くでスギが得やすい環境にあり、多用されたと思われる。

また井戸から検出された木材の年代値は、13 世紀を示し、推定される年代観と調和的である。

漆薄片作成対象資料のうち、漆器はいずれもブナ属である。ブナ属は柔らかい材質のため、挽物に向く木材で、漆器で多く使われる樹種の一つである。下地はいずれも砥粉を漆で混ぜた錆下地である。地が黒色の面は、その上に茶褐色の生漆を塗って仕上げている。地が赤色の面は、錆下地の上に、顔料で着色した赤漆を塗っている。No.70 の外側、No.69 の内側にみられる彩色は、黒色の面の上に赤色の顔料を混ぜた漆で書かれている。針葉樹の漆製品は、両面とも、黒色の下地（炭粉下地？）に、生漆を塗って仕上げている。時代別の漆塗の技法は、岡田編［2002］にまとめられているが、本分析調査で対象とした漆製品は、中世の技法としては一般的な手法である。また、挽物の普及品には炭粉下地が使われることが多いため、確認された錆下地の漆器は、やや上品といえる。

引用文献

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.

林　昭三，1991，日本産木材顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181.

伊東隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所．66-176.

伊東隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.

伊東隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.

伊東隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編），2012，木の考古学　出土木製品用材データベース．海青社，449p.

Noshiro Shuichi, 2011, Identification of Japanese species of Cupressaceae from wood structure. Japanese Journal of Historical Botany, 19, 125-132.

岡田文男編，2002，文化財のための保存科学入門．角川書店，375p.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S.,2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33..

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編），2006，針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫･藤井智之･佐野雄三･安部　久･内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

島地　謙・伊東隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.

鈴木三男，2002，日本人と木の文化．八坂書房，255p.

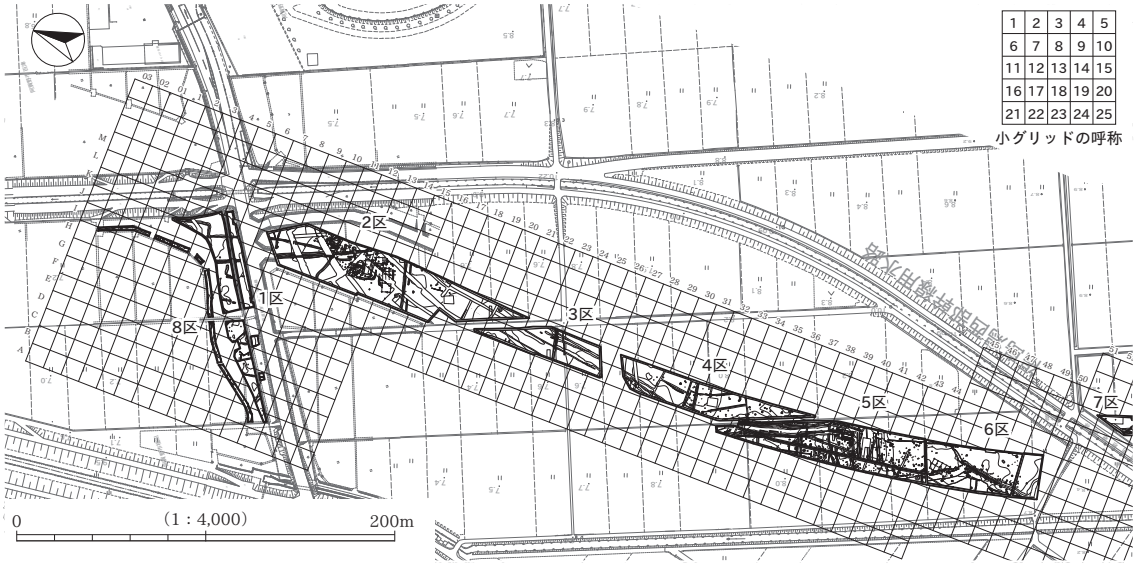
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第Ⅶ章　石船戸東遺跡Ⅱ

1　調 査 の 概 要

A　グリッドの設定

2021（令和3）年度の調査区（8区）は、2016年度に調査を行った1区の北および東に沿って設定されていることから、グリッドの設定にあたっては、2015年度のものを踏襲した。大・小グリッドの設定や呼称は、山口遺跡の項（第Ⅲ章1A）と同様である。調査区北側に位置する1Iグリッド北西隅の座標は、X=202330.000、Y=62900.000となる。なお、今年度調査区は2015年度設定グリッドに収まらずに北へ伸びる。よって南北の算用数字を反転させることで、グリッドを追加している。追加部分については、算用数字の前に「0」を付し、過年度調査区と混同しないようにした。そして、北へ伸びるに従い「02・03・04…」と数が大きくなるように設定した。遺構の検出位置及び、包含層出土遺物の位置などは、基本的にこの組み合わせで記録した。



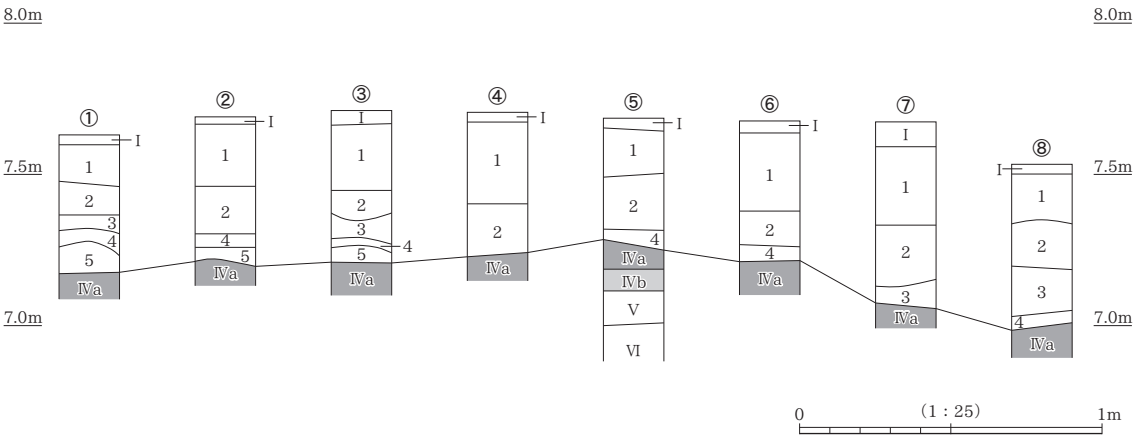
第44図　グリッド設定図

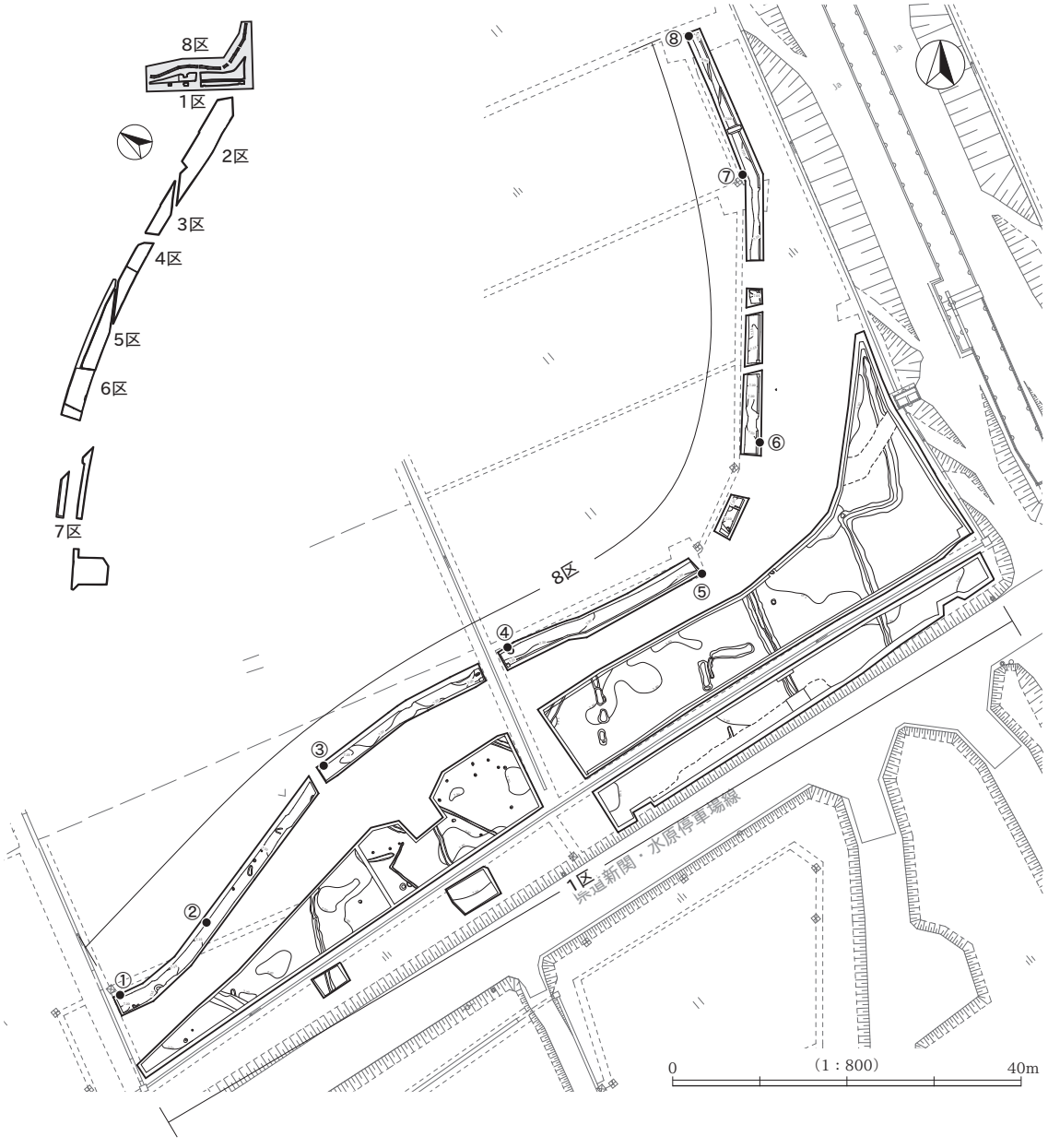
B　基 本 層 序

基本層序はⅠ～Ⅵ層に分層できるが、調査区全体がほ場整備による削平を受けており、Ⅱ・Ⅲ層は残っていない。5～10cm前後の表土下は、1埋め戻しの真砂土、2床土、3水田由来の灰黄褐色シルト、4赤褐色の鉄分を多量含む灰黄褐色シルト、5黄褐色シルトが混入するⅢ・Ⅳ層由来のシルトが人為的に堆積する。その下位はⅣ～Ⅵ層を確認している。2016年度調査においては、炭化物を含み、遺物が出土する暗色帯の堆積（Ⅱ・Ⅵ・Ⅸ・Ⅺ・Ⅻ層）が確認されているが、本年度調査区ではⅥ層のほかは看取できなかった。今年度調査で確認できなかった層については、既刊報告書［小野本ほか2019］から抜粋して掲載した。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層…10YR4/2灰黄褐色シルト。表土。





第 45 図　基本層序と柱状図位置

Ⅱ層…暗褐色シルト。中世の遺物包含層。削平により確認できない。

Ⅲ層…黄褐色シルト。中世の遺構確認面。削平により確認できない。

1 層…盛土（真砂土）

2 層…10YR5/1　褐灰色シルト。水田の床土。

3 層…10YR5/2 灰黄褐色シルト。粘性・しまりやや強。赤褐色の鉄分を含む。

4 層…10YR4/2 灰黄褐色シルト。粘性・しまりやや強。赤褐色の鉄分を多量に含む。

5 層…10YR4/2 灰黄褐色シルト。粘性・しまりやや強。黄褐色シルトを含む。

Ⅳa 層…10YR5/4 にぶい黄褐色シルト。粘性やや弱、しまりやや強。古代の遺構確認面。褐色の鉄分を多量に含む。

Ⅳb 層…10YR5/3 にぶい黄褐色シルト。粘性やや弱、しまりやや強。灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。

Ⅴ層…10YR6/4 にぶい黄橙色シルト。粘性、・しまりやや強。赤褐色の鉄分、灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。

Ⅵ層…10YR6/3 にぶい黄褐色シルト。粘性強、しまりやや強。赤褐色の鉄分を多量に含む。

2　遺　　構

A　概　　要

遺跡は、阿賀野川の流路跡にできた旧百津潟の縁辺部に位置する。掘削前の標高は約 7.5m を測り、平坦である。調査範囲全体は、削平のために中世の遺物包含層に相当するⅡ層（上層）は遺存しない。このため削平と水田の影響を受けていないⅣ層で遺構検出を行った。よって、古代・中世・近世の遺構は同一面に混在する状況となった。遺構の帰属時期は、出土遺物がほとんど無いものの、遺構埋土の違いから判断した。検出した遺構の総数は土坑 10 基、ピット 4 基、溝 20 条である。その中で、水田の床土由来の埋土を持つ溝 17 条については近世遺構として除外した。中・近世とした遺構は水田由来の灰黄褐色シルトを含むが、暗褐色や暗黄褐色シルトを主体とする。土坑 3 基、溝 3 条、ピット 1 基がある。中世の遺構は土坑 5 基、ピット 3 基、溝 1 条。古代の遺構は土坑 2 基を数える。埋土は、両者ともにぶい黄褐色シルトなどが堆積するが、中世は古代に比して色調がやや明るく、含まれるシルトブロックも多く看取できる。

B　中・近世の遺構

SK14（図版 70・71・133）

8D6 グリッドに位置する。東側を SD06 に切られている。埋土は暗褐色シルトの単層で、褐灰色シルトブロックを含む。深さ 14cm を測る。遺物は出土していない。

SK20（図版 70・71・133）

6F4・5 グリッドに位置する。円形の土坑であるが、埋土は削平の影響でほとんど残っていない。暗褐色シルトの単層である。深さ 6cm を測る。

SK33（図版 70・71・133）

10B3・4 グリッドに位置し、SD32 に切られている。埋土はにぶい黄褐色シルトで 2 層に分層できる。深さ 43 を測る。

SD25（図版 70・71・134）

02I11・16・17・20・21 グリッドに位置し、南北方向に延びる溝である。埋土は 3 層に識別でき、1 層は暗灰黄色シルトで水田に由来すると推測される。2 層は褐色シルトを含む暗灰黄色シルト、3 層は黄褐色シルトブロックを含む灰黄褐色シルトである。深さ 37cm を測る。

SD28（図版 70・71・134）

4I12・13 グリッドに位置する。北西から南東方向を指向する溝で、調査区外に延びる。埋土は褐色シルトを含む灰黄褐色シルトで単層である。深さ 23cm を測る。

P10（図版 70）

8C24 グリッドに位置する。楕円形を呈する。埋土は削平の影響でほとんど残っていない。深さ 7cm を測る。

C 中世の遺構

SK11（図版 70・71・134）

8C19・20 グリッドに位置する。楕円形を呈する。埋土はやや暗色を帯びた褐色シルトの単層である。深さは 12cm を測る。

SK16（図版 70・71・134）

6F11・12 グリッドに位置する。大型の土坑で、北半部が調査区外となる。埋土は 2 層に識別できる。1 層は暗色の強いにぶい黄褐色シルト、2 層は褐色シルトである。1 層から珠洲焼壺の口縁部片（1）が出土した。深さは 52cm を測る。

SK19（図版 70・71・134）

7D23 グリッドに位置する土坑。南壁際で検出され、遺構の半分は調査区外となる。埋土は 2 層に識別でき、1 層は褐色シルトブロックを多量に含むにぶい黄褐色シルト、2 層は褐色シルトである。深さは 18cm を測る。

SK22（図版 70・71・134・135）

4I17 グリッドに位置する。南半分を SD21 に切られている。埋土は褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。深さは 11cm を測る。

SK34（図版 70・71・135）

2I3・4 グリッドに位置する。楕円形を呈する。埋土は黄褐色シルトブロックを斑に含む灰黄褐色シルトの単層である。深さは 23cm を測る。

SD21（図版 70・71・135）

4I17・22 グリッドに位置する。南西から北東方向に延びる。2016 年度調査の SD2004 の続きになると考える。埋土は褐色シルトで 2 層に分層でき、1 層から土師質土器片が 1 点出土した。深さは 44cm を測る。

P09（図版 70・135）

10B8 グリッドに位置する。楕円形を呈する。南半分は調査区外となる。埋土は 2 層に識別でき、1 層

はにぶい黄褐色シルト、2 層は褐色シルトである。深さ 9cm を測る。

P12（図版 70）

8C15 グリッドに位置する。円形を呈する。埋土は 2 層に識別でき、1 層は褐灰色シルトブロックを含む暗褐色シルト、2 層は褐色シルトである。深さは 32cm を測る。

P13（図版 70）

8C15 グリッドに位置する。円形を呈する。埋土は黄褐色シルトの単層で、深さ 8cm を測る。

D 古代の遺構

SK08（図版 70・71・135）

10B8 グリッドに位置する。楕円形を呈し、南端が調査区外となる。埋土はにぶい黄褐色シルトの単層で、深さ 10cm を測る。

SK18（図版 70・71・135）

6F13 グリッドに位置する。埋土の堆積を記録できなかったため詳細は不明である。深さ 32cm を測る。

3 遺　　物

SK16（1）

1 は珠洲焼壺の口縁部である。外面に自然釉が付着する。吉岡編年[吉岡 1994]Ⅲ～Ⅳ期に比定できる。

引用・参考文献

相田泰臣　2004　「第Ⅱ章　沼垂郡（54）上土地亀遺跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

秋山泰利ほか　2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 263 集　新町遺跡』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2007　「阿賀北・大坪遺跡　－中世初頭の居館跡－」『御館の時代　－十二世紀の越後・会津・奥羽－』　高志書院

荒川隆史　2012　「第Ⅱ章 1　地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2016a　「第Ⅱ章 1　地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集　境塚遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2016b　「第Ⅱ章 2　歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集　境塚遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 153 集　大坪遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 232 集　境塚遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか　2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 262 集　境塚遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒谷伸郎ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集　山口遺跡』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰ほか　2018　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 278 集　境塚遺跡Ⅲ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

家田順一郎　1985　『下田村文化財調査報告 20　藤平遺跡Ⅱ』　新潟県下田村教育委員会

家田順一郎ほか　1981　『豊浦町文化財報告三　曽根遺跡Ⅰ』　新潟県豊浦町教育委員会

家田順一郎ほか　1982　『豊浦町文化財報告四　曽根遺跡Ⅱ』　新潟県豊浦町教育委員会

猪狩俊哉　2004　「第Ⅴ章　5 木製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　青田遺跡』　新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石垣義則　2010a　「第Ⅱ章　1 遺跡の位置と地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集　山口遺跡』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石垣義則　2010b　「第Ⅱ章　2A 弥生時代の遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集　山口遺跡』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか　2020　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 286 集　山口遺跡Ⅱ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川智紀ほか　2021　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 289 集　境塚遺跡Ⅳ』　新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川日出志　1989　「（速報）新潟県安田町・大曲遺跡弥生時代再葬墓群の発掘調査」『北越考古学』第 2 号　北越考古学研究会

石川日出志　1999　「第Ⅲ章　弥生文化の東へ西へ　－この世とあの世－　第 4 節　あの世の東と西　4 東日本弥生墓制の特質」『新弥生紀行　－北の森から南の海へ－』　朝日新聞社

石川日出志　2008　「中部・北陸・南東北地方の変動期」『東北の原像―縄文と弥生・続縄文（予稿集）』 平成 14 年度文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究」pp.19 ～ 29　東北芸術工科大学東北文化研究センター

石川日出志　2009　「北陸・南東北の変動期 弥生集落の成立状況」『季刊東北学』第 19 号 pp.74 ～ 86　東北芸術工科大学東北文化研究センター

石川日出志ほか　1981　『安田町文化財調査報告（5）横峯 A 遺跡 横峯 B 遺跡』 新潟県安田町教育委員会

石川日出志ほか　1992　『新潟県安田町文化財調査報告 12 六野瀬遺跡』 新潟県安田町教育委員会

石橋夏樹　2018a　「第Ⅱ章 2 歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石橋夏樹　2018b　「第Ⅳ章 3A 分類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

上田秀夫　1982　「14 ～ 16 世紀の青磁椀の分類」『貿易陶磁研究』第 2 号　日本貿易陶磁研究会

大矢雅彦・加藤泰彦　1984　『阿賀野川水害地形分類図 説明書』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所

小田由美子　1999　「五頭山麓古窯跡群」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会

小田由美子　2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 117 集 赤坂山中世窯跡 赤坂山 B 遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子ほか 2001　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 99 集 堀越館跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦ほか　2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 266 集 山口野中遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

小野本敦ほか　2019　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 279 集 石船戸東遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999　「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院

春日真実　2006　「古代越後の集団と地域」『日本海域歴史大系 第二巻 古代篇Ⅱ』 清文堂

春日真実　2004a　「第Ⅱ章 沼垂郡（34）五輪敷沢窯跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2004b　「第Ⅱ章 沼垂郡（58）横峯 B 遺跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2004c　「第Ⅱ章 沼垂郡（47）小曽根遺跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

春日真実　2004d　「第Ⅱ章 1 荒川右岸」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

加藤 学　1999　「第Ⅴ章 1 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学　2008　「Ⅱ 発掘調査受託事業の概要 4 試掘・確認調査 阿賀野バイパス 17 工区試掘調査」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成 19 年度』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 223 集 村前東 A 遺跡 村前東 B 遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学ほか　2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 237 集 柄目木遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鐘方正樹　2003　「井戸の構造と分類」『井戸の考古学 ものが語る歴史シリーズ 8』 同成社

亀井 功・鈴木俊成ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 61 集 荻野遺跡 官林遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

川上貞雄　1977　『水原町文化財調査報告 6 水原城館址及水原代官所址発掘調査報告書』 新潟県水原町教育委員会

川上貞雄　1979　『安田町文化財調査報告（4）横峯経塚群』 新潟県安田町教育委員会

川上貞雄　1984　『安田町文化財調査報告（10）ツベタ遺跡』 新潟県安田町教育委員会

川上貞雄　1989　『笹神村文化財調査報告 7 小曽根遺跡』 新潟県笹神村教育委員会

川上貞雄　1997　『豊浦町文化財調査報告六 曽根遺跡Ⅲ』 新潟県豊浦町教育委員会

川上貞雄　1999a『笹神村文化財調査報告９ 前田遺跡 壱本杉遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄　1999b『豊浦町文化財調査報告七 志村山須恵窯址』 新潟県豊浦町教育委員会
川上貞雄　2002 『笹神村文化財調査報告 13 腰廻遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
川上貞雄　2003 「第一章 考古 第一節 原始・古代・中世の遺跡 第一項 原始」『笹神村史』資料編一 新潟県笹神村
川上貞雄　2004 「第二章 第二節 五頭山麓の縄文時代」『笹神村史』通史編 新潟県笹神村
川上貞雄ほか 1979 『安田町文化財調査報告（6）上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 行塚遺跡・小山崎遺跡』 新潟県安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1980 『安田町文化財調査報告（7）上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ（概報）中道遺跡』 新潟県安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1981 『上野林丘陵埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 横峯Ａ遺跡 横峯Ｂ遺跡』 新潟県安田町教育委員会
川上貞雄ほか 1991 『笹神村文化財調査報告８ 発久遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
木村孝一郎　2008 「越前焼の編年的研究ノート」『吾々の考古学』 和田晴吾先生還暦記念論集刊行会
国土交通省北陸地方整備局・国土地理院　2004 『古地理で探る越後の変遷 －荒川・阿賀野川・信濃川・関川・姫川－』
小林昌二　1999 「3 章 1 節 国郡制の施行」『村上市史 通史編 1 原始・古代・中世』 新潟県村上市
小林 弘　2004 「第Ⅲ章 沼垂郡の土器様相 3 五頭山麓窯跡群」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
小松 彰・土田孝雄・山田裕二　1995 『新潟県歴史の道調査報告書第８集 三国街道中通り』 新潟県教育委員会
駒見和夫　1992 「井戸をめぐる祭祀」『考古学雑誌』第 77 巻第４号 日本考古学会
小山正忠・竹原秀雄　2004 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社
坂井秀弥　1996 「水辺の古代官衙遺跡 －越後平野の内水面・舟運・漁業－」『越と古代の北陸 －古代王権と交流３－』 名著出版
坂井秀弥　1997 「中世集落の展開と城館の動向」『中・近世の北陸 －考古学が語る社会史－』 桂書房
坂井秀弥　2013 「地域社会の環境・交通・開発 －越後平野を例に－」『環境の日本史２古代の暮らしと祈り』 三宅和朗編 吉川弘文館
坂井秀弥ほか 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省新潟国道事務所
笹神村　2003 『笹神村史 資料編一 原始・古代・中世』 新潟県笹神村
笹澤正史　2004 「第Ⅳ章 各論１ 須恵器生産の概要」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
笹澤正史　2019 「第５章 第２節 第２項 阿賀北」『新潟県の考古学Ⅲ』 新潟県考古学会
笹澤正史・高橋 均　2021 「第Ⅱ章 １地理的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 289 集 境塚遺跡Ⅳ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 203 集 庚塚遺跡 狐塚遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
佐藤友子ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 216 集 柄目木遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
菅井良咲・村山良紀　1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 82 集 獅子沢遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
杉原荘介　1968 「新潟県・六野瀬遺跡の調査」『考古学集刊』第四巻第一号 東京考古学会
鈴木俊成ほか 2018 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 277 集 蕪木遺跡』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
関 雅之ほか 1973 『ツベタ遺跡発掘調査報告』 新潟県安田町教育委員会
関 雅之ほか 1993 『上土地亀遺跡』 新潟県豊栄市教育委員会
高橋 保ほか 2019 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 282 集 土橋北遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 172 集 鴨深甲遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
滝沢規朗 2008 「弥生時代の建物」『新潟県考古学会連絡紙』第 80 号 pp.4 ～ 5 新潟県考古学会
田中一穂 2005 「古代の沼垂郡に関する一試論」『環日本海歴史民俗学叢書 12 古代の越後と佐渡』 高志書院
鶴巻康志 2005 「新潟県北部の中世陶器窯」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』 全国シンポジウム実行委員会
土橋由理子 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 121 集 円山遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
土橋由理子ほか 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 200 集 西郷遺跡』 新潟県教育委員会・(財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
中川成夫 1959 「笹神村権兵衛沢窯址の調査」『水原郷』 新潟県教育委員会
中川成夫・倉田芳郎 1962 『豊浦村文化財報告一 新潟県北蒲原郡における二窯址の調査』 新潟県豊浦村教育委員会
中川成夫ほか 1963 『新潟県村杉遺跡の調査』 北方文化博物館
中川成夫ほか 1971 「水原郷の遺跡・遺物」『水原郷』 新潟県教育委員会
中川成夫ほか 1973 『笹神村文化財調査報告 4 狼沢窯址群の調査』 新潟県笹神村教育委員会
中野豈任 1976 「白河荘について」『社会科研究』第 12 集 新潟県高等学校教育研究会社会科部会
中野豈任 1988 「三 五頭山信仰と中世鉱業」『忘れられた霊場 －中世心性史の試み－』 平凡社選書 123
中山俊道・渡辺達郎 2000 『笹神村文化財調査報告 10 浦林遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿古代篇』 奈良国立文化財研究所
成田圀之 2000 「百津潟を探し求めて」『水原郷土誌料』第二十八集 新潟県水原町教育委員会
新潟県 1975 「新津」『下越開発地域 土地分類基本調査』 新潟県農地部農地建設課
橋本正博 2003 「第Ⅶ章 木製品」『八日市地方遺跡Ⅰ (第 2 分冊 遺物報告偏)』 石川県小松市教育委員会
樋口真巳 2004 「中世 第１章 白河荘の成立と城氏の展開」「中世 第２章 鎌倉期の白河荘」『笹神村史 通史編』 新潟県笹神村
平川 南 2005 「古代越後国の磐船郡と沼垂郡」『環日本海歴史民俗学叢書 12 古代の越後と佐渡』 高志書院
福海貴子 2003 「八日市地方遺跡出土土器の検討」『八日市地方遺跡Ⅰ』 石川県小松市教育委員会
藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
古澤妥史 2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 町道上遺跡』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史 2005 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 集 土居内西遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
古澤妥史 2010 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 3 集 猫山遺跡確認調査報告書』 新潟県阿賀野市教育委員会
古澤妥史 2012 「阿賀野市内の古代遺跡」『平成 24 年度 越後国域確定 1300 年記念事業 記録集』 新潟県教育委員会
古澤妥史 2014a 『阿賀野市石船戸遺跡の調査』 新潟史学会発表資料
古澤妥史 2014b 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 9 集 柄目木遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
古澤妥史ほか 2003 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集 大割遺跡 猫山遺跡 大曲川端遺跡』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史ほか 2004 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書第 3 集 村下遺跡』 新潟県京ヶ瀬村教育委員会
古澤妥史ほか 2011 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 4 集 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
古澤妥史ほか 2014 『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書第 8 集 下福岡遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
文化庁 2016 『定本 発掘調査のてびき』 文化庁文化財部記念物課
本間信昭ほか 1973 『下金田遺跡』 新潟県水原町立水原博物館
本間信昭ほか 1974 『安田町文化財調査報告 (3) 藤堂遺跡発掘調査概報』 新潟県安田町教育委員会

水澤幸一　2002　「阿賀北の中世石佛」『新潟考古』第 13 号　新潟県考古学会
村上章久　2015　「第Ⅱ章 2 遺跡周辺の歴史的環境」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 258 集 山口野中遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
村上章久　2021　「阿賀野市土橋遺跡の調査成果」『新潟県考古学会第 33 回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
村上章久ほか　2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 248 集 山口野中遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
村上章久ほか　2015　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 258 集 山口野中遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
村上章久ほか　2021　『土橋北遺跡 石船戸北遺跡』 新潟県阿賀野市教育委員会
森田　勉　1982　「14 ～ 16 世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究』第 2 号
山口陽子ほか　2000　『新潟県安田町文化財調査報告 13 小山崎遺跡発掘調査報告書』 新潟県安田町教育委員会
湯原勝美ほか　2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 206 集 西部遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
吉田東伍　1889　「越後国北蒲原郡安田村ツベタ岡古代土器」『東京人類学会雑誌』第 4 巻第 41 号
吉田東伍編　1902　「北蒲原郡」『増補 大日本地名辞書』第五巻 北国・東国　冨山房
吉田浩明　2010　「第Ⅳ章 2E 溝」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
渡辺達郎ほか　2002　『笹神村文化財調査報告 14 腰廻西遺跡』 新潟県笹神村教育委員会
渡辺文男ほか　2004　『新潟県安田町文化財調査報告 14 上野林 J 遺跡・上野林 E 遺跡』 新潟県安田町教育委員会

山口遺跡　遺構観察表　掘立柱建物（SB）中世（1）

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB1	3	7	75		北2区　17・18D	7.84	3				N-85°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面	柱間（m）				
P591-P577	2.48		P577-P579		2.64	P579-P712	2.72				
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P577	17D18		円形		U字状	22	21		単層	5.60	23
P579	17D19		円形		U字状	24	23		単層	5.68	18
P591	17D17		円形		U字状	40	35			5.43	30
P712	18D16		円形		U字状	（22）	26		単層	5.50	22

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB2	5	7	74		南1区　16・17I	5.68	3				N-85°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面	柱間（m）				
P72-P74	1.76		P74-P79		1.92	P79-P234	2.00				
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P72	16I14		円形		半円状	20	18		レンズ状	5.85	8
P74	16I15		円形		半円状	24	22		柱痕	5.83	10
P79	17I11・16		方形		半円状	25	22		柱痕	5.75	18
P234	17I12・17		楕円形		台形状	36	30		柱痕	5.62	18

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB3	5	7	74		南1区　16・17I	4.40	2				N-84°-E
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P70-P76	2.08		P76-P80		2.32						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P70	16I19		円形		半円状	22	20		ブロック状	5.85	10
P76	16I20		円形		半円状	25	23		柱痕	5.81	10
P80	17I11・16		楕円形		半円状	21	17		単層	5.86	9

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB4	5	7	74		南1区　17I	2.24	1	1.52	1		N-6°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P222-P224	1.52		P224-P329		2.24						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P222	17I18		楕円形		半円状	36	28		柱痕	5.73	18
P224	17I18		円形		半円状	27	27		単層	5.84	7
P329	17I23・24		楕円形		台形状	24	（13）		単層	5.58	24

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB5	5	7	74		南1区　17・18I	7.28	3	2.08	1		N-84°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面	柱間（m）	平面	柱間（m）		
P227-P201	2.00		P201-P285		2.88	P285-P195	2.40	P195-P184	2.08		
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P184	18J2		楕円形		U字状	31	27		柱痕	5.75	16
P195	18I22		円形		半円状	18	17		単層	5.82	8
P201	17I24・25		円形		半円状	20	18		単層	5.85	10
P227	17I23・24		円形		半円状	17	14		単層	5.92	6
P285	18I21		円形		階段状	22	20		単層	5.70	12

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB6	5	7			南1区　17・18I	3.84	2	1.68	1		N-84°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面	柱間（m）	平面	柱間（m）		
P199-P196	1.84		P194-P189		1.68	P189-P258	2.00	P258-P196	1.60		
平面	柱間（m）										
P196-P194	2.00										
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P189	18J1・2		楕円形		階段状	20	14		単層	5.84	9
P194	18I22		円形		U字状	21	20		単層	5.61	30
P196	17I25，18I21		楕円形		漏斗状	32	26		単層	5.61	32
P199	17I25		楕円形		半円状	34	25		単層	5.75	20
P258	17J5・18J1		（楕円形）		半円状	20	（14）		単層	5.80	12

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB7	5	7			南1区　17・18I	5.12	2				N-83°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P254-P286	2.48		P286-P159		2.64						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P159	18I22		円形		半円状	29	28		柱痕	5.56	16
P254	17I25		（楕円形）		半円状	32	26		柱痕	5.57	14
P286	18I21		楕円形		弧状	36	25		単層	5.75	6

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB8	5	7	74		南1区　17・18I	5.44	2	1.84	1		N-83°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面	柱間（m）				
P197-P193	2.64		P193-P155		2.80	P155-P157	1.84				
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）	短軸（cm）		堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P155	18I23		円形		半円状	26	22		単層	5.81	8
P157	18J3		円形		半円状	16	15		単層	5.82	10
P193	18I22		楕円形		漏斗状	40	24		柱痕	5.52	24
P197	17I25，18I21		（円形）		漏斗状	34	（34）		単層	5.64	28

山口遺跡　遺構観察表　掘立柱建物（SB）中世（2）

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB9	5	8	74		南1区　17・18I	5.28	2				N-85°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P200-P283	2.64		P283-P160		2.64						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P160	18I22		円形		半円状	24		20	単層	5.76	14
P200	17I25		（楕円形）		半円状	（20）		（7）	単層	5.83	11
P283	18I21		円形		漏斗状	24		20	柱痕	5.56	44

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB10	5	8	74		南1区　18I・J	4.80	2	1.84	1		N-89°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面		柱間（m）			
P191-P187	2.40		P187-P153		2.40	P153-P156		1.84			
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P153	18I23，18J3		円形		弧状	22		22	単層	5.87	6
P156	18J3		円形		半円状	13		12	単層	5.90	8
P187	18I22，18J2		（円形）		半円状	33		（32）	単層	5.80	10
P191	18I21，18J1		円形		台形状	33		30	単層	5.67	30

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB11	5	8			南1区　18I・J	（5.56）	2	1.76	1		N-85°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面		柱間（m）			
P148-P183	1.76		P183-P255		1.84	P255-P249		2.00			
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P148	18J5		円形		半円状	（19）		18	単層	5.67	12
P183	18J10		円形		半円状	19		18	単層	5.60	14
P188	18I22，18J2		楕円形		半円状	32		21	単層	5.72	16
P249	18J8		－		台形状	－		－	柱痕	5.79	26
P255	18J9		（円形）		半円状	（22）		（16）	単層	5.92	8

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB12	5	8			南1区　18I・J，19J	4.00	2	2.24	1		N-89°-E
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面		柱間（m）			
P144-P147	1.92		P147-P257		2.08	P257-P247		2.24			
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P144	19J1		円形		半円状	19		20	単層	5.87	12
P147	18J5		楕円形		半円状	22		17	単層	5.87	10
P247	18I24		－		台形状	－		－	ブロック状	5.80	22
P257	18J4		円形		半円状	22		21	レンズ状	5.76	21

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB13	5	8			南1区　18・19J	7.84	4	2.24	1		N-90°-E
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面		柱間（m）	平面	柱間（m）	
P85-P86	1.68		P89-P181		2.16	P181-P290		2.24	P290-P291	2.24	
平面	柱間（m）										
P86-P89	1.76										
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P85	19J9		（楕円形）		階段状	（22）		（7）	単層	5.86	12
P86	19J8		円形		半円状	28		25	柱痕	5.79	16
P89	19J7		円形		半円状	20		16	単層	5.89	4
P181	19J6		円形		半円状	18		17	柱痕	5.86	12
P290	18J10		円形		半円状	23		21	単層	5.74	10
P291	18J5		円形		半円状	24		21	柱痕	5.69	13

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB14	5	8			南1区　19J	4.96	2	2.08	1		N-88°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）	平面		柱間（m）			
P88-P84	2.64		P84-P252		2.32	P252-P83		2.08			
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P83	19J8		円形		半円状	20		20	単層	5.73	12
P84	19J14		楕円形		半円状	22		18	単層	5.91	8
P88	19J15		楕円形		台形状	21		16	単層	5.85	16
P252	19J13		円形		半円状	18		15	ブロック状	5.84	16

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB15	5	9			南1区　19・20J	5.76	2				N-82°-W
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P102-P106	2.80		P106-P107		2.96						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P102	20J24		円形		半円状	30		28	単層	5.79	14
P106	21J21		楕円形		U字状	28		22	単層	5.70	29
P107	21J22		円形		半円状	20		20	単層	5.79	16

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB16	6	9	75		南2区　26M	3.76	1	1.92	1		N-82°-E
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P51-P47	3.76		P47-P44		1.92						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P44	26M10		円形		U字状	23		21	単層	5.90	21
P47	26M4・5		方形		U字状	34		26	単層	5.89	25
P51	26M3		円形		U字状	24		20	単層	5.91	24

山口遺跡　遺構観察表　掘立柱建物（SB）中世（3）

遺構番号	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	位置	桁行（m）	間	梁行（m）	間	面積（㎡）	桁行方向
SB17	6	9	75		南2区　26L・M	4.40	1	1.92	1		N-82°-E
平面	柱間（m）		平面		柱間（m）						
P52-P48	4.40		P48-P45		1.92						
柱穴名	グリッド		平面形		断面形	長軸（cm）		短軸（cm）	堆積形状	底面標高（m）	深さ（m）
P45	26M5		楕円形		U字状	19		16	単層	6.00	9
P48	26L24		円形		U字状	21		19	単層	5.94	18
P52	26M2		円形		U字状	30		27	柱痕	5.82	33

山口遺跡　遺構観察表　井戸（SE）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
1	SE	5	9	75	33	11H10, 12H6	円形	U字状	102	90	142	>SK2	
7	SE	5	9	76	33	12H14・15	（円形）	箱状	185	（140）	98	>P281	
10	SE	5	10	76・77	33・34	11H5	円形	U字状	123	114	182		
11	SE	5	10	77	33	11H8	（円形）	U字状か	（100）	（36）	（84）		
21	SE	5	10	77	33	17I16・17・18・22	（円形）	階段状	240	（151）	110	>P71	
24	SE	5	10	77	33	12H8・9	円形	階段状	176	（146）	88	<P17	
27	SE	5	10	78	33・34	16I11・12	円形	階段状	136	133	170	>SD23	下半部U字状
61	SE	5	11	78		15I1・2	円形	U字状	74	70	74		
81	SE	5	11	77	33・34	21K8・9	（円形）	階段状	186	（74）	118		
171	SE	5・6	11	78		24L1・2	楕円形	U字状	120	94	130		
326	SE	5・6	11	78		22K7	（円形）	U字状	（86）	（78）	102		
519	SE	3	11	78・79	33	8A22	楕円形	階段状	99	（88）	128		
758	SE	3	11	79		10B18・19	（円形）	箱状	138	（74）	（108）		
771	SE	4	11	79	34	21F4・5・9・10	（楕円形）	U字状	127	（96）	82	>SD2075	

山口遺跡　遺構観察表　土坑（SK）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
2	SK	5	9	79	33	11H10, 12H6	（円形）	弧状	120	108	16	<SE1	
521	SK	3	12			8B4	楕円形	弧状	58	44	7		
522	SK	3	12	79		8B3	円形	台形状	63	56	17		
560	SK	3	12	80		15C22	（方形）	弧状	（47）	（52）	15		
561	SK	3	12	80		15C23・24	（方形）	弧状	（53）	（38）	14	>SX613	
563	SK	3	12	80		15D5	（楕円形）	弧状	83	（47）	9		
564	SK	3	12	80		15D4・5・9・10	（楕円形）	弧状	（76）	（93）	15	<P607・608	
565	SK	3	12			15D10	（円形）	弧状	（43）	49	7		
572	SK	3	12			16D10・15	（楕円形）	弧状	161	（85）	12		
573	SK	3	12	80		17D11	（楕円形）	弧状	（42）	（80）	17	>SD574	
582	SK	3	12			19E1	楕円形	弧状	60	51	13		
603	SK	4	12	80		21F1・5	（楕円形）	弧状	58	（48）	8		
623	SK	4	12	80・81		24G5	（楕円形）	台形状	90	70	40		

山口遺跡　遺構観察表　溝（SD）中世（1）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
3	SD		5	14			12H12・13	−	弧状	62	18	4		
4	SD		5	14			12H8・13	−	弧状	（110）	21	4	<P66	
12	SD		5	14			13H12・17	−	弧状	（250）	55	16	>P20	
13	SD		5	14			13H18	−	弧状	（111）	43	12		
23	SD		5	14	83	34	15I8・9・10・15, 16I6・11	−	台形状	（850）	118	28	<SE27, >P28・62	
25	SD		5	14			13H19・20・24・25, 14H16・17	−	弧状	（562）	58	12		
43	SD	SB17	6	9			26M5・10	−	弧状	94	15 ～ 19	5		
53	SD	SB17	6	9			26L23・24	−	弧状	（119）	15 ～ 22	2		
54	SD		6	14	83		25L25, 26L16・21	−	弧状	（275）	22 ～ 30	10		
55	SD		6	14	75・84	34	27M7・8・12	−	半円状	（272）	52 ～ 60	40	>SD166	
58	SD		5	14			25L12・17	−	半円状	（254）	40 ～ 45	20		
82	SD		5	14			20J11・12・13・16・17	−	弧状	（330）	26 ～ 50	4		
130	SD		5	14			24L10・15	−	弧状	（177）	42 ～ 54	9		
164	SD		6	14	84		30N19・20・24・25, 31N16・21	−	台形状	（552）	60 ～ 70	32		
166	SD		6	14	75・83	34	27M1・6・7・8	−	半円状	（530）	62 ～ 80	36	<SD55	
174	SD		6	14	84	34	27M14・15・19・20, 28M11	−	半円状	（288）	130 ～ 145	45		
520	SD		3	12	81		9B7・8・9	−	半円状	（350）	26 ～ 29	13		
562	SD		3	12	80		15D2・3・4・5	−	弧状	（508）	40 ～ 59	15	>SX613	過年度調査遺構番号SD1042
566	SD		3	12	81		16D2・6・7	−	U字状	（311）	19 ～ 23	20	<P568	
574	SD		3	12			17D11・12・16	−	弧状	（209）	150 ～ 169	23	<SK573, P717	

山口遺跡　遺構観察表　溝（SD）中世（2）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
576	SD		3	12	81		18D22	−	半円状	（285）	25 ～ 32	20	>SD580	
580	SD		3	12	81		18D17・21・22・23	−	半円状	（93）	25 ～ 29	17	<SD576	
581	SD		3	12			18D24，18E4	−	弧状	（237）	101 ～ 118	13		過年度調査遺構番号SD1764
602	SD		4	13			23F11・12・17	−	弧状	（264）	18 ～ 23	5		
617	SD		4	13	82		23F19・20	−	半円状	（229）	23 ～ 33	28	>SD618，<SD769・2075	
618	SD		4	13	82		23F24	−	（U字状）	（83）	38 ～ 52	36	<SD617・2075	
619	SD		4	13			23F24・25	−	V字状	（50）	70 ～ 73	25	<SD2075	
621	SD		4	13		34	24G5・10，25G6・7・8・9・10，26G6	−	弧状	（846）	（45 ～ 60）	16		
624	SD		4	13			25G13・14	−	弧状	（190）	（30 ～ 41）	3		
625	SD		4	13	82		29H17・18	−	台形状	（137）	（83）	66	>SD629，<SD626，P630	
626	SD		4	13	82		29H11・12・17	−	台形状	（65）	（57）	63	>SD625	
627	SD		4	13	82	34	37K9・10	−	台形状	（225）	（137 ～ 145）	35		
628	SD		4	13	82		37K8・9	−	U字状	（213）	（37 ～ 42）	11		
629	SD		4	13			29H18・19	−	台形状	（132）	（57）	25	<SD625	
769	SD			13			23F13・14	−	弧状	−	−	28	>SD617	壁面確認。平面図なし。近世。
800	SD		3	12	81		11B17・18・22・23	−	階段状	（275）	81 ～ 100	36		過年度調査遺構
801	SD		3	12	81		11B22・23・24	−	半円状	（296）	85 ～ 93	22		過年度調査遺構
1031	SD		5	14	83	34	18J5・10，19J1・6	−	弧状	（294）	105 ～ 117	13	<P147・256・290・291	過年度調査遺構番号
1763	SD		5	14	83		18J4・5・9・10	−	半円状	290	14 ～ 23	6		過年度調査遺構番号
2075	SD		4	13	82		21F4・5・10，22F1・2・3・6・7・8	−	箱状	（587）	68 ～ 85	36	<SE771	北2区西側
2075	SD		4	13	82		23F13・14・18・19・20・24・25	−	階段状	（455）	95 ～ 120	37	>SD617 ～ 619	北2区東側
2075	SD		5	14			17I20・25	−	台形状	253	65 ～ 76	23	>P200，<P199・254	南1区
2209	SD		5	14			17I20・25	−	半円状	158	19 ～ 24	7		過年度調査遺構番号
4262	SD		4	13			35J18・19・20・24・25，36J21	−	弧状	（573）	（30 ～ 63）	23		過年度調査遺構番号

山口遺跡　遺構観察表　性格不明遺構（SX）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
569	SX	3	12	81		16D7・8	（不整形）	弧状	（307）	（120 ～ 139）	15		SK569から変更
613	SX	3	12	80		15C23，15D3	不整形	弧状	（214）	118	9	<SK561，SD562	
665	SX	17				13C8	−	−	−	−	−	>SK646	古代面で壁面確認

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世（1）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
001	P		6				23L13	円形	U字状	0.12	（0.10）	0.12		
5	P		5				12H6	楕円形	半円状	27	21	12		
6	P		5				12H7	円形	U字状	16	15	18		
8	P		5				12H7	円形	半円状	14	13	14		
9	P		5				12H1	円形	半円状	27	26	14		
14	P		5				13H11・16	円形	半円状	22	22	22		
15	P		5				12H13	円形	半円状	21	15	22		
16	P		5				12H15・20	（円形）	半円状	33	（26）	14		
17	P		5				12H9	円形	半円状	26	26	24	>SE24	
18	P		5				12H9	楕円形	半円状	32	27	10		
19	P		5				12H10・15	円形	半円状	20	18	10		
20	P		5				13H12	楕円形	U字状	（17）	15	22	<SD12	
26	P		5				13H12・16・17	（円形）	半円状	20	（16）	18		
28	P		5				15I8	（円形）	半円状	（33）	37	10	<SD23	
29	P		5				13H13・18	円形	半円状	22	20	6		
30	P		5				13H18・19	円形	半円状	17	16	10		
31	P		5				14H16・21	楕円形	半円状	26	21	16		
32	P		5				14H22	楕円形	半円状	19	15	6		
33	P		5				14H17	円形	半円状	19	16	6		
34	P		5				14H22	円形	半円状	14	13	14		
35	P		5				14H18	円形	半円状	14	13	6		
36	P		5				14I4	円形	弧状	19	17	4		
37	P		5				14H24	円形	弧状	19	17	6		
38	P		5				14H25	円形	弧状	24	23	6		
39	P		5				15H21，15I1	円形	弧状	20	20	4		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世（2）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
41	P		6				27M1・2・6・7	楕円形	U字状	33	26	26		
42	P		6				26M5	楕円形	U字状	21	18	20		
44	P	SB16	6	9			26M10	円形	U字状	23	21	21		
45	P	SB17	6	9			26M5	楕円形	U字状	19	16	9		
46	P		6				26M5	楕円形	弧状	22	17	7		
47	P	SB16	6	9			26M4・5	方形	U字状	34	26	25		
48	P	SB17	6	9			26L24	円形	U字状	21	19	18		
49	P		6				26M4	円形	台形状	34	29	20		
50	P		6				26M3	円形	台形状	24	22	14		
51	P	SB16	6	9			26M3	円形	U字状	24	20	24		
52	P	SB17	6	9			26M2	円形	U字状	30	27	33		
56	P		6				26L22	楕円形	半円状	18	14	8		
57	P		6				26L16・17・21・22	円形	弧状	23	21	4		
59	P		5・6				25L14	（円形）	弧状	（23）	（10）	5		
60	P		5・6				25L13・14・18・19	円形	箱状	54	51	38		
62	P		5				15I8	（方形）	弧状	（17）	23	6	<SD23	
63	P		5				16I4	円形	半円状	18	18	10		
64	P		5				15I5	円形	台形状	19	18	12		
65	P		5				15I15，16I11	楕円形	弧状	34	26	6		
66	P		5				12H8・9・13・14	円形	半円状	23	20	10	>SD4	
67	P		5				16I13	円形	U字状	12	12	16		
68	P		5				16I13	楕円形	階段状	22	17	6		
69	P		5				16I19	円形	階段状	22	20	8		
70	P	SB3	5	7			16I19	円形	半円状	22	20	10		
71	P			10			17I23		半円状	－	（9）	7	<SE21	壁面確認　平面図なし
72	P	SB2	5	7			16I14	円形	半円状	20	18	8		
73	P		5				16I19	円形	半円状	14	12	8		
74	P	SB2	5	7			16I15	円形	半円状	24	22	10		
75	P		5				16I20	円形	半円状	25	25	24		
76	P	SB3	5	7			16I20	円形	半円状	25	23	10		
78	P		5				16I14・15	楕円形	階段状	24	20	18		
79	P	SB2	5	7			17I11・16	方形	半円状	25	22	18		
80	P	SB3	5	7			17I11・16	楕円形	半円状	21	17	9		
83	P	SB14	5	8			19J8	円形	半円状	20	20	12		
84	P	SB14	5	8			19J14	楕円形	半円状	22	18	8		
85	P	SB13	5	8			19J9	（楕円）	階段状	（22）	（7）	12		
86	P	SB13	5	8			19J8	円形	半円状	28	25	16		
87	P		5				19J15	円形	半円状	20	18	12		
88	P	SB14	5	8			19J15	楕円形	台形状	21	16	16		
89	P	SB13	5	8			19J7	円形	半円状	20	16	4		
90	P		5				19J8	円形	半円状	14	12	7		
91	P		5				19J13	円形	台形状	23	20	10		
92	P		5				19J13	円形	半円状	18	15	16		
93	P		5				19J8	楕円形	半円状	26	17	18		
94	P		5				19J8	円形	半円状	18	16	18		
95	P		5				19J20	円形	半円状	22	20	10		
96	P		5				19J20	円形	半円状	20	19	13		
97	P		5				19J15・20	円形	半円状	16	14	10		
98	P		5				20J18	円形	半円状	16	14	6		
99	P		5				20J18	楕円形	半円状	16	13	8		
100	P		5				20J18	円形	台形状	22	22	15		
101	P		5				20J24	円形	半円状	22	18	10		
102	P	SB15	5	9			20J24	円形	半円状	30	28	14		
103	P		5				20J25	円形	半円状	20	19	16		
104	P		5				20J25，21J21	円形	台形状	14	14	14		
105	P		5				21J21	円形	半円状	16	16	12		
106	P	SB15	5	9			21J21	楕円形	U字状	28	22	29		
107	P	SB15	5	9			21J22	円形	半円状	20	20	16		
108	P		5				21J22	円形	半円状	28	（28）	18		
109	P		5				21K8	円形	U字状	21	19	24		
110	P		5				21K3・4	円形	U字状	19	19	20		
111	P		5				21K9	円形	半円状	21	19	16		
112	P		5				21K10	円形	弧状	28	24	9		
113	P		5				21K10	円形	U字状	22	22	16		
114	P		5				21K10	円形	半円状	16	15	9		
115	P		5				21K5	円形	半円状	24	21	12		
116	P		5				22K6	円形	U字状	22	19	24		
117	P		5				22K11	円形	U字状	16	16	22		
118	P		5				22K6	円形	階段状	28	27	28		
119	P		5・6				22K7・8	（円形）	弧状	50	（26）	6		
120	P		5				19J7	円形	半円状	22	20	16		
121	P		5				25L13・18	方形	U字状	32	31	40		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世（3）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
122	P		5				25L18	円形	弧状	23	22	6		
123	P		5				25L12	楕円形	U字状	27	19	25		
124	P		5				24L9	円形	箱状	23	21	10		
125	P		5				25L11	円形	台形状	24	22	15		
126	P		5				25L11	円形	U字状	28	24	18		
127	P		5				25L11	楕円形	U字状	27	22	27		
128	P		5				25L6	（楕円形）	弧状	（25）	30	12		
129	P		5				25L17	円形	半円状	20	18	14		
131	P		5				24L9	円形	漏斗状	27	25	14		
132	P		5・6				24L2	楕円形	U字状	22	19	15		
133	P		5・6				24L2	円形	半円状	24	22	14		
134	P		5・6				23L5	（楕円形）	U字状	（23）	24	14		
135	P		5・6				23L5，24L1	円形	U字状	35	31	57		
136	P		5・6				24L1	楕円形	U字状	36	26	31		
137	P		5・6				24L1	楕円形	弧状	42	36	14		
138	P		5				25L11	楕円形	U字状	23	18	23		
139	P		5・6				23K25	円形	漏斗状	40	36	67		
140	P		5・6				23K24，23L4	楕円形	漏斗状	36	22	23		
141	P		5				19J7	円形	半円状	18	18	14		
142	P		5				19J7	円形	台形状	22	20	18		
143	P		5				19J6	円形	半円状	18	16	10		
144	P	SB12	5	8			19J1	円形	半円状	19	20	12		
145	P		5				19J1・6	円形	半円状	18	24	14		
146	P		5				19J1	円形	半円状	20	19	8		
147	P	SB12	5	8			18J5	楕円形	半円状	22	17	10	>P256，SD1031	
148	P	SB11	5	8			18J5	円形	半円状	（19）	18	12	<P149	
149	P		5				18J5	楕円形	半円状	30	19	8	>P148	
150	P		5				18J4	楕円形	半円状	22	16	10		
151	P		5				18J9	円形	半円状	29	25	10		
152	P		5				18J9	（円形）	半円状	23	（10）	18		
153	P	SB10	5	8			18I23 18J3	円形	弧状	22	22	6		
154	P		5				18I23，18J3	円形	U字状	19	18	22		
155	P	SB8	5	7			18I23	円形	半円状	26	22	8		
156	P	SB10	5	8			18J3	円形	半円状	13	12	8		
157	P	SB8	5	7			18J3	円形	半円状	16	15	10		
158	P		5				18J3	円形	U字状	18	15	16		
159	P	SB7	5	7			18I22	円形	半円状	29	28	16		
160	P	SB9	5	8			18I22	円形	半円状	24	20	14		
161	P		5・6				23K15・16	楕円形	箱状	35	28	31		
162	P		5・6				23K15	円形	箱状	18	17	30		
163	P		5				25L18	円形	弧状	25	23	8		
165	P		5				25L12	円形	半円状	19	17	11		
168	P		6				27M7・12	円形	U字状	23	21	29		
169	P		6				26M3	楕円形	U字状	24	19	16		
170	P		5				24L15	（円形）	半円状	18	17	12		
181	P	SB13	5	8			19J6	円形	半円状	18	17	12		
182	P		5				18J10	円形	半円状	17	15	10		
183	P	SB11	5	8			18J10	円形	半円状	19	18	14		
184	P	SB5	5	7			18J2	楕円形	U字状	31	27	16		
185	P		5				18J2	楕円形	半円状	20	16	9		
186	P		5				18J2	楕円形	半円状	19	15	14		
187	P	SB10	5	8			18I22 18J2	（円形）	半円状	33	（32）	10	<P188	
188	P	SB11	5	8			18I22 18J2	楕円形	半円状	32	21	16	>P187	
189	P	SB6	5	7			18J1・2	楕円形	階段状	20	14	9		
190	P		5				18J1	円形	半円状	22	20	8		
191	P	SB10	5	8			18I21 18J1	円形	台形状	33	30	30		
192	P		5				18I21，18J1	円形	半円状	30	27	11		
193	P	SB8	5	7			18I22	楕円形	漏斗状	40	24	24		
194	P	SB6	5	7			18I22	円形	U字状	21	20	30		
195	P	SB5	5	7			18I22	円形	半円状	18	17	8		
196	P	SB6	5	7	75		17I25 18I21	楕円形	漏斗状	32	26	32	>P197	
197	P	SB8	5	7	75		17I25 18I21	（円形）	漏斗状	34	（34）	28	<P196	
198	P		5				17I25，18I21	円形	半円状	30	30	16		
199	P	SB6	5	7			17I25	楕円形	半円状	34	25	20	>P254，SD2075	
200	P	SB9	5	8			17I25	（楕円形）	半円状	（20）	（7）	11	<SD2075	
201	P	SB5	5	7			17I24・25	円形	半円状	20	18	10		
202	P		5				21J21	円形	半円状	17	16	13		
203	P		5				20J18	円形	半円状	18	17	9		
221	P		5	7			17I18	楕円形	半円状	21	16	6		
222	P	SB4	5	7			17I18	楕円形	半円状	36	28	18		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世（4）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
223	P		5				16I14	円形	U字状	15	14	44		
224	P	SB4	5	7			17I18	円形	半円状	27	27	7		
225	P		5				17I18	円形	半円状	28	27	11		
226	P		5				18I18・23	円形	V字状	21	18	16		
227	P	SB5	5	7			17I23・24	円形	半円状	17	14	6		
230	P		5				17I23	円形	U字状	26	25	40		
231	P		5			34	17I23	円形	階段状	29	27	34	>P235	
232	P		5				17I23	楕円形	階段状	56	35	44		
233	P		5				17I23	円形	U字状	28	26	34		
234	P	SB2	5	7	75		17I12・17	楕円形	台形状	36	30	18		
235	P		5				17I23	（楕円形）	半円状	（14）	13	12	<P231	
236	P		5				16I8	円形	半円状	14	13	7		
237	P						21J23・24, 21K4	－	半円状	－	－	26		壁面確認　平面図なし
238	P						20J18・19	－	半円状	－	－	24		壁面確認　平面図なし
239	P						20J18・19	－	半円状	－	－	11		壁面確認　平面図なし
240	P						20J13	－	半円状	－	－	12		壁面確認　平面図なし
241	P						19J9・10	－	半円状	－	－	24		壁面確認　平面図なし
242	P						19J9・10	－	半円状	－	－	12		壁面確認　平面図なし
243	P						19J9・10	－	半円状	－	－	15		壁面確認　平面図なし
244	P						19J2・3	－	半円状	－	－	16		壁面確認　平面図なし
245	P						19J2・3	－	台形状	－	－	16		壁面確認　平面図なし
246	P						19J2・3	－	半円状	－	－	14		壁面確認　平面図なし
247	P	SB12	5	8			18I24	－	台形状	－	－	22		壁面確認　平面図なし
248	P						18I23	－	半円状	－	－	16		壁面確認　平面図なし
249	P	SB11	5	8			18J8	－	台形状	－	－	26		壁面確認　平面図なし
250	P						18J8	－	階段状	－	－	25		壁面確認　平面図なし
251	P						18I23	－	漏斗状	－	－	49		壁面確認　平面図なし
252	P	SB14	5	8			19J13	－	袋状	－	－	28		壁面確認　平面図なし
253	P						19J12	－	漏斗状	－	－	22		壁面確認　平面図なし
254	P	SB7	5	7	75		17I25	（楕円形）	半円状	32	26	14	<P199 >SD2075	
255	P	SB11	5	8			18J9	（円形）	半円状	（22）	（16）	8		
256	P		5				18J5	（楕円形）	漏斗状	（29）	（8）	27	<P147, >SD1031	
257	P	SB12	5	8			18J4	円形	半円状	22	21	21		
258	P	SB6	5	7			17J5・18J1	（楕円形）	半円状	20	（14）	12		
281	P		5				12H14	円形	半円状	21	（20）	14	<SE7	
283	P	SB9	5	8			18I21	円形	漏斗状	24	20	44		
285	P	SB5	5	7			18I21	円形	階段状	22	20	12		
286	P	SB7	5	7			18I21	楕円形	弧状	36	25	6		
290	P	SB13	5	8			18J10	円形	半円状	23	21	10	>SD1031	
291	P	SB13	5	8			18J5	円形	半円状	24	21	13	>SD1031	
294	P		5				18J2	円形	半円状	22	21	8		
322	P		5				21K10	円形	半円状	25	22	22		
325	P						22K7・8	－	台形状	－	－	32		壁面確認　平面図なし
327	P						22K1	－	U字状	－	－	29		壁面確認　平面図なし
329	P	SB4	5	7			17I23・24	楕円形	台形状	24	（13）	24		
501	P		3				13C7	円形	弧状	16	14	8		
502	P		3				13C7	円形	半円状	18	16	10		
503	P		3				13C7	円形	半円状	17	15	8		
504	P		3				13C11・12	（円形）	U字状	（22）	（35）	25		
505	P		3				13C11	円形	台形状	16	13	12		
506	P		3				13C6	円形	漏斗状	19	16	17		
507	P		3				13C6	円形	U字状	18	17	13		
508	P		3				13C6	円形	U字状	14	12	14		
509	P		3				12C10	円形	U字状	15	15	20		
510	P		3				12C3	円形	弧状	21	19	5		
511	P		3				12C3	円形	弧状	26	23	9		
512	P		3				12C1・2	円形	U字状	17	15	32		
513	P		3				11B25	円形	弧状	16	16	7		
514	P		3				12B21	円形	U字状	18	15	16		
515	P		3				11B25	円形	U字状	18	15	16		
517	P		3				11B25	円形	U字状	22	20	35		
518	P		3				8B2	円形	半円状	24	22	17		
549	P		3				13C8	円形	U字状	18	16	13		
551	P		3				13C15	（円形）	半円状	25	18	11		
552	P		3				13C15	（楕円形）	半円状	（21）	20	15		
553	P		3				13C15 14C11	楕円形	半円状	30	26	14		
554	P		3				14C18	円形	U字状	19	18	22		
555	P		3				14C18	円形	弧状	21	18	8		
556	P		3				14C18	円形	U字状	20	19	12		
558	P		3				14C19・24	円形	半円状	19	18	10		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世（5）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
559	P		3				14C19・24	楕円形	半円状	20	17	11		
567	P		3				16D7	円形	U字状	16	15	14		
568	P		3				16D7	円形	U字状	19	16	13	>SD566	
570	P		3				16D8	（円形）	半円状	（35）	（15）	9		
571	P		3				16D9	楕円形	U字状	19	15	15		
575	P		3				15C22, 15D2	（円形）	半円状	21	（18）	10	<P583	
577	P	SB1	3	7			17D18	円形	U字状	22	21	23		
578	P		3				17D18	円形	弧状	16	13	5		
579	P	SB1	3	7			17D19	円形	U字状	24	23	18		
583	P		3				15C22, 15D2	円形	U字状	15	14	15	>P575	
584	P		3				19E1・6	円形	弧状	18	17	8		
586	P		3				19E1	円形	弧状	20	18	7		
587	P		3				19E9	円形	U字状	23	18	23	>P588	
588	P		3				19E9	（楕円形）	U字状	（17）	18	15	<P587	
589	P		3				19E9	円形	U字状	27	24	38		
590	P		3				19E9	円形	U字状	25	22	18		
591	P	SB1	3	7			17D17	円形	U字状	40	35	30		
593	P		3				17D25	円形	弧状	20	16	4		
594	P		3				16D9	円形	半円状	19	17	8		
595	P		3				14C25	円形	U字状	16	15	14		
596	P		3				18D23	円形	U字状	29	26	60		
597	P		3				16D15, 17D11	円形	半円状	20	17	5		
599	P		4				22F9	円形	U字状	19	18	14		
600	P		4				22F9・14	円形	U字状	19	19	12		
601	P		4				23F11	円形	半円状	25	23	15		
604	P		3				15D4	円形	半円状	16	15	10		
605	P		3				15D4	円形	U字状	14	11	11		
606	P		3				15D4	楕円形	U字状	19	16	14		
607	P		3				15D4	円形	U字状	18	17	12	>SK564	
608	P		3				15D5	円形	半円状	18	15	9	>SK564	
609	P		3				15D6	円形	弧状	25	24	8		
610	P		3				14C20	円形	半円状	16	15	5		
611	P		3				14C25	楕円形	U字状	33	24	19		
612	P		3				15C22	円形	半円状	15	15	8		
614	P		3	12			15D3	楕円形	半円状	23	16	9		
615	P		3				18D22	円形	漏斗状	29	27	41		
630	P		4	13	82		29H17	円形	漏斗状	64	62	68	>SD625	
711	P		3				18E2	円形	U字状	22	20	23		
712	P	SB1	3	7			18D16	（楕円形）	U字状	（22）	26	22		
713	P		3				19E2	円形	U字状	28	27	29		
714	P		3				19E1	円形	弧状	20	19	5		
716	P		3				19E15	楕円形	U字状	40	28	10		
717	P		3				17D16	（楕円形）	台形状	（22）	（16）	6	>SD574	
720	P		4				21E22	楕円形	台形状	24	19	22		
761	P		3				19E15	円形	U字状	24	18	28		
763	P						21E18	－	袋状	－	－	28		壁面確認　平面図なし

山口遺跡　遺構観察表　竪穴建物（SI）古代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
324	SI	19	21	85・86	35	21K3・4・5・8・9・10・15	（隅丸長方形）（方形）	（階段状）	（275）	（402）	（62）		
764	SI	17・18	21	86・87	38	19E10・15, 20E11・12	（隅丸方・長方形）（方形）	箱状	（164）	（141）	13	<P772, SD718	

山口遺跡　遺構観察表　土坑（SK）古代（1）

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
167	SK	20	22	87	35	27M1・2	（長方形）	台形状	（227）	（75）	73	>SK319	
288	SK	19	22	88	35	18J5, 19J1	（長方形）	台形状	（62）	（92）	33		
307	SK	24	26	94	35	28M16・17	不整形	台形状	178	132	30		
316	SK	20	26	94	35	28M23	（楕円形）	台形状	（100）	（30）	29	>SK317	
317	SK	24	26	94	35	28M18・22・23	（楕円形）	台形状	（200）	（155）	24	<SK316	
318	SK	20	22	87		26M5	（長方形）	半円状	（59）	（50）	32		
319	SK	24	26	94・95		27M2	（円形）	台形状	（29）	（70）	25	<SK167, >SX320	
328	SK	19	22	88		17I19・20	（長方形）	弧状	（63）	101	16		
341	SK	24	26	95	35	27M6	（楕円形）	弧状	（106）	（60）	10		
342	SK	24	26	95		31N16・21	（円形）	半円状	（93）	（93）	40	>SK344	
343	SK	24	26	95・96	36	30N6・7・11・12	（円・楕円形）	台形状	（124）	（222）	36		
344	SK	24	26	96・97		31N16・17・21 ～ 23	（円形）	台形状	（520）	（108）	34	<SK342	

山口遺跡　遺構観察表　土坑（SK）古代（2）

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
345	SK	24	27	96		28M16	（楕円形）	台形状	（64）	（43）	21		
375	SK	20・24・25	22	88		34P2・7	（方形）	弧状	（127）	（55）	22		
622	SK	18	22	88		25G10・15	楕円形	台形状	125	（78）	24		
635	SK	18	22	89		28H15	（方形）	台形状	（94）	（80）	24		
636	SK	18	22	89		27G22・23，27H2・3	方形	弧状	（83）	（77）	6		
638	SK	18	22	89		26G11	楕円形	台形状	（70）	40	17		
646	SK	17	22	89		13C8・9・13・14	（楕円形）	弧状	（166）	（77）	11		
649	SK	17	22	90		13C15・20	（方形）	階段状	（96）	（96）	78		
661	SK	17	23	90		14C17	楕円形	弧状	115	41	9		
686	SK	18	23	90		25G7・8	楕円形	弧状	95	58	20		
689	SK	18	23	90		29H19・24・25	（方形）	弧状	（65）	（30）	15		
710	SK	17	23	91		17D11・12	不整形	弧状	（115）	（100）	7		
762	SK	17	23	91		19E8・9・13・14	（楕円形）	弧状	190	（83）	16		
770	SK	18	23	91		20E13・14	（長方形）	台形状	（199）	（33）	22		

山口遺跡　遺構観察表　溝（SD）古代

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
77	SD		19	23	92	35	16I14・15	楕円形	階段状	126	44～69	34		
296	SD		19	23	92		19J7・8	円形	弧状	981	（30～39）	4		
301	SD		20	23			27M9・14	－	弧状	（191）	22～29	8	<P305	
315	SD		24	27	97	36	28M24・25，29M21・22，28N5，29N1	－	台形状	（277）	（312）	39		
346	SD		24	27	96		27M14	－	弧状	（238）	（18～27）	4		
368	SD		20・24・25	28・29	101・102	37	34P1・2・6～10，12～15	－	弧状	（257）	500+	39		
398	SD		24	27・28	97		31N23・24，31O3・4	－	台形状	（281）	（78～83）	52	>P399	
631	SD		18	23	92		29H19	－	U字状	（120）	（20～29）	35	>P685	
655	SD		17	23	91		14C18	－	弧状	（101）	43	14		
718	SD		17・18	23	87・92	35	20E13・18	－	台形状	（855）	28～35	17～20	>SI764	
4236	SD		18	23	91		27H4・9	－	弧状	（220）	（37～50）	11		過年度調査遺構番号

山口遺跡　遺構観察表　性格不明遺構（SX）古代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
308	SX	20		101		29N15，30N6・7・11～14・17～20・24・25，31N16・21	－	－	（260）	（1220）	－		踏み込痕・耕作痕
309	SX	20				29N2・5・7・10・15，30N6	－	－	（260）	（720）	12		踏み込痕・耕作痕
320	SX	24	27	96	36	27M2・7・8・12・13	（円・楕円形）	弧状	（239）	（314）	54	<SK319	
688	SX	18	30	101	37	39K21・22，39L1・2	（方形）	（台形状）	（193）	（136）	19		水田か

山口遺跡　遺構観察表　畦畔　古代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
361	畦畔	20・24	28	99・100	36	31N22・23・24，31O2・3	－	階段状	（293）	（174～203）	41		
362	畦畔	20・24	28・29	99・100		31O5・10，32O1・6・11・12	－	階段状	（354）	（150～160）	40		
363	畦畔	20・24	28・29	100		32O15・19・20，33O11・16	－	袋状	（268）	（85～102）	17		
364	畦畔	20・24・25	28・29			33O25，33P4・5	－	階段状	（275）	（68～80）	22		
365	畦畔	20・24・25	28・29	100		34P15・20，35P11・16	－	階段状	（230）	（95～97）	35		
366	畦畔	20・25	28・30	101		35P25，35Q5・10，36Q1・6	－	階段状	（230）	（120～131）	20		
367	畦畔	20・25	28・30	101	36	36Q2・7	－	階段状	（227）	（87～110）	27		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）古代（1）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
172	P		20				27M9	円形	半円状	25	24	13		
173	P		20				27M14	楕円形	U字状	67	44	31		
175	P		20				27M9	（円形）	漏斗状	（24）	（41）	20		
176	P		20				26L21	円形	階段状	48	44	45		
177	P		20				25L25	円形	台形状	46	38	15		
178	P		20				25L19・20	円形	半円状	53	44	13		
179	P		19				24L15	楕円形	弧状	46	35	10		
180	P		19				24L10	楕円形	箱状	43	27	23		
228	P		19				17I23	（楕円形）	袋状	（30）	（25）	36		
229	P		19				17I23	（楕円形）	U字状	25	9	28		
284	P						18J2	楕円形	半円状	38	30	14		
287	P		19				18I22	楕円形	弧状	29	21	10		
289	P		19				18J4	円形	箱状	21	20	10		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）古代（2）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
292	P		19				18J5	円形	半円状	27	23	10		
293	P		19				18J4	円形	半円状	29	27	16		
295	P		19				19J6	円形	弧状	19	17	7		
298	P		19				19J15	円形	箱状	13	12	6		
299	P		19				19J9	（円形）	弧状	（18）	18	6		
300	P		19				19J13	（円形）	台形状	（23）	（65）	45		
302	P		19・20				23K22	円形	台形状	25	22	43		
303	P		20				27M15	（楕円形）	半円状	（30）	24	16		
304	P		20	23			27M9・14	円形	弧状	28	22	7		
305	P		20				27M14	円形	弧状	24	23	12	>SD301	
306	P		20				27M13	（円形）	半円状	（27）	（23）	19		
310	P		19・20				23K25	楕円形	台形状	59	47	15		
311	P		19・20			35	23L5, 24L1	楕円形	台形状	36	29	21		
312	P		19・20				23K18・19	（円形）	漏斗状	（12）	（28）	73		
313	P		19				24L15	円形	弧状	47	45	13		
321	P		19				22K12	楕円形	U字状	26	22	23		
323	P		19				21J21	円形	半円状	37	36	22		
330	P		19				19J13・14	不整形	台形状	81	61	44		
369	P		20				32O15	（円形）	半円状	（13）	（21）	10		
370	P		20				33O23	円形	U字状	27	24	35		
371	P		20				32O20	（円形）	U字状	19	（15）	26		
372	P		20				33O16	（楕円形）	U字状	（19）	（17）	30		
373	P		20				33O22	楕円形	U字状	34	27	41		
374	P		20・24・25	28・30		37	34P8	楕円形	階段状	75	55	48		
376	P		20				33O17	円形	弧状	16	14	7		
377	P		20				32O12	円形	U字状	21	20	16		
378	P		20				33O18	円形	U字状	26	21	45		
379	P		20				33O16	円形	U字状	22	21	29		
380	P		20				33O16	楕円形	箱状	37	27	12		
381	P		20				33O17	円形	漏斗状	15	13	12		
382	P		20				33O22	円形	弧状	14	13	5		
383	P		20				33O23	円形	U字状	21	19	14		
384	P		20				33O18・23	円形	U字状	15	12	16		
385	P		20				33O23	円形	弧状	11	10	4		
386	P		20				33P3	円形	U字状	15	12	10		
387	P		20				33O24	円形	U字状	14	13	15		
388	P		20				33O23	円形	U字状	16	15	22		
389	P		20				33O23	円形	U字状	19	12	23		
390	P		20				33O23	円形	U字状	20	18	22		
391	P						33O21・22	－	半円状	－	－	20		壁面確認　平面図なし
392	P						33O21・22	－	U字状	－	－	35		壁面確認　平面図なし
393	P		24				32O6	円形	弧状	28	14	7		
394	P		24				32O6	円形	漏斗状	16	14	10		
395	P		20				33O23	円形	弧状	15	13	5		
396	P		24				33O11	楕円形	半円状	19	14	8		
397	P		24				32O6	楕円形	U字状	35	30	27		
399	P		24		97		31O3	楕円形	U字状	75	50	47	<SD398	
523	P		17				6A20	円形	弧状	18	16	6		
524	P		17				6A12	円形	U字状	20	19	13		
528	P		17				11B17	楕円形	U字状	20	14	13		
529	P		17				11B17	円形	半円状	17	15	9		
530	P		17				11B16	円形	U字状	19	19	15		
531	P		17				10B20	円形	U字状	16	14	12		
533	P		17				9B15	円形	半円状	17	16	7		
534	P		17				9B8	円形	半円状	14	14	8		
535	P		17				11B16	楕円形	U字状	20	16	20		
536	P		17				9B7	円形	V字状	15	14	6		
537	P		17				9B7	円形	U字状	16	16	11		
540	P		17				8B5・10	楕円形	弧状	26	22	11		
541	P		17				8B10	（楕円形）	半円状	（11）	（17）	10		
542	P		17				8B5	円形	半円状	17	15	8		
543	P		17				8B4	円形	半円状	12	12	6		
544	P		17				8B4	円形	半円状	15	14	6		
545	P		17				8B4	（楕円形）	U字状	（28）	（23）	25		
546	P		17				9B2	円形	U字状	16	12	20		
632	P		18				29H11	円形	台形状	39	35	20		
633	P		18				28H20 29H16	（楕円形）	半円状	（33）	40	15		
634	P		18				28H14	（円形）	半円状	（31）	（28）	20		
637	P		18				27G22	不整形	漏斗状	（75）	（59）	20		
639	P		18				26G11	円形	箱状	58	（40）	24		
640	P		18				25G2・7	楕円形	弧状	35	27	11		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）古代（3）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
647	P		17				13C14	円形	半円状	20	20	8		
648	P		17				13C14・15	円形	U字状	18	17	19		
650	P		17				13C15	楕円形	V字状	23	18	22		
651	P		17				14C11	円形	半円状	25	24	14		
652	P		17				14C11	円形	半円状	23	22	7		
653	P		17				14C16	円形	U字状	16	14	22		
654	P		17				14C17	円形	U字状	21	18	20		
656	P		17				14C18	楕円形	弧状	47	39	8		
657	P		17				13C13・14	円形	U字状	19	16	20		
658	P		17				13C13	円形	U字状	18	14	29		
659	P		17				13C15	円形	半円状	20	20	8		
660	P		17				14C11	楕円形	U字状	（26）	23	17		
662	P		17				15C21	円形	半円状	15	15	10		
663	P		17				15C21	円形	U字状	13	13	12		
664	P		17				14C25	円形	半円状	25	23	11		
666	P		24				8A22	円形	半円状	18	17	10		壁面確認　平面図なし
667	P		24				8B2	円形	半円状	16	13	6		
668	P		24				8A23	円形	半円状	19	17	10		
669	P		24				10B13	円形	半円状	34	33	13		
670	P		24				8B3	楕円形	半円状	25	19	13		
671	P		24				8B3	楕円形	半円状	35	29	14		
672	P		24				8B4	円形	半円状	16	14	9		
673	P		24				8B4	楕円形	半円状	34	25	18		
674	P		24				8B5	円形	半円状	21	20	11		
675	P		24				8B5	円形	半円状	24	23	12		
676	P		24				9B1	円形	U字状	18	15	12		
677	P		24				10B19	円形	半円状	24	22	12		
678	P		24				9B2	（円形）	U字状	（23）	（17）	22		
679	P		24				10B20	楕円形	U字状	21	16	19		
680	P		24				9B2・3	（円形）	弧状	（15）	（22）	7		
681	P		18			35	25G1	円形	階段状	39	35	18		
682	P		18				25G1	円形	台形状	32	30	13		
683	P		18				25G8	円形	半円状	40	34	15		
684	P		18				25G7・8	楕円形	台形状	30	26	13		
685	P		18				29H19	（楕円形）	漏斗状	（60）	（21）	35	<SD631	
687	P		18				29H17	円形	弧状	34	29	4		
690	P		18				29H25	方形	弧状	32	30	8		
701	P		17				16D1	楕円形	弧状	42	36	8		
702	P		17				16D7	円形	U字状	19	18	14		
703	P		17				16D8	円形	U字状	25	24	11		
704	P		17				16D7・8・12・13	楕円形	弧状	112	62	9		土坑か?
705	P		17				16D10・15	円形	弧状	63	57	14		
706	P		17				17D11・16	楕円形	弧状	49	36	12		
707	P		17				17D11・16	楕円形	弧状	21	19	3		
708	P		17				17D12	円形	弧状	61	59	15		
709	P		17				17D24	（円形）	弧状	（30）	（14）	8		
715	P		17				19E7	円形	漏斗状	19	15	14		
719	P		17				19E9	円形	台形状	20	19	26		
721	P		24				9B8	円形	U字状					
722	P		24				9B14	円形	U字状	21	17	15		
723	P		24				9B10	円形	半円状	17	15	9		
724	P		24				10B20	円形	U字状	20	18	13		
725	P		24				10B12	円形	半円状	23	18	8		
726	P		24				10B17	円形	半円状	20	17	11		
728	P		24				10B20	円形	弧状	18	17	5		
730	P		24				9B6	円形	半円状	18	16	9		
731	P		24				9B6	（円形）	半円状	（32）	（34）	13		
732	P		24				11B16・21	円形	U字状	18	17	22		
733	P		24				11B16	円形	半円状	17	14	9		
734	P		24				11B16	（楕円形）	半円状	（9）	（23）	9		
735	P		24				11B21・22	円形	U字状	14	12	22		
736	P		24				11B17	円形	U字状	18	17	22		
737	P		24				11B24.11C4	楕円形	（V字状）	（25）	16	16		
738	P		24				11C5	円形	半円状	15	14	8	>SK755	
739	P		24				11B25	円形	U字状	19	16	26		
740	P		24				12B25	円形	U字状	17	16	14		
741	P		24				11B25	円形	半円状	25	25	15	>SK755	
742	P		24				12C3	円形	U字状	14	12	12		
743	P		24				12C3・8	円形	V字状	19	15	8		
744	P		24				12C8	円形	半円状	26	23	13		

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）古代（4）

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
745	P		24				12C8・9	楕円形	弧状	25	20	4		
747	P		24				11B24	円形	半円状	20	19	7		
748	P		24				11B24	円形	半円状	14	13	6		
749	P		24				11B24	円形	U字状	16	10	25		
750	P		24				11B18	円形	半円状	20	19	7		
751	P		24				11B22	円形	U字状	17	15	13		
752	P		24				12C2	円形	U字状	14	12	13		
753	P		24				10B20	円形	台形状	17	15	7		
756	P		24				11B17	楕円形	U字状	（35）	22	23		
760	P		24				11B18・23	円形	U字状	16	13	7		
765	P		18				20E19	円形	半円状	22	20	13		
766	P		18				20E20	円形	袋状	15	14	9		
767	P		18				20E25	円形	U字状	20	19	22		
772	P		17・18		86		20E11	楕円形	U字状	39	27	32	>SI764	
775	P						13C15	－	U字状	－	－	30		壁面確認　平面図なし
782	P		24				11B16	円形	半円状	15	13	8		
783	P		24				11B16	円形	半円状	16	14	9		
785	P		24				9B8	（円形）	半円状	（29）	28	21		
798	P						21H19	円形	U字状	34	32	46		SD631内ピットから変更

山口遺跡　遺構観察表　杭　古代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
297	杭					20J11	－	箱状	－	－	18		

山口遺跡　遺構観察表　土坑（SK）弥生時代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
532	SK	32	32	103	39	13C6	（楕円形）	弧状	（140）	（98）	15		
755	SK	32	32	104	38・39・40	11B25，11C5，12B21，12C1	（楕円形）	弧状	（300）	（140）	16	<P738・741	SR784の堆積土か
757	SK	32	32	105	40	12B21・22	（長方形）	弧状	（78）	（58）	14		SR785の堆積土か

山口遺跡　遺構観察表　自然流路（SR）弥生

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
784	SR	32	32	105	39・40	11B25，11C5，12B	－	－	－	－	125		壁面確認

山口遺跡　遺構観察表　ピット（P）弥生時代

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
525	P		32				13C6	楕円形	U字状	30	21	28		
526	P		32				13C7	楕円形	U字状	20	14	24		
527	P		32				13C7	楕円形	U字状	19	15	12		
538	P		32				12C10	楕円形	半円状	46	29	15		
539	P		32			39	12C9・10	楕円形	弧状	58	36	8		古代か?
548	P		32				13C11	円形	U字状	17	16	22		古代か?
759	P		32				13C14	円形	U字状	34	30	48		
773	P		32				14C19・24	楕円形	半円状	17	13	10		
774	P		32				14C11	円形	半円状	22	20	10		
776	P		32				13C15	－	U字状	－	－	37		壁面確認　平面図なし
777	P		32				13C15	－	U字状	－	－	22		壁面確認　平面図なし

山口遺跡　遺構観察表　土坑（SK）縄文時代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
400	SK		30	105	40	35P25，36Q1	不明	弧状	（144）		18		壁面確認　平面図なし

山口遺跡　土器・陶磁器観察表（中世）(1)

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
1	珠洲焼	甕		南1区	SE1	12H10	1			(7.7)			10YR6/1 褐灰	長・海	平行タタキ	当て具痕 ナデ			良好	Ⅳ期
2	珠洲焼	片口鉢		南1区	SE1	11H		16.4		(3.3)	5/36		N5/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	Ⅱ～Ⅲ期
3	須恵器	杯蓋		南1区	SK2	11H10	1	つまみ 2.6		(1.2)		つまみ 26/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	つまみ部打ち欠き
4	土師質土器	皿		南1区	SE7	12H15	2	11.8		(2.4)	3/36		10YR4/1 褐灰	白	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	内面タール状付着物。13世紀後半
5	土師器	長甕	B類	南1区	SE10	11H5	6	20.0		(2.4)	2/36		10YR7/3 にぶい黄橙	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
6	土師器	長甕	B類	南1区	SE10	11H10	6	23.4		(7.0)	3/36		10YR7/3 にぶい黄橙	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
7	珠洲焼	甕		南1区	SE11	11H8	7			(13.2)			10YR6/2 灰黄褐	B	平行タタキ	当て具痕→ナデ			良好	Ⅳ期
8	珠洲焼	片口鉢		南1区	SE21・P230	17I17 17I23	1・4 2	31.6	13.8	13.0	6/36	6/36	10YR8/1 灰白	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ 卸目14条			良好	Ⅵ期
9	珠洲焼	片口鉢		南1区	SE21	17I12	14			(7.7)			2.5Y7/1 灰白	長	ロクロナデ	卸目			良好	内面被熱。Ⅵ期
10	瓷器系陶器	甕		南1区	SE21	17I17	2			(4.0)			10YR6/2 灰黄褐	砂	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	
11	珠洲焼	片口鉢		南1区	SE24	12H9	1		13.0	(7.4)		13/36	N5/ 灰	砂・海	ロクロナデ	卸目11条（幅3.5cm）	静止糸切り		堅緻	Ⅵ期
12	須恵器	無台杯		南1区	SE24	12H9	1		9.6	(1.5)		6/36	7.5YR8/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
13	須恵器	短頸壺		南1区	SE24	12H9	1			(5.6)			5Y4/2 灰オリーブ	A	カキメ	ロクロナデ			良好	外面自然釉付着
14	土師器	無台椀		南1区	SE24	12H9	1		6.0	(3.2)		7/36	7.5YR8/4 浅黄橙	長・砂	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切りか		軟質	
15	珠洲焼	甕		南1区	SE27	16I12	2			(10.5)			N7/ 灰白	長・海	タタキ	当て具痕			良好	Ⅳ期
16	珠洲焼	甕		南1区	SE27		最下層			(7.8)			N4/ 灰	A	平行タタキ	当て具痕			堅緻	
17	瀬戸美濃	天目		南1区	SE81	21K8・9	1	12.0		(2.8)	6/36		2.5YR2/2 極暗赤褐		ロクロナデ 施釉	ロクロナデ 施釉				古瀬戸後3期
18	須恵器	瓶類		南1区	SE81	21K8・9	1			(3.2)			5Y6/1 灰	C	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
19	珠洲焼	甕		北2区	SE519	8A22	2			(5.5)			2.5Y4/1 黄灰	長・砂	平行タタキ	当て具痕			堅緻	Ⅲ期
20	珠洲焼	片口鉢		北2区	SE519	8A22	2		13.8	(6.4)		10/36	N6/ 灰	長・砂	ロクロナデ	卸目11条（幅2.5cm）	静止糸切り		堅緻	Ⅴ期
21	珠洲焼	甕		北2区	SE771	21F 21F4・5	7	18.0		(42.2)	8/36		N4/ 灰	A	平行タタキ	当て具痕			良好	Ⅱ期
22	青磁	椀	D1類	北2区	SE771	21F10	3			(4.3)			2.5GY7/1 明オリーブ灰		施釉	沈線 施釉			堅緻	龍泉窯。14世紀前半
23	須恵器	有台杯		北3区	SD621	25G6～8	1	11.0	7.2	3.5	3/36	5/36	7.5Y5/1 灰	C	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	
24	須恵器	無台杯	Ⅱ2類	北3区	SD621	25G6～9	1	13.2	8.6	2.9	5/36	26/36	N7/ 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り→ナデ		良好	
25	須恵器	無台杯		北3区	SD621	25G6～8	1		9.0	(2.1)		5/36	7.5Y6/1 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
26	瓦器	盤か鉢		北4区	SD627	37K9	1		20.0	(2.6)		3/36	10YR5/2 灰黄褐	長・石・雲	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	

山口遺跡　土器・陶磁器観察表（中世）（2）

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
27	青磁	椀	B1類	南1区	SD23	15I9	4			(4.6)			10Y6/2 オリーブ灰		鎬蓮弁文 施釉	施釉			堅緻	龍泉窯。13世紀後半～14世紀初頭
28	須恵器	無台杯		南1区	SD1031	18J5・10 19J6	1	12.0		(2.7)	4/36		7.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
29	須恵器	甕		南2区	SD55	27M7・8・12	1			(3.6)	1/36		5YR5/1 褐灰	A	ロクロナデ 波状文	ロクロナデ			良好	
30	土師器	小甕		南2区	SD174	27M9・14・15	1		6.6	(2.5)		7/36	7.5YR7/4 にぶい橙	長・石・雲・砂	ナデ?	ナデ			軟質	
31	土師器	長甕		南2区	SD166	27M6・7	1			(4.0)			7.5YR6/4 にぶい褐	石	平行タタキ	平行当て具痕			軟質	
32	須恵器	甕		南2区	SD166	27M6・7	上層			(7.2)			N5/ 灰	B	平行タタキ	同心円当て具痕			良好	断面研磨（上面・左面）。転用砥石
33	珠洲焼	壺		北2区		8B3	Ⅳ	21.4		(3.4)	6/36		7.5YR7/1 明褐灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	口縁部外面に薄い自然釉。Ⅱ期
34	珠洲焼	壺		南1区		12H1	Ⅳ			(10.2)			N5/ 灰	石・砂	平行タタキ （綾杉文）	当て具痕			堅緻	Ⅱ・Ⅲ期
35	珠洲焼	壺		南1区		15I9	Ⅳ			(4.6)		4/36	10YR8/1 灰白	長	平行タタキ	ロクロナデ 無文当て具痕	砂痕		良好	Ⅳ期
36	珠洲焼	片口鉢		北2区		8A22	Ⅳ			(9.5)			10YR5/1 褐灰	長・石	ロクロナデ	卸目			良好	内面被熱。スス付着。Ⅳ期

山口遺跡石製品観察表（中世）

報告No.	器種	石材	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	備考
37	砥石	凝灰岩	南1区	P231	17I23	1	96.03	24.54	24.52	72.84	Ⅱ期　天草

山口遺跡金属製品・鍛冶関連遺物観察表（中世）

報告No.	種類	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
38	釘	南1区	SE27	16I12	1	7.4	1.3	1.6	24.6	
39	不明	南1区	SE81	21K8・9	1	4.1	1.3	0.5	3.6	
40	椀形滓	南1区	SE10	11H5	6	6.7	4.7	3.5	43.9	

山口遺跡　土器観察表（古代）（1）

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
41	須恵器	有台杯		南1区	SI324	21K3	2		7.2	(6.0)		18/36	5YR5/1 褐灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	内面降灰
42	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南1区	SI324	21K4	1	11.8	8.2	3.0	25/36	36/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
43	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南1区	SI324	21K4	1	11.8	7.6	3.2	8/36	17/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
44	須恵器	無台杯		南1区	SI324	21K4	1	14.0		(2.9)	2/36		5Y5/1 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
45	土師器	小甕		南1区	SI324	21K4	1～3	12.9	6.5	(13.6)	7/36	9/36	7.5YR6/4 にぶい橙	石・砂	カキメ	カキメ			良好	口縁部内面スス・コゲ付着
46	土師器	小甕		南1区	SI324	21K4 21K3	1 3		6.6	(7.4)		36/36	7.5YR6/3 にぶい褐	石・雲・砂	ケズリ	カキメ	ヘラ切り		良好	内面指おさえ痕
47	須恵器	無台杯	Ⅲ2類	南2区	SK167	27M1	2	12.2	7.0	2.8	12/36	12/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
48	須恵器	無台杯		南2区	SK167	27M1		12.8		(2.9)	4/36		N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
49	須恵器	無台杯		南2区	SK167	27M1	2		6.6	(0.9)		11/36	2.5Y7/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		軟質	

山口遺跡　土器観察表（古代）(2)

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
50	須恵器	甕		南2区	SK167	27M1				(3.7)	1/36		5YR4/1 褐灰	C	ロクロナデ 波状文	ロクロナデ			堅緻	
51	土師器	無台椀		南2区	SK167	27M1	2	13.8		(3.2)	5/36		10YR6/2 灰黄褐	長・雲	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
52	土師器	長甕	A類	南2区	SK167	27M1	4	26.4		(4.6)	1/36		7.5YR8/3 浅黄橙	砂	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
53	土師器	長甕	B類	南2区	SK167	27M1	2	21.2		(13.3)	9/36		7.5YR7/6 橙	石・砂	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ			良好	
54	須恵器	くびれ鉢		南1区	SK288	18J5	2	21.6		(13.2)	11/36		10YR7/1 灰白	C	ロクロナデ 沈線	ロクロナデ カキメ			良好	沈線
55	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区	SK316 SK317	28M23	2 3	11.6	8.0	3.2	2/36	19/36	N7/ 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
56	須恵器	無台杯		南2区	SK316	28M23	2		7.4	(2.5)		6/36	N7/ 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
57	土師器	無台椀		南1区	SD77	16I14	1・2	15.0	6.6	5.4	29/36	7/36	5YR7/6 橙	長・砂	ロクロナデ ケズリ	ロクロナデ	回転糸切りか		良好	口縁外面墨書、内面スス状付着物
58	須恵器	有台杯	Ⅲ2類	北2区	SD718	20E17 20E12・17	1 Ⅳc	15.0		(5.6)	17/36		N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
59	土師器	小甕		北2区	SD718	20E18	3	13.4		(2.1)	3/36		7.5YR6/2 灰褐	長・石・雲	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	口縁部内面スス付着
60	土師器	小甕		北2区	SD718	20E18	3	11.4		(6.8)	15/36		7.5YR6/4 にぶい橙	雲・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	口縁部内面スス付着
61	土師器	鍋	B類	南2区	P311	24L1	1	26.8		(5.6)	2/36		7.5YR7/4 にぶい橙	石・雲・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
62	須恵器	杯蓋		北3区	P681	25G1	1	15.0		(2.4)	6/36		2.5Y7/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	
63	須恵器	有台杯		南2区	SK307 SK317	28M17 28M18	4 2		6.6	(2.2)		17/36	10Y6/1 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		堅緻	
64	須恵器	無台杯		南2区	SK307	28M17	3		7.6	(1.5)		36/36	5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り ナデ		良好	底部を打ち欠きか
65	須恵器	杯蓋		南2区	SK317	28M18	3	12.9		(1.8)	3/36		N7/ 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
66	須恵器	有台杯		南2区	SK317	28M18	3	9.9		(2.7)	3/36		N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	
67	須恵器	有台杯		南2区	SK317	28M18	2			(2.2)		4/36	7.5Y5/1 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	折縁杯の可能性あり
68	須恵器	無台杯		南2区	SK317	28M18	3	13.0		(2.7)	2/36		N4/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	ヒダスキ痕を持つタイプ
69	須恵器	無台杯		南2区	SK317	28M23	3	12.6		(1.7)	4/36		5Y6/2 灰オリーブ	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
70	須恵器	甕		南2区	SK317	28M23	2			(6.4)			N5/ 灰	A	平行タタキ	同心円当て具痕			良好	
71	土師器	長甕		南2区	SK341	27M6	1			(3.2)			10YR7/3 にぶい黄橙	長・砂	平行タタキ	平行当て具痕			良好	
72	須恵器	有台杯		南2区	SK343	30N6・7・ 11・12	1		8.6	(1.9)		13/36	5B5/1 青灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
73	土師器	長甕	A類	南2区	SK343	30N6・7・11・ 12	1	22.6		(3.3)	2/36		10YR8/2 灰白	長・石	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	
74	須恵器	無台杯		南2区	SX320	27M8	5		8.2	(1.0)		4/36	7.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り →ナデ		軟質	底部墨書「×」
75	須恵器	無台杯		南2区	SK317 SX320	28M13 27M13	2 1		9.0	(1.8)		12/36	2.5Y7/2 灰黄	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		軟質	

山口遺跡　土器観察表（古代）(3)

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
76	須恵器	杯蓋		南2区	SD315	29M22	1	14.0	つまみ 2.5	2.3	25/36	つまみ 36/36	5B6/1 青灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
77	須恵器	有台杯	Ⅰ2類	南2区	SD315	29M22	1	13.0	8.0	4.1	11/36	36/36	10YR7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	右	軟質	
78	須恵器	有台杯	Ⅰ2類	南2区	SD315	29N1	1	12.8	7.8	3.9	6/36	16/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
79	須恵器	有台杯		南2区	SD315	28N5	1		7.4	(1.6)		16/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
80	須恵器	折縁杯		南2区	SD315	28N5	1	12.8	7.2	3.3	1/36	4/36	2.5Y8/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	貼り付け高台		軟質	
81	須恵器	無台杯	Ⅰ1類	南2区	SD315	29M21 29M21・22 29N3	1 Ⅳ Ⅰ	12.0	9.0	3.1	5/36	10/36	N7/ 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
82	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区	SD315	29M22	1	12.0	7.8	3.3	17/36	30/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り ナデ	右	良好	
83	須恵器	無台杯	Ⅱ2類	南2区	SD315	29M22 29M23	1 3	13.0	8.8	3.2	5/36	17/36	5Y7/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	軟質	
84	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南2区	SD315	29M21	1	12.0	7.0	3.9	10/36	36/36	N6/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り ナデ	右	良好	
85	須恵器	無台杯	Ⅲ2類	南2区	SD315	28N5	1	13.0	8.0	2.8	13/36	19/36	7.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り ナデ	左	良好	
86	須恵器	無台杯	Ⅲ2類	南2区	SD315	28M25 28N5 28M17	1 1 Ⅳ	13.0	6.6	3.4	20/36	21/36	N4/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	右	堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
87	須恵器	無台杯		南2区	SD315	28N5 29N1	1	12.6		(3.2)	3/36		10YR8/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			不良	
88	須恵器	無台杯		南2区	SD315	28M25 28N5 28M17	1 1 Ⅳc	12.4		(2.7)	17/36		5B5/1 青灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線） 小泊を意識している在地
89	須恵器	無台杯		南2区	SD315	28M25 28N5 28M23	1 1 Ⅳ	11.8		(3.1)	4/36		N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
90	須恵器	無台杯		南2区	SD315	28N5	1	11.8		(2.7)	5/36		2.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅微	ヒダスキ痕（内外・直線）
91	須恵器	無台杯		南2区	SD315		1	12.8		(3.2)	1/36		2.5Y7/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
92	須恵器	無台杯		南2区	SD315	29M22	1		7.0	(0.7)		8/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		軟質	底部墨書
93	須恵器	無台杯		南2区	SD315	28N5	1		7.0	(2.5)		10/36	N6/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
94	須恵器	無台杯	Ⅱ2類	南2区	畦畔361	31O2	4	12.7	8.2	3.7	2/36	9/36	5PB6/1 青灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
95	土師器	鍋		南2区	畦畔367	36Q7	1			(5.4)			7.5YR7/6 橙	長・石・雲・砂	平行タタキ	ハケメ			良好	
96	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区	SD368	34P7 34P8	3 4	12.0	8.0	3.1	1/36	24/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
97	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区	SD368	34P8	4	11.0	7.6	3.1	16/36	15/36	N5/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左?	良好	
98	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南2区	SD368	34P13	4	11.9	7.6	3.2	17/36	19/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	底部墨書
99	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南2区	SD368	34P8	4	12.0	7.4	3.0	5/36	13/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
100	土師器	鍋	A類	南2区	SD368	34P	4	37.6		(4.5)	4/36		7.5YR7/6 橙	砂	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	

山口遺跡　土器観察表（古代）(4)

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
101	須恵器	無台杯		南2区	P374	34P7	1	11.7		(2.8)	4/36		N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
102	土師器	長甕	B類	南2区	P374	34P7	1	22.0		(2.7)	3/36		10YR8/4 浅黄橙	砂	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
103	須恵器	無台杯	Ⅱ2類	北4区	SX688	39K22 39L2 39K21	1 1 Ⅲ	12.2	9.0	2.6	17/36	29/36	N7/ 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
104	須恵器	無台杯	Ⅱ2類	北4区	SX688	39K・L 39L1・2	1 Ⅲ	12.0	8.1	3.0	3/36	7/36	7.5Y6/1 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
105	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	北4区	SX688	39K・L 39L1	1 Ⅲ	11.8	7.6	3.5	1/36	14/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り →ナデ		堅緻	
106	須恵器	杯蓋		南1区		15I3	Ⅴ	14.2	つまみ 2.8	2.5	5/36	つまみ 36/36	10YR7/2 にぶい黄橙	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	
107	須恵器	有台杯		南2区		29N5 29N14	Ⅳ Ⅳc		8.1	(1.8)		2/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
108	須恵器	有台杯		南2区		29N9	Ⅳ		5.4	(1.5)		33/36	N5/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り 貼り付け高台	右	良好	底部を残して円形に打ち欠く
109	須恵器	有台杯		南1区		18J10	Ⅴ		5.7	(2.5)		16/36	5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
110	須恵器	無台杯	Ⅰ2類	南2区		29N2	Ⅳ	11.8	7.8	3.5	2/36	15/36	N7/ 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		軟質	
111	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		29N2	Ⅳc	12.0	8.8	3.0	23/36	36/36	N7/ 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	内面黒色の付着物
112	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		28M16	Ⅳ	11.6	7.6	3.5	6/36	13/36	N6/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	右	良好	
113	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		29N8	Ⅳc	11.8	8.2	3.2	14/36	18/36	N7/ 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り	左	良好	
114	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		29N4・8 29N9	Ⅳ Ⅳc	11.8	8.6	2.9	3/36	27/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
115	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		29M21	Ⅳ	11.8	8.0	3.3	1/36	10/36	2.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
116	須恵器	無台杯	Ⅱ1類	南2区		29N7 29N9	Ⅳc Ⅳ	12.0	8.0	3.6	11/36	15/36	2.5Y8/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り →ナデ		軟質	
117	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南2区		29N2・7	Ⅳ	12.0	7.0	2.6	3/36	10/36	7.5Y8/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		軟質	
118	須恵器	無台杯	Ⅲ1類	南2区		29N3・8	Ⅳ	11.2	7.0	3.5	4/36	6/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
119	須恵器	無台杯	Ⅲ2類	南2区		29N2・7・9	Ⅳ	13.2	8.4	3.3	2/36	21/36	N8/ 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り →ナデ		軟質	
120	須恵器	無台杯	Ⅲ2類	南2区		29N9・10	Ⅳ	13.0	8.2	3.3	2/36	18/36	N6/ 灰	B	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	
121	須恵器	無台杯		南1区		18J5	Ⅴ		7.0	(1.6)		16/36	N6/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
122	須恵器	無台杯		南2区		30N13	Ⅳ		6.0	(0.8)		15/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ ヒダスキ痕	ロクロナデ ヒダスキ痕	回転糸切り ヒダスキ痕		堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
123	須恵器	無台杯		南2区		29N3	Ⅳ		6.0			21/36	N5/ 灰	A	ロクロナデ ヒダスキ痕	ロクロナデ ヒダスキ痕	回転糸切り ヒダスキ痕		堅緻	ヒダスキ痕（内外・直線）
124	須恵器	甕		南2区		29M22	Ⅳ	17.8		(4.7)	3/36		2.5Y8/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			不良	
125	須恵器	甕		南2区		29N10	Ⅳ	35.8		(3.2)	2/36		2.5Y7/1 灰白	A	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
126	須恵器	甕		南2区		30N18	Ⅳc			(10.6)			N7/ 灰白	B	平行タタキ	同心円当て具痕			良好	内面漆付着か

山口遺跡　土器観察表（古代）（5）

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
127	須恵器	甕		北2区		22F9	Ⅳ			(2.6)			N8/ 灰白	A	平行タタキ	同心円当て具痕			軟質	外面自然釉付着
128	須恵器	甕		北4区		39K21	Ⅲ			(4.5)			2.5Y3/1 黒褐	B	格子目タタキ	平行当て具痕			良好	
129	須恵器	甕		北2区		18E3	Ⅳc			(7.6)			N4/ 灰	A	カキメ→ 平行タタキ	同心円当て具痕			良好	
130	須恵器	甕		南1区		12I8	Ⅴ			(5.7)			N5/ 灰	A	平行タタキ	同心円当て具痕			良好	
131	須恵器	長頸瓶		北3区		29H19	Ⅲ	13.8		(2.2)	3/36		10YR7/1 灰白	B	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	口縁部外面～内面に薄い自然釉
132	須恵器	長頸瓶		南2区		27M15	Ⅳ			(3.5)			N4/ 灰	A	ロクロナデ	ロクロナデ			堅緻	外面自然釉
133	土師器	無台椀		北2区		15C21	Ⅳc		7.0	(4.4)		36/36	5YR7/6 橙	石・雲・砂	ロクロナデ	ロクロナデ	?		不良	摩耗著しい
134	土師器	無台椀		南2区		27M1	Ⅰ		4.5	(1.7)		36/36	5YR7/6 橙	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	右	軟質	
135	土師器	長甕	A類	南2区		29N14	Ⅳb Ⅳc	19.0		(2.5)	2/36		7.5YR7/4 にぶい橙	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			軟質	内面スス・コゲ付着
136	土師器	長甕	A類	南2区		28M22	Ⅳb	19.4		(5.8)	2/36		10YR7/2 にぶい黄橙	雲・砂	ナデ	ナデ			不良	
137	土師器	長甕	A類	南2区		29N8	Ⅳ	20.8		(4.7)	2/36		10YR8/2 灰白	石・砂	ロクロナデ	ロクロナデ			不良	
138	土師器	長甕	A類	南2区	SX309	29N3	1	29.2		(5.5)	2/36		7.5YR8/3 浅黄橙	砂	ロクロナデか	ロクロナデか			不良	
139	土師器	長甕か	B類	南2区		29N14	Ⅳb			(2.1)	1/36		5YR7/6 橙	長・石・砂	沈線 ロクロナデか	ロクロナデか			軟質	140と同一か
140	土師器	長甕	B類	南2区		27M20 28M16・17	Ⅳb Ⅳ	22.0		(6.2)	2/36		7.5YR6/4 にぶい橙	雲・砂	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ ナデ			良好	139と同一か
141	土師器	長甕	C類	南2区		28M17	Ⅳc	29.8		(4.0)	2/36		10YR7/3 にぶい黄橙	長・石・雲	ロクロナデ カキメ	ロクロナデ			良好	
142	土師器	鍋	A類	南2区		28M17	Ⅳ	25.0		(5.1)	2/36		10YR8/3 浅黄橙	石・砂	ロクロナデ カキメ	ロクロナデか			不良	
143	黒色土器	無台椀		南2区		28M17	Ⅳ		5.8	(3.0)		15/36	10YR8/3 浅黄橙	石・砂	ロクロナデ	ミガキ	回転糸切りか		軟質	

山口遺跡土製品観察表（古代）

報告No.	器種	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	色調	備考
144	羽口	南1区	SI764	20E11	1	3.8	4.7	2.1	28.9	10YR8/1 灰白	

山口遺跡木製品観察表（古代）

報告No.	種別	区名	遺構	グリッド	層位	木取り	樹種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備考
145	杭	南3区		43U2	Ⅳc	分割角材		36.7	2.9	3.5	
146	棒状木製品	南3区		41T4	①（Ⅴ層相当）	分割角材	スギ	122.2	3.5	3.1	

山口遺跡土器観察表（弥生・縄文時代）（1）

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部		
147	弥生土器	甕	甕A2類	北2区	SK755 SR784	12B21 12C1 11B 12B 12C1	1 1 4 3 Ⅴ	24.0		(12.5)	6/36		7.5YR6/2 灰褐	長・石・砂・角	波状口縁 変形工字文→ミガキ	ナデ		良好	外面スス付着

山口遺跡土器観察表（弥生・縄文時代）（2）

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部		
148	弥生土器	甕	甕A2類	北2区	SK755 SK757	12C1 12B21	1	15.2		(6.1)	6/36		10YR5/2 灰黄褐	長・石・雲・角	波状口縁 （頂部にスリット） 変形工字文→ミガキ	ナデ		良好	沈線内コゲ付着
149	弥生土器	甕	甕B2類	北2区	SK755 SK757 SR784	11C5 12C1 12B21 12B22 11B 12B 12B21 12C1 13C	1 1 1・3 1 3 3 V V V	25.0		12.4	9/36		10YR6/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	LR→変形工字文	ナデ		良好	
150	弥生土器	深鉢か		北2区	SK755	12C1	1			(1.9)	1/36		7.5YR5/2 灰褐	長・石・砂	平行沈線→ミガキ	沈線・ナデ		良好	
151	弥生土器	深鉢		北2区	SK755	12B21	1			(2.2)	1/36		10YR6/3 灰黄褐	長・石・雲・砂・角	平行沈線	ナデ		良好	
152	弥生土器	深鉢		北2区	SK755	12B21	1			(2.5)			10YR6/3 にぶい黄橙	長・石・砂・角	変形工字文か	ナデ		不良	167と同一か
153	弥生土器	甕		北2区	SK755	11C5 12B21 13C1	1 V			(4.6)			7.5YR4/1 褐灰	長・石・雲・角	反撚LL→平行沈線（変形工字文か） 刺突文	ナデ		良好	外面コゲ付着 器壁薄い
154	弥生土器	甕か深鉢		北2区	SK755	12C1	1			(4.4)			7.5YR6/3 にぶい褐	長・石・雲・砂・角	条痕	ナデ		良好	
155	弥生土器	甕か深鉢		北2区	SK755	12C1	1			(3.5)			10YR6/2 灰黄褐	長・石・雲・砂・角	条痕	ナデ		良好	
156	弥生土器	深鉢	深鉢A類	北2区	SK755	12C1	1		12.4	(22.8)		36/36	10YR6/4 にぶい黄橙	長・石・雲・砂（多）・角	条痕	ナデ	平行葉脈圧痕	良好	
157	弥生土器	深鉢	深鉢A類	北2区	SK755 SR784	11C5 12B21 12C1 11B25 11B25	1 1 1 1 Ⅳ		11.2	(9.9)		8/36	7.5YR6/3 にぶい褐	長・石・砂	ナデ・条痕	ナデ		良好	
158	弥生土器	甕か深鉢		北2区	SK755	11C5	1			(2.6)	1/36		7.5YR6/4 にぶい橙	長・石・雲・砂	斜位平行沈線	ナデ		不良	
159	弥生土器	甕		北2区	SK755	11C5 11C5	1・2 V			(7.1)			7.5YR5/3 にぶい褐	長・石・雲・砂（多）	ハケ→櫛描簾状文→櫛描直線文→櫛描波状文	ハケ		良好	北陸系小松式
160	弥生土器	甕		北2区	SK755	11C5	1			(3.4)			7.5YR5/2 灰褐	長・石・雲・砂	ハケメ	ハケメか		良好	外面スス付着
161	弥生土器	深鉢か		北2区	SK755	12C1	1			(4.0)			7.5Y5/1 黄灰	長・石・雲・砂・角	ハケメ	ナデ		良好	
162	弥生土器	甕か深鉢		北2区	SK755	11C5	2			(2.5)			7.5YR4/2 灰褐	長・石・雲・砂	ハケメ	ナデ		良好	
163	弥生土器	高杯		北2区	SK755	11C5 12B21 12C1 12B21	1 1 1 V						10YR4/2 灰黄褐	長・石・角	L→平行沈線→磨消縄文	ナデ 杯部ミガキ		良好	
164	弥生土器	台付鉢か		北2区	SK755	12C1	1		11.4	(1.5)		2/36	10YR7/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	ナデ	ナデ		良好	
165	弥生土器			北2区	SK755	12C1	1			(0.5)			10YR6/2 灰黄褐	長・石・雲・砂・角			網代痕	良好	底部
166	弥生土器	甕か		北2区	SR784	11B23	3			(2.8)			7.5YR5/2 灰褐	長・雲・角	沈線	ナデ		良好	
167	弥生土器	深鉢		北2区	SR784	11B24	3			(2.6)	1/36		7.5YR7/6 橙	長・石・砂（多）	平行沈線	口縁部沈線		不良	152と同一か
168	弥生土器	甕か深鉢		北2区	SR784	11B24	3			(2.2)			10YR6/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	平行沈線	ナデ		良好	

山口遺跡土器観察表（弥生・縄文時代）（3）

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部		
169	弥生土器	甕		北2区	SR784	12B	3	(30.0)		(1.9)	1/36		10YR7/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	ナデ	ナデ		良好	
170	弥生土器	深鉢	深鉢A類	北2区	SR784	12B22	2		9.4	(5.9)		8/36	10YR7/2 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	条痕	ナデ	網代痕	良好	
171	弥生土器	深鉢		北2区	SR784	12B21	3			(8.6)			7.5YR6/4 にぶい橙	長・石・雲・砂・角	L・細密条痕	ナデ		良好	外面スス付着
172	弥生土器	深鉢		北2区	SR784	12B	3						7.5YR6/4 にぶい橙	長・石・雲・角	反撚RR	ナデ		良好	
173	弥生土器	甕	甕A1類	北2区	SK532	13C6 13C1	1 Ⅵ	19.8		(20.7)	5/36		7.5YR5/3 にぶい褐	長・石・雲・砂・角	匹字・変形工字文・平行沈線 沈線間の縄文磨消し	ナデ		良好	外面コゲ・スス付着
174	弥生土器	鉢	鉢D2類	北2区	SK532	13C6	1	11.8	9.1	15.3	14/36	28/36	10YR3/2 黒褐	長・石・雲・角	変形工字文→ミガキ L→平行沈線、沈線間の縄文磨消	ナデ		良好	外面スス、内面コゲ付着
175	弥生土器	甕		北2区	P539	12C9	1			(4.7)	1/36		7.5YR8/4 浅黄橙	長・石・砂（多）	沈線	ナデ		不良	
176	弥生土器	甕		北2区		12C3	Ⅴ			(4.4)	2/36		10YR4/1 褐灰	長・石・雲・砂（多）・角	平行沈線	ナデ		良好	
177	弥生土器	甕か深鉢		北2区		12C3	Ⅴ			(4.0)			10YR6/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂（多）・角	平行沈線 LRか	ナデ		不良	
178	弥生土器	甕		北2区		12B22	Ⅴ			(2.3)			10YR5/2 灰黄褐	長・石・雲・砂・角	平行沈線 LR	ナデ		良好	
179	弥生土器	甕		北2区		13C1	Ⅴ			(1.5)			7.5YR5/2 灰褐	長・石・砂・角	変形工字文	ナデ		良好	実No.147と同一か 外面スス付着
180	弥生土器	浅鉢か		北2区		12B21	Ⅴ			(2.8)			10YR3/1 黒褐	長・石・雲・砂・角	LR→平行沈線→竹管刺突文	ナデ		良好	外面コゲ付着
181	弥生土器	深鉢		北2区		12C4・5	Ⅴ・Ⅵ		9.0	(3.9)		18/36	10YR7/3 にぶい黄橙	長・石・雲・砂・角	LR	ナデ	網代痕	良好	
182	弥生土器	蓋		北2区		13C1	Ⅴ			(2.2)			10YR5/1 灰褐	長・石・雲・砂・角	沈線 ミガキ	ナデ		良好	赤彩
195	縄文土器	甕	青田遺跡分類甕C3d類	南2拡張	SK400	35P25 35Q5	1		15.4	(31.8)		11/36	7.5YR6/3 にぶい褐	長・石・雲・砂（多）・角	平行沈線文 斜線文	ナデ	木葉痕	不良	

山口遺跡土製品観察表（弥生時代）

報告No.	器種	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	色調	備考
183	不明	北2区	SK757	12B21	1	3.3	5.9	2.0	22.9	10YR6/3 にぶい黄橙	
184	粘土塊	北2区	SR784	11B24	3	1.8	1.7	1.8	3.4	10YR6/3 にぶい黄橙	

山口遺跡石器観察表（弥生時代）

報告No.	器種	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	石材	備考
185	石鏃	北2区	SK755	12C1	1	24.54	12.13	5.92	1.15	頁岩	
186	石鏃	北2区	SR784	12B21	3	15.97	11.27	5.08	0.83	玉髄	
187	石鏃	北2区	SK757	12B21	1	28.20	11.41	4.95	0.85	頁岩	
188	石錐	北2区	SR784	12B21	3	21.51	7.52	6.02	0.63	玉髄	
189	敲石	北2区	SR784	11B24	4	117.05	37.01	33.01	175.81	安山岩	
190	台石か	北2区	SK755	12C1	1	156.04	130.01	26.02	827.75	花崗閃緑岩	
191	剥片	北2区	SR784	11B18	4	58.56	54.02	19.00	54.31	安山岩	
192	剥片	北2区	SK755・SR784	12C1・12B21		28.02	28.01	18.03	12.92	玉髄	
192①	剥片	北2区	SK755	12C1	1	28.02	18.04	20.50	8.32	玉髄	
192②	剥片	北2区	SR784	12B21	3	26.50	18.03	9.52	4.60	玉髄	
193	剥片	北2区	SR784	11B25	4	29.03	39.01	14.02	12.27	頁岩	
193①	剥片	北2区	SR784	11B25	4	29.03	30.48	14.02	9.56	頁岩	
193②	剥片	北2区	SR784	11B25	4	28.01	16.04	10.03	2.71	頁岩	
194	剥片	北2区	SR784	11B25	3	37.02	29.03	10.01	3.67	頁岩	
194①	剥片	北2区	SR784	11B25	3	29.54	14.04	10.01	1.65	頁岩	
194②	剥片	北2区	SR784	11B25	3	21.01	29.50	8.52	2.02	頁岩	

山口野中遺跡　7区　遺構観察表（SD）

遺構No.	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い
99	SD	43	44	112		18K・J			（1580）	106 ～ 160	33 ～ 42	>SD2031・2032
2031	SD	43	44	112		18J13・18		半円状	（184）	28 ～ 30	9 ～ 12	<SD99
2032	SD	43	44	113		18J3・4・9・10		半円状	（194）	60 ～ 68	11 ～ 18	<SD99

山口野中遺跡　9区　遺構観察表（SD）

遺構No.	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い
2000	SD	43	44	113		17J9・14		弧状	（108）	60 ～ 65	13	<SD2001
2001	SD	43	44	113		17J9・14		弧状	（110）	42 ～ 50	13	>SD2000
2002	SD	43	44	113		17J14・15		台形状	（108）	34 ～ 48	14	

山口野中遺跡　10区　遺構観察表（SK）

遺構No.	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い
2013	SK	43	44	114		23AA7		台形状	（72）	（44）	60	>SD2003
2017	SK	43	44	114		22Z14	円形	弧状	78	（62）	8	
2023	SK	43	44	114・115		21Z5 22Z1・6	円・楕円形	半円状	268	（160）	87	

山口野中遺跡　10区　遺構観察表（SD）

遺構No.	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い
2003	SD	43	44	115		23AA7・8		台形状	240		29 ～ 43	<SK2013
2005	SD	43	45	115		22Z	楕円形	台形状	614	68 ～ 70	13 ～ 24	>SD2019・2028、<SD2021
2019	SD	43	45	115		22Z		台形状	（1024）	（1020）	30 ～ 40	>SD2024・2025・2028、<SD2005・2021
2020	SD		45	115		19W・X		弧状	（240）	83 ～ 95	15 ～ 21	
2021	SD	43	45	115		21・22Z		弧状			5 ～ 8	>SD2005・2019・2025・2028
2024	SD	43	45	116		22Z7・12		半円状	（220）	（206）		>SD2025、<SD2019
2025	SD	43	45	116		22Z7・8・12・13		台形状	（238）	55 ～ 70		<SD2019・2021・2024・2028
2028	SD		45			22Z		弧状				<SD2005・2019・2021、>SD2025
2030	SD	43	46	116	47	21Y		V字状	（960）	（372 ～ 420）	155	

山口野中遺跡　11区　遺構観察表（SI）

遺構No.	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い
2027	SI		47	116		14T1・2・7・8・13・14	隅丸方形	台形状	（664）	（105）	36	

山口野中遺跡　10区　土器観察表

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
1	須恵器	無台坏		10区	SD2030	21Y	1		（8.0）	（1.8）			7.5Y灰6/1	長・石	ロクロナデ	ロクロナデ				阿賀北産
2	珠洲焼	片口鉢		10区		23Z21	撹乱			（3.1）			N灰5/	長・白・海	ロクロナデ	卸目6条以上				Ⅳ期
3	珠洲焼	甕		10区		23Z21	撹乱			（3.9）			N灰6/	長・白・海	平行タタキ	無文当て具				Ⅲ～Ⅳ期

山口野中遺跡　11区　土器観察表

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
4	縄文	甕か深鉢		11区		14T20	撹乱			（6.9）			10YRにぶい橙6/4	雲・長・白	条痕文	ナデ				晩期後葉
5	縄文	甕か深鉢		11区		14T20	撹乱			（3.7）			10YR灰黄褐6/2	雲・長・白	無文	ナデ				晩期後葉
6	縄文	甕か深鉢		11区		15T13	撹乱			（3.6）			10YRにぶい橙6/4	雲・長・白	条痕文	ナデ				晩期後葉

境塚遺跡　遺構観察表　溝（SD）中・近世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
2334	SD	49	49	117		5H10 6H6・11・12		（台形状）	（408）	95	35	<SD5216 >SD5219	H区 SD2334 の続き
5119	SD	49	49	117		5H15・20 6H16		弧状	（400）	49	10	>SD5216	SD002 H区 SD5119 の続き
5216	SD	49	49	117	49	5H10・15 6H6・11・12		台形状	（440）	122	61	>SD2334・5219	H区 SD5216 の続き

境塚遺跡　遺構観察表　性格不明遺構（SX）古代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
008	SX	49	49	117	49	6H12・17	（楕円形）	弧状	（200）	（110）	18	<SD2334、P003・004	

境塚遺跡　遺構観察表　ピット（P）縄文時代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
009	P	50	50	117		5H20	円形	台形状	23	20	10		

境塚遺跡　土器観察表（中世・古代）

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　白：白色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
							口径	底径	器高					外面	内面	底部			
1	土師質土器	小皿	小皿T類	SD5216	6H11	埋土	8.0	6.0	1.7	7/36	14/36	10YR8/3 浅黄橙		ヨコナデ	ヨコナデ	静止ヘラ切り 板状圧痕		良好	
2	須恵器	無台杯		SX008	6H7	埋土	13.0		（2.7）	4/36		10YR7/1 灰白	長	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	
3	土師質土器	皿	皿RH1類		6H6	Ⅳ		8.6	（1.6）		10/36	7.5YR8/4 浅黄橙		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		不良	
4	須恵器	無台杯			6H7	Ⅳ		8.2	（1.2）		8/36	10YR8/1 灰白	長	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		良好	

新町遺跡　遺構観察表　井戸（SE）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
109	SE	53	55	119		8J20・25、9J16・21	円形	袋状	222	188	123		
114	SE	53	54・55	119 ～ 121	60 ～ 66	9L13・17 ～ 19・22 ～ 24	円形	漏斗状	395	（361）	364		
197	SE	53	55	121	60	8H7・12	方形	漏斗状	169	160	115	>SE198	
198	SE	53	55	121	65	8H7・8・12・13	楕円形	漏斗状	（193）	（101）	106	<SE197	
241	SE	53	56			10S5・10	円形	U字状	211	（105）	（157）		
631	SE	53	56	121	65	7E23・24、7F3・4	円形	漏斗状	184	164	202	>SD327	
633	SE	53	56	122	60	10O11・12・16・17	円形	U字状	154	130	162	>P648	
644	SE	53	56	122		9J11・16	円形	漏斗状	（112）	（55）	116		
650	SE	53	57	122・123	60・65 ～ 67	9L2・3・7・8	円形	漏斗状	252	242	238	<SD101・P647	
653	SE	53	57	123		8I9・14	円形	漏斗状	196	（134）	140		

新町遺跡　遺構観察表　土坑（SK）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
632	SK	53	57	123	60	10O7	円形	半円状	（84）	（37）	56		
636	SK	53	58	124	60	10P8・13	楕円形	V字状	162	（62）	96		

新町遺跡　遺構観察表　溝（SD）中世

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
101	SD		53	58	124	60・65	9L2・7・8・12・13		台形状	（224）	214 ～ 222	36	>SE650	
102	SD		53	58	124	60	9N10・15、10N6・11		台形状	（224）	145 ～ 161	35	>P655	
327	SD		53				7F4・8・9・13・14		弧状	（443）	44 ～ 90	14	<SE631・P643	
328	SD		53	58	124	60	7F19・20・24・25		V字状	（230）	90 ～ 107	50		
329	SD		53	58	124		7F19・20		半円状	（217）	58 ～ 75	19		
630	SD		53	58			7E18・19		弧状	（120）	88 ～ 116	5	<P640	
634	SD		53	58			10O17		弧状	（106）	48 ～ 77	13		
637	SD		53				9K12・17		弧状	（100）	72 ～ 89	19		

新町遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
635	P		53				10P2	円形	弧状	38	35	12		
640	P		53				7E18	（円形）	半円状	（20）	24	10	>SD630	
641	P		53				7F14	方形	箱状	21	19	11		
642	P		53				7F14	長方形	半円状	28	22	8		
643	P		53	58			7F4	円形	U字状	32	（18）	25	>SD327	
647	P		53	58	124		9L2・3	円形	U字状	39	33	41	>SE650	
648	P		53	58			10O12	（楕円形）	箱状	（43）	（26）	14	<SE633	
649	P		53	58			10O17	（円形）	U字状	26	19	25		
651	P		53				11S17	（楕円形）	U字状	17	12	10	>P652	
652	P		53				11S17	（楕円形）	弧状	（34）	29	8	<P651	
654	P		53				8J10	円形	U字状	34	31	23		
655	P		53				10N11	（楕円形）	U字状	（22）	（12）	22	<SD102	
656	P		53				9L8	方形	弧状	18	16	7		

新町遺跡　遺構観察表　土坑（SK）縄文時代

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
667	SK	59	59	125		9L3・8	円形	半円状	68	65	29		

新町遺跡　遺構観察表　ピット（P）縄文時代

遺構番号	遺構種別	建物	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
657	P		59	59			9L3	円形	台形状	27	22	10		
658	P		59	59			9L8	円形	弧状	30	18	8		
659	P		59	59	125		9L8	円形	U字状	21	18	16		
660	P		59	59	125	67	9L8	円形	弧状	45	42	15		
661	P		59	59	125		9L8	円形	半円状	27	24	11		
662	P		59	59			9L8	円形	台形状	29	27	12		
663	P		59				9L8	楕円形	U字状	29	24	20		
666	P		59				9L6・7・11・12	円形	台形状	28	25	9		

新町遺跡　土器観察表（古代・中世）

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　黒：黒色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
1	不明	擂鉢		2区	SE114	9L13	1			（5.4）			5YR　淡橙 8/3		ロクロナデ					
2	瀬戸美濃焼	小皿		2区	SE197	8H7	6	（10.0）		（1.8）	4/36		10YR　にぶい黄橙 7/3	黒		透明釉				後期様式Ⅱ期
3	青磁	椀		2区	SE633	10O12	7			（4.3）			10Y　オリーブ灰 5/2	黒	縞蓮弁文					B Ⅱ期
4	珠洲焼	片口鉢		2区	SE633	10O12	2	（30.0）		（8.5）	3/36		7.5Y　灰 6/1	海・長	ロクロナデ	卸し目 10 本				Ⅴ期
5	珠洲焼	片口鉢		2区	SE633	10O12	5	（38.0）		（3.9）	1/36		5B　暗青灰 4/1	海・長	ロクロナデ					Ⅵ期
6	珠洲焼	片口鉢		2区	SE633	10O12	5		（14.0）	（5.0）			2.5Y　黄灰 4/1	海・石	ロクロナデ	卸し目 5 本				Ⅴ～Ⅵ期　　内外面炭化物付着
7	珠洲焼	片口鉢		2区	SE650	9L2	1			（3.5）	1/36		N　灰 5/1		ロクロナデ					Ⅲ期
8	珠洲焼	片口鉢		2区	SE650	9L7	19			（7.2）			5R　赤黒 1.7/1		ロクロナデ					Ⅳ～Ⅴ期　　内外面スス付着
9	珠洲焼	甕		2区	SK632	10O7	11		（14.0）	（2.5）			2.5Y　灰白 7/1		ロクロナデ					
10	珠洲焼	片口鉢		2区	SK636	10P13	15			（4.7）			10BG　暗青灰 4/1	海・長	ロクロナデ					Ⅴ期
11	越前焼	片口鉢		2区	SD101	9L8	1			（5.7）	1/36		7.5YR　褐灰 6/4		ロクロナデ					Ⅴ期
12	越前焼	片口鉢		2区	SD101	9L8	1	（24.0）		（2.1）			7.5YR　にぶい褐 6/3	長・石	ロクロナデ					Ⅴ期
13	青磁	皿		2区	SD102	9N10	8		（7.4）	（1.4）		23/36	5R　赤灰 6/1	黒						D類　　土製円盤
14	須恵系陶器	甕		2区	SD102	9N10	8			（5.6）			2.5Y　黄灰 5/1							14 世紀
15	須恵器	蓋		2区	SD328	7F25	1	（14.0）		（1.2）			N　灰 6/1	長	ロクロナデ					小泊
16	青磁	端反椀		2区		10P3	撹乱	（15.0）		（5.2）	3/36		5GY　明オリーブ灰 7/1	黒	鎬蓮弁文	圏線				D Ⅰ類
17	青磁	椀		2区			表採		6.0	（2.4）		26/36	7.5YR　褐灰 6/1	黒						不明
18	珠洲焼	片口鉢		2区		9K1	撹乱			（2.6）			10R　赤褐 5/3		ロクロナデ					Ⅳ期？
19	越前焼	片口鉢		2区		8I8	Ⅰ	（30.0）		（3.3）	1/36		7.5YR　褐灰 6/1		ロクロナデ					Ⅴ期

新町遺跡　鍛冶関連遺物観察表

報告No.	種類	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
20	羽口	2区	SE633	10O12	2	12.2	3.5	8.6	385.2	
21	羽口	2区	SE633	10O12	5	8.3	3.5	6.9	169.5	
22	鉄滓	2区	SE650	9L7	1	5.8	9.3	4.0	381.9	
23	鉄滓	2区	SD101	9L8	1	5.8	4.1	7.2	83.1	
24	椀型滓	2区	SD101	9L8	5	7.3	5.3	10.1	311.6	

新町遺跡　金属製品観察表（銭貨）

報告No.	種類	初鋳年	王朝	書体	遺構No.	遺構	グリッド	層位	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
25	洪武通寶	1368	明	真書	102	SD	9N10	8	（2.25）	（2.25）	0.1	1.09	裏面「浙」

新町遺跡　木製品観察表（1）

報告No.	遺構番号	層位	出土位置	分類	器種	細分名	木取り	法量（cm）			樹種	樹皮	調整痕	備考
								現在長	直（幅）	厚さ				
26-1	SE114	8	4段目北	施設材	井戸側	桟木	板目	93.0	5.8	8.0	サワラ？		表・上面打ち割り後斫、裏・下面打ち割り、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿	
26-2	SE114	7	3段目西	施設材	井戸側	桟木	板目	93.3	7.3	5.7	サワラ？		表裏・下面打ち割り、上面打ち割り後斫、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿、裏面左右からの楔痕	
26-3	SE114	6	2段目西	施設材	井戸側	桟木	板目	94.0	8.3	5.3	サワラ？		表・下面打ち割り後斫、裏・上面打ち割り、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿	
26-4	SE114	7	3段目東	施設材	井戸側	桟木	板目	93.8	7.0	5.5	サワラ？		表・上面打ち割り、裏・下面打ち割り後斫、木口右鋸、木口左鋸後鑿、枘斫	
27-1	SE114	8	4段目東	施設材	井戸側	桟木	板目	95.0	9.0	6.0	サワラ？		表・下面打ち割り後斫、裏・上面打ち割り、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿	
27-2	SE114	8	4段目南	施設材	井戸側	桟木	板目	96.0	7.5	5.5	サワラ？		表・上面打ち割り、裏・下面打ち割り後斫、木口左鋸、木口右鋸後鑿、枘斫	
27-3	SE114	6	2段目北	施設材	井戸側	桟木	板目	96.5	6.7	5.0	サワラ？		表・下面打ち割り、裏・上面打ち割り後斫、木口左鋸、木口右鋸後鑿、枘斫・当て具痕	
28-1	SE114	6	1段目南	施設材	井戸側	桟木	板目	92.5	9.8	4.0	サワラ？		表・下面打ち割り後斫、裏・上面打ち割り、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿、表面上からの楔痕	
28-2	SE114	7	3段目南	施設材	井戸側	桟木	板目	94.0	8.9	5.7	サワラ？		表・上面打ち割り、裏・下面打ち割り後斫、木口左右鋸、枘当て具痕、裏面下からの楔痕	
29-1	SE114	6	1段目西	施設材	井戸側	桟木	柾目	94.0	6.3	4.5	サワラ？		表・下面打ち割り後斫、裏・上面打ち割り、木口左右鋸、枘にあたり痕	
29-2	SE114	6	1段目東	施設材	井戸側	桟木	柾目	94.0	6.5	3.9	サワラ？		表・下面打ち割り後斫、裏・上面打ち割り、木口左右鋸、枘にあたり痕	
30-1	SE114	7	2段目東	施設材	井戸側	桟木	板目	94.2	7.5	5.3	サワラ？		表・上・下面打ち割り、裏面打ち割り後斫、木口左右鋸、枘穴鋸後鑿、裏面左右からの楔痕・あたり痕	
30-2	SE114	7	2段目南	施設材	井戸側	桟木	板目	95.3	6.6	4.5	サワラ？		表・裏・上・下面打ち割り、木口左右鋸、枘鋸、裏面・枘あたり痕・裏面左右からの楔痕・あたり痕１か所	
31-1	SE114	6	2段目南東	施設材	井戸側	支柱	柾目	40.6	6.2	2.0	スギ		表面打ち割り後斫、裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
31-2	SE114	6	井戸側内	施設材	井戸側	支柱	柾目	39.8	4.0	2.8	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口上下鋸	
32-1	SE114	8	4段目北東	施設材	井戸側	支柱	板目	51.0	5.0	3.8	サワラ？		表・右側打ち割り後斫、裏・左側面打ち割り、木口両端鋸	
32-2	SE114	7	3段目北西	施設材	井戸側	支柱	板目	42.6	4.3	4.5	サワラ？		表裏・左面打ち割り、右側面打ち割り後斫、木口両端鋸	
32-3	SE114	8	4段目南東	施設材	井戸側	支柱	板目	50.5	5.8	4.0	サワラ？		表面打ち割り後斫、裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
32-4	SE114	7	3段目北東	施設材	井戸側	支柱	板目	42.0	5.1	5.5	サワラ？		表裏・左右側面打ち割り、木口下端鋸	
33-1	SE114	7	3段目南東	施設材	井戸側	支柱	柾目	42.7	4.6	4.0	サワラ？		表面打ち割り後斫、裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
33-2	SE114	6	2段目南西	施設材	井戸側	支柱	柾目	41.4	4.7	3.2	サワラ？		表・左側面打ち割り後斫、裏・右側面打ち割り、木口両端鋸、φ２～3mmの孔２か所	
33-3	SE114	7	3段目南西	施設材	井戸側	支柱	柾目	43.0	5.0	2.8	サワラ？		表裏・右側面打ち割り、左側面打ち割り後斫、木口両端鋸	
34-1	SE114	8	4段目北西	施設材	井戸側	支柱	柾目	55.7	5.4	3.0	サワラ？		表裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
34-2	SE114	8	4段目南西	施設材	井戸側	支柱	柾目	55.8	6.0	3.2	サワラ？		表裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
35-1	SE114	6	2段目北西	施設材	井戸側	支柱	柾目	42.4	5.5	2.7	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口両端鋸	
35-2	SE114	6	2段目北東	施設材	井戸側	支柱	柾目	42.0	5.4	3.3	スギ		表裏・左右側面打ち割り、右側面斫？、木口両端鋸	
36	SE114	7	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	19.0	4.0	0.3	スギ		裏面打ち割り、表面打ち割後斫	
37-1	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	201.6	15.8	1.1	スギ		表裏打ち割り、左右側面打ち割り後斫、木口下端斧・加工痕、表面あたり痕１か所	
37-2	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	195.3	15.8	1.1	スギ		表裏打ち割り、左右側面打ち割り後斫、木口下端斧・加工痕	
38-1	SE114	7	南縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	195.2	15.4	0.4	スギ		表裏・右側面打ち割り、左側面打ち割り後斫、裏面左側から楔痕？木口下端斧・工具痕、φ 2mmの貫通孔	
38-2	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	205.4	15.8	0.9	スギ		表裏・右側面打ち割り、左側面打ち割り後斫、木口斧・工具痕	
39	SE114	7	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	152.4	19.5	1.5	スギ		表裏面打ち割り、左側面打ち割り後斫、木口下下端斧、表面線刻？	
40	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	36.3	7.8	0.4	スギ		表面打ち割り後斫、裏面打ち割り、木口下端斧、表面あたり痕２か所	
41	SE114	8	南縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	179.0	15.4	0.6	スギ	○	表面表皮近い斫、裏側面打ち割り、	
42	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	202.8	14.8	1.4	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧・加工痕	
43	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	212.5	22.2	1.2	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧、表面φ２～3mmの孔５か所、φ 2mmの貫通孔１か所、表面φ 2mmのくぼみ２か所	
44	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	204.0	21.5	1.7	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧、表面φ 3mmの孔１か所、表面当て具痕２か所	
45	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	94.5	17.3	0.7	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧	
46	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	195.3	15.8	1.1	スギ		表裏・右側面打ち割り、木口下端斧	
47	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	柾目	127.5	8.4	0.7	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧、φ 1.6mmの貫通孔２か所	
48	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	182.1	16.0	1.1	サワラ？		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧・加工痕、裏面あたり痕３か所	
49	SE114	8	東縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	182.5	19.8	0.5	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧、表面右からの楔痕	
50	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	185.6	11.1	0.4	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧	
51	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	208.8	15.5	1.5	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端斧、表面左から楔痕、裏面あたり痕１か所	

新町遺跡　木製品観察表（2）

報告No.	遺構番号	層位	出土位置	分類	器種	細分名	木取り	法量（cm）			樹種	樹皮	調整痕	備考
								現在長	直（幅）	厚さ				
52	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	156.7	14.4	0.6	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口端鋸、φ 2mm のくぼみ 2 か所、表面当て具痕 2 か所	
53	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	169.2	15.6	0.8	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端鋸	
54	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	189.7	16.4	0.9	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端鋸	
55	SE114	8	南縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	139.0	16.0	0.6	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端鋸、φ 4mm の貫通孔 1 か所、表面当て具痕 2 か所	
56	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	97.1	16.0	0.5	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端鋸	年代測定
57	SE114	8	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	86.0	11.0	0.5	スギ		表裏・左右側面打ち割り、木口下端上部鋸、φ 4mm のくぼみ 2 か所	
58	SE114	6	北縦板	施設材	井戸側	縦板	柾目	44.3	19.2	1.3	スギ		表裏・左右側面打ち割り、φ 2mm の貫通孔	
59	SE114	6	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	31.8	11.0	0.3	スギ		表裏面打ち割り	
60	SE114	6	南縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	70.9	12.2	0.7	スギ		表裏面打ち割り、φ 10mm の貫通孔	
61	SE114	7	西縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	94.5	7.5	0.5	スギ		裏面打ち割り、裏面一部炭化	
62	SE114	7	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	52.0	4.8	0.4	スギ		表裏打ち割り、線刻？鋸による切断	
63	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	177.0	11.0	0.8	スギ		表裏・右側面打ち割り、表面φ 2mm の貫通孔 1 か所、表面φ 2mm のくぼみ 2 か所、木口下端鋸	
64	SE114	7	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	44.5	9.4	1.0	スギ		表裏 . 右側面打ち割り	
64	SE114	7	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	51.0	10.0	1.2	スギ		表裏面打ち割り	
65	SE114	8	北縦板	施設材	井戸側	縦板	板目	86.0	7.5	0.4	スギ		表裏・左右側面打ち割り、表面楔痕 2 か所	
66a	SE114	8	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	25.0	12.0	1.0	スギ		表裏・右面側打ち割り、表面一部表皮あり	
66b	SE114	8	井戸側内	施設材	井戸側	縦板	板目	43.0	5.0	0.8	スギ			
67	SE114	8	井戸側内		不明製品		板目	36.5	19.8	0.5			表裏・左右側面打ち割り、左右上側槍鉋？下端上部鋸	
68	SE114	8	井戸側内		不明製品		板目	35.0	19.0	0.5			表裏・左右側面打ち割り、左右上側槍鉋？下端上部鋸	
69	SE650	19	井戸内	容器	漆器	椀		2.5	10.2	0.5	ブナ属		表裏面黒色漆、内面草花文赤色漆	
70	SD101	5		容器	漆器	椀		4.5	15.0	0.3	ブナ属		表面黒色漆・草花文赤色漆、内面赤色漆	
71	SE650	19	井戸内	容器	曲物側板	側板	柾目	4.5	5.0	0.3	スギ		表面黒色漆	
72	SE631	20			杭		丸木取り	18.5	5.3	4.0	ヤナギ属		面取り	
73	SE114	6	井戸側内	不明			板目	12.8	1.0	0.5	スギ		面取り、両端炭化	
74	SE198	7		容器	刳物	槽	板目	25.5	18.5	2.0	トチノキ		表裏面槍鉋？　表面炭化	
75	SE650	19	井戸内	容器	曲物底板	底板	柾目	17.5	4.7	1.0	スギ		側面にφ 3mm の孔 2 か所、両端炭化	
76	SE650	19	井戸内	容器	曲物底板	底板	柾目	20.5	13.5	0.8	スギ		表裏面槍鉋？	
77	SE650			施設材	井戸側	水溜	外側・籠柾目 内側板目	45.0	49.0	1.5	スギ		外側上部・中部 1 列外 5 多段綴じ、外側下部 1 列多段綴じ、上部籠 2 列外 3 段内 1 段綴じ、下部籠 2 列外 3 段内 1 段綴じ 内側 1 列内多段綴じ、下部籠釘接合部 8 か所	
78	SE114		水溜内側	施設材	井戸側	水溜	板目 籠柾目	48.5	51.0	0.7	スギ		1 列内多段綴じ、籠 1 列外 3 段綴じ、籠釘接合部外側 15 か所・内側 14 か所	
79	SE114		水溜外側	施設材	井戸側	水溜	外側・籠柾目 内側板目	53.5	57.0	1.0	スギ		外側上部 1 列外 8 段綴じ、外側下部 1 列外多段綴じ、内側 1 列内多段綴じ、籠釘接合部 13 か所	

新町遺跡　土器観察表（縄文時代）

※胎土凡例　長：長石　石：石英　雲：雲母　砂：砂礫　黒：黒色粒子　海：海綿骨針　角：角閃石

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部		
80	縄文	鉢		2区	P660	9L8	1			（4.1）			2.5Y7/2　灰黄	長・石				良好	摩耗
81	縄文	深鉢		2区		9L7b 9L7d 9L12b	Ⅺ	22.6		（20.3）	6/36		10YR5/2　灰黄褐	長・石	羽状縄文 LR 沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
82	縄文	浅鉢		2区		9L12b	Ⅺ			（3.4）	2/36		10YR4/1　褐灰	海・石	縄文 LR・平行沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
83	縄文	深鉢		2区		9L12b	Ⅺ			（3.5）	2/36		7.5YR7/3　にぶい橙	石	縄文 LR・沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
84	縄文	深鉢		2区		9L12b	Ⅺ			（4.0）			10YR5/2　灰黄褐	長・石	縄文 LR・平行沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
85	縄文	深鉢		2区		9L7d	Ⅺ			（3.1）			7.5YR4/1　褐灰	石	縄文・沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
86	縄文	深鉢		2区		9L12b	Ⅺ			（2.9）			7.5YR5/2　灰褐	長	縄文・沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
87	縄文	深鉢		2区		9L13c	Ⅺ			（2.5）			10YR7/2　にぶい黄橙	雲・長	羽状縄文 LR　沈線文	ナデ		良好	縄文後期中葉
88	縄文	深鉢		2区		9L12a 9L12b	Ⅺ		5.6	（1.6）		36/36	10YR7/2　にぶい黄橙	長・石・雲		ナデ	ナデ	良好	縄文後期中葉　内面膨らむ
89	縄文	深鉢		2区		9L8c	Ⅺ			（4.5）	1/36		2.5Y7/2　灰黄	長・石	粘土紐積み上げ痕	ナデ		良好	縄文後期中葉
90	縄文	深鉢		2区	SE650	9L7	19			（4.1）	2/36		5YR6/2　灰褐	海・長	縄文 LR	ナデ		良好	外面炭化物付着　縄文後期中葉
91	縄文	深鉢		2区	SE650	9L2c	19			（5.9）			7.5YR7/2　明褐灰	長・石	縄文 LR	ナデ		良好	縄文後期中葉
92	縄文	深鉢		2区		9L8c	Ⅺ			（4.4）			10YR6/2　灰黄褐	石	縄文 RL	ナデ		良好	内外面炭化物付着　縄文後期中葉
93	縄文	深鉢		2区		9L11c 9L12d	Ⅺ			（8.0）			10YR5/2　灰黄褐	石		ナデ		良好	内外面炭化物付着　縄文後期中葉
94	縄文	深鉢		2区		9L8c	Ⅺ			（5.3）			2.5Y7/2　灰黄	海		ナデ		良好	縄文後期中葉
95	縄文	深鉢		2区	噴砂1	9L12d				（4.6）			2.5YR5/6　明赤褐	海・長	縄文	ナデ		良好	縄文後期中葉
96	縄文	深鉢		2区		8H11	排土			（2.5）			10YR5/2　灰黄褐	長・石	粘土紐積み上げ痕	ナデ		不良	不明
97	縄文	華燭土器		2区		9L12b	Ⅺ			（4.7）			10YR2/1　黒		沈線文・穿孔あり　ミガキ			堅緻	縄文後期中葉
98	縄文	華燭土器		2区	SE650	9L2c	19	（3.8）	（4.8）	（1.7）			10YR3/1　黒褐	長	平行沈線文・沈線文 刺突文・穿孔あり			良好	縄文後期中葉

新町遺跡　石器観察表（縄文時代）

報告No.	器種	区名	遺構	グリッド	層位	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	石材	備考
99	石匙	2区		9L7b	Ⅺ	42.5	（26.5）	（5.0）	5.9g	メノウ	縄文時代後期

石船戸東遺跡　遺構観察表　土坑（SK）中・近世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
14	SK	70	71	133		8D6	楕円形	弧状	（55）	55	14	<SD06	
20	SK	70	71	133		6F4・5	円形	弧状	73	70	6		
33	SK	70	71	133		10B3・4	円形	弧状	100	（53）	43	<SD32	

石船戸東遺跡　遺構観察表　溝（SD）中・近世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
25	SD	70	71	134		02I11・16・17・20・21	直線状	弧状	（195）	（110）	37		
28	SD	70	71	134		4I12・13	直線状	U字状	（126）	31	23		

石船戸東遺跡　遺構観察表　ピット（P）中・近世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
10	P	70				8C24	楕円形	弧状	35	24	7		

石船戸東遺跡　遺構観察表　土坑（SK）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
11	SK	70	71	134		8C19・20	楕円形	弧状	119	46	12		
16	SK	70	71	134	71	6F11・12	円形	弧状	370	（69）	52		珠洲焼壺1点
19	SK	70	71	134		7D23	楕円形	弧状	（44）	（20）	18		
22	SK	70	71	134・135		4I17	楕円形	弧状	（83）	（39）	11	<SD21	
34	SK	70	71	135		2I3・4	楕円形	弧状	110	64	23		

石船戸東遺跡　遺構観察表　溝（SD）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
21	SD	70	71	135		4I17・22	直線状	弧状	（180）	（90）	44	>SK22	過年度調査の SD2004 の続きか？ 土師質土器1点

石船戸東遺跡　遺構観察表　ピット（P）中世

遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
09	P	70		135		10B8	楕円形	弧状	（23）	（17）	9		
12	P	70				8C15	円形	台形状	35	35	32		
13	P	70				8C15	円形	弧状	23	20	8		

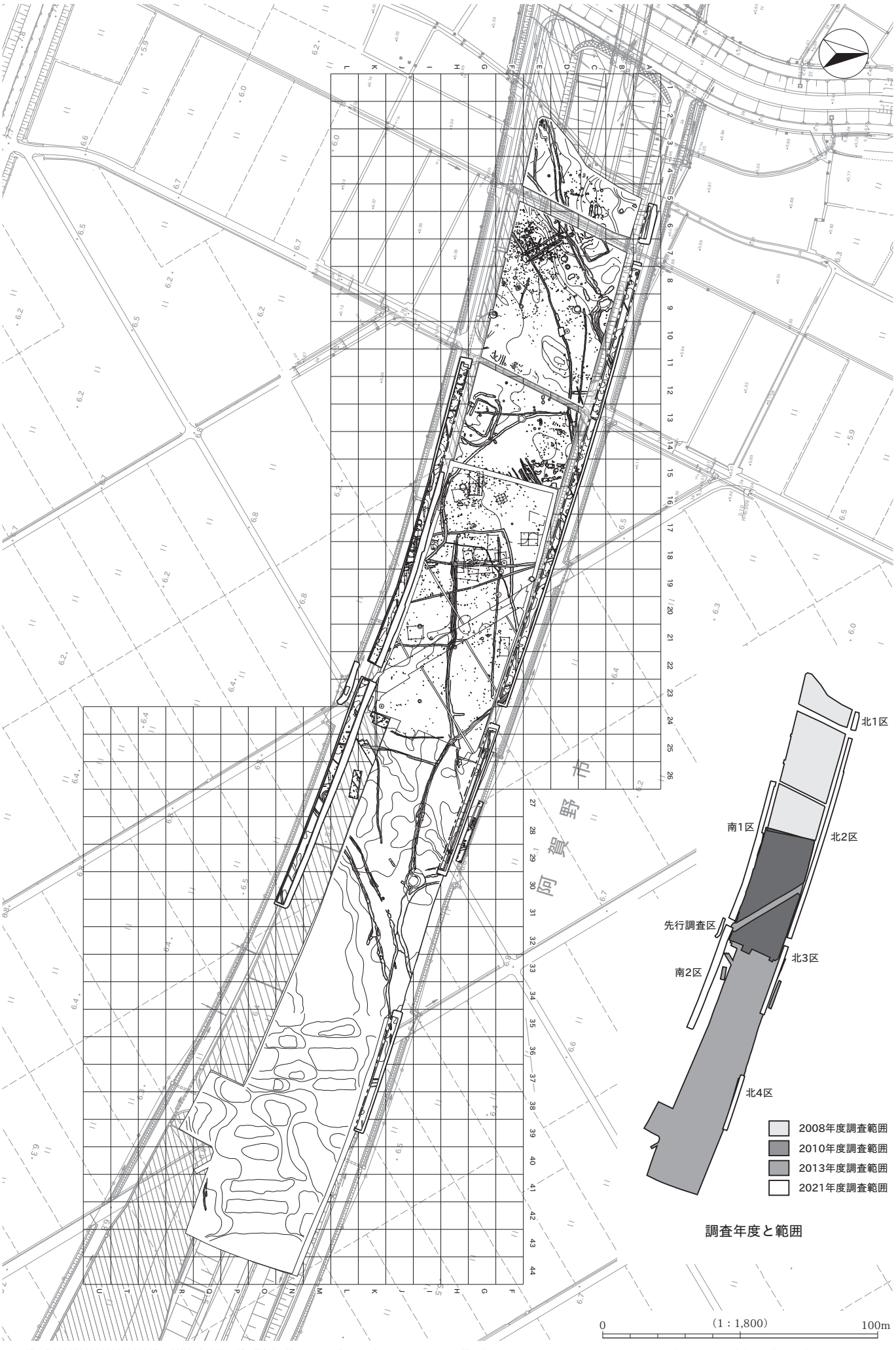
石船戸東遺跡　遺構観察表　土坑（SK）古代

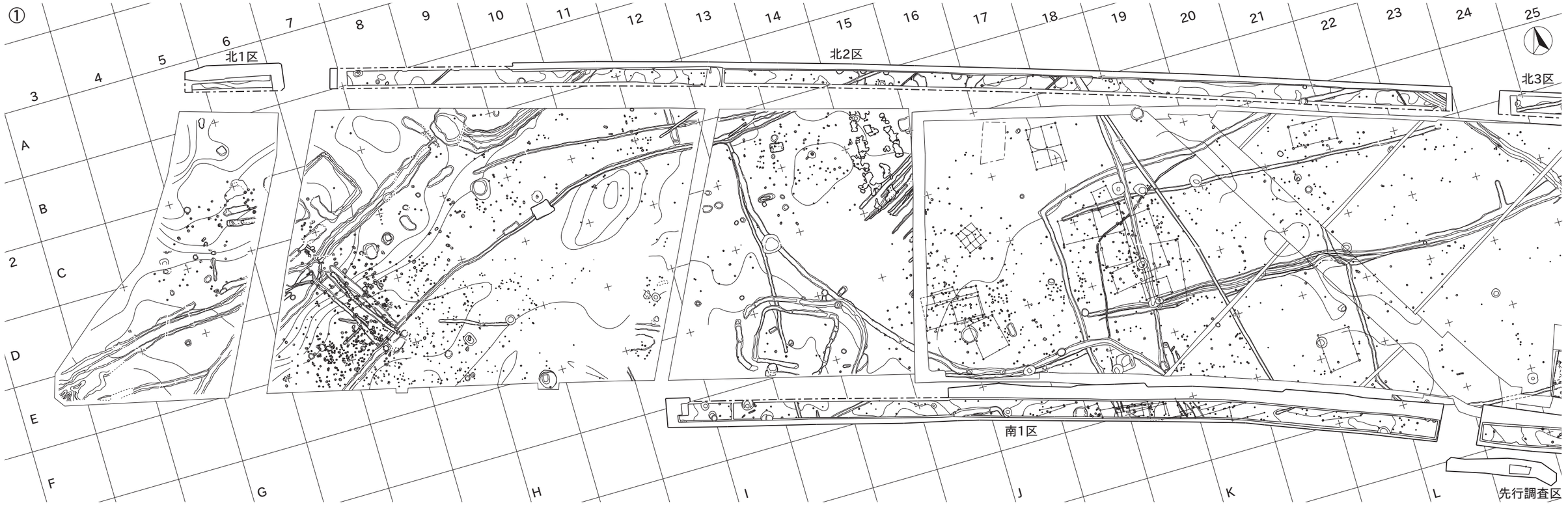
遺構番号	遺構種別	分割図版	個別図版	写真図版	遺物図版	グリッド	平面形	断面形	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	主要な切り合い	備考
08	SK	70	71	135		10B8	楕円形	弧状	（45）	32	10		
18	SK	70	71	135		6F13	楕円形	箱状	59	26	32	<SD17	

石船戸東遺跡　土器観察表

報告No.	種別	器種	分類	区名	遺構	グリッド	層位	法量（cm）			口縁部残存率	底部残存率	外面色調	胎土分類	調整			回転方向	焼成	備考
								口径	底径	器高					外面	内面	底部			
1	珠洲焼	壺		8区	SK16	6F11	1	（19.4）		（4.4）	4/36		5Y5/1灰色	黒雲母・長石・白色粒子	ロクロナデ	ロクロナデ			良好	自然釉、Ⅲ～Ⅳ期

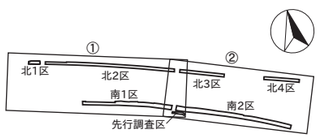
図　　版


阿賀野市
北1区
南1区
北2区
先行調査区
北3区
南2区
北4区
2008年度調査範囲
2010年度調査範囲
2013年度調査範囲
2021年度調査範囲
調査年度と範囲
0
(1：1,800)
100m



1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

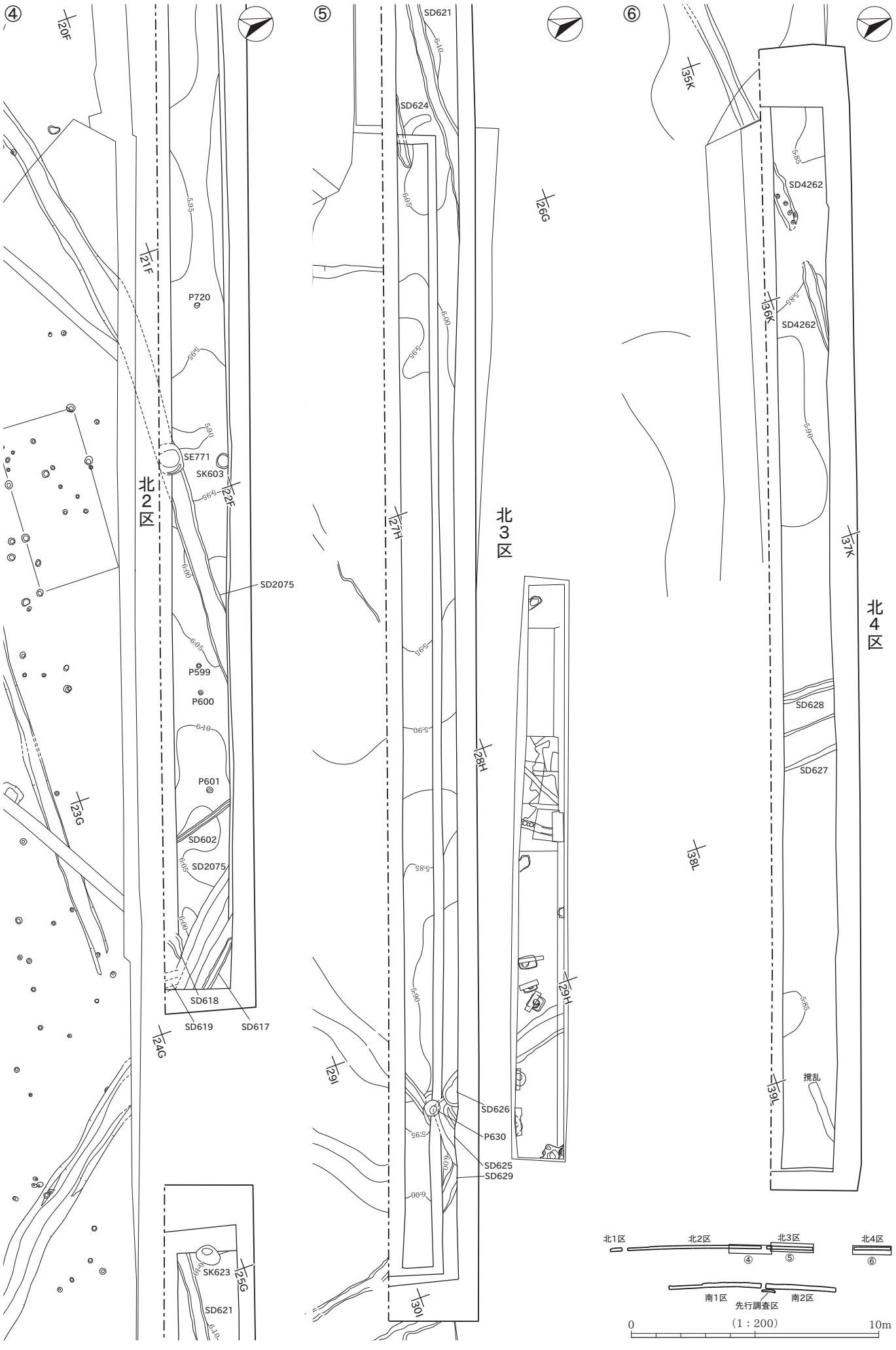
小グリッドの呼称



0　(1：600)　20m

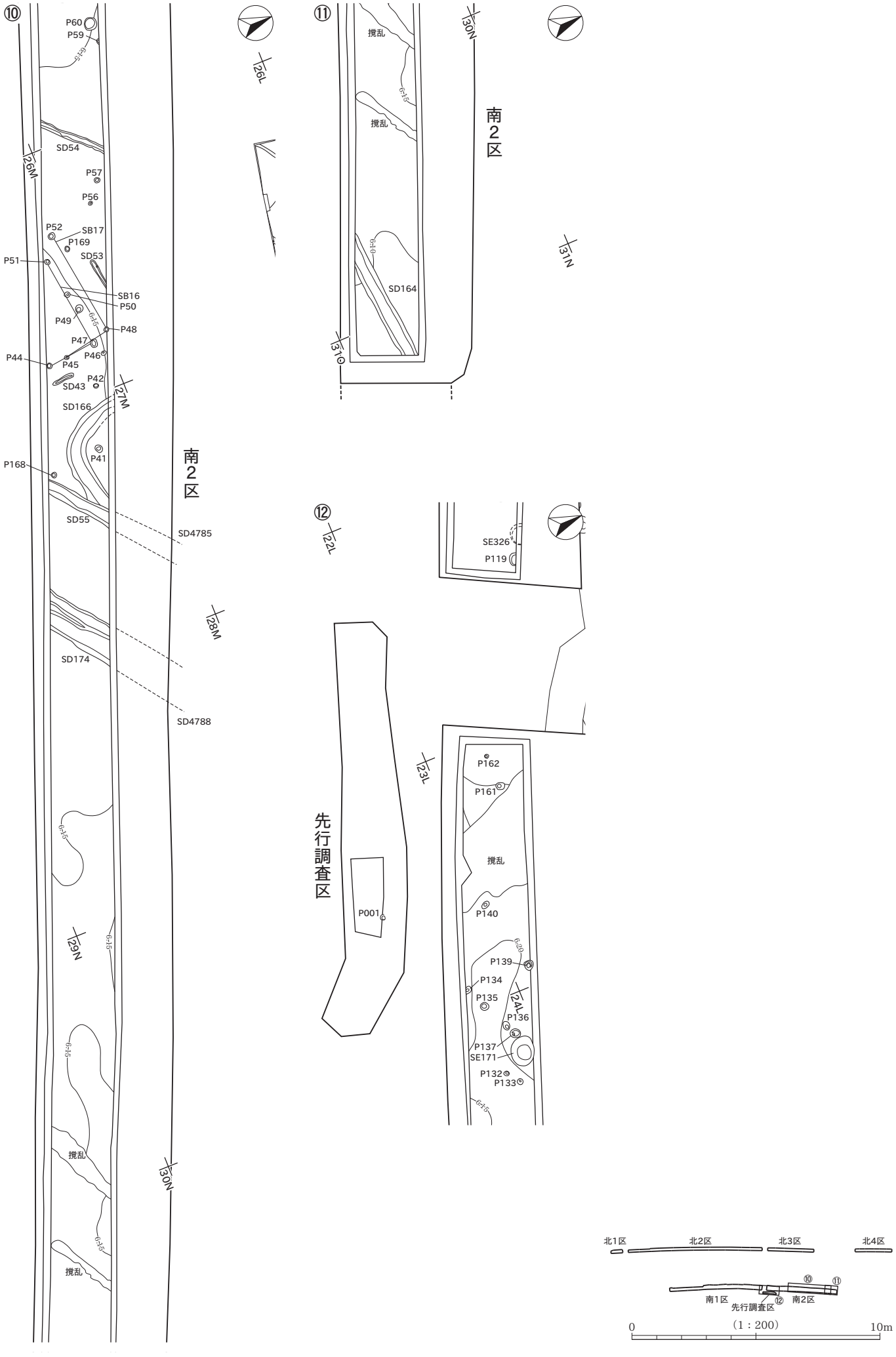
①
②
③
北1区
北2区
北2区
北2区
SE758
SD800
SD801
SD562
P606
P605
P604
P607
SK564
P608
SK563
SK565
P609
SD566
P568
P567
SX569
P570
P594
P571
SK572
P597
P717
SD574
SK573
P591
P577
P578
SB1
P579
P593
P712
SD576
SD580
P615
P711
P596
SD581
P714
P584
SK582
P586
P713
P587
P588
P589
P590
P716
P761
P517
P515
P513
P514
P512
P510
P511
P509
P506
P507
P505
P508
P504
P503
P501
P502
搅乱
P549
P551
P552
P553
P554
P555
P556
P559
P558
P610
P595
P611
SK560
P575
P612
P583
SX613
SK561
P614
SD562
SD1044
SD1042
SD1041
SD2210
SD1764
2010年度
SB15
SE519
P518
SK522
SK521
SD520
SE758
北1区
北2区
北3区
北4区
南1区
先行調査区
南2区
0
(1：200)
10m

山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（2）

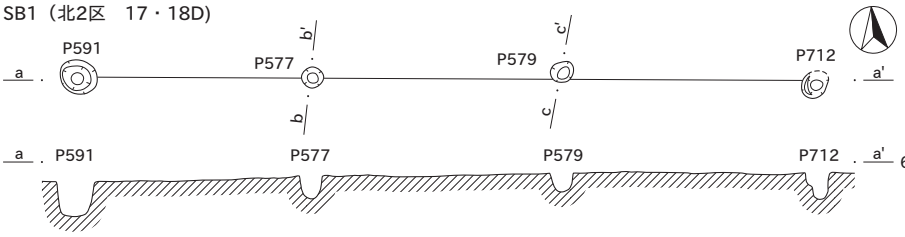


⑦
⑧
⑨
南1区
南2区
SE11
SE10
SK2
SE1
P5
P9
P6
P8
SD3
SE24
SD4
P15
P66
P18
P17
P281
SE7
P19
P16
P14
P26
SD12
P20
P29
SD13
P30
SD25
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
SE61
P28
P62
P63
SD23
P64
P65
SE27
P236
P67
12H
13H
14H
14I
15I
16I
SD1702
SD1031
P67
P68
P69
P70
P72
P73
P78
P223
P75
P76
SB2
P74
SB3
P79
P80
SE21
P234
P235
P231
P230
P233
P226
P232
P222
P221
SB4
P225
P224
P227
P329
SB5
SD2075
P199
P201
P254
P200
SB9
SB6
SB7
SD2209
P197
P198
P196
P258
P285
P283
P286
P191
P192
P190
P194
P193
P189
P195
P294
P188
P160
P187
P159
P184
P185
SB8
P186
P249
P158
P154
P155
SB11
P157
P153
P156
SB10
P255
P150
P247
P152
P257
P149
P151
P148
SD1763
P291
P256
P183
P182
P147
P290
P146
SD1031
P145
SB12
P143
P144
P181
P141
P142
P120
P89
P90
P91
P92
P83
P93
P252
P94
P86
SB13
P85
P84
SB14
P87
P95
P96
P88
P97
SD82
P98
P99
P203
P100
P101
P102
P103
P105
P104
P106
SB15
P202
P107
P108
18J
19J
20J
21K
17I
SD1031
SD1702
SD2075
SD2209
SD1031
SD1763
SD1764
2010年度
SB13
P107
P108
P109
P110
SE81
P111
P112
P115
P113
P114
P322
P116
P118
P117
SE326
P119
22K
23K
23L
P162
P161
撹乱
P140
P139
P134
P135
24L
P136
P137
SE171
P132
P133
P131
P124
SD130
P170
P128
P127
P125
P138
P126
P123
P129
SD58
P163
P165
P122
P121
P60
P59
25L
26L
北1区
北2区
北3区
北4区
⑦
⑧
⑨
南1区
先行調査区
南2区
0
（1：200）
10m

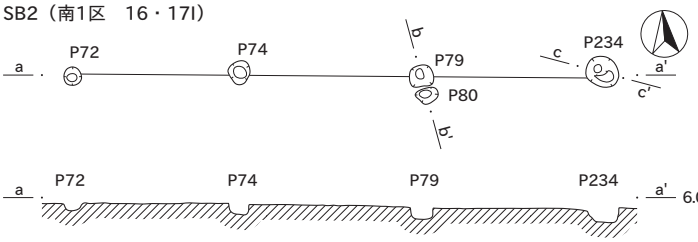
山口遺跡Ⅲ　中世遺構分割図（4）



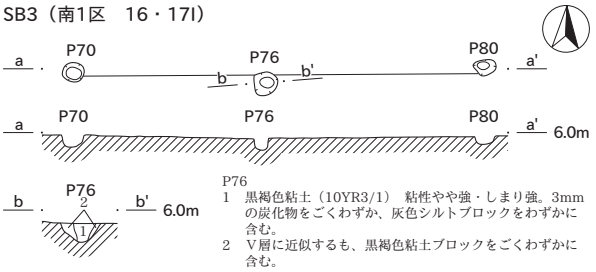
SB1（北2区　17・18D）



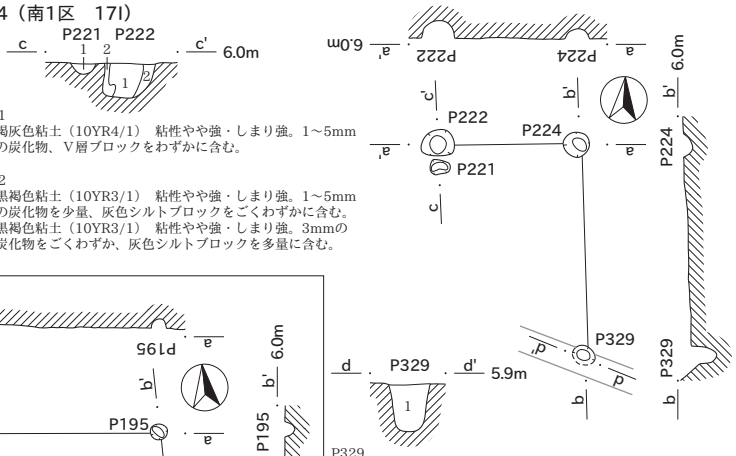
SB2（南1区　16・17I）



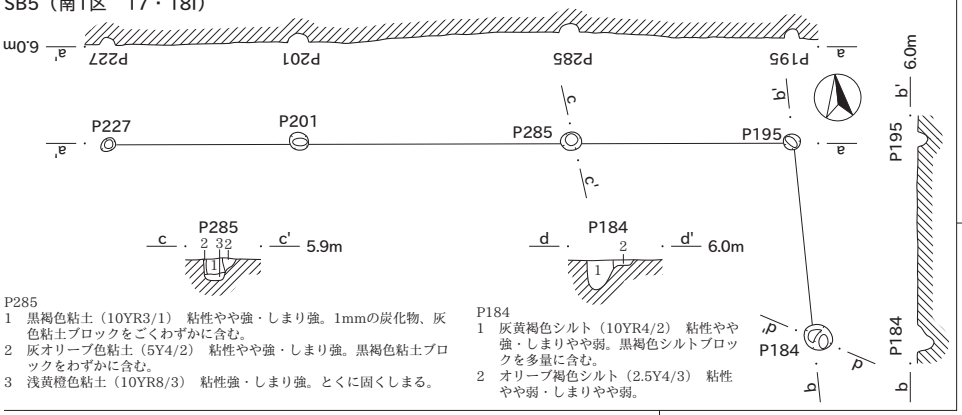
SB3（南1区　16・17I）



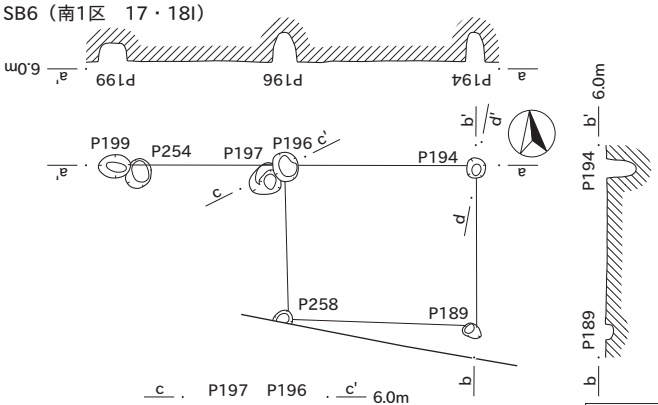
SB4（南1区　17I）



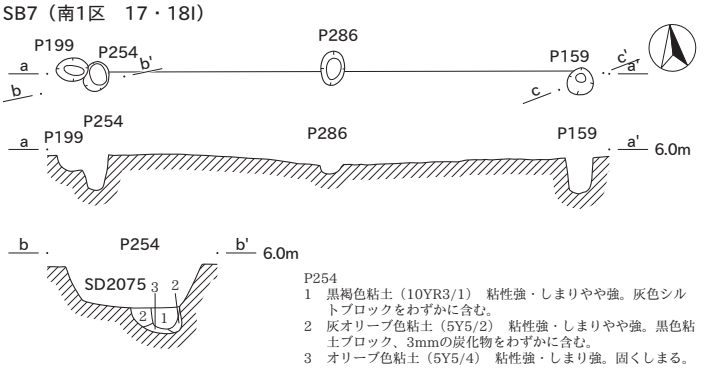
SB5（南1区　17・18I）



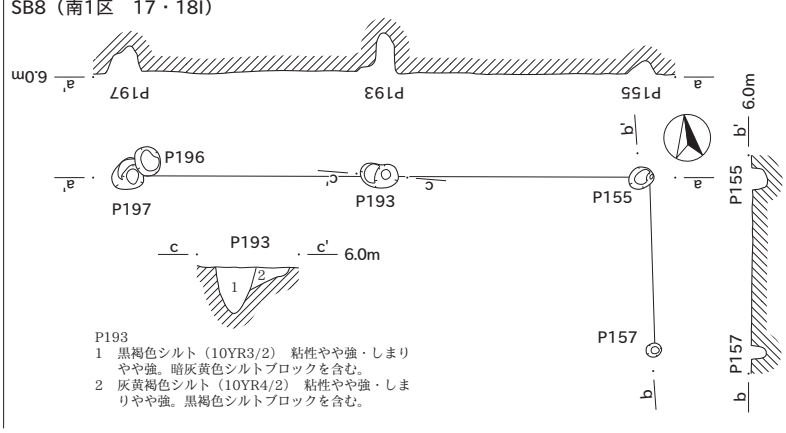
SB6（南1区　17・18I）

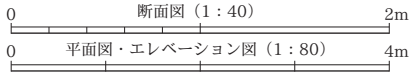


SB7（南1区　17・18I）

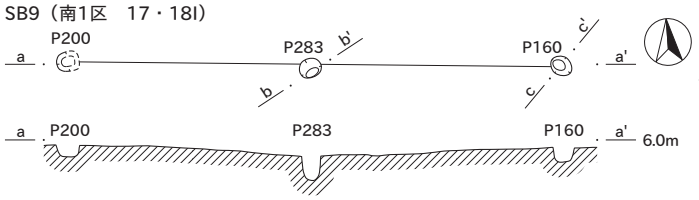


SB8（南1区　17・18I）





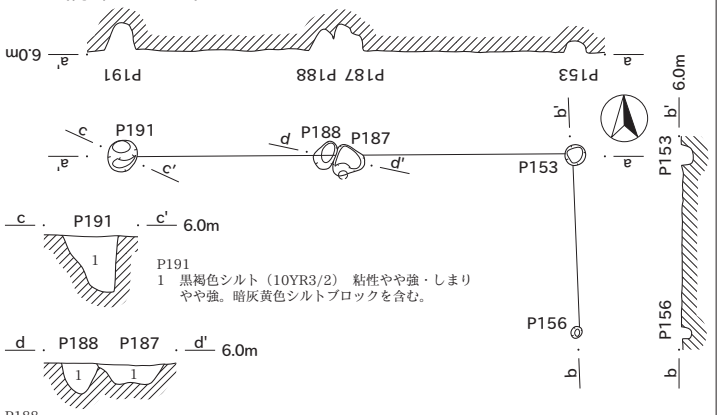
SB9（南1区　17・18I）



P160
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。暗灰黄色シルトブロックを含む。

P283
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり強。1～3mmの炭化物、灰色シルトブロックを少量含む。
2　オリーブ褐色粘土（2.5Y4/3）　粘性やや強・しまり強。1mmの炭化物をごくわずかに含む。

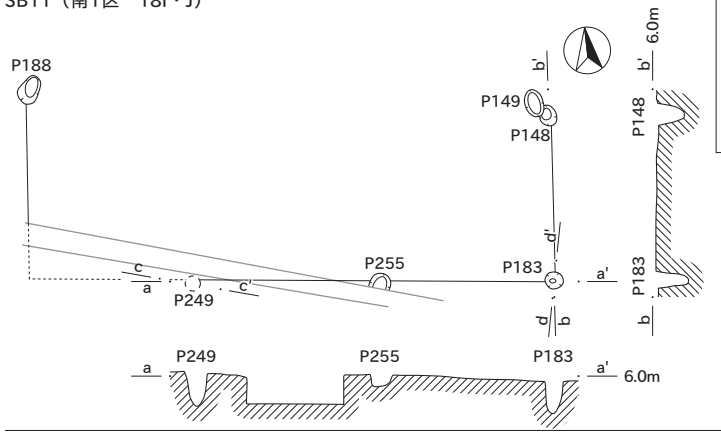
SB10（南1区　18I・J）



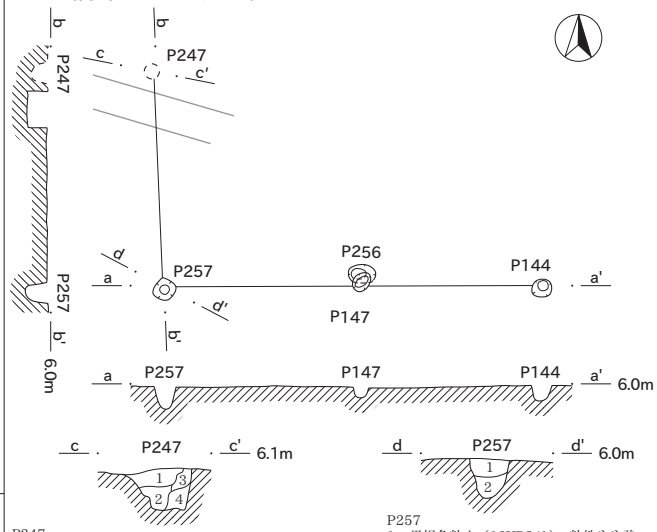
P188
1　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを含む。

P187
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰色シルトブロックを多量、炭化物を部分的に含む。

SB11（南1区　18I・J）

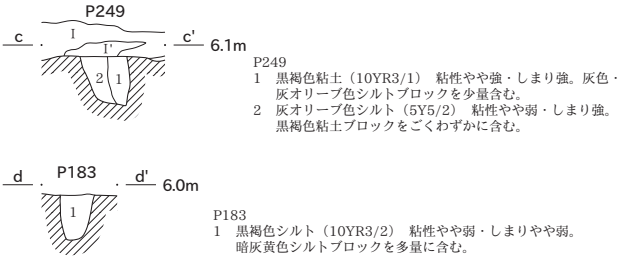


SB12（南1区　18I・J、19J）



P247
1　黒褐色シルト（10YR2/2）　粘性やや弱・しまり強。灰色シルトブロックをわずかに含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。
3　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまり強。黒褐色粘土ブロックを多量に含む。
4　3層に近似するも、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。

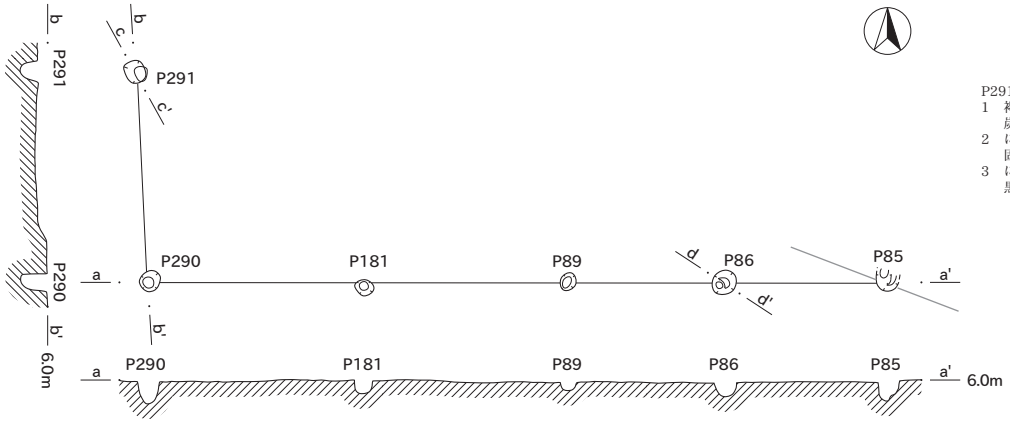
P257
1　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰色粘土ブロックを少量含む。
2　黄灰色粘土（2.5Y4/1）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。

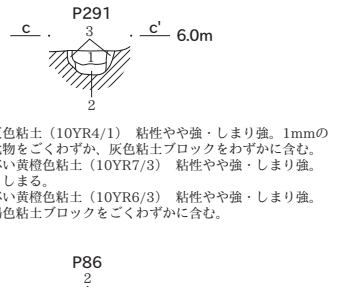


P249
1　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰色・灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。
2　灰オリーブ色シルト（5Y5/2）　粘性やや弱・しまり強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

P183
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを多量に含む。

SB13（南1区　18・19J）

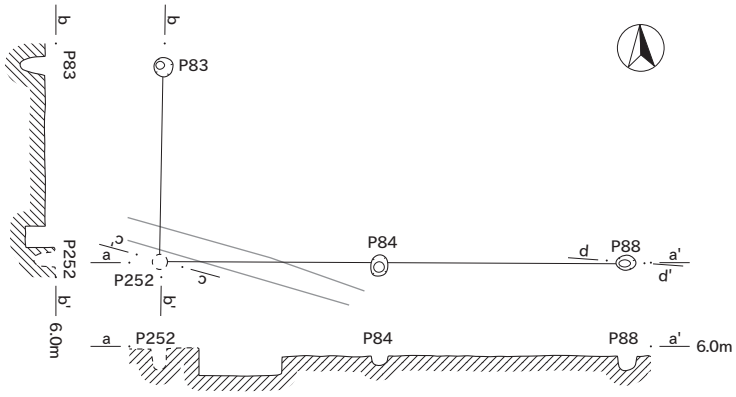


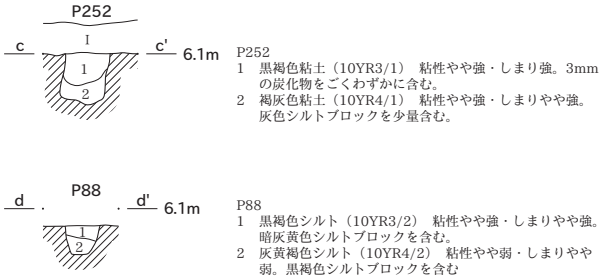


P291
1　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1mmの炭化物をごくわずか、灰色粘土ブロックをわずかに含む。
2　にぶい黄橙色粘土（10YR7/3）　粘性やや強・しまり強。固くしまる。
3　にぶい黄橙色粘土（10YR6/3）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

P86
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。暗灰黄色シルトブロックを含む。
2　暗黄灰色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや強・しまりやや強。黒褐色シルトブロックを少量含む。

SB14（南1区　19J）





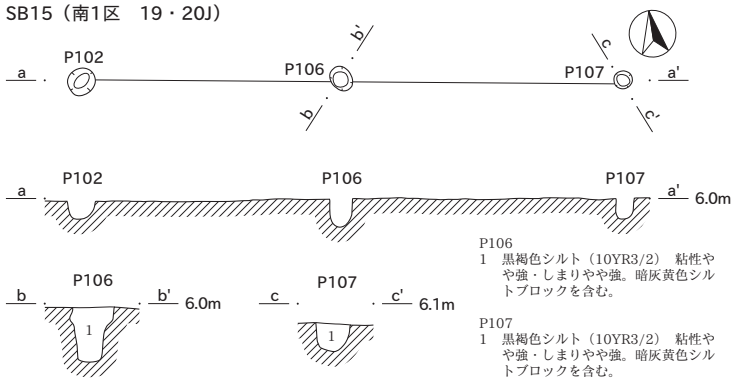
P252
1　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。3mmの炭化物をごくわずかに含む。
2　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまりやや強。灰色シルトブロックを少量含む。

P88
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。暗灰黄色シルトブロックを含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトブロックを含む

0　断面図（1：40）　2m

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

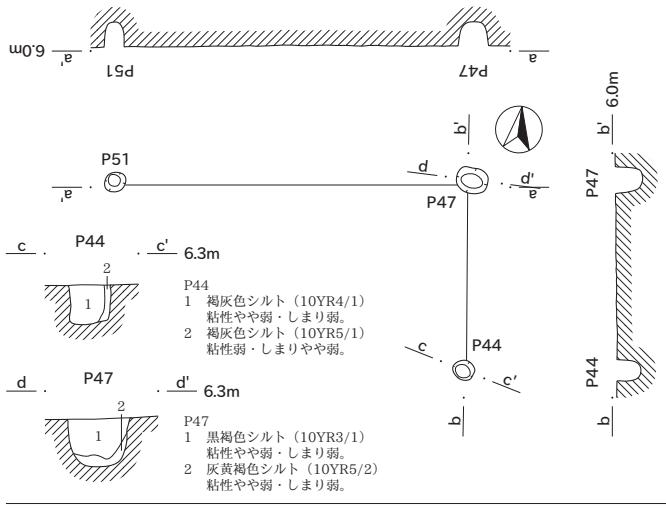
SB15（南1区　19・20J）



P106
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。暗灰黄色シルトブロックを含む。

P107
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。暗灰黄色シルトブロックを含む。

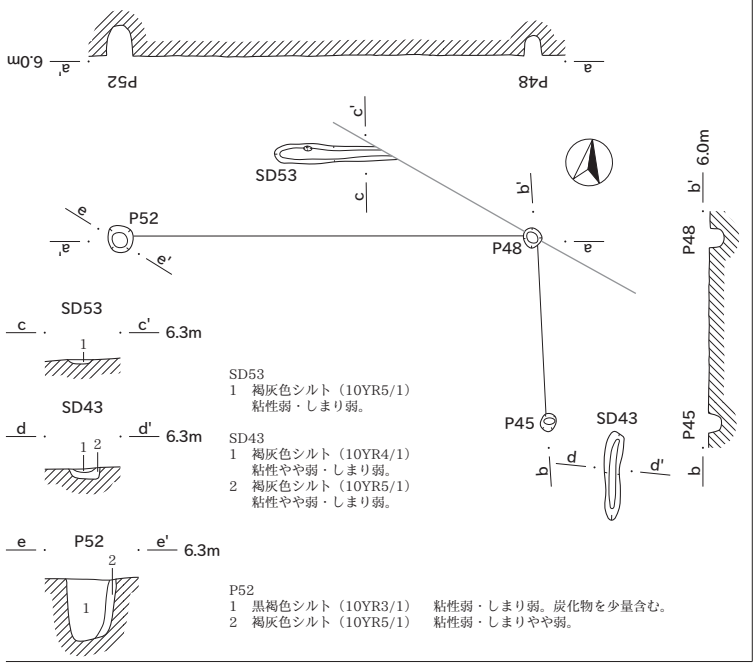
SB16（南2区　26M）



P44
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまりやや弱。

P47
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり弱。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性やや弱・しまり弱。

SB17（南2区　26L・M）

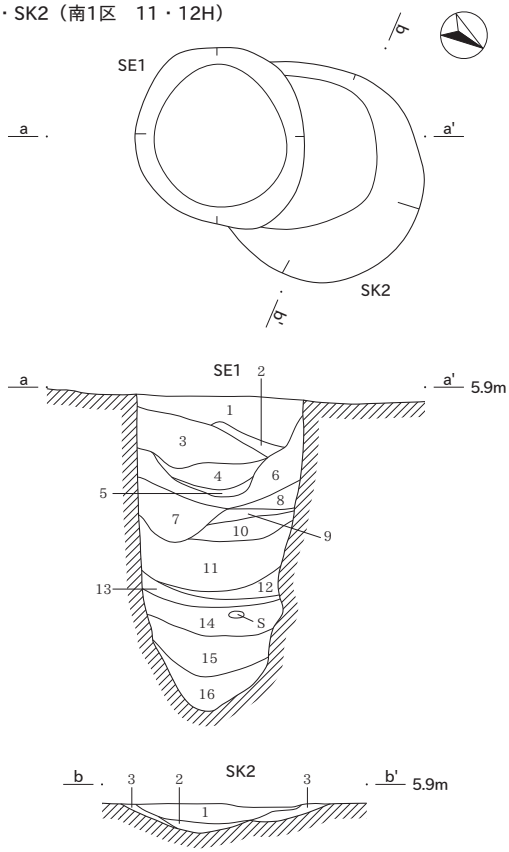


SD53
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり弱。

SD43
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性やや弱・しまり弱。

P52
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
2　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまりやや弱。

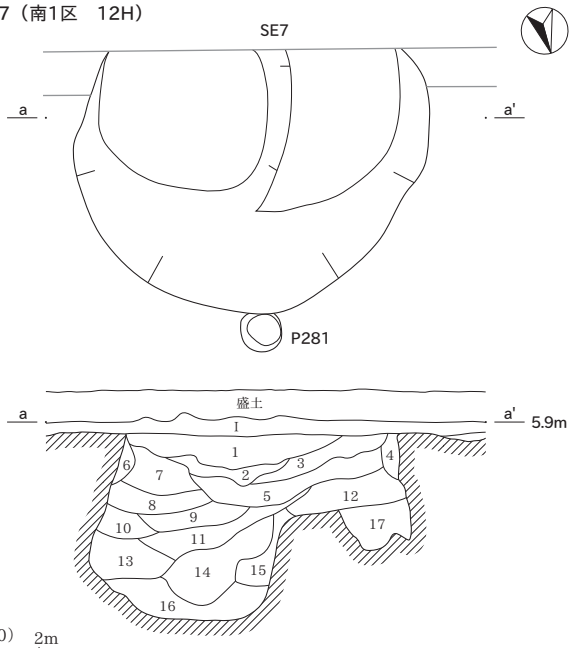
SE1・SK2（南1区　11・12H）



SE1
1　灰色シルト（5Y6/1）　粘性弱・しまり強。褐灰色粘土ブロックを少量含む。
2　灰色粘土（5Y5/1）　粘性強・しまり強。3mmの炭化物をわずか、褐灰色粘土ブロックを少量含む。
3　2層に近似するも、褐灰色粘土ブロックを多量に含む。
4　灰色粘土（5Y4/1）　粘性強・しまり強。灰オリーブ色シルトブロックを多量に含む。
5　黒色シルト（10YR2/1）　粘性弱・しまり弱。微細な炭化物を多量に含む。
6　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。微細～3mmの炭化物をわずか、灰オリーブ色シルトブロックを多量に含む。
7　暗灰色粘土（N3/）　粘性強・しまりやや弱。褐色焼土をわずか、微細な炭化物を多量に含む。
8　黒色シルト（10YR2/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。微細な炭化物を多量、褐色焼土をごくわずかに含む。
9　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性弱・しまり弱。微細な炭化物層。
10　暗灰色粘土（N3/）　粘性強・しまりやや弱。褐色焼土を多量、微細～3mmの炭化物を少量含む。
11　灰色粘土（5Y4/1）　粘性強・しまりやや強。上部に褐色焼土を少量含む。下部に細砂がわずかに混入する。灰オリーブ色シルトをわずかに含む。
12　灰オリーブ色粘土（5Y6/2）　粘性やや強・しまり強。灰白色シルトブロックを少量含む。
13　黒褐色粘土（2.5Y3/2）　粘性やや強・しまりやや強。灰色シルトブロック、暗灰黄色粘土ブロックを少量に含む。
14　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックをわずかに含む。
15　灰オリーブ色粘土（5Y5/2）　粘性やや強・しまり強。灰白色粘土ブロックをわずかに含む。
16　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまりやや弱。1mmの炭化物をごくわずか、灰白色粘土ブロックをわずかに含む。

SK2
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり強。5～10mmの炭化物を少量、V層ブロックを多量に含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまり強。5～10mmの炭化物を多量、V層ブロックをわずかに含む。
3　V層に近似するも、2層ブロックをごくわずかに含む。

SE7（南1区　12H）

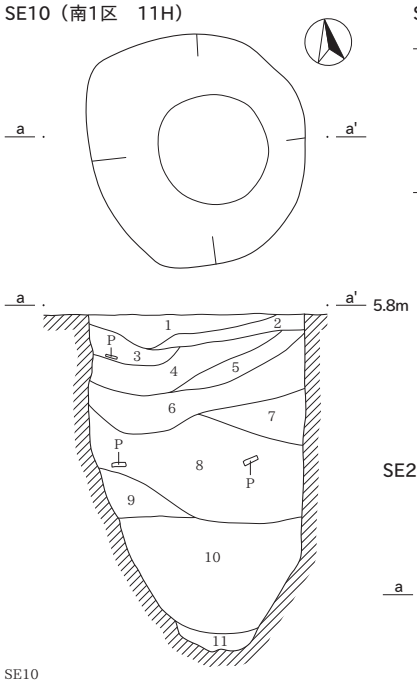


SE7
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。1mmの炭化物をごくわずか、灰色シルトブロックを多量に含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを多量に含む。
3　2層に近似するも、灰色シルトブロックをわずかに含む。
4　V層に近似するも、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
5　2層に近似するも、灰色シルトブロックを多量、1～5mmの炭化物をわずかに含む。灰オリーブ色シルトブロックをごくわずかに含む。
6　4層に近似する。
7　2層に近似するも、灰色シルトブロックをわずかに含む。
8　2層に近似するも、灰色シルトブロックを多量に含む。
9　5層に近似するも、灰色シルトブロックを少量含む。
10　2層に近似するも、灰色シルトブロック、3mmの炭化物をごくわずかに含む。
11　8層に近似する。
12　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまりやや強。灰色シルトブロックを少量、3mmの炭化物をごくわずかに含む。
13　灰オリーブ色粘土（2.5Y4/1）　粘性強・しまりやや強。V層に近似するも、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
14　12層に近似するも、灰色シルトブロックを少量含む。
15　13層に近似する。
16　灰オリーブ色粘土（2.5Y4/1）　粘性強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
17　12層に近似するも、灰色シルトブロックをわずかに含む。

0　SB15～17平面図・エレベーション図（1：80）　4m

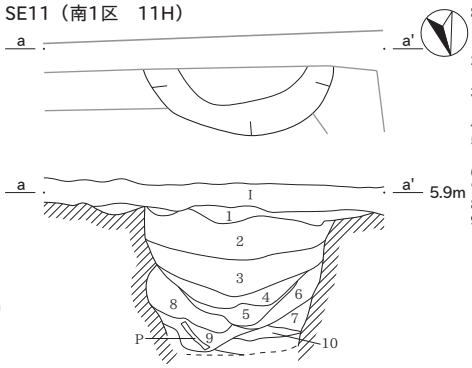
0　SB15～17断面図、SE1・SK2、SE7（1：40）　2m

SE10（南1区　11H）



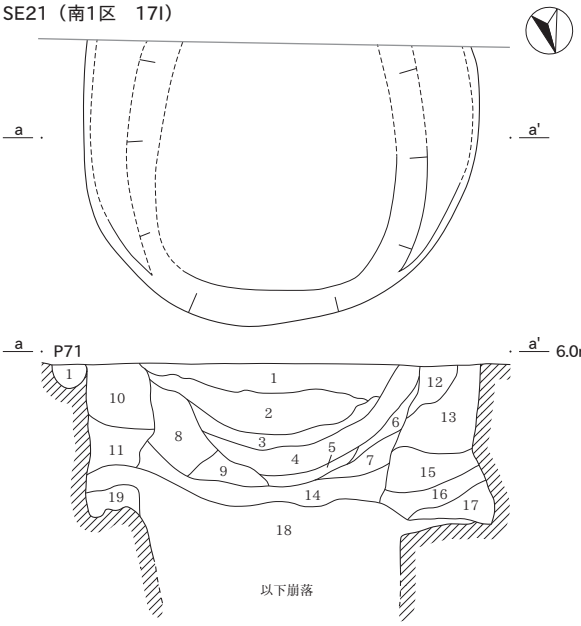
SE10
1　灰色シルト（5Y5/1）　粘性弱・しまり強。1～3mmの炭化物、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
2　灰色シルト（5Y6/1）　粘性弱・しまり強。1mmの炭化物、灰白色シルトブロック、黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
3　1層に近似するも、灰白色シルトブロックをわずかに含む。
4　灰色シルト（5Y5/1）　粘性弱・しまり強。1～10mmの炭化物をわずか、灰白色シルトブロックを少量含む。
5　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。灰色シルトブロックを多量、黒褐色粘土ブロックをごくわずか、5mmの炭化物をわずかに含む。
6　5層に近似するも、灰色シルトブロックを少量含む。
7　5層に近似するも、黒褐色粘土ブロックを多量に含む。
8　灰色粘土（5Y5/1）　粘性強・しまり強。黒褐色粘土ブロックを少量、灰色シルトブロックをわずか、5mmの炭化物をわずかに含む。
9　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまり強。灰色シルト、灰色粘土ブロックを多量に含む。
10　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまりやや強。灰色シルト、灰色粘土ブロックを少量含む。
11　灰白色粘土（N7/）　粘性強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

SE11（南1区　11H）



SE11
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。3mmの炭化物をわずか、浅黄橙色シルトブロックを多量に含む。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。3～5mmの炭化物を少量、浅黄橙色シルトブロックをわずかに含む。
3　灰黄色シルト（2.5Y6/2）　粘性やや弱・しまり強。5～10mmの炭化物をわずかに含む。
4　3層に近似するも、粘性やや強い。
5　黒色シルト（10YR2/1）　粘性やや弱・しまりやや強。炭化物の細粒多量。4層ブロックをわずかに含む。
6　4層に近似するも、炭化物の細粒をわずかに含む。
7　5層に近似するも、黄褐色焼土ブロックを多量に含む。
8　6層に近似する。
9　7層に近似するも、灰黄色粘土ブロック、黄褐色焼土ブロックを少量含む。
10　7層に近似するも、黄褐色焼土ブロックをさらに多量に含む。
11　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性やや強・しまり強。浅黄色粘土ブロックを少量、1～3mmの炭化物をごくわずか、炭化物の細粒をわずかに含む。
12　にぶい黄橙色粘土（10YR5/3）　粘性やや強・しまり強。11層ブロックをわずかに含む。
13　暗青灰色粘土（5B4/1）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの炭化物をわずか、浅黄色粘土ブロックをごくわずかに含む。
14　暗灰黄色粘土（2.5Y5/2）　粘性やや強・しまり強。3～5mmの炭化物をごくわずかに含む。
15　黄褐色粘土（2.5Y5/4）　粘性強・しまり強。灰白色・褐灰色粘土ブロックを少量含む。
16　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強・しまり強。黄褐色粘土ブロックをわずかに含む。

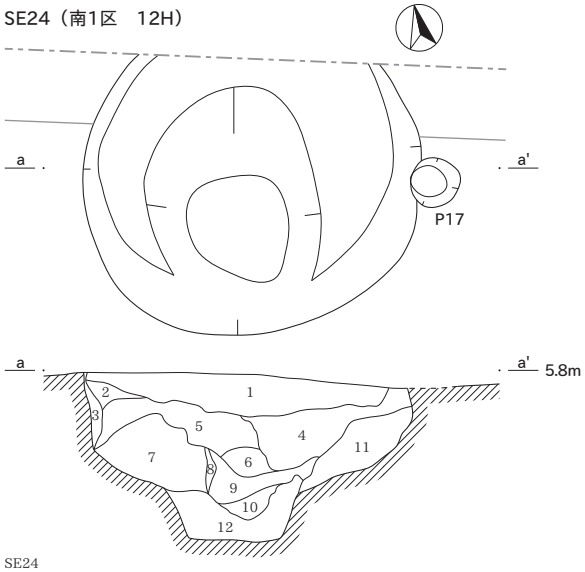
SE21（南1区　17I）



SE21
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり強。1～10mmの炭化物を少量、褐灰色粘土ブロックを多量に含む。
2　1層に近似するも、灰色シルトブロックを少量、褐灰色粘土ブロックをさらに多量に含む。
3　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。
4　黒色粘土（10YR2/1）　粘性やや強・しまりやや強。1mm以下の微細な炭化物からなる。
5　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまりやや弱。灰色シルトブロックをわずかに含む。
6　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色粘土ブロックを少量含む。
7　5層に近似するも、灰色シルトブロックをわずかに含む。
8　2層に近似するも、灰色シルトブロックさらに多い。
9　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。褐灰色粘土ブロックを多量に含む。
10　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1mm以下の炭化物、灰色シルトブロックを少量含む。
11　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまり強。褐灰色粘土ブロックを多量に含む。
12　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
13　12層に近似するも、褐灰色粘土ブロックを多量に含む。
14　黒色粘土（10YR2/1）　粘性やや強・しまりやや強。微細な炭化物と褐灰色粘土の互層。
15　褐灰色粘土（10YR5/1）　粘性強・しまりやや弱。灰色シルトブロックを多量に含む。
16　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強・しまりやや弱。灰色シルトブロックを少量含む。
17　灰黄褐色粘土（10YR5/2）　粘性やや強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
18　暗灰色粘土（N3/）　粘性やや強・しまりやや強。微細な炭化物を多量に含み、薄い層が連続する。灰色シルトブロックを少量含む。
19　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの炭化物をわずか、灰色シルトブロックを少量含む。

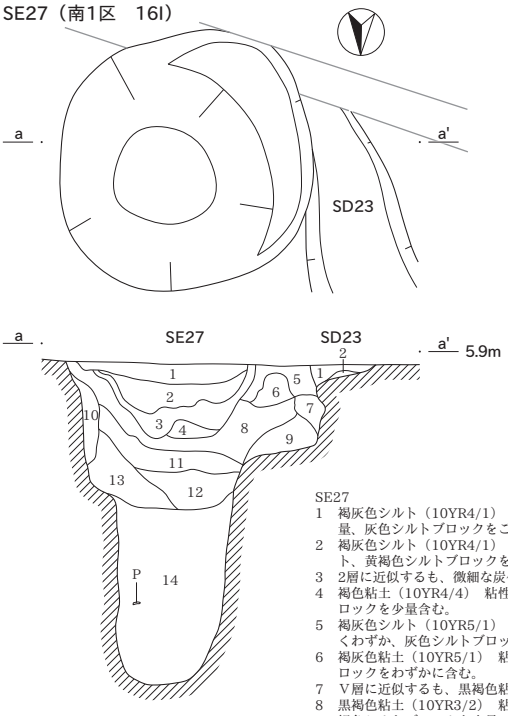
P71
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり強。1～10mmの炭化物を少量、灰色シルトブロックを多量に含む。

SE24（南1区　12H）



SE24
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり強。3～10mmの炭化物をわずか、灰色シルトブロックを多量、灰オリーブ色シルトブロックをわずかに含む。
2　暗オリーブ灰色シルト（2.5GY4/1）　粘性弱・しまり強。黒色粘土ブロックをわずか、1mmの炭化物をごくわずかに含む。
3　暗オリーブ灰色シルト（2.5GY4/1）　粘性弱・しまり強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
4　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり強。1層に近似するも、ブロックさらに多量に含む。炭化物は含まない。
5　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量、1～3mmの炭化物をわずかに含む。
6　暗オリーブ灰色粘土（2.5GY4/1）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
7　暗オリーブ灰色シルト（2.5GY4/1）　粘性やや弱・しまり強。V層に近似するも、黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
8　暗オリーブ灰色粘土（2.5GY4/1）　粘性やや強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
9　5層に近似するも、粘性さらに強い。灰色シルトブロックをごくわずかに含む。
10　暗オリーブ灰色粘土（2.5Y4/1）　粘性やや強・しまりやや弱。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
11　暗オリーブ灰色シルト（2.5Y4/1）　粘性やや強・しまりやや弱。V層に近似するも、しまりは弱い。
12　11層に近似するも、しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

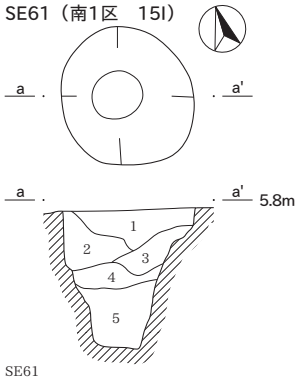
SE27（南1区　16I）



SE27
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。1～5mmの炭化物を少量、灰色シルトブロックをごくわずかに含む。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまりやや強。炭化物、灰色シルト、黄褐色シルトブロックをわずかに含む。
3　2層に近似するも、微細な炭化物を多量に含む。
4　褐色粘土（10YR4/4）　粘性強・しまり強。黒褐色粘土、黄褐色粘土ブロックを少量含む。
5　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、灰色シルトブロックを少量含む。
6　褐灰色粘土（10YR5/1）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルトブロックをわずかに含む。
7　V層に近似するも、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
8　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。灰色シルト、黄褐色シルトブロックを少量、微細な炭化物をごくわずかに含む。
9　7層に近似するも、黄褐色シルトブロックを多量、灰色シルトブロックをわずかに含む。
10　6層に近似する。
11　8層に近似するも、黄褐色シルトブロックさらに多い。
12　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強・しまりやや弱。1～5mmの炭化物をごくわずか、灰色シルトブロックを少量含む。
13　11層に近似するも、微細な炭化物をわずかに含む。
14　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性強・しまりやや弱。灰色シルトブロックをごくわずかに含む。

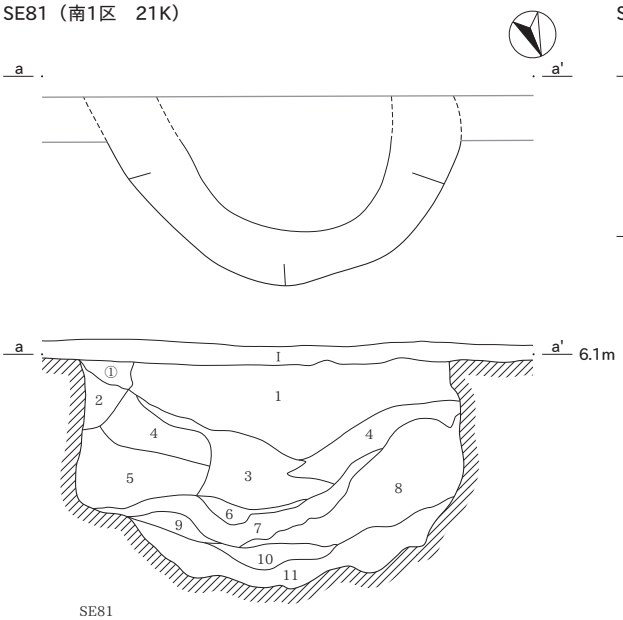
0　（1：40）　2m

SE61（南1区　15I）



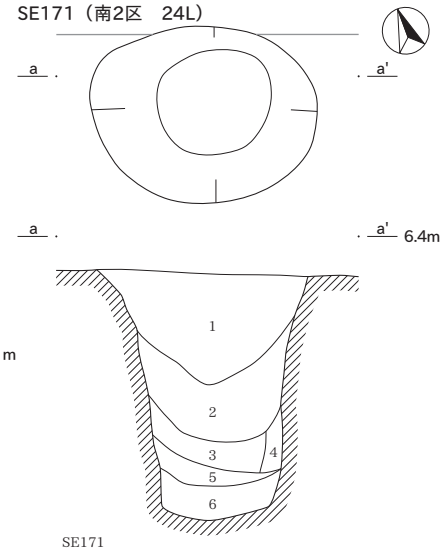
SE61
1　灰色粘土（N4/）　粘性強・しまり強。1～5mmの炭化物をわずか、暗灰色粘土ブロックを多量に含む。
2　1層に近似するも、暗灰色粘土ブロックをわずかに含む。
3　1層に近似するも、炭化物なし。灰色シルトブロックをわずかに含む。
4　灰色シルト（N4/）　粘性やや弱・しまりやや強。暗灰色粘土ブロックをわずかに含む。
5　灰色粘土（5Y4/1）　粘性強・しまりやや弱。1～3mmの炭化物をわずか、黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

SE81（南1区　21K）



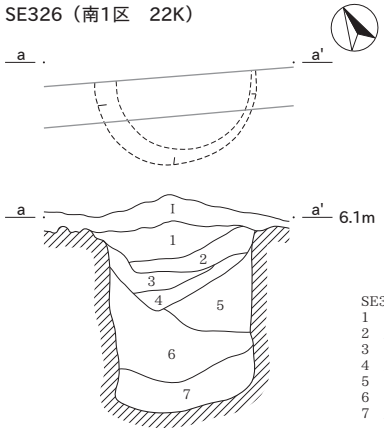
SE81
1　暗オリーブ灰色シルト（2.5GY4/1）　粘性強・しまりやや強。黒褐色シルトブロックを少量含む。
2　1層に近似する。
3　黒色シルト（10YR1.7/1）　粘性やや弱・しまり弱。微細な炭化物を多量、暗オリーブ灰色シルトブロックを少量含む。
4　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや強・しまりやや強。暗オリーブ灰色シルトブロックを少量含む。
5　オリーブ灰色シルト（2.5GY6/1）　粘性やや強・しまりやや強。黒褐色シルトブロックを少量含む。
6　オリーブ灰色シルト（2.5GY5/1）　粘性やや弱・しまり弱。黒色シルト、微細な炭化物を少量含む。
7　3層に近似するも、褐灰色粘土ブロックをわずかに含む。
8　5層に近似する。
9　5層に近似する。
10　5層に近似するも、灰色シルト、砂を少量含む。
11　10層に近似するも、灰色シルト、砂を多量に含む。

SE171（南2区　24L）



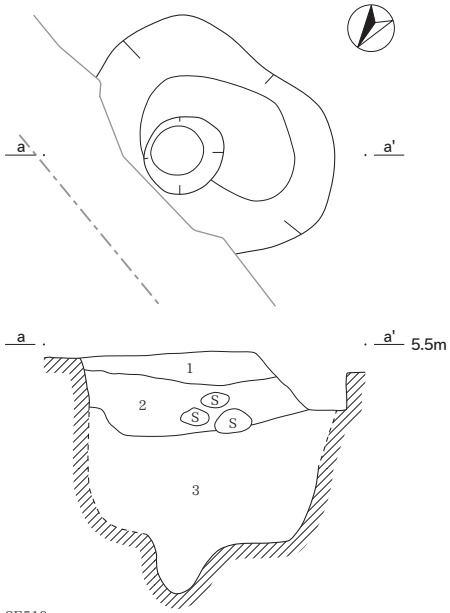
SE171
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。5mmの炭化物を少量含む。下部に黄褐色シルトブロックを少量含む。
2　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。3層との層界に1～2cmの炭化物が集中。
3　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり弱。
4　暗褐色砂質シルト（10YR3/4）　粘性弱・しまり弱。
5　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
6　黒褐色粘性シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物を少量含む。

SE326（南1区　22K）



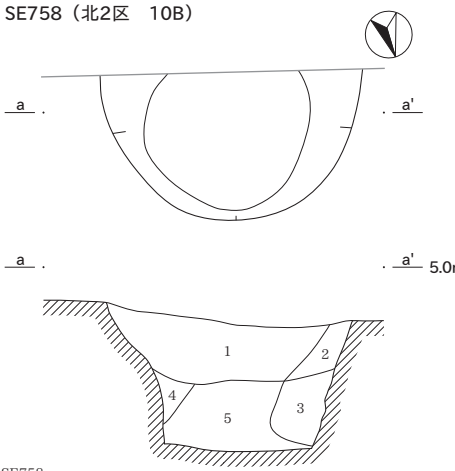
SE326
1　暗褐色粘土（10YR3/3）　粘性やや強・しまり強。3～10mmの炭化物をわずか、灰色粘土ブロックをごくわずかに含む。
2　灰色粘土（5Y5/1）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、1層ブロックをわずかに含む。
3　2層に近似するも、灰白色粘土ブロックを多量に含む。
4　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性強・しまり強。灰色粘土ブロックをわずかに含む。
5　2層に近似するも、粘性強。灰白色粘土ブロックを多量に含む。
6　5層に近似するも、粘性強。灰白色粘土ブロックを少量含む。
7　灰黄褐色粘土（10YR6/2）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックを多量、灰色粘土ブロックを少量、5mmの炭化物をわずかに含む。

SE519（北2区　8A）



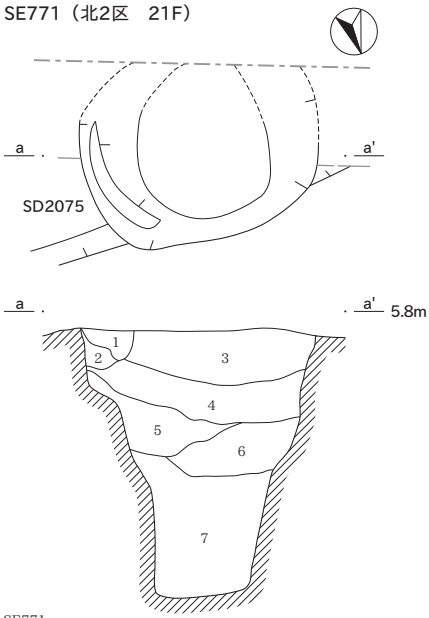
SE519
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。黄褐色シルトを少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。黄褐色シルト、褐灰色シルトブロックを含む。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性強・しまり強。褐灰色シルト、赤褐色の鉄分を含む。

SE758（北2区　10B）



SE758
1　暗灰黄褐色砂質シルト（2.5Y5/2）　粘性なし・しまりなし。砂が主体となる。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性やや弱・しまり弱。砂を含む。
3　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。砂を少量含む。
4　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。灰黄褐色シルトを含む。
5　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/3）　粘性弱・しまり弱。砂を多量に含む。灰黄褐色シルトを含む。

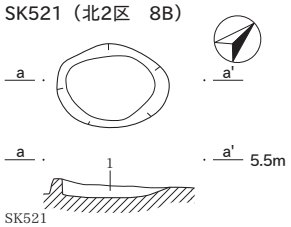
SE771（北2区　21F）



SE771
1　黒色粘土（5Y2/1）　粘性強・しまり強。1～10mmの炭化物をごくわずか、灰色粘土ブロックをわずかに含む。
2　灰白色粘土（5Y7/1）　粘性やや強・しまり強。褐灰色粘土ブロックを少量含む。
3　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強・しまりやや強。灰色シルトを少量含む。下部に薄い炭化物層あり。
4　灰色粘土（5Y5/1）　粘性やや強・しまり強。灰白色シルトブロックをごくわずかに含む。
5　4層に近似するも、色調若干黒ずむ。
6　オリーブ黒色粘土（5Y3/1）　粘性強・しまり強。3～5mmの炭化物をわずかに含む。
7　6層に近似するも、粘性さらに強い。

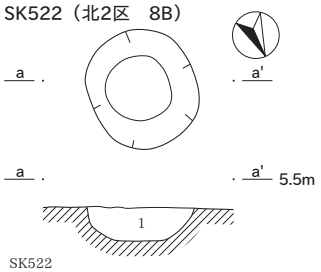
0　(1：40)　2m

SK521（北2区　8B）



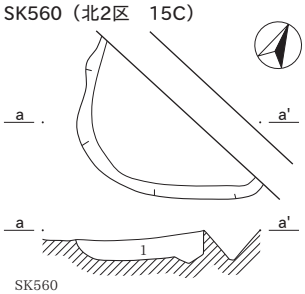
SK521
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。黄褐色シルト、部分的に炭化物を含む。

SK522（北2区　8B）



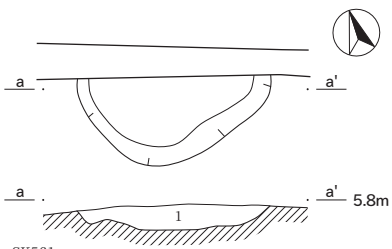
SK522
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。黄褐色シルトを含む。炭化物を少量含む。

SK560（北2区　15C）



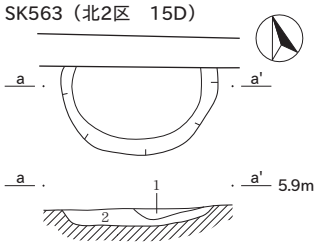
SK560
1　暗灰黄褐色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトブロックを含む。

SK561（北2区　15C）



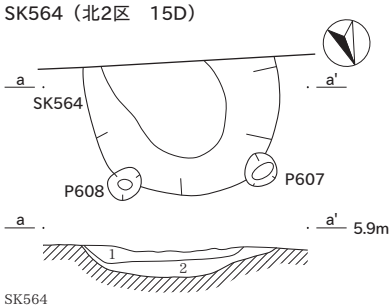
SK561
1　オリーブ黒色シルト（5Y3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを含む。

SK563（北2区　15D）



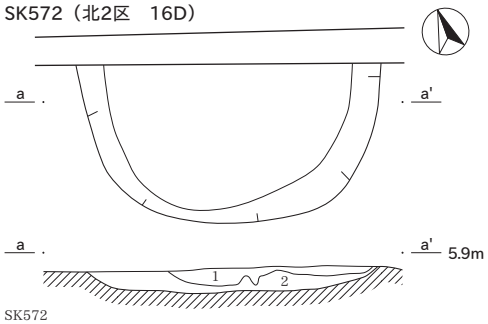
SK563
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄褐色シルトブロックを含む。
2　灰オリーブ色シルト（5Y4/2）　粘性やや強・しまりやや弱。炭化物を含む。

SK564（北2区　15D）



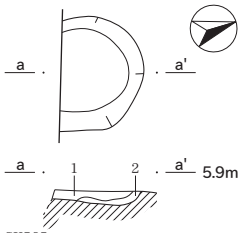
SK564
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄褐色シルト（2.5Y5/2）　粘性やや強・しまりやや弱。黒褐色シルトブロックを少量含む。

SK572（北2区　16D）



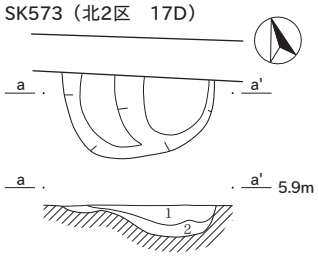
SK572
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを多量に含む。
2　暗灰黄褐色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトを少量含む。

SK565（北2区　15D）



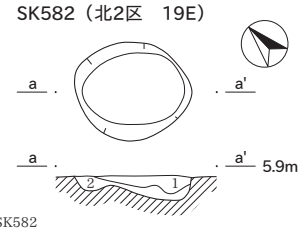
SK565
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄褐色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトを少量含む。

SK573（北2区　17D）



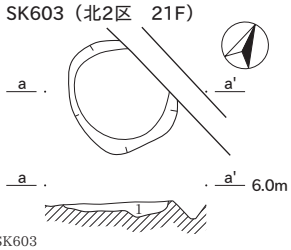
SK573
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗オリーブ色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトを含む。

SK582（北2区　19E）



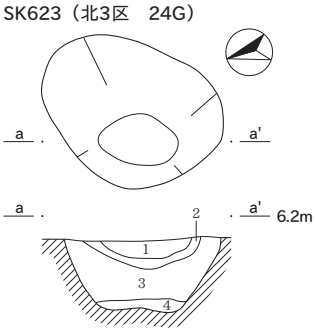
SK582
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。褐灰色シルトブロックを少量含む。

SK603（北2区　21F）



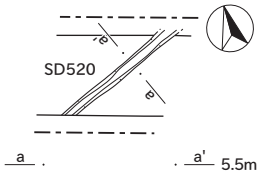
SK603
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。オリーブ褐色シルトを含む。炭化物を多量に含む。

SK623（北3区　24G）



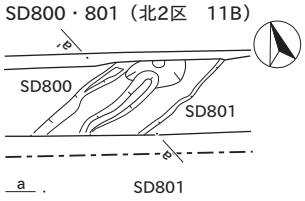
SK623
1　黒色炭化物層（10YR2/1）　粘性なし・しまり弱。
2　灰黄褐色粘土（10YR6/2）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物をごくわずかに含む。
3　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。
4　明黄褐色シルト（10YR7/6）　粘性弱・しまり弱。

SD520（北2区　9B）



SD520
1　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。

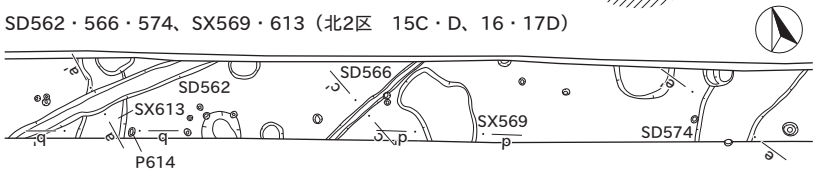
SD800・801（北2区　11B）

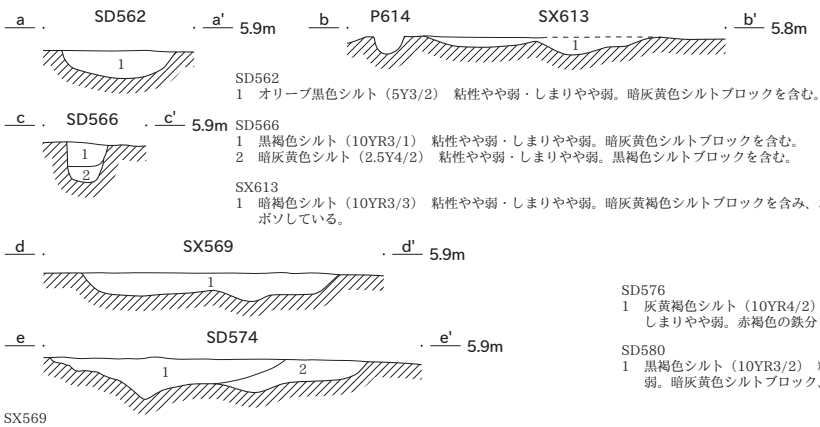


SD801
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルト、褐灰色シルトブロックを少量含む。
2　1層に近似するも、褐灰色シルトブロックを多量含む。

SD800
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや強・しまりやや弱。黄褐色シルトブロックを少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや弱。暗褐色シルト、黄褐色シルトブロックを含む。

SD562・566・574、SX569・613（北2区　15C・D、16・17D）





SD562
1　オリーブ黒色シルト（5Y3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを含む。

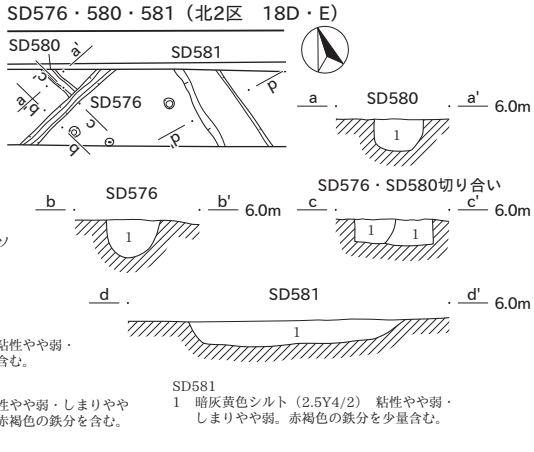
SD566
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトブロックを含む。

SX613
1　暗褐色シルト（10YR3/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄褐色シルトブロックを含み、ボソボソしている。

SX569
1　灰オリーブ色シルト（5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を多量に含む。暗褐色シルトブロックを含む。

SD574
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。オリーブ褐色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。黒褐色シルトブロックを少量含む。

SD576・580・581（北2区　18D・E）



SD576
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。赤褐色の鉄分を含む。

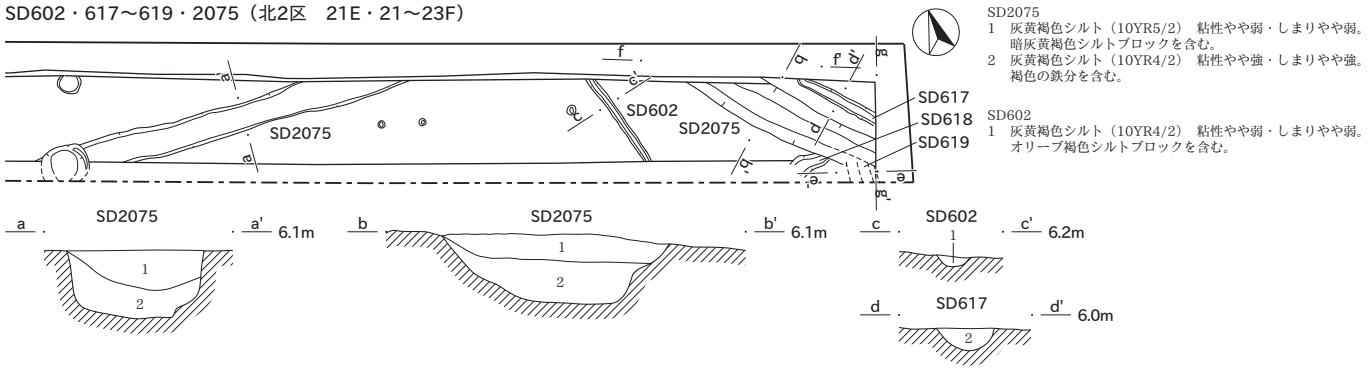
SD580
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロック、赤褐色の鉄分を含む。

SD581
1　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。赤褐色の鉄分を少量含む。

0　SK、SD断面図（1：40）　2m

0　SD平面図（1：200）　10m

SD602・617～619・2075（北2区　21E・21～23F）



SD2075
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄褐色シルトブロックを含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。褐色の鉄分を含む。

SD602
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。オリーブ褐色シルトブロックを含む。

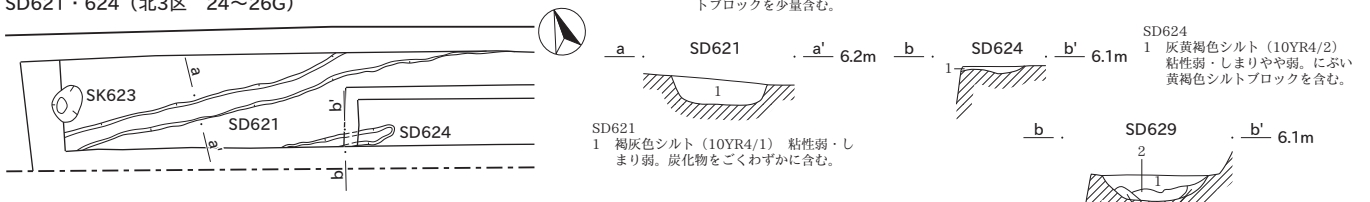
SD617
1　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1～5mmの炭化物を少量、黄褐色シルトブロックを多量に含む。
2　オリーブ褐色シルト（2.5Y4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。黄褐色シルトを少量含む。

SD619
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。

SD618
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。
2　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルトを少量含む。

SD769
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり強。3mmの炭化物・褐灰色粘土ブロックをわずか、灰色シルトブロックを少量含む。

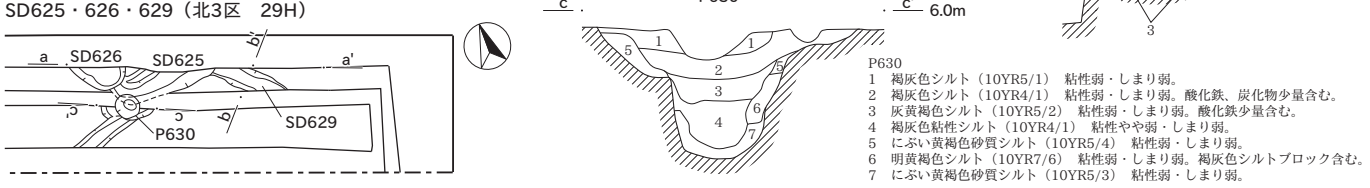
SD621・624（北3区　24～26G）



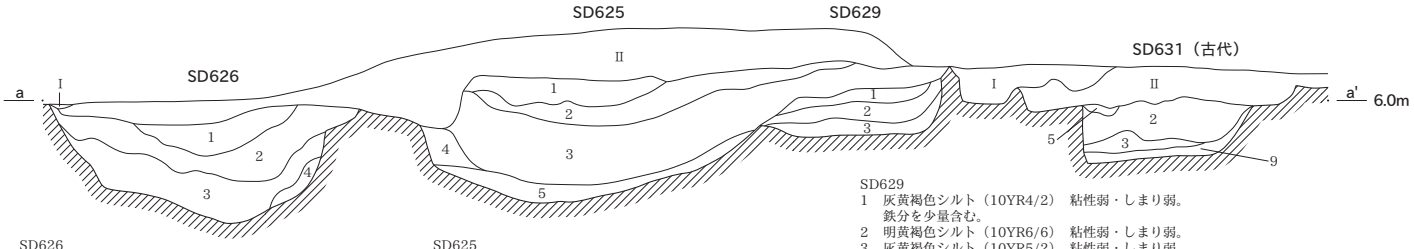
SD621
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物をごくわずかに含む。

SD624
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまりやや弱。にぶい黄褐色シルトブロックを含む。

SD625・626・629（北3区　29H）



P630
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。酸化鉄、炭化物少量含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性弱・しまり弱。酸化鉄少量含む。
4　褐灰色粘性シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり弱。
5　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。
6　明黄褐色シルト（10YR7/6）　粘性弱・しまり弱。褐灰色シルトブロック含む。
7　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。



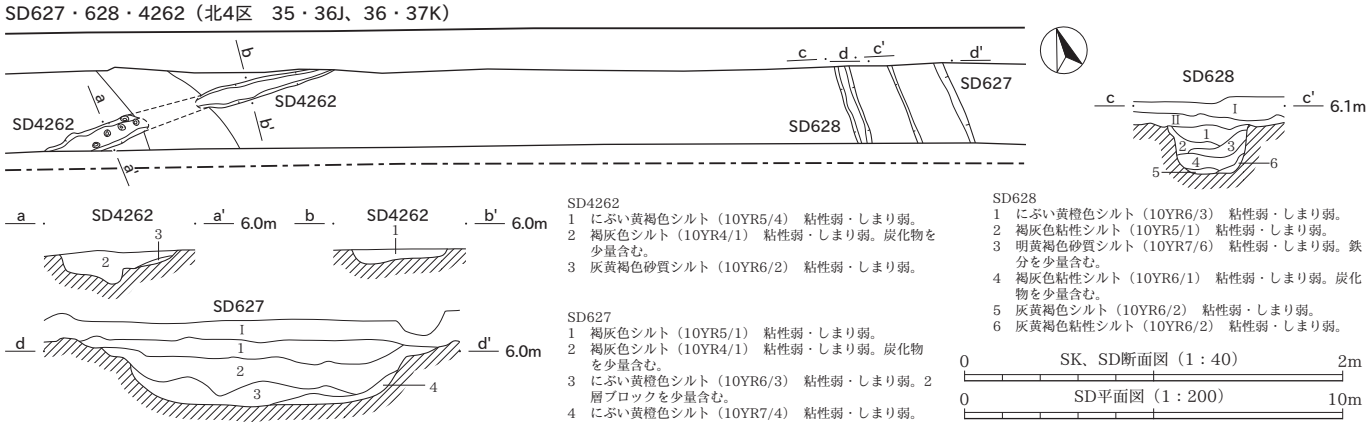
SD626
1　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を少量含む。
2　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性弱・しまり弱。20～30mmのにぶい黄橙色シルトブロックを少量含む。
3　にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。
4　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。

SD625
1　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。
2　明黄褐色シルト（2.5Y6/6）　粘性弱・しまり弱。
3　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。
4　黄灰色粘性シルト（2.5Y6/1）　粘性やや弱・しまり弱。
5　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。

SD629
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。鉄分を少量含む。
2　明黄褐色シルト（10YR6/6）　粘性弱・しまり弱。
3　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性弱・しまり弱。

SD631
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。
2　明黄褐色粘土（10YR6/6）　粘性やや弱・しまり弱。粘土主体。焼土を少量含む。
3　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。
4　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
5　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。
6　黄褐色シルト（10YR5/6）　粘性弱・しまり弱。
7　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。
8　橙色粘土（5YR6/6）　粘性やや強・しまりやや弱。やや被熱した粘土。
9　にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまりやや強。

SD627・628・4262（北4区　35・36J、36・37K）



SD4262
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
3　灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。

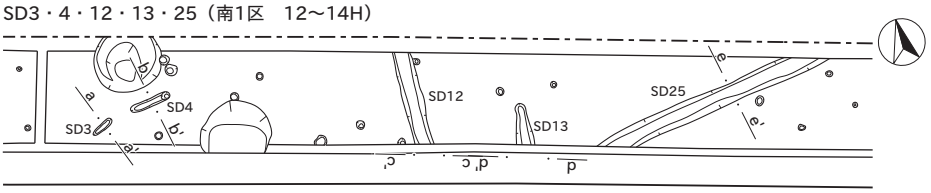
SD627
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
3　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。2層ブロックを少量含む。
4　にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。

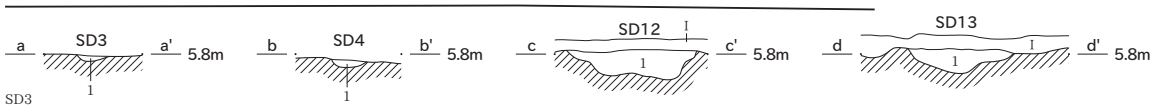
SD628
1　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。
2　褐灰色粘性シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり弱。
3　明黄褐色砂質シルト（10YR7/6）　粘性弱・しまり弱。鉄分を少量含む。
4　褐灰色粘性シルト（10YR6/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
5　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。
6　灰黄褐色粘性シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。

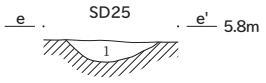
0　SK、SD断面図（1：40）　2m

0　SD平面図（1：200）　10m

SD3・4・12・13・25（南1区　12～14H）







SD25
1　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、灰色粘土ブロックを多量に含む。

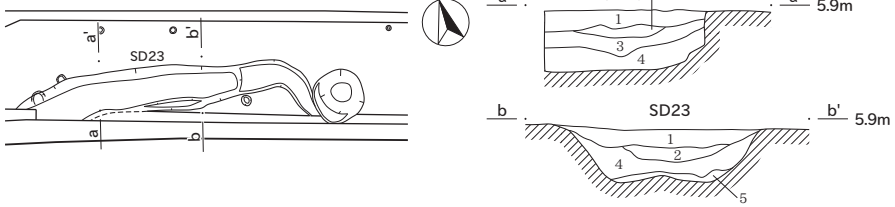
SD3
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり強。Ⅰ層に近似するも、Ⅴ層ブロックを少量含む。

SD4
1　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強・しまり強。1～3mmの炭化物をわずか、Ⅴ層ブロックを少量含む。

SD12
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、Ⅴ層ブロックを多量に含む。

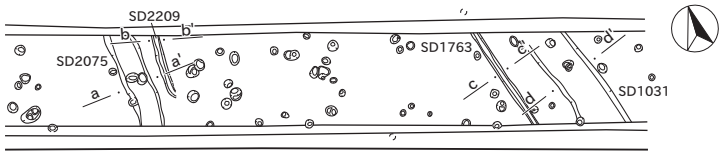
SD13
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、Ⅴ層ブロックを多量に含む。

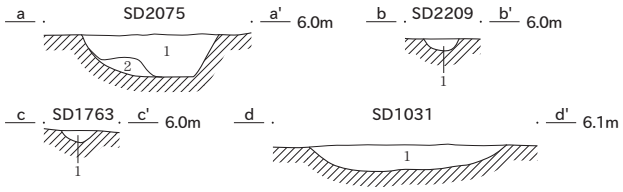
SD23（南1区　15・16I）



SD23
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり強。1～3mmの炭化物をわずか、黒色粘土ブロックをわずか、灰色シルトブロックを少量含む。
2　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり強。褐灰色シルトブロックをわずかに含む。
3　灰黄色シルト（2.5Y6/2）　粘性弱・しまり強。黒色粘土ブロックをごくわずかに含む。
4　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。灰黄色シルトブロックを少量、1～3mmの炭化物をわずかに含む。
5　Ⅴ層に近似するも、黒色粘土ブロックをわずかに含む。

SD1031・1763・2075・2209（南1区　17・18I・J、19J）





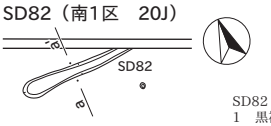
SD2075
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄褐色シルトブロックを含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。褐色の鉄分を含む。

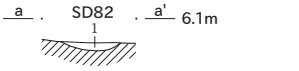
SD2209
1　暗褐色シルト（10YR3/3）　粘性やや弱・しまりやや強。暗褐色シルトブロックを含む。

SD1763
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。にぶい黄褐色シルトを少量含む。

SD1031
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトを含む。

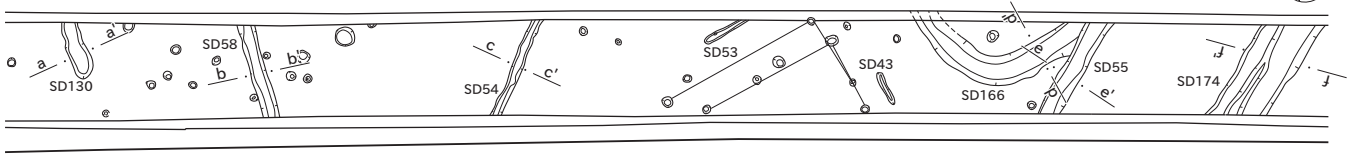
SD82（南1区　20J）

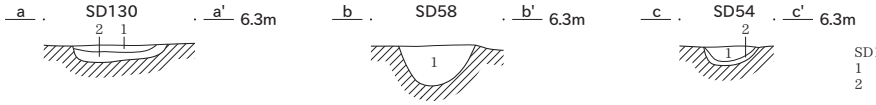


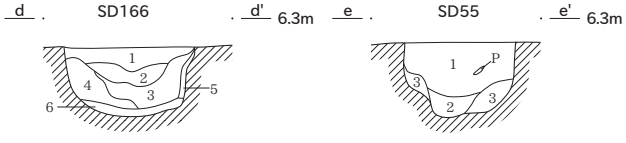


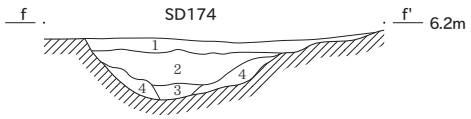
SD82
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。暗灰黄色シルトブロックを少量含む。

SD54・55・58・130・166・174（南2区　24～26L・26～28M）









SD130
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまりやや弱。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。

SD58
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。

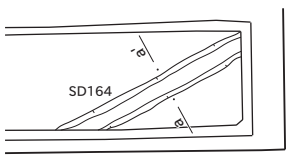
SD54
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり弱。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性やや弱・しまりやや弱。

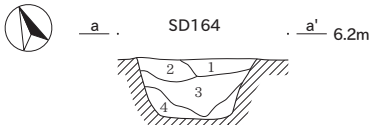
SD55
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまりやや弱。炭化物をごくわずかに含む。
2　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。

SD166
1　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。30mm程度の炭化物を少量含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。Ⅴ層に近似する。
3　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。酸化鉄を少量含む。
4　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。色調3層より暗い。
5　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。Ⅴ層に近似する。
6　褐灰色砂質シルト（10YR6/1）　粘性やや弱・しまり弱。

SD174
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性やや弱・しまり弱。
2　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性弱・しまり弱。
4　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまりやや弱。

SD164（南2区　30・31N）

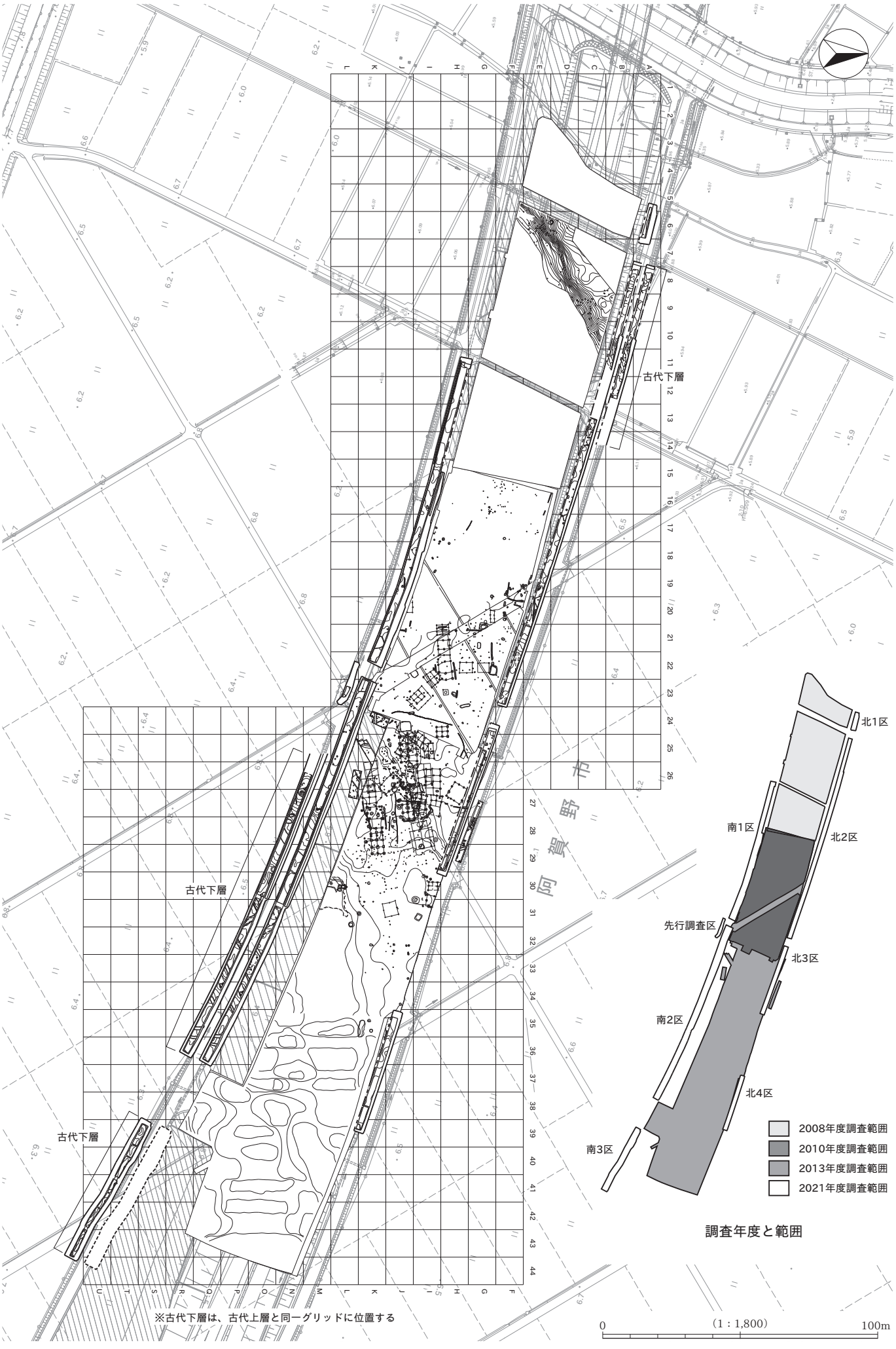




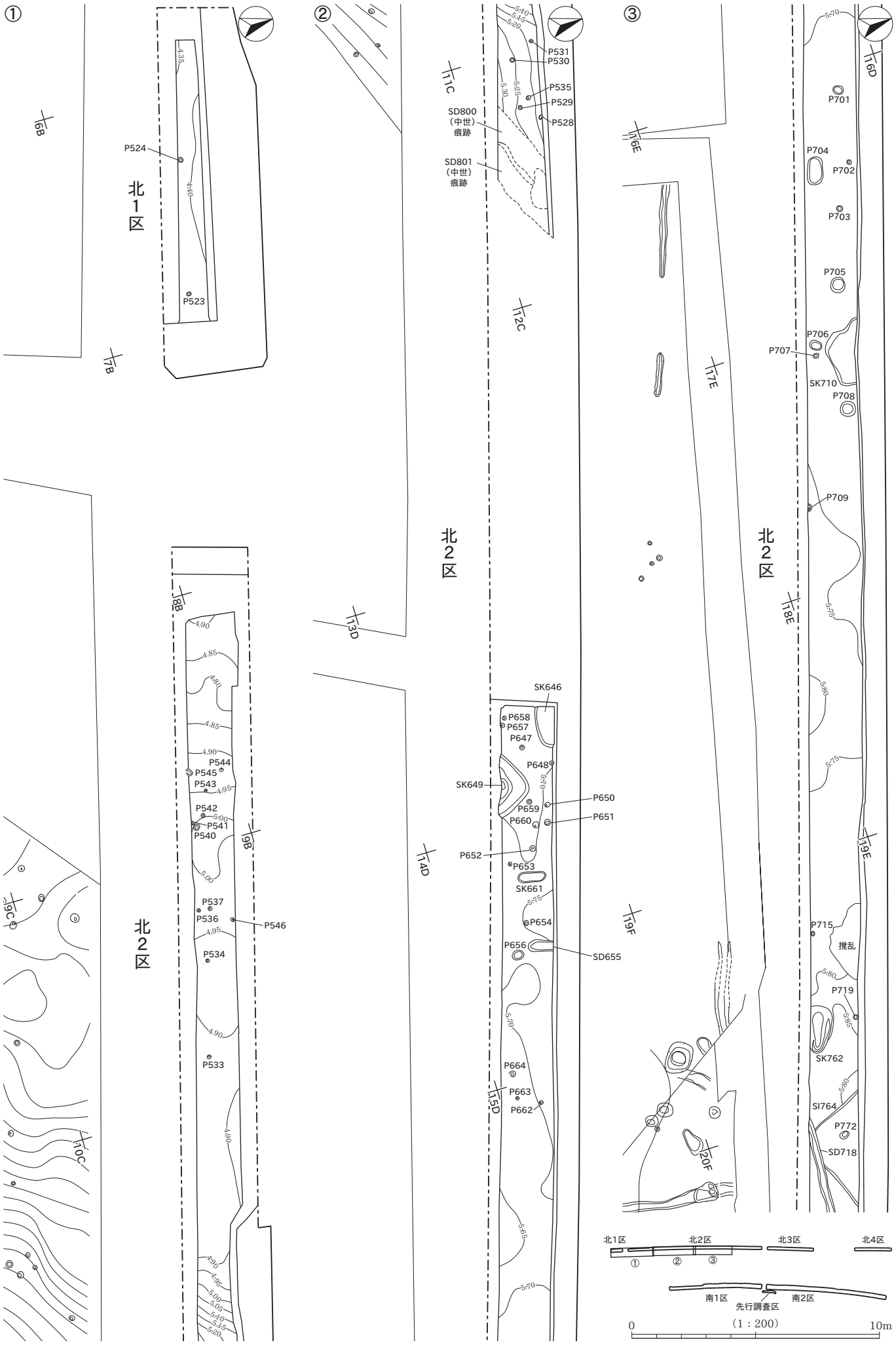
SD164
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり弱。
2　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
3　褐灰色粘性シルト（10YR6/1）　粘性やや弱・しまり弱。
4　褐灰色シルト（10YR6/1）　粘性弱・しまり弱。

0　SK、SD断面図（1：40）　2m

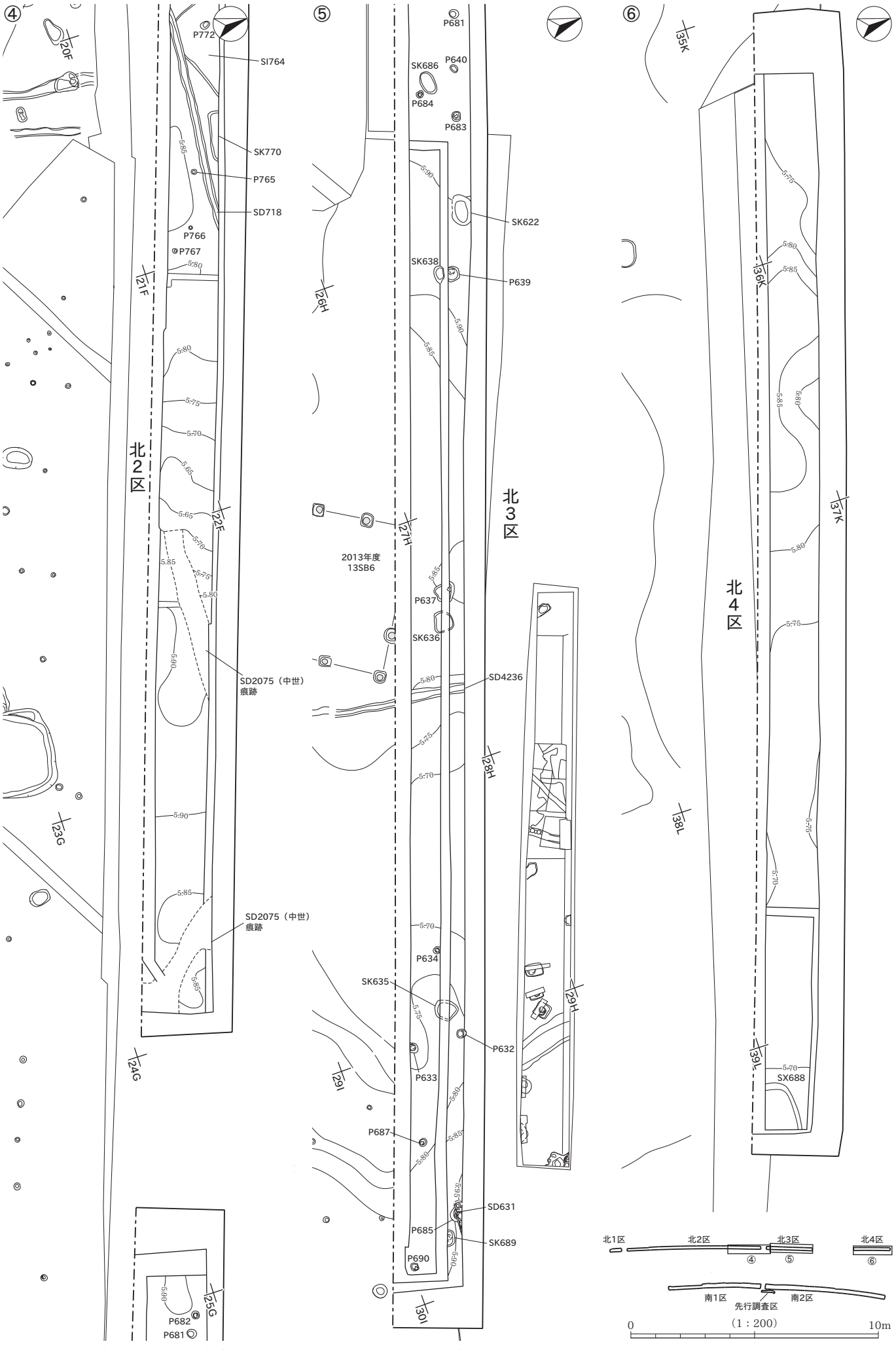
0　SD平面図（1：200）　10m

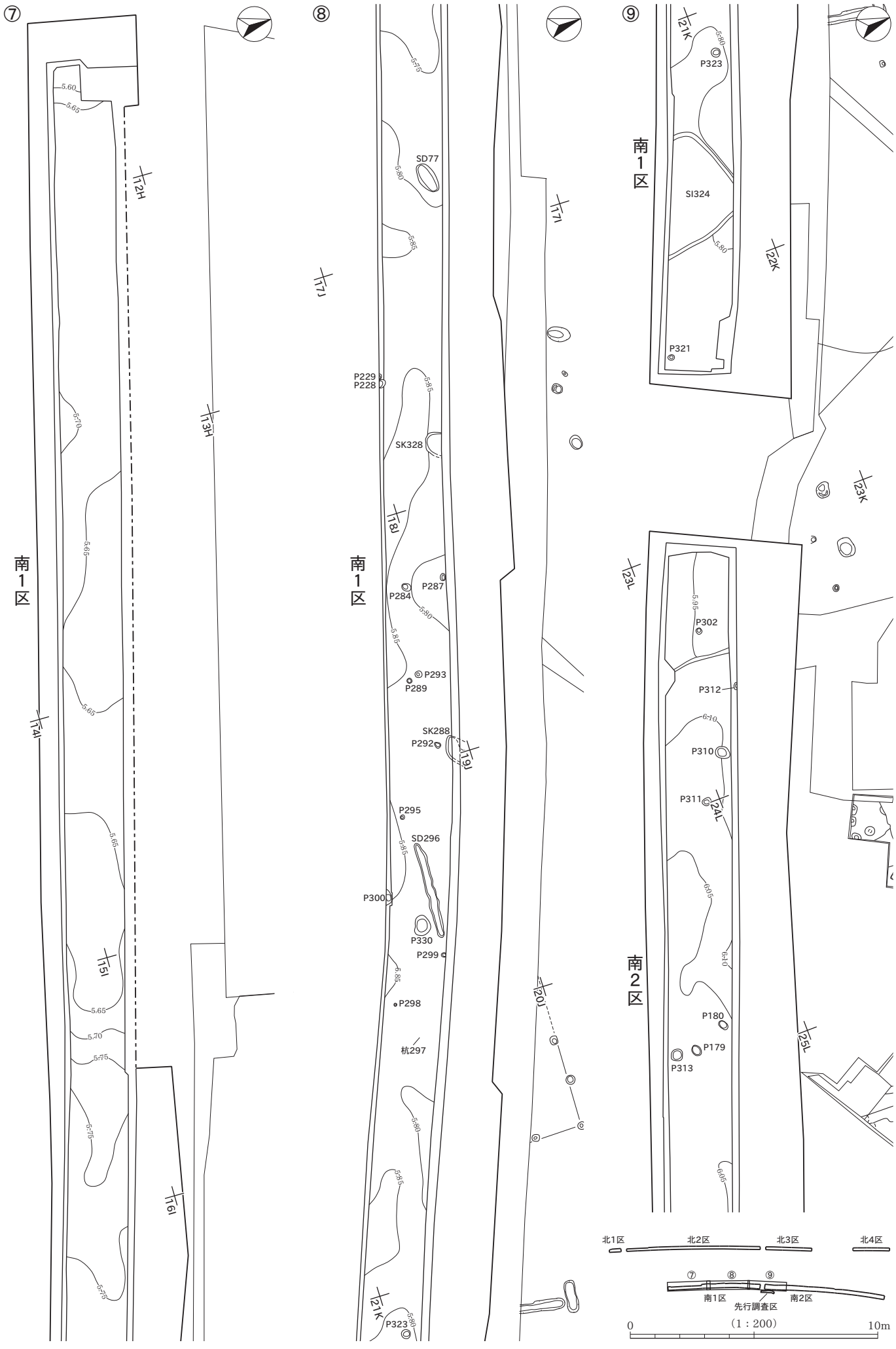

古代下層
古代下層
古代下層
阿賀野市
※古代下層は、古代上層と同一グリッドに位置する
北1区
南1区
北2区
先行調査区
北3区
南2区
北4区
南3区
2008年度調査範囲
2010年度調査範囲
2013年度調査範囲
2021年度調査範囲
調査年度と範囲
0
(1：1,800)
100m

北1区（古代上層）
北2区（古代下層）
北2区（古代上層）
北3区
（古代上層）
南1区（古代上層）
先行調査区
（古代上層）
北3区（古代上層）
北4区（古代上層）
南2区（古代上層）
南2区（古代下層）
先行調査区
南3区
（古代下層）
※古代下層は、古代上層と同一グリッドに位置する
0　（1：600）　20m
1 2 3 4 5
6 7 8 9 10
11 12 13 14 15
16 17 18 19 20
21 22 23 24 25
小グリッドの呼称
①
②
北1区
北2区
北3区
北4区
南1区
南2区
南3区
先行調査区

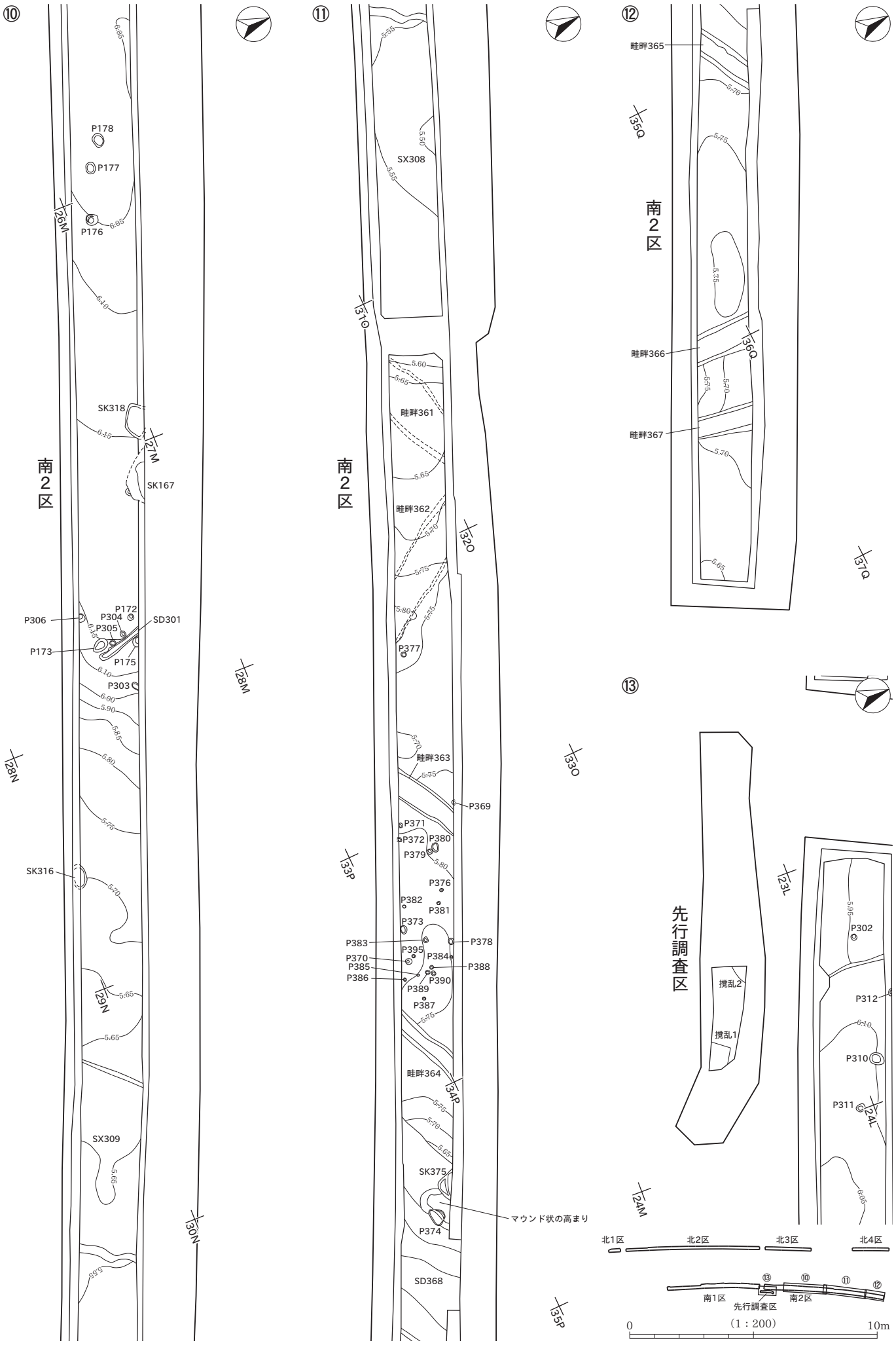

①
②
③
北1区
北2区
北2区
北2区
P524
P523
P531
P530
P535
P529
P528
SD800
（中世）
痕跡
SD801
（中世）
痕跡
P701
P704
P702
P703
P705
P706
P707
SK710
P708
P709
P715
撹乱
P719
SK762
SI764
P772
SD718
SK646
P658
P657
P647
P648
SK649
P650
P659
P660
P651
P652
P653
SK661
P654
P656
SD655
P664
P663
P662
P544
P545
P543
P542
P541
P540
P537
P536
P546
P534
P533
北1区
北2区
北3区
北4区
南1区
先行調査区
南2区
0
（1：200）
10m

山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（2）

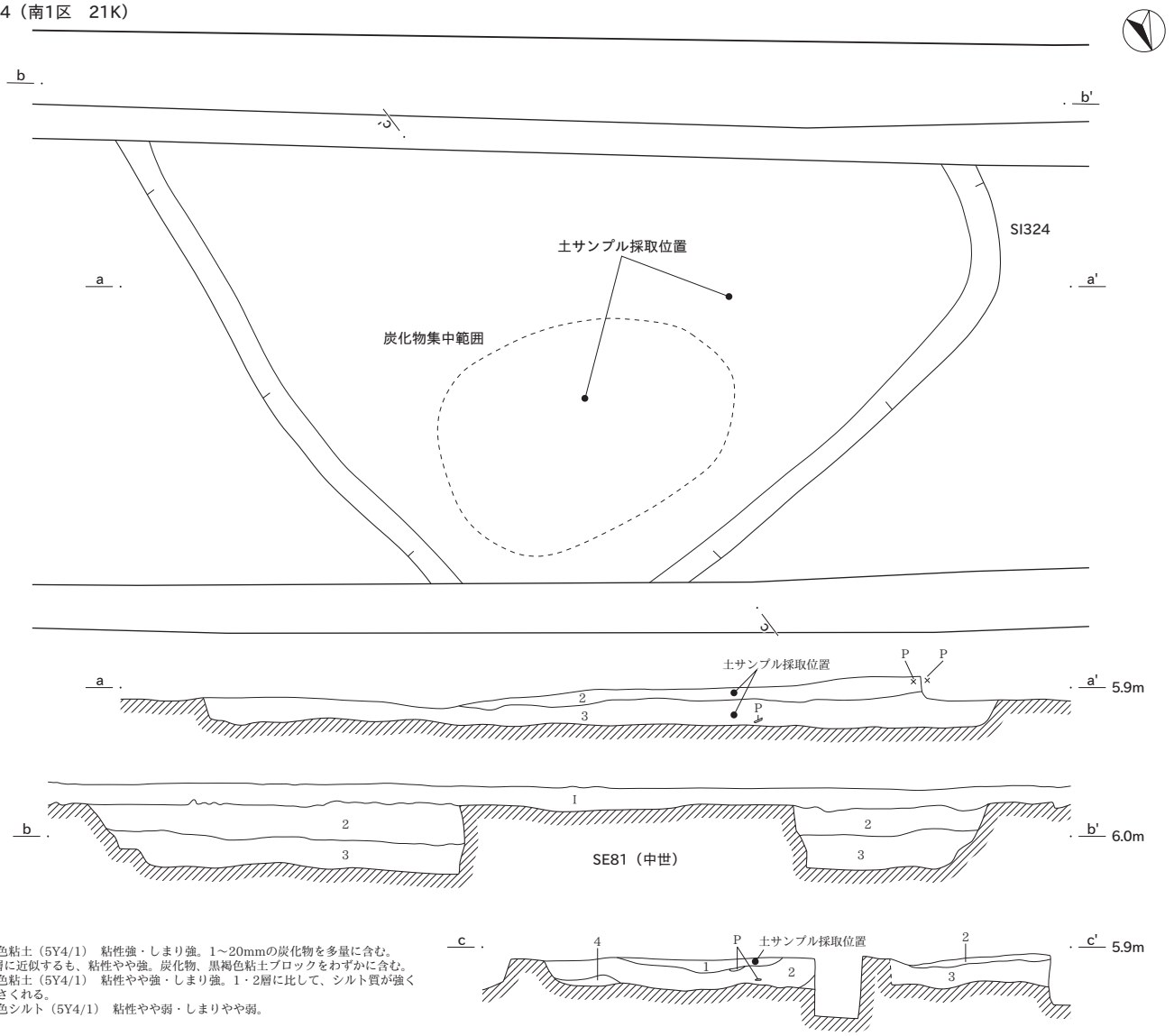



⑦
⑧
⑨
南1区
南2区
SD77
SK328
SK288
SD296
P229
P228
P284
P287
P293
P289
P292
P295
P300
P330
P299
P298
杭297
P323
SI324
P321
P302
P312
P310
P311
P180
P179
P313
北1区
北2区
北3区
北4区
先行調査区
0
(1：200)
10m

山口遺跡Ⅲ　古代（上層）遺構分割図（4）

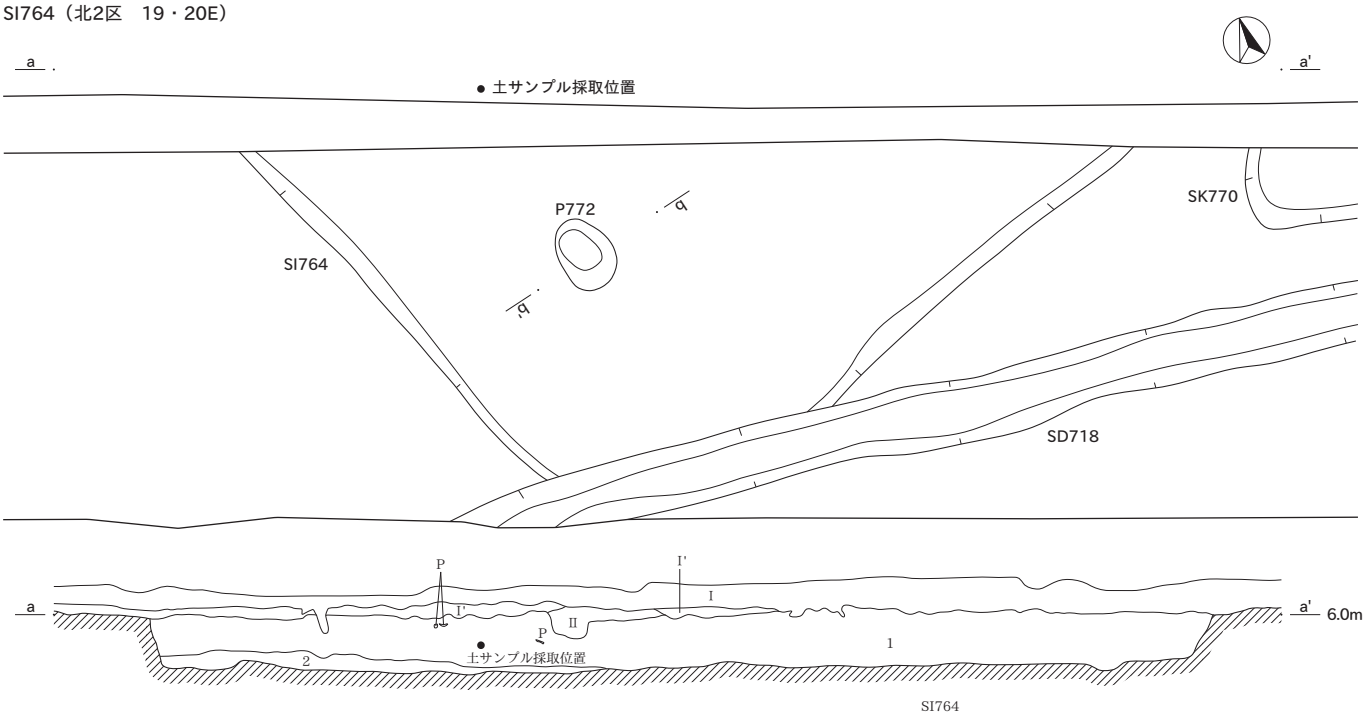


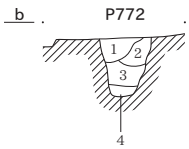
SI324（南1区　21K）



SI324
1　灰色粘土（5Y4/1）　粘性強・しまり強。1～20mmの炭化物を多量に含む。
2　1層に近似するも、粘性やや強。炭化物、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
3　灰色粘土（5Y4/1）　粘性やや強・しまり強。1・2層に比して、シルト質が強くささくれる。
4　灰色シルト（5Y4/1）　粘性やや弱・しまりやや弱。

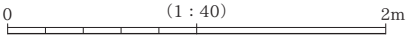
SI764（北2区　19・20E）



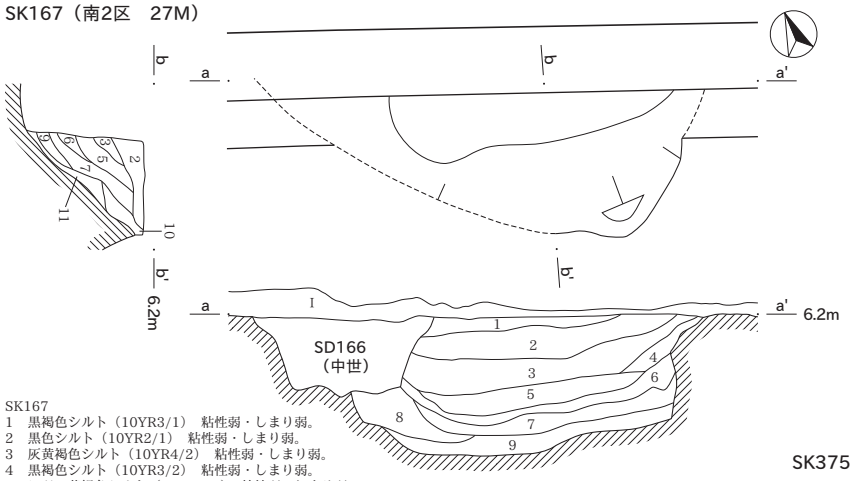


P772
1　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性強・しまり強。1～5mmの炭化物、灰色シルトを少量含む。
2　1層に近似するも、しまりさらに強い。
3　1層に近似するも、炭化物をごくわずか、灰色シルトを多量に含む。
4　黄褐色粘土（10YR5/6）　粘性やや強・しまり強。しまりとくに強い。

SI764
1　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性やや強・しまり強。1～10mmの炭化物、黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。Ⅴ層に近似するも、粘性強くささくれない。
2　1層に近似するも、褐色シルトを多量に含む。

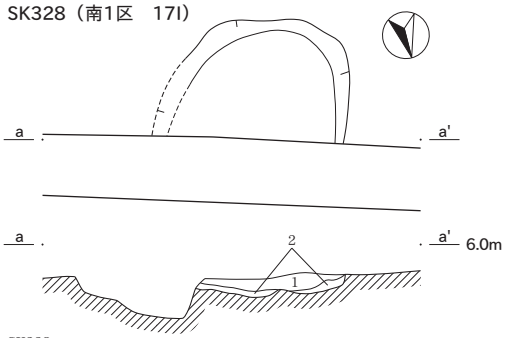


SK167（南2区　27M）



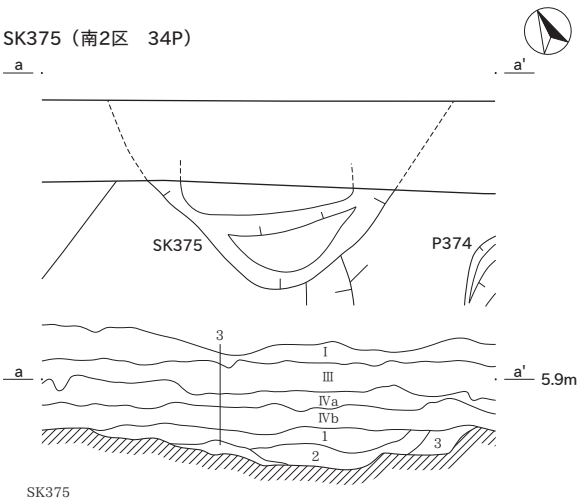
SK167
1　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり弱。
2　黒色シルト（10YR2/1）　粘性弱・しまり弱。
3　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。
4　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。
5　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性弱・しまり弱。
6　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
7　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。
8　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
9　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を多量に含む。
10 にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。
11 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。

SK328（南1区　17I）



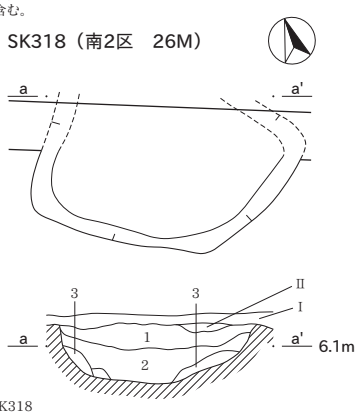
SK328
1　褐色粘土（10YR4/4）　粘性強・しまり強。1～10mmの炭化物、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを少量含む。
2　にぶい黄褐色粘土（10YR5/3）　粘性強・しまり強。焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックをわずかに含む。

SK375（南2区　34P）



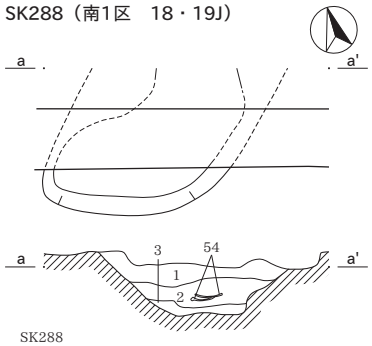
SK375
1　黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまり強。1mmの炭化物、灰色粘土ブロックを少量含む。
2　1層に近似するも、1～5mmの炭化物、灰色粘土ブロックを多量に含む。
3　灰色粘土（5Y5/1）　粘性強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。

SK318（南2区　26M）



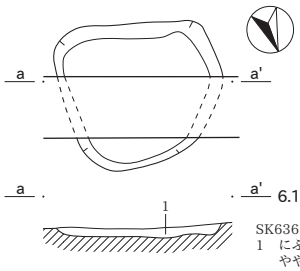
SK318
1　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。炭化物、10mm前後の焼土ブロックを少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。5～10mmの炭化物を少量含む。
3　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。

SK288（南1区　18・19J）



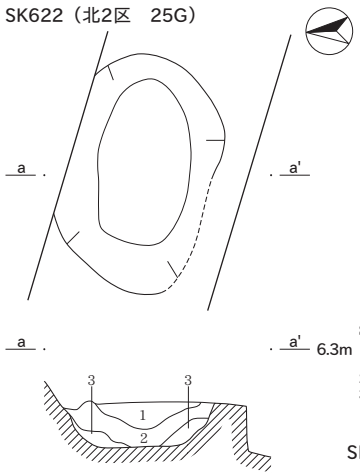
SK288
1　にぶい黄褐色粘土（10YR4/3）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの炭化物をごくわずか、黄橙色粘土ブロックをわずかに含む。
2　1層に近似するも、浅黄橙色粘土ブロックを少量含む。
3　1層に近似するも、色調やや黒ずむ。

SK636（北3区　27G・H）



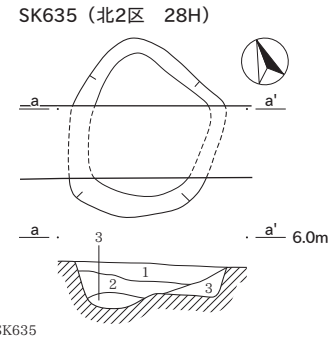
SK636
1　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/3）　粘性やや弱・しまり弱。鉄分を少量含む。

SK622（北2区　25G）



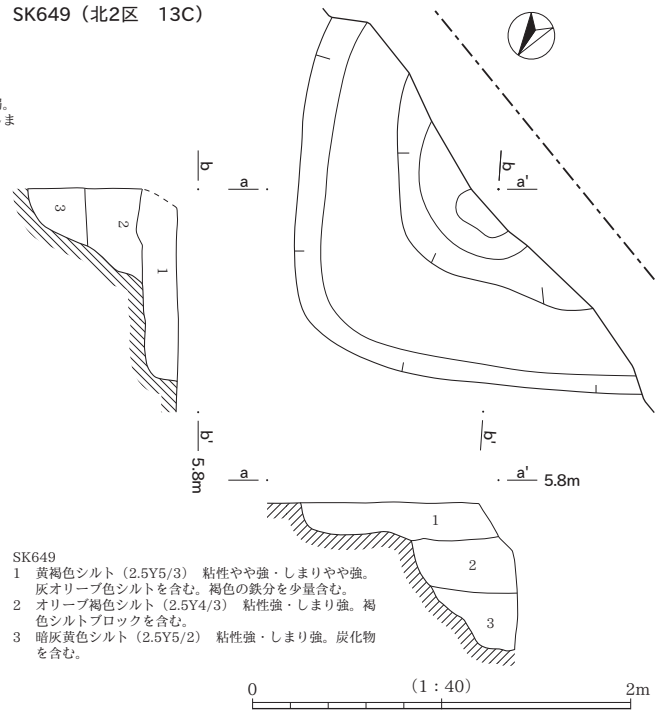
SK622
1　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/4）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物、褐灰色粘土ブロックを少量含む。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）　粘性なし・しまり弱。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性なし・しまり弱。

SK635（北2区　28H）



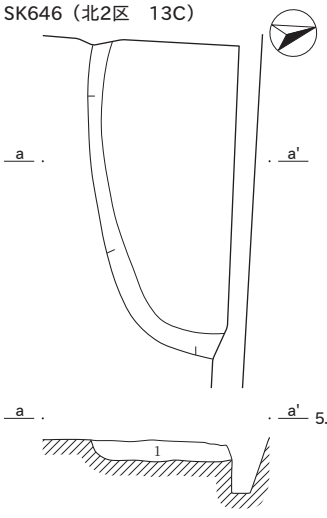
SK635
1　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。5mmの炭化物を少量含む。
2　褐灰色粘性シルト（10YR6/1）　粘性やや弱・しまり弱。
3　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/4）　粘性やや弱・しまり弱。鉄分を少量含む。

SK649（北2区　13C）



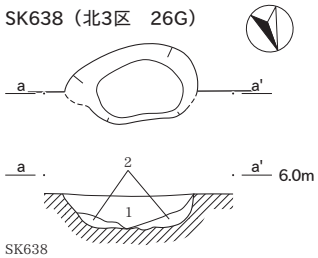
SK649
1　黄褐色シルト（2.5Y5/3）　粘性やや強・しまりやや強。灰オリーブ色シルトを含む。褐色の鉄分を少量含む。
2　オリーブ褐色シルト（2.5Y4/3）　粘性強・しまり強。褐色シルトブロックを含む。
3　暗灰黄色シルト（2.5Y5/2）　粘性強・しまり強。炭化物を含む。

SK646（北2区　13C）



SK646
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルトブロックを含む。

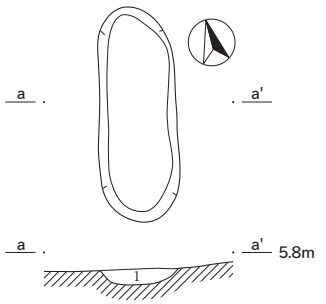
SK638（北3区　26G）



SK638
1　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/4）　粘性やや弱・しまり弱。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）　粘性弱・しまり弱。

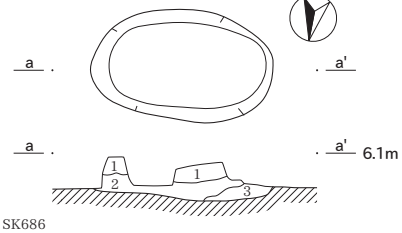
0　（1：40）　2m

SK661（北2区　14C）



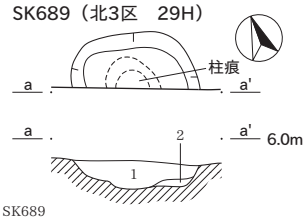
SK661
1　オリーブ褐色シルト（2.5Y4/3）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルトを含む。

SK686（北3区　25G）



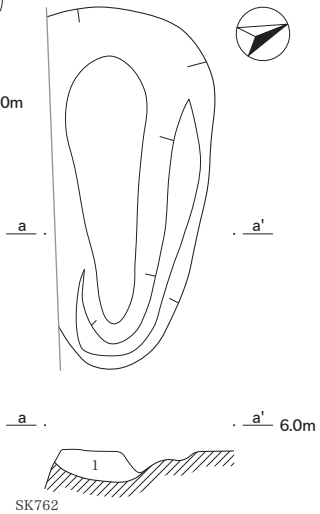
SK686
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性弱。5～10mmの炭化物を少量含む。
3　灰黄褐色砂質シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。鉄分を少量含む。

SK689（北3区　29H）



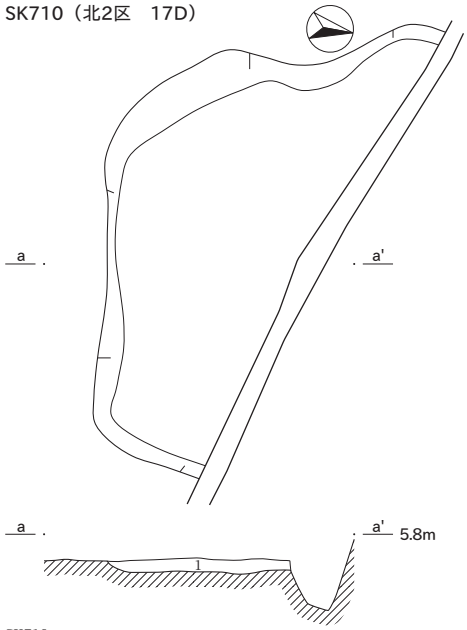
SK689
1　灰黄褐色粘性シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。2～3mmの炭化物を少量含む。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまり弱。鉄分を少量含む。

SK762（北2区　19E）



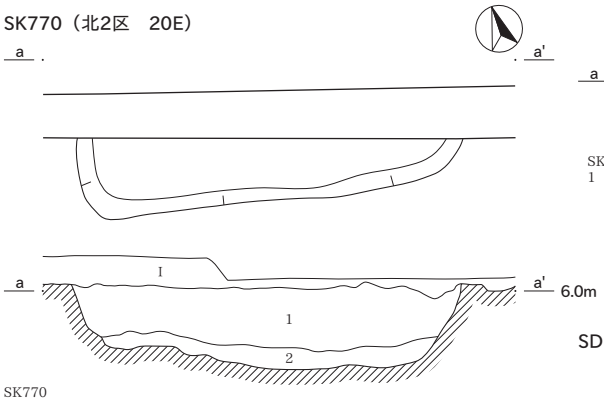
SK762
1　灰黄褐色粘土（10YR6/2）　粘性強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。

SK710（北2区　17D）



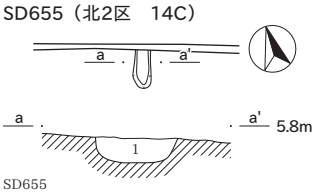
SK710
1　灰色粘土（5Y6/1）　粘性強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。

SK770（北2区　20E）



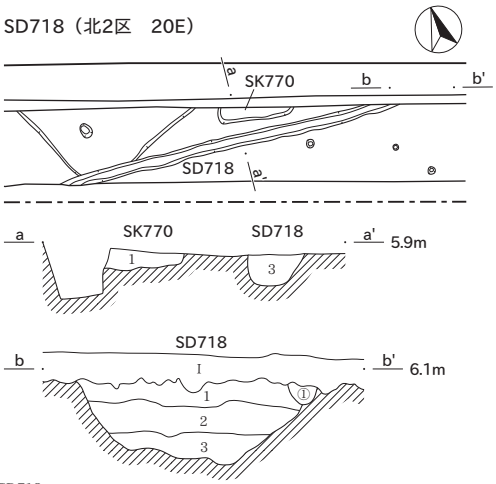
SK770
1　黄灰色粘土（2.5Y6/1）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。V層に近似するも、粘性やや強くささくれない。
2　褐灰色粘土（10YR5/1）　粘性やや強・しまり強。褐灰色シルトを多量、黒色粒子を少量含む。

SD655（北2区　14C）



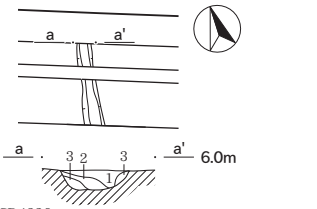
SD655
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや強・しまりやや強。赤褐色の鉄分をブロック状に含む。

SD718（北2区　20E）



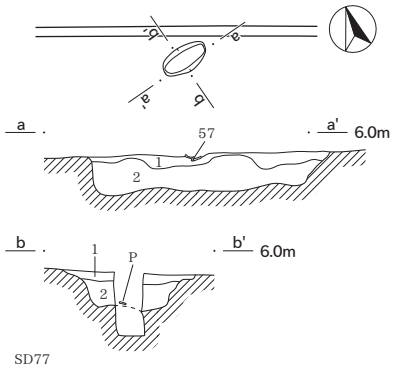
SD718
1　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。
2　黄灰色シルト（2.5Y6/1）　粘性やや弱・しまり強。灰色粘土を多量、黒褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
3　黄灰色粘土（2.5Y5/1）　粘性強・しまり強。1～10mmの炭化物を多量、灰色粘土を少量含む。
①　灰黄褐色粘土（10YR5/2）　粘性やや強・しまり強。3mmの炭化物をごくわずかに含む。

SD4236（北3区　27H）



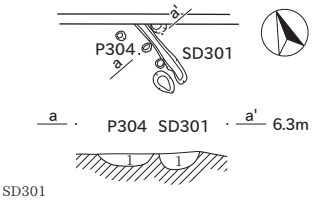
SD4236
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物をごくわずかに含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。

SD77（南1区　16I）



SD77
1　灰オリーブ色粘土（5Y5/2）　粘性やや強・しまり強。V層に近似するも、黒褐色シルトをわずかに含む。
2　灰オリーブ色粘土（5Y4/2）　粘性やや強・しまり強。1層に近似するも、色調やや黒ずむ。1～3mmの炭化物をごくわずかに含む。

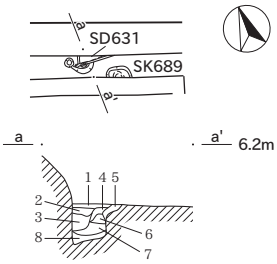
SD301・P304（南2区　27M）



SD301
1　黒色シルト（10YR2/1）　粘性弱・しまり弱。

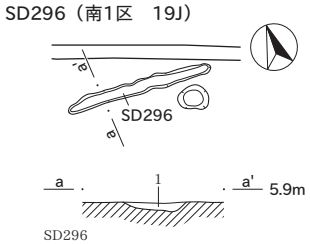
P304
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。

SD631（北3区　29H）



SD631
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物を含む。
2　明黄褐色粘土（10YR6/6）　粘性やや弱・しまり弱。粘土主体。焼土を少量含む。炭化物を含む。
3　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性弱・しまり弱。炭化物を含む。
4　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
5　黄褐色シルト（10YR5/6）　粘性弱・しまり弱。炭化物を含む。
6　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。
7　橙色粘土（5YR6/6）　粘性やや強・しまりやや弱。やや被熱した粘土。炭化物を含む。
8　にぶい黄橙色シルト（10YR7/4）　粘性弱・しまりやや強。

SD296（南1区　19J）

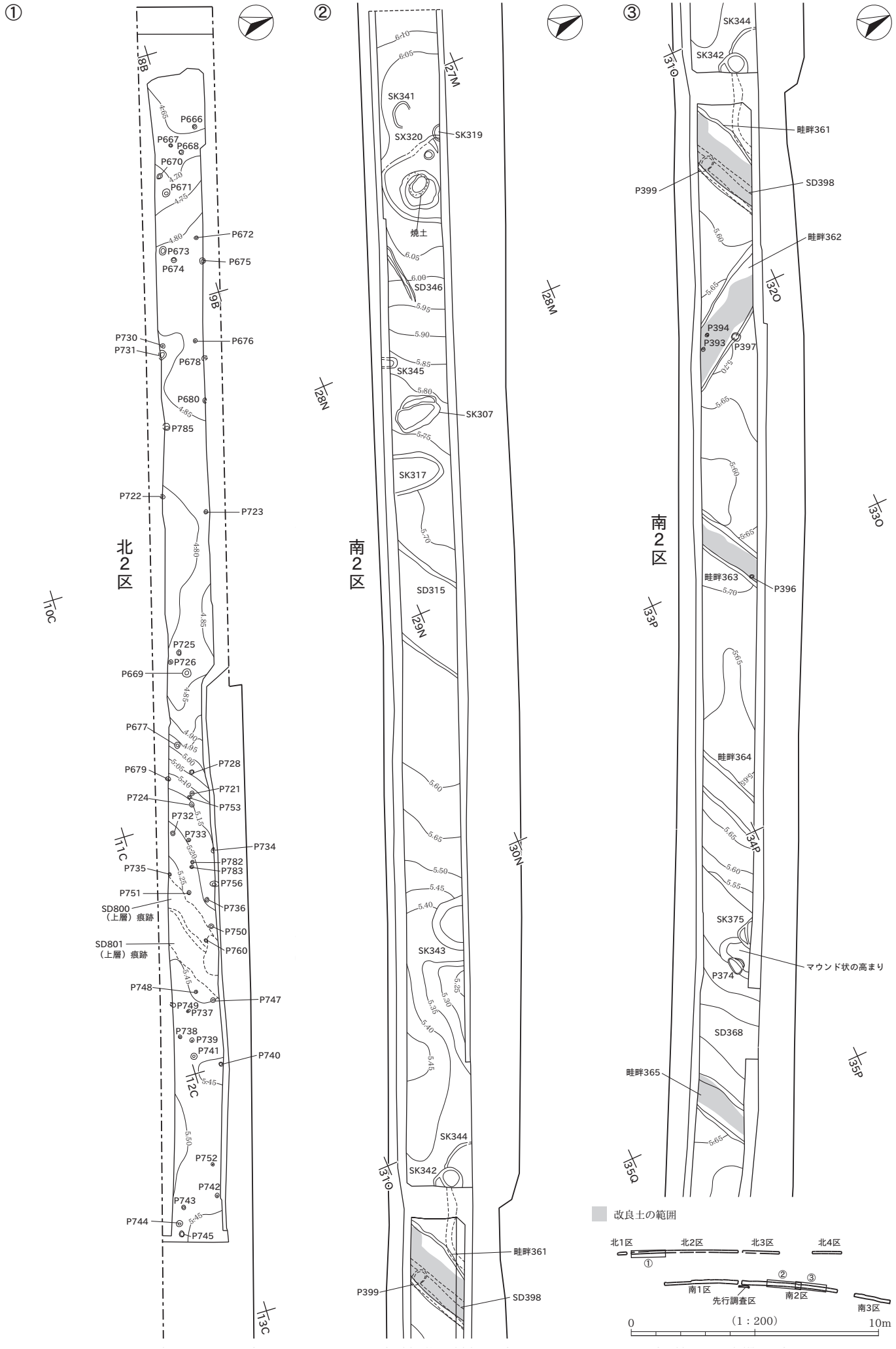


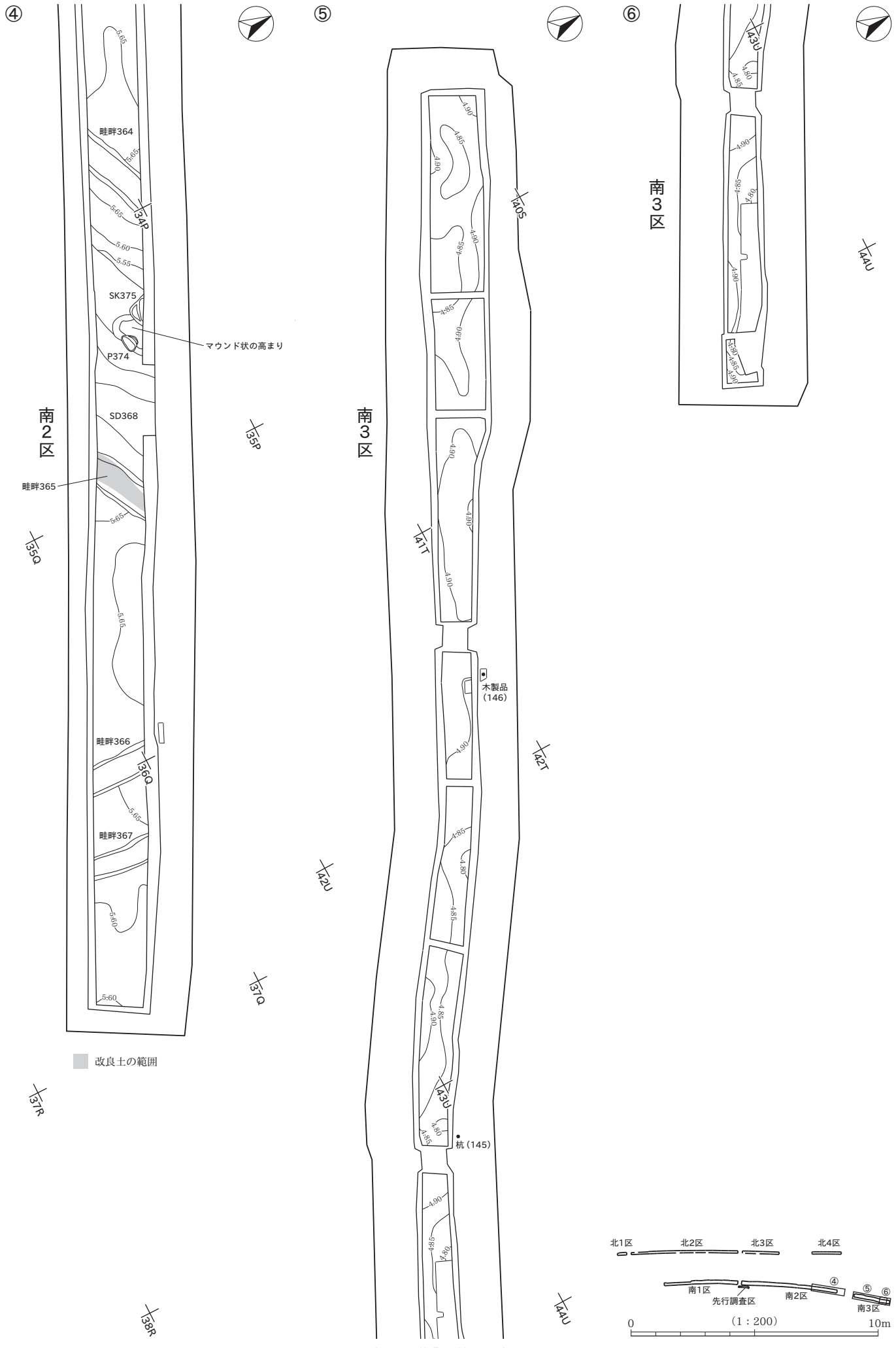
SD296
1　灰色粘土（5Y6/1）　粘性強・しまり強。1～10mmの炭化物を少量含む。

0　SK、SD断面図（1：40）　2m

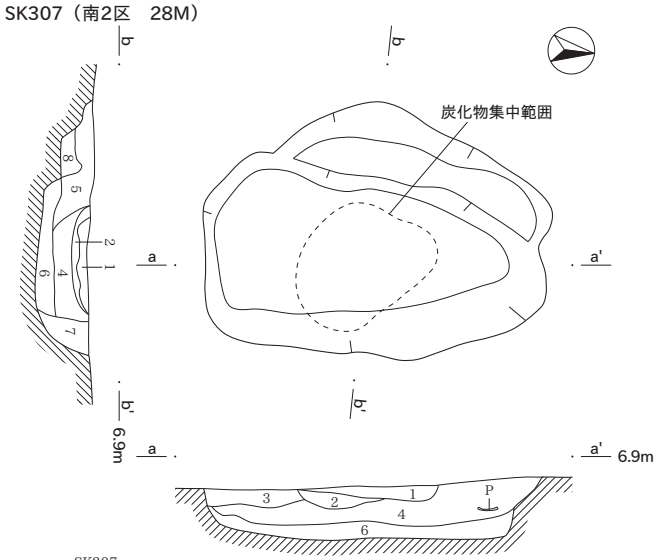
0　SD平面図（1：200）　10m

山口遺跡Ⅲ　古代（下層）遺構分割図（1）



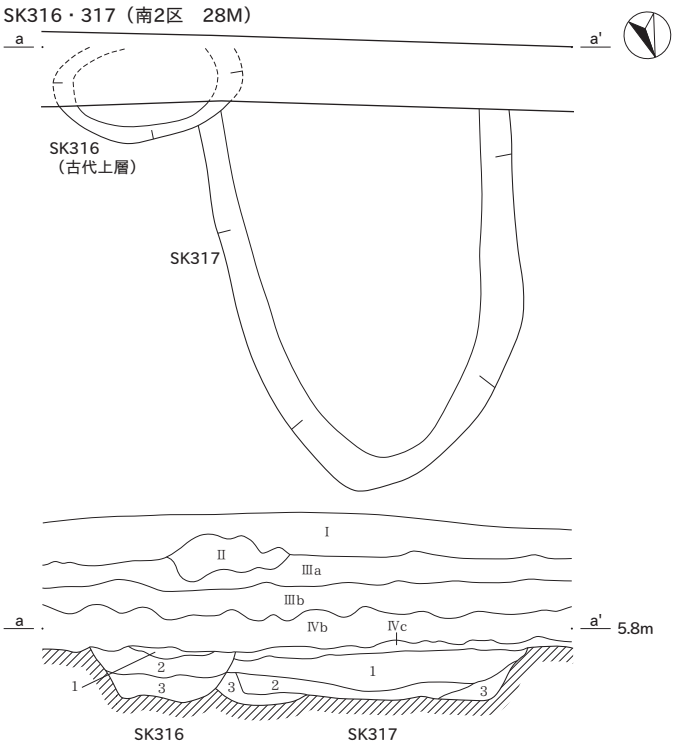

④
⑤
⑥
南2区
南3区
南3区
畦畔364
畦畔365
畦畔366
畦畔367
SK375
P374
SD368
マウンド状の高まり
木製品
(146)
杭 (145)
改良土の範囲
北1区
北2区
北3区
北4区
南1区
先行調査区
南2区
南3区
(1：200)
0
10m

SK307（南2区　28M）



SK307
1　黒色砂質シルト（10YR2/1）　粘性弱・しまり弱。炭化物を多く含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
3　灰黄褐色粘性シルト（10YR5/2）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
4　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
5　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
6　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。
7　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。6層より若干きめ細かい。
8　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。

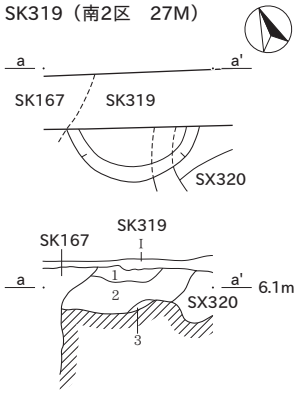
SK316・317（南2区　28M）



SK316
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。Ⅳ層を多く含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。焼土ブロックを少量含む。

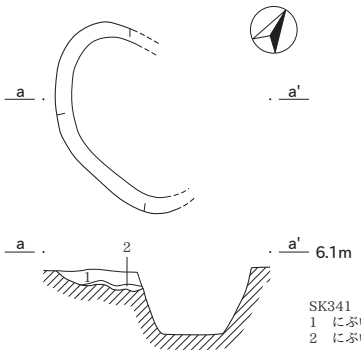
SK317
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性弱・しまり弱。5～10mmの炭化物を少量含む。
3　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。
4　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。

SK319（南2区　27M）



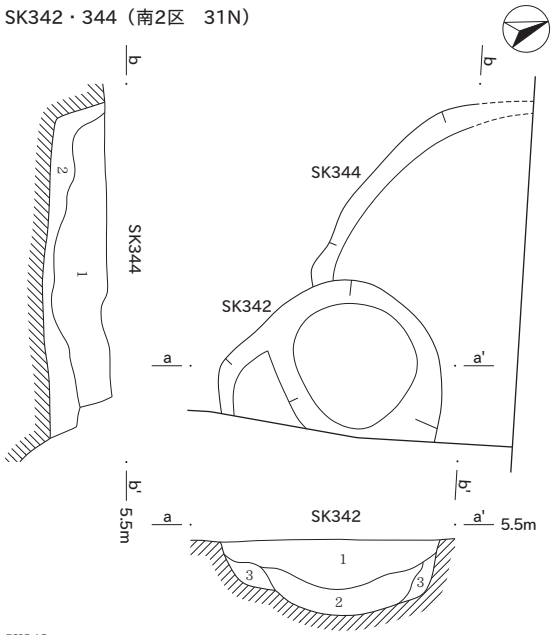
SK319
1　明黄褐色シルト（10YR6/6）　粘性弱・しまりやや弱。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。
3　2層に近似するも砂質が強い。

SK341（南2区　27M）



SK341
1　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR6/3）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
2　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/4）　粘性弱・しまり弱。

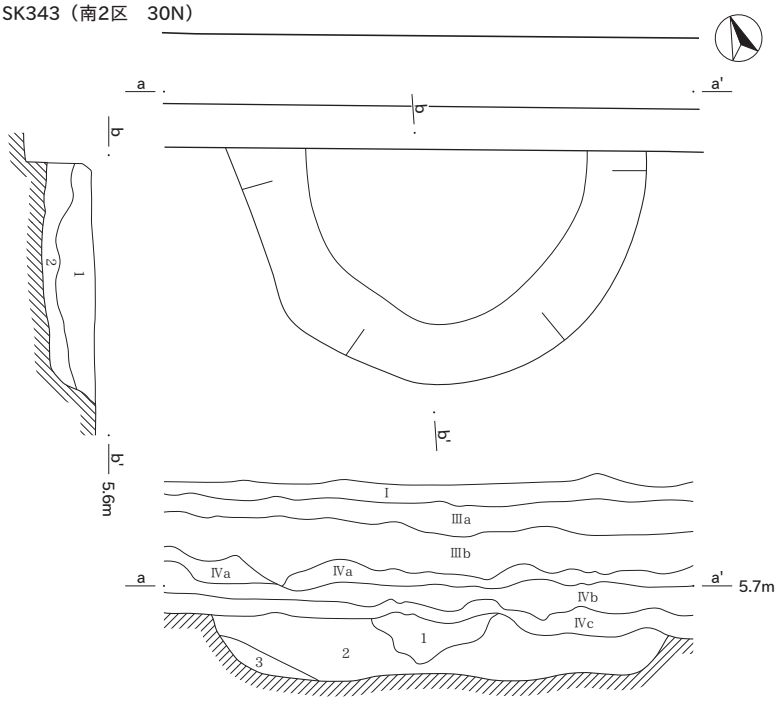
SK342・344（南2区　31N）



SK342
1　灰黄褐色粘土（10YR6/2）　粘性やや弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
2　明黄褐色粘性シルト（10YR6/6）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。

SK344
1　褐灰色粘性シルト（10YR6/1）　粘性やや弱・しまり弱。5mm前後の炭化物を少量含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。

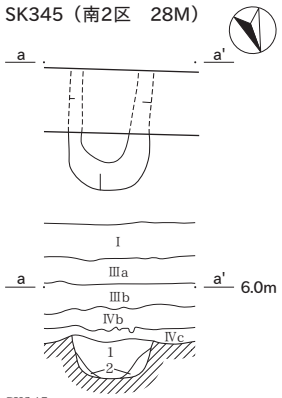
SK343（南2区　30N）



SK343
1　にぶい黄橙色シルト（10YR7/3）　粘性弱・しまりやや弱。炭化物を少量含む。
2　にぶい黄橙色シルト（10YR7/2）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）　粘性弱・しまり弱。

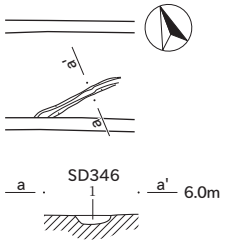
0　（1：40）　2m

SK345（南2区　28M）



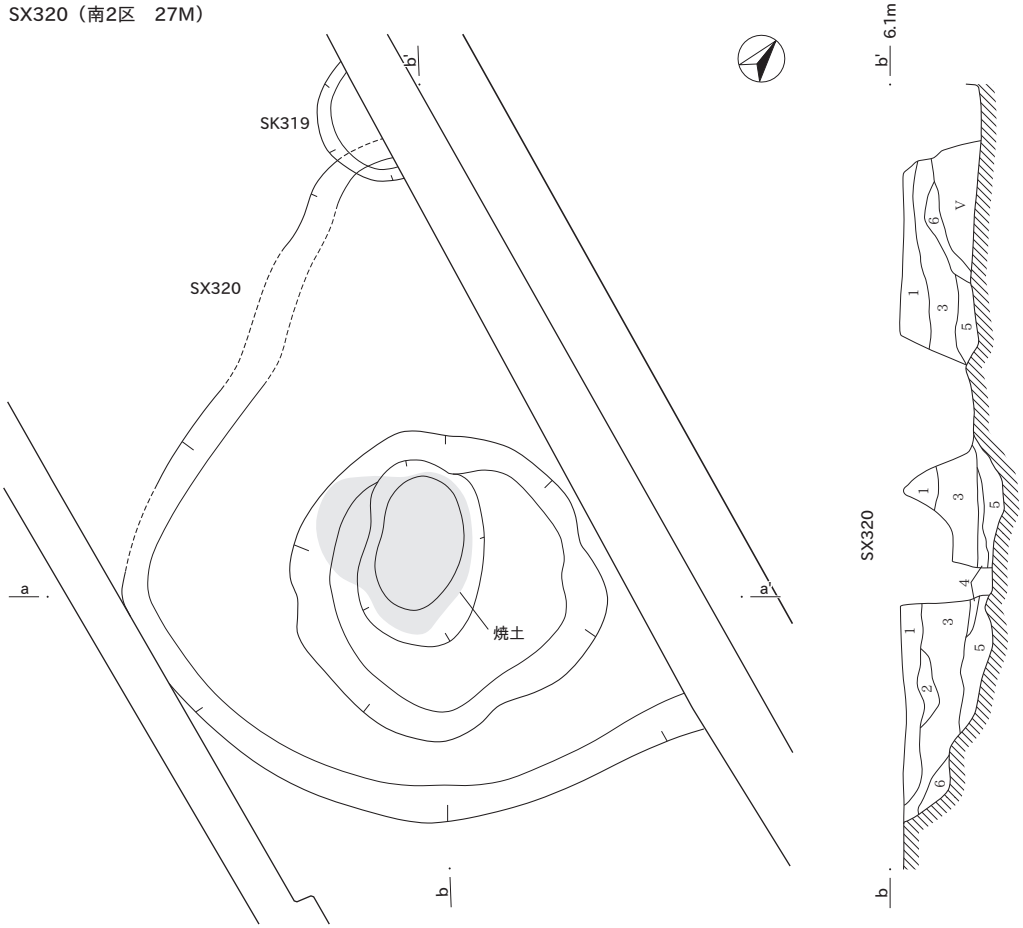
SK345
1　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性弱・しまり弱。2～5mmの炭化物を少量含む。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。

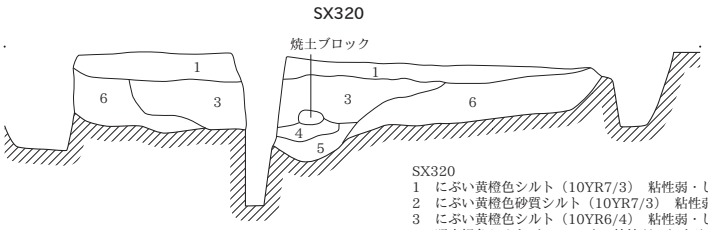
SD346（南2区　27M）



SD346
1　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。炭化物、焼土ブロックを少量含む。

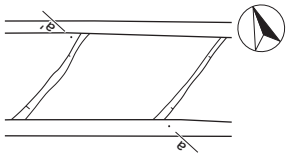
SX320（南2区　27M）

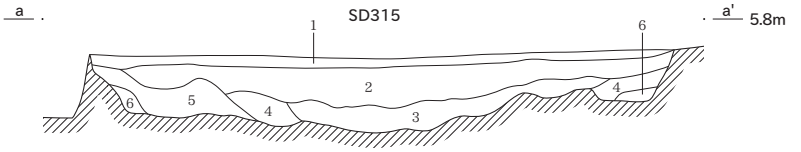




SX320
1　にぶい黄橙色シルト（10YR7/3）　粘性弱・しまりやや弱。
2　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/3）　粘性弱・しまり弱。
3　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
4　明赤褐色シルト（5YR5/6）　粘性弱・しまり弱。5～30mmの焼土ブロックを多量に含む。
5　にぶい黄橙色砂質シルト（10YR7/2）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
6　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱

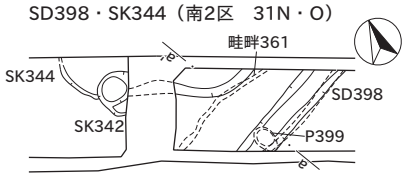
SD315（南2区　28M・N、29M・N）

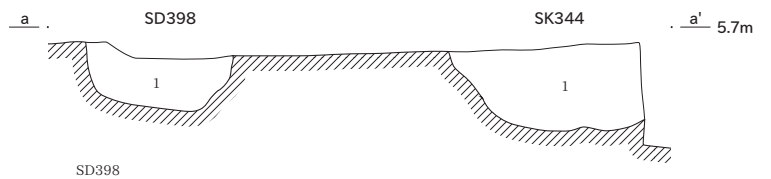




SD315
1　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。
2　灰黄褐色シルト（10YR5/2）　粘性弱・しまり弱。炭化物を少量含む。
3　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり弱。
4　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。
5　にぶい黄褐色砂質シルト（10YR5/3）　粘性弱・しまり弱。4層より砂質分が若干多い。
6　灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり弱。砂質分が多い。

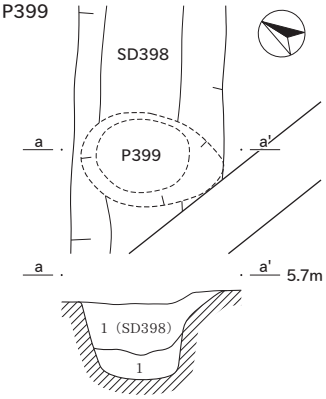
SD398・SK344（南2区　31N・O）





SD398
1　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性やや強・しまり強。1～10mmの炭化物、褐色粒子を少量含む。

P399

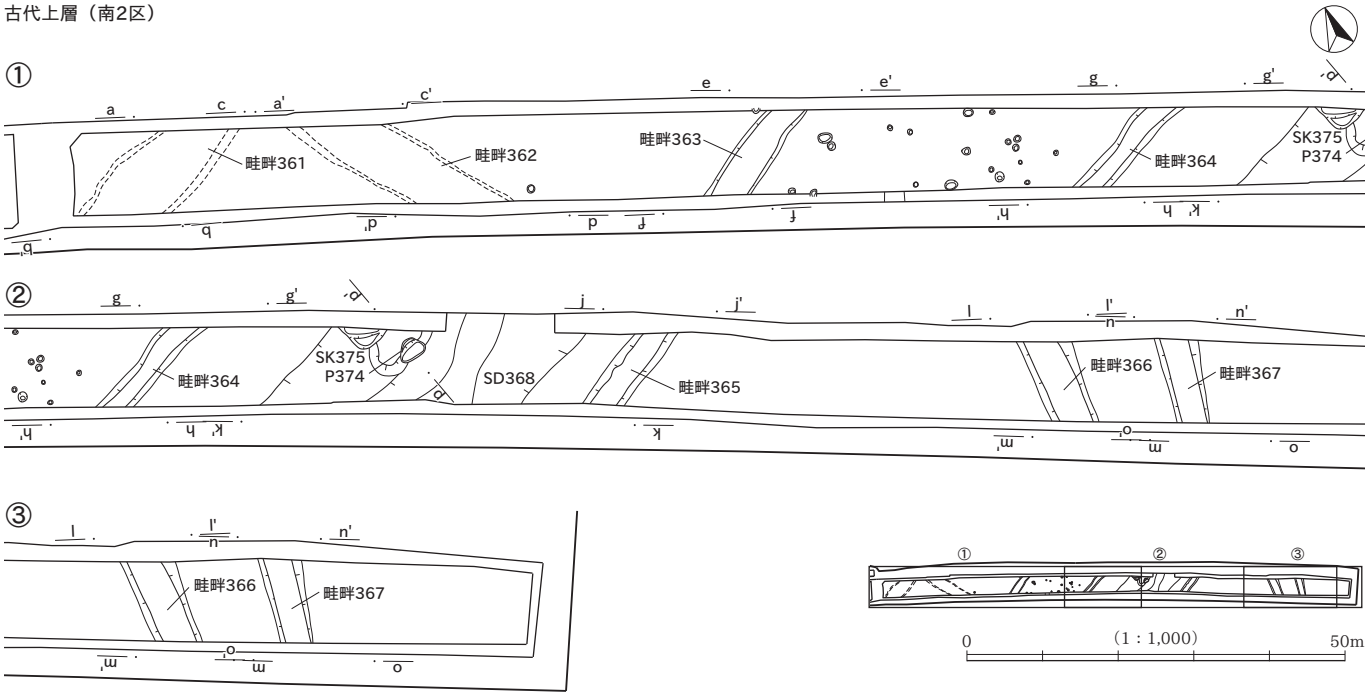


P399
1　灰色粘土（5YR4/1）　粘性強・しまりやや弱。1～10mmの炭化物を多量、褐色粒子をごくわずかに含む。

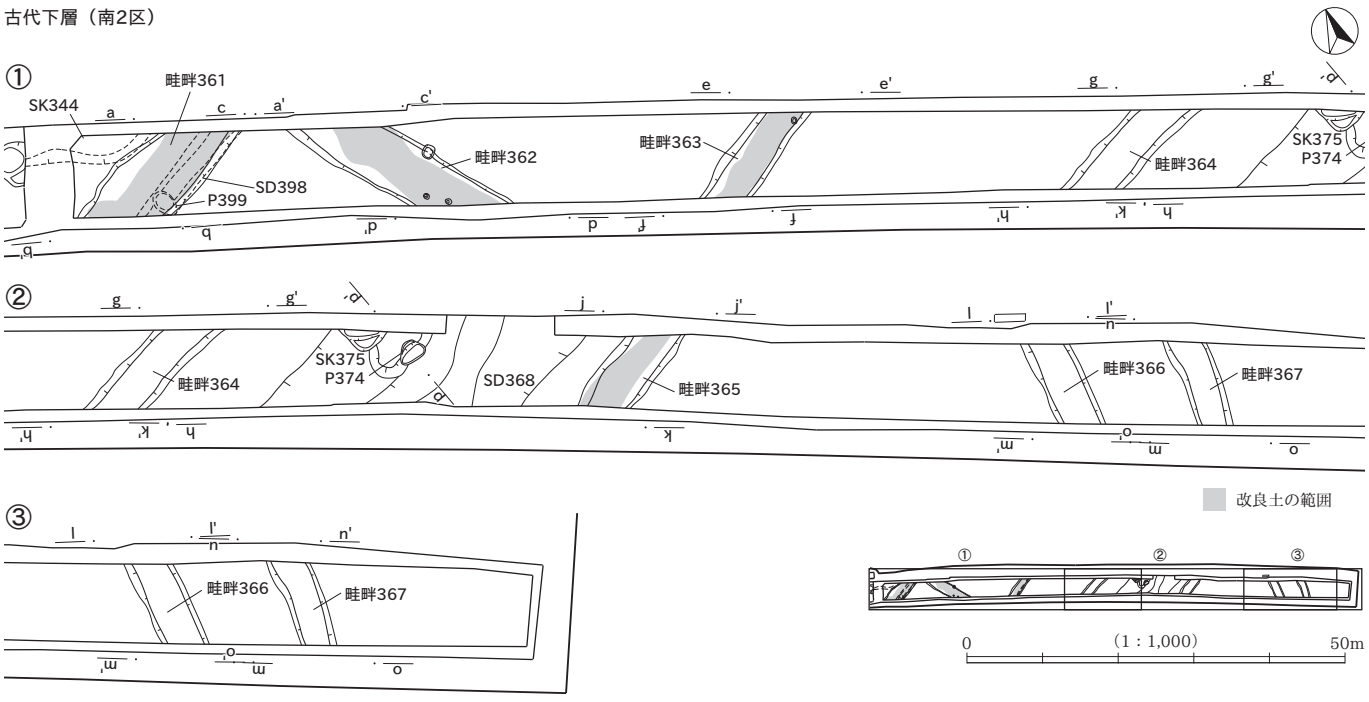
0　SK、SX、SD断面図（1：40）　2m

0　SD平面図（1：200）　10m

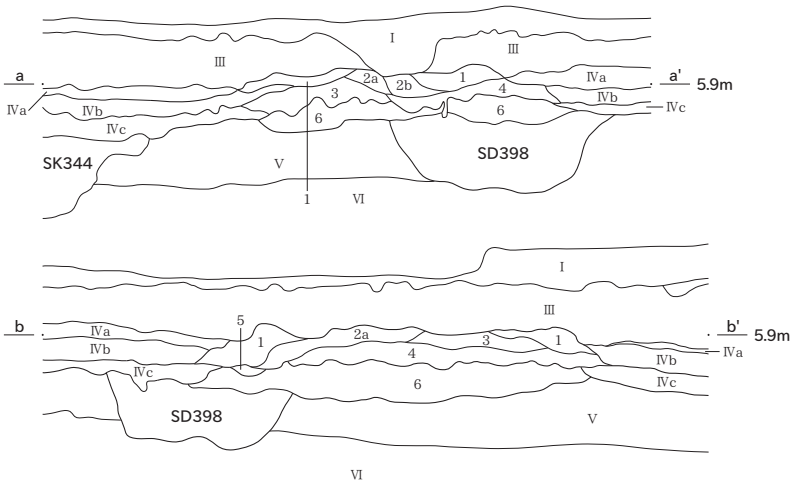
古代上層（南2区）



古代下層（南2区）

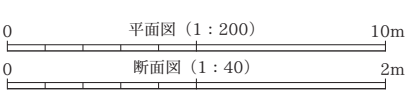


畦畔361（南2区　31N・O）

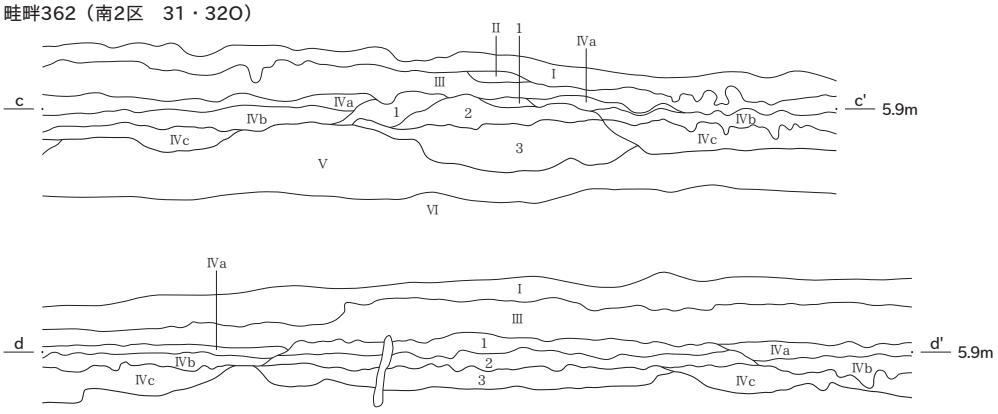


畦畔361
1　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性弱・しまり強。灰色粘土ブロックをわずかに含む。
2a　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性弱・しまり強。灰色シルトブロックをわずか含む。
2b　褐灰色シルト（10YR4/1）　粘性やや弱・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。
3　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量、1～5mmの炭化物をわずかに含む。
4　暗褐色粘土（10YR3/3）　粘性やや強・しまり強。黒褐色粘土ブロックを多量、灰色粘土ブロックをわずかに含む。
5　灰オリーブ色粘土（5Y6/2）　粘性強・しまりやや強。Ⅳc層に近似するも、3mmの炭化物をわずかに含む。
6　にぶい黄橙色粘土（10YR6/3）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの小砂利を少量含む。しまり極めて強い。

SD398
1　灰黄色粘土（2.5Y6/2）　粘性やや強・しまり強。1～10mmの炭化物、褐色粒子を少量含む。

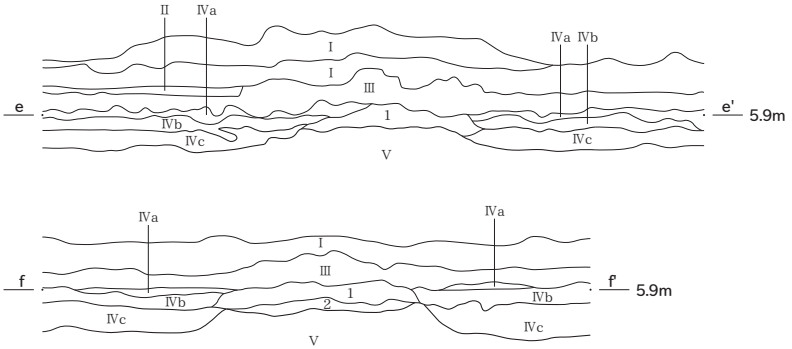


畦畔362（南2区　31・32O）



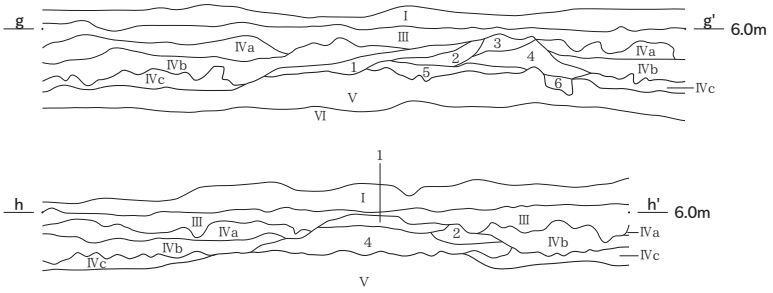
畦畔362
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまり強。黒褐色ブロック、灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/3）　粘性やや強・しまり強。灰黄褐色シルトブロックをわずか、黄褐色粘土ブロックをごくわずかに含む。
3　にぶい黄橙色粘土（10YR6/3）　粘性やや強・しまり強。1～2mmの砂利を少量含む。しまり極めて強い。Ⅴ層ベースだが砂利を混ぜ突き固めた改良土。

畦畔363（南2区　32・33O）



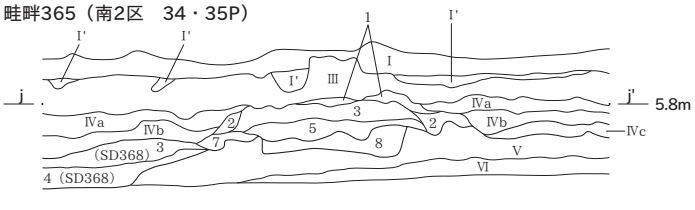
畦畔363
1　暗褐色粘土（10YR3/3）　粘性やや強・しまり強。灰黄褐色粘土ブロック、シルトブロックをわずかに含む。
2　にぶい黄褐色粘土（10YR6/3）　粘性やや強・しまり強。1～2mmの砂利を少量含む。しまり極めて強い。Ⅴ層ベースだが砂利を混ぜ突き固めた改良土。

畦畔364（南2区　33O・P）



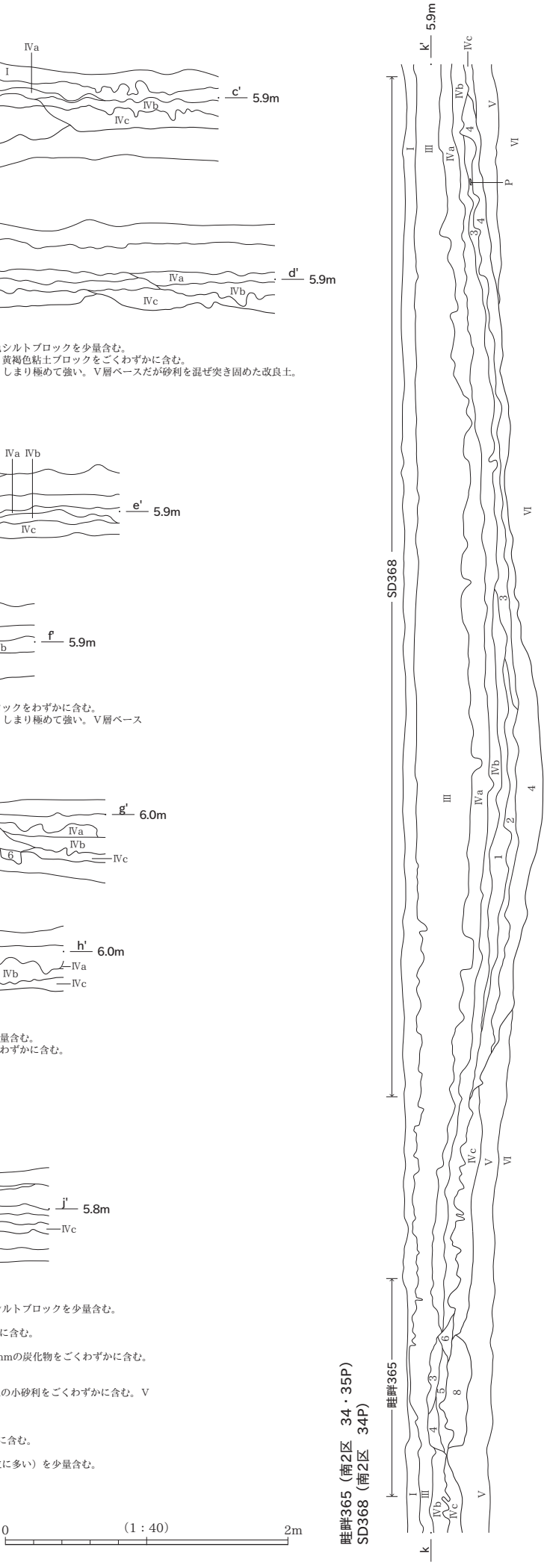
畦畔364
1　灰黄褐色粘土（10YR5/2）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性弱・しまり強。灰白色粘土ブロックをごくわずかに含む。
3　2層に近似するも、粘性やや強く、ブロックなし。
4　2層に近似するも、ブロックを少量含む。1mmの炭化物をごくわずかに含む。
5　4層に近似するも、色調若干暗い。ブロックを多量に含む。
6　Ⅴ層ベース。4層が踏み込まれたもの。

畦畔365（南2区　34・35P）



畦畔365
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや弱・しまり強。黒褐色シルトブロック、灰色シルトブロックを少量含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性やや強・しまり強。灰色粘土ブロックをわずかに含む。
3　1層に近似するも、灰色シルトブロックを多量に含む。1～3mmの炭化物をごくわずかに含む。
4　1層に近似するも、灰色シルトブロックをわずかに含む。
5　暗褐色粘土（10YR3/3）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量、1～3mmの炭化物をごくわずかに含む。
6　5層に近似するも、灰色シルトブロックを多量に含む。
7　2層に近似するも、灰色粘土ブロックを少量含む。
8　にぶい黄橙色粘土（10YR6/3）　粘性やや強・しまり強。しまりは極めて強い。1mmの小砂利をごくわずかに含む。Ⅴ層ベースの改良土。

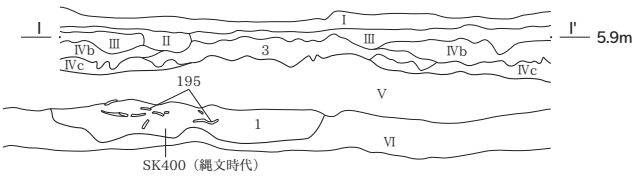
SD368
1　黄灰色シルト（2.5Y5/1）　粘性やや弱・しまり強。腐植物を少量、黄灰色粘土を多量に含む。
2　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性やや強・しまり強。腐植物、黄灰色粘土を少量含む。
3　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性やや強・しまり強。腐植物をわずか、灰色シルト（下位に多い）を少量含む。
4　3層に近似するも、粘性強い。灰色シルトをごくわずか、腐植物をわずかに含む。

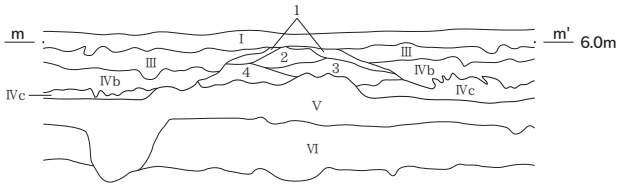


0　（1：40）　2m

図 版 30　　山口遺跡Ⅲ　古代（上・下層）遺構個別図（3）　畦畔（3）、土坑、ピット、木製品、杭、自然木

畦畔366（南2区　35P、35・36Q）

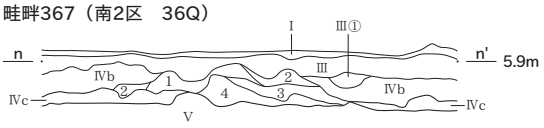


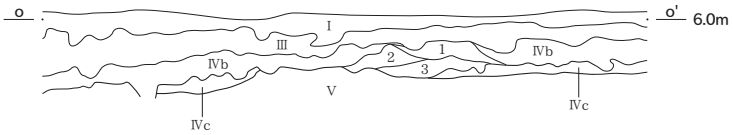


畦畔366
1　暗褐色シルト（10YR3/3）　粘性やや弱・しまり強。灰色シルトブロックを多量、3～5mmの炭化物をわずかに含む。
2　黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや弱・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。
3　黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性やや弱・しまり強。灰色シルトブロックを少量、1～3mmの炭化物をごくわずかに含む。
4　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロックを少量含む。

SK400
1　灰黄褐色粘土（10YR6/2）　粘性やや強・しまり強。Ⅵ層に近似するも、粘性が強い。灰白色粘土ブロックを少量含む。Ⅵ層に比して、ささくれが少ない。

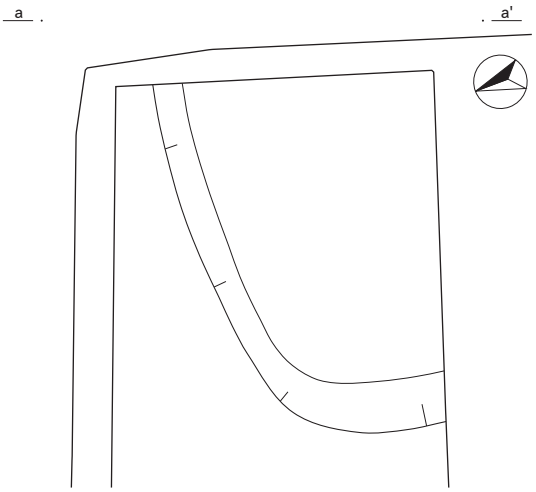
畦畔367（南2区　36Q）

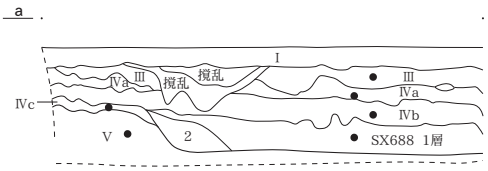




畦畔367
1　灰黄褐色粘土（10YR4/2）　粘性やや強・しまり強。灰色シルトブロック、灰白色粘土ブロックを少量含む。
2　1層に近似するも、ブロックを多量に含む。
3　褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性やや強・しまり強。灰白色粘土ブロックをわずか、灰色シルトブロックをごくわずかに含む。
4　灰色粘土（5Y6/1）　粘性やや強・しまり強。Ⅴ層に近似するも、黄褐色粒子を含み、しまりさらに強い。畦畔上にのせた改良土か。

SX688（北4区　39K・L）

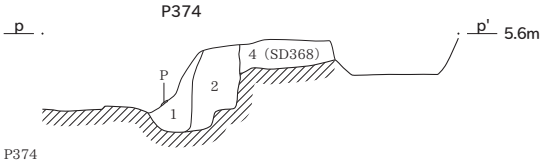




SX688
1　にぶい黄橙色粘性シルト（10YR7/3）　粘性やや弱・しまり弱。
2　灰黄褐色シルト（10YR6/2）　粘性弱・しまり弱。鉄分を少量含む。

● 土サンプル採取位置

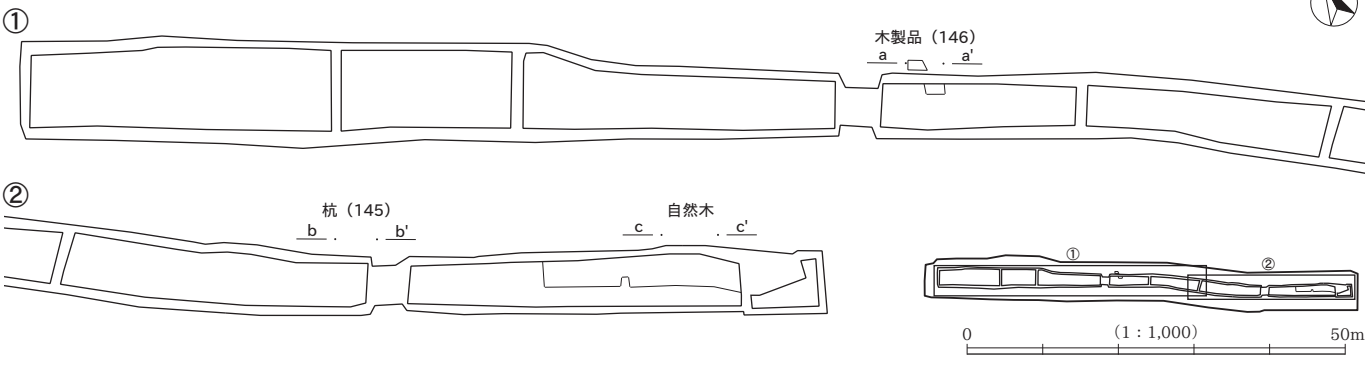
P374（南2区　34P、SD368内）



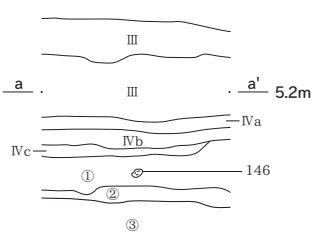
P374
1　灰色粘土（5YR4/1）　粘性強・しまりやや強。褐灰色粘土ブロック（粘性きわめて強）を少量含む。
2　灰色粘土（5YR4/1）　粘性やや強・しまり強。1～3mmの小砂利をわずかに含む。

0　平面図（1：200）　10m
0　断面図（1：40）　2m

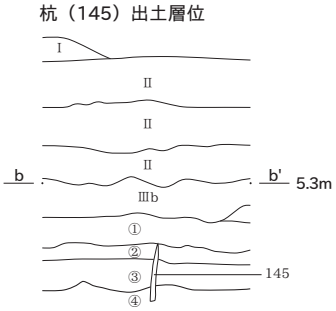
古代下層（南3区）



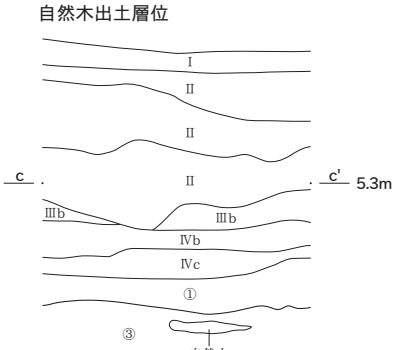
木製品（146）出土層位



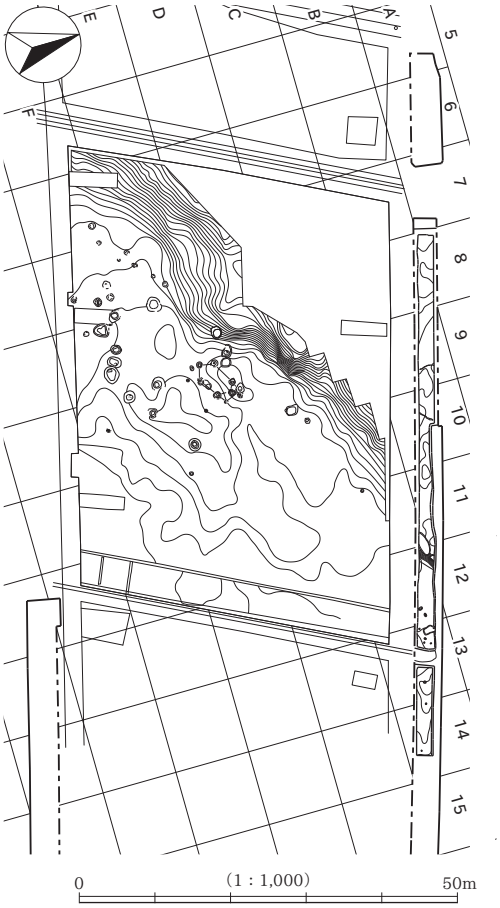
杭（145）出土層位

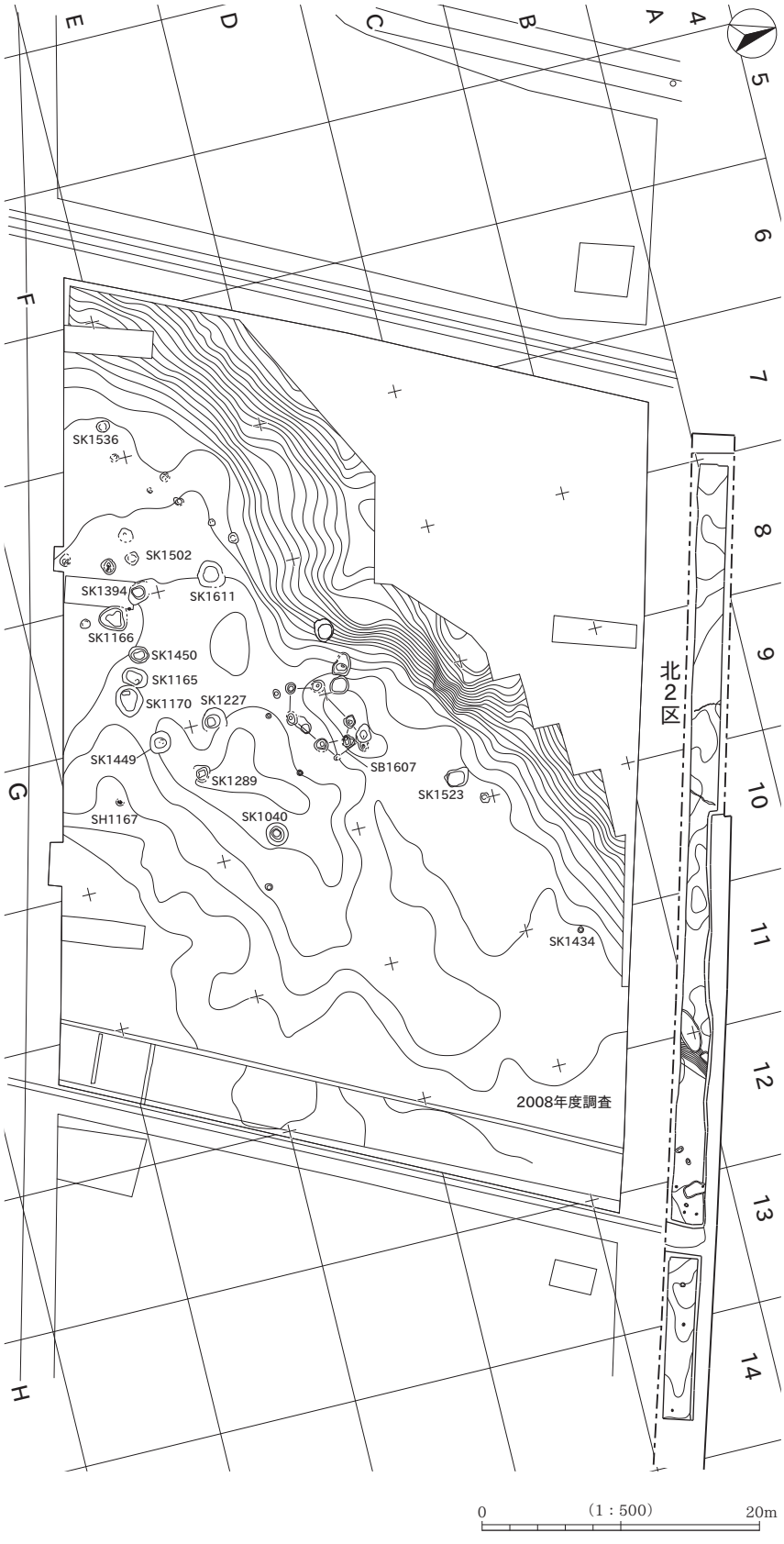


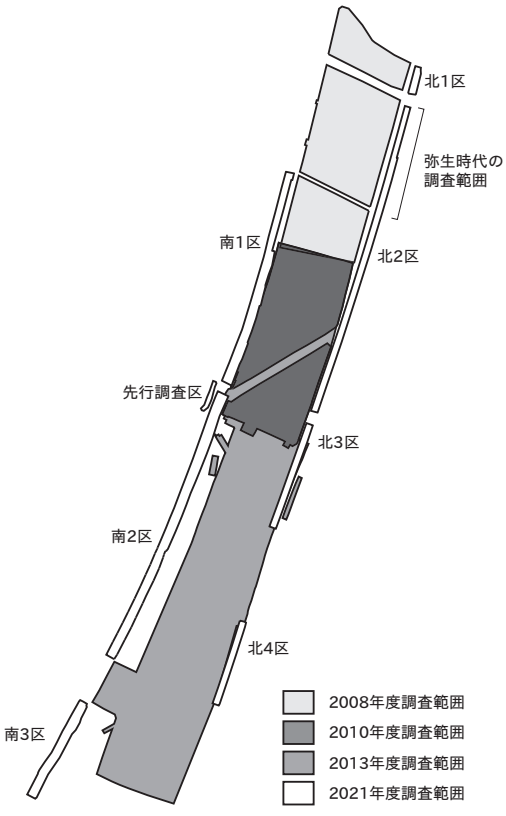
自然木出土層位



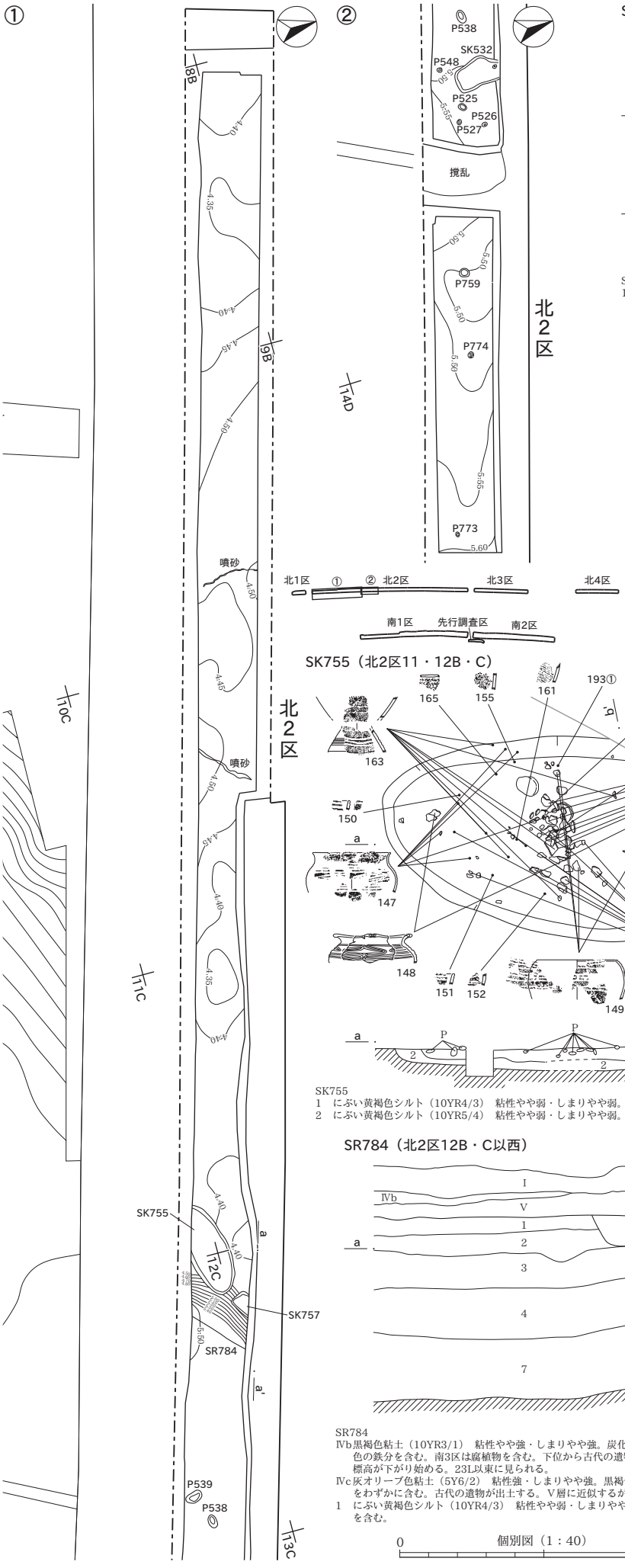
南3区
①　黄灰色シルト（2.5Y5/1）　粘性やや弱・しまり強。腐植物を少量、黄灰色粘土を多量に含む。
②　黒褐色粘土（10YR3/2）　粘性やや強・しまり強。腐植物、黄灰色粘土を少量含む。
③　褐灰色粘土（10YR6/1）　粘性やや強・しまり強。腐植物をわずか、灰色シルト（下位に多い）を少量含む。
④　③層に近似するも、粘性強い。灰色シルトをごくわずかに含む。


0
(1 : 1,000)
50m

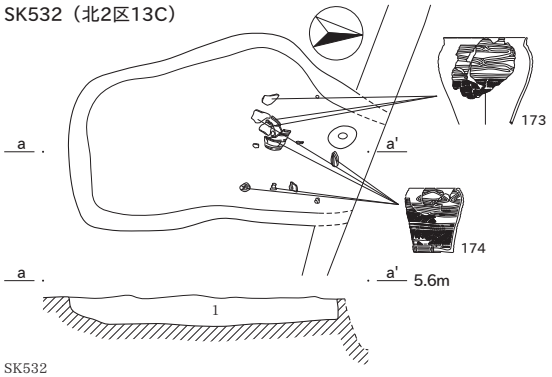

SK1536
SK1502
SK1394
SK1611
SK1166
SK1450
SK1165
SK1170
SK1227
SK1449
SK1289
SB1607
SK1523
SH1167
SK1040
SK1434
北2区
2008年度調査
0
(1 : 500)
20m


北1区
弥生時代の
調査範囲
南1区
北2区
先行調査区
北3区
南2区
北4区
南3区
2008年度調査範囲
2010年度調査範囲
2013年度調査範囲
2021年度調査範囲

調査年度と範囲

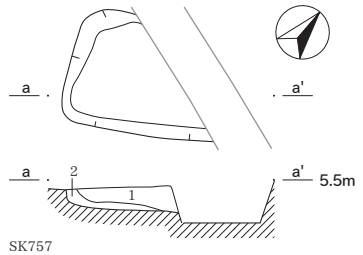


SK532（北2区13C）



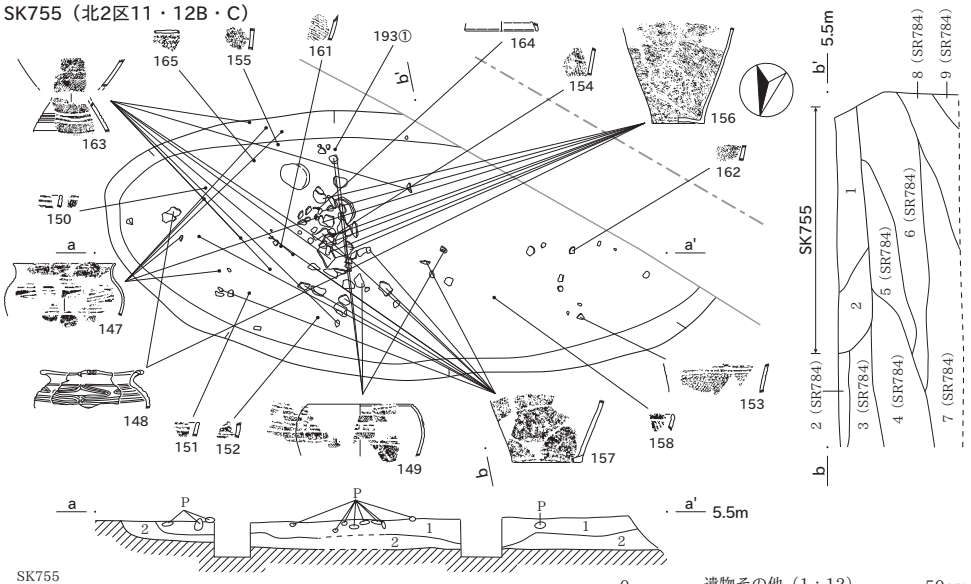
SK532
1　褐色シルト（10YR4/4）　粘性強・しまり強。褐色の鉄分を部分的に含む。

SK757（北2区12B）



SK757
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや強・しまりやや強。炭化物を少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや強・しまりやや強。炭化物を少量含む。

SK755（北2区11・12B・C）

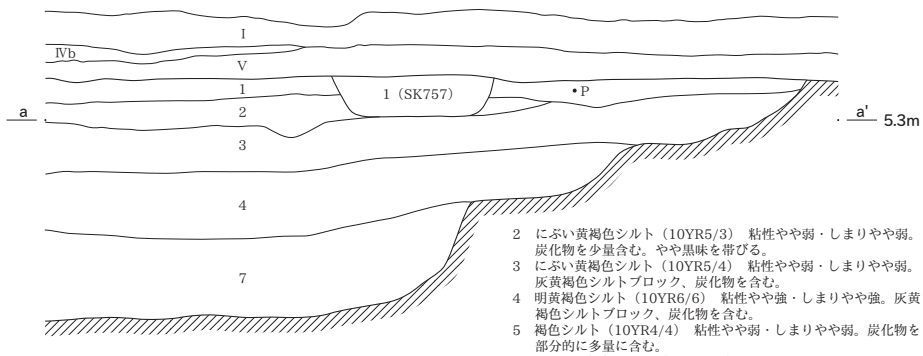


SK755
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を少量含む。

0　遺物その他（1：12）　50cm

0　遺物49・50・55・177・180（1：18）　90cm

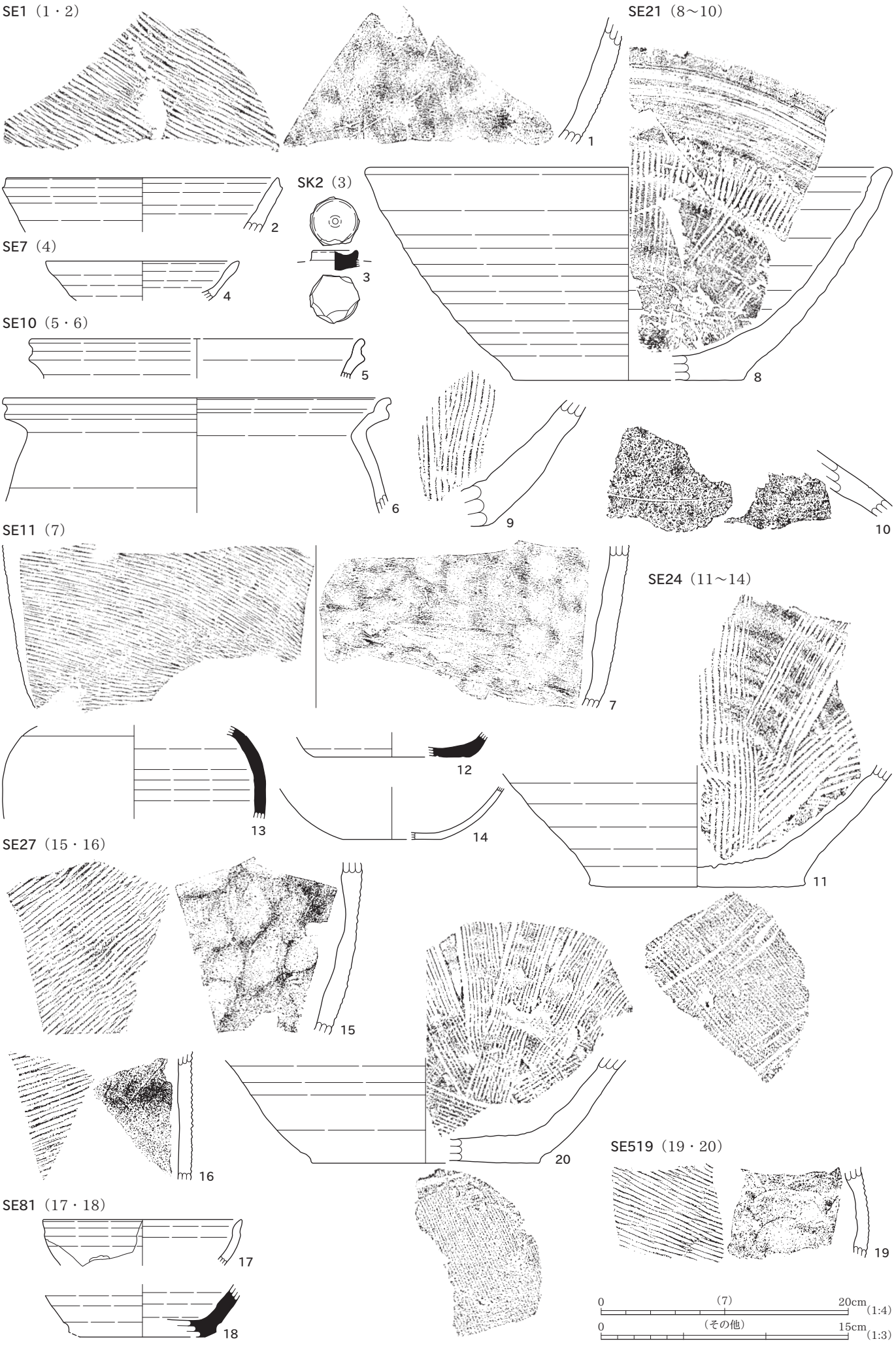
SR784（北2区12B・C以西）



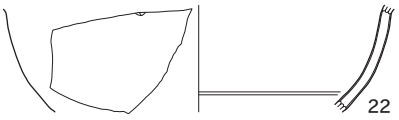
SR784
Ⅳb黒褐色粘土（10YR3/1）　粘性やや強・しまりやや強。炭化物をわずか、褐色の鉄分を含む。南3区は腐植物を含む。下位から古代の遺物が出土する。標高が下がり始める。23L以東に見られる。
Ⅳc灰オリーブ色粘土（5Y6/2）　粘性強・しまりやや強。黒褐色粘土ブロックをわずかに含む。古代の遺物が出土する。V層に近似するが、粘性が強い。
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。褐色の鉄分を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を少量含む。やや黒味を帯びる。
3　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。灰黄褐色シルトブロック、炭化物を含む。
4　明黄褐色シルト（10YR6/6）　粘性やや強・しまりやや強。灰黄褐色シルトブロック、炭化物を含む。
5　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物を部分的に多量に含む。
6　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。灰黄褐色シルトブロックを含む。炭化物を少量含む。
7　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性やや弱・しまりやや弱。炭化物、褐色の鉄分を含む。砂を少量含む。
8　にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱・しまり弱。灰黄褐色シルトブロックを含む。砂を多量に含む。
9　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや弱・しまりやや弱。褐色の鉄分を含む。炭化物を少量含む。

0　個別図（1：40）　2m

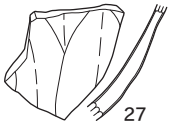
0　分割図（1：200）　10m


SE1（1・2）
SE21（8～10）
1
SK2（3）
2
SE7（4）
3
4
SE10（5・6）
5
6
8
9
10
SE11（7）
7
SE24（11～14）
12
13
14
11
SE27（15・16）
15
16
20
SE519（19・20）
19
SE81（17・18）
17
18
0 (7) 20cm (1:4)
0 (その他) 15cm (1:3)

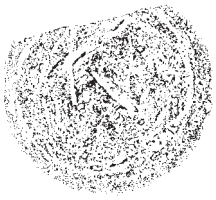
SE771（21・22）



SD23（27）

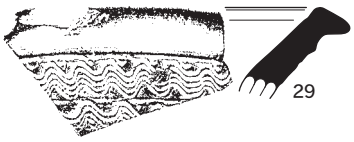


SD621（23～25）

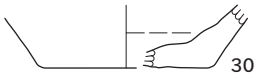


SD1031（28）

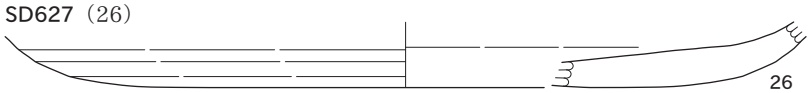
SD55（29）



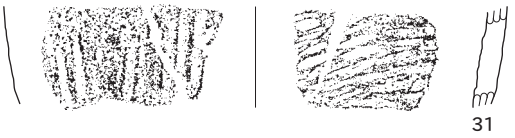
SD174（30）



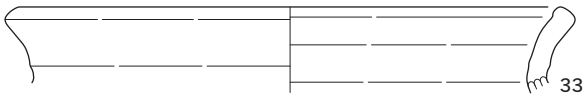
SD627（26）

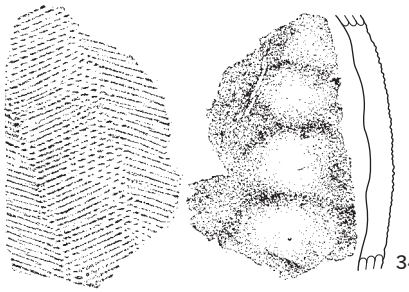


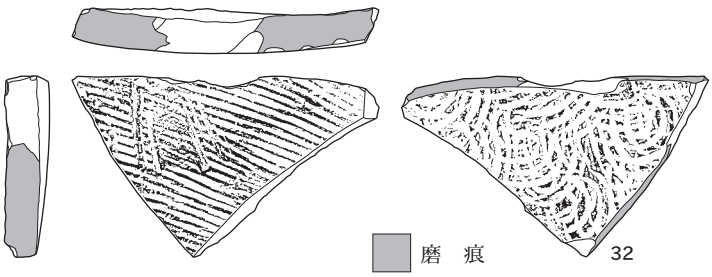
SD166（31・32）

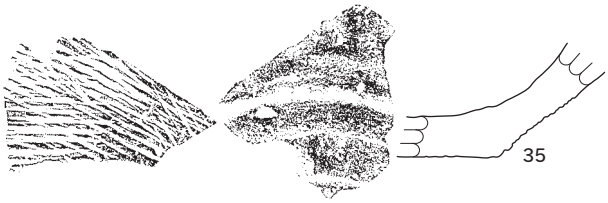


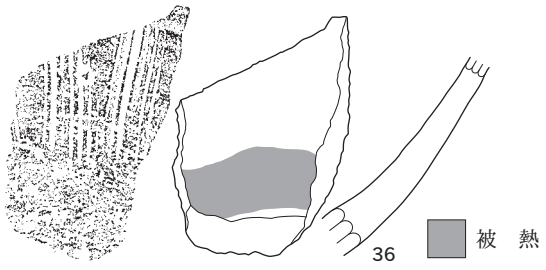
遺構外出土（33～36）

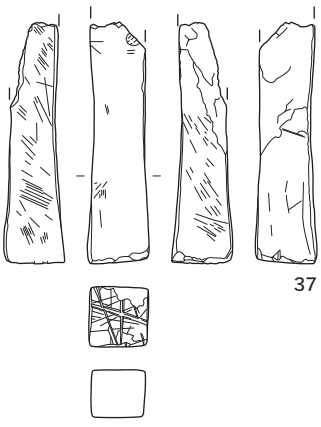


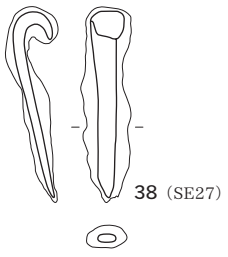


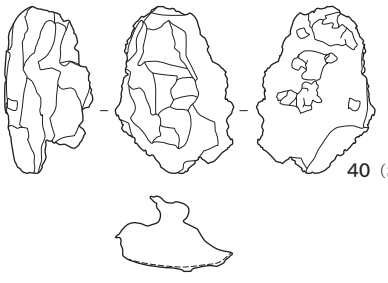








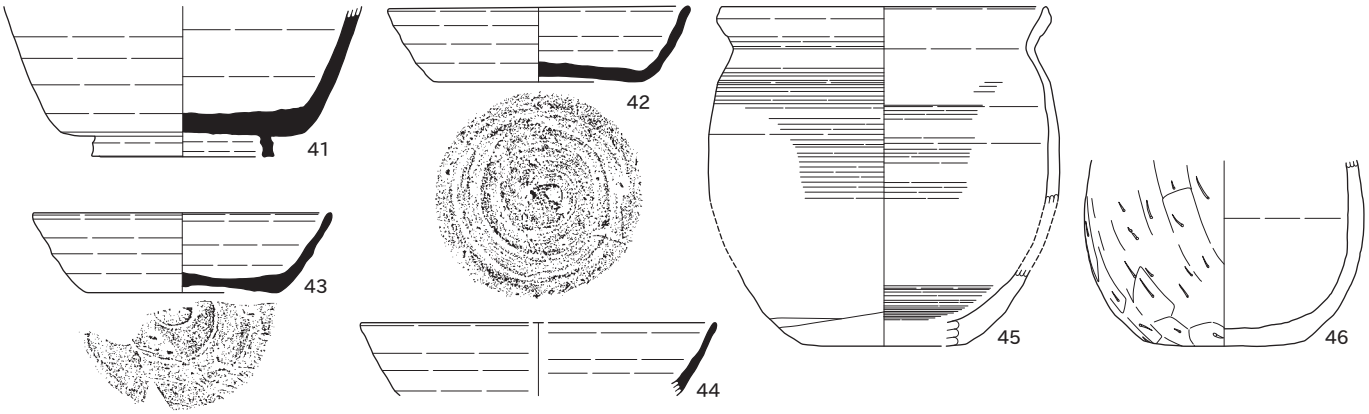




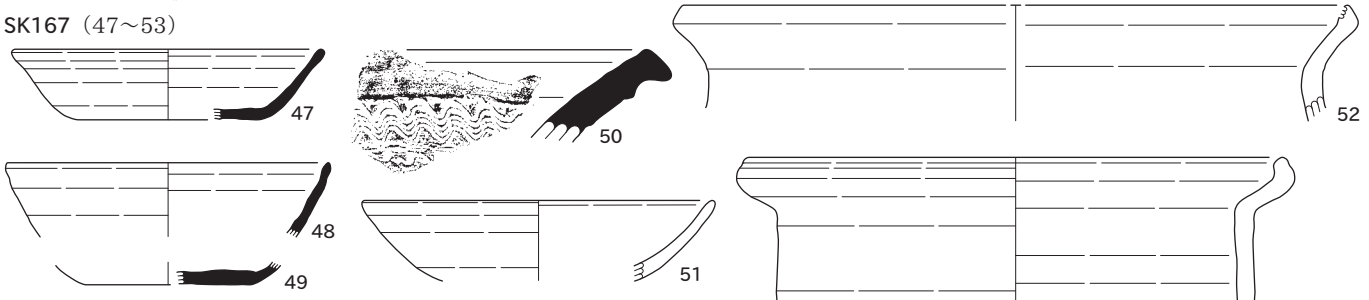
0　（21）　20cm（1:5）

0　（その他）　15cm（1:3）

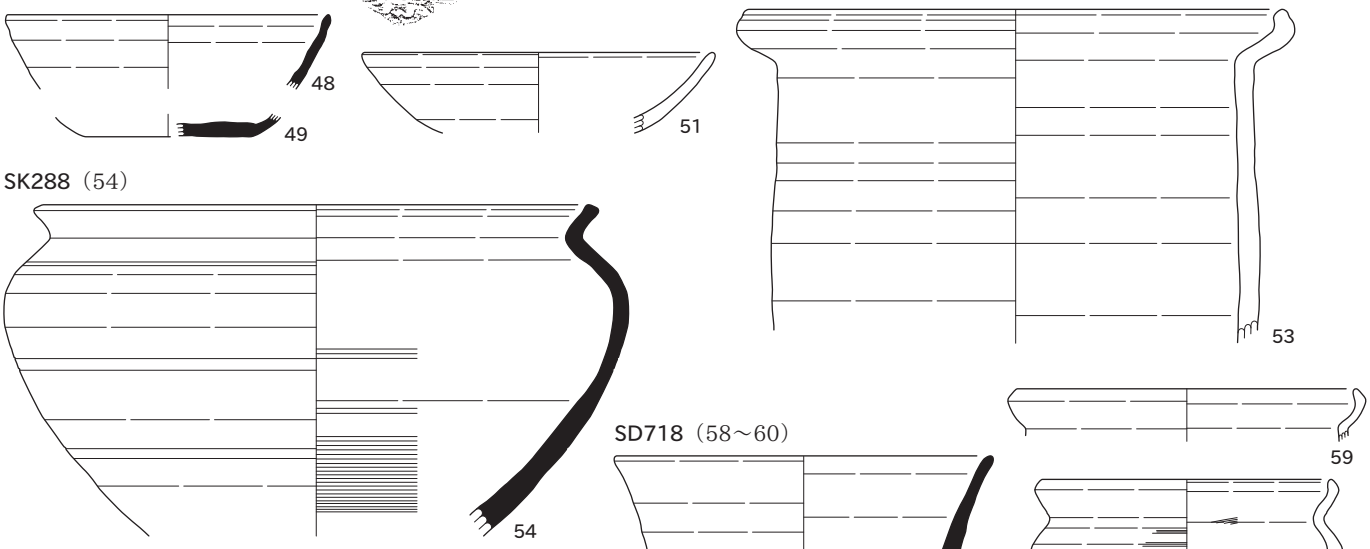
SI324（41～46）



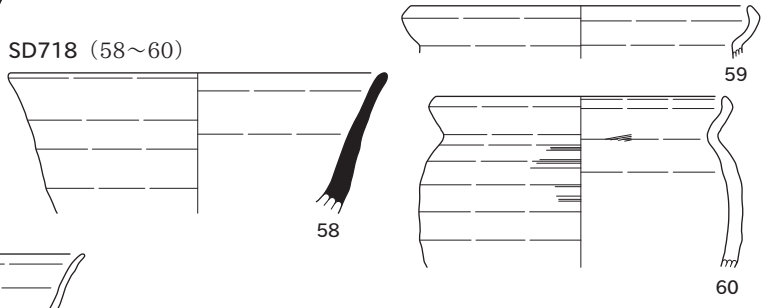
SK167（47～53）



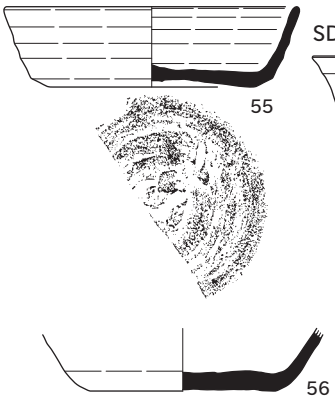
SK288（54）



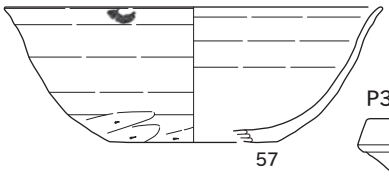
SD718（58～60）



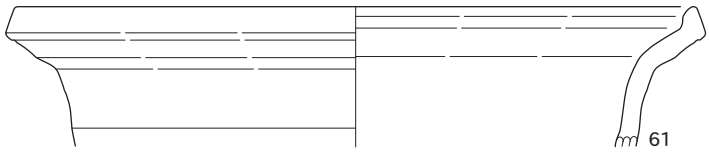
SK316（55・56）



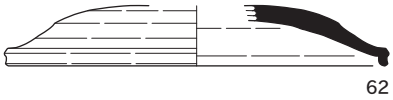
SD77（57）



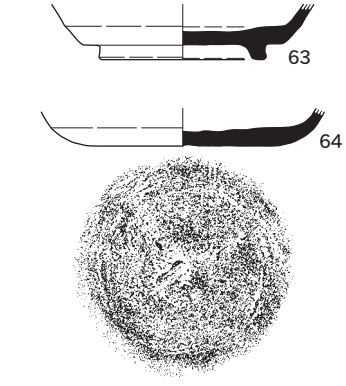
P311（61）



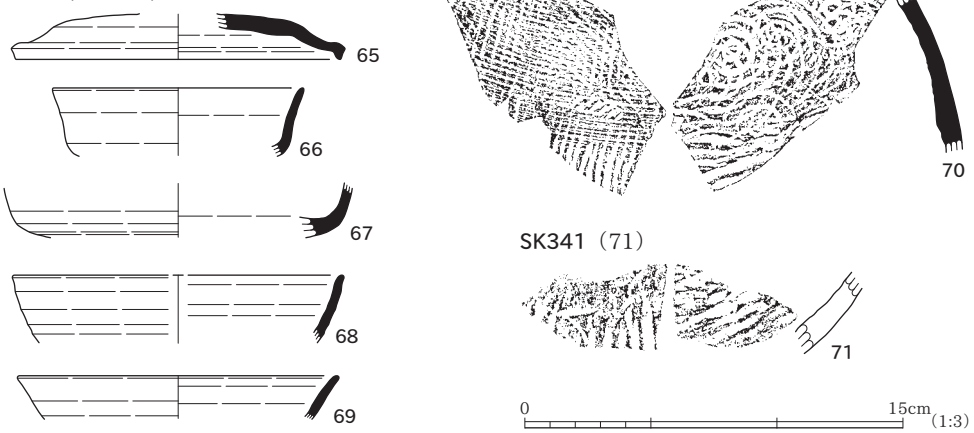
P681（62）



古代下層
SK307（63・64）



SK317（65～70）

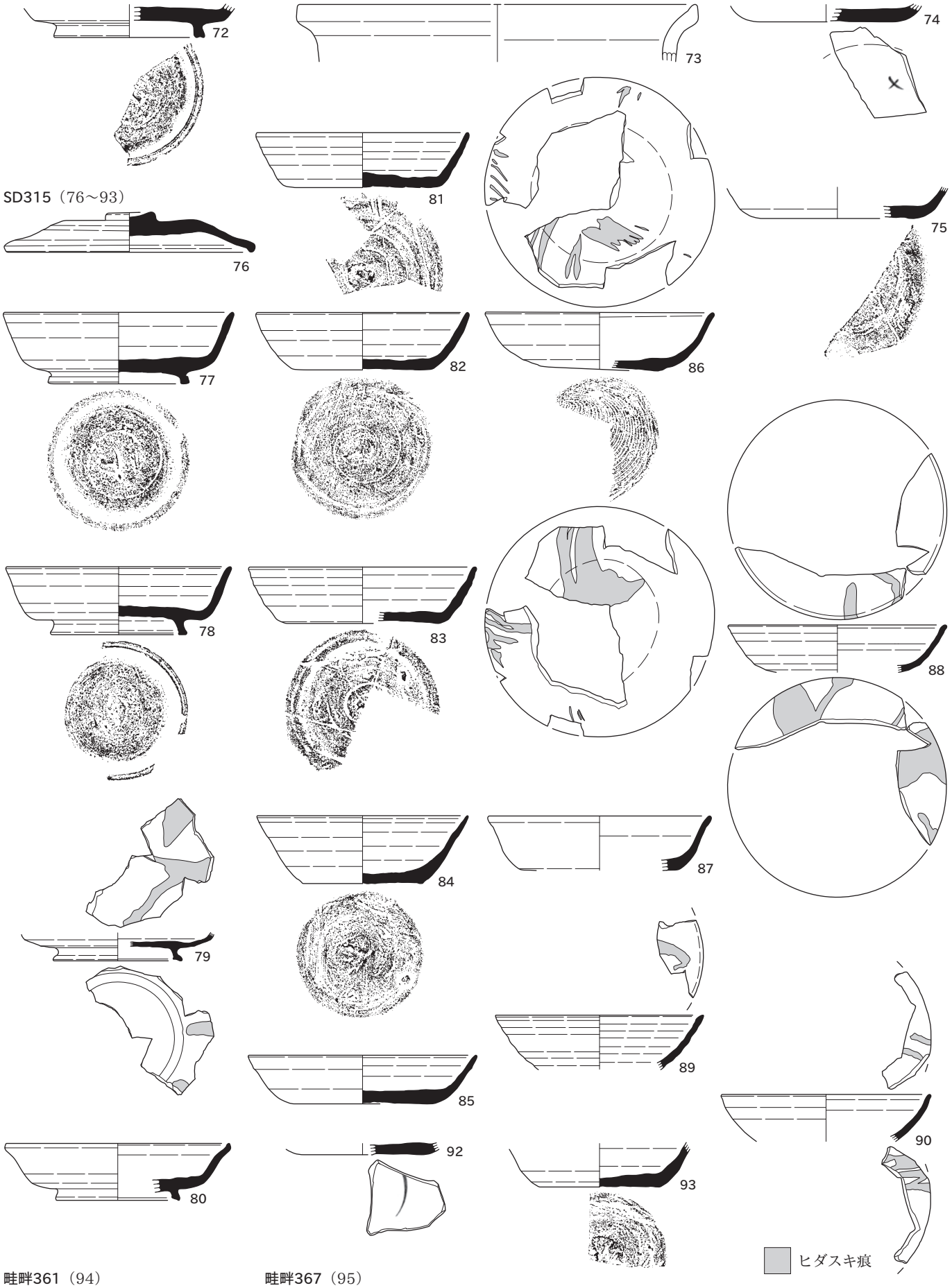


SK341（71）

SK343（72・73）

SD315（76～93）

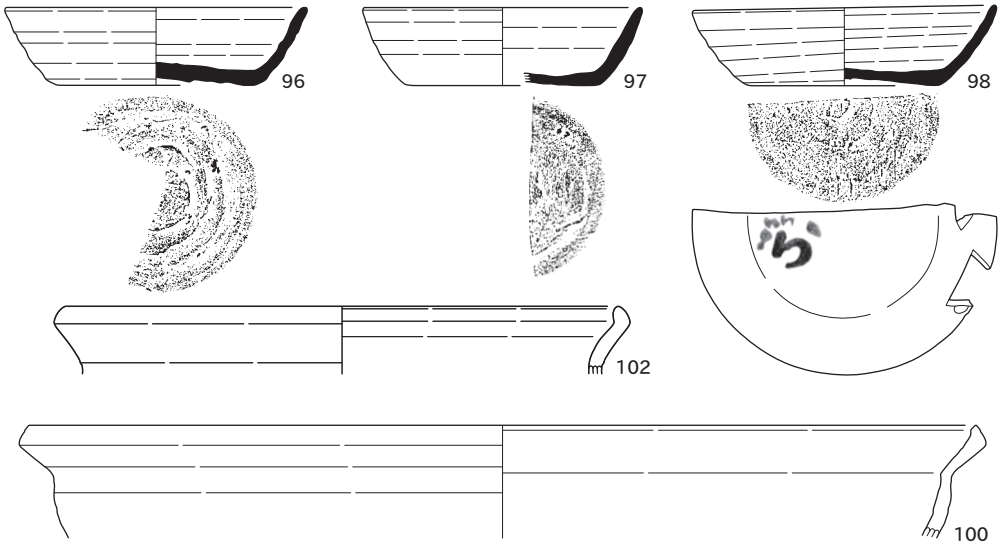
SX320（74・75）



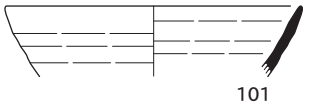
畦畔361（94）

畦畔367（95）

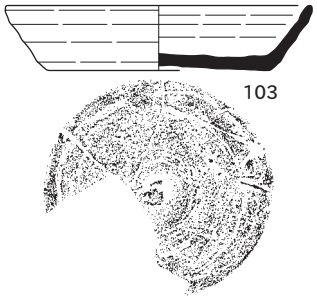
SD368（96～100）



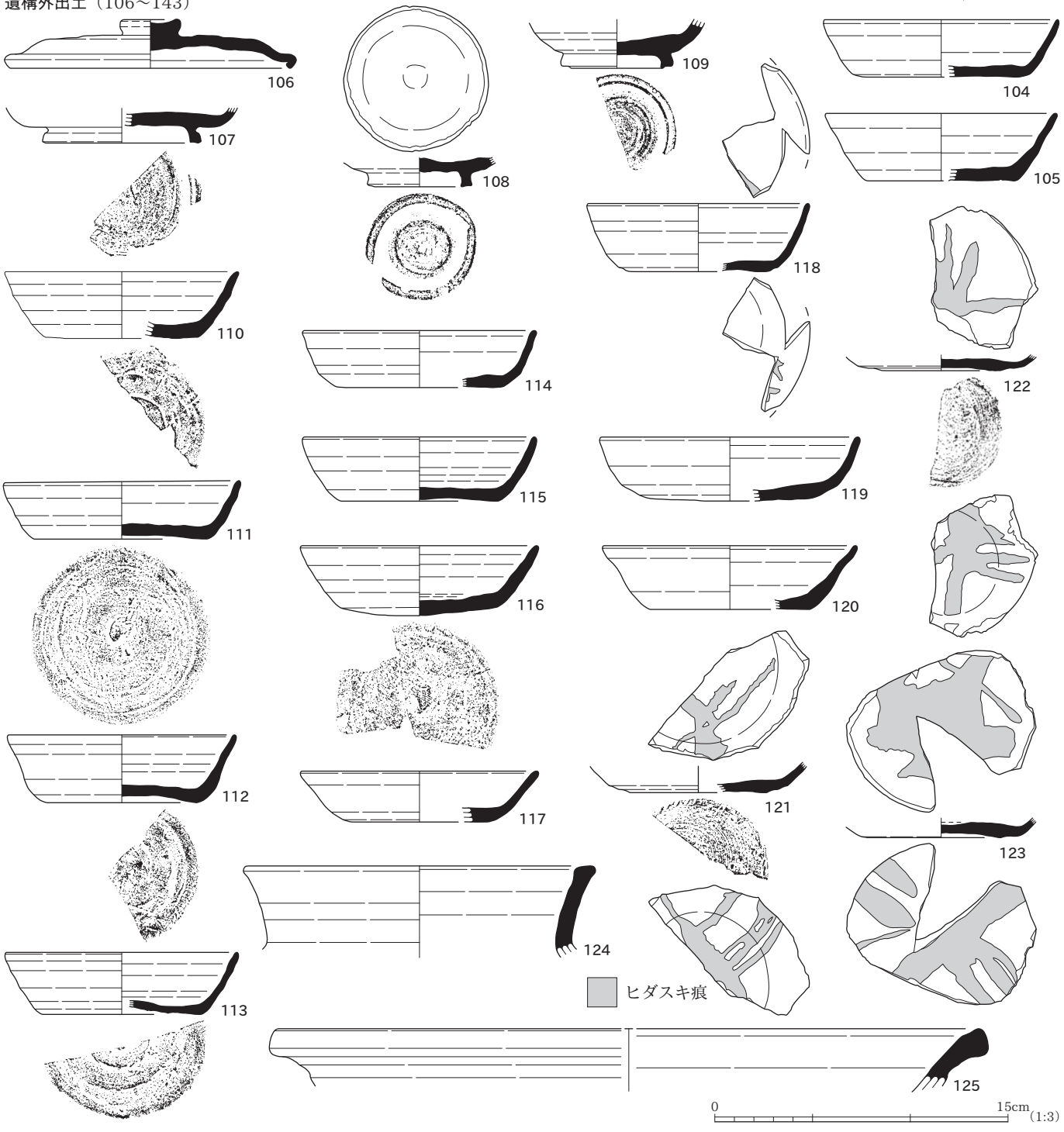
P374（101・102）

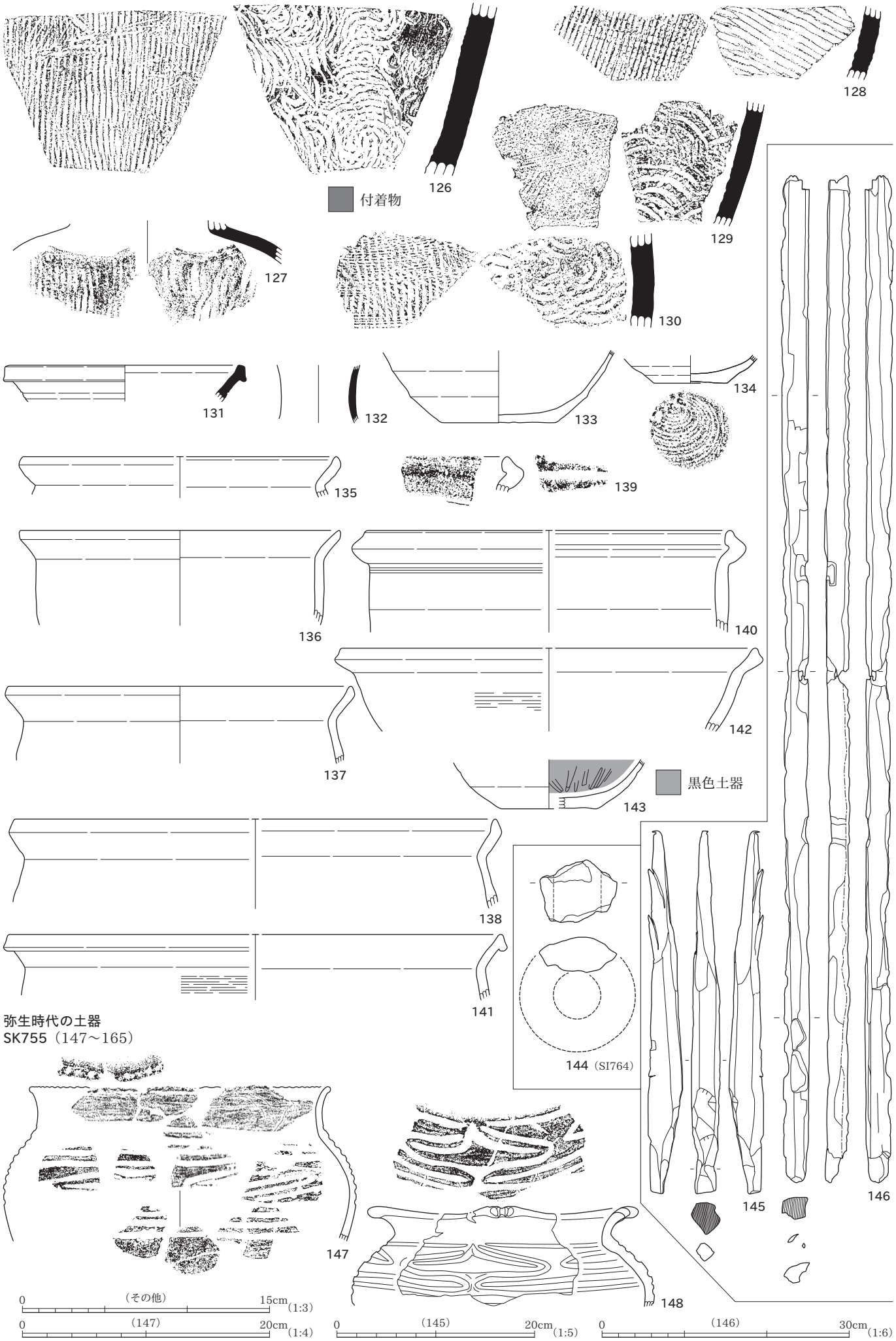


SX688（103～105）

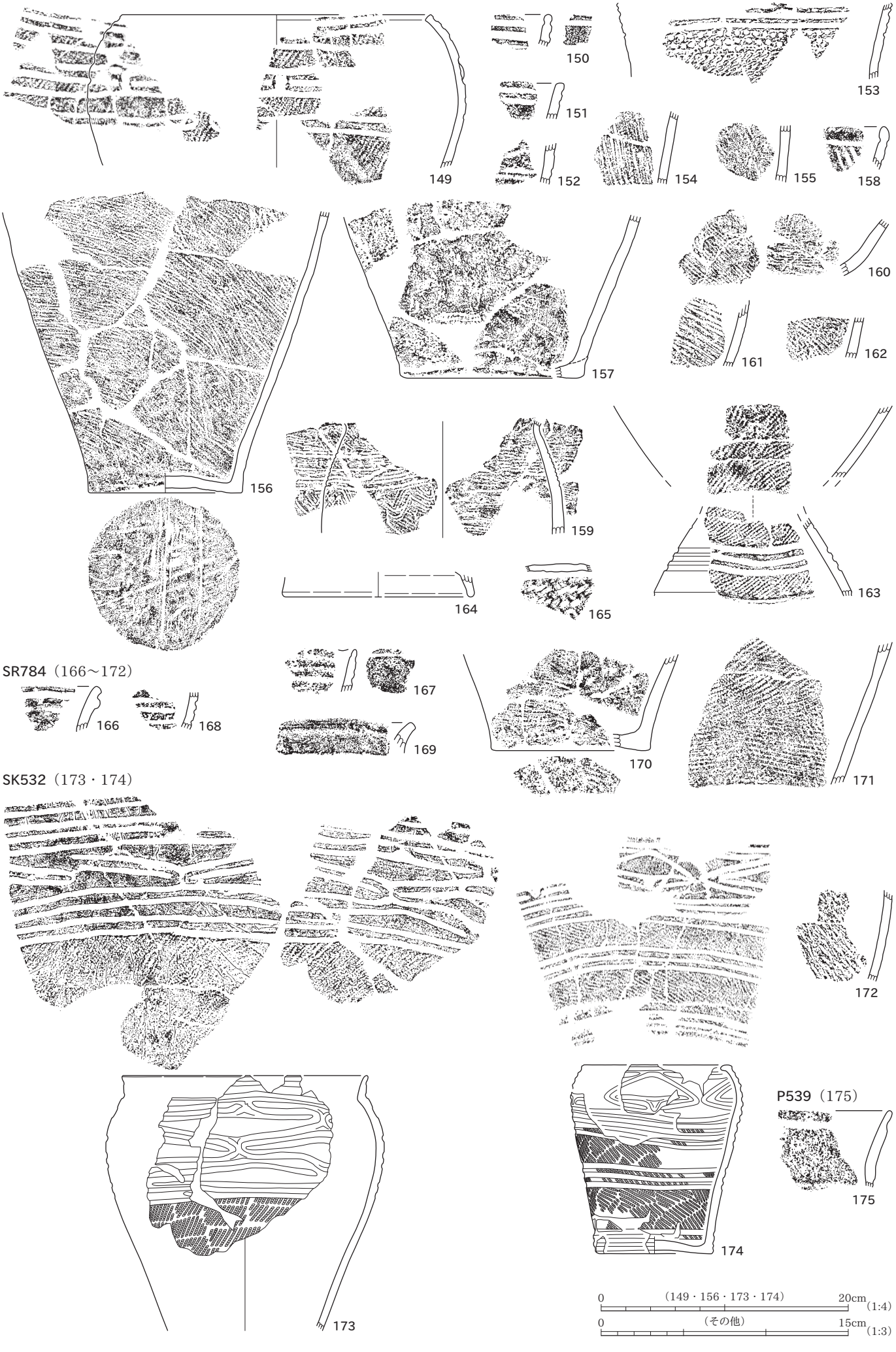


遺構外出土（106～143）

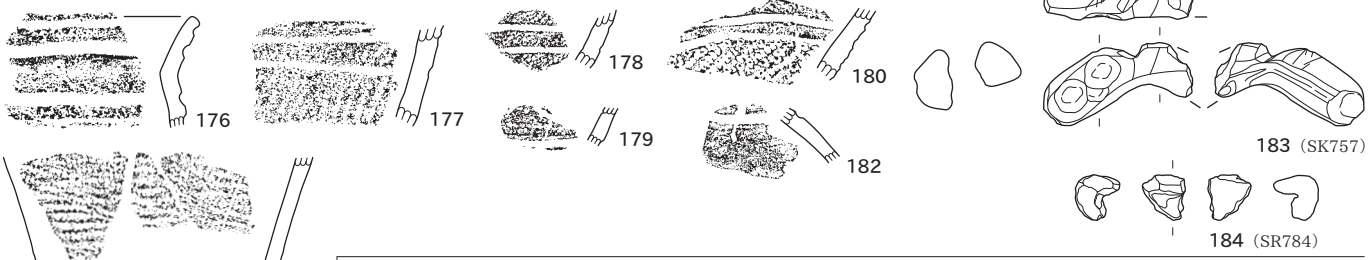


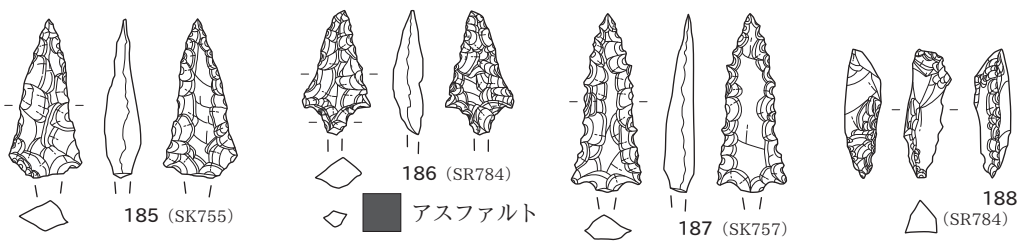


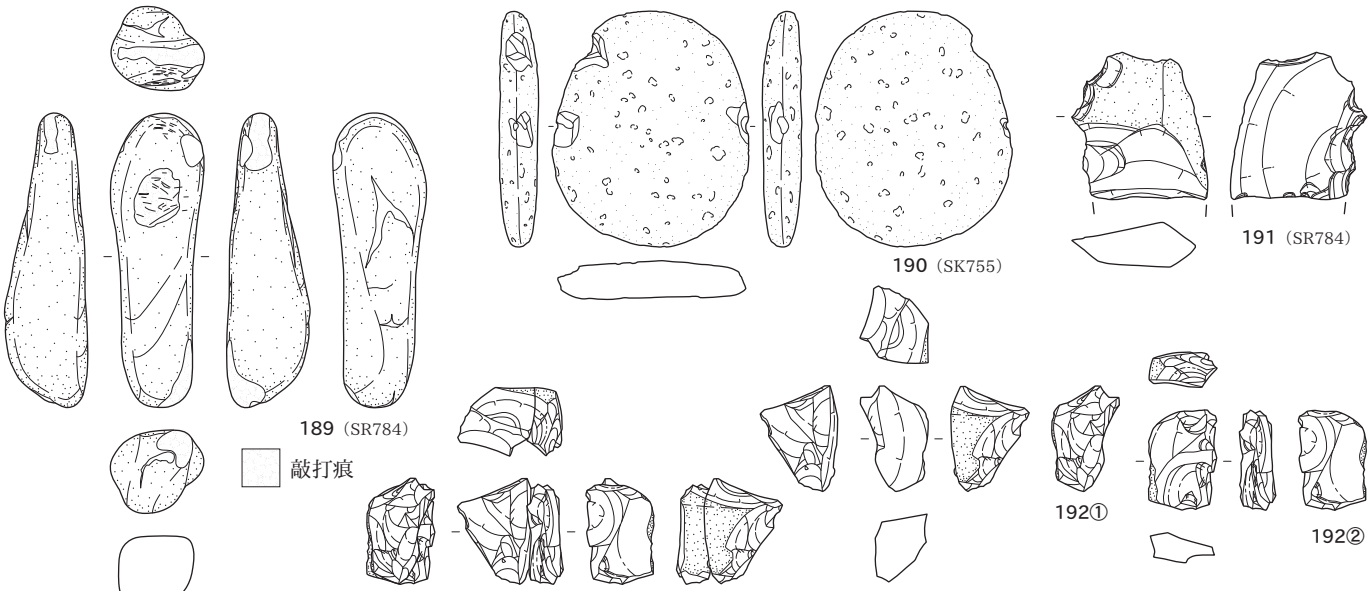
弥生時代の土器
SK755（147～165）

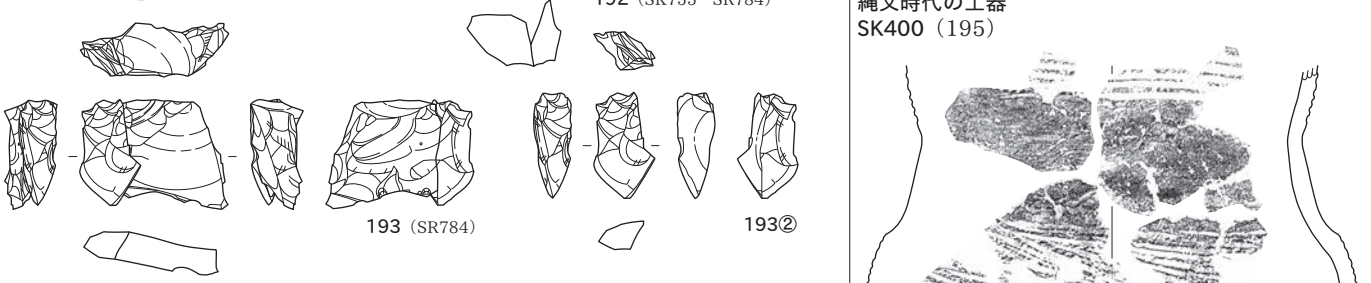

149
150
151
152
153
154
155
158
156
157
160
161
162
159
163
164
165
SR784（166～172）
166
168
167
169
170
171
SK532（173・174）
172
173
174
P539（175）
175
0 （149・156・173・174） 20cm (1:4)
0 （その他） 15cm (1:3)

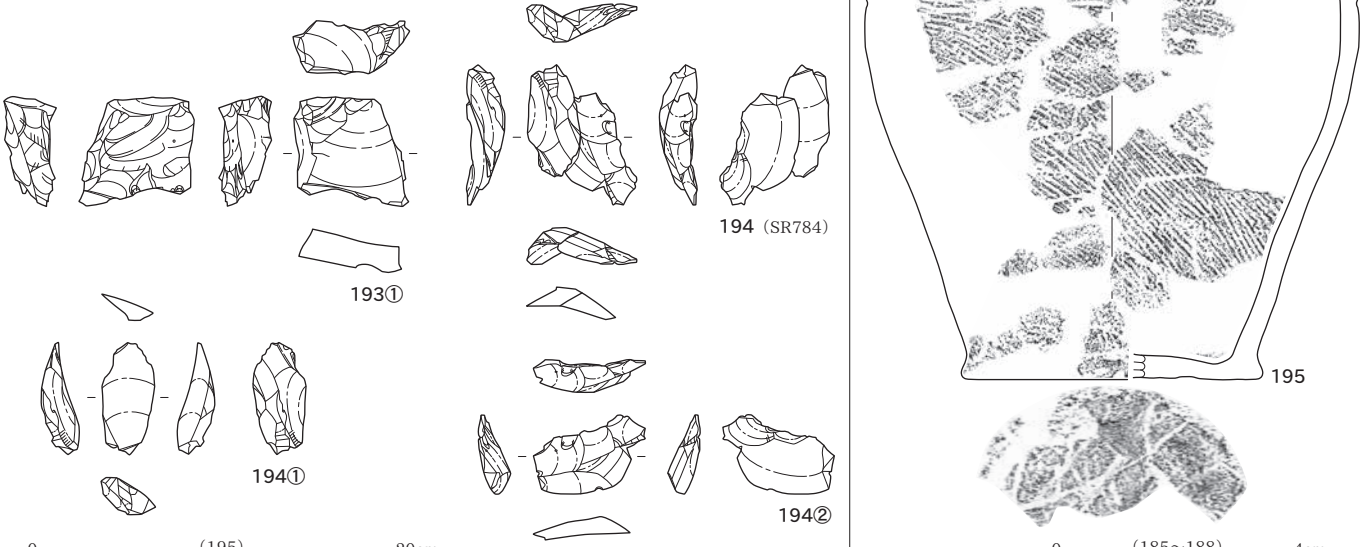
遺構外出土（176～182）



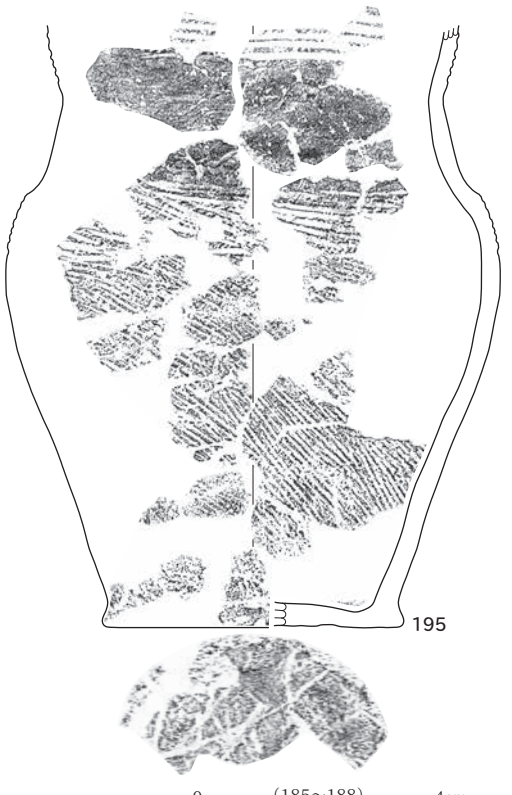


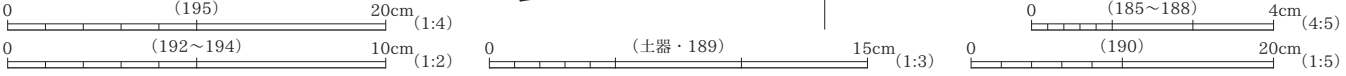


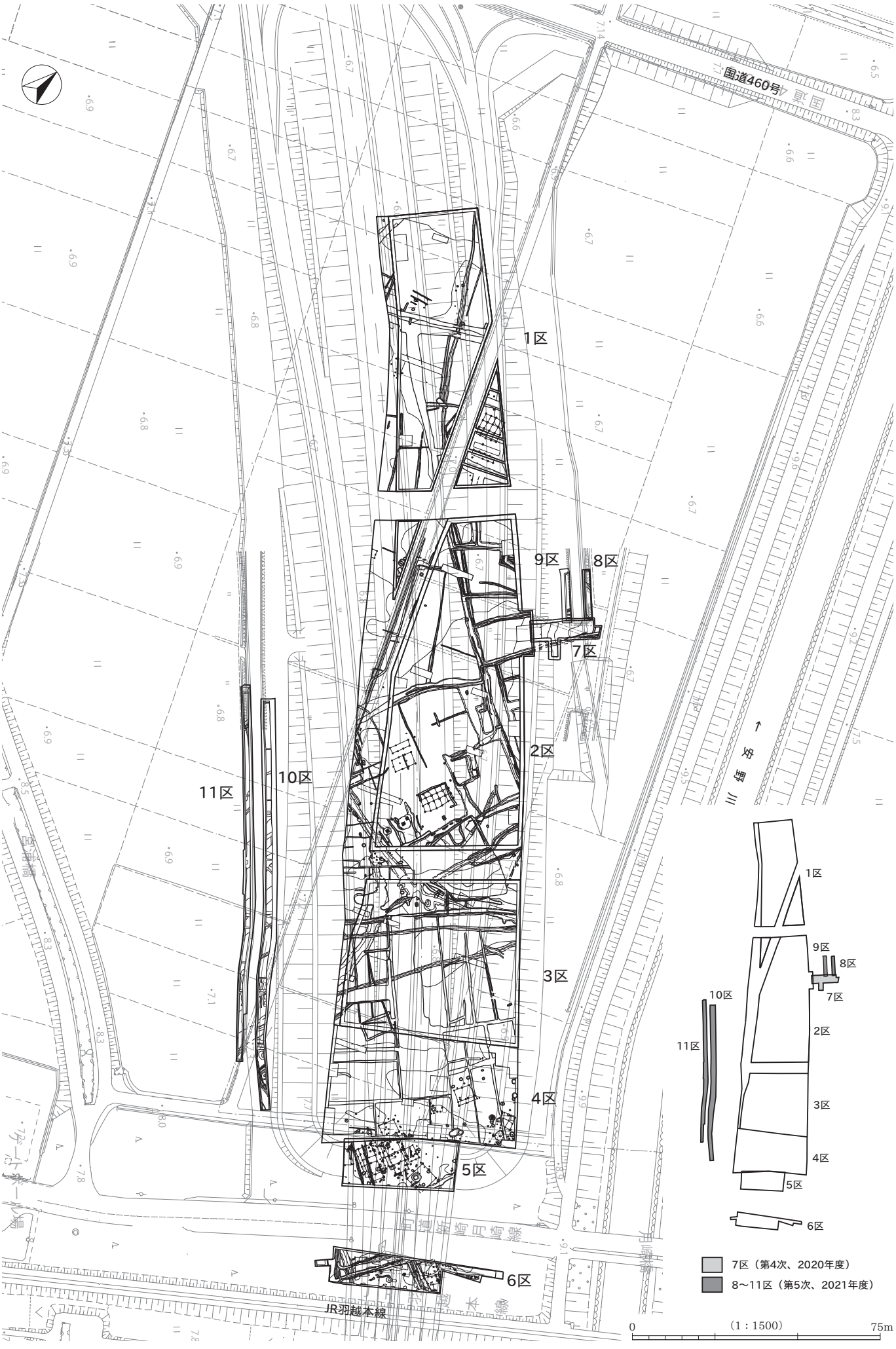


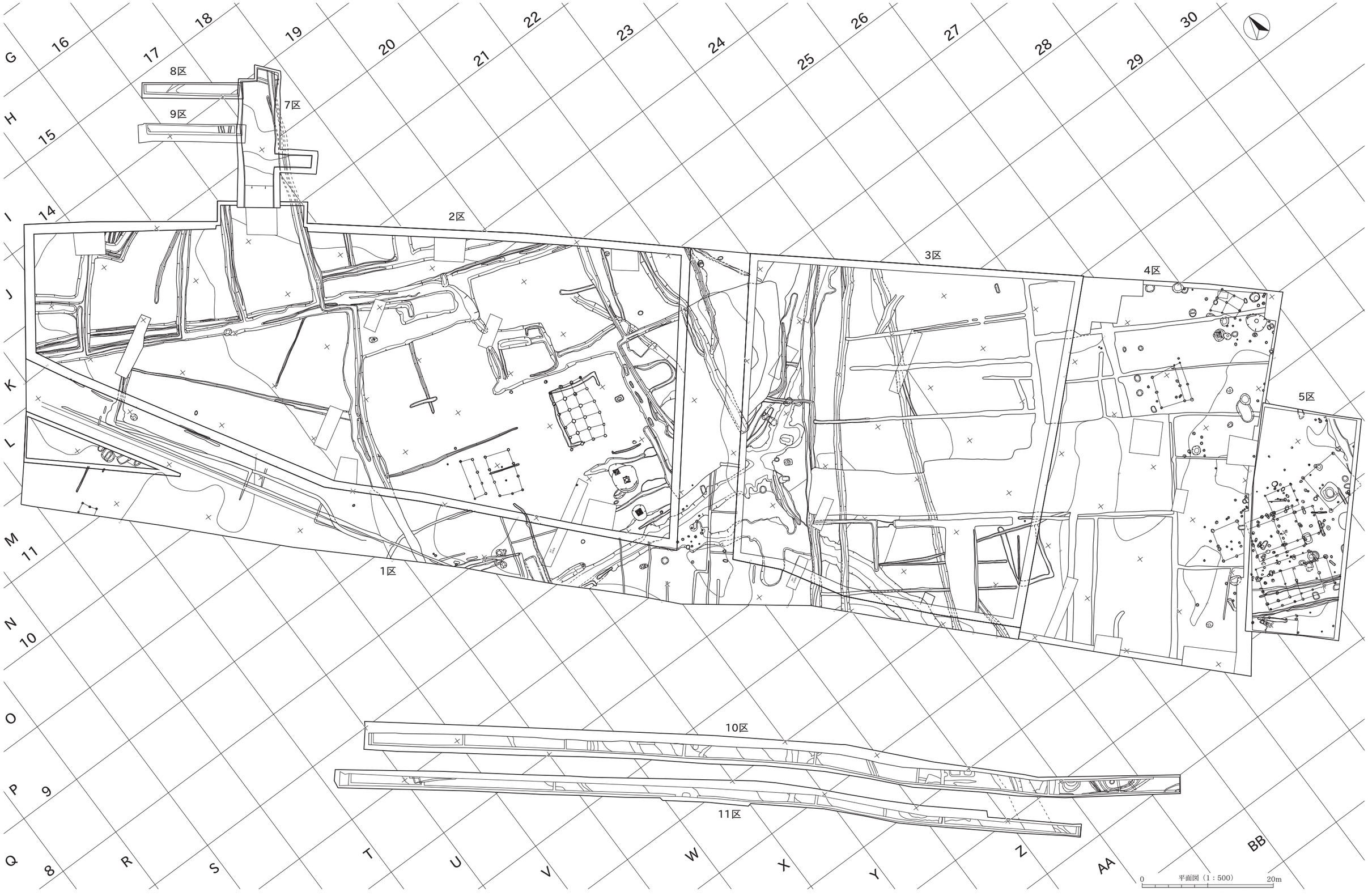


縄文時代の土器
SK400（195）

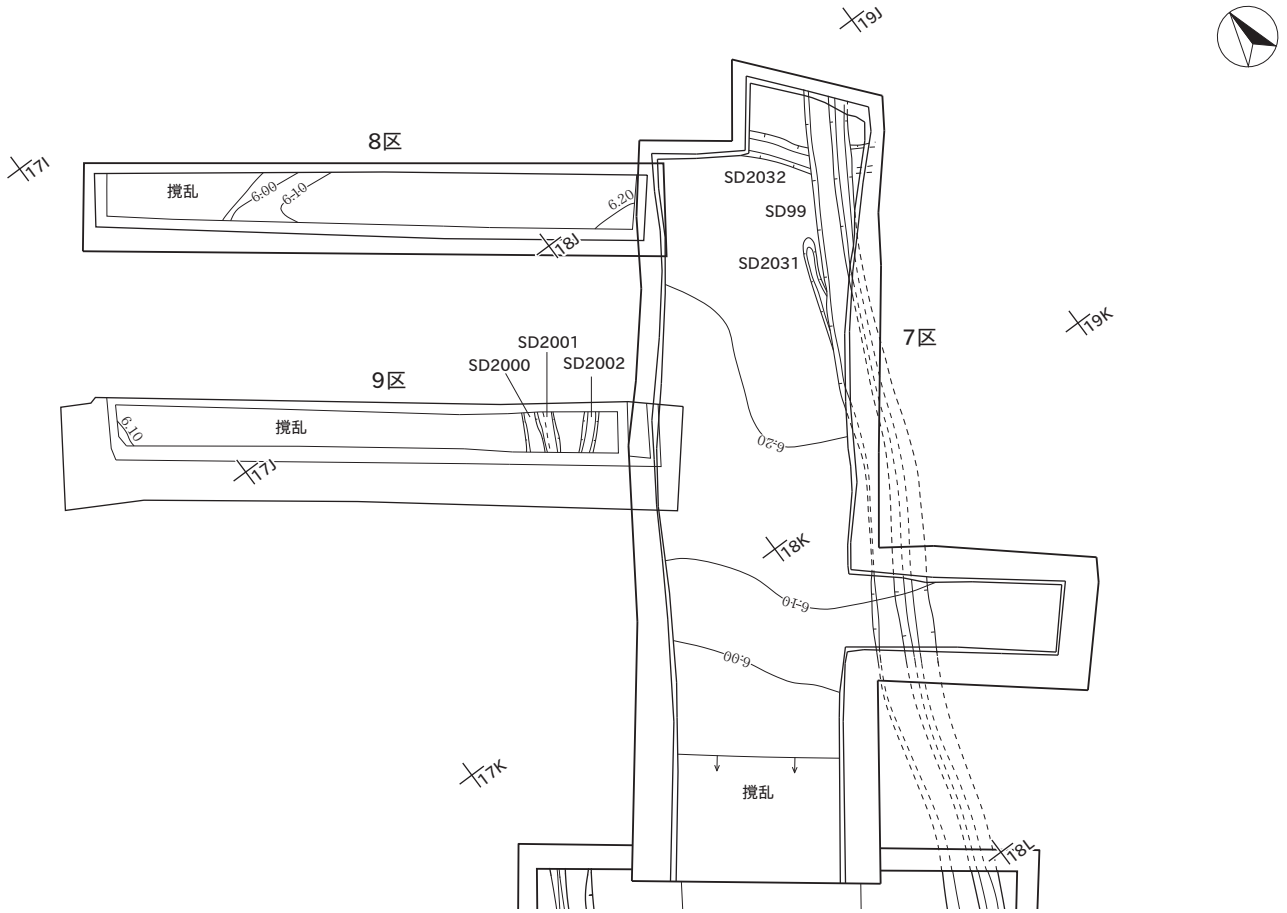




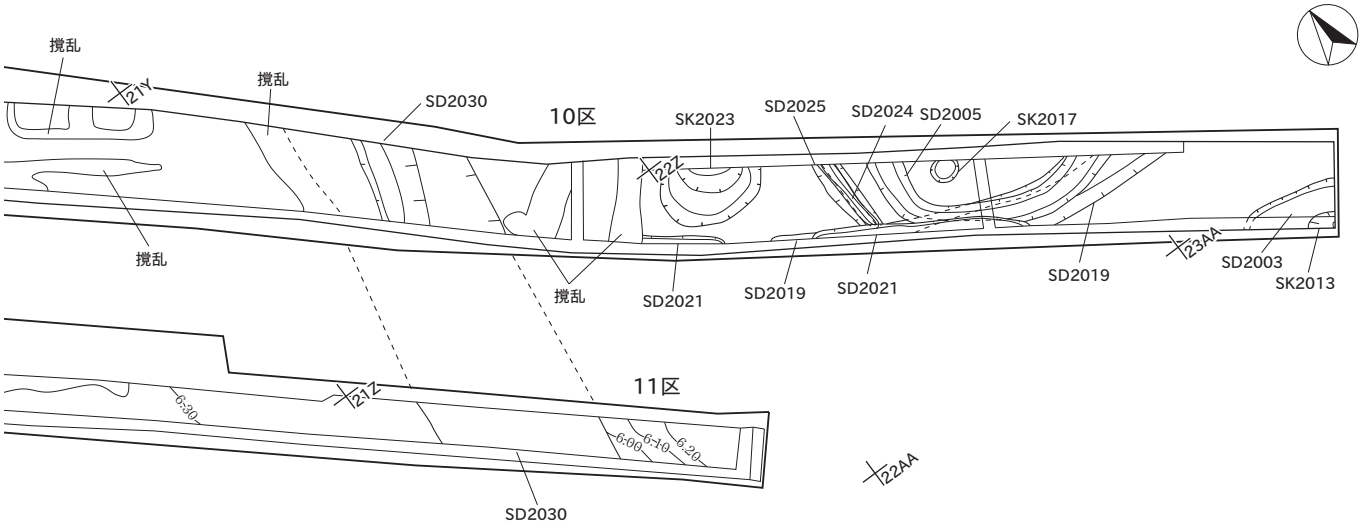

国道460号
1区
9区
8区
7区
2区
11区
10区
3区
4区
5区
6区
JR羽越本線
1区
9区
8区
7区
10区
2区
11区
3区
4区
5区
6区
7区（第4次、2020年度）
8～11区（第5次、2021年度）
0
(1：1500)
75m

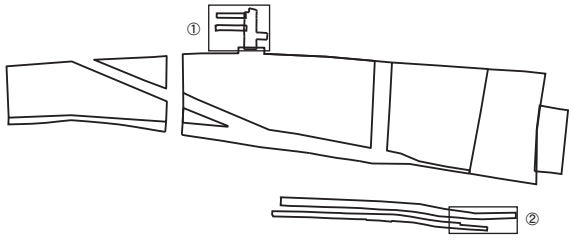

G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
AA
BB
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
15
14
11
10
9
8
8区
7区
9区
2区
3区
4区
5区
1区
10区
11区
0
平面図（1：500）
20m

①


8区
9区
7区
撹乱
SD2000
SD2001
SD2002
SD2031
SD2032
SD99
6.00
6.10
6.20
17I
17J
17K
18J
18K
18L
19J
19K

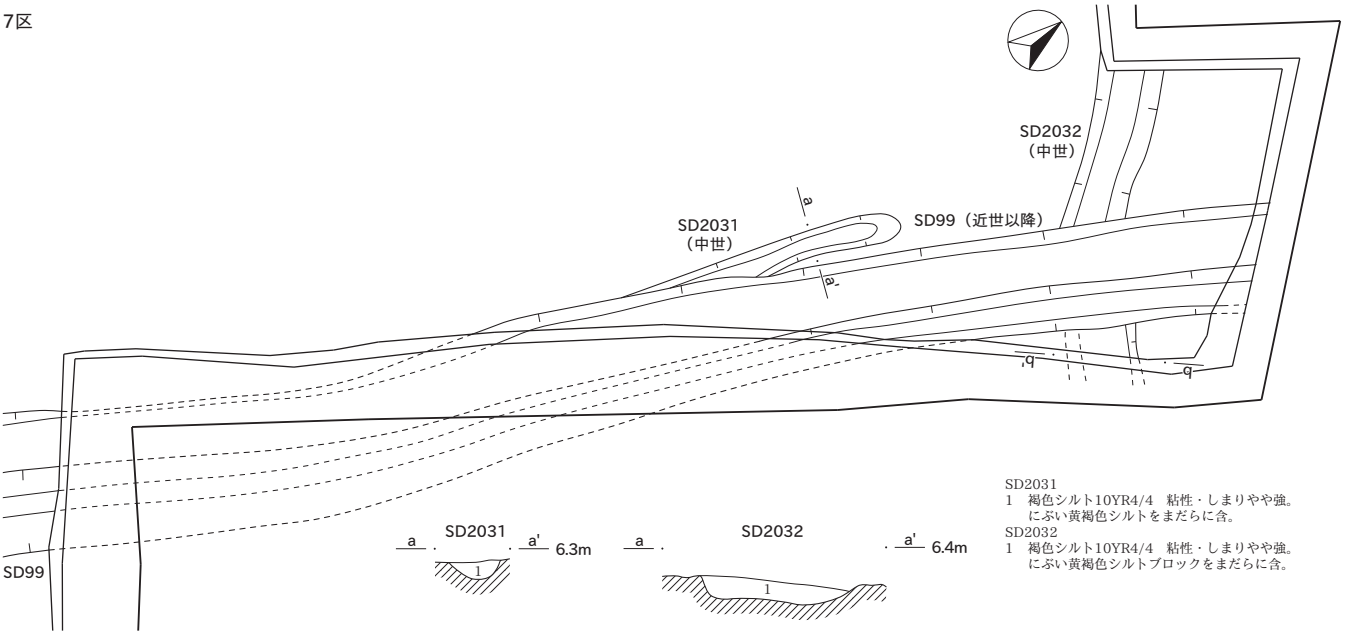
②


撹乱
SD2030
10区
SK2023
SD2025
SD2024
SD2005
SK2017
SD2021
SD2019
SD2003
SK2013
11区
21Y
21Z
22Z
22AA
23AA
6.30
6.00
6.10
6.20


①
②

0　（1：200）　10m

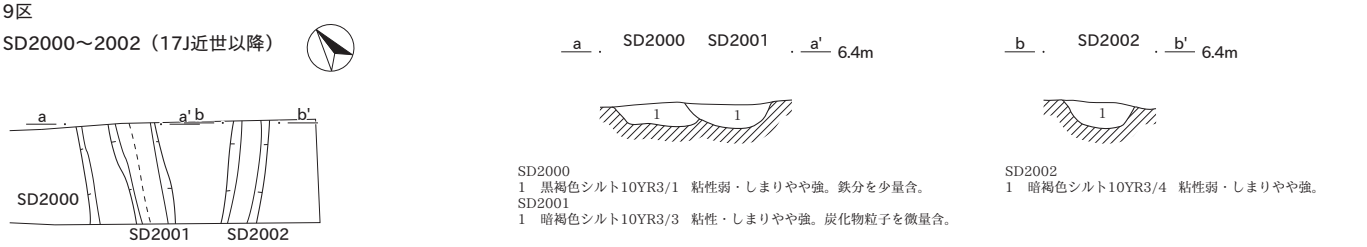
7区



SD2031
1　褐色シルト10YR4/4　粘性・しまりやや強。
　にぶい黄褐色シルトをまだらに含。
SD2032
1　褐色シルト10YR4/4　粘性・しまりやや強。
　にぶい黄褐色シルトブロックをまだらに含。

9区

SD2000～2002（17J近世以降）

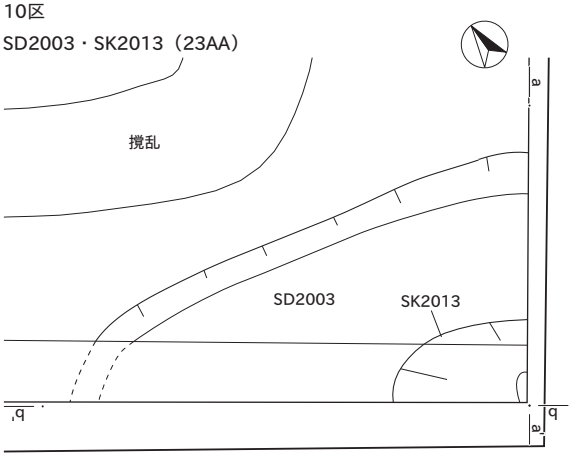


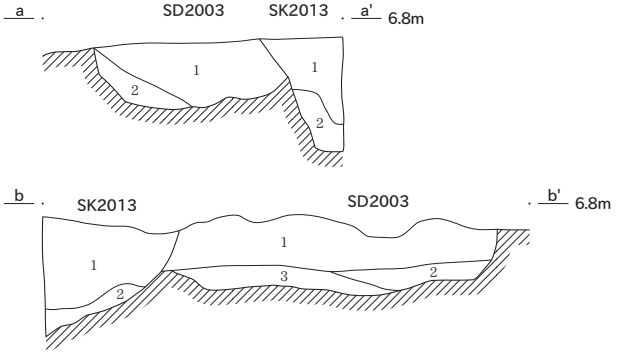
SD2000
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性弱・しまりやや強。鉄分を少量含。
SD2001
1　暗褐色シルト10YR3/3　粘性・しまりやや強。炭化物粒子を微量含。

SD2002
1　暗褐色シルト10YR3/4　粘性弱・しまりやや強。

10区

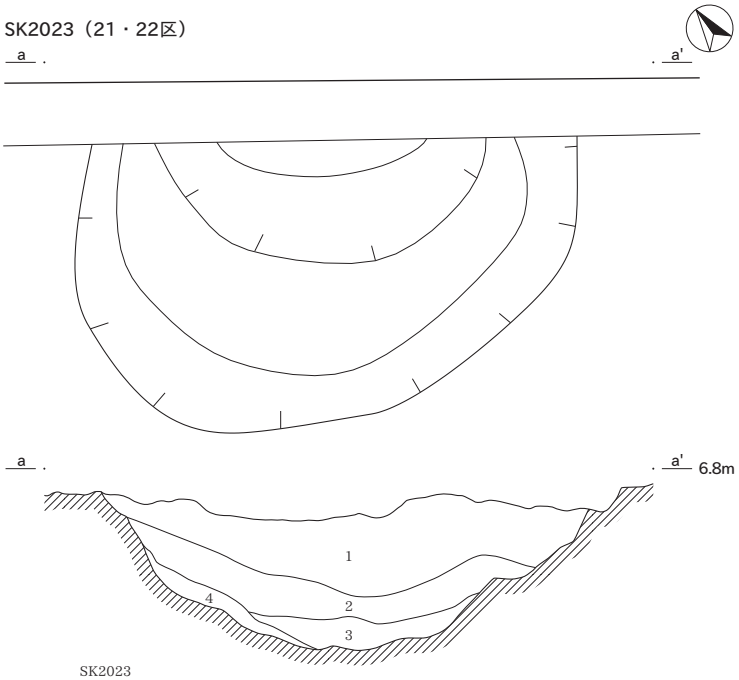
SD2003・SK2013（23AA）





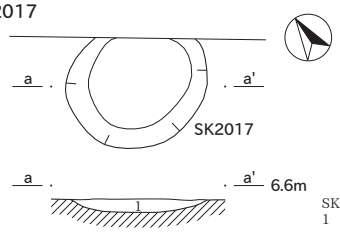
SD2003
1　褐灰色シルト10YR5/1　　粘性弱・しまり弱。にぶい黄褐色シルトブロック10YR4/3を少量含。
2　褐灰色シルト10YR6/1　　粘性やや強・しまり弱。
3　オリーブ褐色砂質シルト2.5YR4/3　粘性弱・しまり強。
SK2013
1　褐灰色シルト10YR4/1　　粘性弱・しまり弱。
2　灰オリーブ色シルト5Y5/2　　粘性弱・しまり弱。

SK2023（21・22区）



SK2023
1　暗灰黄褐色シルト2.5Y5/2　粘性・しまりやや強。
2　暗灰黄褐色砂質シルト2.5Y5/2とにぶい黄褐色砂質シルト10YR4/3の混在層　粘性・しまりやや強。
3　暗灰黄褐色砂質シルト2.5Y4/2とにぶい黄褐色砂質シルト10YR4/3の混在層　粘性・しまりやや強。
4　褐灰色細砂10YR5/1とにぶい黄褐色細砂10YR4/1の混在層　粘性弱・しまりやや強。

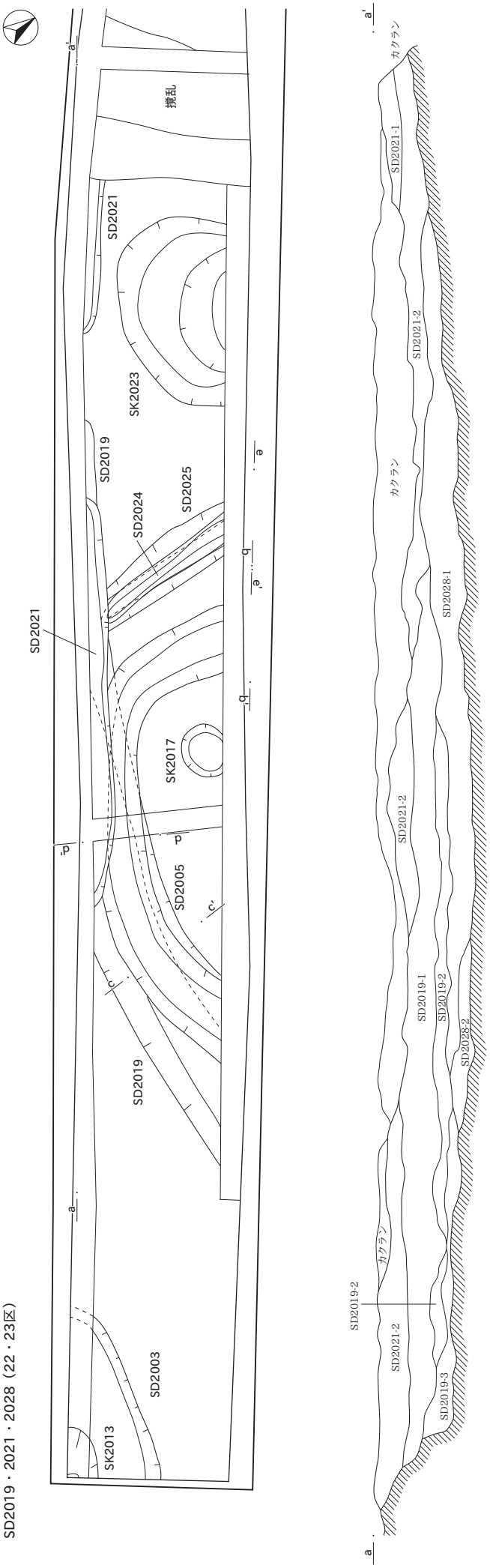
SK2017

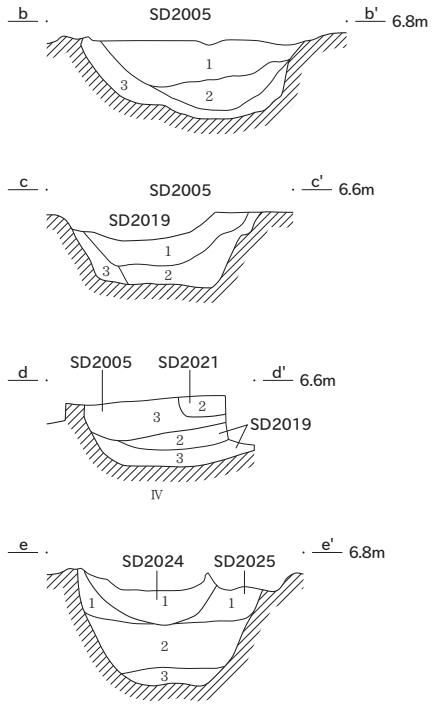


SK2017
1　オリーブ褐色粘質シルト2.5Y4/3　粘性やや強・しまり弱。

SD2000・2001・2002・2031・2032平面図（1：80）　0　4m

その他（1：40）　0　2m

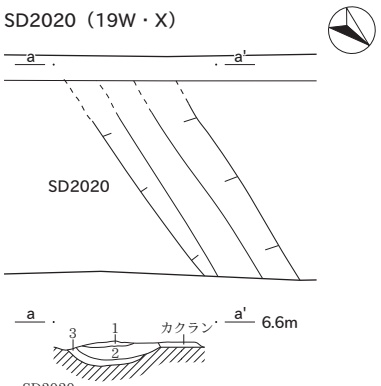




SD2005
1　暗灰黄色シルト2.5Y4/2　　粘性弱・しまり弱。
2　褐色粘質シルト10YR4/4　　粘性やや強・しまり強。
3　オリーブ褐色砂質シルト2.5Y4/4　　粘性弱・しまり強。
SD2019
1　にぶい黄褐色粘質シルト10YR4/3と褐色シルト10YR4/6の混在層　粘性やや強・しまり弱。
2　暗灰黄色シルト2.5Y5/2と褐色シルト10YR4/6の混在層　粘性弱・しまり強。黒褐色シルトブロックを多量に含。
3　暗灰黄色シルト2.5Y5/2　　粘性弱・しまり弱。
SD2024
1　灰黄褐色シルト10YR4/2　　粘性やや強・しまり強。植物遺体を少量含。
SD2025
1　灰黄褐色シルト10YR5/2　　粘性弱・しまり強。
2　オリーブ褐色シルト2.5Y4/3　　粘性やや強・しまり強。
3　暗灰黄褐色砂質シルト2.5Y4/2　　粘性やや強・しまり弱。

SD2019
1　にぶい黄褐色粘質シルト10YR4/3　粘性やや強・しまり弱。
2　灰黄褐色粘質シルト10YR4/2　　粘性やや強・しまり弱。
3　灰黄褐色砂質シルト10YR5/2　　粘性弱・しまり弱。
SD2021
1　灰黄褐色シルト10YR5/2　　粘性やや強・しまり強。径2～3cmの褐灰色シルトブロックを少量・鉄分を多量含。
2　灰黄褐色シルト10YR4/2　　粘性やや強・しまり強。径2～3cmの褐灰色シルトブロック・鉄分を少量含。
SD2028
1　褐灰色砂質シルト10YR5/1　　粘性やや強・しまり弱。
2　褐灰色砂質シルト10YR4/1　　粘性弱・しまり弱。

SD2020（19W・X）

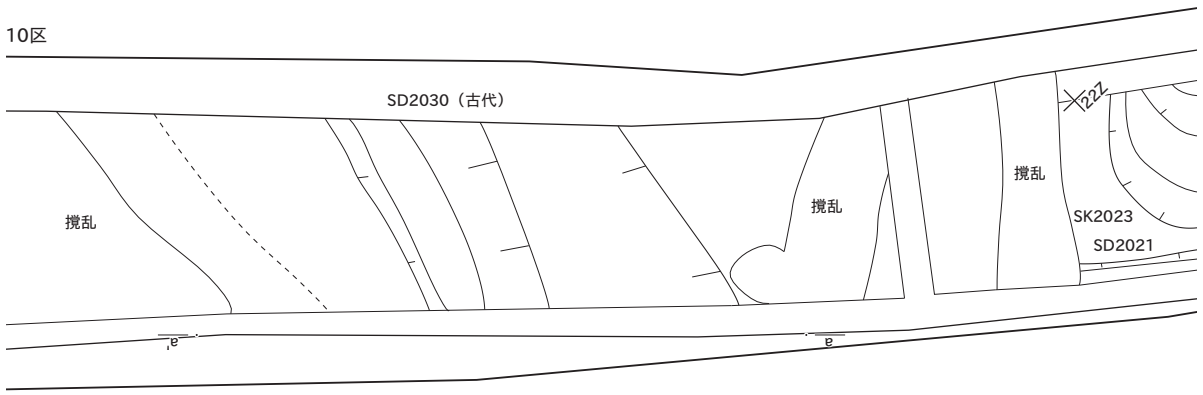


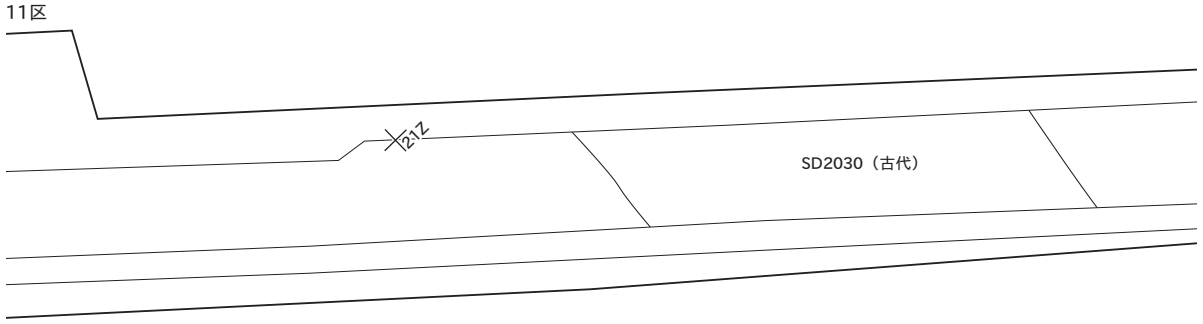
SD2020
1　灰黄褐色シルト10YR5/2　　粘性・しまりやや弱。炭化物をわずかに含む。
2　黄褐色粘質シルト2.5Y5/3　　粘性・しまりやや強。
3　黄褐色粘質シルト2.5Y5/3　　粘性・しまりやや強。灰黄色粘土ブロックを少量含む。

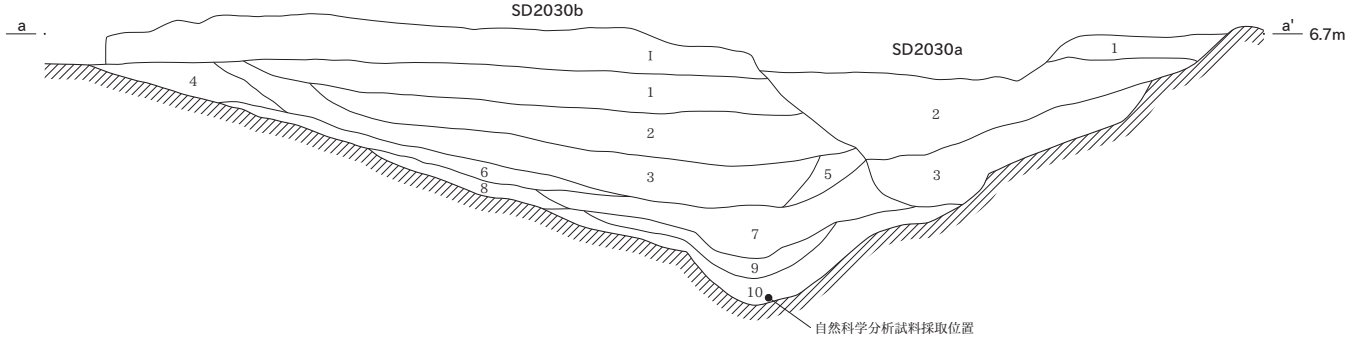
0　SD2019・2021・2028断面図（1：60）　3m
0　SD2019・2021・2028平面図（1：80）　4m
0　その他（1：40）　2m

SD2019・2021・2028（22・23区）

SD2030（21Y・Z）







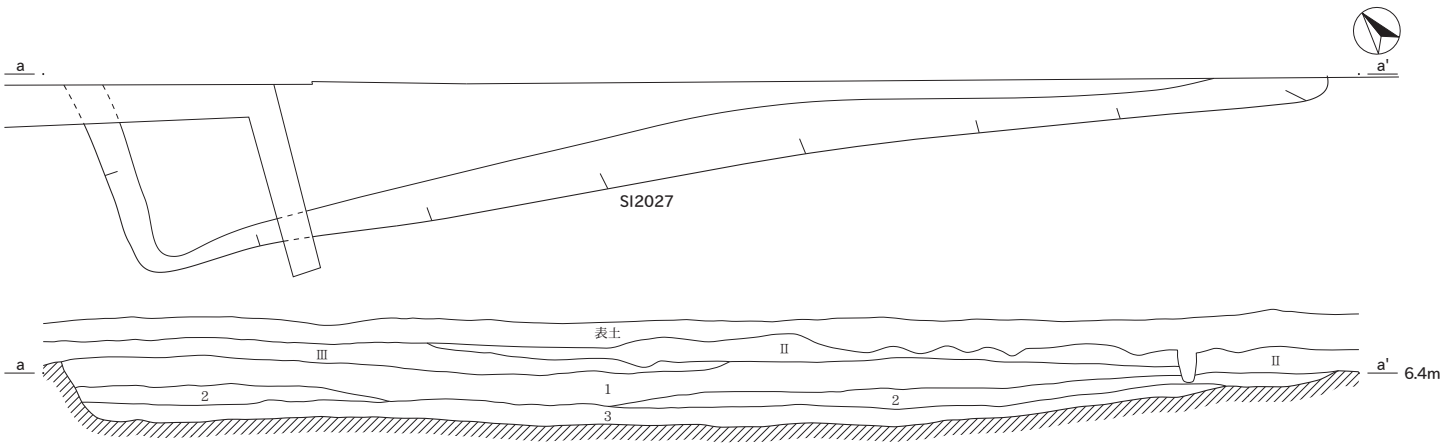
SD2030b
- I　にぶい黄褐色シルト10YR4/3　粘性・しまりやや強。Ⅳ層をブロック状に含。
- 1　灰褐色シルト10YR4/2　粘性・しまりやや強。Ⅳ層をブロック状に含。炭化物・褐灰色シルト10YR4/1をブロック状に含。
- 2　灰黄褐色シルト10YR5/2　粘性・しまりやや強。炭化物・径2cmの褐灰色シルト10YR4/1をブロック状に多量含。
- 3　黒褐色シルト10YR3/2　粘性・しまりやや強。炭化物・褐灰色シルト10YR4/1をブロック状に含。
- 4　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまりやや強。径Ⅳ層をブロック状に含。
- 5　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまりやや強。炭化物・Ⅳ層をブロック状に含。
- 6　黒褐色シルト10YR3/2　粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含。
- 7　褐灰色粘土10YR5/1　粘性強・しまりやや強。炭化物・褐灰色シルトをブロック状に多量含。
- 8　褐灰色粘土10YR4/1　粘性強・しまりやや強。炭化物を含む。
- 9　褐灰色粘土10YR4/1　粘性強・しまりやや強。炭化物を多量含。
- 10　褐灰色粘土10YR5/1　粘性強・しまりやや強。炭化物植物遺存体を含。

SD2030a
- 1　にぶい黄褐色シルト10YR4/3
- 2　にぶい黄橙シルト10YR6/4
- 3　青灰色シルト10BG6/1

0　断面図（1：40）　2m

0　平面図（1：80）　4m

SI2027（14T）



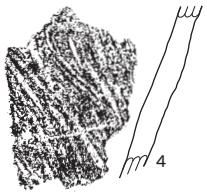
SI2027
1　灰黄褐色土10YR4/2　　粘性・しまりやや強。炭化物・径1cmの灰黄褐色土をブロック状に含む。
2　褐色シルト10YR4/4　　粘性・しまりやや強。炭化物を多量に含む。
3　灰黄褐色粘土10YR5/2　粘性強・しまり強。

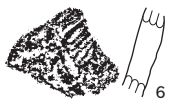
10区（1～3）

SD2030（1）

撹乱（2・3）

11区撹乱（4～6）

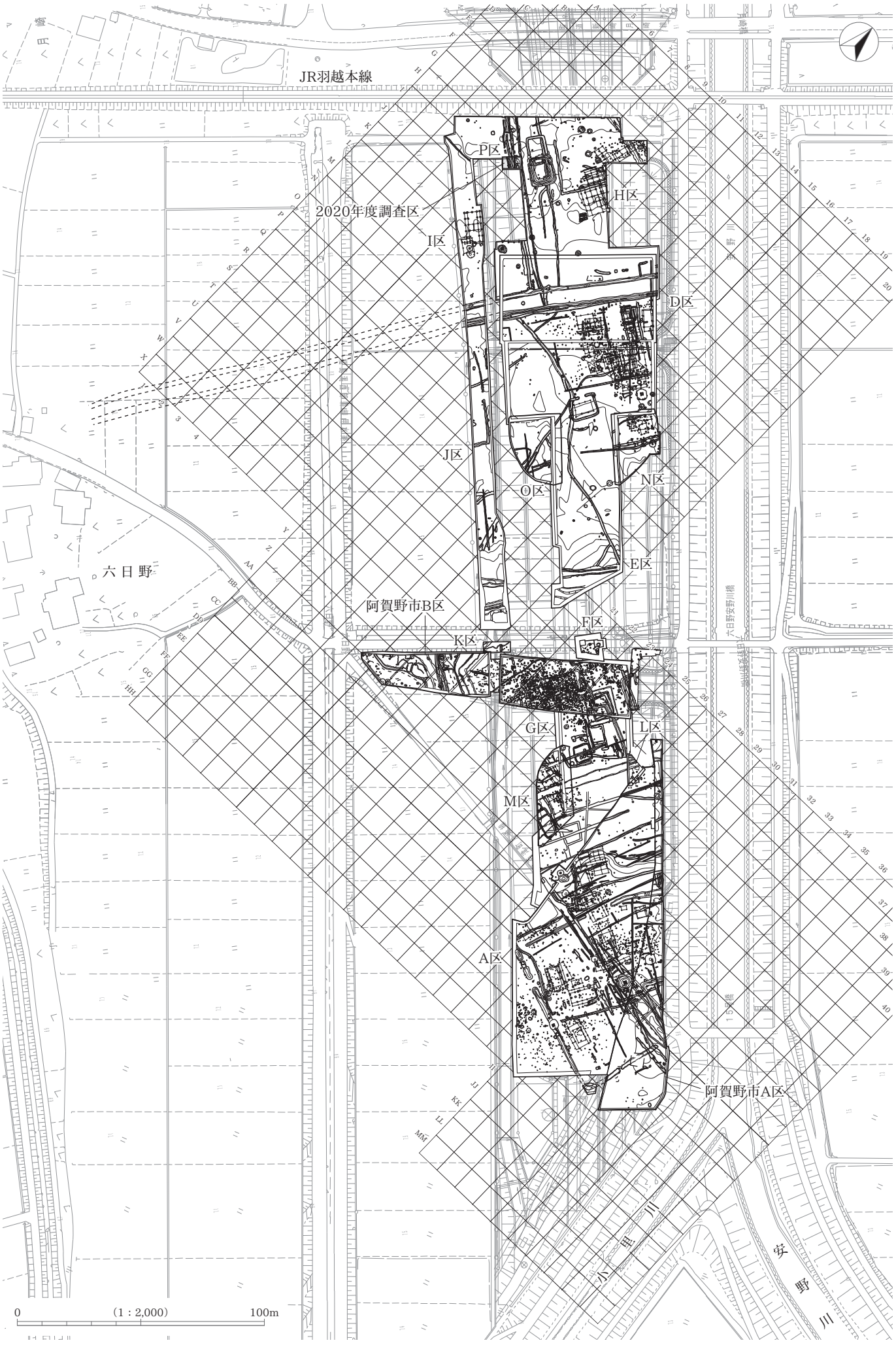


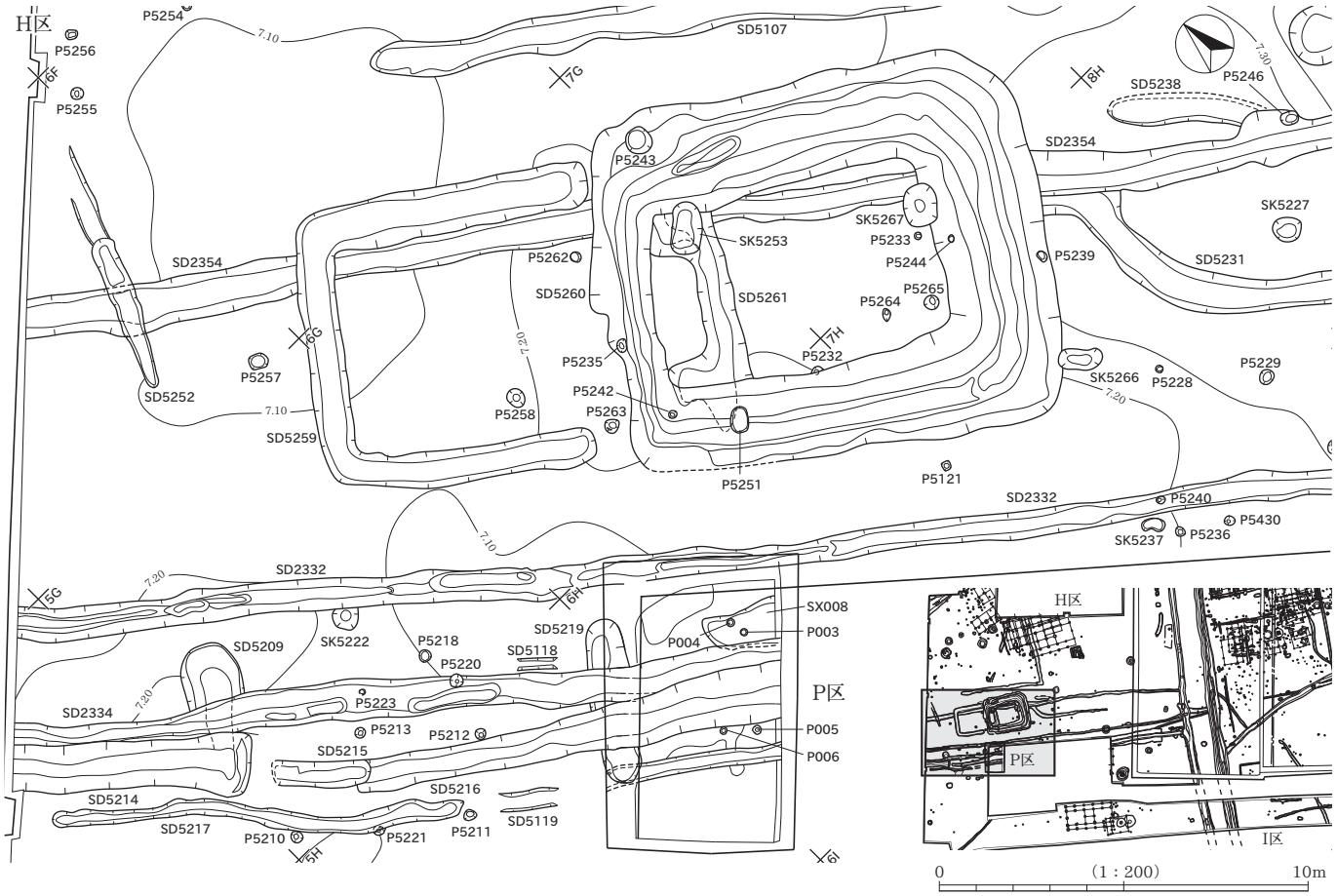


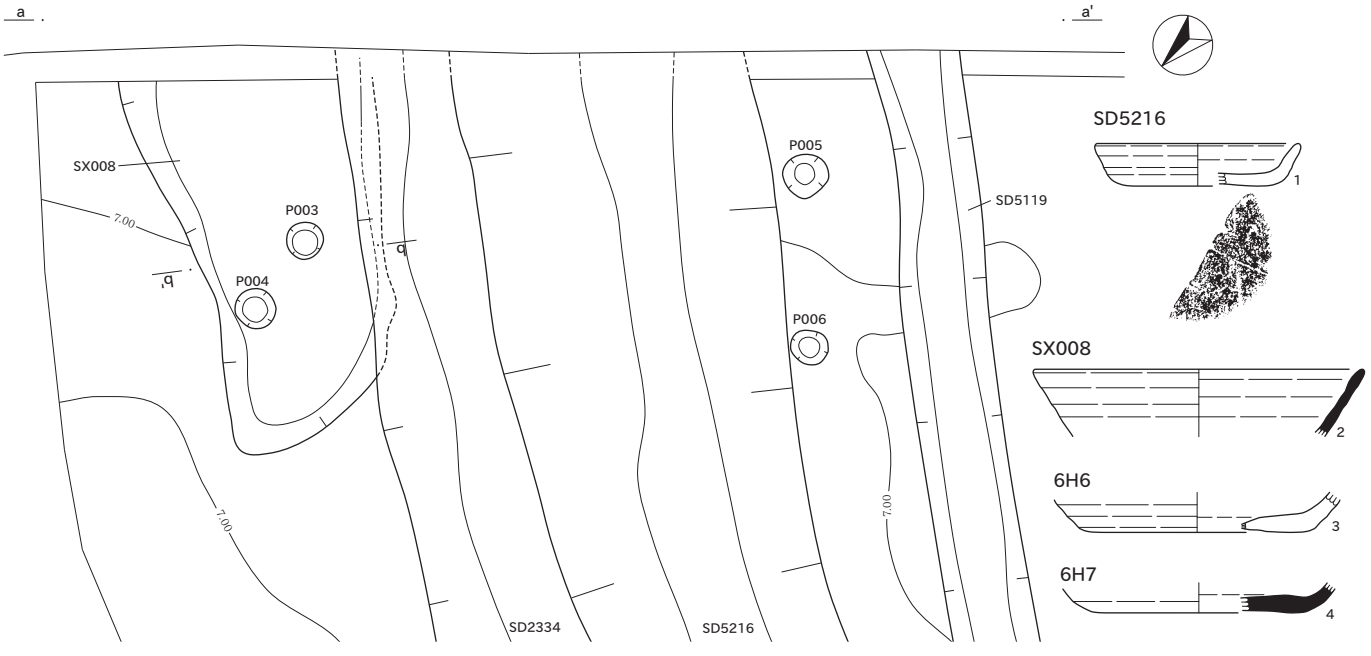
0　断面図（1：40）　2m

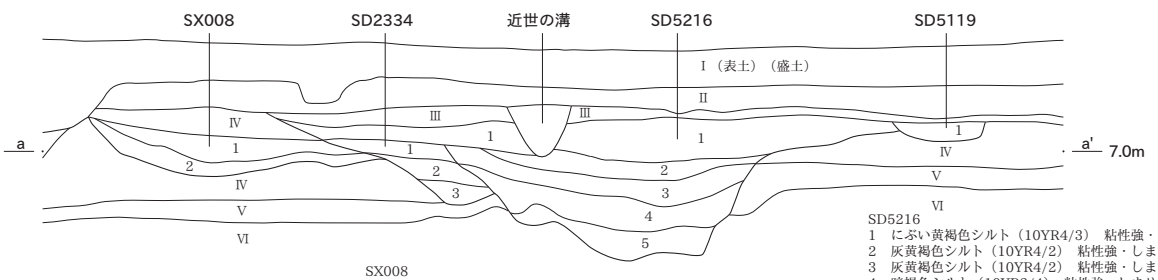
0　平面図（1：80）　4m

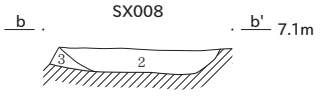
0　遺物図（1～6）　15cm　(1:3)


JR羽越本線
2020年度調査区
P区
H区
I区
D区
J区
N区
O区
E区
六日野
阿賀野市B区
F区
K区
G区
L区
M区
A区
阿賀野市A区
六日野安野川橋
小里川
安野川
0
（1：2,000）
100m









SX008
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性強・しまり強。黒褐色シルトブロック、黄橙色シルトブロック、2～3mmの炭化物を含む。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR6/4）　粘性強・しまり強。黒褐色シルトブロック、にぶい黄橙色シルトブロック、2～3mmの炭化物を含む。
3　にぶい黄橙色シルト（10YR6/4）　粘性やや強・しまり強。砂粒を多量、2～3mmの炭化物を少量含む。

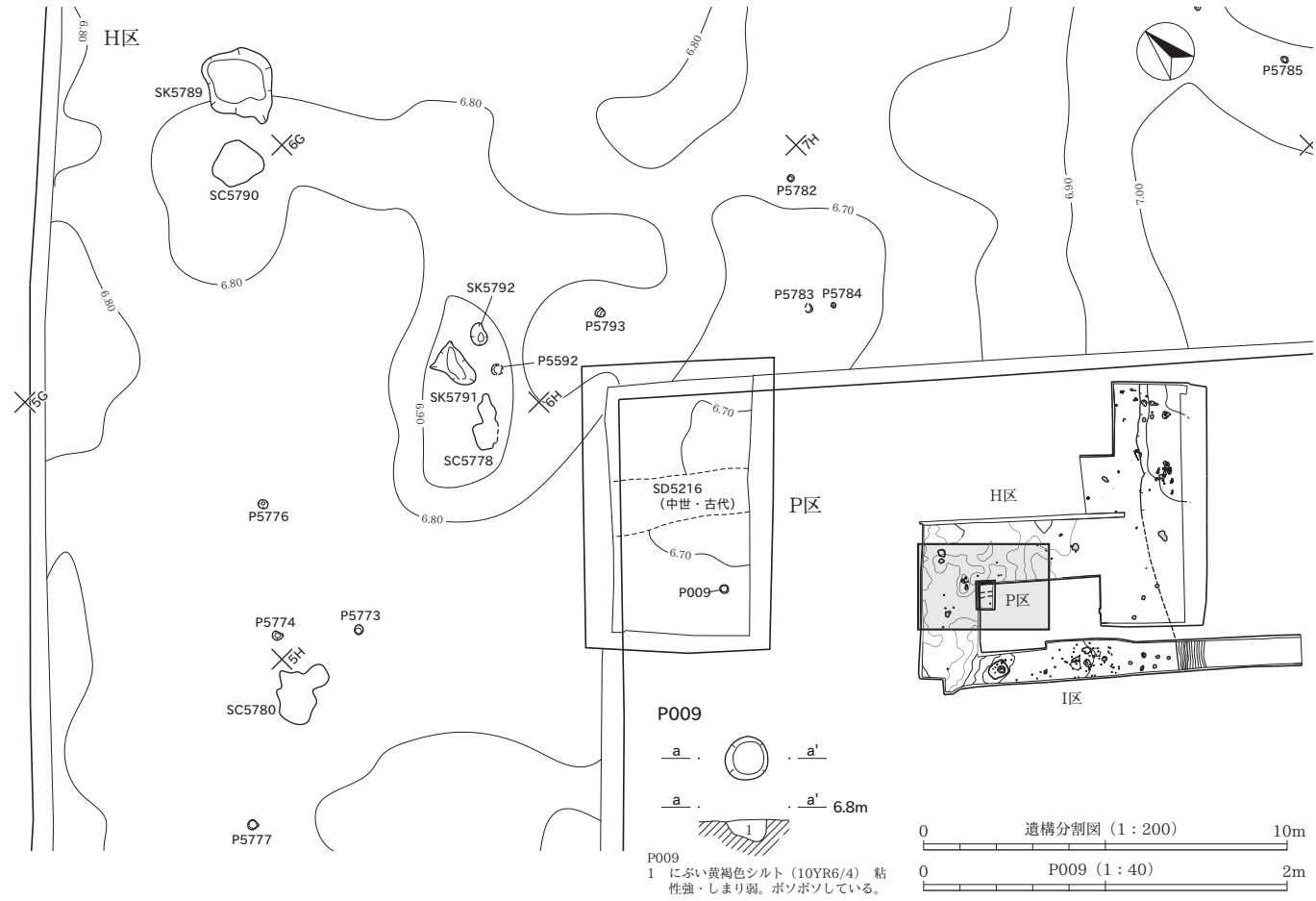
SD2334
1　にぶい黄褐色シルト（10YR5/4）　粘性やや強・しまり強。
2　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや強・しまり強。
3　褐色シルト（10YR4/4）　粘性強・しまり強。

SD5216
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性強・しまり強。
2　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性強・しまり強。
3　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性強・しまり強。3～5mmの炭化物を含む。
4　暗褐色シルト（10YR3/4）　粘性強・しまり強。5mmの炭化物を含む。
5　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性強・しまり強。5mmの炭化物をわずかに含む。

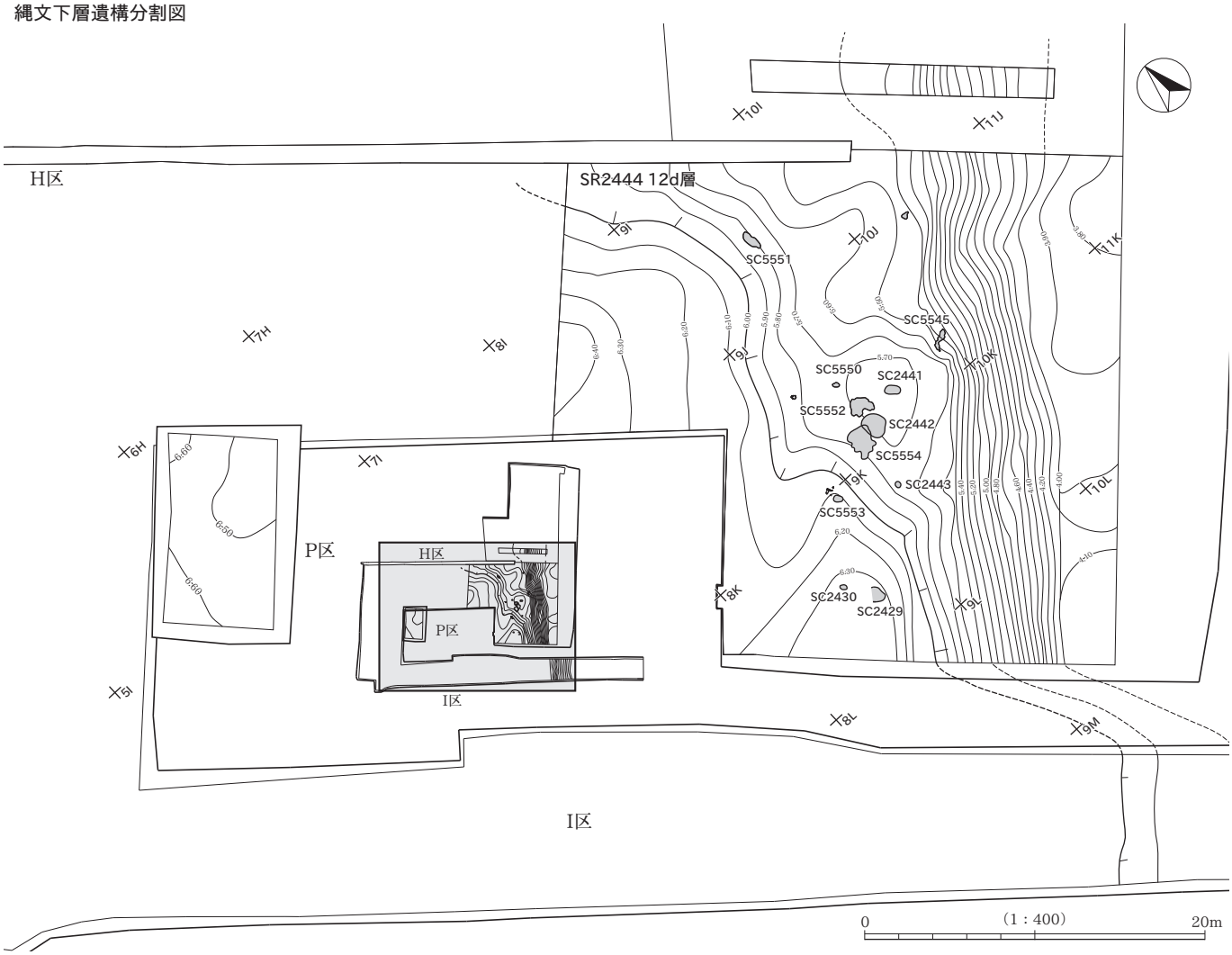
SD5119
1　褐灰色シルト（10YR5/1）　粘性強・しまり強。

0　遺構（1：40）　2m
0　遺物（1：3）　15cm

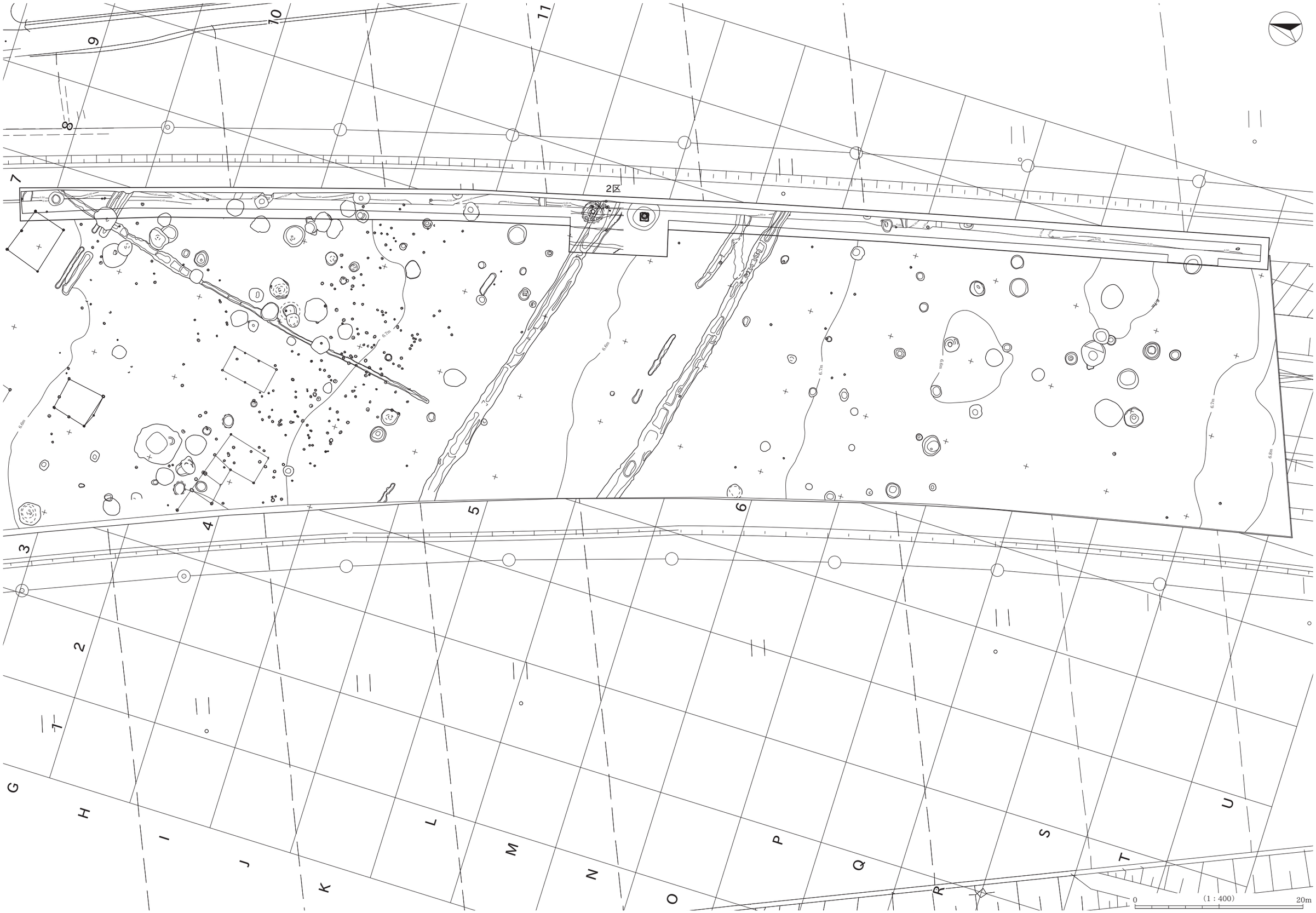
縄文上層遺構分割図

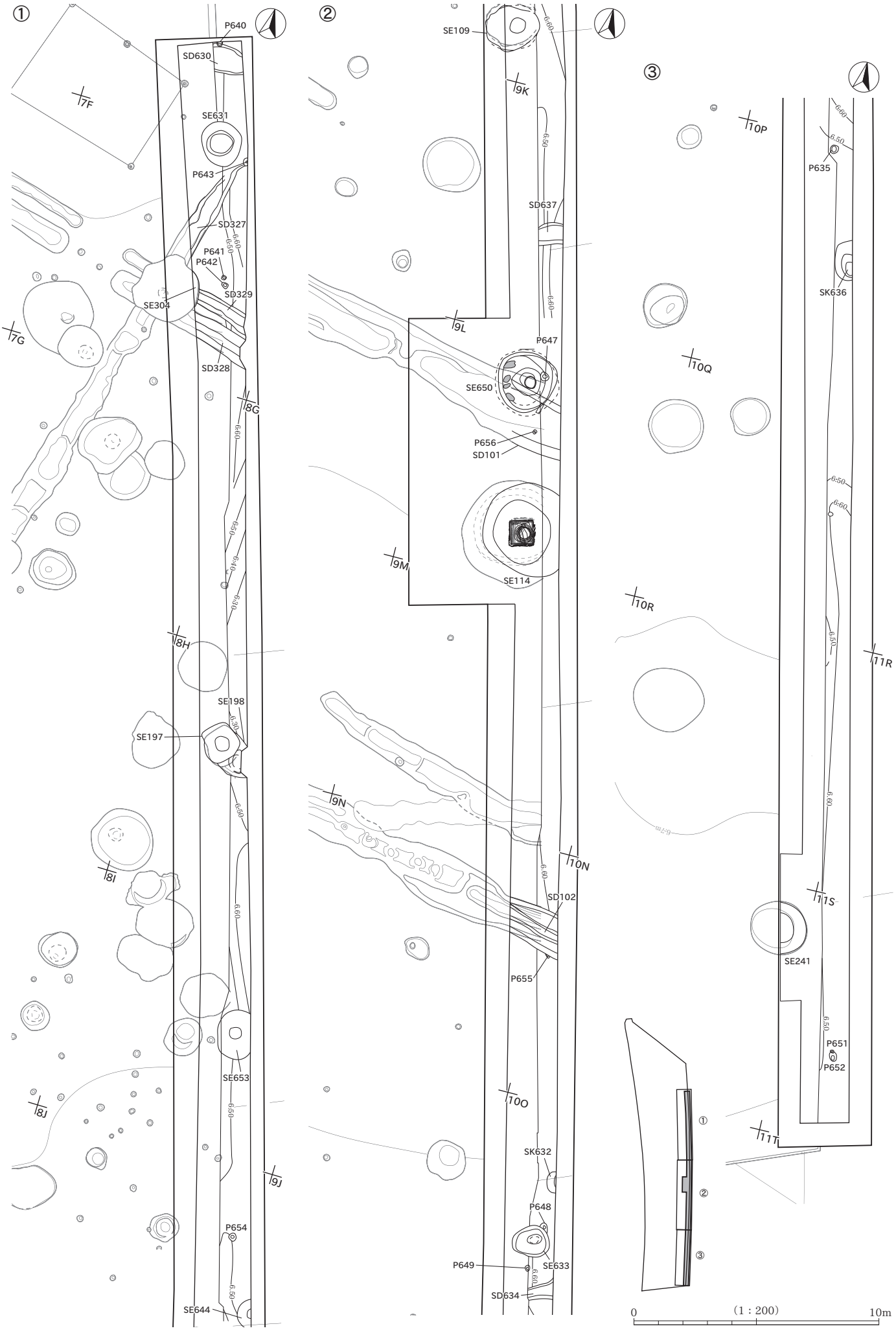


縄文下層遺構分割図

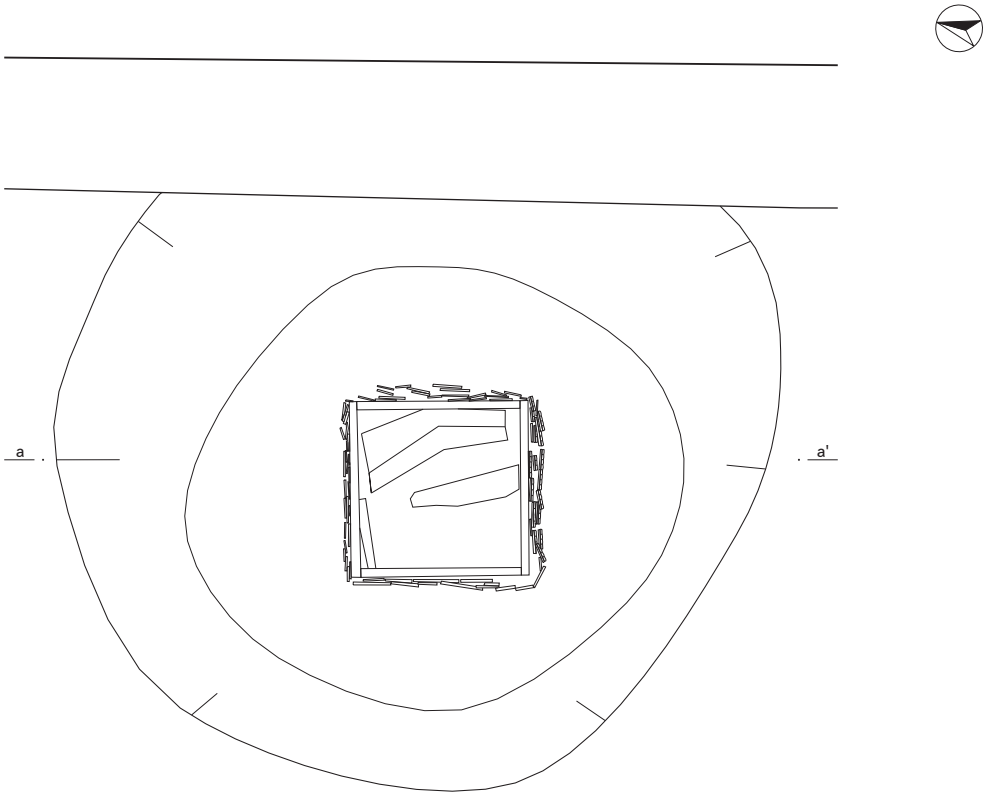


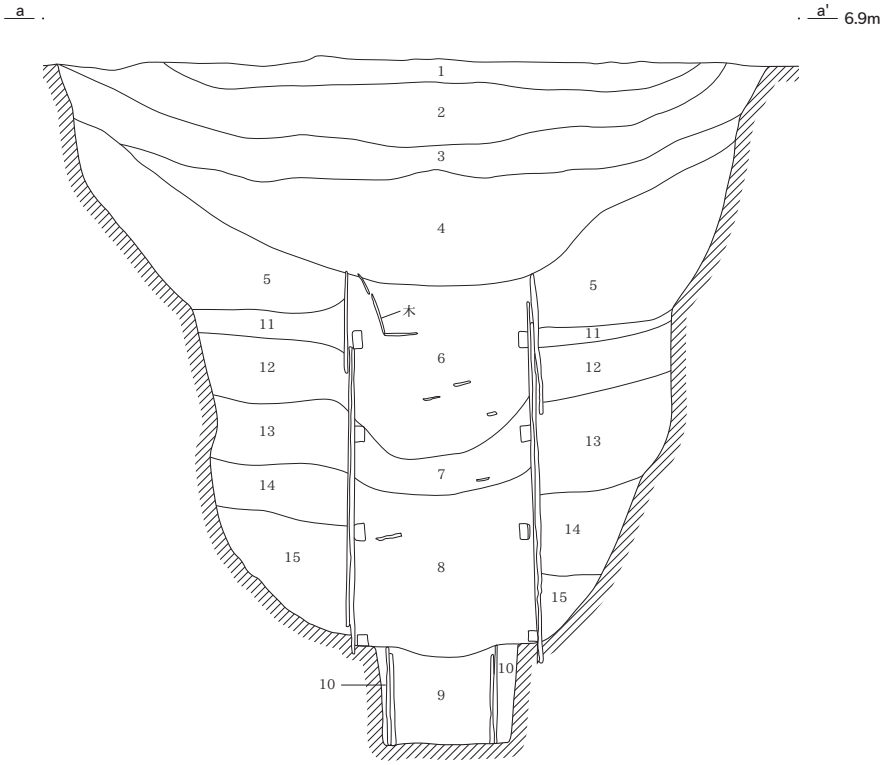
2014年度調査区
2区
水原町屋外運動場
(用地造成工事中)
テニスコート
2021年度調査範囲
0
(1：1,500)
50m


2区
0
(1 : 400)
20m


①
②
③
P640
SD630
SE631
P643
SD327
P641
P642
SD329
SE304
SD328
SE198
SE197
SE653
P654
SE644
SE109
SD637
P647
SE650
P656
SD101
SE114
SD102
P655
SK632
P648
P649
SE633
SD634
P635
SK636
SE241
P651
P652
7F
7G
8G
8H
8I
8J
9J
9K
9L
9M
9N
10N
10O
10P
10Q
10R
11R
11S
11T
6.60
6.50
6.40
6.30
0
(1 : 200)
10m

SE114（9L）

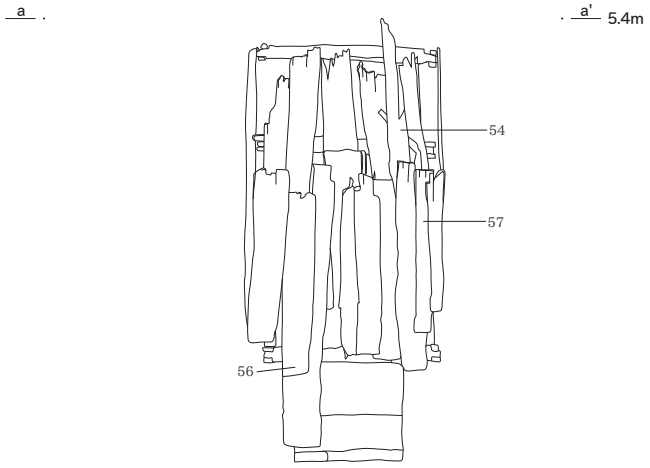




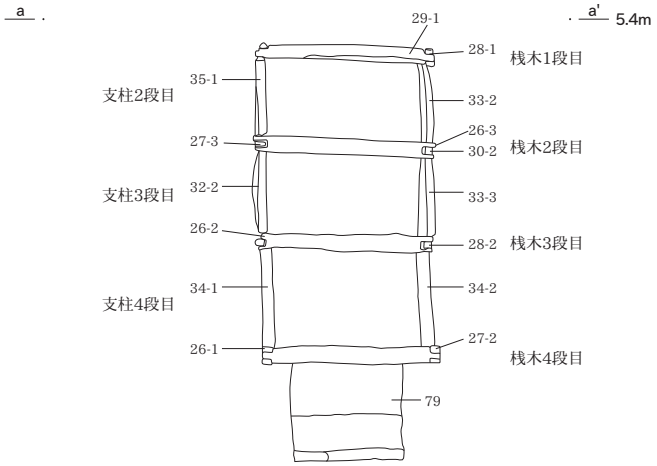
SE114
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性・しまり中。褐灰色シルトブロック・径1～2mmの炭化物を微量含む。
2　灰黄褐色シルト10YR4/2と暗灰黄色シルト2.5Y5/2の混在層　粘性中・しまり弱。径2～10mmの炭化物を微量含む。
3　暗灰黄色シルト2.5Y5/2　灰黄褐色シルトブロックを少量含む。粘性・しまり弱。径5～15mmの炭化物を微量含む。
4　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性中・しまり弱。径2～10cmの暗灰黄色シルトブロックを多量・径1～5mmの炭化物を微量含む。
5　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性中・しまり弱。径1～10cmの暗灰黄色シルトブロックを少量含む。
6　暗青灰色シルト5BG3/1　粘性強・しまり弱。径2cmの黒色シルトブロック・黄灰色砂・加工木を多量含む。
7　黄灰色砂質シルト2.5Y5/1　粘性強・しまり弱。暗青灰色粘土ブロックを含む。
8　暗青灰色シルト5BG3/1　粘性強・しまり弱。径2cmの黒色シルトブロックを含む。
9　青灰色砂5BG6/1　粘性弱・しまり中。径2cmの黒色シルトブロック・木片を多量含む。
10　青灰色砂5BG6/1　粘性弱・しまり中。
11　明緑灰色シルト7.5GY7/1　粘性・しまり強。径2cmの緑灰色シルトブロックを多量含む。
12　緑灰色シルト7.5GY5/1　粘性強・しまり中。緑灰色砂を含む。
13　緑灰色シルト7.5GY5/1　粘性強・しまり中。
14　緑灰色シルト7.5GY5/1　粘性強・しまり中。明緑灰色砂を含む。
15　緑灰色シルト7.5GY5/1　粘性強・しまり弱。

0　（1：40）　2m

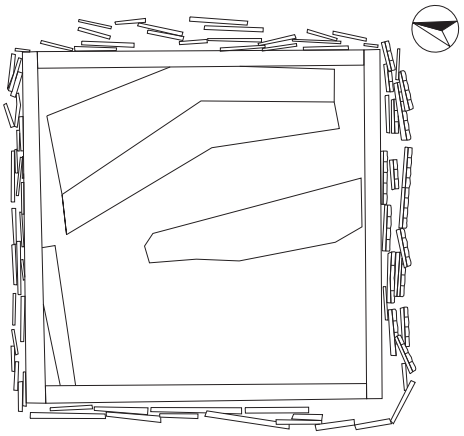
SE114　井戸側側面図①（側板）



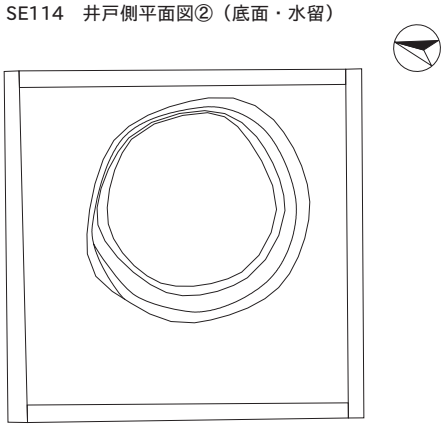
SE114　井戸側側面図②（横桟・水留）



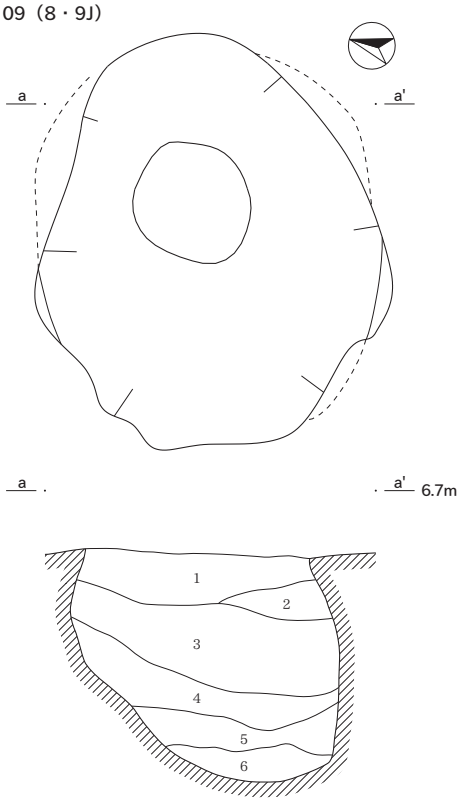
SE114　井戸側平面図①（井戸側出土状況）



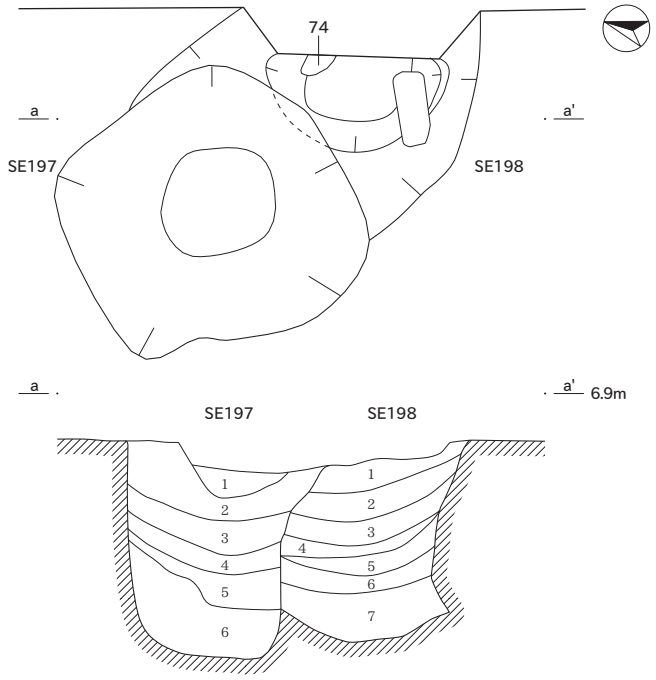
SE114　井戸側平面図②（底面・水留）



SE109（8・9J）



SE197・198（8H）



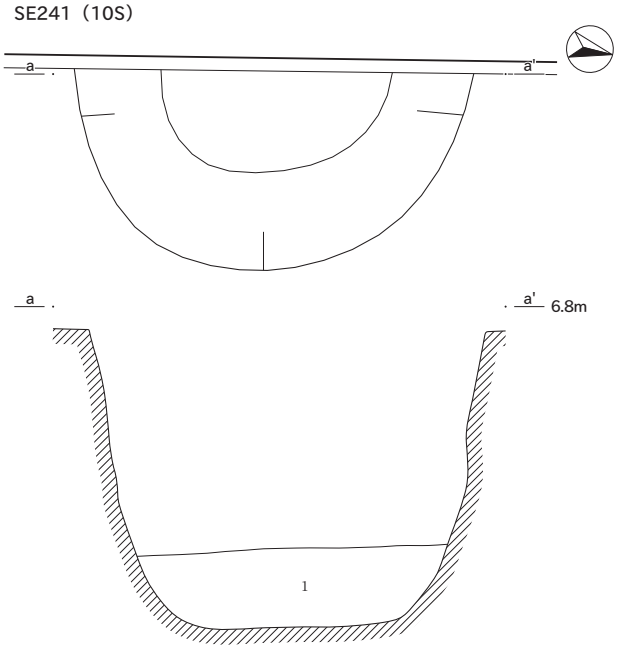
SE109
1　浅黄橙色シルト10YR8/3　粘性・しまり中。径2cmの黒色シルトブロックを含む。
2　浅黄橙色シルト10YR8/3　粘性・しまり中。径2cmの灰白色シルトブロックを含む。
3　浅黄橙色シルト10YR8/3　粘性・しまり中。
4　青灰色シルト5BG6/1　粘性・しまり中。炭化物を含む。
5　明青灰色シルト5BG7/1　粘性強・しまり弱。
6　明青灰色シルト5BG7/1　粘性強・しまり弱。

SE197
1　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。
2　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。灰褐色シルトブロックを含む。
3　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。灰褐色シルトブロックを少量含む。
4　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。にぶい褐色シルトブロック・炭化物を含む。
5　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。少量のにぶい褐色シルトブロック・炭化物を含む。
6　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性強・しまり中。炭化物を含む。

SE198
1　にぶい褐色シルト7.5YR5/4　粘性・しまり中。灰褐色シルトブロックを含む。
2　黒色シルト7.5YR2/1　粘性中・しまり強。オリーブ灰色シルトブロック・炭化物を含む。
3　黒色シルト7.5YR2/1　粘性強・しまり中。オリーブ灰色シルトブロックを多量含む。
4　黒色シルト7.5YR2/1　粘性強・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを含む。
5　黒色シルト7.5YR2/1　粘性強・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
6　にぶい褐色シルト7.5YR5/3　粘性強・しまり中。
7　青灰色シルト5BG6/1　粘性強・しまり中。炭化物を含む。

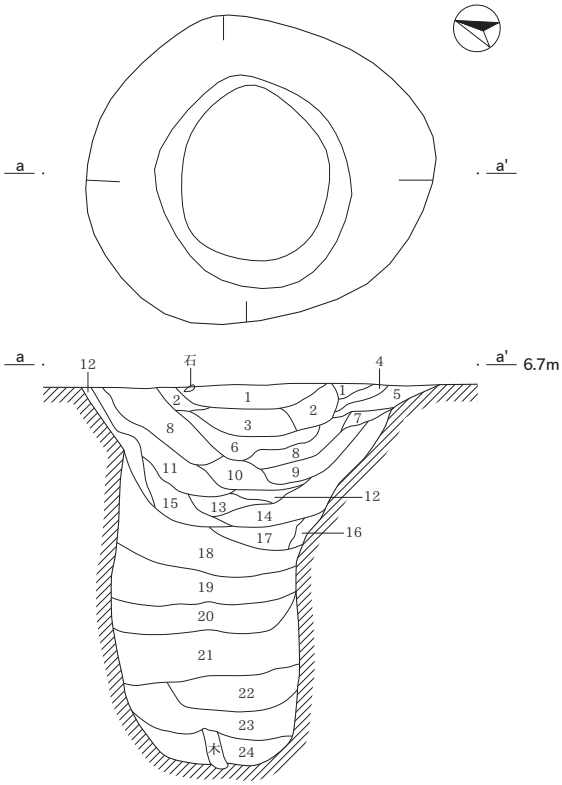
0　SE114（1：20）　1m　　0　SE109・197・198（1：40）　2m

SE241（10S）



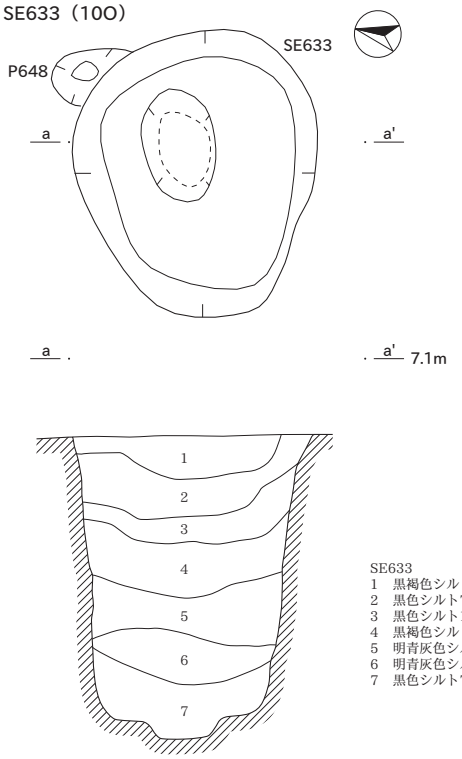
SE241
1　2.5Y5/2暗灰黄色シルト質粘土　粘性中・しまり弱。

SE631（7E・F）



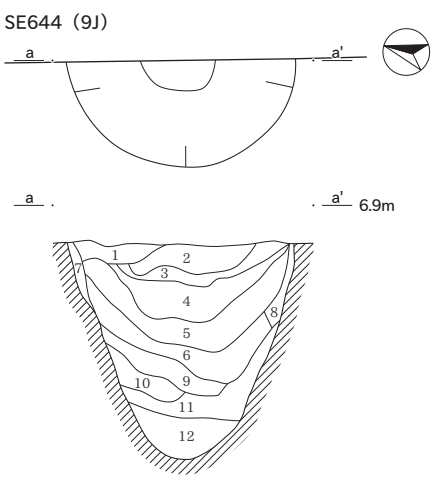
SE631
1　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性・しまり中。径1～1.5cmの灰黄褐色シルトブロック・微量の炭化物粒子を含む。
2　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性・しまり中。径2～10cmの灰オリーブシルトブロックを多量含む。
3　黒褐色シルト7.5YR3/1　粘性・しまり中。径1～5cm灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
4　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。径1～3cmの灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
5　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。径1～10cmの灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
6　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。
7　褐灰色シルト10YR4/1　粘性弱・しまり中。径1～3cmのにぶい黄褐色シルト・径1mm以下の炭化物を少量含む。
8　にぶい黄褐色シルト10YR5/3　粘性中・しまり弱。
9　褐灰色シルト10YR4/1　粘性弱・しまり中。径3～8cmのにぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。
10　褐灰色シルト10YR4/1　粘性弱・しまり中。径1～3cmの炭化物を少量含む。
11　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。径5～10cmのにぶい黄褐色シルトブロックを多量・径1～2mmの炭化物を少量含む。
12　にぶい黄褐色シルト10YR5/3　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトを少量含む。
13　黒褐色シルト10YR3/1　粘性中・しまり弱。径1～2cmの炭化物を微量含む。
14　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。径2cmのにぶい黄褐色シルトを含む。
15　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトを含む。
16　黒褐色シルト10YR3/1　粘性・しまり中。径1cmのにぶい黄褐色シルトを含む。
17　褐灰色シルト10YR5/1　粘性・しまり中。径5mmの褐灰色シルトブロックを含む。
18　褐灰色シルト10YR5/1　粘性・しまり中。径5mmの褐灰色シルトブロックを含む。
19　褐灰色シルト10YR6/1　粘性強・しまり弱。径1cmの灰黄褐色シルトブロックを含む。
20　褐灰色シルト10YR5/1　粘性・しまり強。
21　黒褐色シルト10YR3/1　粘性強・しまり弱。径2～5cmの灰色シルトを多量・炭化物を少量含む。
22　黒褐色シルト10YR3/1と褐灰シルト10YR5/1の混在層　粘性強・しまり弱。
23　黒褐色シルト10YR3/1と褐灰シルト10YR5/1の混在層　粘性中・しまり弱。
24　褐灰粘土10YR5/1　粘性強・しまり弱。暗オリーブ灰色砂を少量含む。

SE633（10O）

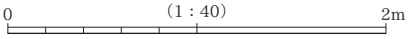


SE633
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性弱・しまり強。径0.1～2cmの褐灰色シルト・径0.2～30mmの炭化物を多量含む。
2　黒色シルト7.5YR2/1　粘性中・しまり強。
3　黒色シルト10YR2/1　径0.5～1mm・1～5cmの灰黄褐色シルト・下部に土壌化した炭化物を少量含む。
4　黒褐色シルト10YR3/1　粘性中・しまり弱。径1.5cmの炭化物を少量含む。
5　明青灰色シルト5BG7/1　粘性強・しまり中。
6　明青灰色シルト5BG7/1　粘性強・しまり弱。黒色土をブロック状に含む。
7　黒色シルト7.5YR2/1　粘性強・しまり中。明青灰色シルトをブロック状に含む。

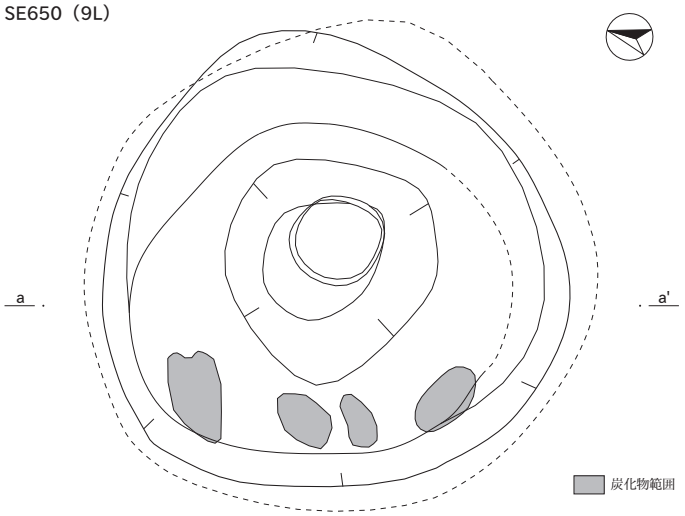
SE644（9J）

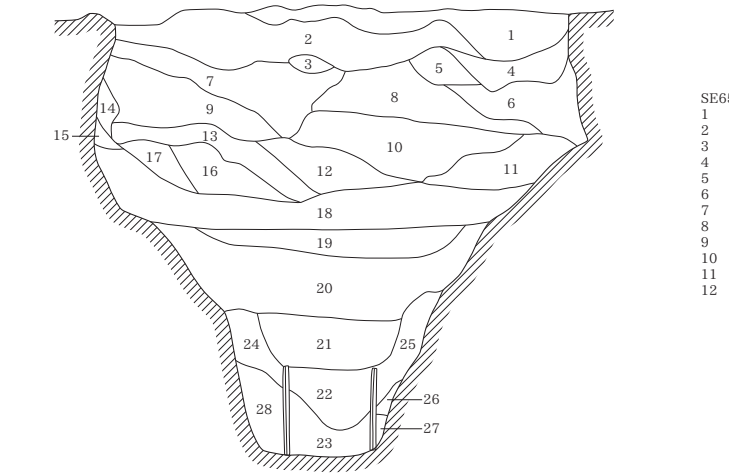


SE644
1　にぶい黄色シルト2.5Y6/3　粘性弱・しまり強。径1～3mmの炭化物を少量含む。
2　暗灰黄色シルト2.5Y4/2　粘性弱・しまり強。径2～3mmのにぶい黄色シルトブロック・径2mm前後と径2～3cmの炭化物・土師器片を少量含む。
3　暗灰黄色シルト2.5Y4/2とにぶい黄色シルト2.5Y6/4の混在層　粘性中・しまり強。
4　浅黄色砂2.5Y7/3　粘性弱・しまり強。
5　黒褐色シルト2.5Y3/1　粘性中・しまり強。径1～5mmの炭化物を少量含む。
6　黒褐色シルト10YR3/1　粘性中・しまり弱。径1～3cmの黄灰色シルトブロックを多量・径1～3cmの炭化物を少量含む。
7　黄灰色シルト2.5Y5/1　粘性中・しまり強。
8　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性中・しまり強。
9　黒褐色粘質シルト10YR3/1と黄灰色粘質シルト2.5Y6/1の混在層　粘性強・しまり弱。
10　黒褐色粘質シルト10YR3/1　粘性強・しまり弱。黄灰色粘質シルトブロックを含む。
11　黒褐色粘質シルト10YR3/1　粘性中・しまり強。
12　黒褐色粘質シルト10YR3/2　粘性強・しまり弱。



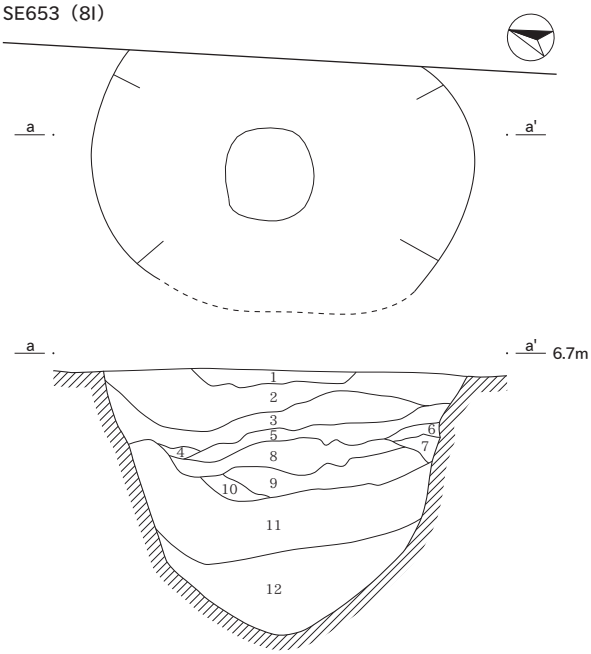
SE650（9L）





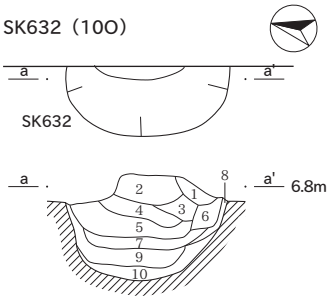
SE650
1　灰黄色シルト2.5Y6/2と灰黄色砂2.5Y7/2の混在層　粘性弱・しまり強。
2　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性弱・しまり強。径1～3cmの灰色シルトを少量含む。
3　黄灰色シルト2.5Y4/1　粘性弱・しまり強。
4　暗灰黄色シルト2.5Y5/2　粘性弱・しまり強。径2～5cmの黒褐色シルト・径8cmの灰色シルトを含む。
5　黒色シルト5Y2/1　粘性弱・しまり強。径1～2cmの灰オリーブ色シルトを少量含む。
6　暗オリーブ色シルト5Y4/3　粘性弱・しまり強。径2～5cmの黒褐色シルトを少量・径5～12cmの暗灰黄色シルトを多量含む。
7　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性弱・しまり強。黒色シルトブロックを含む。
8　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性弱・しまり強。
9　黄褐色シルト2.5Y5/3　粘性弱・しまり強。
10　黄灰色シルト2.5Y6/1　粘性弱・しまり強。
11　灰色シルト7.5Y6/1　粘性弱・しまり弱。
12　暗灰黄色シルト2.5Y5/2　粘性弱・しまり強。
13　灰色シルト7.5Y5/1　粘性中・しまり強。径2～6cmの黒色シルトを含む。
14　灰色シルト5Y5/1　粘性弱・しまり強。
15　灰オリーブ色シルト5Y6/2と灰色シルト5Y4/1の混在層　粘性・しまり弱。
16　黄灰色シルト2.5Y6/1　粘性・しまり弱。
17　灰褐色砂7.5YR6/2　粘性・しまり弱。灰オリーブ色砂を多量含む。
18　灰色砂5Y6/1　粘性弱・しまり強。
19　灰色粘土10Y6/1　粘性中・しまり弱。
20　灰色砂7.5Y4/1　粘性中・しまり強。灰色粘土ブロックを少量含む。
21　オリーブ黒色砂7.5Y3/1　粘性・しまり弱。
22　黒色砂7.5Y2/1　粘性・しまり弱。
23　灰色砂7.5Y4/1　粘性・しまり弱。
24　灰色砂7.5Y4/1　粘性・しまり弱。
25　灰色砂7.5Y4/1　粘性・しまり弱。オリーブ黒色シルト粒子を含む。
26　灰色砂7.5Y4/1　粘性・しまり弱。
27　青黒色シルト5BG2/1　粘性強・しまり弱。
28　青黒色シルト5BG2/1　粘性強・しまり弱。

SE653（8I）



SE653
1　灰黄褐色シルト10YR5/2　粘性弱・しまり強。
2　にぶい黄橙色シルト10YR6/3　粘性弱・しまり強。
3　褐灰色シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。径1～2cmの黒褐色シルトを少量含む。
4　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性強・しまり弱。
5　褐灰色シルト10YR6/1と黒褐色シルト10YR3/1の混在層　粘性強・しまり弱。
6　褐灰色シルト10YR6/1　粘性強・しまり弱。
7　灰白色シルト10YR7/1と褐灰色シルト10YR6/1の混在層　粘性強・しまり弱。
8　黒褐色シルト10YR3/1　粘性強・しまり弱。径1～5mm暗灰黄色シルトを含む。
9　にぶい黄色シルト2.5Y6/3　粘性強・しまり弱。
10　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性強・しまり弱。径1～3mmの黄灰色シルトを少量含む。
11　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性強・しまり弱。
12　青灰色シルト5BG6/1　粘性強・しまり弱。

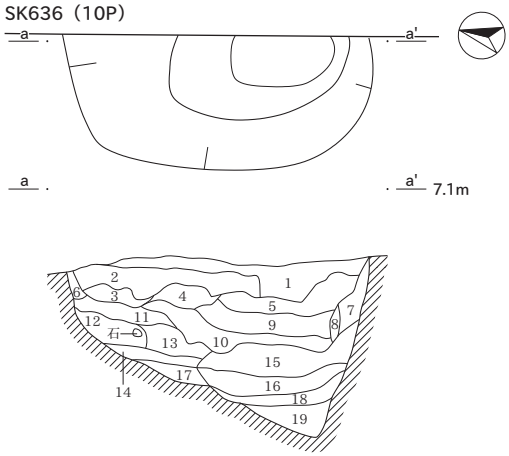
SK632（10O）



SK632
1　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。径2cmのにぶい黄褐色粘土ブロックを含む。
2　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。下部に土壌化した炭化物が堆積する。
3　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。
4　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。下部に土壌化した炭化物が堆積する。
5　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。下部に土壌化した炭化物が堆積する。
6　褐灰色粘質シルト10YR6/1　粘性中・しまり強。径3cmのにぶい黄褐色粘土ブロックを含む。
7　褐灰色粘質シルト10YR5/1　粘性中・しまり強。径1～2cmのにぶい黄褐色粘土ブロックを含む。
8　にぶい黄橙色粘質シルト10YR6/3　粘性中・しまり強。
9　黒色粘質シルト10YR2/1　粘性強・しまり弱。径2cmのにぶい黄褐色粘土ブロックを含む。
10　にぶい黄橙色粘質シルト10YR6/3　粘性中・しまり強。

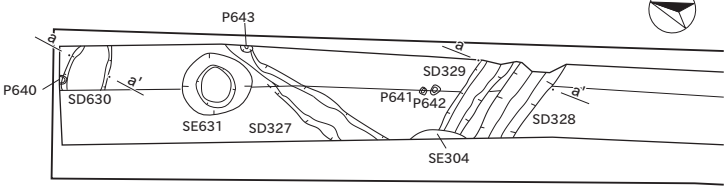
0　(1：40)　2m

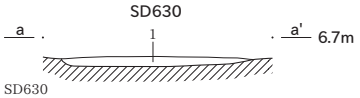
SK636（10P）



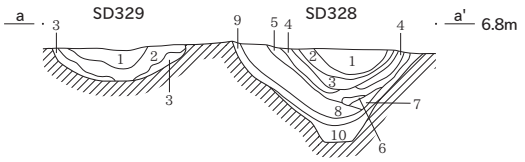
SK636
1　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり中。径1～3mmの褐灰色シルト・径1～10mmの炭化物を少量含む。下部に土壌化した炭化物が堆積する。
2　灰赤シルト2.5YR6/2　粘性・しまり中。褐灰色シルトを少量含む。
3　オリーブ黒色シルト7.5Y3/1　粘性・しまり中。灰黄色シルト粒を多量・径0.5～3cmの炭化物を少量含む。下部に土壌化した炭化物を含む。
4　灰色シルト7.5Y4/1　粘性中・しまり弱。径5cmの土壌化した炭化物・径1～5mmの炭化物を少量含む。
5　オリーブ黒色シルト5Y3/2　粘性中・しまり弱。径0.5～3cmの褐灰色シルト粒・土壌化した炭化物を多量含む。
6　灰色シルト質粘土粘性5Y5/1　粘性弱・しまり中。
7　灰黄色シルト2.5Y6/2と黄灰色シルト2.5Y5/1の混在層　粘性中・しまり弱。
8　オリーブ黒色シルト5Y3/2　粘性中・しまり弱。径1mmの灰黄色シルト粒を少量含む。
9　オリーブ黒色シルト5Y3/1　粘性中・しまり弱。
10　オリーブ黒色シルト5Y3/1　粘性弱・しまり中。径1～5mmの炭化物を少量含む。
11　灰色シルト5Y4/1　径1～5cmの褐灰色粘土ブロックを少量含む。
12　灰黄色シルト2.5Y6/2　粘性・しまり中。径1mmの炭化物を少量含む。
13　灰色シルト5Y5/1　粘性・しまり弱。下部に土壌化した炭化物が堆積する。
14　灰オリーブ色シルト5Y5/2　粘性中・しまり弱。土壌化した炭化物含む。
15　黒褐色シルト10YR2/2　粘性・しまり弱。
16　黒色シルト10YR1.7/1　粘性・しまり弱。
17　黒褐色粘土質シルト2.5Y3/1　粘性中・しまり弱。
18　黒色シルト2.5Y2/1　粘性中・しまり弱。
19　黒褐色粘土2.5Y3/1　粘性中・しまり弱。

SD328・329・630（7E・F）





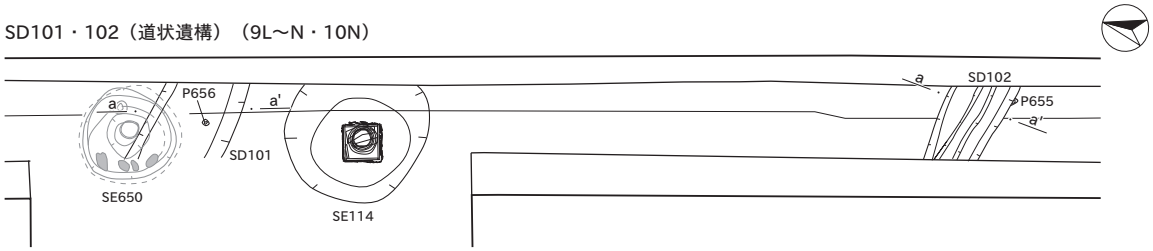
SD630
1　にぶい黄褐色シルト10YR5/3と褐灰色シルト10YR4/1の混在層　径3mm以下の黒褐色シルト粒子を多量含む。

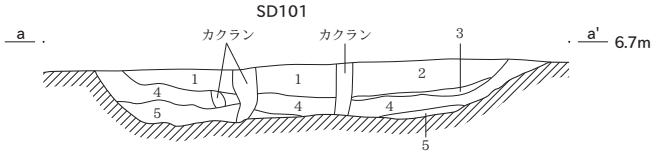


SD329
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性・しまり強。径1cm以下の灰黄色シルト粒・黒色の土壌化が進んだ炭化物を少量含む。
2　褐灰色シルト10YR4/1　粘性・しまり強。径1cm以下の灰黄褐色シルト・径1～5cmの炭化物を少量含む。
3　灰黄褐色土10YR6/2と褐灰色シルト10YR4/1の混在層。　粘性・しまり強。

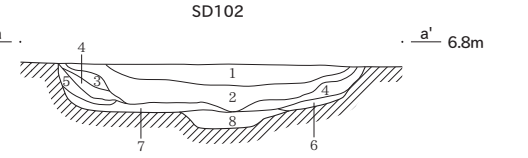
SD328
1　黄灰色シルト2.5Y6/1　粘性弱・しまり強。径3cm以下の灰黄色シルト粒・径1mm前後の炭化物を少量含む。
2　黄灰色シルト2.5Y5/1　粘性・しまり強。炭化物粒子を微量含む。
3　黄褐色シルト2.5Y4/1　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロック・径1～2cmの炭化物を少量含む。
4　黄灰色シルト2.5Y5/1　粘性弱・しまり強。灰黄色シルトブロックを多量・径1～2cmの炭化物を微量含む。
5　黒褐色シルト2.5Y3/1　粘性・しまり弱。灰黄色シルトブロックを多量・径1～2cmの炭化物を少量含む。
6　黒褐色シルト2.5Y3/1　粘性弱・しまり弱。灰黄色シルトブロックを多量・土壌化が進んだ炭化物を含む。
7　黄褐色シルト2.5Y4/1　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルトブロックを多量含む。
8　黄褐色シルト2.5Y4/1　粘性弱・しまり強。淡黄色シルトブロックを多量含む。
9　黄褐色シルト2.5Y4/1　粘性弱・しまり強。淡黄色シルトブロックを少量含む。
10　灰黄色シルト2.5Y8/4　粘性強・しまり弱。灰黄色シルトを少量含む。

SD101・102（道状遺構）（9L～N・10N）



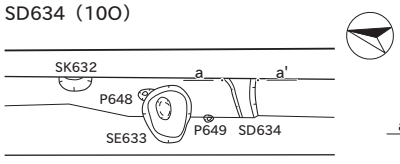


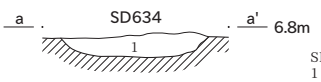
SD101
1　暗灰色シルト7.5YR4/1　粘性弱・しまり中。径1mm以下の明褐灰色シルト粒・径2mmの炭化物・径2～5mmの炭化物を少量含む。
2　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性弱・しまり中。
3　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性弱・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。
4　黒褐色シルト10YR3/1　粘性・しまり中。にぶい黒褐色シルト・炭化物粒子を少量含む。
5　黒褐色シルト7.5YR3/1　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを多量含む。



SD102
1　黒褐色シルト7.5YR3/1　粘性弱・しまり中。径1mm以下の炭化物粒子を微量含む。
2　灰褐色シルト7.5YR4/1　粘性弱・しまり中。径1mm以下の炭化物を少量含む。
3　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性弱・しまり中。径0.5～2mmのにぶい黄褐色シルト粒・径1～3mmの黄褐色シルト粒を少量含む。径2mm前後の炭化物を微量含む。
4　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性・しまり弱。
5　褐灰色シルト10YR4/1　粘性弱・しまり中。褐灰色シルトが縞状に堆積する。炭化物を微量含む。
6　褐灰色シルト7.5YR4/1　粘性・しまり弱。径1～3mmの灰褐色粒を多量含む。
7　褐灰色シルト10YR4/1　粘性弱・しまり強。径0.5～2mmの灰黄色シルト粒・径1～5cmの灰黄褐色ブロックを多量に含む。径1mm以下の炭化物を少量含む。
8　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性弱・しまり強。灰黄褐色シルト粒子を縞状に堆積する。

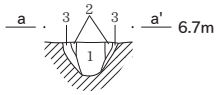
SD634（10O）





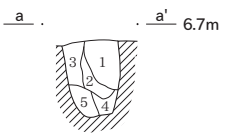
SD634
1　にぶい黄褐色シルト10YR5/3と褐灰色シルト10YR4/1の混在層　粘性弱・しまり強。

P643（7F）



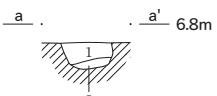
P643
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性弱・しまり中。径1mm以下の炭化物を少量含む。
2　黒褐色シルト10YR3/1と黄褐色シルト10YR5/6の混在層　粘性弱・しまり中。
3　黄褐色シルト10YR5/6とにぶい黄褐色10YR5/4の混在層　粘性弱・しまり中。

P647（9L）



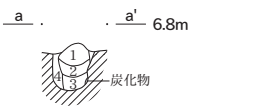
P647
1　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性・しまり中。にぶい黄褐色シルトブロックを少量・炭化物を微量含む。
2　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性・しまり中。径1～2cmのにぶい黒褐色シルトブロックを多量含む。
3　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性・しまり中。径1～5mmのにぶい黄褐色シルトを少量含む。
4　黒褐色シルト10YR3/1　粘性中・しまり強。径1～3mmのにぶい黄橙色シルトブロックを少量含む。
5　灰黄褐色シルト10YR4/2　粘性・しまり弱。にぶい黄褐色シルト・径1mmの炭化物を多量含む。

P648（10O）



P648
1　褐灰色シルト10YR6/1　粘性・しまり中。径5cmと径1～5mmの灰黄褐色シルトを少量・径1～2mmの炭化物を含む。
2　灰黄褐色シルト10YR5/2　粘性弱・しまり中。

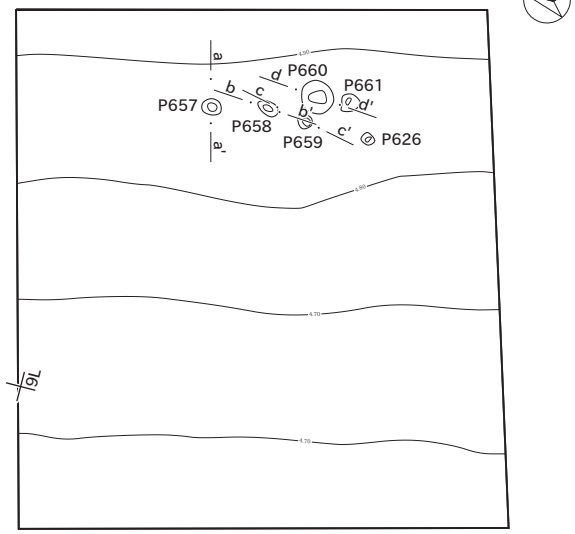
P649（10O）



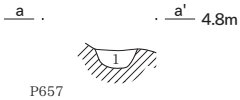
P649
1　黒褐色シルト10YR3/1　粘性・しまり弱。径1～3mmの炭化物を少量含む。
2　黒色シルト10YR2/1　粘性中・しまり弱。径1～5mmの炭化物を少量含む。
3　黒色シルト10YR1.7/1　粘性中・しまり弱。土壌化した炭化物を多量・径3cmの炭化物を含む。
4　にぶい黄橙色シルト10YR6/3　粘性弱・しまり中。径1mm前後の炭化物を少量含む。

溝平面図（1：200）　0　10m
その他（1：40）　0　2m

縄文時代上層



P657（9L）

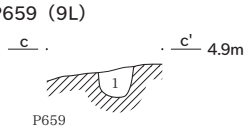


P657
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1
　粘性強・しまり弱。

P658（9L）

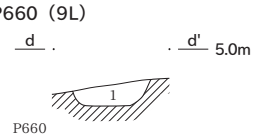
P658
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1
　粘性強・しまり弱。

P659（9L）



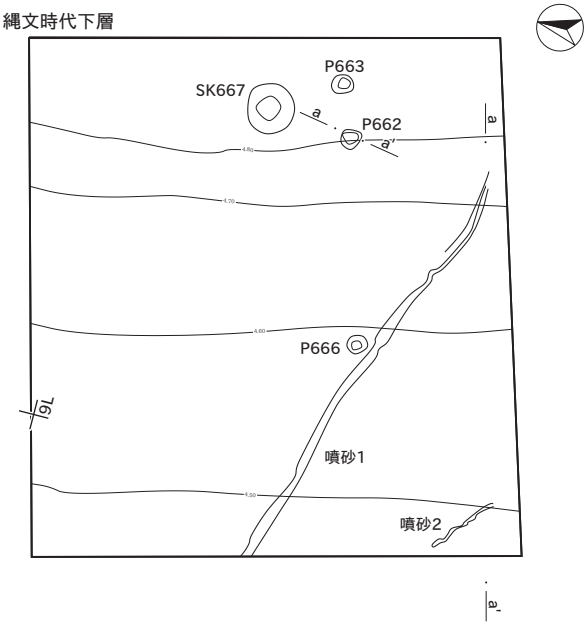
P659
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1
　粘性強・しまり弱。

P660（9L）

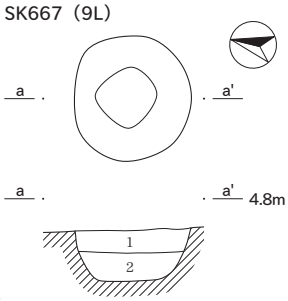


P660
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1
　粘性強・しまり弱。

縄文時代下層

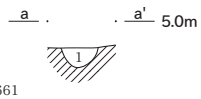


SK667（9L）



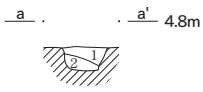
SK667
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1　粘性強・しまり弱。
2　緑灰色粘土7.5GY5/1　　粘性強・しまり弱。縄文土器片を含む。

P661（9L）

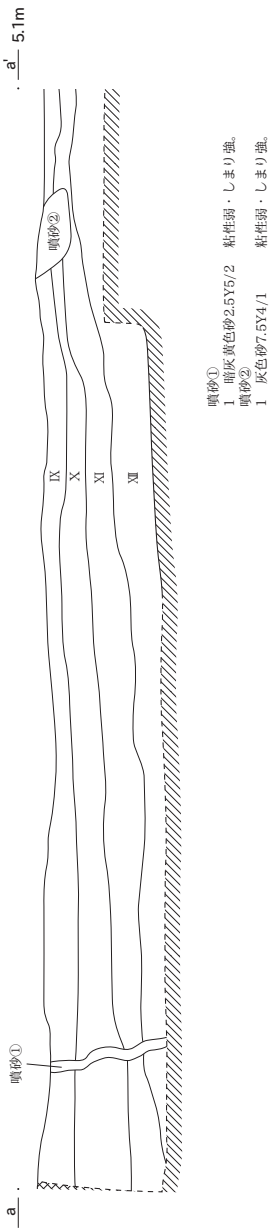


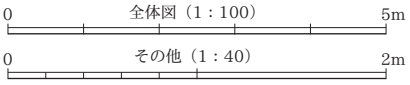
P661
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1
　粘性強・しまり弱。

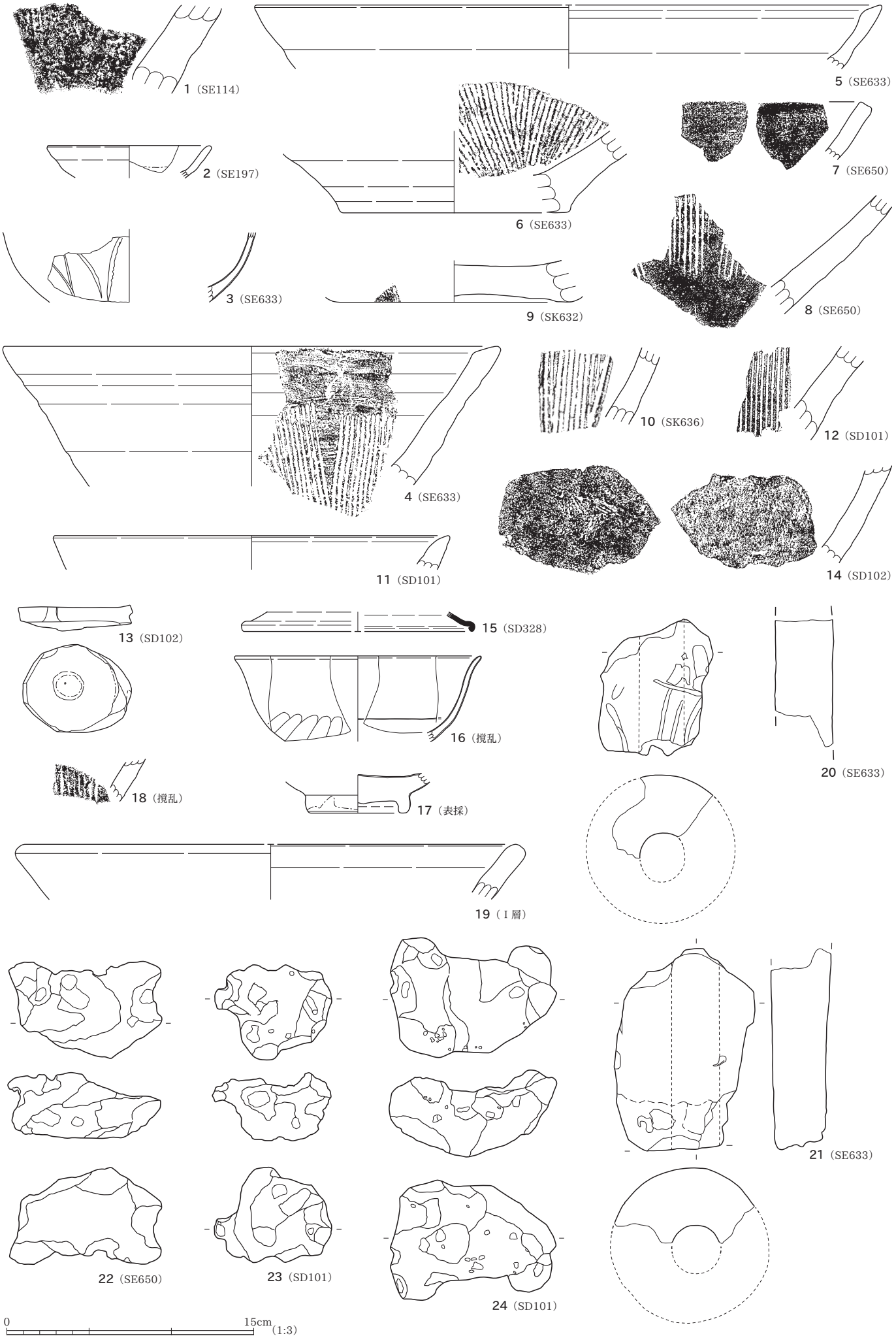
P662（9L）



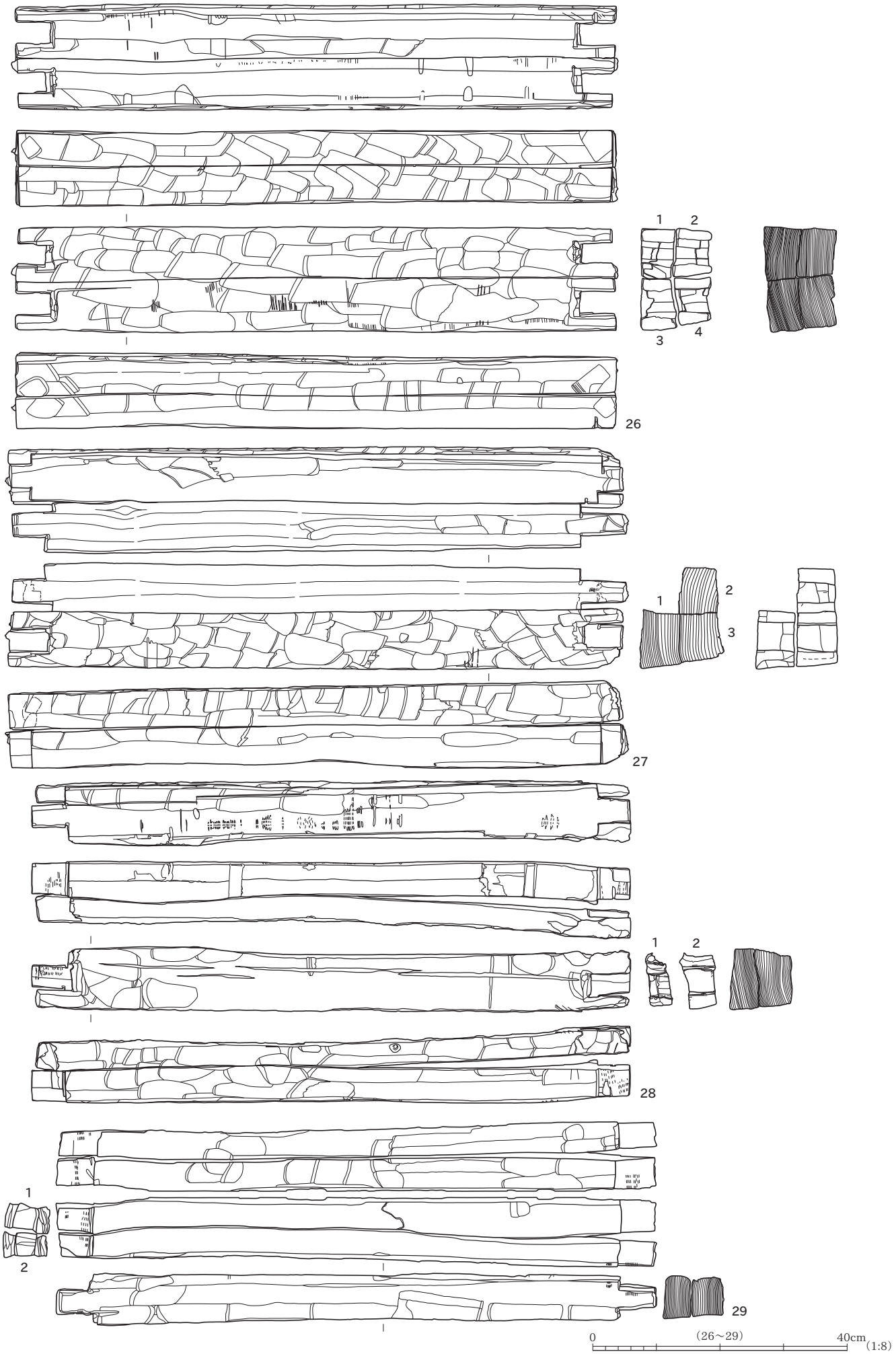
P662
1　暗緑灰色粘土7.5GY4/1　粘性強・しまり弱。
　炭化物を少量含む。
2　緑灰色粘土7.5GY5/1　　粘性強・しまり弱。



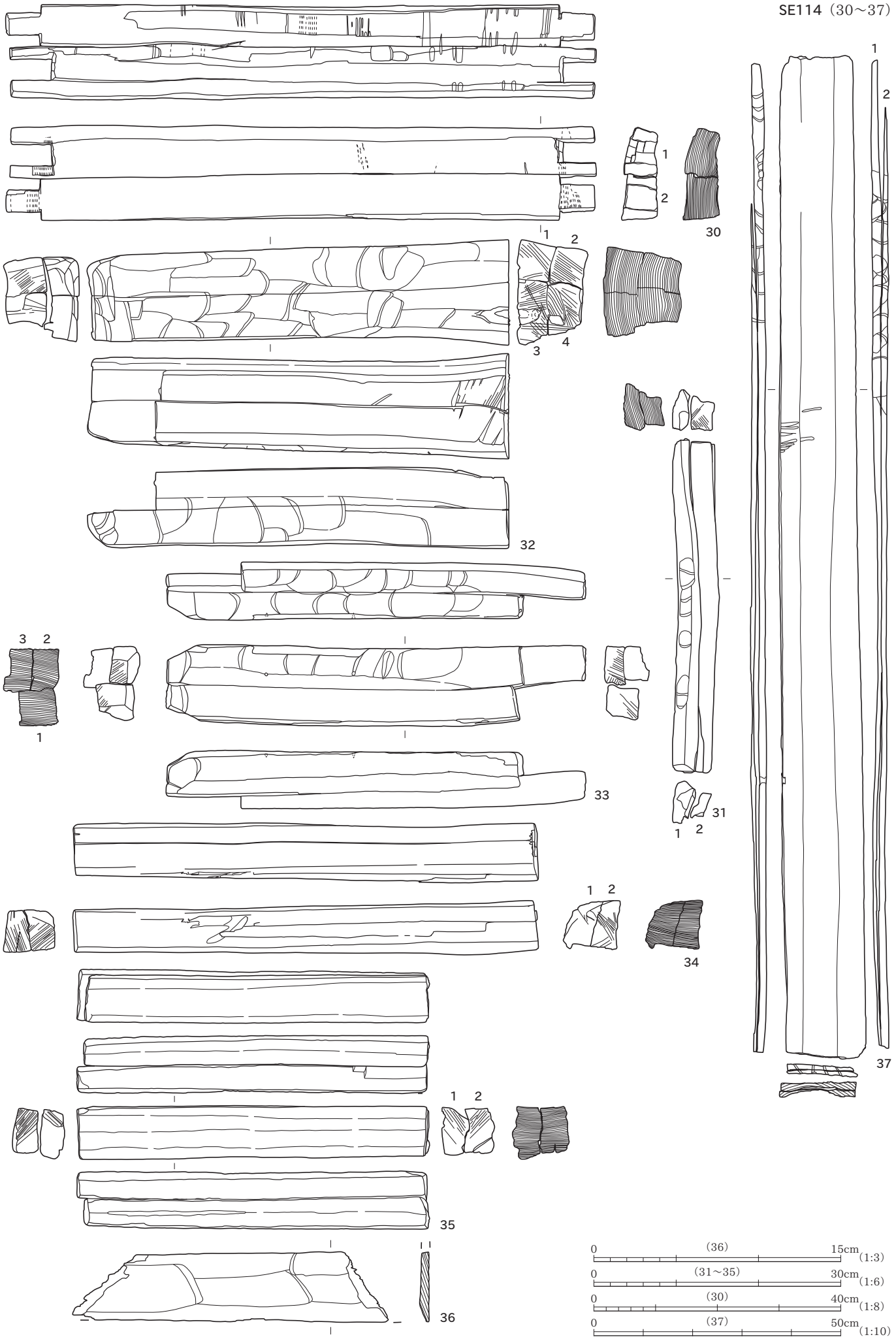



1（SE114）
5（SE633）
2（SE197）
6（SE633）
7（SE650）
3（SE633）
9（SK632）
8（SE650）
4（SE633）
10（SK636）
12（SD101）
11（SD101）
14（SD102）
13（SD102）
15（SD328）
16（撹乱）
18（撹乱）
17（表採）
20（SE633）
19（Ⅰ層）
21（SE633）
22（SE650）
23（SD101）
24（SD101）
0
15cm
(1:3)

SE114（26～29）



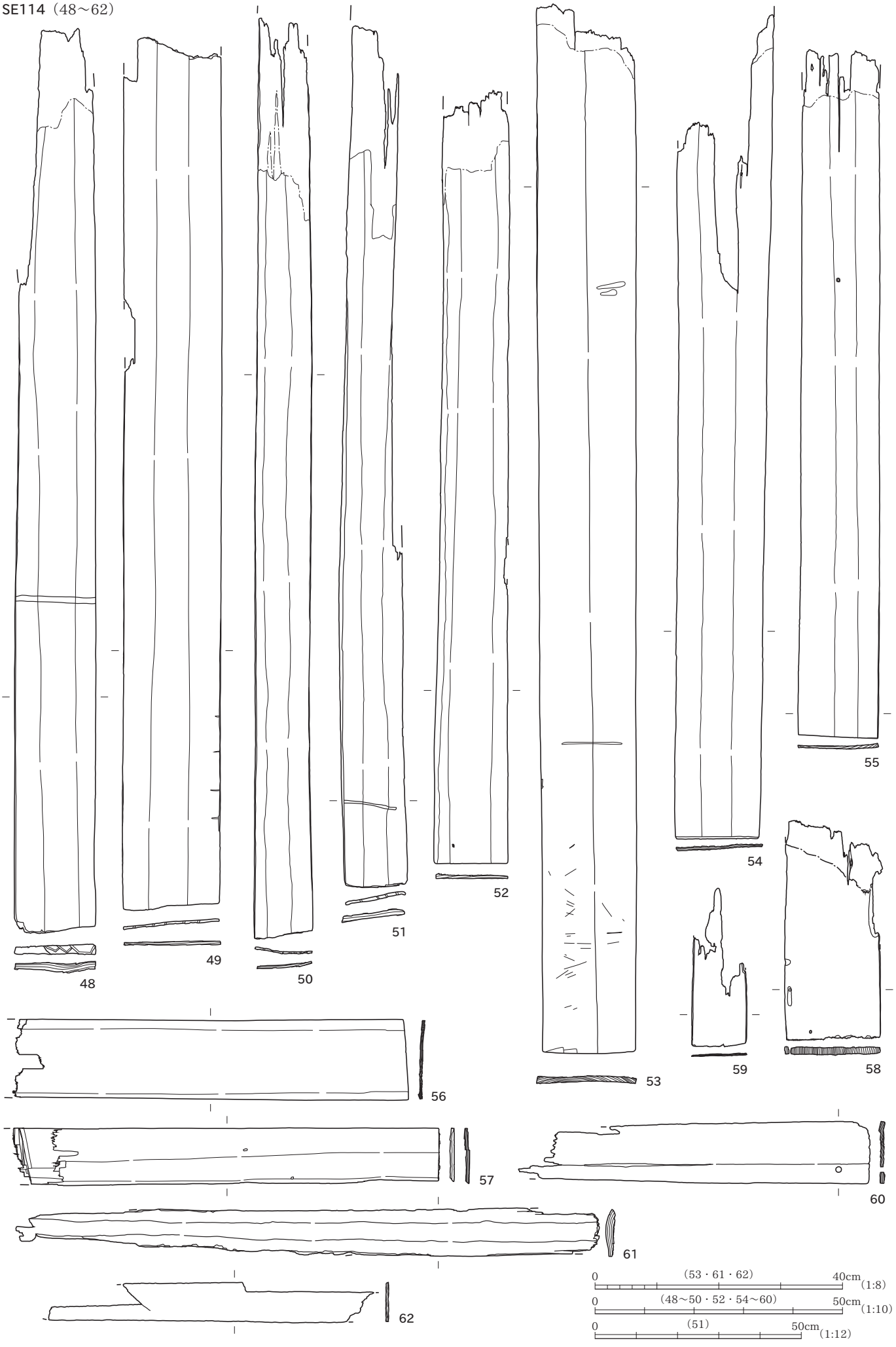
SE114（30～37）


1
2
30
1 2
3 4
32
3 2
1
33
1 2
31
1 2
34
35
1 2
36
37
0 (36) 15cm (1:3)
0 (31～35) 30cm (1:6)
0 (30) 40cm (1:8)
0 (37) 50cm (1:10)

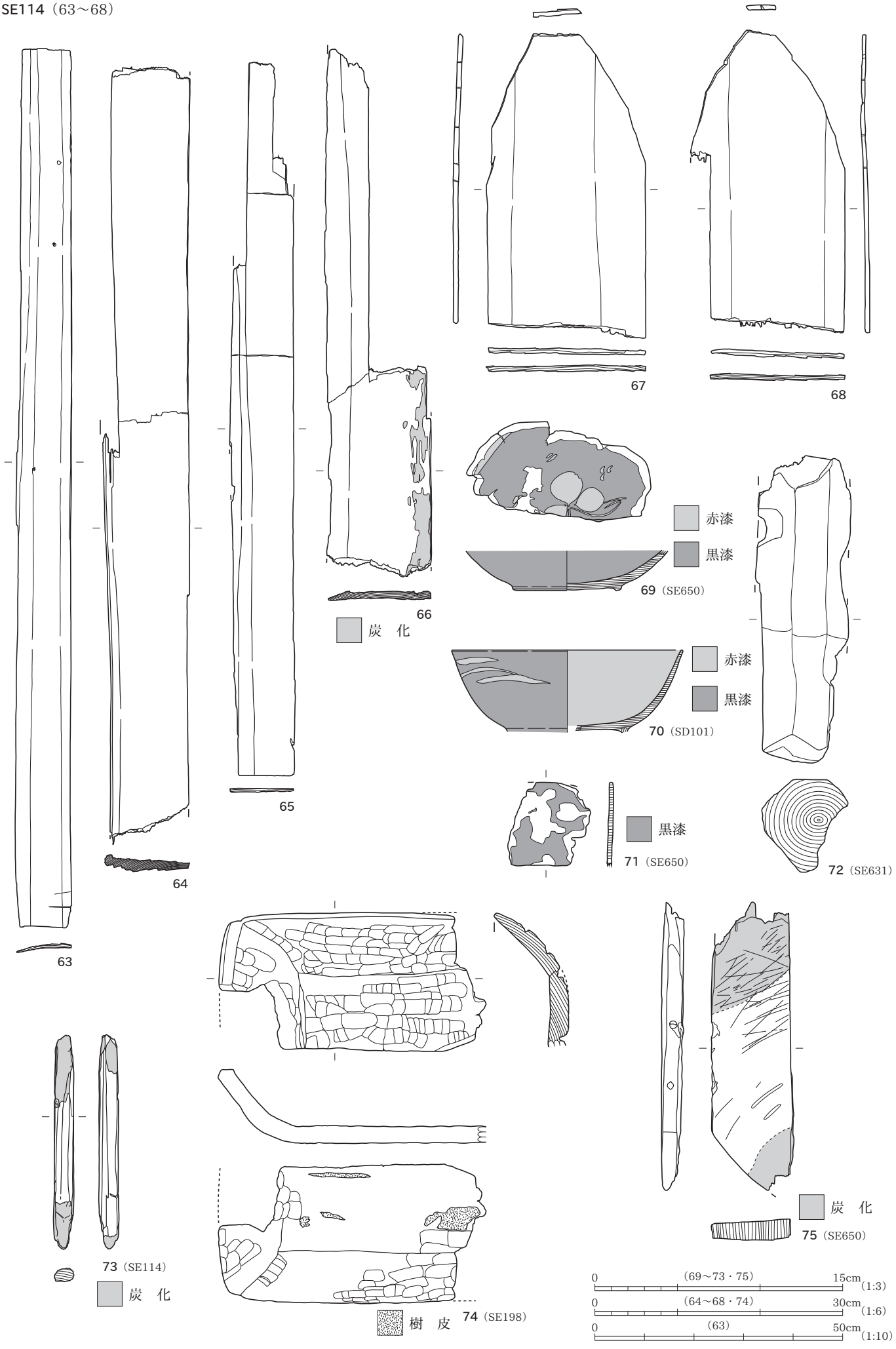
SE114（38～47）

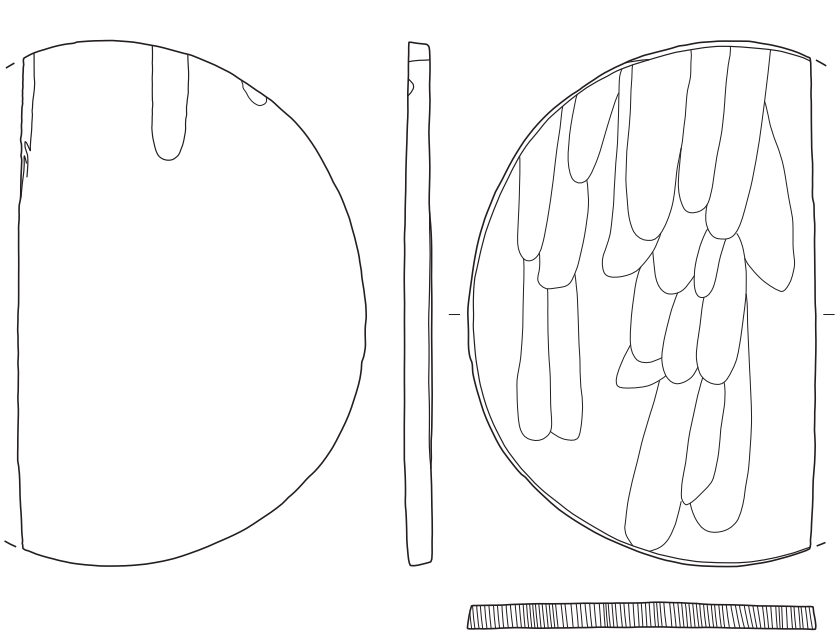
1
2
38
39
40
41
表 皮
42
43
44
45
46
47
0
(39～42・44～47)
50cm
(1:10)
0
(38・43)
50cm
(1:12)

SE114（48～62）

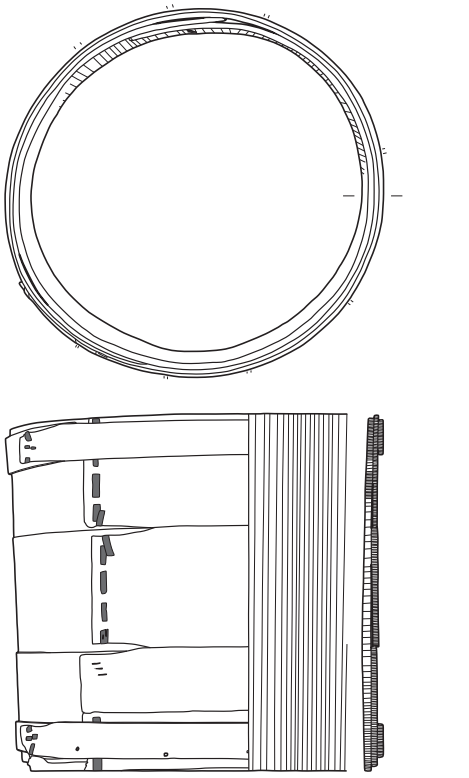

48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
0 (53・61・62) 40cm (1:8)
0 (48～50・52・54～60) 50cm (1:10)
0 (51) 50cm (1:12)

SE114（63～68）

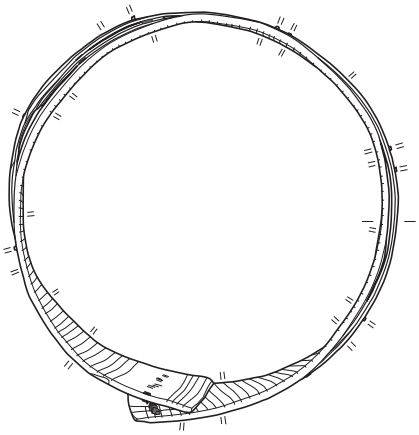

63
64
65
66
67
68
赤漆
黒漆
69（SE650）
炭　化
赤漆
黒漆
70（SD101）
黒漆
71（SE650）
72（SE631）
73（SE114）
炭　化
樹　皮
74（SE198）
炭　化
75（SE650）
0　(69～73・75)　15cm　(1:3)
0　(64～68・74)　30cm　(1:6)
0　(63)　50cm　(1:10)

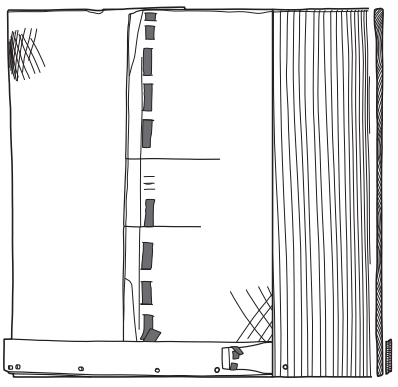


76（SE650）

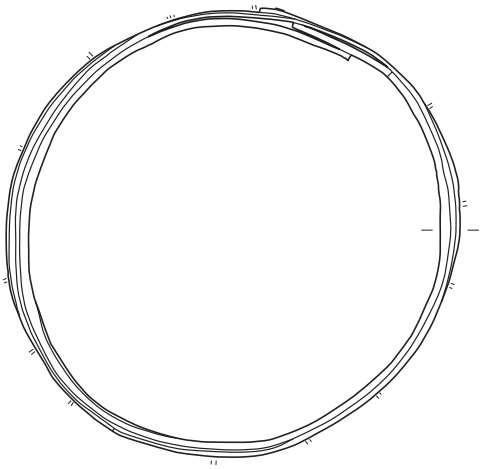


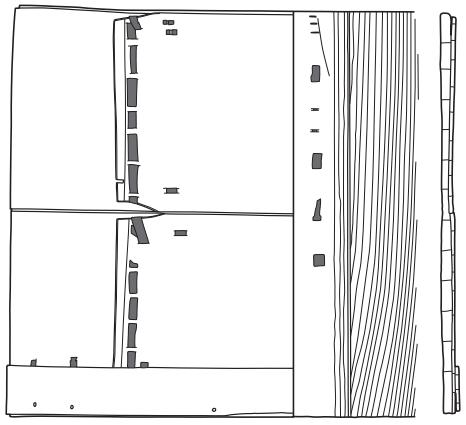
77（SE650）





78（SE114）



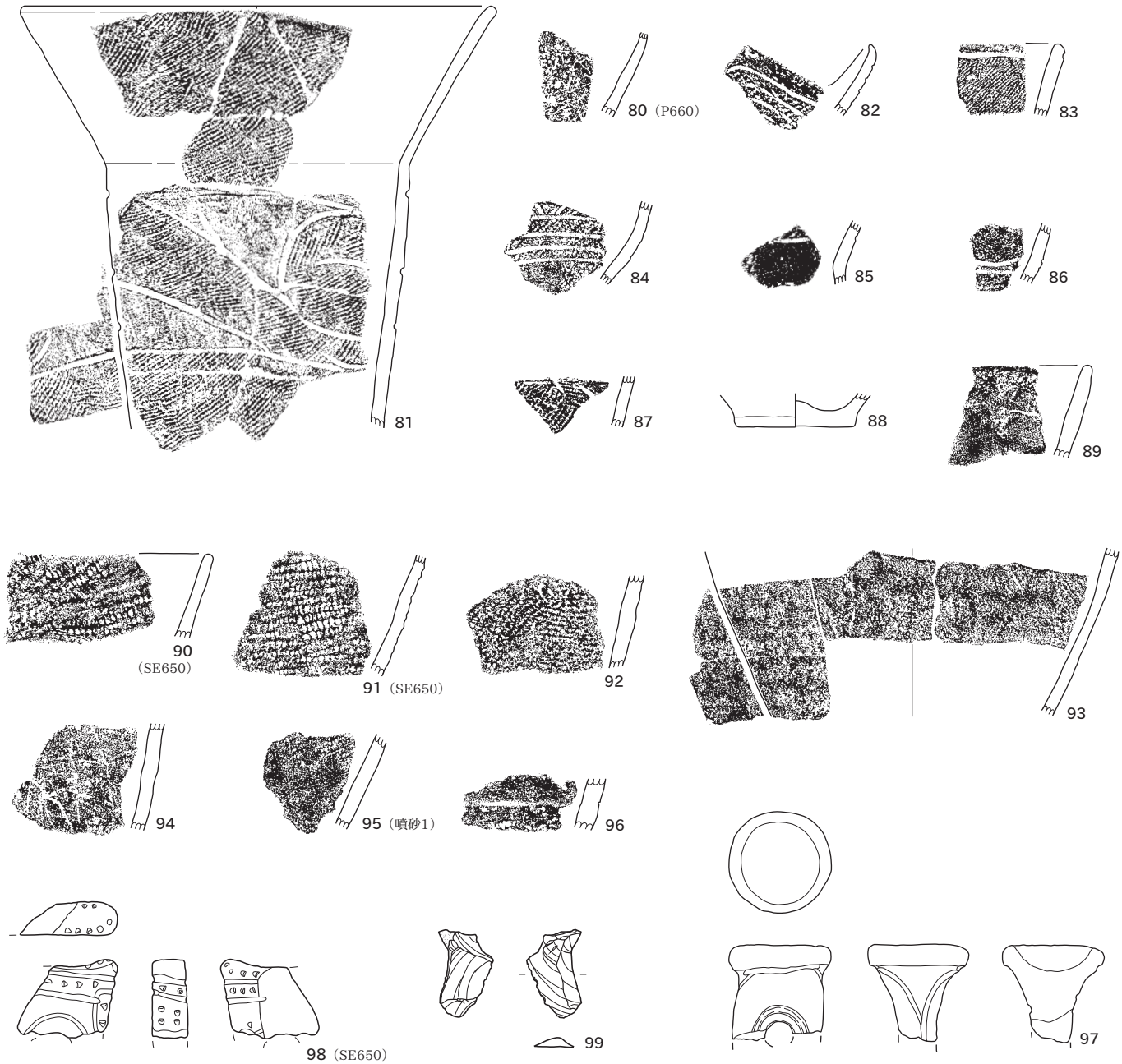


79（SE114）

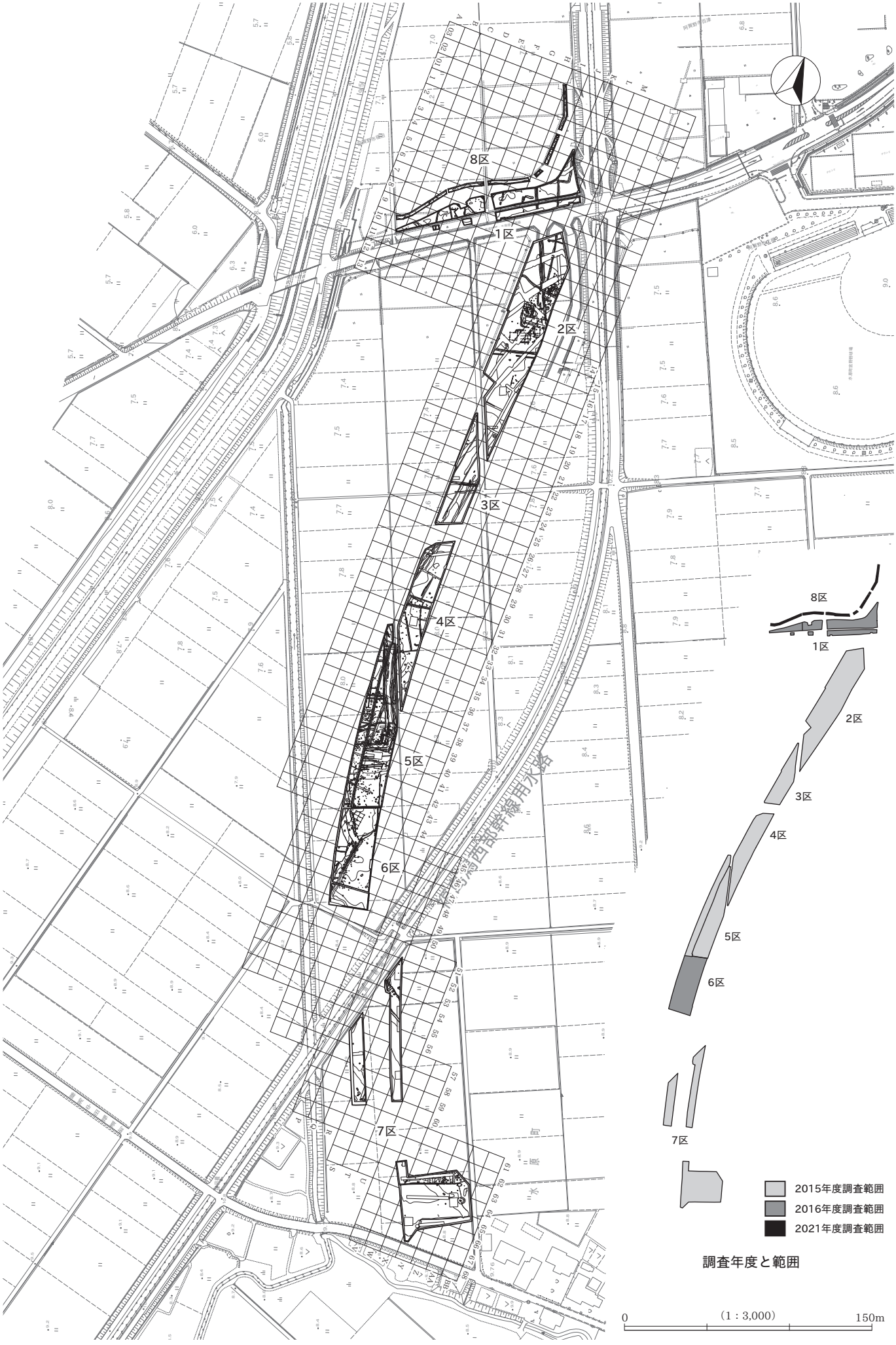
0　(76)　15cm（1:3）

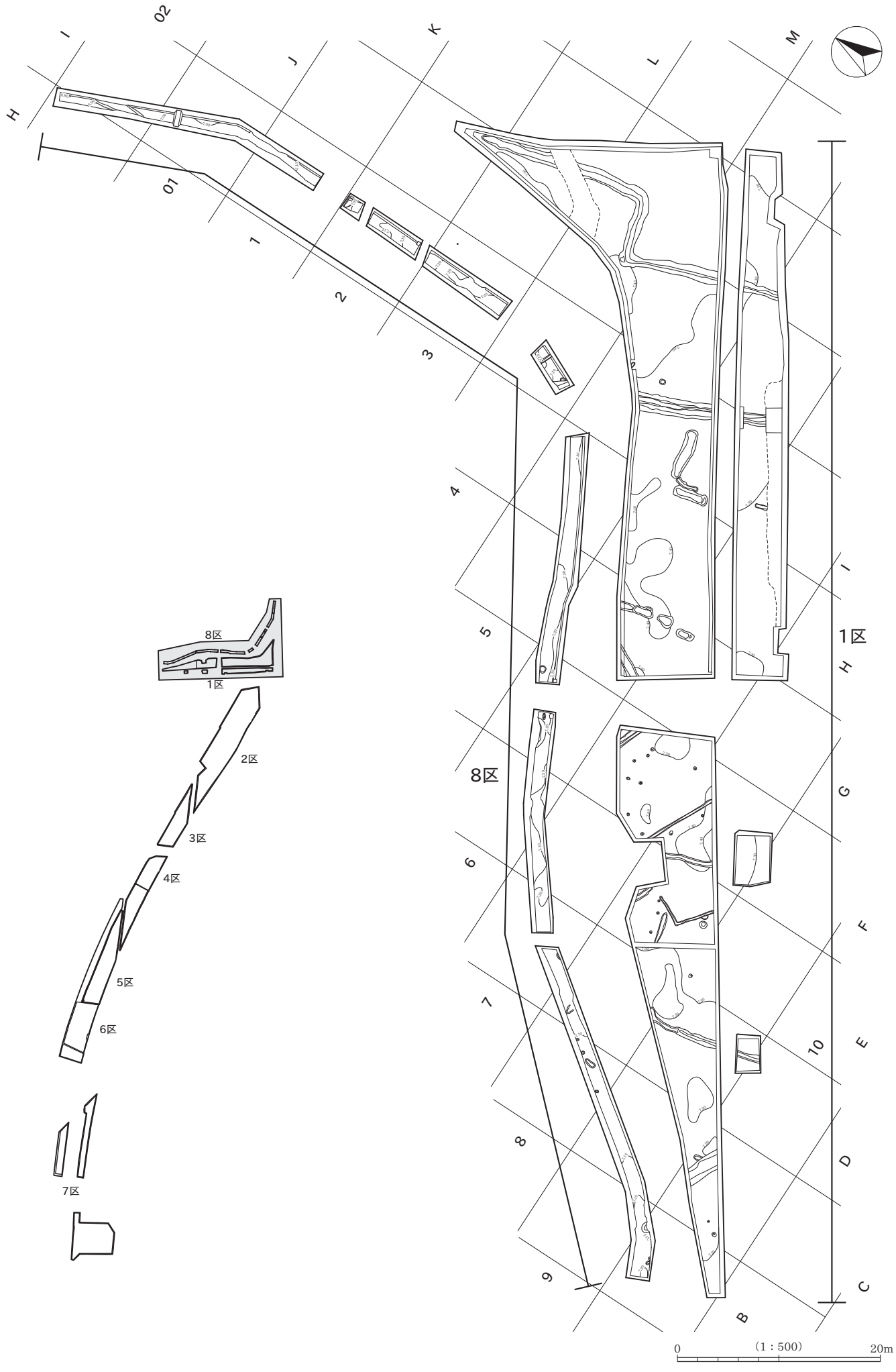
0　(77)　20cm（1:5）

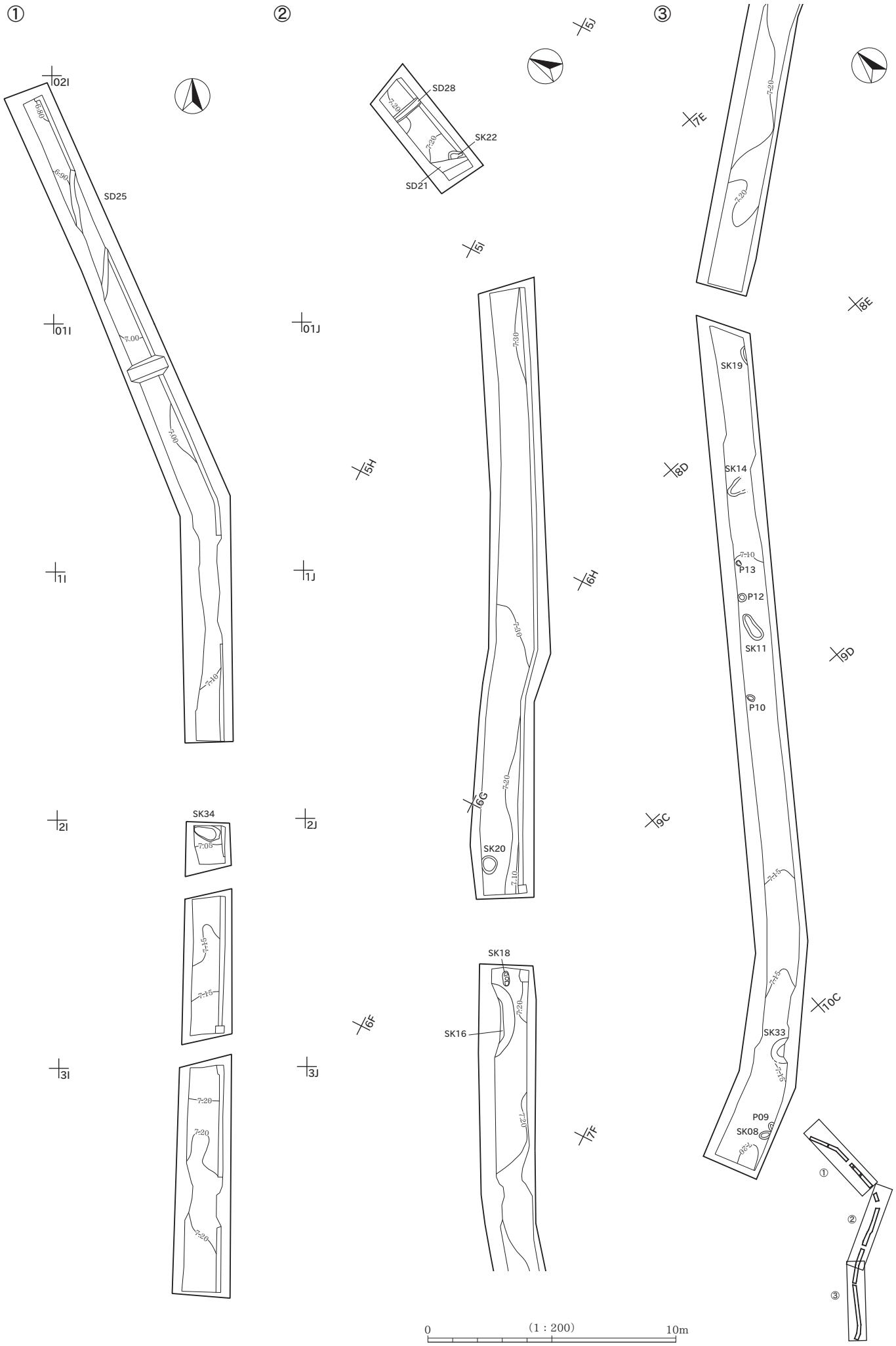
0　(78・79)　50cm（1:10）


81
80（P660）
82
83
84
85
86
87
88
89
90
（SE650）
91（SE650）
92
93
94
95（噴砂1）
96
97
98（SE650）
99
0
15cm
(1:3)

石船戸東遺跡Ⅱ　調査範囲図

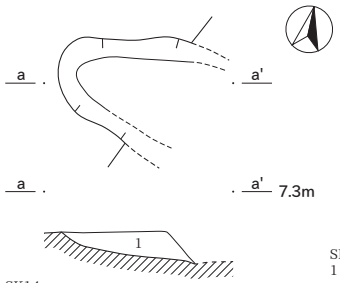



I
02
J
K
L
M
H
01
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
G
F
E
D
C
B
1区
8区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
0
(1：500)
20m


①
②
③
02I
01I
1I
2I
3I
SD25
SK34
SD28
SK22
SD21
5J
5I
01J
5H
1J
2J
3J
6H
6G
6F
7F
SK20
SK18
SK16
7E
8E
8D
9D
9C
10C
SK19
SK14
P13
P12
SK11
P10
SK33
P09
SK08
0
(1 : 200)
10m

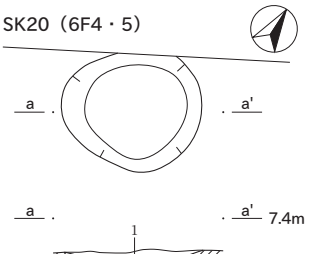
中・近世の遺構

SK14（8D6）



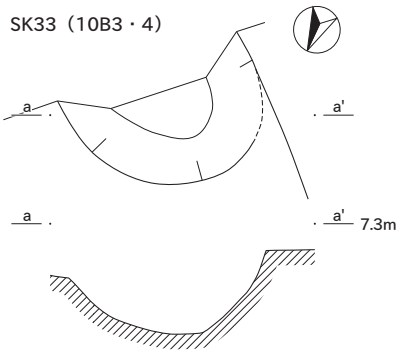
SK14
1　暗褐色シルト（10YR3/4）　粘性やや強・しまりやや強。褐灰色シルトブロックを少量含む。

SK20（6F4・5）

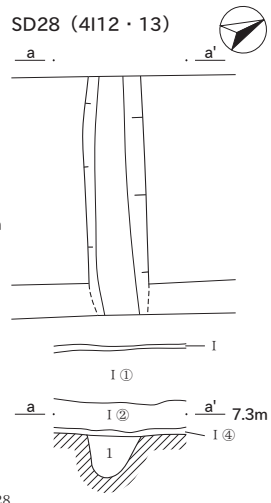


SK20
1　暗褐色シルト（10YR3/4）　粘性やや強・しまりやや強。褐色シルトブロックを少量含む。

SK33（10B3・4）

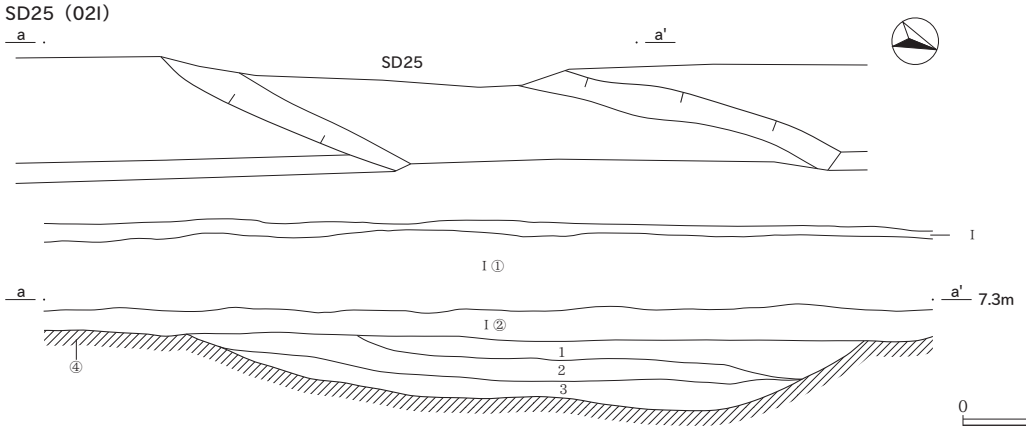


SD28（4I12・13）



SD28
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。褐色シルトを少量含む。

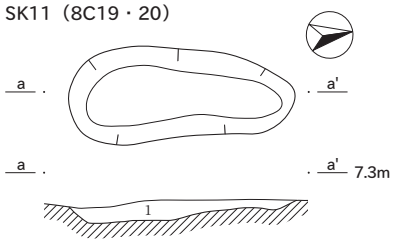
SD25（02I）



SD25
1　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや強・しまりやや強。灰黄褐色シルトブロックを含む。
2　暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）　粘性やや強・しまりやや強。褐色シルトを含む。
3　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。黄褐色シルトブロックを多量に含む。

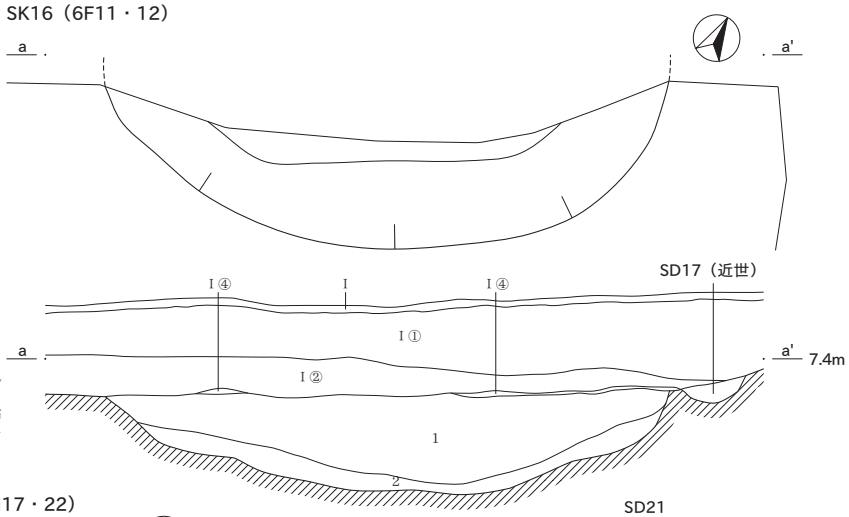
中世の遺構

SK11（8C19・20）



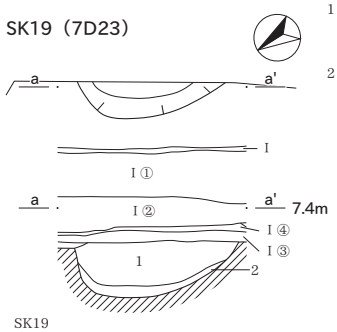
SK11
1　褐色シルト（10YR4/4）
粘性やや強・しまりやや強。

SK16（6F11・12）



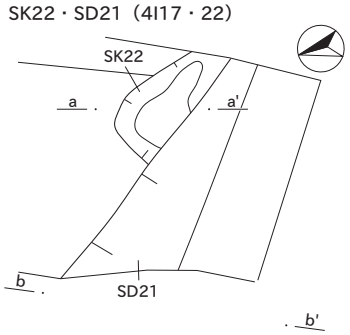
SK16
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや強・しまりやや強。灰黄褐色シルトを少量含む。
2　褐色シルト（10YR4/6）　粘性やや強・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。

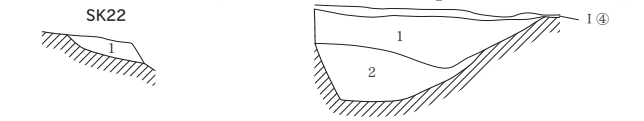
SK19（7D23）



SK19
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや強・しまりやや強。褐色シルトブロックを多量に含む。
2　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや強・しまりやや強。褐灰色シルトを少量含む。

SK22・SD21（4I17・22）

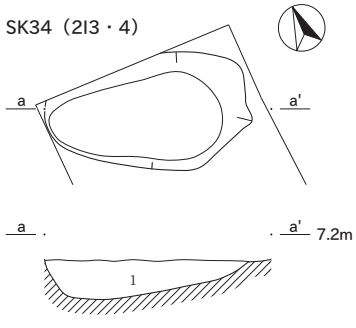




SK22
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性やや強・しまりやや強。褐色シルトブロックを含む。

SD21
1　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや強・しまりやや強。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
2　褐色シルト（10YR4/4）　粘性やや強・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトブロックを含む。

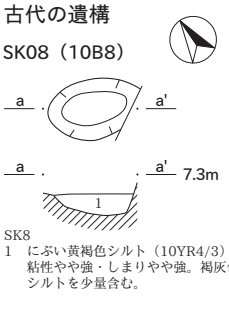
SK34（2I3・4）



SK34
1　灰黄褐色シルト（10YR4/2）　粘性やや強・しまりやや強。にぶい黄褐色シルトブロックを多量に含む。

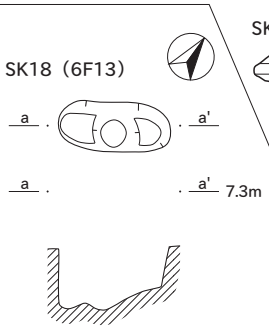
古代の遺構

SK08（10B8）

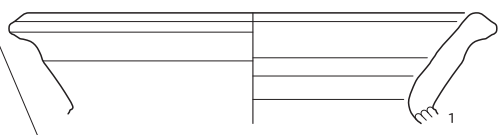


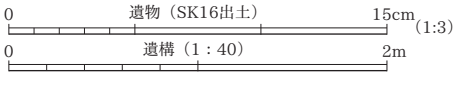
SK8
1　にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）
粘性やや強・しまりやや強。褐灰色シルトを少量含む。

SK18（6F13）



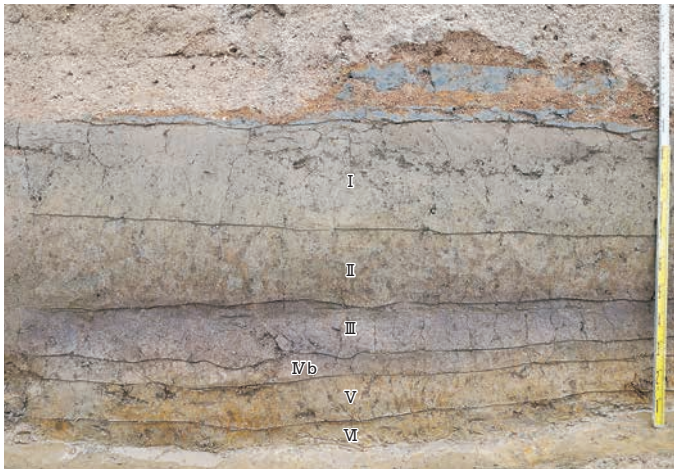
SK16（6F11）





調査区遠景　奥に五頭連峰（西から）

調査区遠景と旧小里川（南から）



北２区（10B）　基本層序

南２区（31O）　基本層序

南３区（40S）　基本層序

北２区中世（西半）　近景（上が南）

北２区中世（東半）　近景（東から）

北３区中世　近景（上が南）

南１区中世　近景（上が南）

南２区中世　近景（上が西）

掘立柱建物 SB2 ～ 4（南 1 区 17I　東から）

掘立柱建物 SB5・8 ～ 10（南 1 区 18I・J　東から）

掘立柱建物 SB1（北 2 区 17D　北西から）

遺構完掘（南 1 区 18I・J・19J　東から）

遺構完掘（南 2 区 26・27M　東から）

P234（SB2）セクション（南 1 区 17I　南西から）

P196（SB6）・197（SB8）セクション（南 1 区 17・18I　南東から）

P254（SB7）セクション（南 1 区 17I　南から）

SE1　セクション（南 1 区 11・12H　東から）

SE1　完掘（南 1 区 11・12H　東から）

井戸群　完掘（南 1 区 11・12H　東から）

SE7　セクション（南 1 区 12H　北から）

SE7　完掘（南 1 区 12H　北から）

SE10　上部セクション（南 1 区 12H　南から）

SE10　最下層セクション（南 1 区 12H　南から）

SE10　上部完掘（南 1 区 12H　南から）

SE11　セクション（南 1 区 11H　北から）

SE21　検出（南 1 区 17I　南から）

SE21　上部セクション（南 1 区 17I　北から）

SE21　上部完掘（南 1 区 17I　北から）

SE24　セクション（南 1 区 12H　南から）

SE24　完掘（南 1 区 12H　南から）

SE81　セクション（南 1 区 21K　北から）

SE27　上部セクション（南 1 区 16H　北から）

SE27　完掘（南 1 区 16H　北から）

SE61　セクション（南 1 区 15I　南から）

SE61　セクション（南 1 区 15I　南から）

SE326　セクション（南 1 区 22K　南から）

SE171　セクション（南 2 区 24L　南から）

SE171　完掘（南 2 区 24L　南から）

SE519　上部セクション（北 2 区 8A　北から）

SE519　礫出土状況（北２区 8A　北から）

SE519　完掘（北２区 8A　北から）

SE758　セクション（北２区 9C　北から）

SE771　セクション（北２区 21F　北から）

SE771　完掘（北２区 21F　北から）

SK2　セクション（南１区 11・12H　北から）

SK2　完掘（南１区 11・12H　西から）

SK522　セクション（北２区 8B　北から）

SK561・SD562 ほか完掘（北２区 15C・D　北東から）

SK561　セクション（北２区 15C　南から）

SK573　セクション（北２区 17D　南から）

SK603　セクション（北２区 21E・F　南東から）

SK623　セクション（北３区 24G　西から）

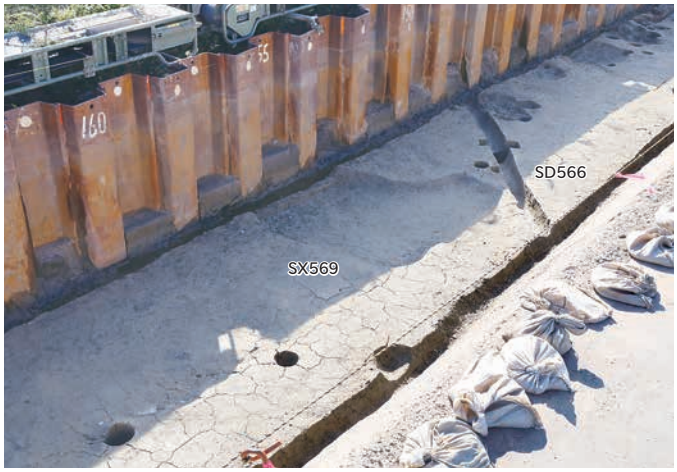
SK623　完掘（北 3 区 24G　西から）

SD520　セクション（北 2 区 9B　北東から）

SD800・801　セクション（北 2 区 11B　北東から）

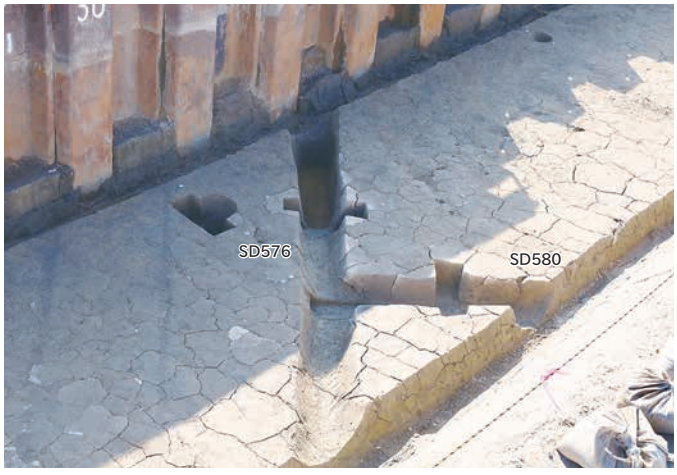
SD800・801　完掘（北 2 区 11B　北東から）

SD566　セクション（北 2 区 16D　北東から）



SD566・SX569 ほか　完掘（北 2 区 16D　北東から）

SD576　セクション（北 2 区 18D　北東から）



SD576・580 完掘（北 2 区 18D　北東から）

SD617・2075・618　セクション（北２区 23F　北西から）

SD2075　完掘（北２区 21・22F　北東から）

SD625　セクション（北３区 29H　南西から）

SD626　セクション（北３区 29H　南から）

SD625・626・P630　完掘（北３区 29H　南西から）

SD628　セクション（北４区 37K　南から）

SD627　セクション（北４区 37K　南から）

SD627　完掘（北４区 37K　南から）

SD23　セクション b-b'（南 1 区 15・16I　東から）

SD23　完掘（南 1 区 15・16I　西から）

SD1031　セクション（南 1 区 18・19J　南東から）

SD1031・1763　完掘（南 1 区 18・19J　北から）

SD54　セクション（南 2 区 25・26L　南西から）

SD54　完掘（南 2 区 25・26L　南西から）

SD166　セクション（南 2 区 27M　東から）

SD166　完掘（南 2 区 27M　西から）

SD174　セクション（南２区 27・28M　北東から）

SD55・174　完掘（南２区 27・28M　南西から）

SD164　セクション（南２区 30・31 N　東から）

SD164　完掘（南２区 30・31N　西から）

北２区古代上層　近景（上が北）

南 2 区古代上層　近景（西から）

南 1 区古代上層　近景（上が北）

北 3 区古代上層　近景（上が北）

SI324　検出（南 1 区 21K　北から）

SI324　セクション b-b'（南 1 区 21K　北西から）

SI324　完掘（南 1 区 21K　北から）

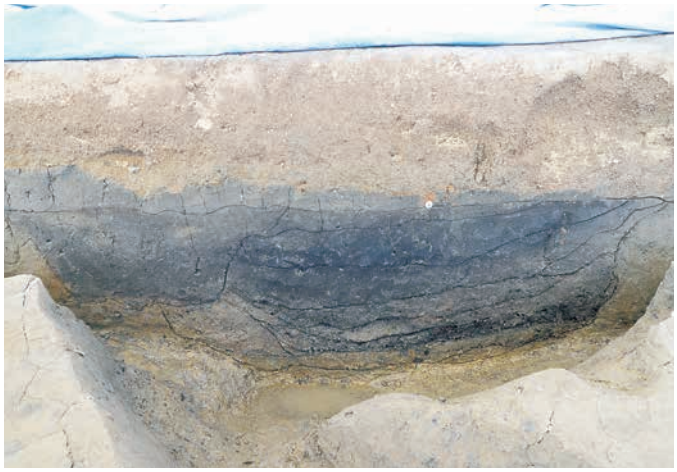
SI324　出土状況（南 1 区 21K　北東から）

SI764　セクション（北 2 区 19・20E　南東から）

P772（SI764 内）　セクション（北 2 区 20E　北から）

SI764　完掘（北 2 区 19・20E　南西から）

SI764・SD718　完掘（北２区 19・20E　西から）



SK167　セクション A-A'　完掘（南２区 27M　南から）

SK167　セクション b-b'（南２区 27M　西から）

SK167　出土状況（南２区 27M　西から）

SK318　セクション・完掘（26M　南から）

SK288　セクション（南 1 区 18・19J　南から）

SK288　完掘（南 1 区 18・19J　南から）

SK328　セクション（南 1 区 17I　北から）

SK328　完掘（南 1 区 17I　北から）

SK375　セクション（南 1 区 34P　南から）

SK375　完掘（南 1 区 34P　南から）

SK622　セクション（北 3 区 25G　西から）

SK622　完掘（北 3 区 25G　北から）

SK635　セクション（北 3 区 28H　南から）

SK635　完掘（北 3 区 28H　北から）

SK636　セクション（北 3 区 27G・H　北から）

SK636　完掘（北 3 区 27G・H　北から）

SK638　セクション（北 3 区 26G　北から）

SK638　完掘（北 3 区 26G　北から）

SK646　セクション（北 2 区 13C　南東から）

SK646　完掘（北 2 区 13C　西から）

SK686　セクション（北 3 区 25G　北から）

SK686　完掘（北 3 区 25G　北から）

SK649　セクション（北 2 区 13C　北から）

SK649　セクション a-a'（北 2 区 13C　北西から）

SK649　完掘（北 2 区 13C　北東から）

SK661　セクション（北 2 区 14C　南から）

SK689　セクション（北 3 区 29H　南から）

SK689　完掘（北 3 区 29H　南から）

SK710　セクション（北 2 区 16・17D　東から）

SK710　完掘（北 2 区 16・17D　東から）

SK762　セクション（北 2 区 19E　東から）

SK762　完掘（北 2 区 19E　東から）

SK770　セクション・完掘（北 2 区 20E　南から）

SD655　セクション（北 2 区 14C　南から）

SD4236　セクション（北 3 区 27H　南から）

SD4236　完掘（北 3 区 27H　北から）

SD718　セクション a-a'（北 2 区 20E　西から）

SD718　セクション b-b'（北 2 区 20E　南から）

SD718　完掘（北 2 区 20E　西から）

SD631　セクション（北 3 区 29H　西から）

SD631　完掘（北 3 区 29H　西から）

SD77　セクション b-b'（南 1 区 16I　西から）

SD77　出土状況・完掘（南 1 区 16I　南から）

SD296　完掘（南 1 区 19J　東から）

北２区古代下層（西半）　近景（上が北）

南２区古代下層（東半）　近景（上が北）

南 3 区古代下層　近景（東から）

SK307　炭化物層（1 層）セクション（南 2 区 28M　南から）

SK307　セクション b-b'（南 2 区 28M　南から）

SK307　完掘（南 2 区 28M　西から）

SK317　セクション（南 2 区 28M　西から）

SK317　完掘（南 2 区 28M　北から）

SK316　セクション・完掘（南 2 区 28M　北から）

SK319　セクション（南 2 区 27M　南から）

SK319　完掘（南 2 区 27M　南から）

SK341　セクション（南 2 区 27M　東から）

SK341　完掘（南 2 区 27M　北から）

SK342　セクション（南 2 区 31N　東から）

SK342　完掘（南 2 区 31N　東から）

SK343　セクション a-a'（南 2 区 30N　南から）

SK343　セクション b-b'（南 2 区 30N　西から）

SK343　完掘（南 2 区 30N　西から）

SK344　セクション・完掘（南 2 区 31N　南西から）

SK345　セクション・完掘（南 2 区 27・28M　北から）

SX320　セクション（南 2 区 27M　南東から）

SX320　セクション（南 2 区 27M　南東から）

SX320　焼土検出（南 2 区 27M　北から）

SX320　完掘（南 2 区 27M　西から）

SD346　セクション（南 2 区 27M　東から）

SD346　完掘（南 2 区 27M　東から）

SD315　出土状況（南 2 区 28・29M、28・29N　西から）

SD315　セクション（南 2 区 28・29M、28・29N　北東から）

SD315　完掘（南 2 区 28・29M、28・29N　北東から）

SD398・P399　セクション（南 2 区 31N・O　北東から）

SD398・SK344　完掘（31N・O　東から）

水田　完掘（南 2 区 31 ～ 33O　北西から）

水田　完掘（南 2 区 35P・36Q　北西から）

畦畔 361　セクション a-a'（南 2 区 31N・O　南から）

畦畔 362　セクション a-a'（南 2 区 31・32O　南から）

畦畔 361　セクション b-b'（南 2 区 31N・O　北から）

畦畔 361　改良土検出（南 2 区 31N・O　北東から）

畦畔 362　セクション b-b'（南 2 区 31・32O　北から）

畦畔 362　改良土検出（南 2 区 31・32O　北から）

畦畔 363　セクション a-a'（南 2 区 32・33O　南から）

畦畔 363　セクション b-b'（南 2 区 32・33O　北から）

畦畔 365　セクション a-a'（南 2 区 34・35P　南から）

畦畔 365　セクション b-b'（南 2 区 34・35P　北から）

畦畔 366　セクション a-a'（南 2 区 35P、35・36Q　南から）

畦畔 366　セクション b-b'（南 2 区 35P、35・36Q　南から）

畦畔 367　セクション a-a'（南 2 区 36Q　南から）

畦畔 367　セクション b-b'（南 2 区 36Q　北から）

SX688　セクション（北 4 区 39K・L　北西から）

SX688　完掘（北 4 区 39K・L　上が南）

SX308（南 2 区 30N）　水田踏み込み痕検出（北東から）

SD368　セクション（南 2 区 33 ～ 35P　北東から）

SD368　完掘（南 2 区 33 ～ 35P　北西から）

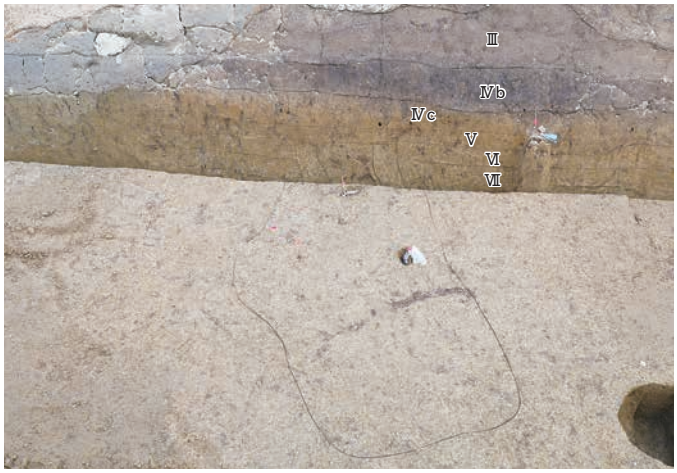
木製品（146）出土状況（南 3 区 41T　南から）

杭（145）出土状況（南 3 区 43U　南から）

自然木出土状況（南 3 区 43・44U　東から）

先行調査区　完掘（22・23L　東から）

北２区弥生時代　近景（上が南）



SK532　検出（北２区 13C　南から）

SK532　セクション（北２区 13C　南東から）

SK532　完掘（北２区 13C　南西から）

SK532　出土状況（北２区 13C　西から）

SK755　出土状況（北２区 11・12B・C　北東から）

SK755　セクション a-a'（北２区 11・12B・C　北東から）

SK755　セクション b-b'（北２区 11・12B・C　北西から）

SK755　セクション（北２区 11・12B・C　東から）

SK755　出土状況（北２区 11・12B・C　東から）

SK757　セクション（北２区 12B　南東から）

SK757　完掘（北２区 12B　南東から）

SR784　セクション（北２区 11・12B・C　南から）

SR784　セクション（北２区 11・12B・C　西から）

SR784　完掘（北２区 11・12B・C　北西から）

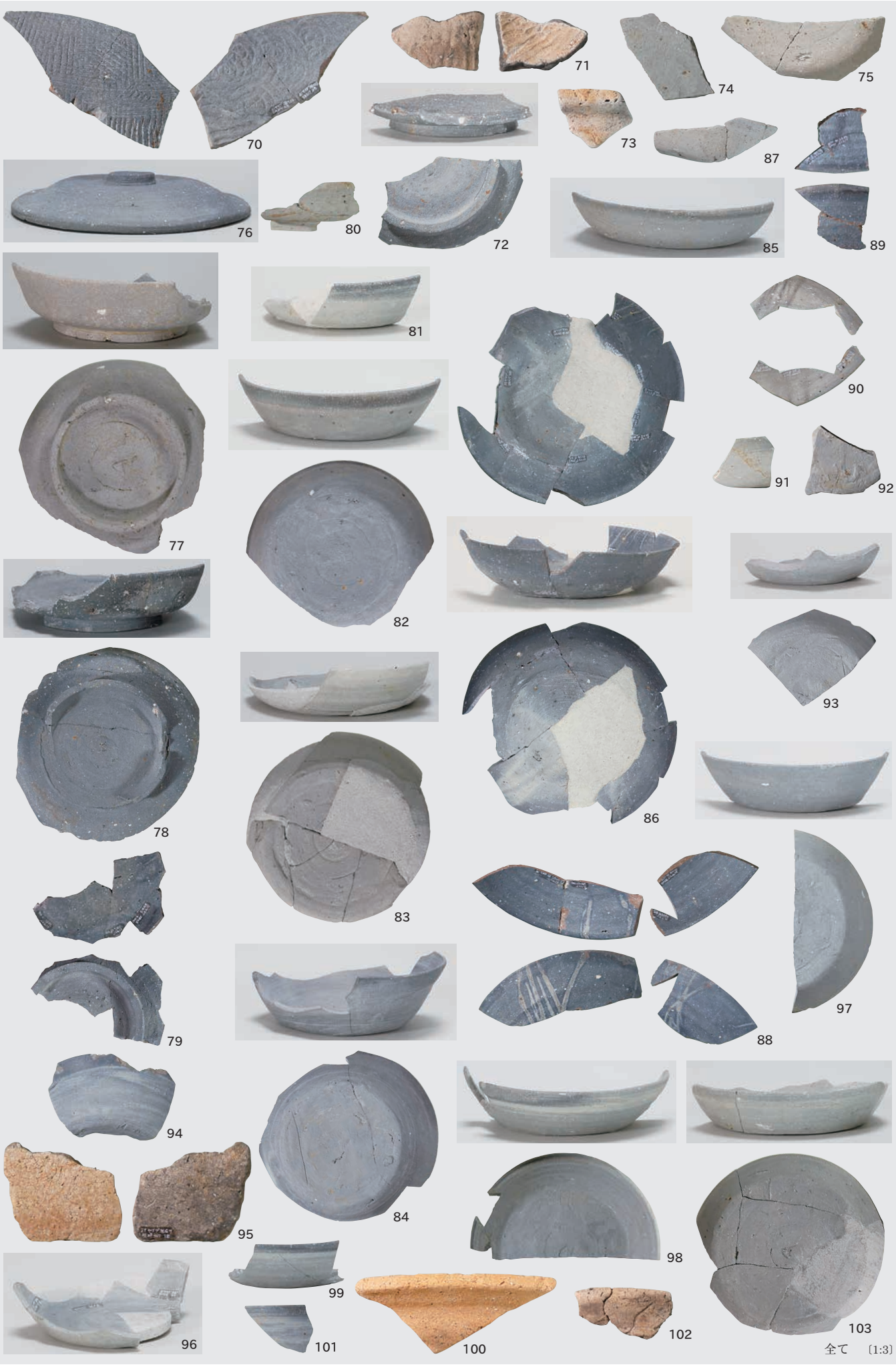
Ⅶ層　噴砂検出（北２区 10B　西から）

SK400　セクション（南２区 35・36P・Q　南から）

SK400　出土状況（南２区 35・36P・Q　南西から）

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21-1
21-2
22
23
24
25
26
27
28
7・11 〔1:4〕
21 〔1:5〕
その他 〔1:3〕

29
30
31
33
32
34
35
36
37
38
39
40
44
45
41
46
51
52
43
42
50
47
48
49
58
53
59
54
55
62
60
56
63
66
61
57
64
67
65
68
69
全て　〔1:3〕


70
71
74
75
73
87
76
80
72
85
89
81
90
91
92
77
82
93
78
86
83
97
79
88
94
84
95
98
99
96
101
100
102
103

全て　〔1:3〕

104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144

全て　〔1:3〕

147・149・173 〔1:4〕　146 〔1:6〕
145・156 〔1:5〕　その他 〔1:3〕

185～188　〔4:5〕
189・191　〔1:3〕
190　〔1:5〕
192～194　〔1:2〕
195　〔1:4〕

境塚遺跡Ⅴ

石船戸東遺跡Ⅱ

境塚・石船戸東遺跡　〔1:3〕

調査区遠景（北西から）

７区　上層近景（北東から）

７区　中層近景（南西から）

SD2031　セクション（７区 18J　南西から）

SD99・2031　完掘（７区 18J　北東から）

SD2032　セクション（7 区 18J　南東から）

SD2032　完掘（7 区 18J　北西から）

8 区　中層近景（南東から）

9 区　上層近景（南東から）

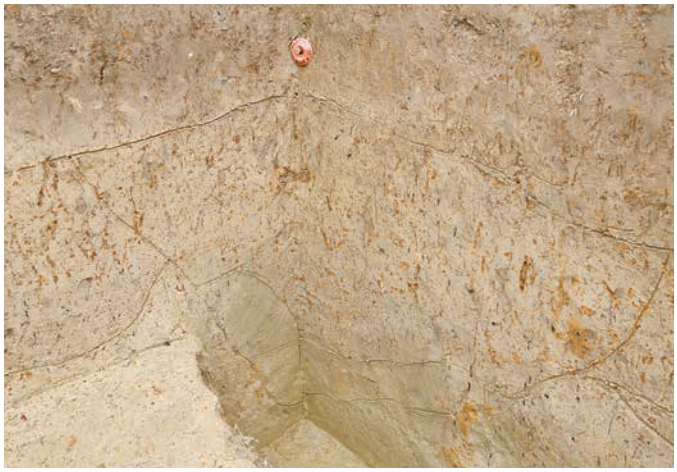
SD2002　セクション（9 区 17J　南西から）

SD2002　完掘（9 区 17J　南西から）

SD2000・2001　完掘（9 区 17J　北東から）

9 区　中層近景（北西から）

10・11 区　近景（上が南西）



SK2013　セクション（10 区 23AA　北から）

SK2017　セクション（10 区 22Z　南西から）

SK2017　完掘（10 区 22Z　南西から）

SK2023　セクション（10 区 22Z　南西から）

SK2023　完掘（10 区 21・22Z　南西から）

SD2003　セクション（10 区 23AA　北東から）

SD2005　セクション（10 区 22Z　西から）

SD2005　完掘（10 区 22Z　北東から）

SD2019　完掘（10 区 22Z　南西から）

SD2021　完掘（10 区 22Z　北東から）

SD2020　セクション（10 区 19W・X　北東から）

SD2020　完掘（10 区 19W・X　北東から）

SD2024・2025　セクション（10 区 22Z　北東から）

SD2024　完掘（10 区 22Z　南西から）

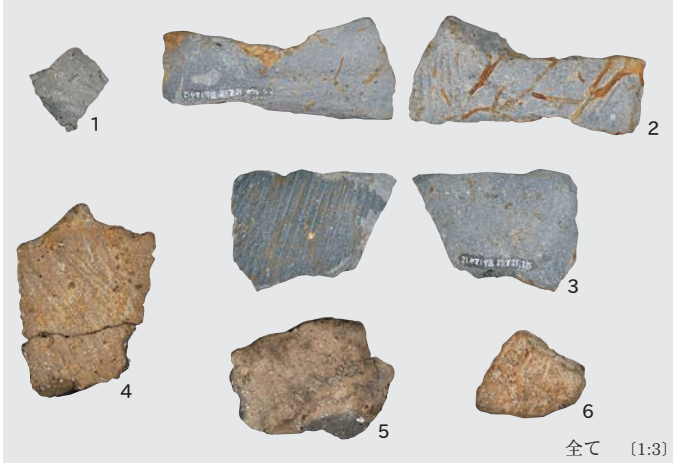
SD2025　完掘（10 区 22Z　南から）

SD2030　セクション（10 区 21Y　北東から）

SD2030　完掘（10・11 区 21Y・Z　上が南西）

SI2027　セクション（11 区 14T　西から）

SI2027　完掘（11 区 14T　上が北東）



中世・古代・縄文時代の土器

中世・古代面（上層）　近景（南東から）

南東壁　セクション（南西から）

SD5216・2334　完掘（5・6H　南東から）

SX008　セクション（6H　南東から）

SX008　完掘（6H　南東から）

縄文上層面　近景（南東から）

P009　セクション（5H　南東から）

縄文下層面　近景（南東から）

遺跡遠景（西から）

遺跡遠景（北から）

7E ～ 8H グリッド　完掘（北から）

8H ～ 9L グリッド　完掘（北から）

9L ～ 10O グリッド　完掘（北から）

10O ～ 11S グリッド　完掘（北から）

基本層序（9J16　南西から）

SE109　セクション（8・9J　西から）

SE109　完掘（8・9J　西から）

SE114　桟木出土状況（西から）

SE114　井戸側検出状況（9L　西から）

SE114　井戸側出土状況（9L　西から）

SE114　桟木・曲物出土状況（9L　西から）

SE197・198　セクション（8H　西から）

SE197　完掘（8H　西から）

SE631　セクション（8H　西から）

SE631　完掘（8H　西から）

SE633　検出状況（西から）

SE633　セクション（10O　西から）

SE633　上部完掘（10O　西から）

SE633　底部セクション（10O　西から）

SE644　セクション（9J　西から）

SE644　完掘（9J　西から）

SE650　セクション（9L　東から）

SE650　上部完掘（9L　西から）

SE650　曲物出土状況（9L　西から）

SE650　炭化物出土状況（9L　東から）

SE653　セクション（8I　西から）

SE653　完掘（8I　西から）

SK632　セクション（10O　西から）

SK636　完掘（10P　西から）

SD101　セクション（9L　西から）

SD101　漆器出土状況（9L　南から）

SD102　セクション（9・10N　西から）

SD328　セクション（7F　西から）

SD328　完掘（7F　西から）

SD329　セクション（7F　西から）

P647　セクション（7F　南から）

矢板内縄文土器包含層　掘削風景（南から）

縄文時代包含層　土層図作成（南から）

基本層序Ⅸ～Ⅻ層（南から）

縄文時代上層　P659・660・661　完掘（9L　南東から）

遺物出土状況（南から）

縄文時代下層　全景（西から）

SK667　完掘（9L　南西から）

噴砂１　セクション（9L　南から）

25　〔1:1〕
1～24　〔1:3〕
26　〔1:8〕

27

28

29

30

31

31　〔1:6〕
その他　〔1:8〕

32

33

34

35

36

37

36　〔1:3〕
37　〔1:10〕
その他　〔1:6〕

その他　〔1:10〕
38・43　〔1:12〕

53・61・62　〔1:8〕
その他　〔1:10〕
51　〔1:12〕

69～73・75　〔1:3〕
64～68・74　〔1:6〕
63　〔1:10〕

76・80～99　〔1:3〕
77～79　〔1:10〕

調査区全景（南から）

SK14　セクション（8D　南から）

SK14　完掘（8D　南から）

SK20　セクション（6F　南東から）

SK33　セクション・完掘（9B　西から）

SD25　セクション・完掘（01I　東から）

SD28　セクション・完掘（4I　東から）

SK11　セクション（8C　東から）

SK11　完掘（8C　東から）

SK16　検出状況（6・7E　東から）

SK16　セクション・完掘（6F　南から）

SK19　セクション・完掘（7D　北西から）

SK22　セクション（4I　東から）

SK22　完掘（4I　南から）

SK34　完掘（2I　南から）

SK34　セクション（2I　南から）

SD21　セクション（4I　東から）

SD21　完掘（4I　東から）

SK08　セクション（10B　南から）

SK08（右）、P09（左）　完掘（10B　東から）

SK18　完掘（8F　北から）

報告書抄録

ふりがな	やまぐちいせき さん だいよじちょうさ・やまぐちのなかいせき よん だいよん・ごじちょうさ・さかいづかいせき ご だいごじちょうさ・しんまちいせき に だいにじちょうさ・いしふなとひがしいせき に だいさんじちょうさ
書名	山口遺跡Ⅲ 第 4 次調査・山口野中遺跡Ⅳ 第 4・5 次調査・境塚遺跡Ⅴ 第 5 次調査・新町遺跡Ⅱ 第 2 次調査・石船戸東遺跡Ⅱ 第 3 次調査
副書名	一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書
巻次	18
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 294 集
編・著者名	伊藤正志・阿部　司（株式会社吉田建設）、大谷祐司（株式会社帆苅組）、荒川隆史・土橋由理子（公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）、森　将志・小林克也・伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze（株式会社パレオ・ラボ）、田中義文（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒 956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1　　TEL　0250（25）3981
発行年月日	2023（令和 5）年 7 月 28 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
山口（やまぐち）遺跡	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 山口字城ケ窪（やまぐちあざじょうがくぼ）	15223	399	37° 50′ 02″	139° 12′ 02″	20210406 ～ 20211122	3,591 （中世 1,363　古代上層 1,475 古代下層 562　弥生時代 191）	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山口遺跡	散布地	縄文時代晩期	土坑 1 基	縄文土器	
	集落	弥生時代前期～中期	土坑 1 基、ピット 11 基、性格不明遺構 1 基、自然流路 1 条	弥生土器、土製品、焼成粘土塊、石器	
	集落	古代（9 世紀前半）	竪穴建物 2 棟、土坑 25 基、溝 11 条、ピット 172 基、畦畔 7 条、性格不明遺構 5 基	須恵器、土師器、黒色土器、木製品、鍛冶関連遺物	阿賀野市域における水田遺構の初例
	集落	中世（13 世紀後半～ 15 世紀）	掘立柱建物 17 棟、井戸 14 基、土坑 13 基、溝 43 条、ピット 283 基、性格不明遺構 3 基	土師質土器、瀬戸美濃焼、青磁、瓦器、瓷器系陶器、土器転用研磨具、石製品、金属製品、鍛冶関連遺物	

要　約　遺跡は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。調査前の現況は水田で、標高約 6m を測る。古代・中世を主体とする遺跡である。調査の結果、縄文時代晩期、弥生時代前期～中期、古代、中世の遺構・遺物を検出した。古代は、倉庫と推測される掘立柱建物群に隣接する水田を検出した。水田は、建物群から東へ徐々に標高を下げる低地に広がる。改良土を用いた大規模な地業が施される畦畔は、直交・平行関係を呈し、規則的な区画を有したものと推測される。また、水田域の基点の溝と中間に位置する用排水路の間隔は半町を測ることなどから、条里型地割に則った計画的な水田開発が想起でき、有力者による農業経営の在り方が窺える。

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
山口野中（やまぐちのなか）遺跡	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 山口字野中（やまぐちあざのなか）・ 月崎（つきざき）	15223	400	37° 49′ 51″	139° 12′ 23″	20200216 ～ 20200309 20210921 ～ 20211112	310（155 × 2 層） 527（北東側 48 × 2 層、 南西側 431）	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山口野中遺跡	集落	中世　近世以降	土坑 3 基、溝 13 条		
	集落	古代　中世	竪穴状遺構 1 基、溝 3 条	須恵器、珠洲焼、縄文土器（撹乱）	

要　約　遺跡は、現在の月崎集落が乗る自然堤防の北東側にある沖積地に立地する。調査前の現況は水田で、標高は 6.4 ～ 6.8m を測る。中世を主体とする遺跡である。上層（中世・近世以降）、中層の 2 面で遺構を検出した。遺構は、埋土の特徴から中世に属するものが多いと推測される。古代の遺構は溝が 1 条あり、須恵器が出土している。植物遺体における放射性炭素年代測定で 10 世紀頃の結果が得られた。

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
境塚（さかいづか）遺跡	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 月崎字六日野境（つきざきあざむいかのさかい）	15223	401	37° 49′ 46″	139° 12′ 32″	20200126 ～ 20200205	60 （上層 30、下層 30）	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
境塚遺跡	集落	縄文時代晩期後葉	ピット 1 基		
	遺物包含地	古代	土坑 1 基	須恵器	
	集落	中世（13 世紀後半～ 14 世紀前半）	溝 3 条、ピット 4 基	土師質土器	

要約	
	遺跡は阿賀野川右岸、旧百津潟の自然堤防上に立地する。調査前の現況は水田で、標高は 7.5m を測る。中世を主体とする遺跡である。上層（古代・中世）、下層（縄文時代晩期後葉）の 2 面で遺構を検出した。中世の遺構は過年度調査における道 2 の側溝を検出した。縄文時代は上・下層の 2 面調査を行った。出土遺物はなく、上層でピット 1 基を確認したのみである。

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
新町（しんまち）遺跡	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 大字百津字新町（おおあざももづあざしんまち）	15223	402	37° 49′ 25″	139° 12′ 52″	20210617 ～ 20210917	670 （上層 590、下層 80）	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新町遺跡	遺物包含地	縄文時代後期中葉	土坑 1 基、ピット 8 基	縄文土器、石器	
	集落	中世（15 世紀後半～ 16 世紀初頭）	井戸 10 基、土坑 2 基、溝 8 条、ピット 12 基、道状遺構 1 条	珠洲焼、越前焼、瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼、青磁、鍛冶関連遺物、古銭、木製品	

要約	
	遺跡は阿賀野川右岸、旧百津潟の自然堤防上に立地する。調査前の現況は水田で、標高は 7.0m を測る。中世を主体とする遺跡で、井戸を中心とした遺構群を検出した。井戸には素掘りのものと井戸側を持つものがある。下層では、新たに縄文時代後期中葉の遺構・遺物を検出した。隣接する土橋北遺跡と同時期であり、百津地区における当該期の遺跡の広がりを知る貴重な資料である。

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
石船戸東（いしふなとひがし）遺跡	新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし） 百津字新町（ももづあざしんまち）	15223	403	37° 49′ 26″	139° 12′ 50″	20210517 ～ 20210619	160	一般国道 49 号 阿賀野バイパス 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石船戸東遺跡	遺物包含地	古代	土坑 2 基		
	集落	中世（13 ～ 16 世紀）	土坑 5 基、溝 1 条、ピット 3 基	珠洲焼、土師質土器	
	集落	中世　近世	土坑 3 基、溝 3 条、ピット 1 基		

要約	
	遺跡は阿賀野川右岸、旧百津潟の縁辺部に立地する。調査前の現況は水田で、標高は 7.5m を測る。中世を主体とする遺跡である。調査区は過年度調査区 1 区の北および東に沿う形となる。1 区の遺構検出状況と同じく、検出した遺構は少ない。中世を中心に土坑・溝・ピットがある。調査区南東に位置する、2 区北東側居住域と称されるエリアの縁辺部にあたると考えられる。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 294 集
一般国道49号阿賀野バイパス関係調査報告書 18

山 口 遺 跡 Ⅲ　第４次調査
山口野中遺跡 Ⅳ　第４・５次調査
境 塚 遺 跡 Ⅴ　第５次調査
新 町 遺 跡 Ⅱ　第２次調査
石船戸東遺跡 Ⅱ　第３次調査

2023(令和5)年 7 月 27 日印刷
2023(令和5)年 7 月 28 日発行

編集・発行　公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒 956－0845　新潟市秋葉区金津 93 番地 1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社ウィザップ
〒 950－0963　新潟市中央区南出来島２丁目１番25号
電話　025（285）3311

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第294集『山口遺跡Ⅲ(第4次)・山口野中遺跡Ⅳ(第4･5次)
・境塚遺跡Ⅴ(第5次)・新町遺跡Ⅱ(第2次)・石船戸東遺跡Ⅱ(第3次)』　正誤表　　2024年2月追加

頁	位置	誤	正
抄録	石船戸東遺跡　北緯	３７度４９分２６秒	３７度４９分１５秒
抄録	石船戸東遺跡　東経	１３９度１２分５０秒	１３９度１２分５２秒